鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　36

令和元年度発掘調査報告

（第３分冊）

円覚寺門前遺跡

建長寺旧境内遺跡

公 方 屋 敷 跡

報 国 寺 遺 跡

令和２年３月

鎌倉市教育委員会

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　36

令和元年度発掘調査報告

（第３分冊）

円覚寺門前遺跡

建長寺旧境内遺跡

公 方 屋 敷 跡

報 国 寺 遺 跡

令和２年３月

鎌倉市教育委員会

ご あ い さ つ

本市は、市域の６割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財が埋まった土地の上で生活を送っています。そのため、家屋や店舗の新築や建替え等に伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多くあります。このように、私たちが日々の生活を送っていく上でやむを得ず失われる埋蔵文化財について、記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅の建築等に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18・22 ～ 25・27・28年度に実施した、個人専用住宅の建築等に伴う発掘調査15か所の調査記録を掲載しています。

本書に収めたひとつひとつの調査成果は、武家政権発祥の地であり、今もその歴史を継承し、文化を発信する鎌倉の貴重な文化遺産です。これらの成果を広く知っていただくとともに、研究資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、関係者の皆様に深いご理解を賜るとともに、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申しあげます。

令和２年３月31日

鎌倉市教育委員会

例　　言

1　本書は令和元年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第３分冊）である。
2　本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
3　現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施し、報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
4　出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
5　各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第３分冊　目次

ごあいさつ・・Ⅰ
例言・・・Ⅱ
目次・・・Ⅲ
本誌掲載の平成22・23年度発掘調査地点一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅳ
調査地点位置図・・Ⅴ

６　円覚寺門前遺跡（№287）山ノ内字松岡1323番１、1338番２地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第二章　堆積土層・・12
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第四章　まとめ・・・104

７　建長寺旧境内遺跡（№397）山ノ内字白黒小路1479番６地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
第二章　堆積土層・・212
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・213
第四章　まとめ・・・277

８　公方屋敷跡（№268）浄明寺四丁目297番12、13地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・315
第二章　堆積土層・・320
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・321
第四章　まとめ・・・348

９　報国寺遺跡（№306）浄明寺二丁目474番８、９地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・372
第二章　堆積土層・・377
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・378
第四章　自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・421
第五章　まとめ・・・426

本誌掲載の平成22・23年度発掘調査地点一覧

第３分冊

	遺　跡　名	所　在　地	調　査　原　因	遺跡種別	調査面積（㎡）	調　査　期　間
6	円覚寺門前遺跡 （№287）	山ノ内字松岡1323番１、 1338番２	賃貸併用住宅 （柱状改良工事）	遺物散布地	120	平成 24 年 1 月 12 日 ～平成 24 年 5 月 18 日
7	建長寺旧境内遺跡 （№397）	山ノ内字白黒小路1479番６	個人専用住宅 （鋼管杭工事）	社寺跡 城館跡	96	平成 22 年 9 月 15 日 ～平成 23 年 1 月 7 日
8	公方屋敷跡 （№268）	浄明寺四丁目297番12、13	個人専用住宅 （柱状改良工事）	城館跡	48	平成 22 年 6 月 8 日 ～平成 22 年 8 月 20 日
9	報国寺遺跡 （№306）	浄明寺二丁目474番８、９	個人専用住宅 （柱状改良工事）	社寺跡 都市遺跡	72	平成 23 年 6 月 6 日 ～平成 23 年 8 月 26 日

本書掲載の平成22・23年度発掘調査地点（⑥～⑨）
※遺跡名は一覧表を参照

鎌倉市全図

円覚寺門前遺跡（№287）

山ノ内字松岡1323番１、1338番２地点

例　言

1．本報は「円覚寺門前遺跡」（神奈川県遺跡台帳№287）内、鎌倉市山ノ内字松岡1323番１、1338番２地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成24年１月12日～平成24年５月18日にかけて、賃貸併用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は120㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　馬淵和雄
調　査　員　　沖元　道・吉田桂子・栂岡ケイト
作　業　員　　伴　一明・牛嶋道夫・安達越郎・浅香文保・新海勝夫・渡辺輝彦
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．第三章第４節の第４面土坑50出土「呪符木簡」の釈文は、NPO法人鎌倉考古学研究所の松吉大樹氏にご教示を賜った。

6．本報に掲載した写真は、遺構を馬淵和雄、遺物を赤間和重が撮影した。

7．測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系ＡＲＥＡ９）を用い、図４に座標値を示した。

8．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

9．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ＥＴＭ1105」とした。

10．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

11．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：整地・地業範囲
炭化物分布範囲
遺物：煤およびタール状の黒色物が付着している部分
墨書・黒色漆膜漆遺存範囲
漆付着範囲
朱色顔料付着範囲
銅板巻部分
木質柄付工具・武具などの金属遺存部分

12．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

か わ ら け：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿 易 陶 磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』

13．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・桑島晴香・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観…… 7
第１節　調査に至る経緯と経過…… 7
第２節　調査地点の位置と歴史的環境…… 7
第３節　周辺の考古学的調査 …… 9

第二章　堆積土層 …… 12

第三章　発見された遺構と遺物…… 13
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 13
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 32
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 51
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 67
第５節　第５面の遺構と遺物 …… 91

第四章　まとめ…… 104

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図…… 8
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡…… 10
図３　調査区位置図…… 11
図４　調査区配置図…… 11
図５　調査区中央 土層断面図 …… 12
図６　第１面 溝状遺構１ …… 13
図７　第１面 遺構分布図 …… 14
図８　第１面 溝状遺構１出土遺物（１）…… 15
図９　第１面 溝状遺構１出土遺物（２）…… 16
図10　第１面 据甕遺構１ …… 16
図11　第１面 据甕遺構１出土遺物 …… 16
図12　第１面 土坑１出土遺物 …… 17
図13　第１面 土坑４出土遺物 …… 17
図14　第１面 土坑９出土遺物 …… 18
図15　第１面 土坑１～７・９～12 …… 19
図16　第１面 土坑13出土遺物 …… 20
図17　第１面 土坑13～22 …… 21
図18　第１面 土坑19出土遺物 …… 21
図19　第１面 土坑21出土遺物 …… 22
図20　第１面 ピット12・33・39・120・137・139・157・161・162・168・203・209…… 23
図21　第１面 ピット出土遺物 …… 24
図22　第１面 炭層出土遺物（１）…… 26
図23　第１面 炭層出土遺物（２）…… 27
図24　第１面 遺構外出土遺物（１）…… 28
図25　第１面 遺構外出土遺物（２）…… 29
図26　第１面 構成土出土遺物（１）…… 30
図27　第１面 構成土出土遺物（２）…… 31
図28　第１面 構成土出土遺物（３）…… 32
図29　第２面 遺構分布図 …… 33
図30　第２面 溝状遺構２ …… 33
図31　第２面 溝状遺構２出土遺物 …… 34
図32　第２面 方形土坑１出土遺物 …… 35
図33　第２面 方形土坑２出土遺物 …… 36
図34　第２面 方形土坑１～３ …… 37
図35　第２面 土坑23出土遺物 …… 37
図36　第２面 土坑25出土遺物 …… 38
図37　第２面 土坑23～41 …… 39

図38　第２面 土坑33出土遺物 …… 40
図39　第２面 土坑37出土遺物 …… 41
図40　第２面 土坑38出土遺物 …… 41
図41　第２面 ピット228・231～234・241・242・246・256・257・294・296・298・299・314・330・346…… 42
図42　第２面 ピット出土遺物 …… 43
図43　第２面 遺構外出土遺物（１）…… 45
図44　第２面 遺構外出土遺物（２）…… 46
図45　第２面 遺構外出土遺物（３）…… 47
図46　第２面 遺構外出土遺物（４）…… 48
図47　第２面 構成土出土遺物（１）…… 49
図48　第２面 構成土出土遺物（２）…… 50
図49　第３面 礎石・礎板建物１ …… 51
図50　第３面 遺構分布図 …… 52
図51　第３面 方形竪穴状遺構１ …… 53
図52　第３面 方形竪穴状遺構１出土遺物 …… 53
図53　第３面 溝状遺構３・４ …… 54
図54　第３面 溝状遺構３出土遺物（１）…… 55
図55　第３面 溝状遺構３出土遺物（２）…… 56
図56　第３面 溝状遺構３出土遺物（３）…… 57
図57　第３面 溝状遺構３出土遺物（４）…… 58
図58　第３面 溝状遺構４出土遺物 …… 59
図59　第３面 土坑42～47 …… 60
図60　第３面 土坑47出土遺物 …… 61
図61　第３面 ピット365・379・389 …… 61
図62　第３面 ピット出土遺物 …… 61
図63　第３面 遺構外出土遺物（１）…… 63
図64　第３面 遺構外出土遺物（２）…… 64
図65　第３面 遺構外出土遺物（３）…… 65
図66　第３面 構成土出土遺物（１）…… 65
図67　第３面 構成土出土遺物（２）…… 66
図68　第３面 構成土出土遺物（３）…… 67
図69　第４面 遺構分布図 …… 68
図70　第４面 礎石・礎板建物２ …… 69
図71　第４面 礎石・礎板建物２断面図 …… 70
図72　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（１）… 71
図73　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（２）… 72
図74　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（３）… 73
図75　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（４）… 74
図76　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（５）… 75
図77　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（６）… 76
図78　第４面 水路１ …… 77
図79　第４面 井戸１ …… 77
図80　第４面 井戸１出土遺物 …… 77
図81　第４面 土坑48・50～55 …… 78
図82　第４面 土坑50出土遺物 …… 79
図83　第４面 土坑53出土遺物 …… 80
図84　第４面 土坑54出土遺物 …… 81
図85　第４面 土坑55出土遺物 …… 82
図86　第４面 ピット392・403～405・407～409・415・420…… 82
図87　第４面 ピット出土遺物 …… 83
図88　第４面 遺構外出土遺物（１）…… 84
図89　第４面 遺構外出土遺物（２）…… 85
図90　第４面 遺構外出土遺物（３）…… 86
図91　第４面 遺構外出土遺物（４）…… 87
図92　第４面 遺構外出土遺物（５）…… 88
図93　第４面 遺構外出土遺物（６）…… 89
図94　第４面 遺構外出土遺物（７）…… 90
図95　第４面 構成土出土遺物 …… 90
図96　第５面 遺構分布図 …… 92
図97　第５面 礎石・礎板建物３ …… 93
図98　第５面 礎石・礎板建物３出土曲物 …… 93
図99　第５面 礎石・礎板建物３出土遺物 …… 94
図100　第５面 板壁建物１ …… 94
図101　第５面 板壁建物１出土遺物（１）…… 95
図102　第５面 板壁建物１出土遺物（２）…… 96
図103　第５面 溝状遺構５出土遺物 …… 96
図104　第５面 溝状遺構５・６ …… 97
図105　第５面 土坑56出土遺物 …… 97
図106　第５面 土坑63出土遺物 …… 99
図107　第５面 土坑65出土遺物 …… 99
図108　第５面 土坑56～70・74・75 …… 101
図109　第５面 土坑74出土遺物 …… 102
図110　第５面 ピット434・435・437・438・441・443・446・452・470・473 …… 102
図111　第５面 ピット出土遺物 …… 103
図112　第５面 遺構外出土遺物 …… 103

表　目　次

表１　円覚寺門前遺跡および周辺遺跡 調査地点一覧 …… 9
表２　第１面 出土遺物観察表 …… 106
表３　第２面 出土遺物観察表 …… 113
表４　第３面 出土遺物観察表 …… 121
表５　第４面 出土遺物観察表 …… 128
表６　第５面 出土遺物観察表 …… 138
表７　遺構計測表 …… 140
表８　出土遺物一覧表 …… 142

図　版　目　次

図版１　１．調査区近景（北から） …… 155
　　２．調査区北側東壁土層断面（北から） …… 155
図版２　１．調査区南側第１面全景（北から） … 156
　　２．調査区北側第１面全景（東から） … 156
　　３．第１面 据甕遺構１（西から） …… 156
図版３　１．調査区南側第２面全景（東から） … 157
　　２．調査区北側第２面全景（東から） … 157
図版４　１．調査区南側第３面全景（西から） … 158
　　２．調査区北側第３面全景（東から） … 158
図版５　１．第３面 方形竪穴状遺構１（東から） …… 159
　　２．第３面 方形竪穴状遺構１石列部分（北から） …… 159
　　３．第３面 溝状遺構４西側（西から） … 159
　　４．第３面 溝状遺構４東側（東から） … 159
図版６　１．調査区南側第４面全景（北から） … 160
　　２．調査区北側第４面全景（東から） … 160
図版７　１．調査区南側第５面全景（西から） … 161
　　２．調査区北側第５面全景（東から） … 161
図版８　１．第４面 水路１（北から） …… 162
　　２．第４面 井戸１（西から） …… 162
　　３．第５面 土坑74（東から） …… 162
　　４．第５面 礎石・礎板建物３曲物出土状態（東から） …… 162
　　５．第５面 板壁建物１（西から） …… 162
図版９　１．第１面 溝状遺構１出土遺物 …… 163
図版10　１．第１面 据甕遺構１出土遺物 …… 164
　　２．第１面 土坑１出土遺物 …… 164
　　３．第１面 土坑４出土遺物 …… 164
　　４．第１面 土坑９出土遺物 …… 164
　　５．第１面 土坑13出土遺物 …… 164
　　６．第１面 土坑19出土遺物 …… 164
　　７．第１面 土坑21出土遺物 …… 164
図版11　１．第１面 ピット出土遺物 …… 165
図版12　１．第１面 炭層出土遺物（１） …… 166
図版13　１．第１面 炭層出土遺物（２） …… 167
　　２．第１面 遺構外出土遺物（１） …… 167
図版14　１．第１面 遺構外出土遺物（２） …… 168
　　２．第１面 構成土出土遺物（１） …… 168
図版15　１．第１面 構成土出土遺物（２） …… 169
図版16　１．第１面 構成土出土遺物（３） …… 170
　　２．第２面 溝状遺構２出土遺物（１） … 170
図版17　１．第２面 溝状遺構２出土遺物（２） … 171
　　２．第２面 方形土坑１出土遺物 …… 171
図版18　１．第２面 方形土坑２出土遺物 …… 172
　　２．第２面 土坑23出土遺物 …… 172
　　３．第２面 土坑25出土遺物 …… 172
　　４．第２面 土坑37出土遺物 …… 172
　　５．第２面 土坑38出土遺物 …… 172
　　６．第２面 ピット出土遺物（１） …… 172
図版19　１．第２面 ピット出土遺物（２） …… 173
　　２．第２面 遺構外出土遺物（１） …… 173
図版20　１．第２面 遺構外出土遺物（２） …… 174
図版21　１．第２面 遺構外出土遺物（３） …… 175
図版22　１．第２面 遺構外出土遺物（４） …… 176
　　２．第２面 構成土出土遺物（１） …… 176
図版23　１．第２面 構成土出土遺物（２） …… 177

２．第３面 方形竪穴状遺構１出土遺物 ····· 177
３．第３面 溝状遺構３出土遺物（１）· 177
図版24 １．第３面 溝状遺構３出土遺物（２）· 178
図版25 １．第３面 溝状遺構３出土遺物（３）· 179
図版26 １．第３面 溝状遺構３出土遺物（４）· 180
２．第３面 溝状遺構４出土遺物 ····· 180
３．第３面 土坑47出土遺物 ····· 180
４．第３面 ピット出土遺物 ····· 180
図版27 １．第３面 遺構外出土遺物（１）····· 181
図版28 １．第３面 遺構外出土遺物（２）····· 182
２．第３面 構成土出土遺物（１）····· 182
図版29 １．第３面 構成土出土遺物（２）····· 183
図版30 １．第３面 構成土出土遺物（３）····· 184
２．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（１）····· 184
図版31 １．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（２）····· 185
図版32 １．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（３）····· 186
図版33 １．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（４）····· 187
図版34 １．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（５）····· 188
図版35 １．第４面 井戸１出土遺物 ····· 189
２．第４面 土坑50出土遺物 ····· 189
３．第４面 土坑53出土遺物 ····· 189
４．第４面 土坑54出土遺物（１）····· 189
図版36 １．第４面 土坑54出土遺物（２）····· 190
２．第４面 土坑55出土遺物 ····· 190
３．第４面 ピット出土遺物 ····· 190
図版37 １．第４面 遺構外出土遺物（１）····· 191
図版38 １．第４面 遺構外出土遺物（２）····· 192
図版39 １．第４面 遺構外出土遺物（３）····· 193
図版40 １．第４面 遺構外出土遺物（４）····· 194
図版41 １．第４面 遺構外出土遺物（５）····· 195
図版42 １．第４面 遺構外出土遺物（６）····· 196
２．第４面 構成土出土遺物 ····· 196
図版43 １．第５面 礎石・礎板建物３出土遺物 ····· 197
図版44 １．第５面 板壁建物１出土遺物 ····· 198
図版45 １．第５面 溝状遺構５出土遺物 ····· 199
２．第５面 土坑56出土遺物 ····· 199
３．第５面 土坑63出土遺物 ····· 199
４．第５面 土坑65出土遺物 ····· 199
図版46 １．第５面 土坑74出土遺物 ····· 200
２．第５面 ピット出土遺物 ····· 200
３．第５面 遺構外出土遺物 ····· 200

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市山ノ内字松岡1323番１、1338番２で実施した賃貸併用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である円覚寺門前遺跡（神奈川県遺跡台帳№287）の範囲内にあたり、当該地周辺の調査状況から、地下に中世の遺構が存在することは確実であった。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される120㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、馬淵和雄が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成24年１月12日～平成24年５月18日までの４ヵ月ほどである。現地表の標高は約20.1ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、西側をⅠ区として平成24年１月12日～平成24年４月９日、東側をⅡ区として平成24年４月10日～平成24年５月18日まで調査を実施した。調査はまず重機により約30㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、Ⅰ区・Ⅱ区とも中世に属する第１～５面の合計５面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして５月18日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては日本測地系（座標系ＡＲＥＡ９）に準じた、鎌倉市三級基準点（Ｘ＝－73819.418、Ｙ＝－25899.450）、（Ｘ＝－74131.202、Ｙ＝－25632.903）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海抜標高値は、鎌倉市三級基準点№43413（標高24.206ｍ）を基に移設した。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市山ノ内字松岡1323番１、1338番２に所在し、「円覚寺門前遺跡（№287）」の範囲内に所在する。円覚寺門前遺跡は鎌倉市の北部域に位置し、その包蔵地範囲はＪＲ横須賀線北鎌倉駅の南西側を北西－南東方向に走る県道21号線の西側に隣接して広がる。地形的には北西方向の大船方面に開けた開析谷の中に位置する。この開析谷に面した両側は、複雑に入り組んだ大小の谷戸が形成されており、丘陵頂部から湧出した小河川は地形に沿って低地に流れ込んだ後、山ノ内の中央部を貫流する小袋谷川に集まり、その流れは市域の北西部で柏尾川に合流している。調査地点は円覚寺寺域の北限とされる十王堂橋付近から、西側へと入り込む小袋谷の支谷の一つである「瓜ヶ谷」の開口部付近にあたり、西側には西瓜川が北流する。瓜ヶ谷は奥行き700ｍを測る東側に開口する谷戸で、円覚寺伽藍のある谷戸とは対峙する位置関係にある。

隣接する包蔵地としては、西側丘陵部に台山遺跡（№29）、南側の谷戸奥部に西瓜ヶ谷遺跡（№213）、県道21号線を挟んだ東側には円覚寺旧境内遺跡（№434）が展開している。

本遺跡の名称にもなっている円覚寺は、瑞鹿山円覚興聖禅寺と号し、臨済宗円覚寺派総本山、鎌倉五山第二位の序列であり、開基は鎌倉幕府八代執権の北条時宗、開山は中国からの渡来僧無学祖元である。広大な範囲に及ぶ境内は全域が国指定史跡となっており、鎌倉末期ごろに上杉重能によって描かれた円覚寺境内絵図で往事の様相をうかがうことができる（宗臺秀・宗臺富・加納 2005）。

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
鎌倉市
六国見山
源氏山
鎌倉市
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図２）。

本地点はＪＲ北鎌倉駅の西側に隣接しており、包蔵地範囲の中央やや北側にあたる。北鎌倉駅周辺には比較的多くの調査事例が集中し、駅の南西側に隣接する円覚寺門前遺跡では本地点を含めると合計６地点の調査が行われている（図２）。このうち本地点および②～⑤の５地点が西瓜川の右岸にあり、①のみが左岸に位置している。

西瓜川と小袋谷川との分岐地点の西側に立地する①山ノ内字藤源治951番２地点では、石組構造をもつ井戸と小袋谷川旧河道が検出され、井戸は14世紀代に属し戦国期に改築されたものと推定されている（継 1998）。今回報告地点の西側には②～④の３地点が集中しており、このうち②山ノ内字松岡1337番１地点では中世に属する遺構確認面が５面にわたり検出され、大形の砂質凝灰岩を用いた石列や井戸、曲物が据えられた土坑などが調査された（宮田・滝澤・安藤 2008）。また、出土遺物としては14世紀前半に属する３面で発見された木製のお面が特筆される。②地点の南側に隣接する③山ノ内字松岡1337番６地点では同じく５面の遺構群が検出され、このうち２面で竹製の枠をもつ井戸が検出された（宮田・滝澤 2008）。また、④山ノ内字松岡1377番６地点では４面の遺構確認面が検出され、狭小な調査範囲ではあるが溝や井戸、柱穴群などが調査されている（宗臺秀・宗臺富 2007）。本地点の南東側80ｍに位置する⑤山ノ内字松岡1344番地点では、第１面から赤松の丸太材を路盤材として敷設した道路とその両脇に掘られた道路側溝、道路に直交する溝が検出され、道路の路盤から銭と水晶製五輪塔が出土した（宗臺秀・宗臺富・加納 2005）。中世鎌倉の一般道路にはこうした構造をもつ道路は確認されていないことや、調査地点が円覚寺の門前に設けられた下馬門と馬道に近接していることから、馬道として作られた幹道であった可能性が指摘されている。

円覚寺門前遺跡の北東側には円覚寺旧境内遺跡が広がり、⑥山ノ内字瑞鹿山509番１地点では、中世の遺構確認面が３面にわたり検出された。このうち２面からは数回にわたって改築が行われた礎板建物が調査され、調査者は円覚寺に関わる雑舎との考えを示している（菊川・兼行 1998）。

瓜ヶ谷の谷戸内部に展開する西瓜ヶ谷遺跡では４地点の調査が行われている。⑦山ノ内字東瓜ヶ谷1294番４・５地点では４面の中世遺構確認面が調査され、急斜面を造成して平場を造り出していることが明らかとなった（馬淵・松原 2006）。最下面である４面の平場からはピットおよび小ピット群が検出され、３面では瀬戸鉄釉仏花瓶や五輪塔と考えられる加工石などが出土したことから、調査者は仏教的な色彩をもつ遺跡として位置づけている。年代的には出土遺物から14世紀前半頃と推定されている。

表１　円覚寺門前遺跡および周辺遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	円覚寺門前遺跡（№287）	山ノ内字松岡1323番１、1338番２地点	
①	円覚寺門前遺跡（№287）	山ノ内字藤源治951番２地点	継 1998
②	円覚寺門前遺跡（№287）	山ノ内字松岡1337番１地点	宮田・滝澤・安藤 2008
③	円覚寺門前遺跡（№287）	山ノ内字松岡1337番６地点	宮田・滝澤 2008
④	円覚寺門前遺跡（№287）	山ノ内字松岡1377番６地点	宗臺秀・宗臺富 2007
⑤	円覚寺門前遺跡（№287）	山ノ内字松岡1344番地点	宗臺秀・宗臺富・加納 2005
⑥	円覚寺旧境内遺跡（№434）	山ノ内字瑞鹿山509番１地点	菊川・兼行 1998
⑦	西瓜ヶ谷遺跡（№213）	山ノ内字東瓜ヶ谷1294番４・５地点	馬淵・松原 2006

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

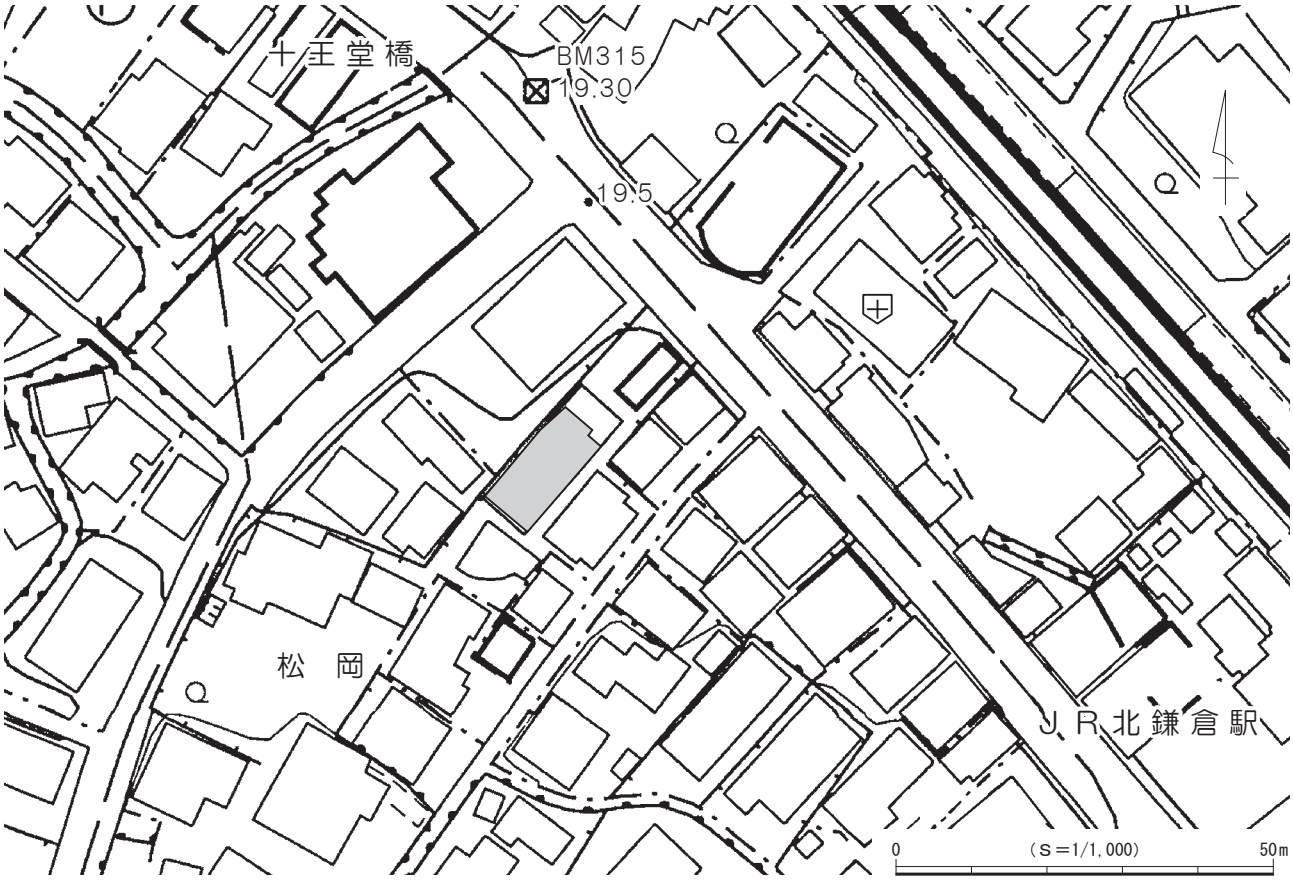


図３　調査区位置図

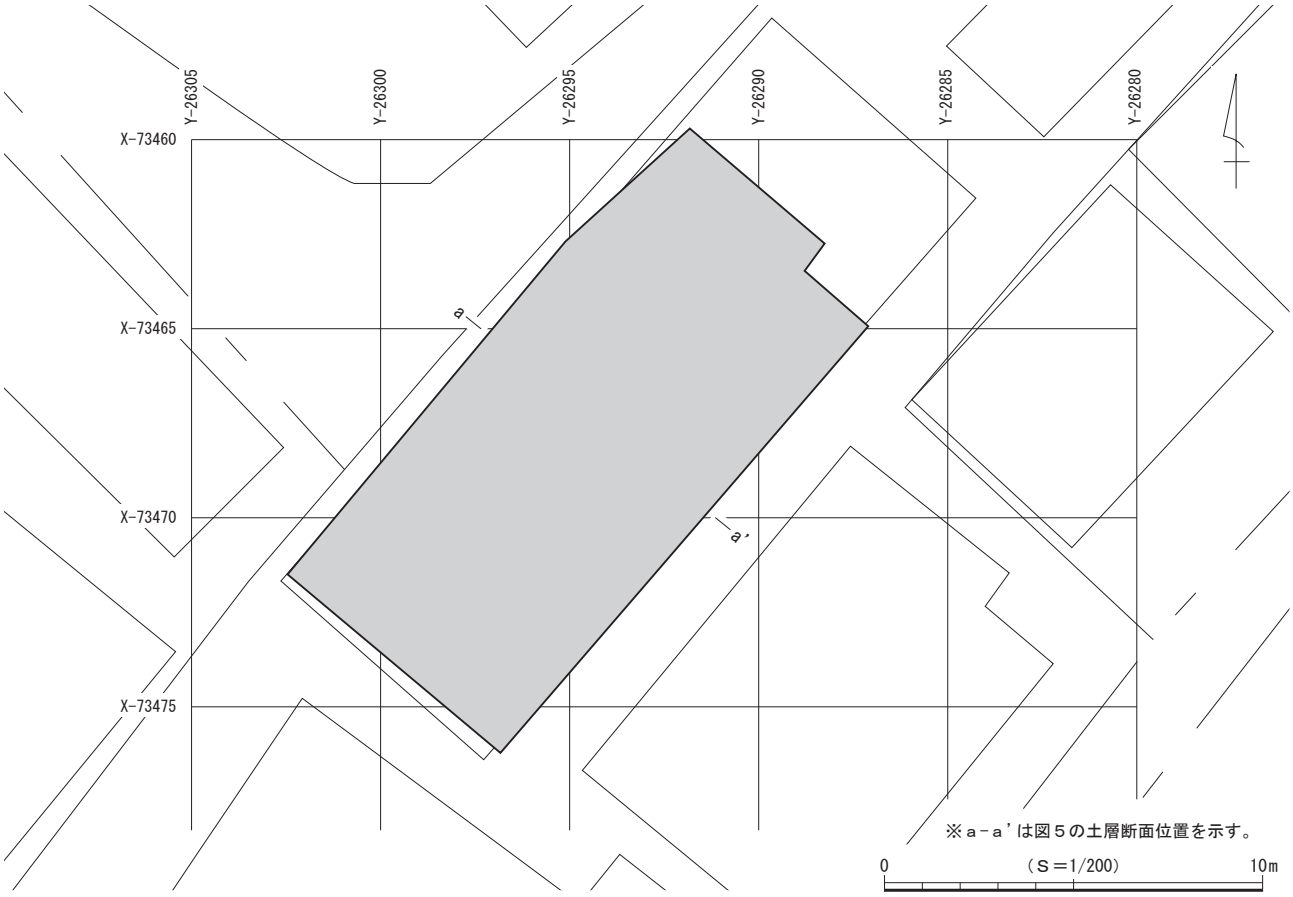
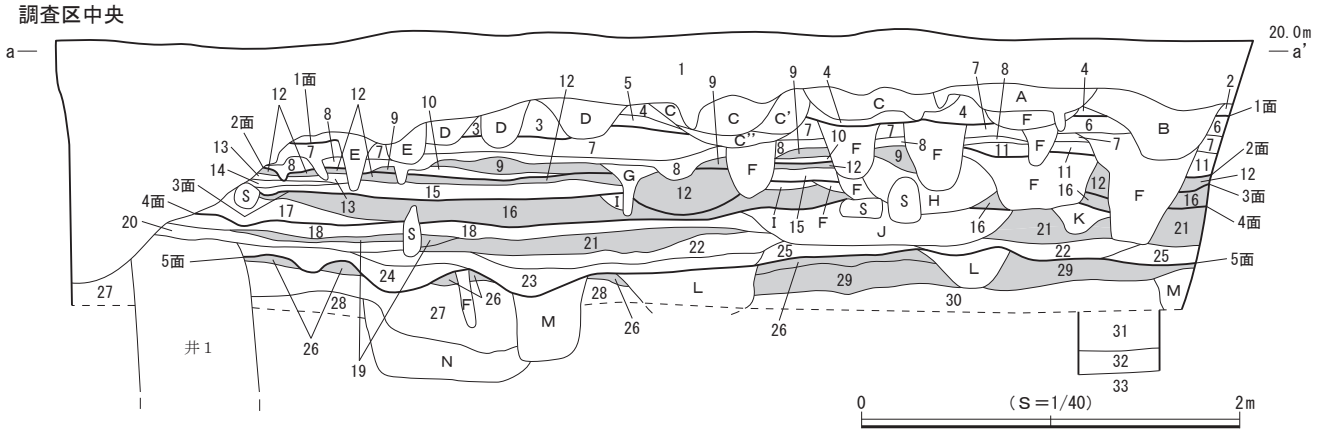


図４　調査区配置図

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、第１～５面までの合計５面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区中央の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高約20.1ｍを測り、最上部には層厚23～48㎝の表土（１層）と層厚６㎝の灰茶褐色砂質土層（２層）、層厚10～20㎝の多量の泥岩粒を含む暗茶褐色粘質土層（３層）、層厚５～15㎝の泥岩と凝灰岩を含む黄褐色砂質土層（４層）、層厚５㎝の多量に炭化物を含む黒褐色砂質土層（５層）が堆積している。遺構確認面の第１面は６・７層上面で検出した。確認面の標高は約19.6ｍを測る。６層は焼土主体の赤褐色砂質土層で、層厚10㎝である。７層は黄褐色砂質土層で、層厚４～15㎝である。７層の下位には部分的に整地層（９層）が認められた。第２面は12層上面で確認し、確認面の標高は19.3～19.5ｍを測る。12層は黄褐色砂質土を主体とする整地層で、層厚３～24㎝である。12層の下位には多量の炭化物を含む暗茶褐色砂質土層（15層）が層厚５㎝前後で広い範囲に堆積している。第３面は16層上面で確認し、確認面の標高は19.1～19.3ｍを測り、南側に向かってやや高くなる。16層は明茶褐色砂質土を主体とする整地層で、層厚２～15㎝である。第４面は18・21層上面で確認し、確認面の標高は19.1～19.2ｍを測り、南側に向かってやや高くなる。18層は締まりのある黒褐色粘質土層で、層厚２～10㎝である。21層は黄褐色砂質土を主体とする整地層で、層厚10～20㎝である。18層と21層の間には黄褐色砂質土を主体とする整地層（19層）と多量の炭化物を含む黒褐色砂質土層（20層）が薄く堆積している。21層の下位には木製品を多量に含む褐色粘質土層（22層）、焼土や炭化物を含む暗褐色粘質土層（24層）の堆積がみられる。第５面は26・27層上面で確認し、確認面の標高は18.7ｍ前後を測る。26層は暗黄褐色砂質土を主体とする整地層で、層厚３～８㎝である。27層は黄褐色砂質土を主体とする整地層で、層厚３～15㎝である。27層の下位には、暗黄褐色砂質土層（29層）および黒褐色粘質土層（30層）が堆積している。



１層　表土
２層　灰茶褐色砂質土
３層　暗茶褐色粘質土　泥岩粒多量に含む。
４層　黄褐色砂質土　泥岩・凝灰岩含む。
５層　黒褐色砂質土　炭化物多量に含む。
６層　赤褐色砂質土　焼土主体。（第１面）
７層　黄褐色砂質土　（第１面）
８層　黒褐色砂質土
９層　黄褐色砂質土　凝灰岩による整地層。
10層　暗茶褐色砂質土
11層　橙褐色砂質土　焼土・炭化物・灰多量に含む。
12層　黄褐色砂質土　整地層。（第２面）
13層　暗黄褐色砂質土
14層　黄褐色砂質土
15層　暗茶褐色砂質土　炭化物多量に含む。
16層　明茶褐色砂質土　整地層。（第３面）
17層　灰黄色砂層
18層　黒褐色粘質土　締まりあり。（第４面）
19層　黄褐色砂質土　整地層。
20層　黒褐色砂質土　炭化物多量に含む。
21層　黄褐色砂質土　整地層。（第４面）
22層　褐色粘質土　木製品多量に含む。
23層　褐色粘質土
24層　暗褐色粘質土　焼土・炭化物含む。
25層　暗黄褐色砂質土
26層　暗黄褐色砂質土　整地層。（第５面）
27層　黄褐色砂質土　整地層。（第５面）
28層　黒褐色粘質土　木片少量含む。
29層　暗黄褐色砂質土
30層　黒褐色粘質土
31層　暗灰色粘質土　炭化物微量含む。
32層　暗青灰色粘質土　地山漸移層。
33層　青灰色粘質土　地山。

［遺構］
Ａ層　黒褐色土　炭化物多量に含む。
Ｂ層　暗灰茶褐色砂質土
Ｃ層　灰茶褐色砂質土
Ｄ層　暗灰茶褐色砂質土　焼土少量含む。
Ｅ層　灰茶褐色砂質土　焼土少量、炭化物含む。
Ｆ層　遺構覆土
Ｇ層　黒褐色砂質土　焼土・炭化物多量に含む。
Ｈ層　暗橙褐色砂質土　焼土・炭化物・灰多量に含む。
Ｉ層　灰黄色砂層
Ｊ層　暗茶褐色砂質土　炭化物多量に含む。
Ｋ層　黒褐色粘質土　締まりあり。
Ｌ層　褐色粘質土
Ｍ層　褐色粘質土
Ｎ層　黒褐色粘質土

図５　調査区中央 土層断面図

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～５面までの合計５面である。遺構確認面はいずれも中世に属し、検出した遺構は礎石・礎板建物３棟、板壁建物１棟、方形竪穴状遺構１基、水路１条、溝状遺構６条、井戸１基、据甕遺構１基、方形土坑３基、土坑74基、ピット478基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して98箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表（表８）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～５面）に説明する。

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の６・７層上面で検出され、確認面の標高は約19.6ｍを測る。６層は焼土主体の赤褐色砂質土層、７層は黄褐色砂質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、据甕遺構１基、土坑22基、ピット226基である（図７）。遺構密度は調査区全域において高く、特に中央部からその東側にかけて多くのピットが重複しているが、建物などを示す配置を抽出することはできなかった。また、西端部に切石による護岸を伴う南北方向の溝状遺構が調査区外に延びており、区画施設と推定される。これらの遺構群は調査区外へと続いているが、北隅付近では遺構が希薄になる様相が認められる。なお、南隅の1.2ｍ四方の範囲に炭の集中的な広がりが認められ、火災の片付け痕跡と推定される。この炭層には非常に多くの遺物が伴っており、時期的なまとまりを示すと考えられることから、出土遺物を本節（５）にまとめて図示した。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は15世紀前葉頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構１（図６）

調査区の西側に位置し、北東－南西方向におおむね直線的に縦走して調査区外へと延びている。調査区内では据甕遺構１と重複して壁と底面の一部を壊している。両側壁面には砂質凝灰岩の切石による護岸を伴っており、部分的に崩れて配置が乱れているところもあるが、長さ20～80㎝の切石を複数段にわたって整然と積み上げている。掘り方の規模は現存長約7.0ｍ、幅30～75㎝、深さは最大で50㎝、護岸を含む検出規模は現存長約11.7ｍを測る。底面の標高は南西側で18.91ｍで、壁はやや開いて立ち上がり、西壁側の開き具合がより大きい。断

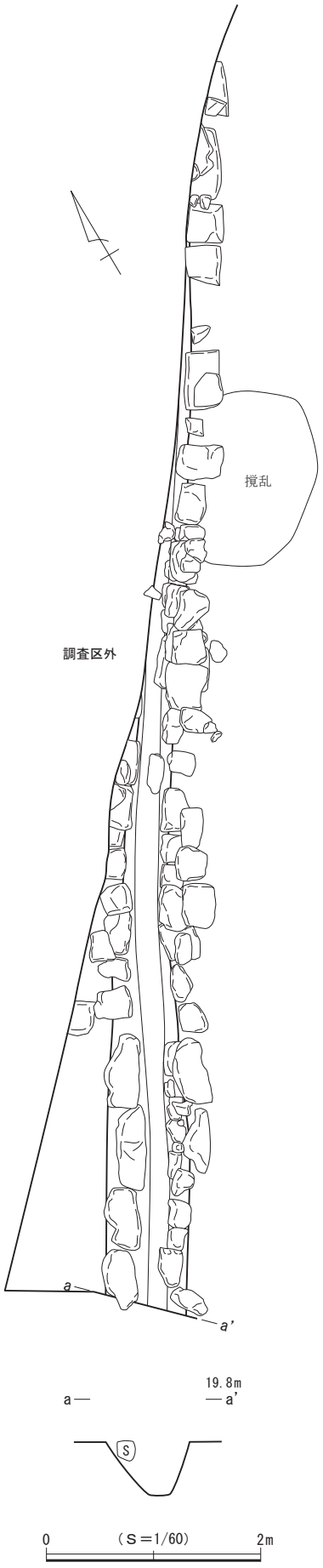


図６　第１面 溝状遺構１

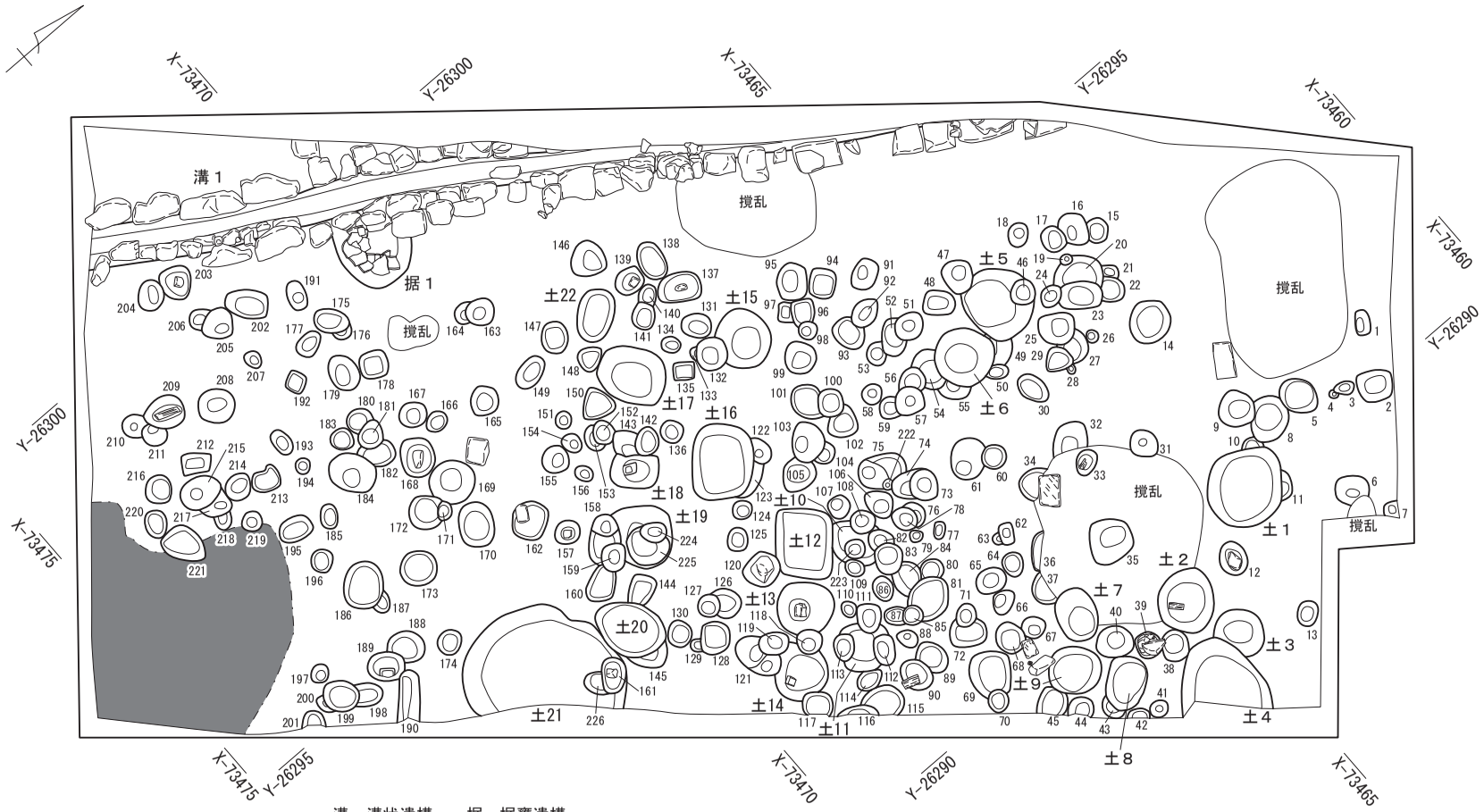

X-73470
Y-26300
X-73465
Y-26295
X-73460
Y-26290
X-73475
Y-26295
溝１
据１
撹乱
土１
土２
土３
土４
土５
土６
土７
土８
土９
土10
土11
土12
土13
土14
土15
土16
土17
土18
土19
土20
土21
土22
溝：溝状遺構　　据：据甕遺構
土：土坑　　番号のみ：ピット
0
（Ｓ＝1/80）
4m

図７　第１面 遺構分布図

面形は逆台形を呈し、主軸方位はＮ－31°－Ｅを指す。

出土遺物（図８・９）

遺物はかわらけ370点、磁器５点、陶器179点、土師質・瓦質土器16点、瓦12点、石製品７点、金属製品３点、木製品２点が出土し、このうち51点を図示した。

１～21はロクロ成形によるかわらけで、１・４・７～10・12の口縁部から体部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。22・23はかわらけを転用した円盤状の製品である。24・25は龍泉窯系青磁碗である。24は碗Ⅱ－ｂ類、25は碗Ⅲ類に比定される。26～34は瀬戸産の陶器類である。26は瓶子で古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅲ期、27・28は天目茶碗で古瀬戸中期様式～後期様式Ⅲ期、29～34は折縁深皿で古瀬戸中期様式Ⅰ期～後期様式Ⅲ期に比定される。35～42は常滑産の陶器類である。35～39は甕で７～10型式、40～42は片口鉢Ⅱ類で７～８型式に比定される。43は備前産の擂鉢である。44は土師質・瓦質土器の香炉である。45は平瓦である。46～49は石製品で、46は温石、47・48は砥石、49は磨石である。50・51は銭貨で皇宋通寶（1038年初鋳）である。

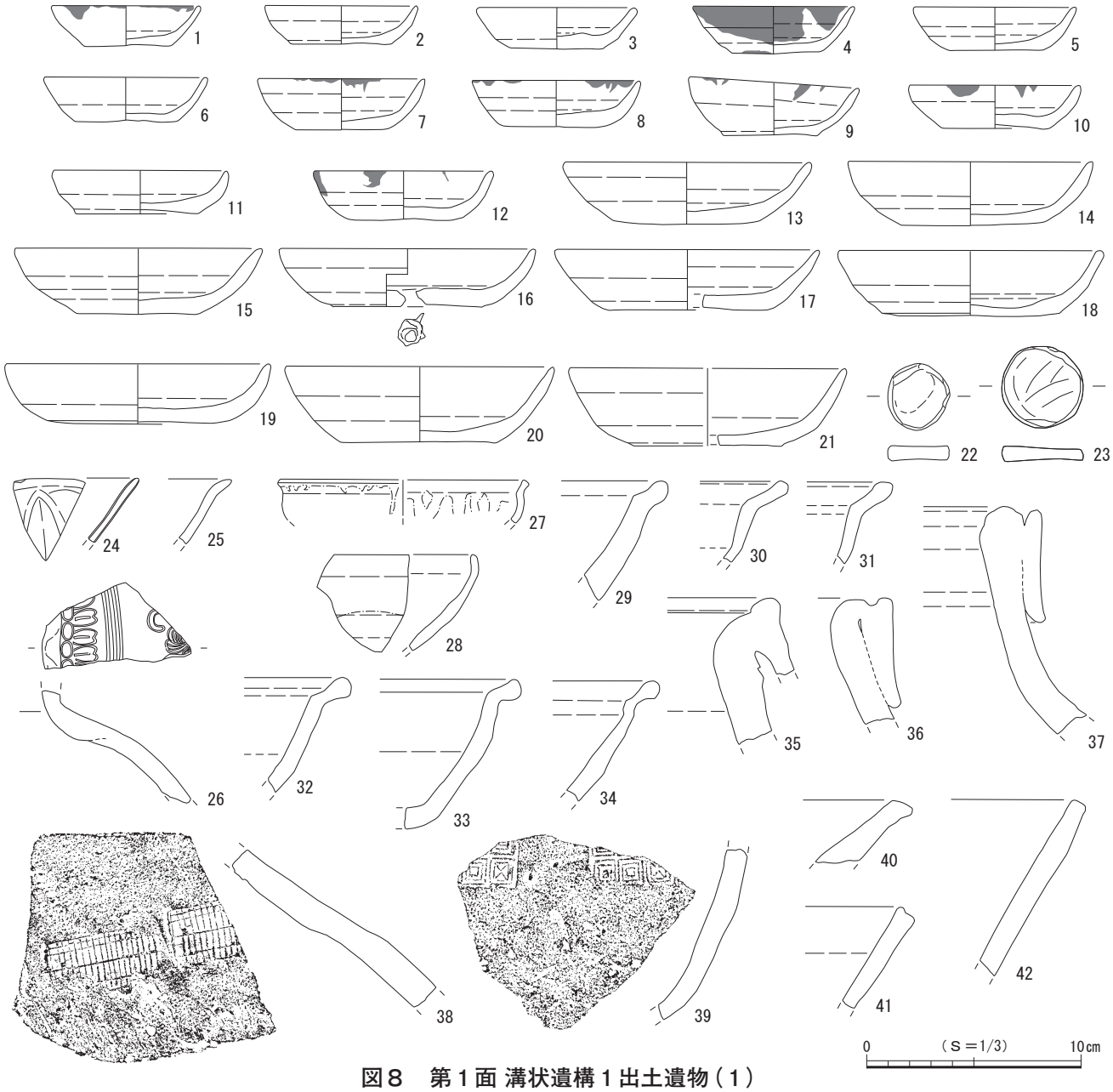


図８　第１面 溝状遺構１出土遺物（１）

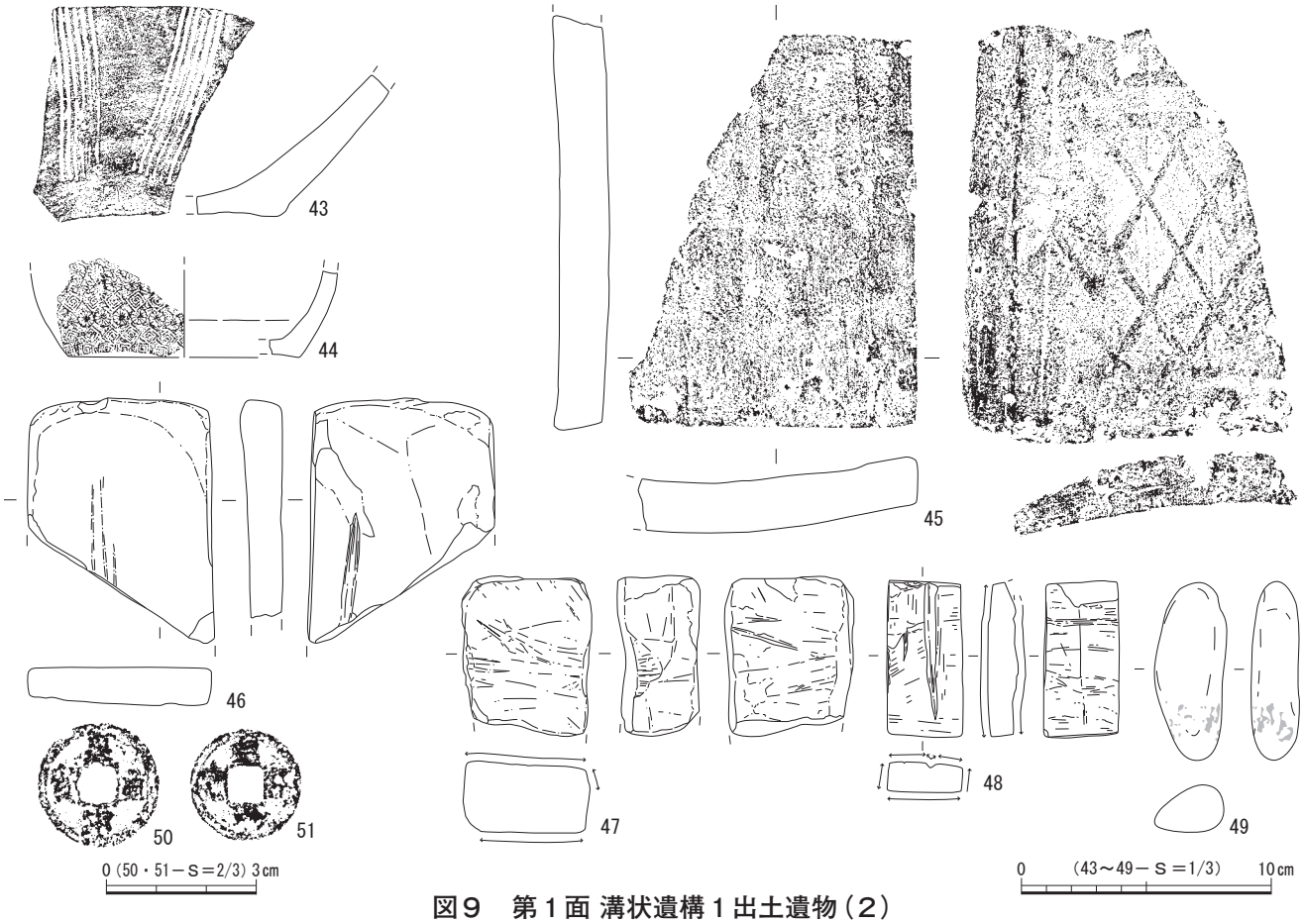


図９　第１面 溝状遺構１出土遺物（２）

（２）据甕遺構

据甕遺構１（図10）

調査区南西側に位置する。西側で溝状遺構１と重複して壁と底面の一部が壊され、全容は把握できなかった。平面形が楕円形と推定される掘り方で、規模は長軸現存長94㎝、短軸86㎝を測る。主軸方位はＮ－63°－Ｗを指す。その南壁寄りに甕の口縁部から肩部にかけてを正位に埋置する。

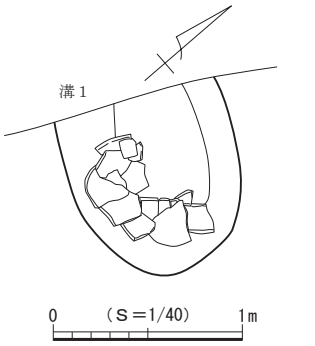


図10　第１面 据甕遺構１

出土遺物（図11）

遺物は据えられていた常滑甕１点で、それを図示した。

１は常滑産の甕で９型式に比定される。

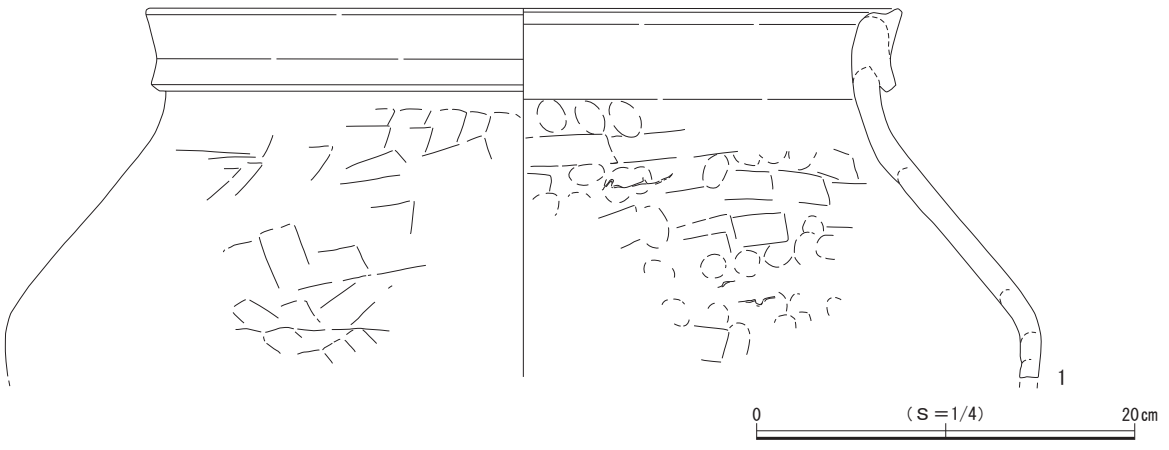


図11　第１面 据甕遺構１出土遺物

（3）土　坑

土坑１（図15）

調査区の北側に位置する。北東側でピット11、北西側でピット10と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.00ｍ、短軸91㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は19.00ｍを測る。

出土遺物（図12）

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

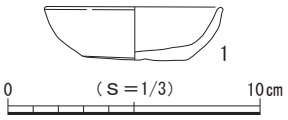


図12　第１面 土坑１出土遺物

土坑２（図15）

調査区の北東側に位置する。西側の上部が撹乱によって削平されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸76㎝、短軸67㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は19.11ｍを測る。

遺物はかわらけ４点、陶器１点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

土坑３（図15）

調査区の北東隅に位置する。南側で土坑４と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61㎝、短軸58㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.14ｍを測る。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑４（図15）

調査区の北東隅に位置する。東側が調査区外へと続いており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長82㎝、短軸1.04ｍ、深さ20㎝で、坑底面の標高は19.13ｍを測る。主軸方位はＮ－49°－Ｗを指す。

出土遺物（図13）

遺物はかわらけ８点、瓦２点、石製品１点が出土し、このうち２点を図示した。

１は手づくね成形による白かわらけである。２は燧石である。

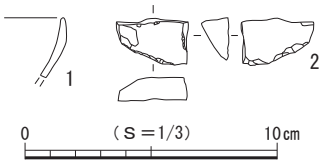


図13　第１面 土坑４出土遺物

土坑５（図15）

調査区の北西側に位置する。北側でピット46、西側でピット47と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸87㎝、短軸76㎝、深さ28㎝で、坑底面の標高は19.06ｍを測る。

遺物はかわらけ22点、陶器１点、金属製品１点が出土した。

土坑６（図15）

調査区の北西側に位置する。北側でピット49・50、南側でピット54・55と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は直径69㎝、深さ24㎝で、坑底面の標高は19.30ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑７（図15）

調査区の北東側に位置する。西側の上部が撹乱によって削平されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は長軸63㎝、短軸48㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は19.15ｍを測る。主軸方位はＮ－76°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土した。

土坑８（図７）

調査区の北東側に位置する。南側でピット43と重複して全体の約半分を壊している。底面の標高に関する記録が残されていないため、個別図は掲載しなかった。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸65㎝、短軸46㎝を測る。主軸方位はＮ－34°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ11点、陶器１点、瓦１点が出土した。

土坑９（図15）

調査区の北東側に位置する。南側でピット45と重複して壁の一部を壊している。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸56㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は19.23ｍを測る。

出土遺物（図14）

遺物はかわらけ１点が出土し、それを図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

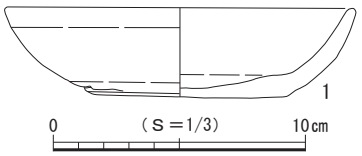


図14　第１面 土坑９出土遺物

土坑10（図15）

調査区中央の東寄りに位置する。南側で土坑12とピット109、北側でピット82・83・108、中央でピット223と重複して壁と底面が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸66㎝、短軸46㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は19.70ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指すと推定される。

遺物は陶器３点が出土した。

土坑11（図15）

調査区東壁際の中央北寄りに位置する。東側でピット114と重複して壊し、西側でピット111、北側でピット112、南側でピット113と重複して壁が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は

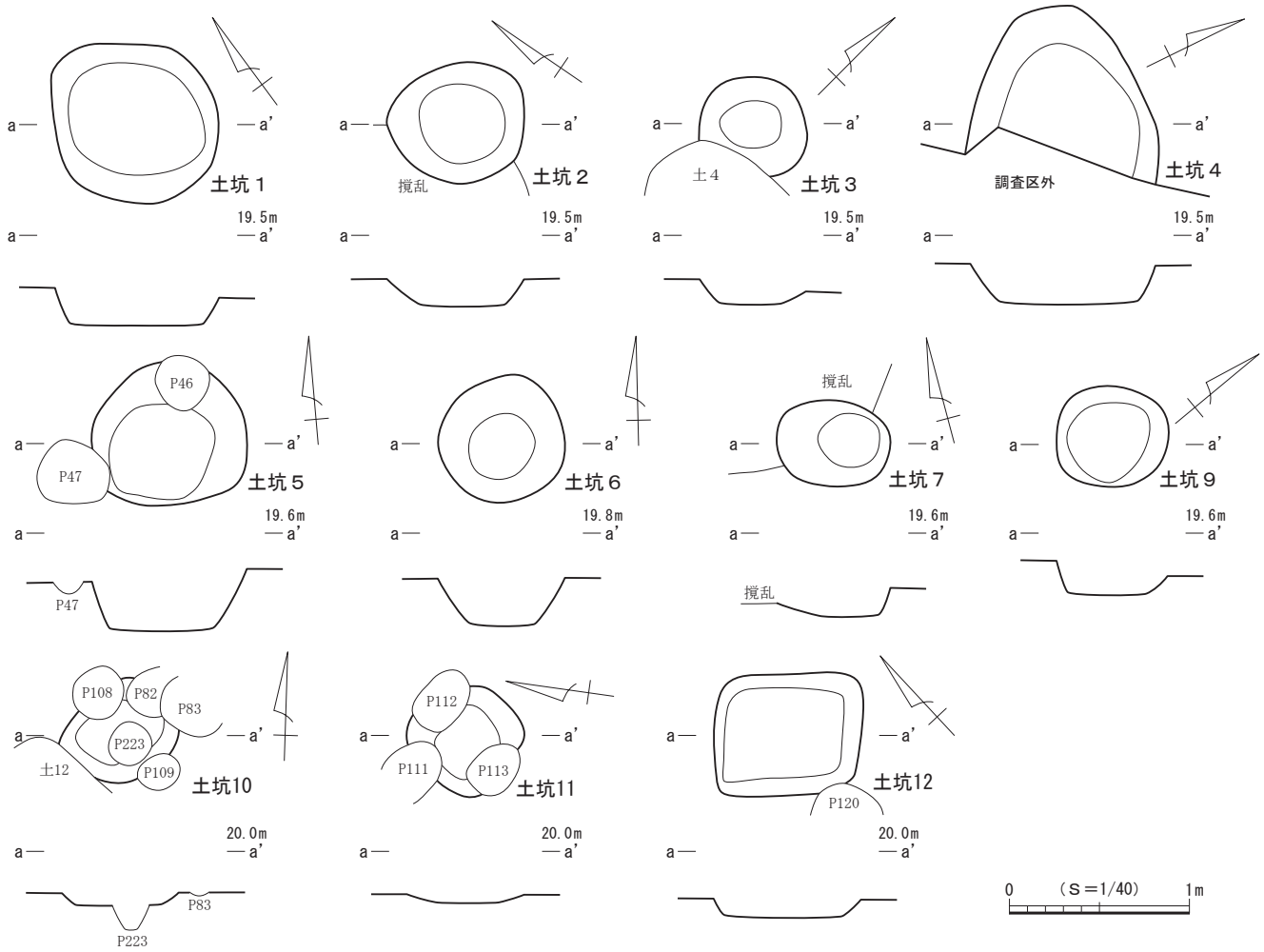


図15　第１面 土坑１～7・9～12

皿状を呈する。規模は長軸66㎝、短軸61㎝、深さ４㎝で、坑底面の標高は19.73ｍを測る。

遺物はかわらけ２点、陶器１点が出土した。

土坑12（図15）

調査区中央の東寄りに位置する。北側で土坑10と重複して壊し、南側でピット120と重複して壁のごく一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸82㎝、短軸67㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.06ｍを測る。主軸方位はＮ－46°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑13（図17）

調査区東壁の中央付近に位置する。東側でピット118と重複し東壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69㎝、短軸66㎝、深さ55㎝で、坑底面の標高は19.20ｍを測る。底面近くから長さ15㎝大の板材が２枚出土しており、礎板を伴うピットの可能性が考えられる。礎板上面の標高は19.35ｍと19.28ｍである。

出土遺物（図16）

遺物はかわらけ１点、陶器２点が出土し、このうち１点を図示した。

１は瀬戸産の折縁深皿で古瀬戸後期様式Ⅰ期に比定される。

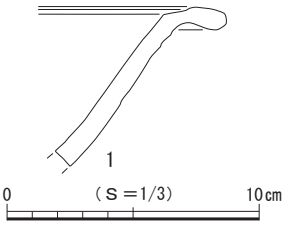


図16　第１面 土坑13出土遺物

土坑14（図17）

調査区東壁際の中央に位置する。東側でピット117、西側でピット118・119・121と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長67㎝、短軸67㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は19.53ｍを測る。

遺物はかわらけ４点、陶器12点が出土した。

土坑15（図17）

調査区中央の西側に位置する。南側でピット132と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、西壁側が大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸71㎝、短軸64㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は19.35ｍを測る。

遺物はかわらけ９点、陶器２点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

土坑16（図17）

調査区中央に位置する。北側でピット122・123と重複して壊している。平面形は隅丸長方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸88㎝、短軸73㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.42ｍを測る。主軸方位はＮ－54°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑17（図17）

調査区中央の南西側に位置する。他の遺構と重複せずに単独で確認した。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸81㎝、短軸70㎝、深さ30㎝で、坑底面の標高は19.22ｍを測る。主軸方位はＮ－61°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ19点、陶器４点が出土した。

土坑18（図17）

調査区中央の南側に位置する。西側でピット142・143と重複し壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平らで南側に長軸・深さとも16㎝の小ピットをもつ。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸60㎝、短軸56㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は19.43ｍを測る。主軸方位はＮ－45°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ６点、陶器１点が出土した。

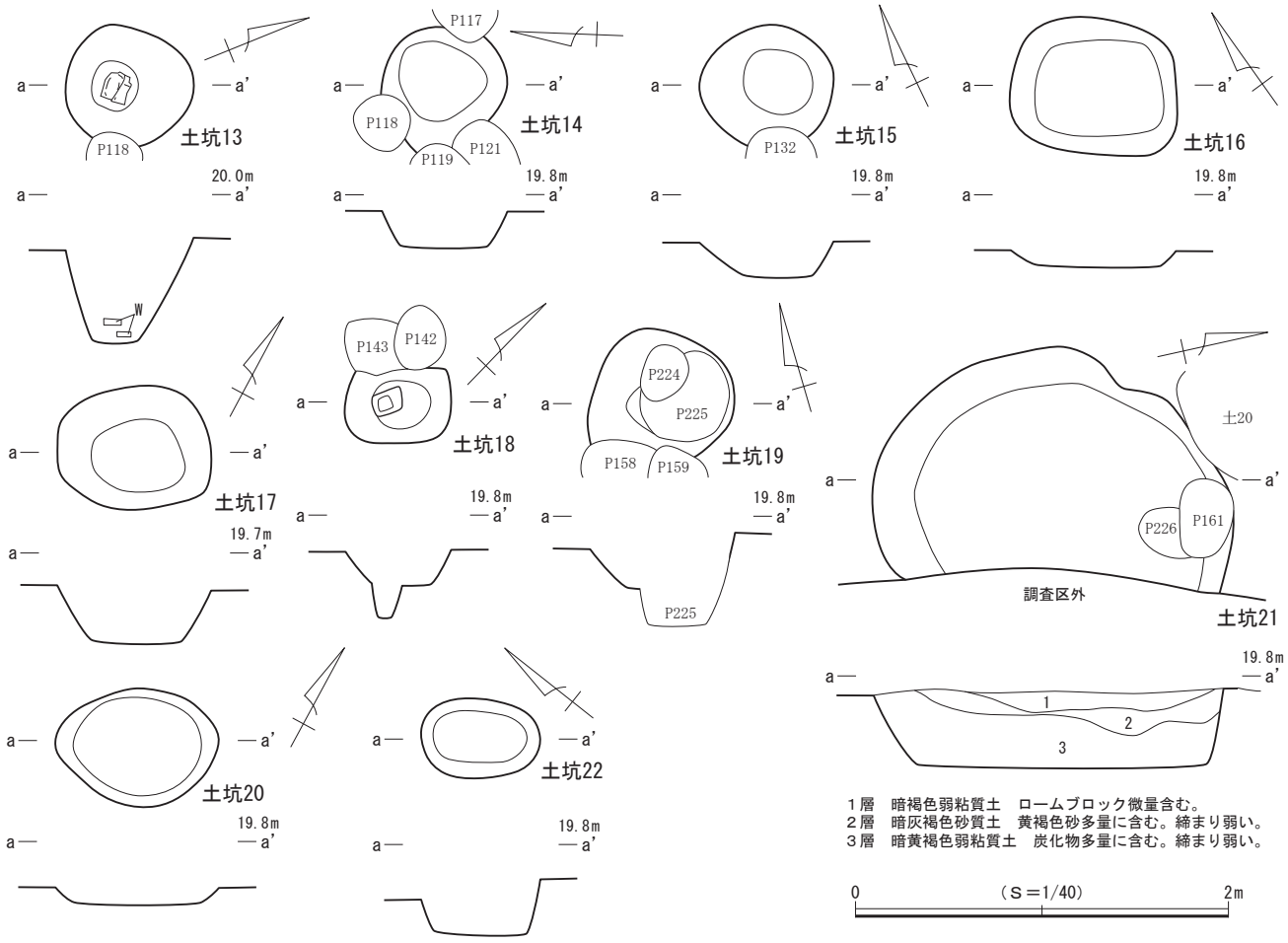


図17　第１面 土坑13～22

土坑19（図17）

調査区中央の南側に位置する。南側でピット158・159、中央でピット224・225と重複して壁の一部と底面が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると、不整楕円形と考えられ、わずかに残る底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は長軸現存長78㎝、短軸73㎝、深さ31㎝で、坑底面の標高は19.41ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指す。

出土遺物（図18）

遺物はかわらけ６点、陶器４点、金属製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は瀬戸産の折縁深皿で古瀬戸後期様式Ⅰ期に比定される。

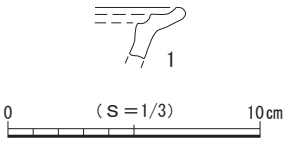


図18　第１面 土坑19出土遺物

土坑20（図17）

調査区東壁付近の中央南側に位置する。東側でピット145、北側でピット144と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸87㎝、短軸62㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は19.48ｍを測る。主軸方位はＮ－61°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ４点、陶器５点が出土した。

土坑21（図17）

調査区東壁際の中央南側に位置する。北側で土坑20、ピット161・226と重複して壁と底面の一部が壊され、加えて東側が調査区外へと続いており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.94m、短軸現存1.02m、深さ41cmで、坑底面の標高は19.31mを測る。主軸方位はN－40°－Eを指す。

出土遺物（図19）

遺物はかわらけ29点、磁器１点、陶器75点、土師質・瓦質土器２点、瓦２点、石製品２点が出土し、このうち10点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけで、２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。３は中国産陶器の壺である。４は瀬戸産の折縁深皿で古瀬戸中期様式Ⅳ期に比定される。５～８は常滑産の陶器類である。５～７は甕で７型式、８は片口鉢Ⅱ類で７～８型式に比定される。９は常滑甕破片を転用した摩耗陶片である。10は砥石である。

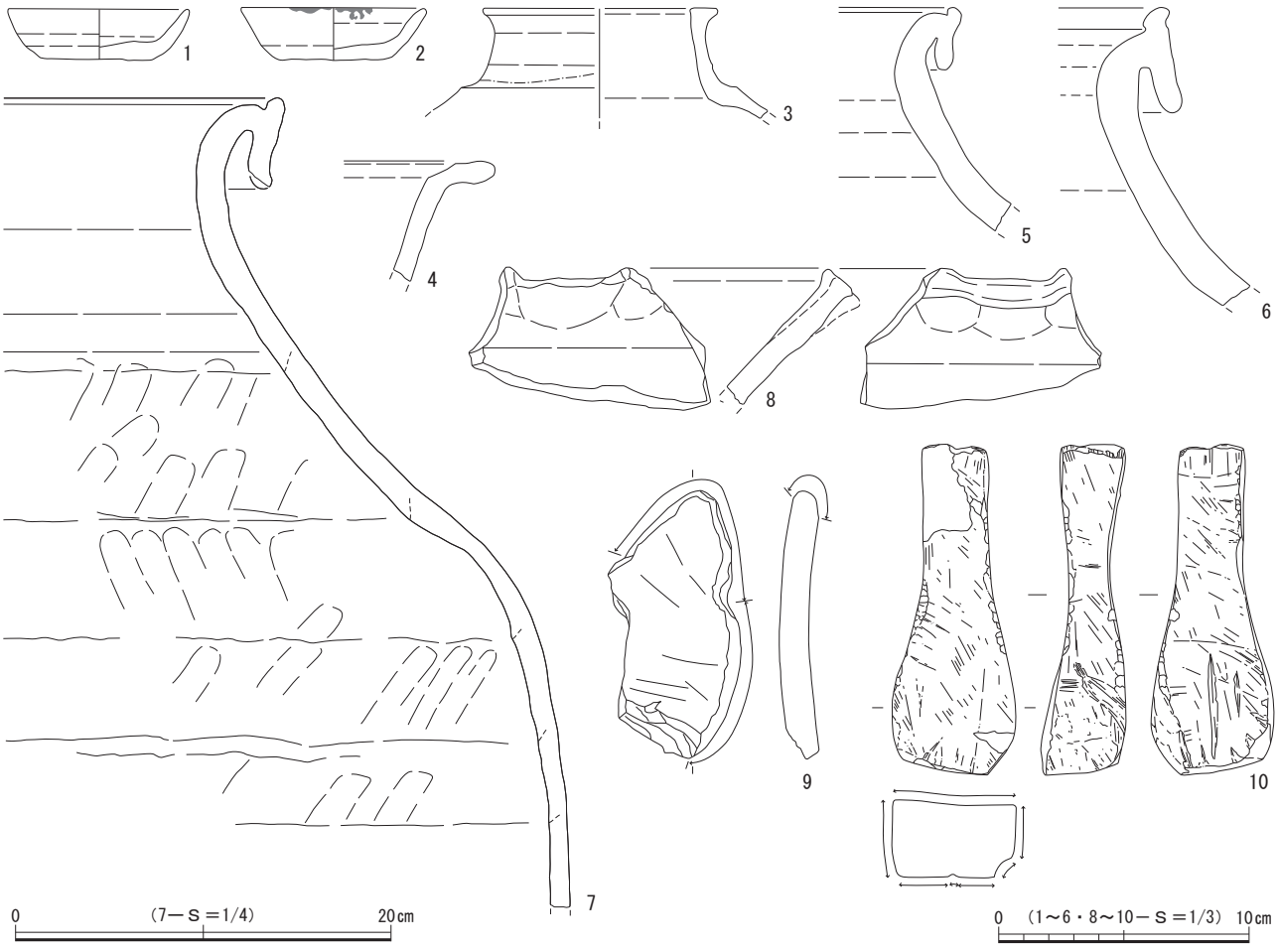


図19　第１面 土坑21出土遺物

土坑22（図17）

調査区中央の西側に位置する。他の遺構との重複は認められない。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63cm、短軸43cm、深さ28cmで、坑底面の標高は19.31mを測る。主軸方位はN－38°－Wを指す。

遺物はかわらけ９点、磁器１点が出土した。

（４）ピット

第１面では、226基を検出した。調査区北端部を除く広い範囲にわたって検出され、特に中央部付近に密集する様相が捉えられたが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、隅丸方形を基調とし、規模は長軸11～59㎝、深さ３～59㎝を測る。226基のうち10基のピット（ピット12・39・120・137・139・157・161・162・168・203）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ10～27㎝、幅７～24㎝で、上面の標高は19.23～19.76ｍを測る。また、２基のピット（ピット33・209）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ14㎝、幅６㎝と、長さ29㎝、幅８㎝、厚さはともに２㎝で、上面の標高は19.15ｍと19.32ｍである。なお、礎石や礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図20に図示した。

出土遺物（図21）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち40点を図示した。

１・10はかわらけを転用した円盤状の製品である。２～８・12～14・18・19・22・23・26～29・33・35・40はロクロ成形によるかわらけで、３～５・22・35・40の口縁部から内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。９・36・39は土師質・瓦質土器である。９・36は火鉢で、９はⅢ類、36はⅣＡ類に比定される。11・17・37は銭貨で、11は宋通元寶（960年初鋳）、17は熙寧

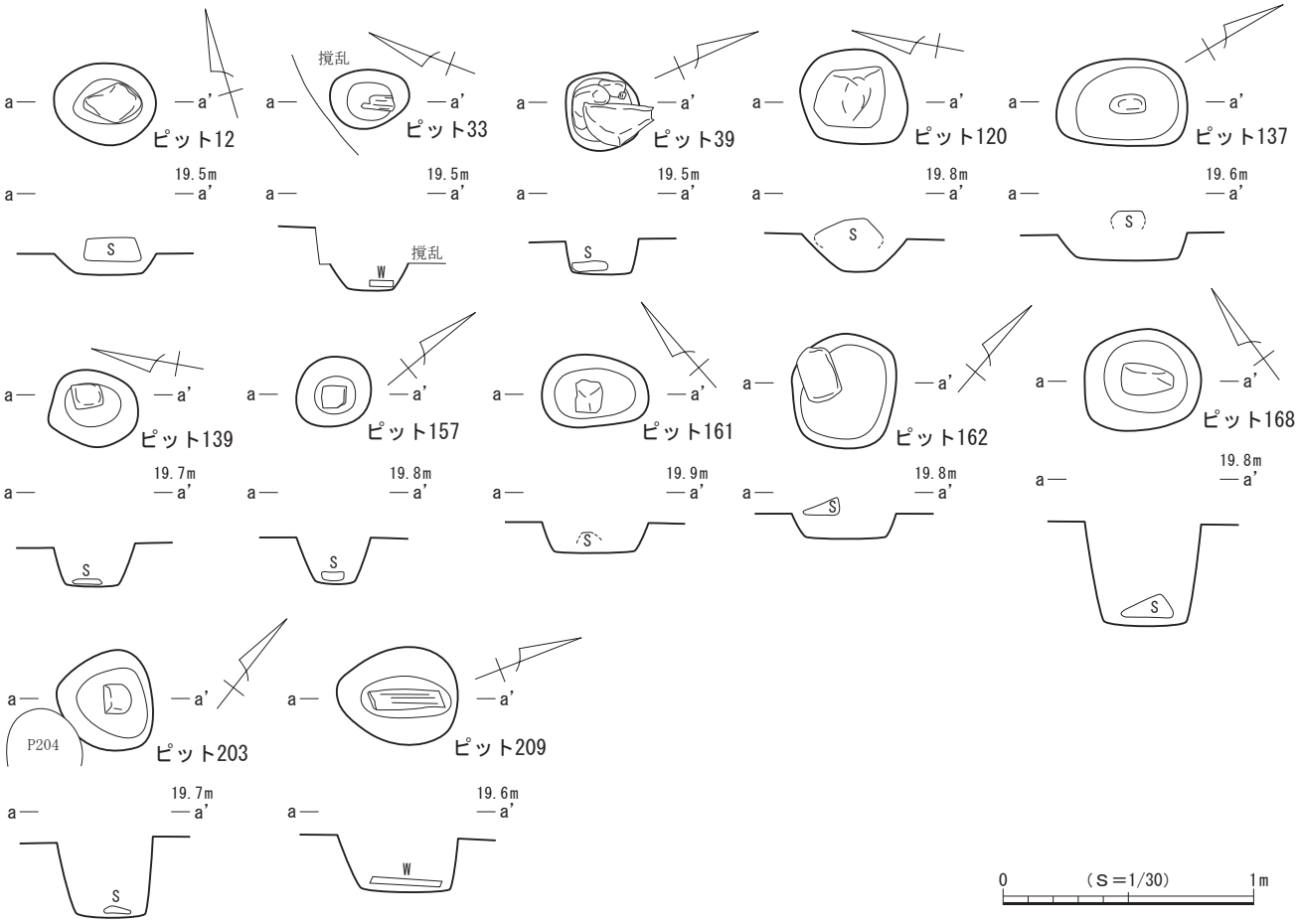


図20　第１面 ピット12・33・39・120・137・139・157・161・162・168・203・209

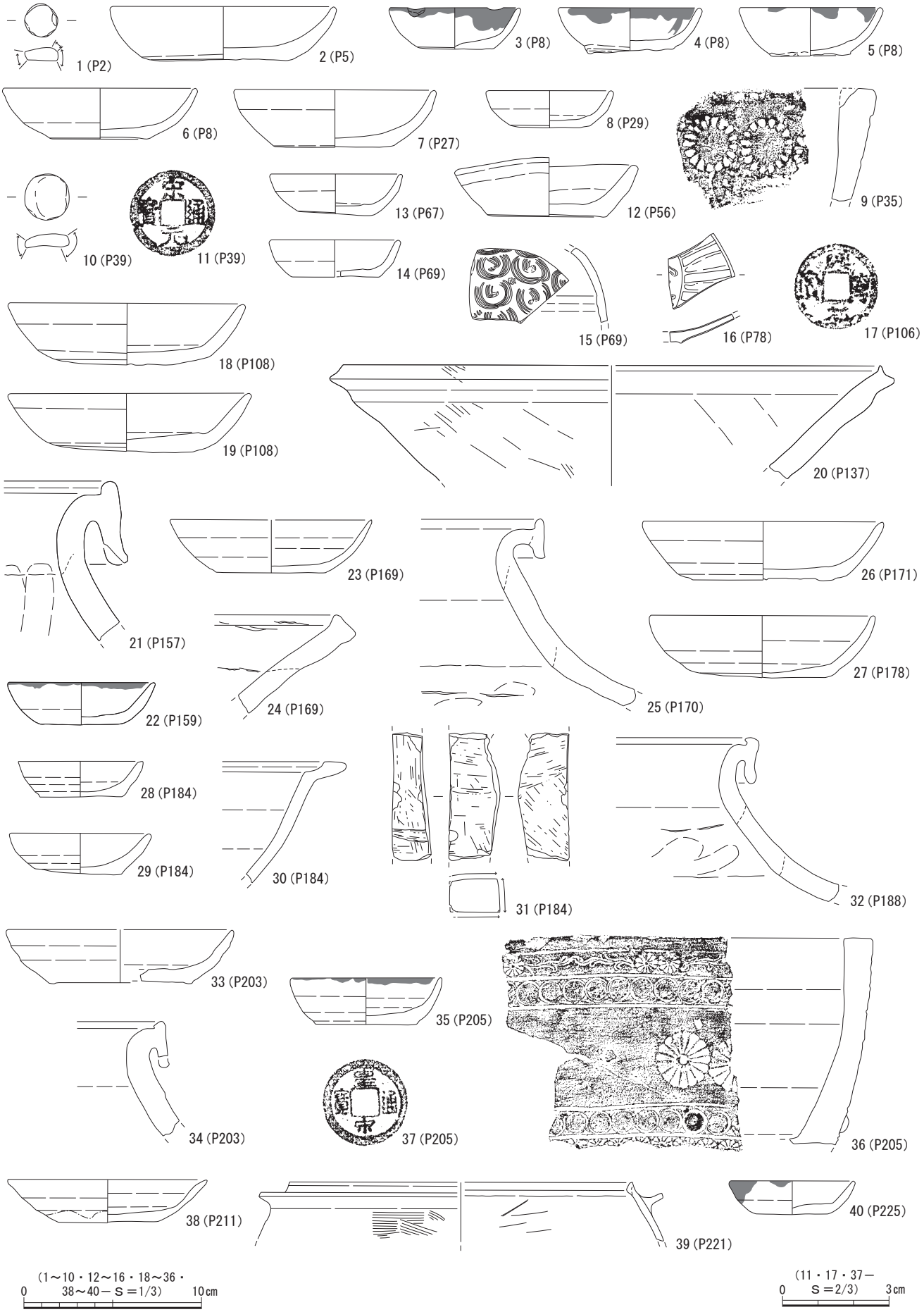


図21　第１面 ピット出土遺物

元寶（1068年初鋳）、37は皇宋通寶（1038年初鋳）である。15・16は青白磁で、15は梅瓶、16は皿である。20・21・24・25・32・34は常滑産の陶器類である。21・25・32・34は甕で６ｂ～８型式、20・24は片口鉢Ⅱ類で７～８型式に比定される。30・38は瀬戸産の陶器類である。30は折縁深皿で古瀬戸後期様式Ⅰ期、38は縁釉小皿で古瀬戸後期様式Ⅲ期に比定される。31は砥石である。39は南伊勢系土鍋である。

１はピット２、２はピット５、３～６はピット８、７はピット27、８はピット29、９はピット35、10・11はピット39、12はピット56、13はピット67、14・15はピット69、16はピット78、17はピット106、18・19はピット108、20はピット137、21はピット157、22はピット159、23・24はピット169、25はピット170、26はピット171、27はピット178、28～31はピット184、32はピット188、33・34はピット203、35～37はピット205、38はピット211、39はピット221、40はピット225からそれぞれ出土した。

（５）炭層出土遺物（図22・23）

炭層からも多くの遺物が出土し、このうち62点を図示した。

１～26はロクロ成形によるかわらけで、６・７・９・10・12・13・15・19～22の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。27・28は龍泉窯系青磁である。27は碗で碗Ⅳウ類、28は皿で皿Ⅰ類に比定される。29～33は瀬戸産の陶器類である。29は天目茶碗で古瀬戸中期様式Ⅳ期～後期様式Ⅰ期、30・31は卸皿で古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期、32は柄付片口で古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期、33は袴腰形香炉で古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅳ期に比定される。34～47は常滑産の陶器類である。34は広口壺小で６ｂ～８型式、35～43は甕で６ｂ～９型式、44～47は片口鉢Ⅱ類で５～10型式に比定される。48～52は土師質・瓦質土器である。48・49は南伊勢系土鍋、50・51は火鉢でⅣ類に比定される。52は香炉である。53～55は瓦類である。53は丸瓦、54は軒平瓦、55は平瓦である。56～58は砥石である。59～62は金属製品で、59は笄、60は釘である。61・62は銭貨で、61は熙寧元寶（1068年初鋳）、62は政和通寶（1111年初鋳）である。

（６）第１面 遺構外出土遺物（図24・25）

第１面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち67点を図示した。

１は白かわらけである。２～24はロクロ成形によるかわらけで、２・５・６・８・９・10～13の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。25～28はかわらけを転用した円盤状の製品である。29・30は龍泉窯系青磁碗で、29は碗Ⅰ類、30は碗Ⅱ－ｂ類に比定される。31～37は瀬戸産の陶器類である。31は広口壺で古瀬戸中期様式Ⅱ期、32は小杯で古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期、33は入子で古瀬戸前期様式Ⅱ期、34は水滴で古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期、35は折縁深皿で古瀬戸中期様式Ⅳ期、36は直縁大皿で古瀬戸後期様式Ⅲ～Ⅳ期、37は縁釉小皿で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期に比定される。38～50は常滑産の陶器類である。38～47は甕で６ｂ～10型式、48は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式、49・50は片口鉢Ⅱ類で７～８型式に比定される。51～53は土師質・瓦質土器類である。51は南伊勢系土鍋、52は香炉である。53は火鉢でⅣＡ類に比定される。54～58は石製品で、54は滑石製のスタンプで草花文が彫られている。55～58は砥石である。59～62は銭貨である。59は開元通寶（621年初鋳）、60は景徳元寶（1004年初鋳）、61は祥符元寶（1008年初鋳）、62は永楽通寶（1408年初鋳）である。63～67は木製品で、その中で63は漆製品となる。63は蓋、64～67は用途不明である。

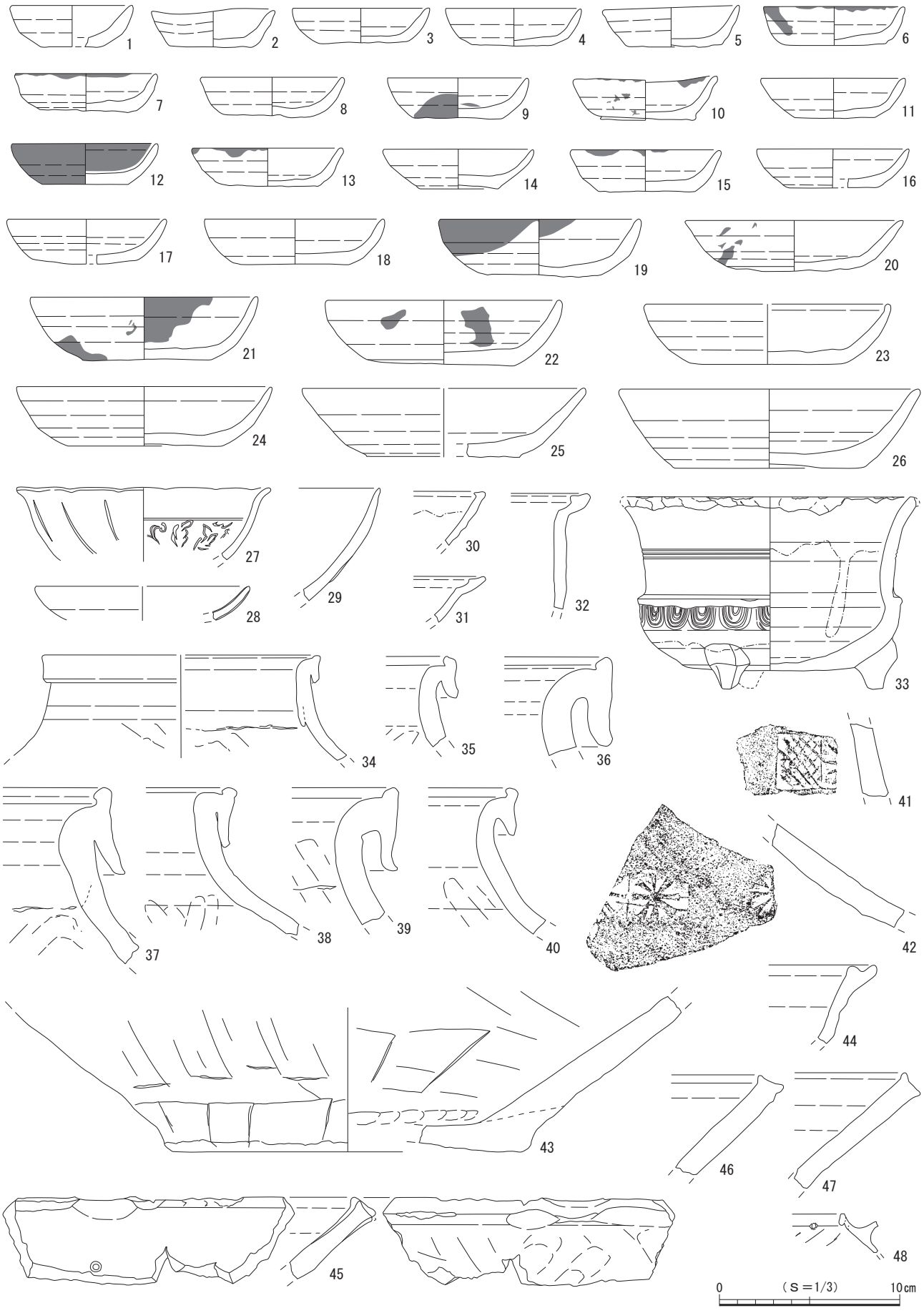


図22　第１面 炭層出土遺物（１）

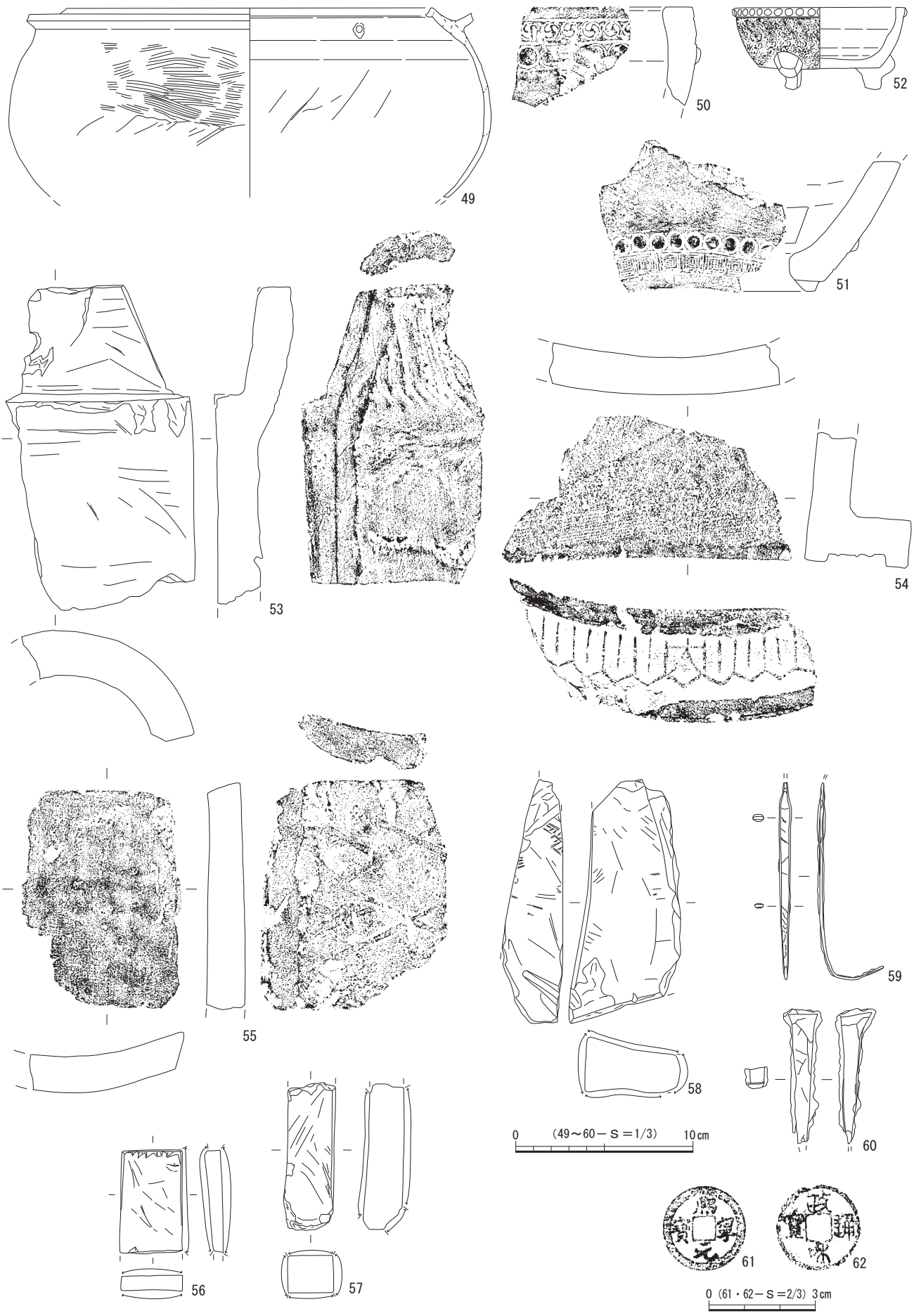


図23　第１面 炭層出土遺物（２）

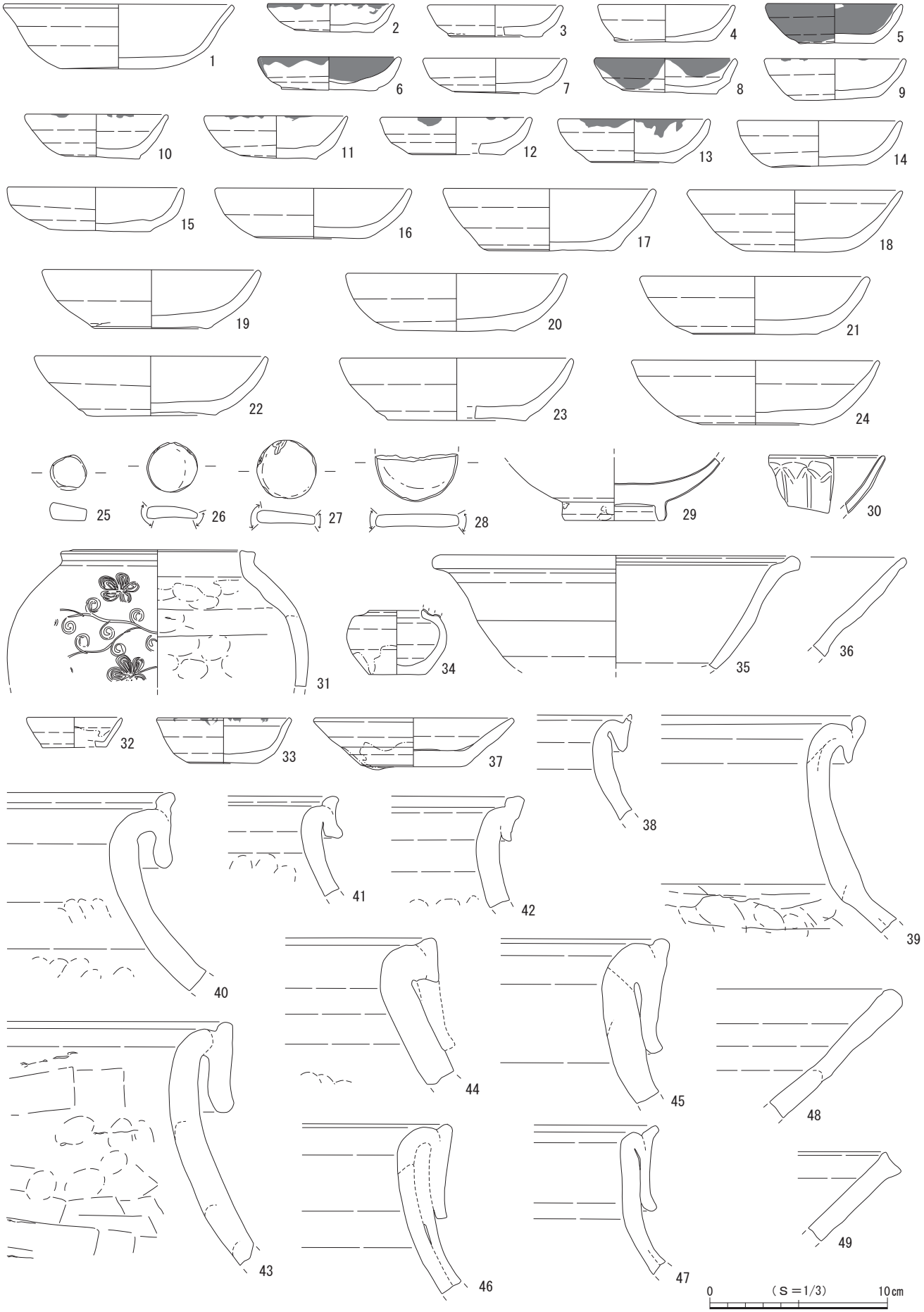


図24　第１面 遺構外出土遺物（１）

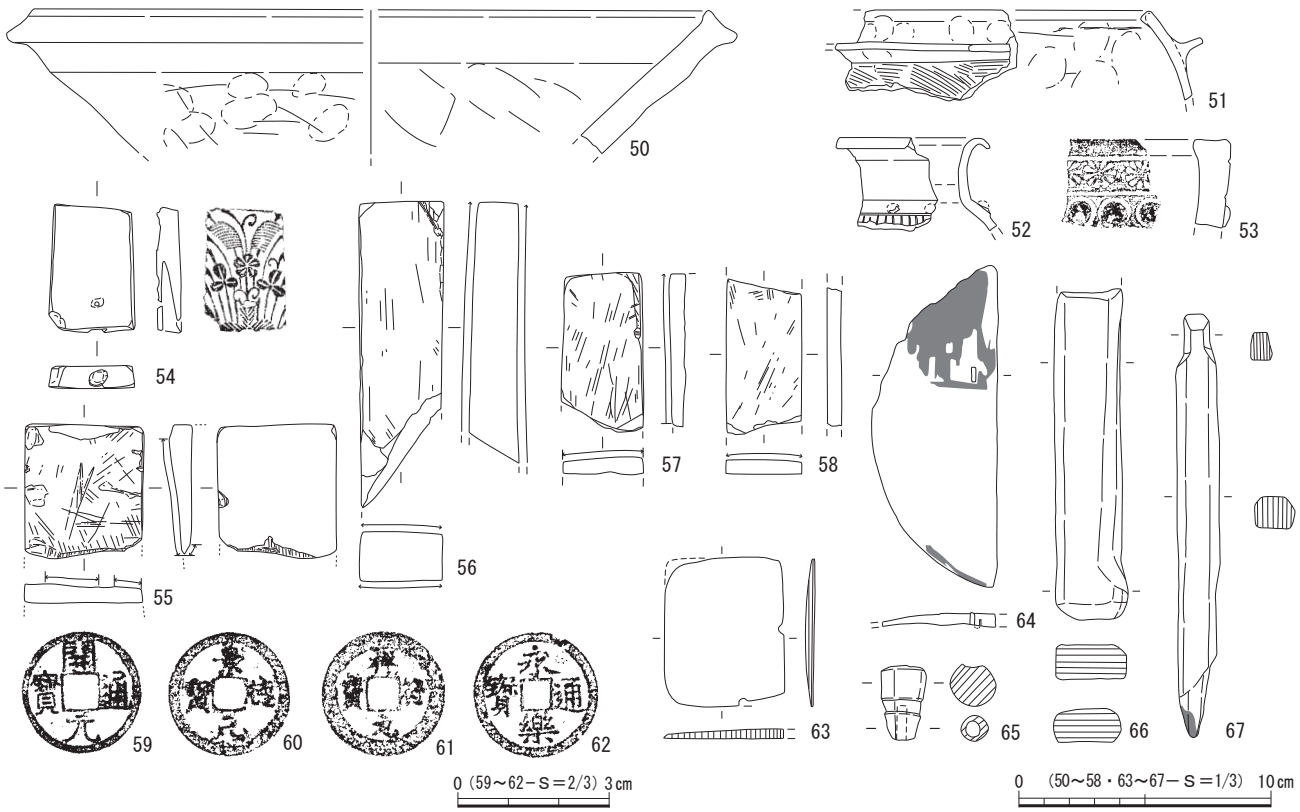


図25　第１面 遺構外出土遺物（２）

（７）第１面 構成土出土遺物（図26～28）

第１面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち66点を図示した。

１～13はロクロ成形によるかわらけで、１・２・６・９・12の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。14～17は龍泉窯系青磁である。14～16は碗で、14は碗Ⅰ類、15は碗Ⅱ－ｂ類、16は碗Ⅳ類に比定される。17は盤である。18は青白磁の皿である。19～24は瀬戸産の陶器類である。19・20は花瓶Ⅰｂ類で古瀬戸中期様式、21は天目茶碗で古瀬戸中期様式Ⅲ期、22・23は折縁深皿で古瀬戸中期様式、24は卸皿で古瀬戸中期様式に比定される。25は渥美産の袈裟襷文・蓮弁文壺である。26～42は常滑産の陶器類である。26～37は甕で６ｂ～10型式、38～42は片口鉢Ⅱ類で８～10型式に比定される。43～47は備前産の擂鉢である。48～50は常滑産の甕破片を転用した摩耗陶片である。51～55は土師質・瓦質土器である。51～53は火鉢で、51はⅢ類、52・53はⅣＡ類に比定される。54は香炉、55は風炉である。56～60は石製品で、56は滑石製石鍋、57～59は砥石、60は用途不明である。61～66は銭貨である。61は開元通寶（621年初鋳）、62は天聖元寶（1023年初鋳）、63は皇宋通寶（1038年初鋳）、64は嘉祐通寶（1056年初鋳）、65は熙寧元寶（1068年初鋳）、66は元豊通寶（1078年初鋳）である。

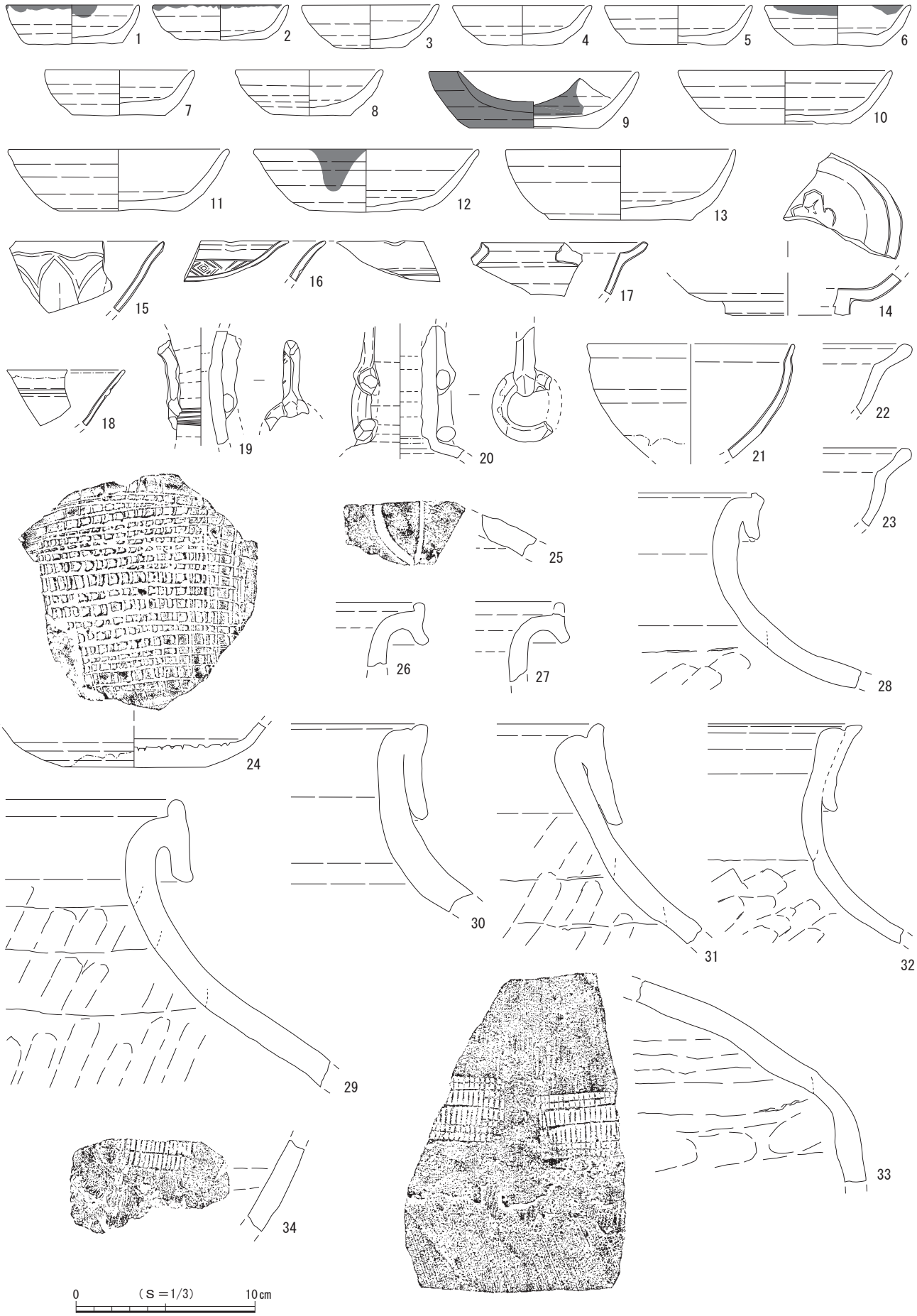


図26　第１面 構成土出土遺物（１）

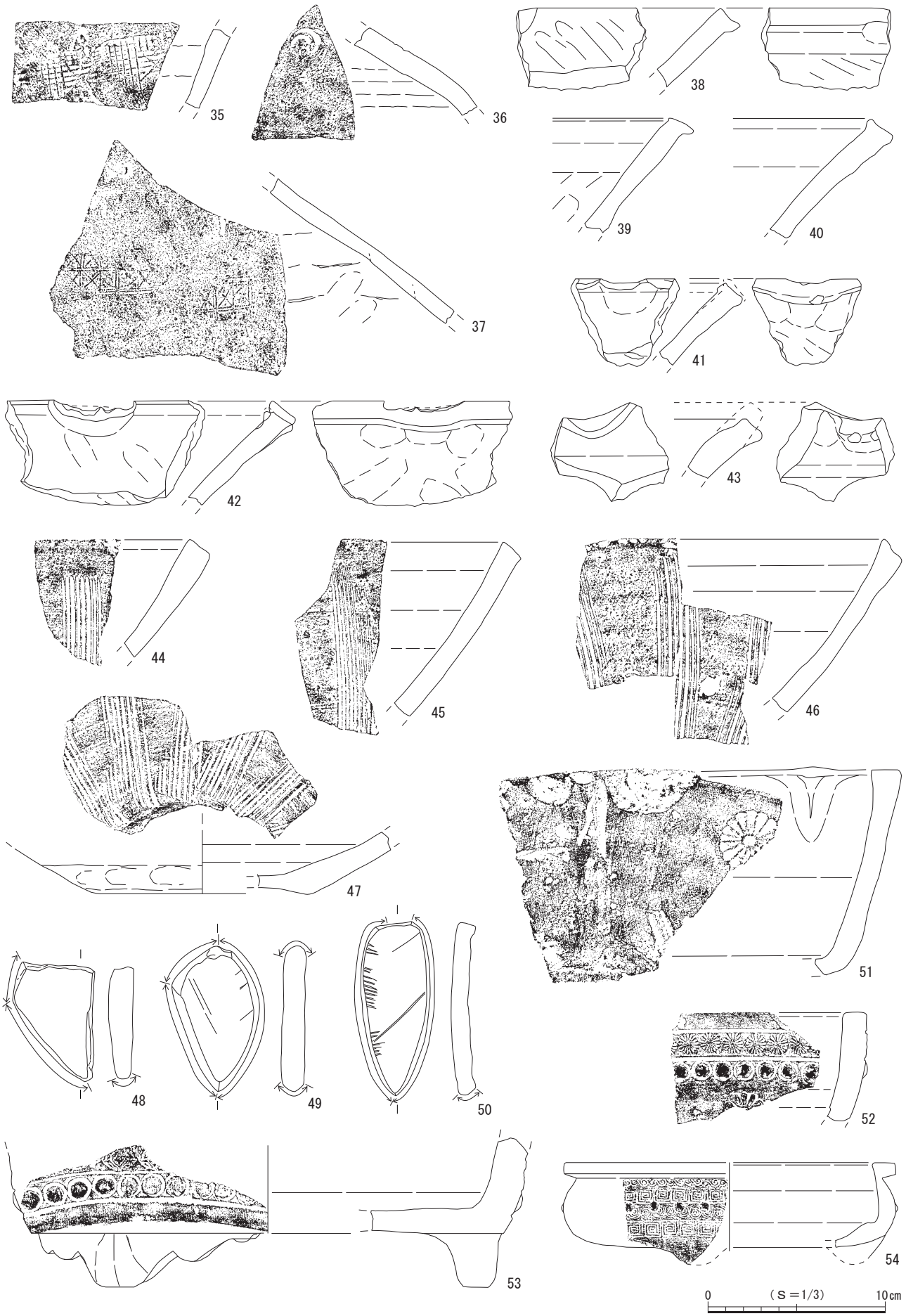


図27　第１面 構成土出土遺物（２）

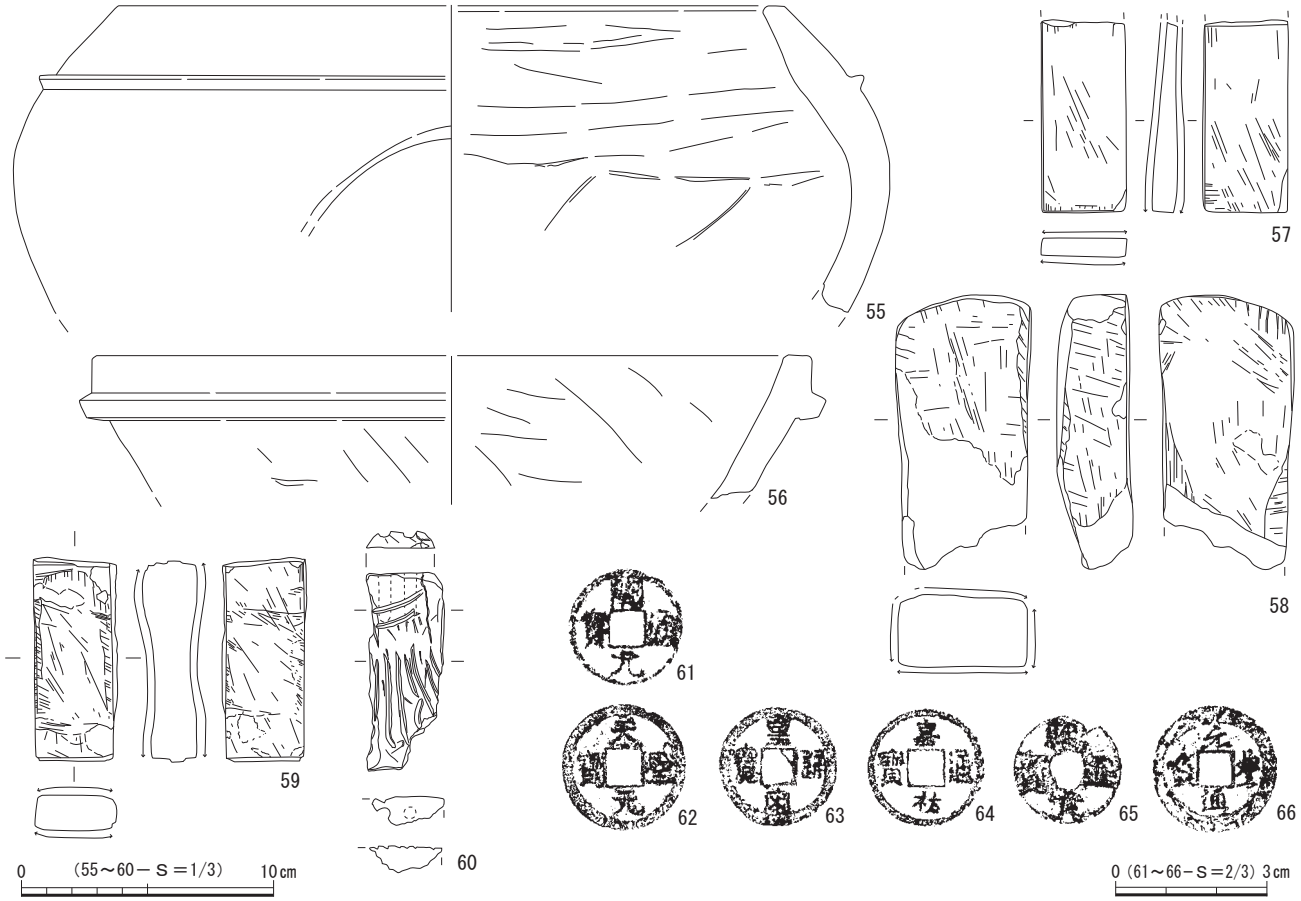


図28　第１面 構成土出土遺物（３）

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の12層上面で検出され、確認面の標高は19.3～19.5ｍを測る。12層は黄褐色砂質土を主体とする整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、方形土坑３基、土坑19基、ピット127基である（図29）。遺構密度は調査区南側において高く、北側では完形品を含むかわらけを用いた地業が７×４ｍの範囲にわたって検出され、調査区外の北側へと広がる様相が認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、石製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀後葉～15世紀初頭頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構２（図30）

調査区中央の南側に位置し、北西－南東方向におおむね直線的に横断して調査区外へと延びている。調査区内ではピット290・294・298・299・301～304・307と重複し、部分的に壊されている。検出した規模は現存長約6.0ｍ、幅0.90～1.28ｍ、深さ20～34㎝を測り、主軸方位はＮ－53°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、壁際には20～30㎝大の礫とともに杭が所々に残存しており、使用時には礫と杭を併用した護岸を伴っていた可能性がある。断面形は逆台形を呈するが、南側にテラス状の段が認められ、作り替えを行った可能性が推定される。底面はほぼ平らで、底面の標高は東側で19.16ｍ、中央部で19.10

図29　第２面 遺構分布図

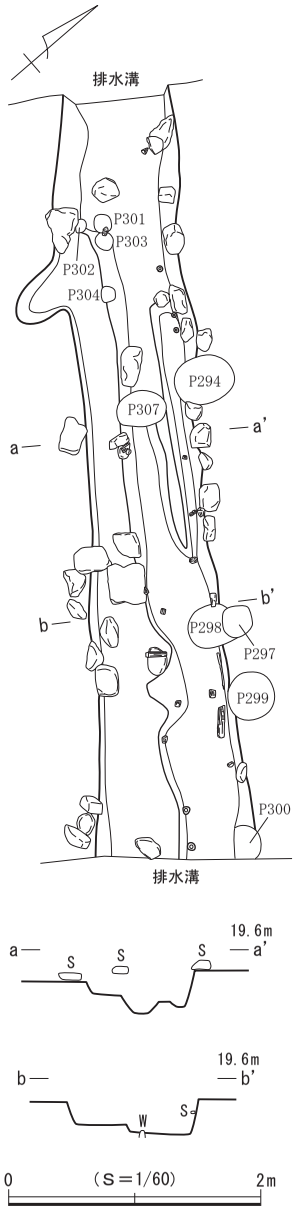


図30　第２面 溝状遺構２

mを測り、西側に向かってわずかに傾斜している。

出土遺物（図31）

遺物は覆土から、かわらけ187点、磁器５点、陶器77点、土師質・瓦質土器５点、瓦３点、石製品２点、金属製品２点が出土し、このうち27点を図示した。

１～11はロクロ成形によるかわらけで、２・４の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。12はかわらけ転用品である。13は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。14は青磁の盤である。15～19は瀬戸産の陶器類である。15は花瓶で古瀬戸後期様式、16は入子で古瀬戸後期様式、17は平底末広碗で古瀬戸後期様式、18は折縁深皿で古瀬戸後期様式、19は水滴で古瀬戸後期様式に比定さ

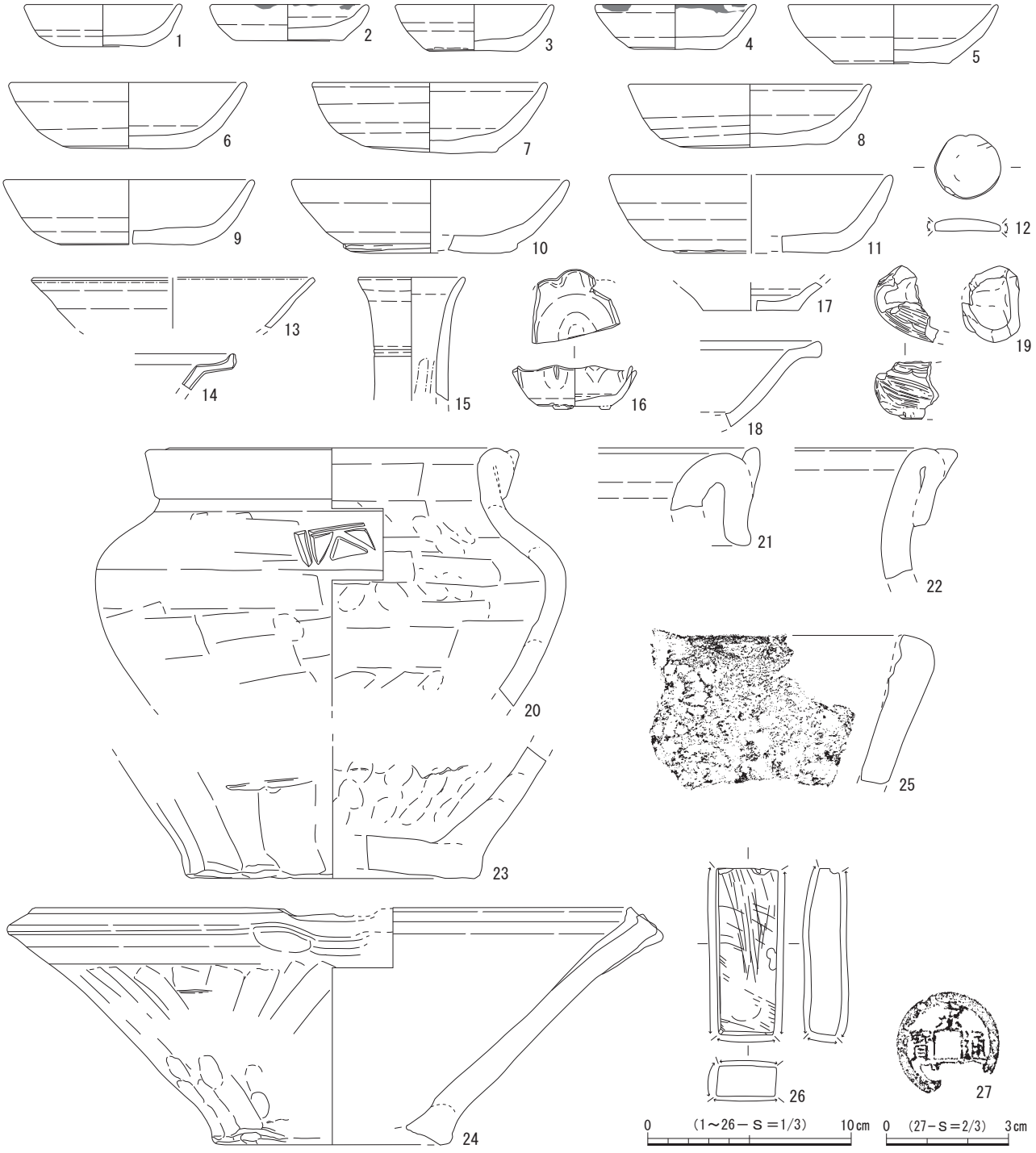


図31　第２面 溝状遺構２出土遺物

れる。20～24は常滑産の陶器類である。20は広口壺小で９型式、21～23は甕で７～11型式、24は片口鉢Ⅱ類で９～10型式に比定される。25は土師質・瓦質土器類の火鉢でⅢ類に比定される。26は砥石である。27は銭貨で宋通元寶（960年初鋳）である。

（２）方形土坑

方形土坑１（図34）

調査区の南壁際に位置する。北側でピット336・337・340、南側でピット338と重複して壁のごく一部が壊され、南側が調査区外へと続いているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は隅丸長方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸2.23ｍ、短軸現存長1.50ｍ、深さ28～32㎝で、坑底面の標高は19.04ｍを測る。主軸方位はＮ－50°－Ｗを指す。覆土の中層および南壁の一部に沿って長さ20～60㎝の礫が検出された。

出土遺物（図32）

遺物はかわらけ84点、磁器２点、陶器17点、土師質・瓦質土器１点、瓦５点、石製品１点、木製品２点、金属製品２点が出土し、このうち11点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけで、２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。５～７は常滑産の陶器類である。５は甕で５～６ａ型式、６・７は片口鉢Ⅱ類で７～９型

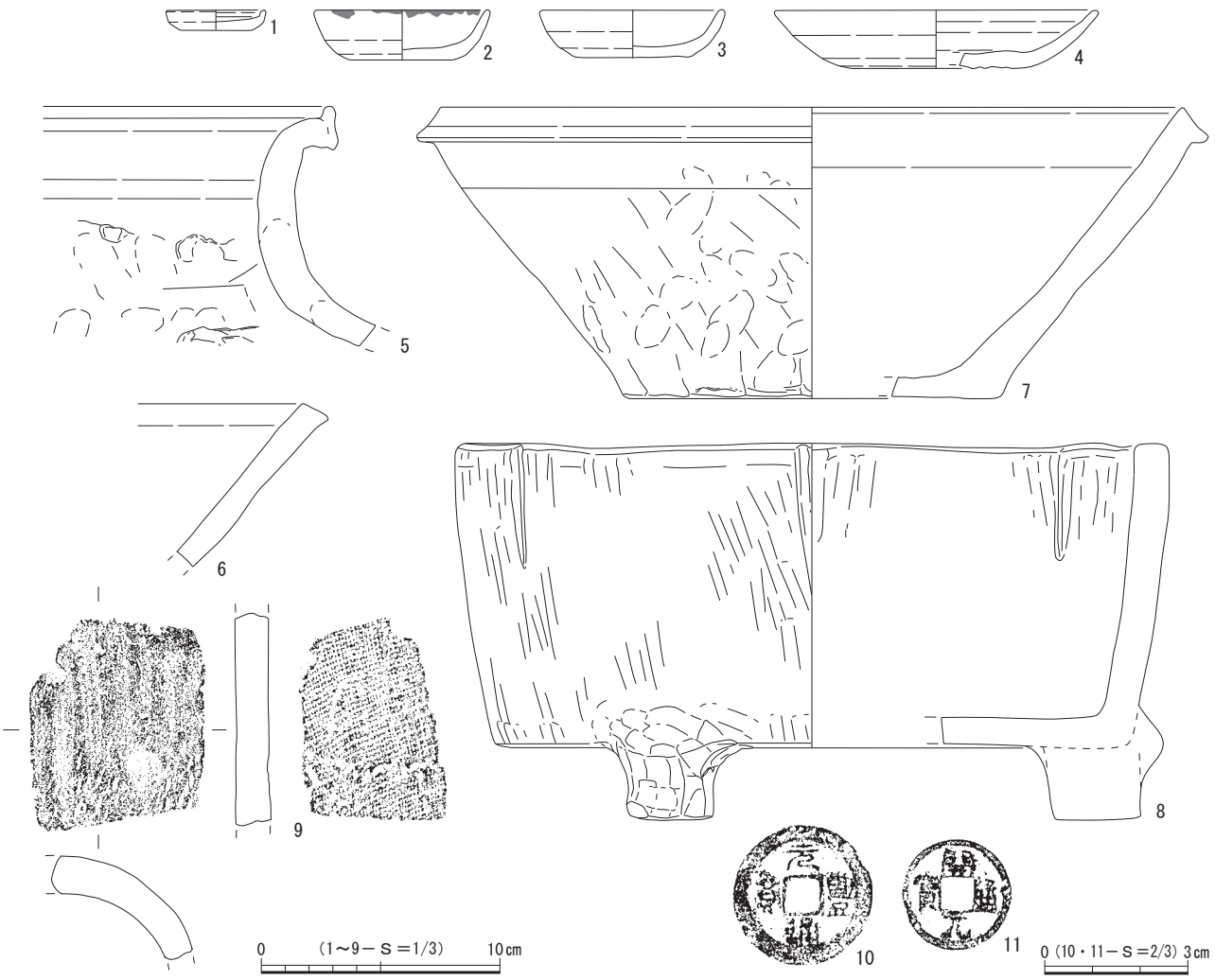


図32　第２面 方形土坑１出土遺物

式に比定される。８は土師質・瓦質土器の火鉢でⅢ類に比定される。９は丸瓦である。10・11は銭貨で、10は元豊通寶（1078年初鋳）、11は開元通寶を模した島銭と思われる。

方形土坑２（図34）

調査区の南側に位置する。西側で土坑41と重複して壊し、北東側でピット330と重複して底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は長方形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.59m、短軸74㎝、深さ10～20㎝で、坑底面の標高は19.24mを測る。主軸方位はＮ－40°－Ｅを指し、南側に隣接する方形土坑１・２と直交する。西壁面に沿って長さ20～40㎝ほどの礫が検出された。

出土遺物（図33）

遺物はかわらけ21点、陶器１点、土師質・瓦質土器１点、瓦２点が出土し、このうち３点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２・３は瓦類で、２は鬼瓦、３は平瓦である。

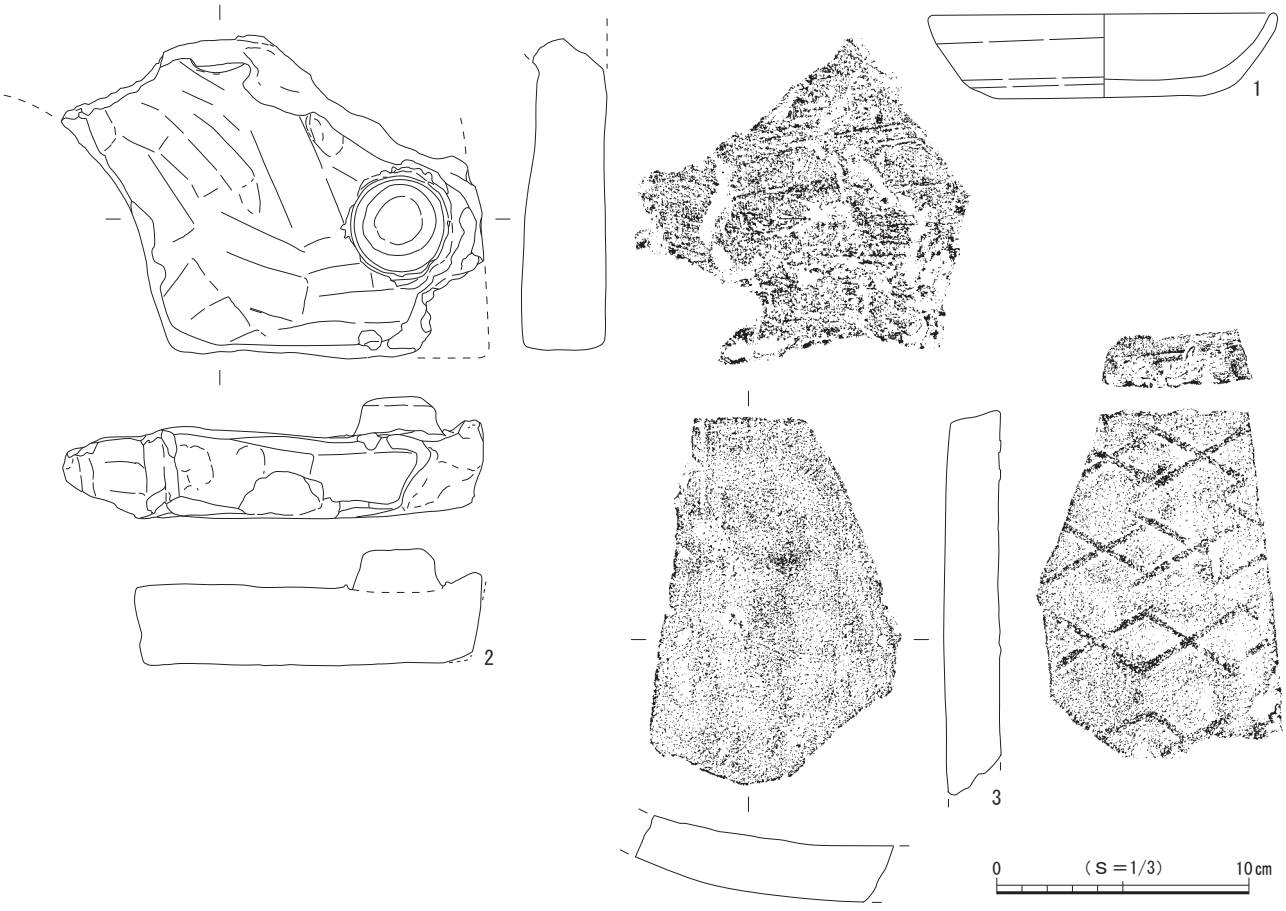


図33　第２面 方形土坑２出土遺物

方形土坑３（図34）

調査区の南壁際に位置する。北側でピット342･345、南側でピット343・346・347と重複し、底面と壁のごく一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整隅丸長方形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.66m、短軸1.12m、深さ16㎝で、坑底面の標高は19.21mを測る。主軸方位はＮ－60°－Ｗを指す。壁面に沿って長さ30～70㎝大の礫が検出された。

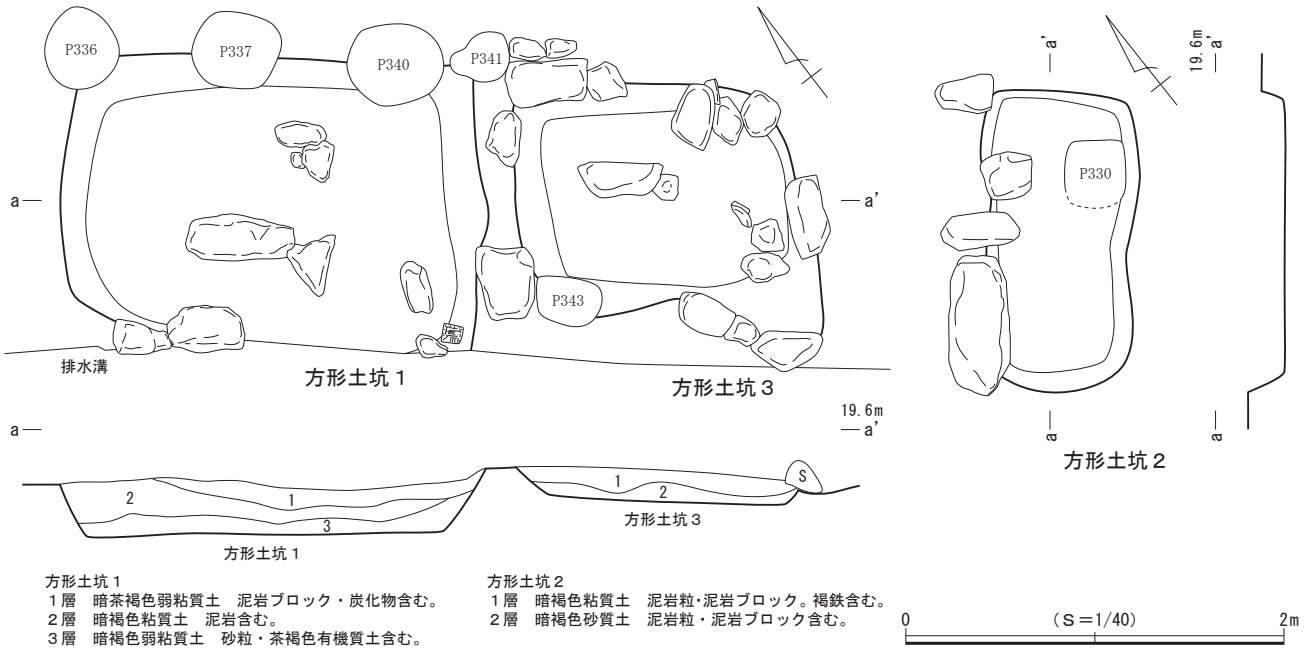


図34　第２面 方形土坑１～３

遺物はかわらけ２点、磁器１点、陶器２点、土師質・瓦質土器３点が出土した。

（３）土　坑

土坑23（図37）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸68㎝、短軸61㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は19.00ｍを測る。

出土遺物（図35）

遺物はかわらけ７点、陶器３点、木製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は木製品で箸状である。

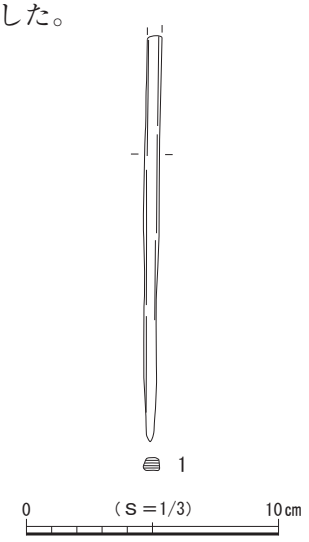


図35　第２面 土坑23出土遺物

土坑24（図37）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められない。平面形は楕円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77㎝、短軸64㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は19.12ｍを測る。主軸方位はＮ－46°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑25（図37）

調査区中央の北側に位置する。南側で土坑26・27、ピット237と重複して壊し、同じく南側でピット239と重複してごくわずかに壁が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、南壁はさらに大きく開く。断面形は逆台形を

呈する。規模は長軸1.15m、短軸1.09m、深さ30cmで、坑底面の標高は18.87mを測る。主軸方位はN－24°－Eを指す。

出土遺物（図36）

遺物はかわらけ45点、磁器３点、陶器５点、土師質・瓦質土器４点、石製品１点、木製品４点が出土し、このうち12点を図示した。

１～５はロクロ成形によるかわらけで、１・２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。６・７は青白磁の梅瓶である。８～10は土師質・瓦質土器類の火鉢で、８はⅢ類、９・10はⅣA類に比定される。11・12は木製品で、11は建築部材、12は箸状である。

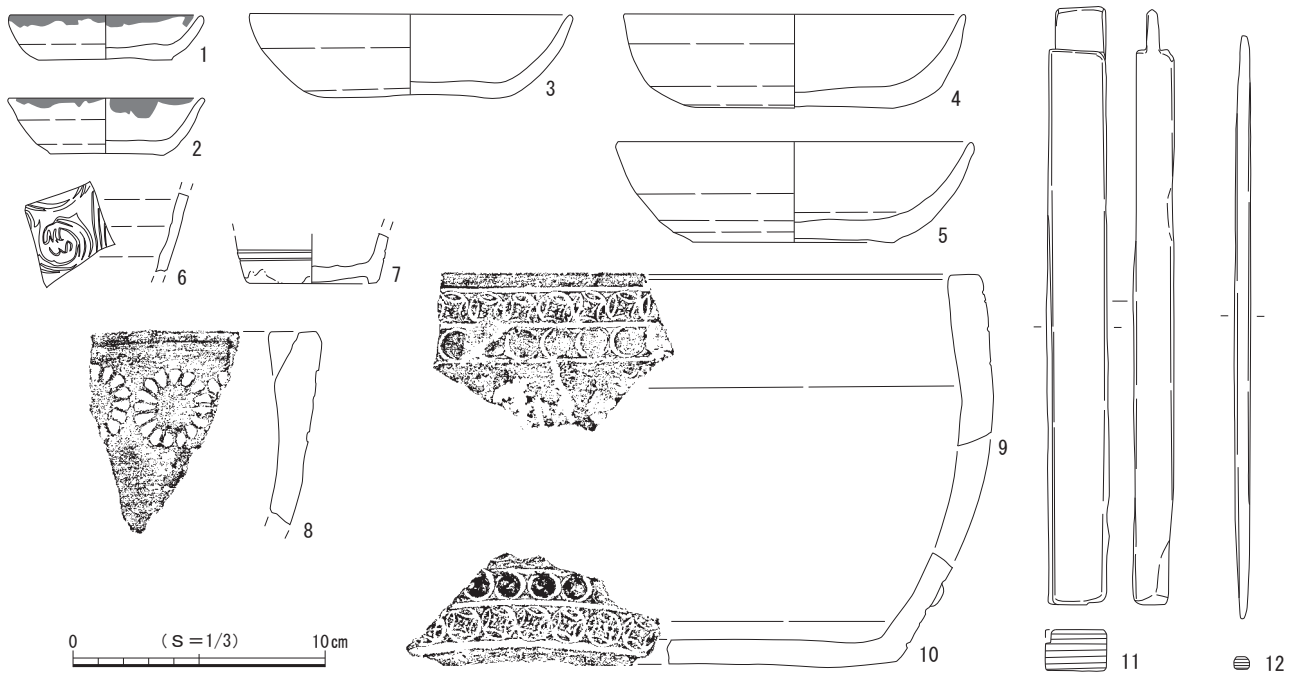


図36　第２面 土坑25出土遺物

土坑26（図37）

調査区中央の北側に位置する。北側で土坑25と重複して大部分が壊され、南壁がわずかに残存するのみで形状や断面形などは判然としない。規模は東西現存長64cm、南北現存長19cm、深さ５cmで、坑底面の標高は19.20mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑27（図37）

調査区中央の北側に位置する。北側で土坑25・26、西側でピット237～239、東側でピット241と重複して大部分が壊され、南壁がわずかに残存するのみで形状や断面形などは判然としない。遺存する壁は開いて立ち上がり、規模は東西80cm、南北現存長30cm、深さ16cmで、坑底面の標高は19.23mを測る。

遺物は土師質・瓦質土器の火鉢１点が出土した。

土坑28（図37）

調査区中央の北東側に位置する。西側でピット243・245、東側でピット349と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面

形は皿状を呈する。規模は長軸69㎝、短軸49㎝、深さ５㎝で、坑底面の標高は19.19ｍを測る。主軸方位はＮ－69°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑29（図37）

調査区中央の北東側に位置する。南側でピット249と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸79㎝、短軸52㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は19.18ｍを測る。主軸方位はＮ－58°－Ｅを指す。

遺物は瓦２点が出土した。

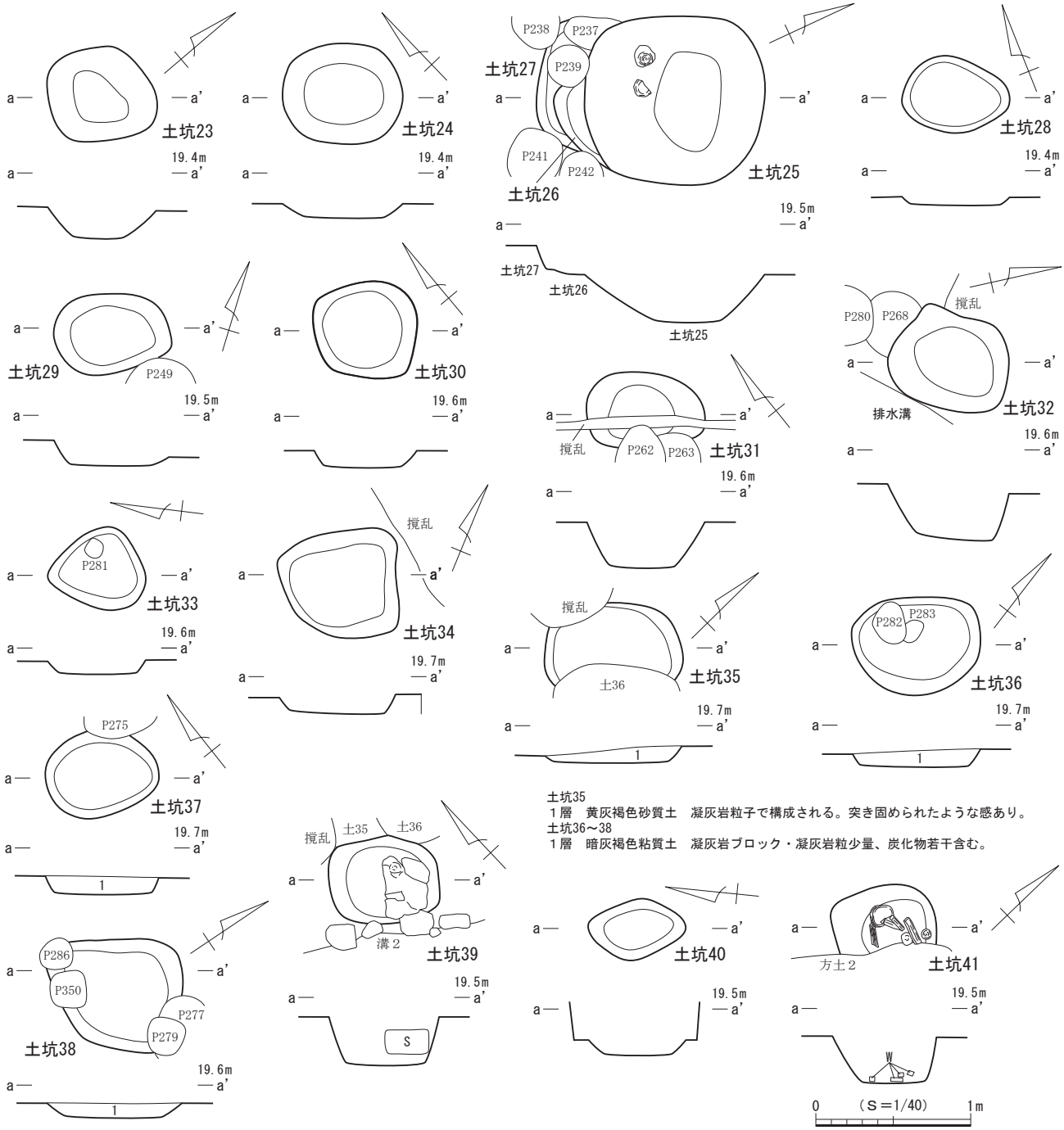


図37　第２面 土坑23～41

土坑30（図37）

調査区中央の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸66㎝、短軸61㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は19.28ｍを測る。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑31（図37）

調査区中央の東側に位置する。南側でピット262・263と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸76㎝、短軸現存長48㎝、深さ27㎝で、坑底面の標高は19.12ｍを測る。主軸方位はＮ－50°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ２点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

土坑32（図37）

調査区東壁際の中央付近に位置する。南側でピット268と重複して壁上面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長78㎝、短軸62㎝、深さ31㎝で、坑底面の標高は19.03ｍを測る。主軸方位はＮ－29°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ10点、陶器１点が出土した。

土坑33（図37）

調査区中央の西側に位置する。北側でピット281と重複して底面のごく一部が壊される。平面形は不整円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63㎝、短軸53㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は19.44ｍを測る。

出土遺物（図38）

遺物はかわらけ14点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

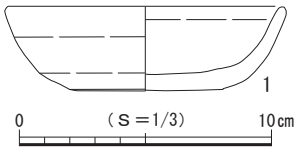


図38　第２面 土坑33出土遺物

土坑34（図37）

調査区中央に位置する。ピット269～272と重複して壁上面を壊している。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77㎝、短軸68㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は19.47ｍを測る。主軸方位はＮ－56°－Ｅを指す。

遺物は陶器３点が出土した。

土坑35（図37）

調査区中央の南側に位置する。東側で土坑36と重複して西側が撹乱によって壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸88㎝、短軸現存長40㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.47ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ３点が出土した。

土坑36（図37）

調査区中央の南側に位置する。西側で土坑35と重複して壊し、ピット282・283と重複して底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸82㎝、短軸63㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は19.43ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土した。

土坑37（図37）

調査区中央の東側に位置する。北側でピット275と重複して北東壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸73㎝、短軸55㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は19.43ｍを測る。主軸方位はＮ－52°－Ｗを指す。

出土遺物（図39）

遺物はかわらけ10点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

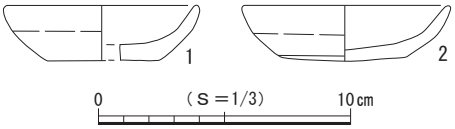


図39　第２面 土坑37出土遺物

土坑38（図37）

調査区東壁付近の中央に位置する。北東側でピット277・279、南側でピット286・350と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸87㎝、短軸71㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は19.39ｍを測る。主軸方位はＮ－34°－Ｅを指す。

出土遺物（図40）

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は常滑産の甕で６ｂ型式に比定される。

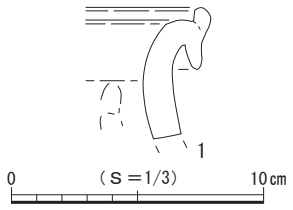


図40　第２面 土坑38出土遺物

土坑39（図37）

調査区中央の南側に位置する。北側で土坑35・36と重複して壁の上面が一部壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70㎝、短軸57㎝、深さ29㎝で、坑底面の標高は19.08ｍを測る。主軸方位はＮ－46°－Ｗを指す。底面より６㎝上方から長さ40㎝、幅25㎝、厚さ14㎝の礫が出土し、礎石の可能性が考えられる。

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土した。

土坑40（図37）

調査区の南西隅に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整隅丸長方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63㎝、短軸

39㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.21ｍを測る。主軸方位はＮ－６°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器２点が出土した。

土坑41（図37）

調査区の南側に位置する。東側で方形土坑２と重複して全体の半分近くが壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、南西壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は北東－南西方向の現存長66㎝、北西－南東方向の現存長38㎝、深さ25㎝で、坑底面の標高は19.03ｍを測る。主軸方位はＮ－32°－Ｅを指す。底面付近から長さ12～16㎝、幅５㎝前後、厚さ２㎝ほどの板材４枚と、長さ16㎝、幅12㎝の礫１点が出土しており、礎板や礎石の可能性も考えられる。

遺物はかわらけ20点、陶器１点が出土した。

（４）ピット（図41）

第２面では、127基を検出した。調査区の中央付近に密集するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、隅丸方形を基調とし、規模は長軸11～56㎝、深さ４～48㎝を測る。127基のうち12基のピット（ピット228・231～233・241・242・256・257・294・296・298・330）に礎板が据えられていた。このうち、ピット296は３枚の礎板が重な

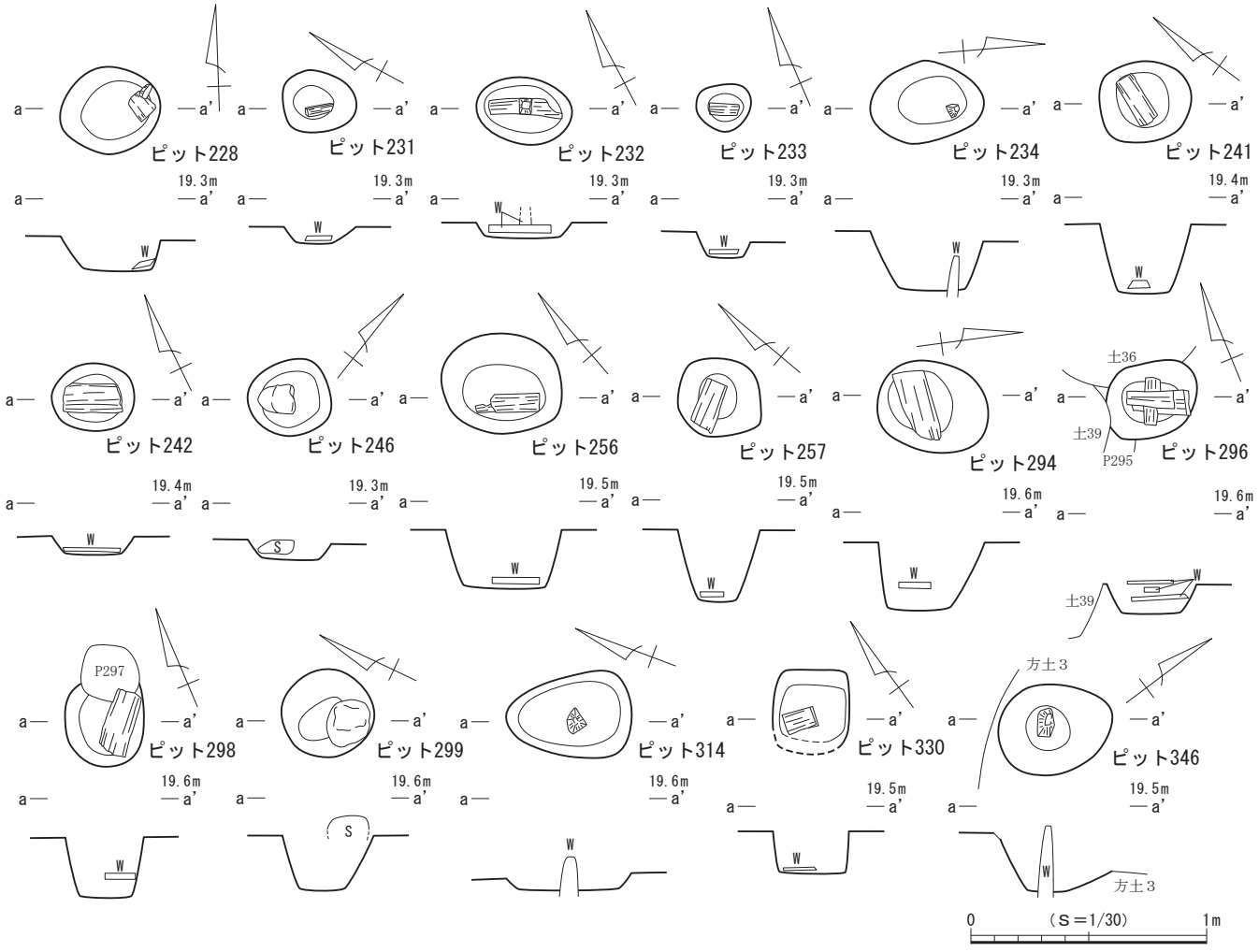


図41　第２面 ピット228・231～234・241・242・246・256・257・294・296・298・299・314・330・346

り合って出土し、ピット232は礎板の上面に方７㎝の柱が立った状態で遺存していた。礎板の大きさは長さ10～30㎝、幅５～13㎝、厚さ２～３㎝で、上面の標高は19.04～19.32ｍを測る。また、２基のピット（ピット246・299）には礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ20㎝前後で、上面の標高は19.22ｍと19.52ｍを測る。ピット234・314・346には方５～６㎝の柱が打ち込まれていた。なお、礎石や礎板、柱が検出されたピットについては個別図を作成し、図41に図示した。

出土遺物（図42）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち26点を図示した。

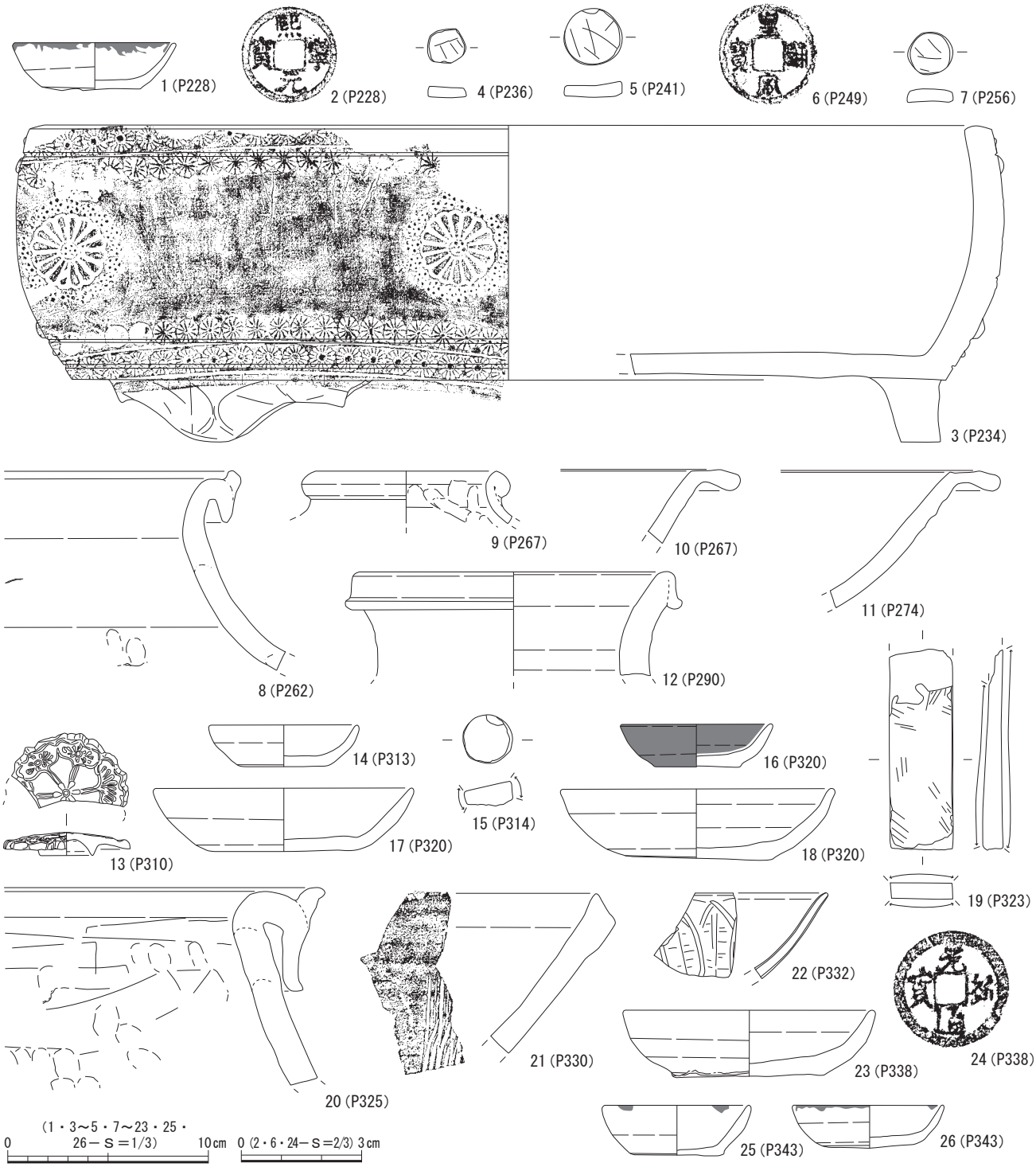


図42　第２面 ピット出土遺物

１・14・16～18・23・25・26はロクロ成形によるかわらけで、１・16・25・26の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。４・５・７・15はかわらけ転用品である。13は青白磁水瓶蓋である。22は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。９は中国産陶器と思われる短頸壺である。10・11は瀬戸産の折縁深皿で古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期に比定される。12は常滑産の玉縁口縁壺で６ｂ型式に比定される。８・20は常滑産の甕で６ｂ～８型式に比定される。21は備前の擂鉢である。３は土師質・瓦質土器の火鉢でⅣＡ類に比定される。19は砥石である。２・６・24は銭貨である。２は熙寧元寶（1068年初鋳）、６は皇宋通寶（1038年初鋳）、24は元符通寶（1098年初鋳）である。

１・２はピット228、３はピット234、４はピット236、５はピット241、６はピット249、７はピット256、８はピット262は、９・10はピット267、11はピット274、12はピット290、13はピット310、14はピット313、15はピット314、16～18はピット320、19はピット323、20はピット325、21はピット330、22はピット332、23・24はピット338、25・26はピット343からそれぞれ出土した。

（５）第２面 遺構外出土遺物（図43～46）

第２面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち174点を図示した。

１・２は白かわらけである。３～126はロクロ成形によるかわらけで、５・７～９・11・15・19・23・26・27・29・31・32・34・35・38～40・42～45・47・50・52・53・56・58・59・61・62・68・94・113・117・122の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が、73は漆塗りのパレットとしての使用が認められる。125の外面には判読不明の墨書がなされている。127～136はかわらけを転用した円盤状の製品である。137～139は龍泉窯系青磁碗である。137は碗Ⅱ－ｂ類、138は碗Ⅳ類、139は碗Ⅳイ類に比定される。140～145は瀬戸産の陶器類である。140は天目茶碗で古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ期、141は平底末広碗で古瀬戸中期様式、142～144は入子で古瀬戸中期～後期様式、145は折縁深皿で古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期に比定される。146は北部系山茶碗である。147～154は常滑産の陶器類である。147は広口壺小で９型式、148～151は甕で７～９型式、152～154は片口鉢Ⅱ類で８～９型式に比定される。155・156は備前産の擂鉢である。157～159は常滑産の片口鉢・甕破片を転用した摩耗陶片である。160・161は土師質・瓦質土器類である。160は火鉢でⅢ類に比定される。161は南伊勢系土鍋である。162～166は砥石である。167～174は金属製品である。167・168は黒漆の鞘に収められた刀子（小刀）である。169～174は銭貨で、169・170は開元通寶（621年初鋳）、171は熙寧元寶（1068年初鋳）、172・173は元祐通寶（1086年初鋳）、174は淳熙元寶（1174年初鋳）である。

（６）第２面 構成土出土遺物（図47・48）

第２面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち36点を図示した。

１は白かわらけである。２～５はロクロ成形によるかわらけである。６・７はかわらけを転用した円盤状の製品である。８・９は龍泉窯系青磁である。８は碗で碗Ⅱ－ｂ類、９は坏で坏Ⅲ類に比定される。10～12は瀬戸産の陶器類である。10は合子蓋で古瀬戸中期～後期様式、11は水注Ⅰ類で古瀬戸前期様式Ⅲ～Ⅳ期、12は折縁深皿で古瀬戸後期様式に比定される。13～18は常滑産の陶器類である。13～17は甕で７～10型式、18は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。19・20は土師質・瓦質土器の火鉢で、20はⅣＡ類に比定される。21は銭貨で天聖元寶（1023年初鋳）である。22は骨角製品で笄である。23～36は木製品で、その中で23～26は漆製品となる。23は櫛、24・25は皿、26は椀、27・28は箸状、29は連歯下駄、30は草履芯、31は自在鉤、32・33は篦、34は形代、35は用途不明、36は建築部材である。

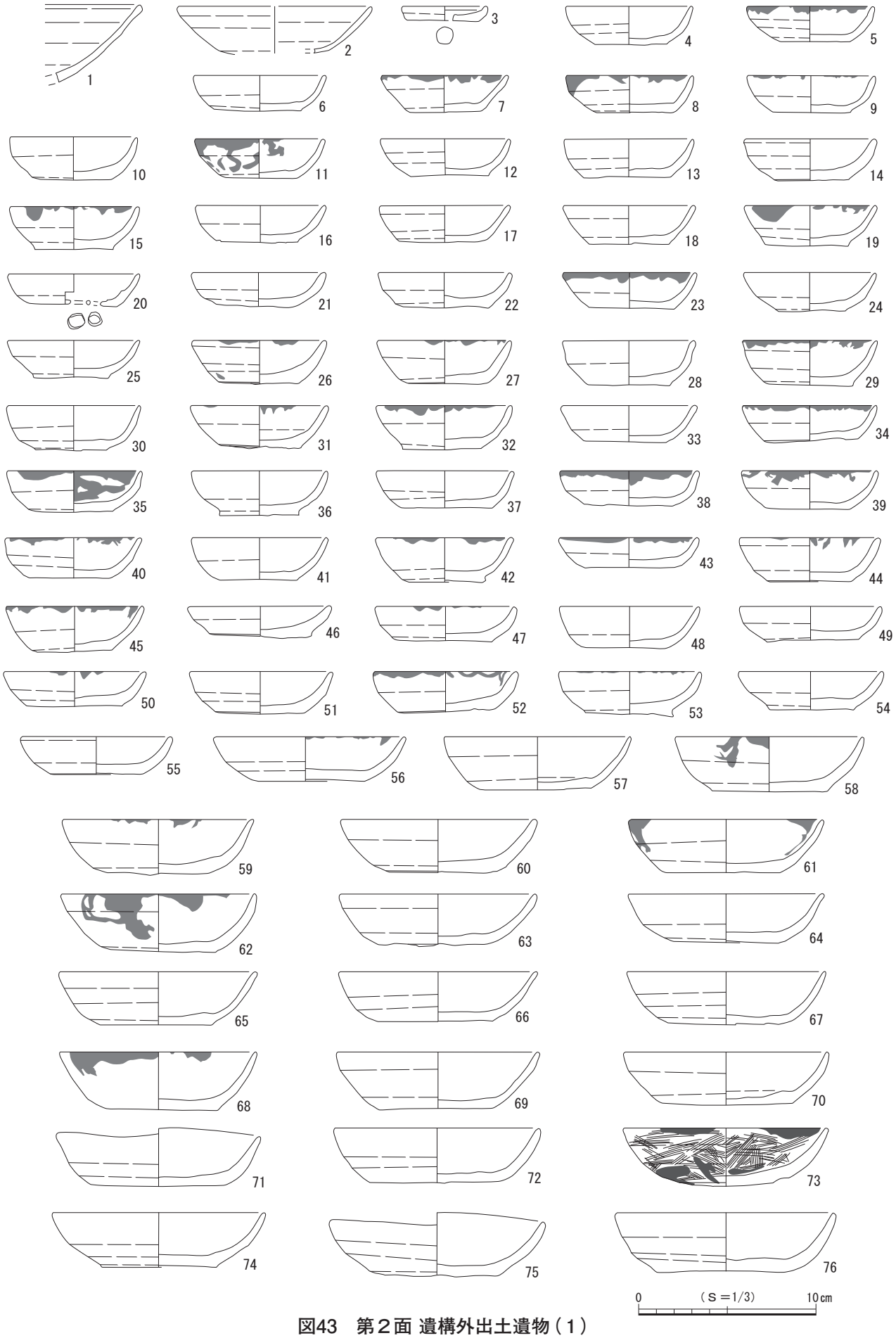


図43　第２面 遺構外出土遺物（１）

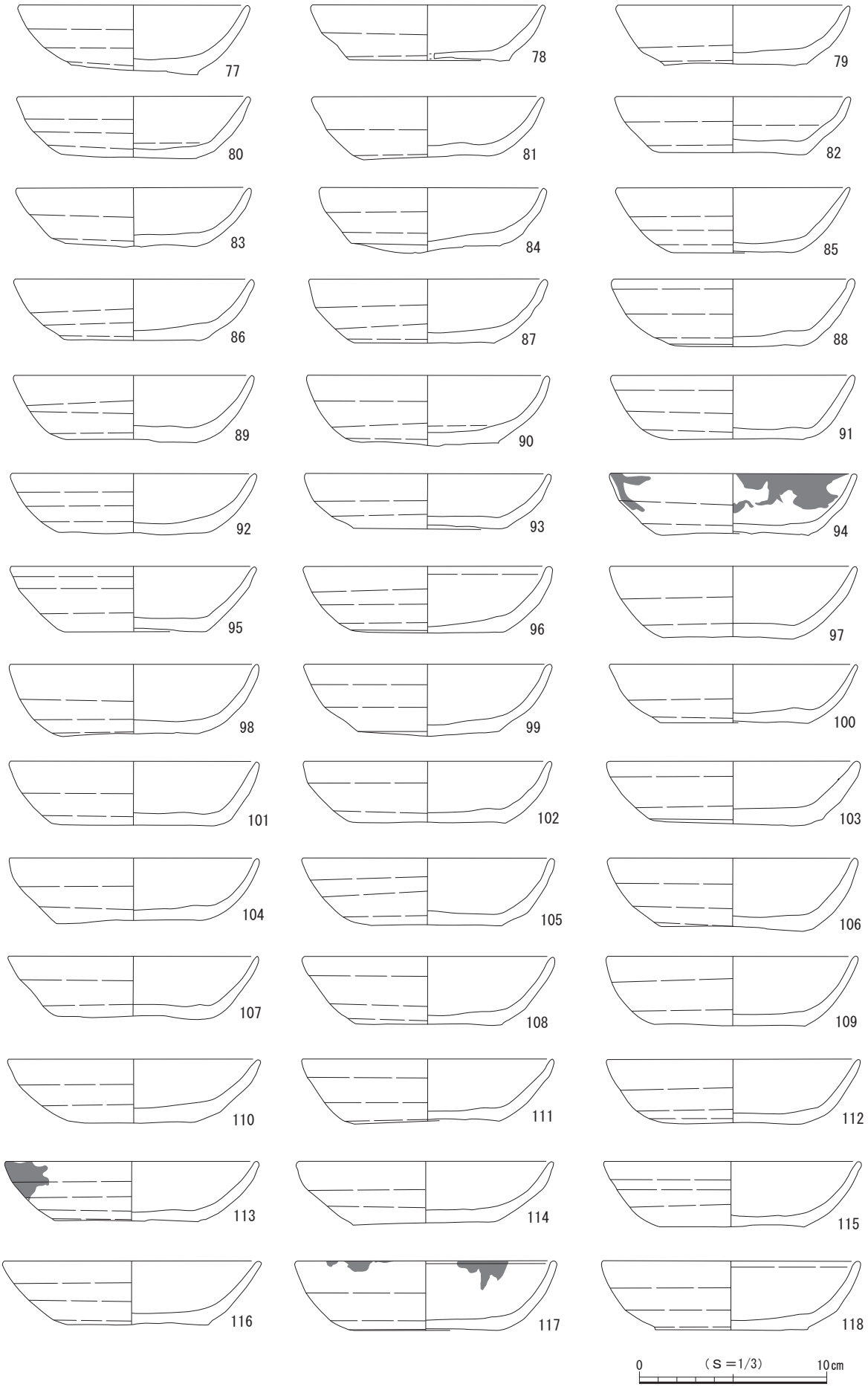


図44　第２面 遺構外出土遺物（２）

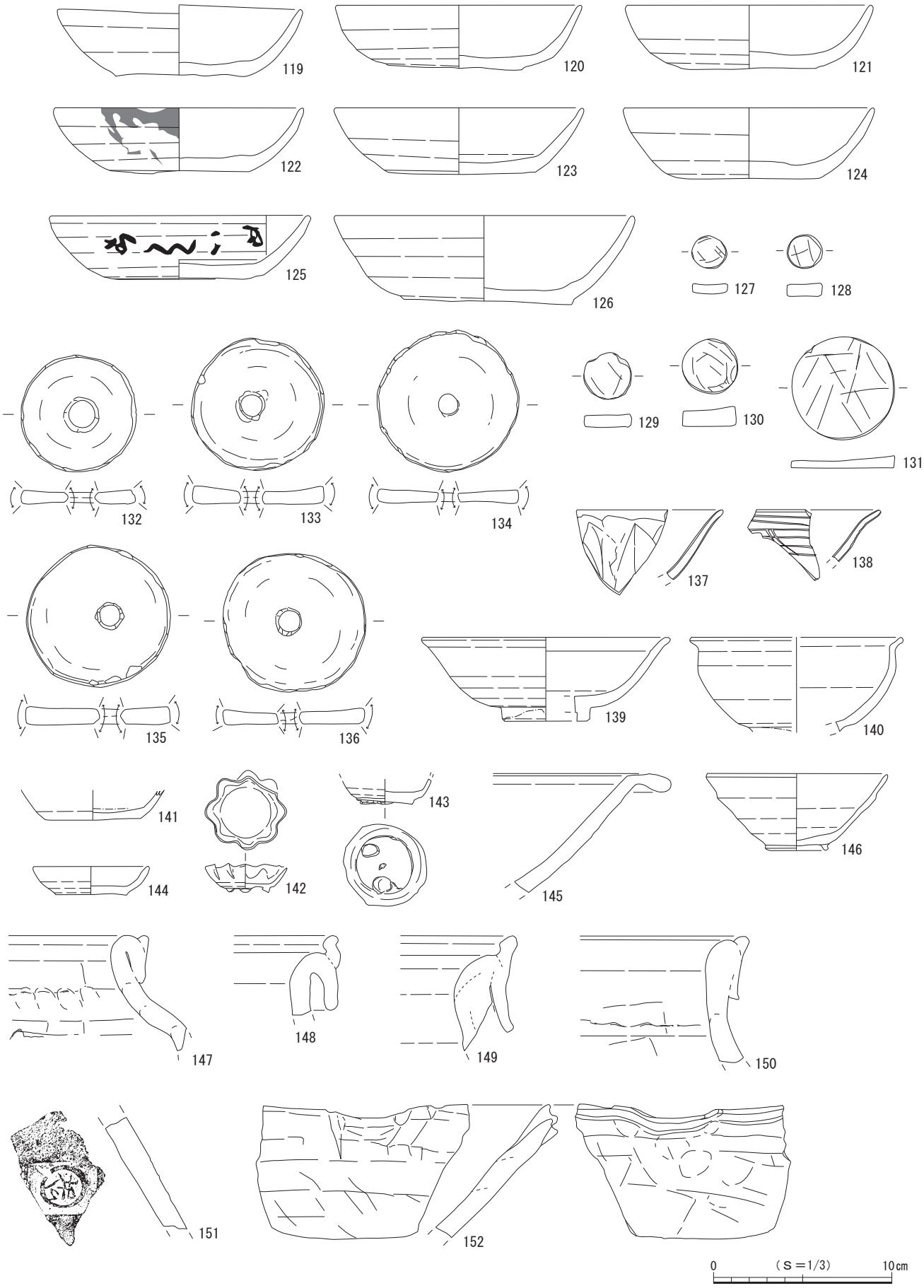


図45　第２面 遺構外出土遺物（３）

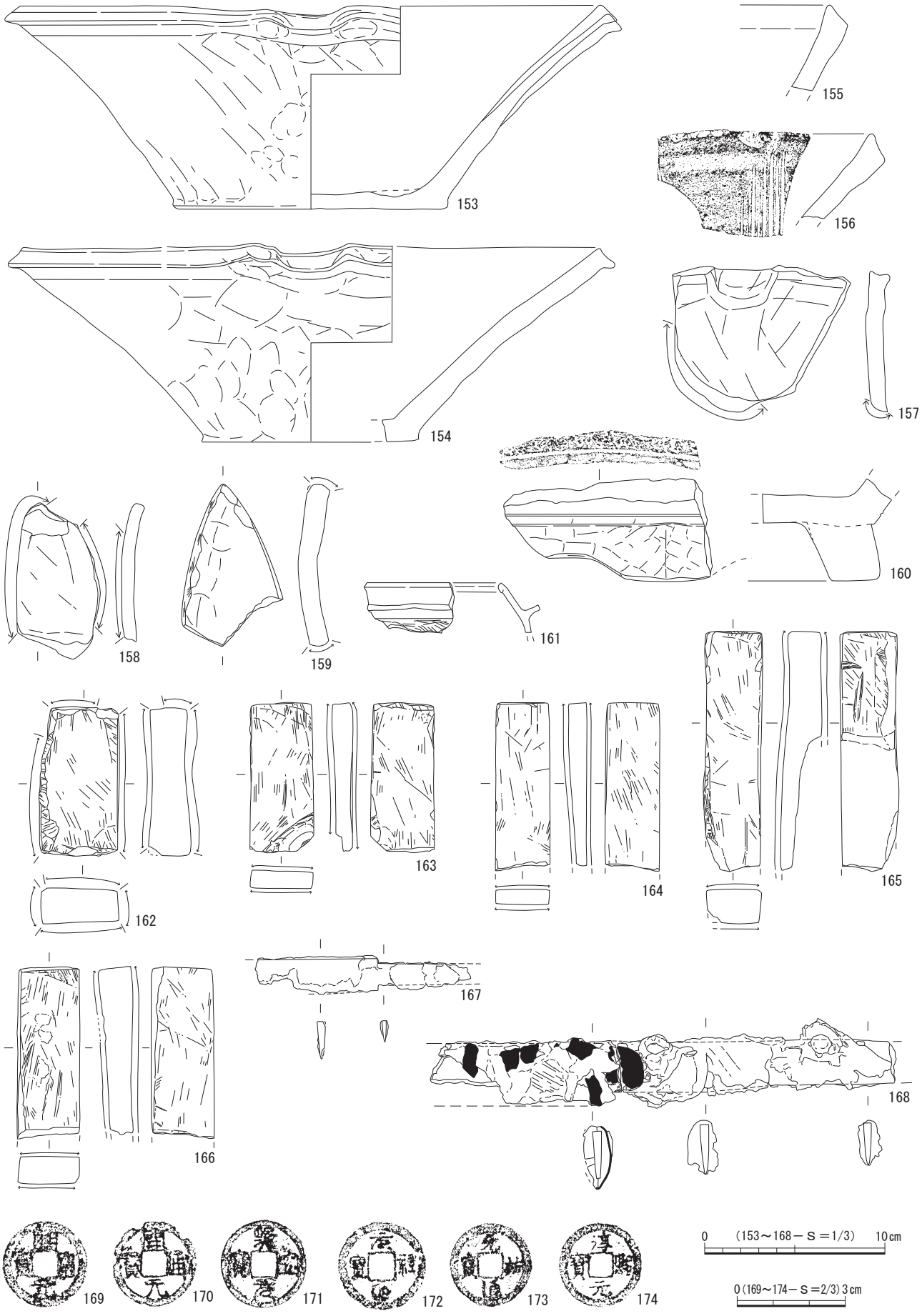


図46　第２面 遺構外出土遺物（４）

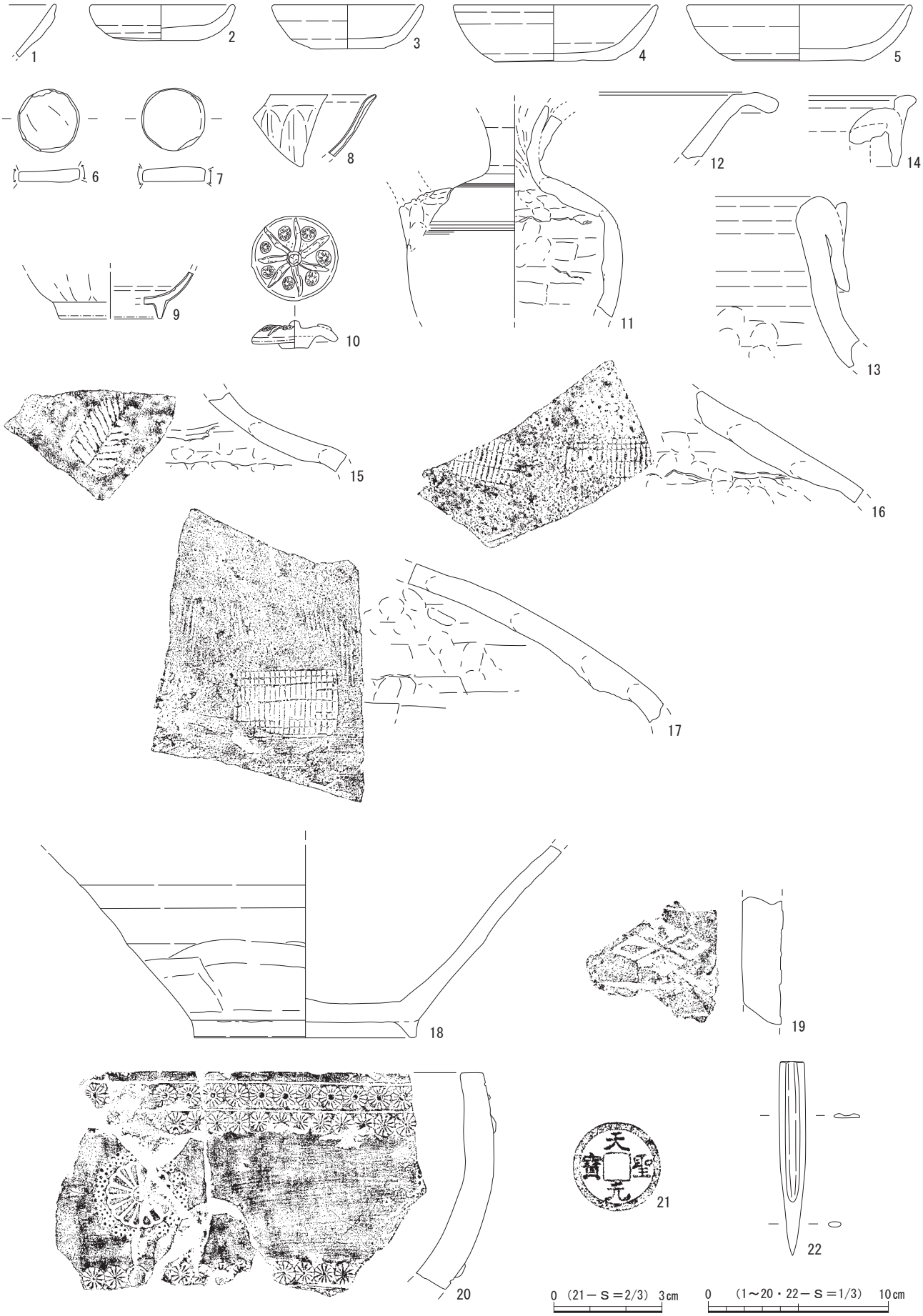


図47　第２面 構成土出土遺物（１）

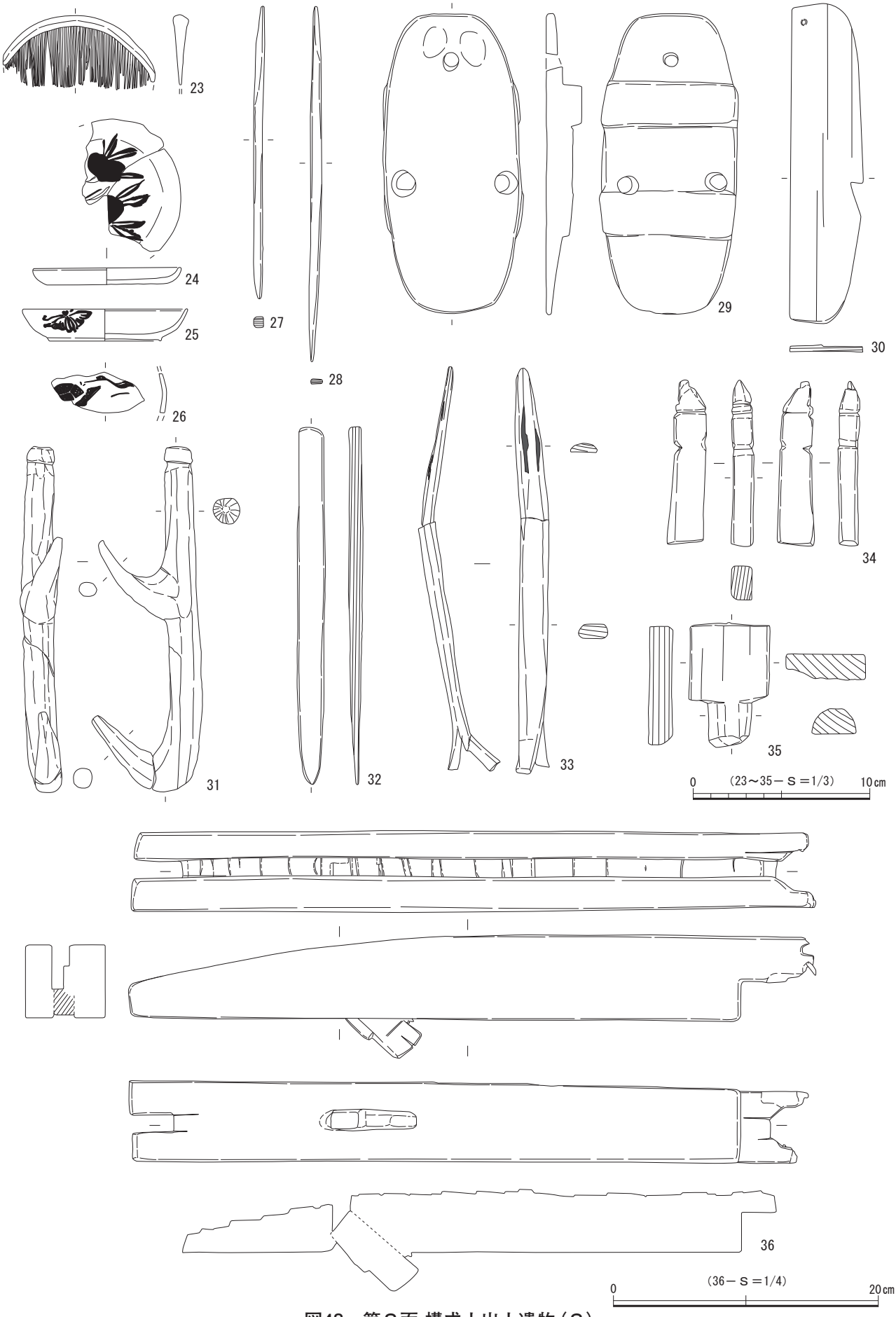


図48　第２面 構成土出土遺物（２）

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の16層上面で検出され、確認面の標高は19.1～19.3mを測る。16層は明褐色砂質土を主体とする整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎石・礎板建物１棟、方形竪穴状遺構１基、溝状遺構２条、土坑６基、ピット36基である（図50）。調査区全体の遺構密度はさほど高くはないが、調査区の北側と南側に平行する東西方向に延びる溝が検出され、その内側に遺構が集中する様相が捉えられた。礎石・礎板建物は２本の東西溝に挟まれた区画内に位置し、主軸は溝と平行していることから、両者は関連をもつ構造物であったと推定される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀前葉～後葉頃に属すると考えられる。

（１）礎石・礎板建物

礎石・礎板建物１（図49）

調査区中央から南側にかけて位置する。調査区外の東西側に展開していると推定され、全容を把握することはできなかった。調査区内では10本のピットと礎板のみ１基（Ｐ６）を検出し、このうち礎板をもつピットは３基（Ｐ５・Ｐ10・Ｐ11）、礎石をもつピットは２基（Ｐ３・Ｐ８）である。

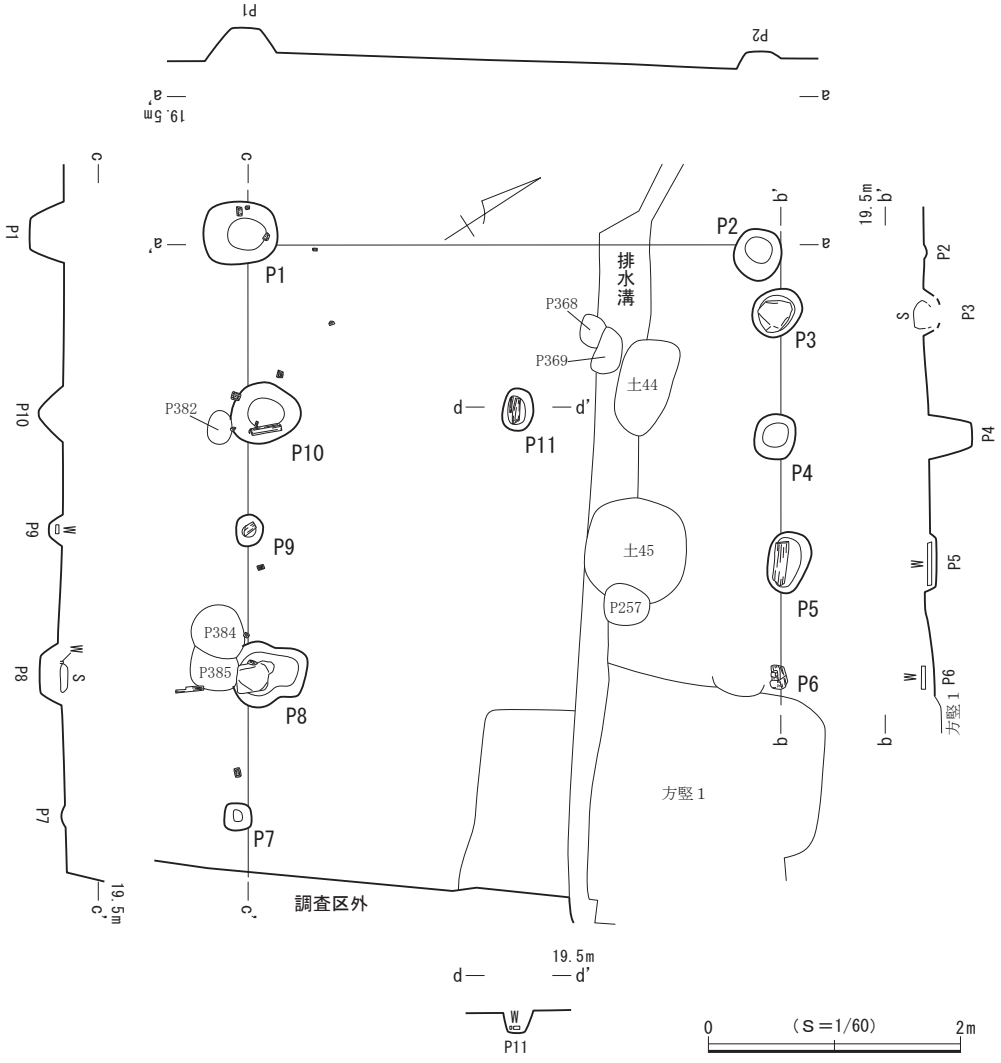
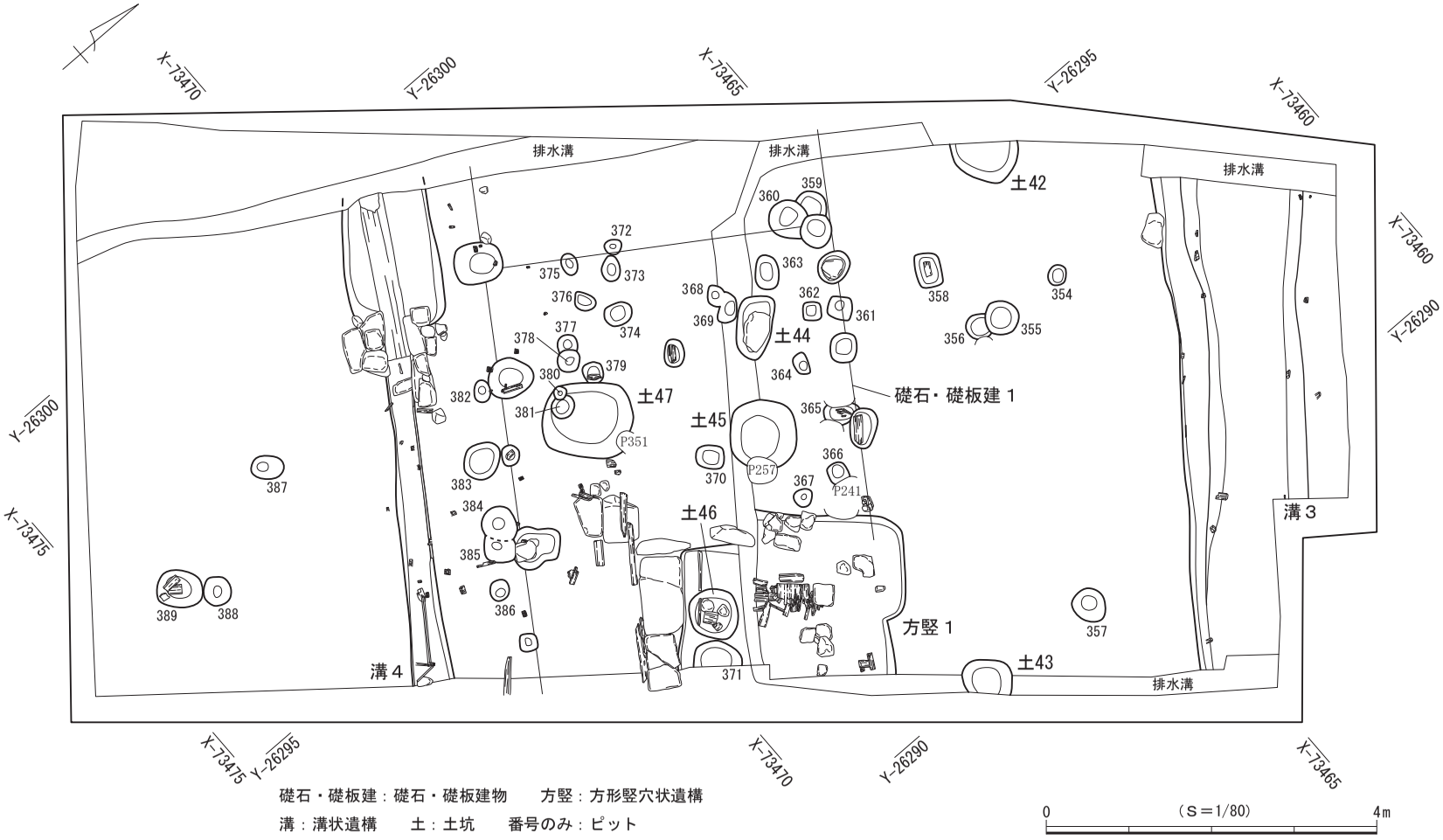


図49　第３面 礎石・礎板建物１



礎石・礎板建：礎石・礎板建物　　方竪：方形竪穴状遺構
溝：溝状遺構　　土：土坑　　番号のみ：ピット

図50　第３面 遺構分布図

本址は北西－南東方向が４ないし５間以上で、北東－南西方向が２間の規模をもつ建物と推定され、現状では北西－南東方向の現存長4.7m以上、北東－南西方向の現存長4.2mを測る。柱間寸法は心々間で南西面の北西－南東列が北西から順に1.5m、0.9m、1.2m、1.1mで、北東面の北西－南東列が0.6m、0.9m、1.0m、0.9m、北東－南西列が4.2mを測る。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－57°－Ｗである。

ピットの平面形は円形、楕円形、隅丸方形がみられ、規模は長軸20～58㎝、深さ９～34㎝と幅がある。礎板の大きさは長さ20～35㎝、幅５～15㎝、厚さ２～３㎝、礎石は長さ25㎝、幅20㎝、高さ５㎝と、長さ30㎝、幅24㎝であり、標高は礎板と礎石上面で19.18～19.25m、ピット底面で18.82～19.21mを測る。ピット10の礎板は底面に対して水平ではなく傾いて出土しているため、原位置を保っていないと考えられる。

遺物はかわらけ７点が出土した。

（２）方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構１（図51）

調査区東壁際の中央に位置する。南側で土坑46、ピット371と重複して底面のごく一部が壊され、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。北側の壁が一部外側に張り出す形状を呈し、底面は中央部がわずかに窪んでいる。壁はわずかに開いて立ち上がり、規模は南北2.50～2.70m、東西方向の現存長2.0m、深さ20㎝である。底面の標高は19.02mを測り、主軸方位はＮ－35°－Ｅを指す。南側壁面に沿って、長さ40～95㎝、厚さ15㎝前後の切石が南面をそろえて列状に配置され、中央付近には長さ15～35㎝の板材が10枚以上折り重なって出土した。

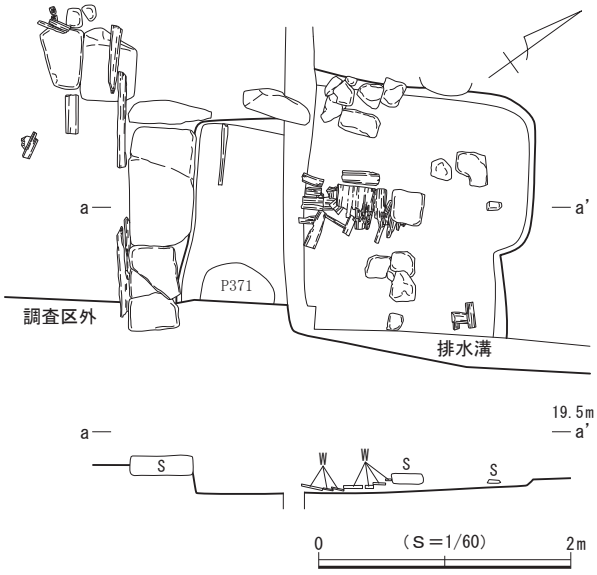


図51　第３面 方形竪穴状遺構１

出土遺物（図52）

遺物はかわらけ50点、磁器２点、陶器９点、瓦１点、石製品１点、木製品３点が出土し、このうち10点を図示した。

１～７はロクロ成形によるかわらけで、３の口縁部から内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。８は常滑産の片口鉢Ⅱ類で８～９型式に比定される。９・10は木製品で、その中で９は漆製品となる。９は雲型、10は用途不明である。

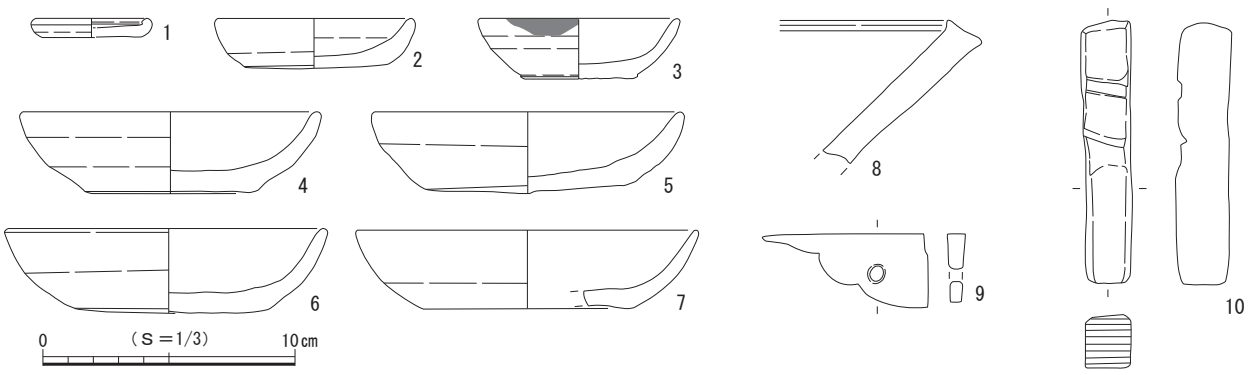


図52　第３面 方形竪穴状遺構１出土遺物

（３）溝状遺構

溝状遺構３（図53）

調査区の北壁際に位置し、北西－南東方向に縦走して調査区外へと直線的に延びている。調査区内では他の遺構との重複は認められない。検出した規模は現存長約6.0m、幅1.50～2.20m、深さ40～44㎝を測り、主軸方位はＮ－54°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、底面の壁際と肩部に沿って杭が所々に打ち込まれており、使用時には杭による護岸を伴っていた可能性がある。断面形は逆台形を呈するが、南壁の中位に段が認められる。南壁西端部の縁に長さ40㎝の礫が出土していることを考慮するならば、この中位の段は護岸施設の掘り方の可能性も考えられる。底面はほぼ平らで、底面の標高は東側で18.68m、西側で18.62mを測り、西側に向かってわずかに傾斜している。

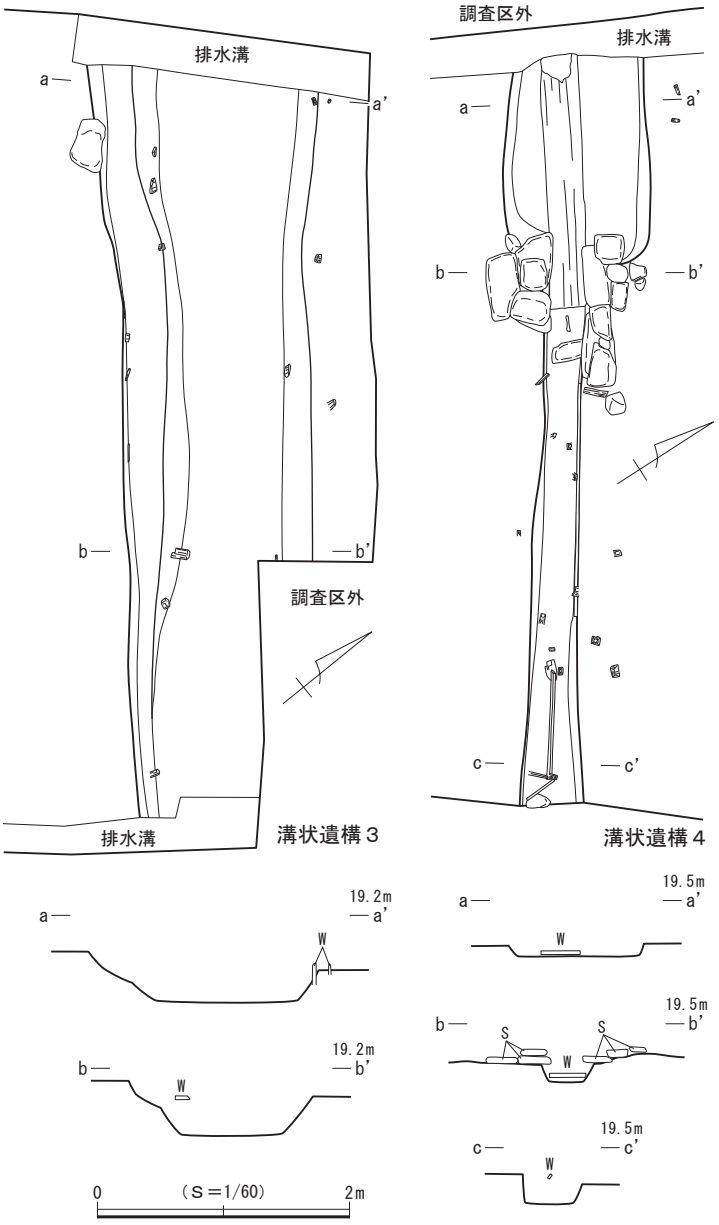


図53　第３面 溝状遺構３・４

出土遺物（図54～57）

遺物はかわらけ514点、磁器11点、陶器109点、土師質・瓦質土器６点、瓦７点、石製品14点、金属製品48点、骨角製品２点、木製品96点が出土し、このうち123点を図示した。

１～23はロクロ成形によるかわらけで、１・23の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。24は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。25は白磁小壺である。26は象眼が施されている高麗青磁の梅瓶で、この他にも図化出来なかった破片を写真資料として掲載した（図版24）。27は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。28は瀬戸産の入子で古瀬戸中期様式に比定される。29～34は常滑産の陶器類である。29は広口壺大で６ｂ～７型式、30～32は甕で６ｂ～７型式に比定される。33・34は片口鉢Ⅰ類で５～７型式に比定される。35は常滑産の甕破片を転用した摩耗陶片である。36は吉備系土師質土器である。37は平瓦である。38・39は石製品で、38は温石、39は砥石である。

40～73は金属製品である。40は刀子（小刀）、41～44は角釘、45は用途不明である。46～73は銭貨である。46～65の20枚については差し状で出土し、重ねられた順に図示している。46は天禧通寶（1071年初鋳）、47は周元通寶（655年初鋳）、48は嘉祐通寶（1056年初鋳）、49・50・53・56・60は皇宋通寶（1038年初鋳）、51は天聖元寶（1023年初鋳）、52は至道元寶（995年初鋳）、54は元豊通寶（1078年初鋳）、55は熙寧元寶（1068年初鋳）、57は祥符元寶（1008年初鋳）、58は至和通寶（1054年初鋳）、59は淳祐元

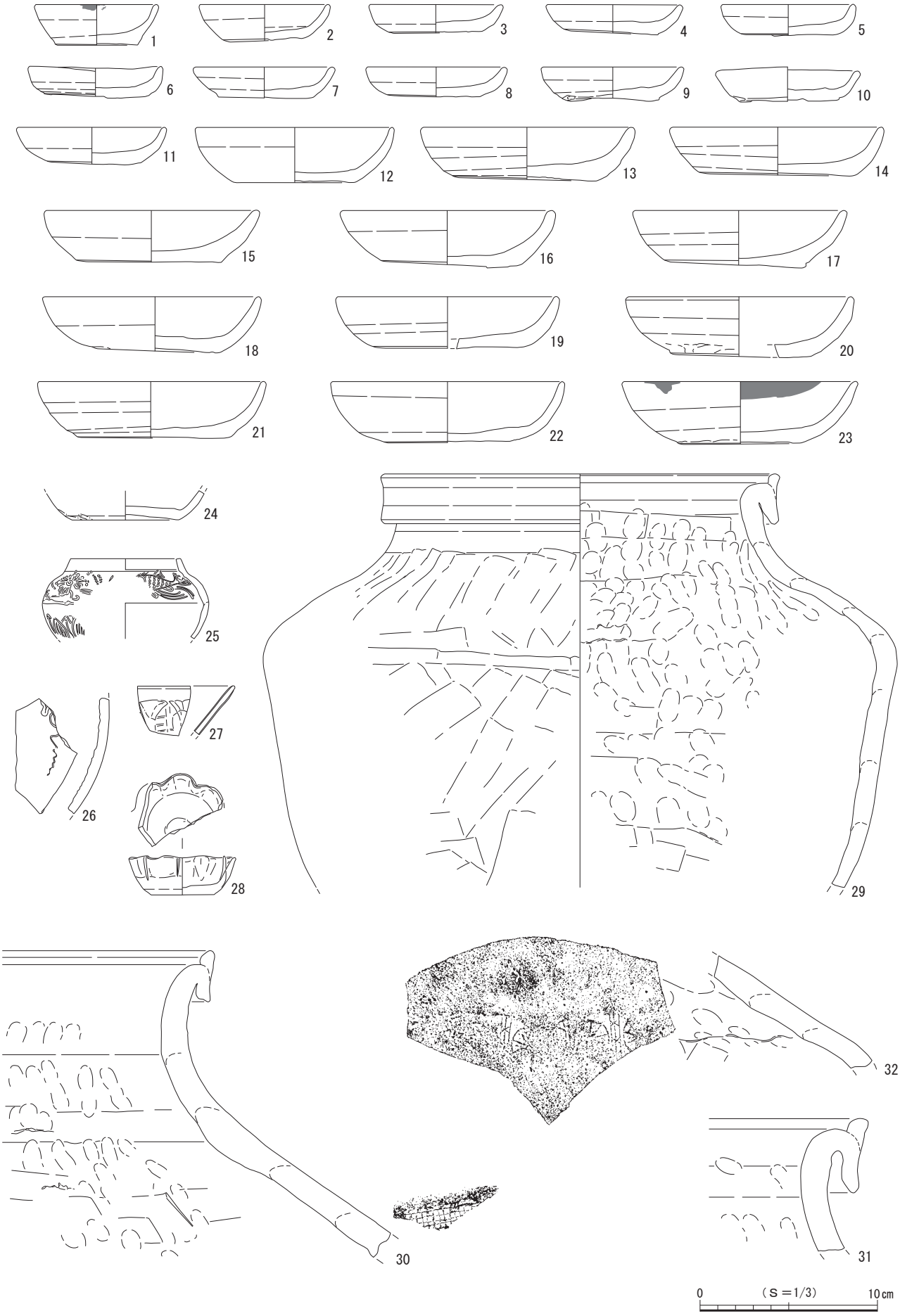


図54　第３面 溝状遺構３出土遺物（１）

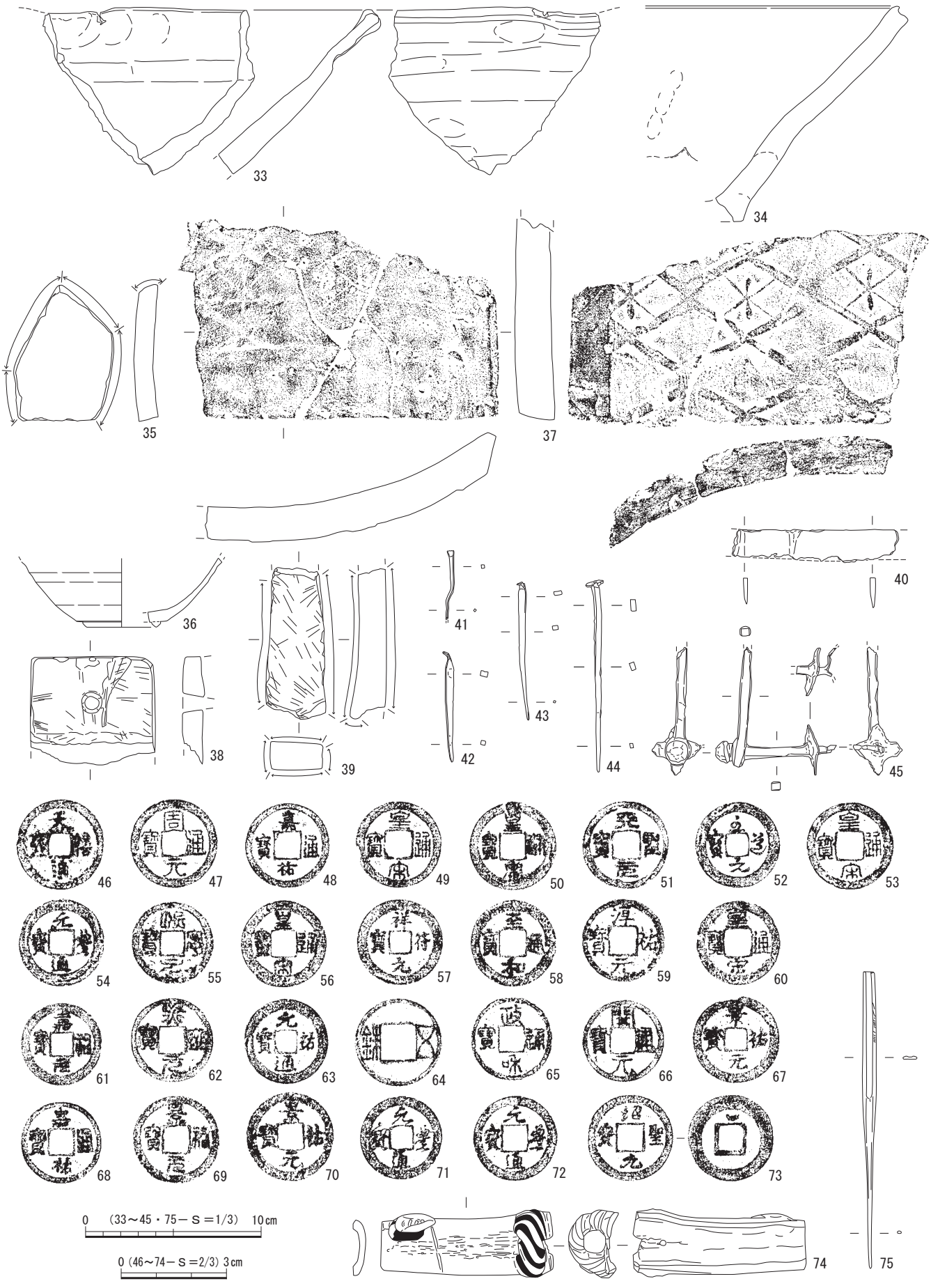


図55　第３面 溝状遺構３出土遺物（２）

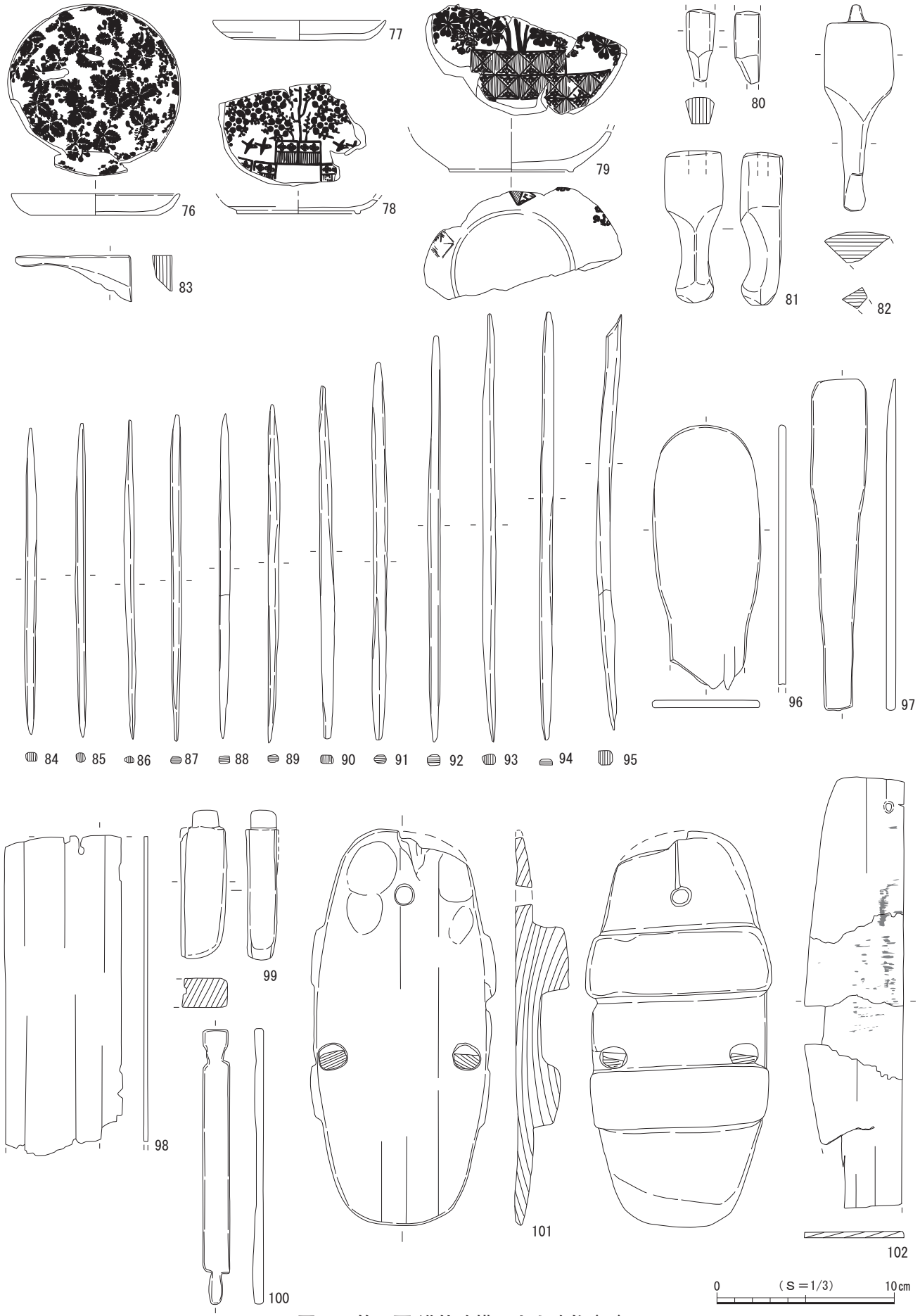


図56　第３面 溝状遺構３出土遺物（３）

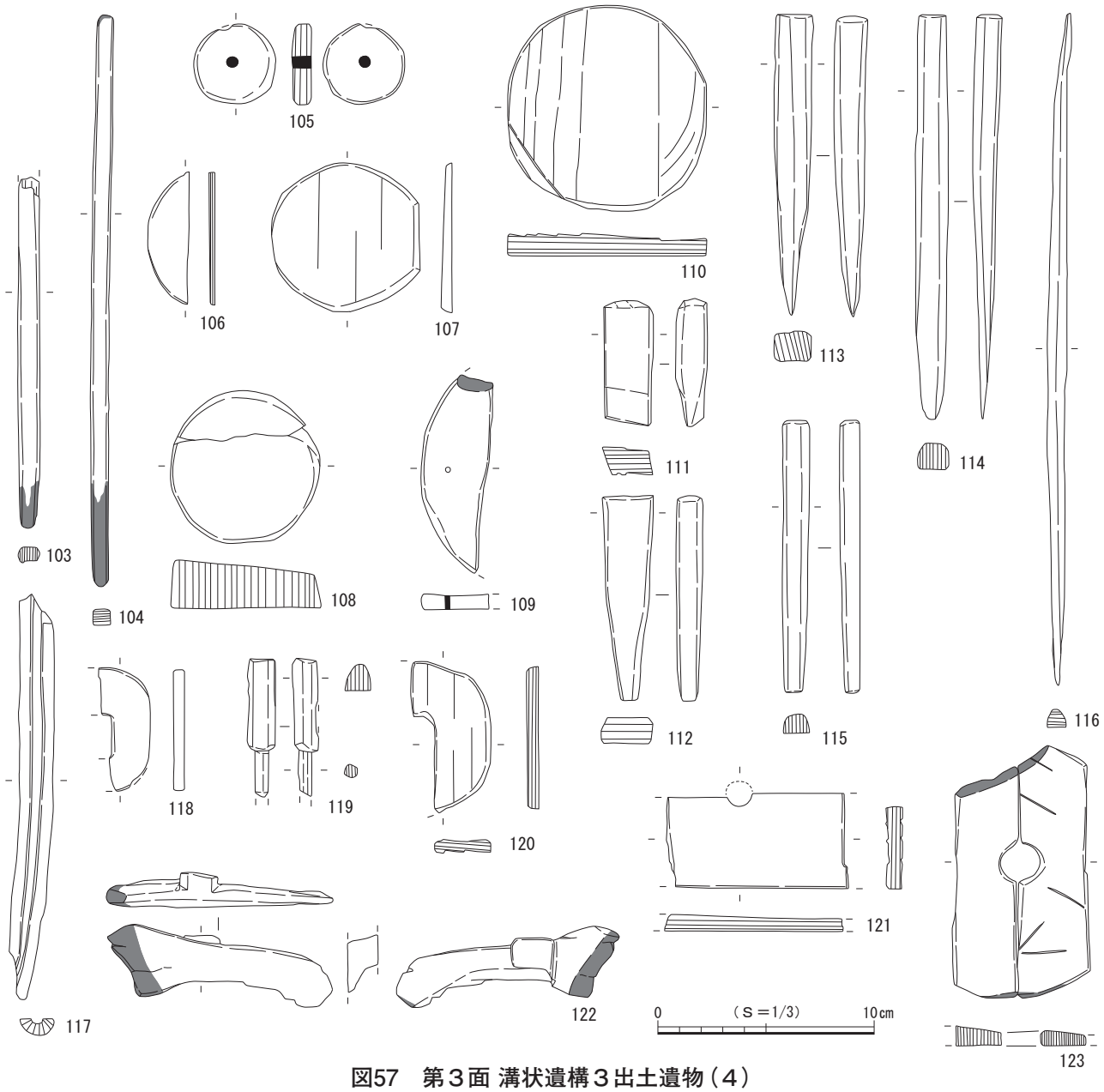


図57　第３面 溝状遺構３出土遺物（４）

寶（1241年初鋳）、61は嘉祐元寶（1056年初鋳）、62は熙寧元寶（1068年初鋳）、63は元祐通寶（1086年初鋳）、64は五銖銭（24年初鋳）、65は政和通寶（1111年初鋳）である。66～73は覆土から一枚単位で出土した銭貨で、66は開元通寶（621年初鋳）、67は景祐元寶（1034年初鋳）、68は嘉祐通寶（1056年初鋳）、69・70は嘉祐元寶（1056年初鋳）、71・72は元豊通寶（1078年初鋳）、73は紹聖元寶（1094年初鋳）である。74・75は骨角製品で、74は栗形、75は笄である。

76～123は木製品で、その中で76～83は漆製品となる。76・77は皿、78・79は椀、80～82・99は膳、83は雲型、84～94は箸状、95は串状、96・97は板杓子、98は経木折敷、100は調度具、101は連歯下駄、102は草履芯、103・104は火きり棒、105～110は円盤状、111～113は楔、114は篦状、115・116は串状、117は棒状、118～123は用途不明である。

溝状遺構４（図53）

調査区の南側に位置し、北西－南東方向に縦走して東側は調査区外へと直線的に延びており、西側は

第１面で検出された南北方向に延びる溝状遺構１と重複して壊されている。検出した規模は現存長約6.0m、幅0.3～1.2m、深さ10～20cmを測り、西端部の長さ1.6mの部分が幅広に掘り込まれ、底面に現存長2.0m、幅30cm、厚さ５cmの板材が溝の延伸方向に沿って敷設されている。主軸方位はＮ－56°－Ｗを指す。底面や肩部に沿って杭が所々に残存し、溝の西側部分の両壁際には0.8～1.5mの範囲で切石による護岸が認められることから、切石と杭による護岸を伴っていた可能性がある。切石の大きさは長さ20～50cm、幅15～30cmを測る。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、底面の標高は東西側とも19.07mを測る。

出土遺物（図58）

遺物はかわらけ158点、磁器２点、陶器16点、瓦２点、石製品４点、金属製品３点、木製品５点が出土し、このうち19点を図示した。

１～８はロクロ成形によるかわらけで、３の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。６の見込には「神」の墨書がなされている。９はかわらけを転用した円盤状の製品である。10は龍泉窯系青磁盤である。11は常滑産の片口鉢Ⅱ類で７～８型式に比定される。12は砥石である。13～15は金属製品である。13は装飾金具、14は火箸、15は銭貨で皇宋通寶（1038年初鋳）である。16～19は木製品で、16・17は箸状、18は連歯下駄、19は串状である。

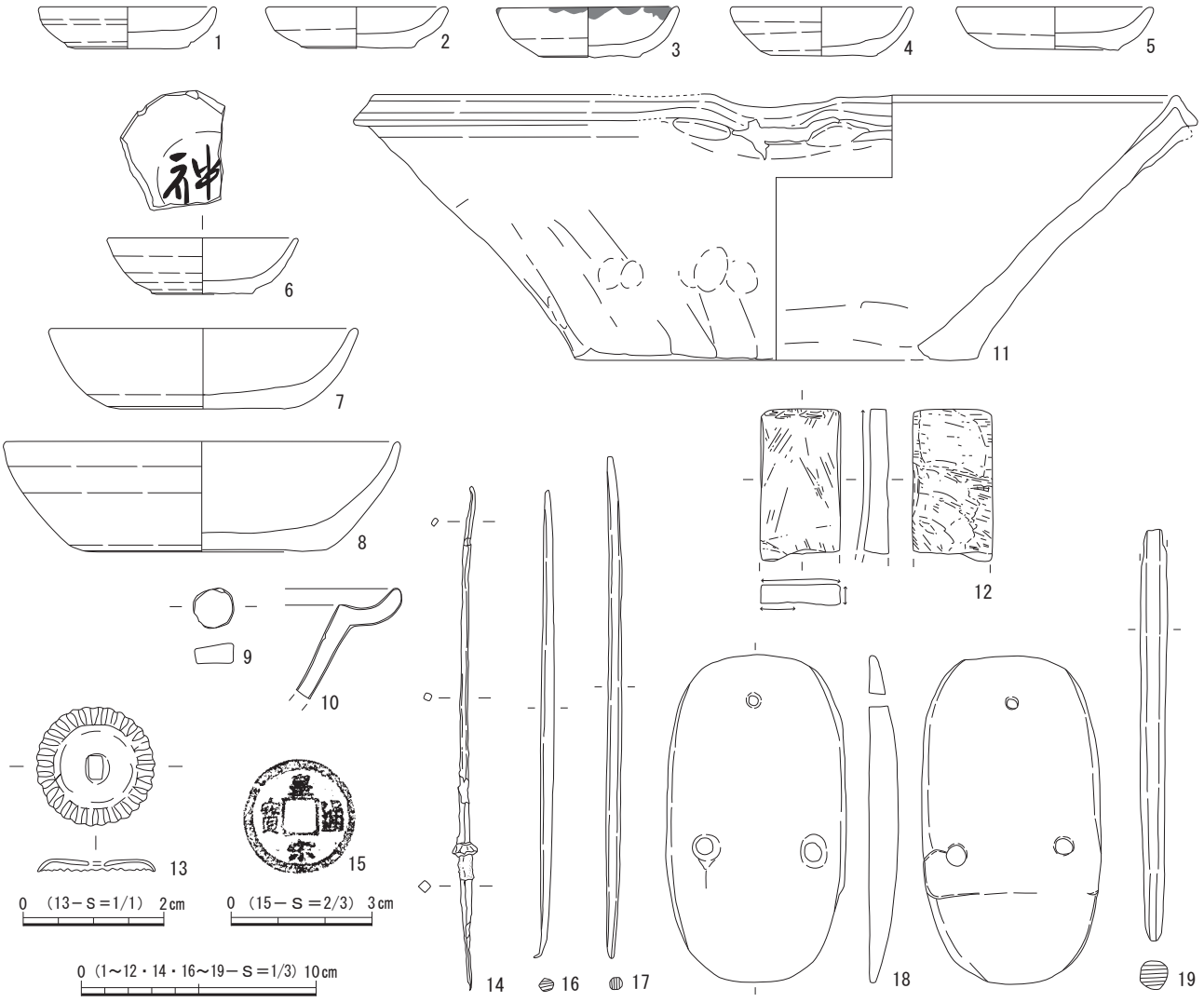


図58　第３面 溝状遺構４出土遺物

（4）土　坑

土坑42（図59）

調査区西壁際の北側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北東－南西81cm、北西－南東方向の現存長50cm、深さ19cmで、坑底面の標高は18.80mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑43（図59）

調査区東壁際の北側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北東－南西60cm、北西－南東方向の現存長40cm、深さ51cmで、坑底面の標高は18.66mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑44（図59）

調査区中央の北西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸78cm、短軸42cm、深さ15cmで、坑底面の標高は19.10mを測る。主軸方位はN－45°－Wを指す。底面付近から長さ50cm、幅30cmの上面が扁平な礫が出土し、礎石の可能性が推定される。礫上面の標高は19.28mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑45（図59）

調査区中央に位置する。東側でピット257と重複し壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸84cm、短軸80cm、深さ21cmで、坑底面の標高は19.06mを測る。

遺物は出土しなかった。

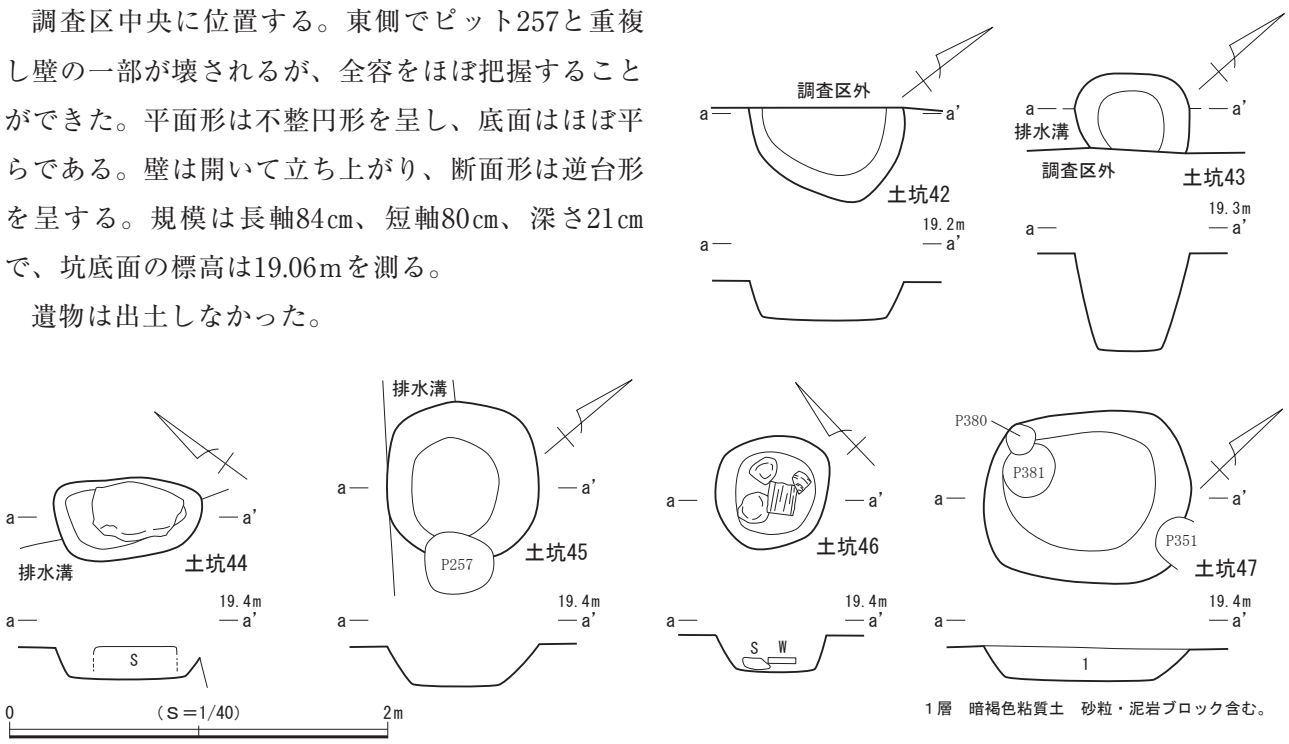


図59　第3面 土坑42～47

土坑46（図59）

調査区東壁際の中央に位置する。方形竪穴状遺構１と重複し、床面の一部を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65㎝、短軸54㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は19.13ｍを測る。底面近くから長さ17㎝、幅14㎝の板材１点と小礫３点が出土し、礫によって固定された礎板の可能性が考えられる。

遺物はかわらけ３点、陶器３点、瓦３点が出土した。

土坑47（図59）

調査区中央の南側に位置する。東側でピット351、西側でピット380・381と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.09ｍ、短軸90㎝、深さ21㎝で、坑底面の標高は19.08ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指す。

出土遺物（図60）

遺物はかわらけ８点、土師質・瓦質土器１点、瓦１点が出土し、このうち１点を図示した。

１はかわらけを転用した円盤状の製品である。

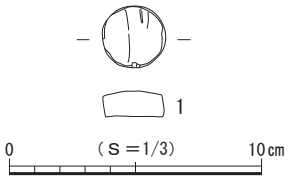


図60　第３面 土坑47出土遺物

（５）ピット

第３面では、36基を検出した。調査区全域に疎らに分布し、礎石・礎板建物１の位置と重なる範囲にやや密集するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、隅丸方形を基調とし、規模は長軸16～57㎝、深さ５～37㎝を測る。36基のうち３基のピット（ピット365・379・389）に礎板が据えられており、ピット389は２枚の礎板が重なり合って出土した。礎板の大きさは長さ10～20㎝、幅２～12㎝、厚さ２㎝ほどで、上面の標高は18.88～19.23ｍを測る。なお、礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図61に図示した。

出土遺物（図62）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち４点を図示した。

１・２・４はロクロ成形によるかわらけで、４の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使

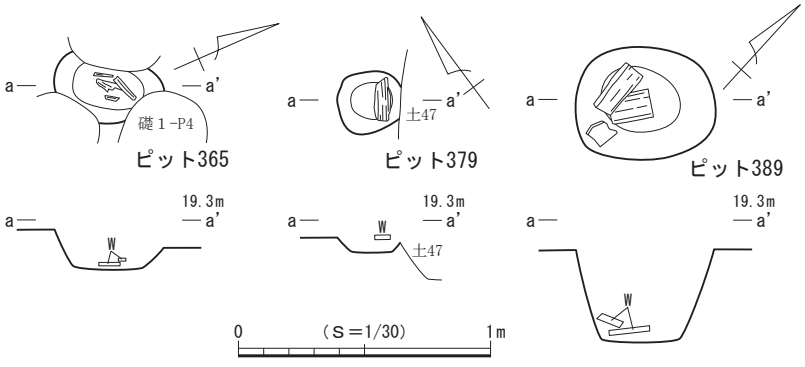


図61　第３面 ピット365・379・389

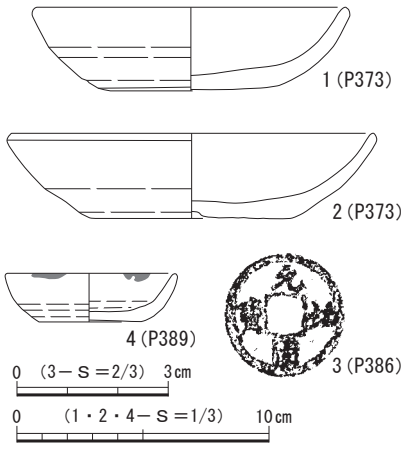


図62　第３面 ピット出土遺物

用が認められる。３は銭貨で元祐通寶（1086年初鋳）である。

１・２はピット373、３はピット386、４はピット389からそれぞれ出土した。

（６）第３面 遺構外出土遺物（図63～65）

第３面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち76点を図示した。

１～８はロクロ成形によるかわらけで、５の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。９～12はかわらけを転用した円盤状の製品である。13～16は龍泉窯系青磁である。13・14は碗でⅡ－ｂ類、15・16は坏で坏Ⅳ－４ａ類に比定される。17～19は瀬戸産の陶器類である。17は花瓶Ⅰ類で古瀬戸後期様式、18は入子で古瀬戸中期～後期様式、19は折縁深皿で古瀬戸後期様式に比定される。20～25は常滑産の陶器類である。20・21は甕で５～６ｂ型式、22・23は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式、24・25は片口鉢Ⅱ類で６ａ～８型式に比定される。26は備前産の擂鉢である。27は土師質・瓦質土器の火鉢でⅢ類に比定される。28は瓦を円盤状に加工した瓦転用品である。29～31は石製品である。29・30は砥石、31は円盤状に加工された凝灰岩に法輪に似た放射状沈線と孔が７ヵ所に施された用途不明の製品である。32～36は金属製品である。32は角釘、33は火箸である。34～36は銭貨で、34は皇宋通寶（1038年初鋳）、35は至和通寶（1054年初鋳）、36は政和通寶（1111年初鋳）である。37～76は木製品で、その中で37～39は漆製品となる。37～39は皿、40～56は箸状、57～59は曲物、60は調度具、61は仏具部材、62は草履芯、63は自在鉤、64は鞘、65は手押木、66は鍬、67は鋤、68・69は篦、70～73は串状、74は用途不明、75は球、76は建築部材である。

（７）第３面 構成土出土遺物（図66～68）

第３面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち67点を図示した。

１は白かわらけの蓋である。２～26はロクロ成形によるかわらけで、12・17の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。27はかわらけを転用した円盤状の製品である。28は白磁合子蓋である。29は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。30・31は龍泉窯系青磁で、30は盤、31は皿である。32～37は常滑産の陶器類である。32～34は甕で６ａ型式、35～37は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。38・39は備前産の擂鉢である。40は常滑産の甕破片を漆塗りのパレットとして転用した転用陶片、41は常滑産の甕破片を転用した摩耗陶片である。42～44は石製品で、42は砥石、43は凹石、44は燧石である。45～57は金属製品である。45は刀子（小刀）、46・47は角釘、48は火箸、49・50は用途不明である。51～57は銭貨で、51は嘉祐通寶（1056年初鋳）、52・53は熙寧元寶（1068年初鋳）、54は元豊通寶（1078年初鋳）、55は紹聖元寶（1094年初鋳）、56は建炎通寶（1127年初鋳）、57は紹興元寶（1131年初鋳）である。58～67は木製品で、その中で58・59は漆製品となる。また、63の錐は金属の錐部分と柄が遺存しているが、木製品の範疇で図示した。58は椀、59は仏具部材、60・61は箸状、62は連歯下駄、63は錐、64は鏑矢、65は篦、66は円盤状、67は形代である。

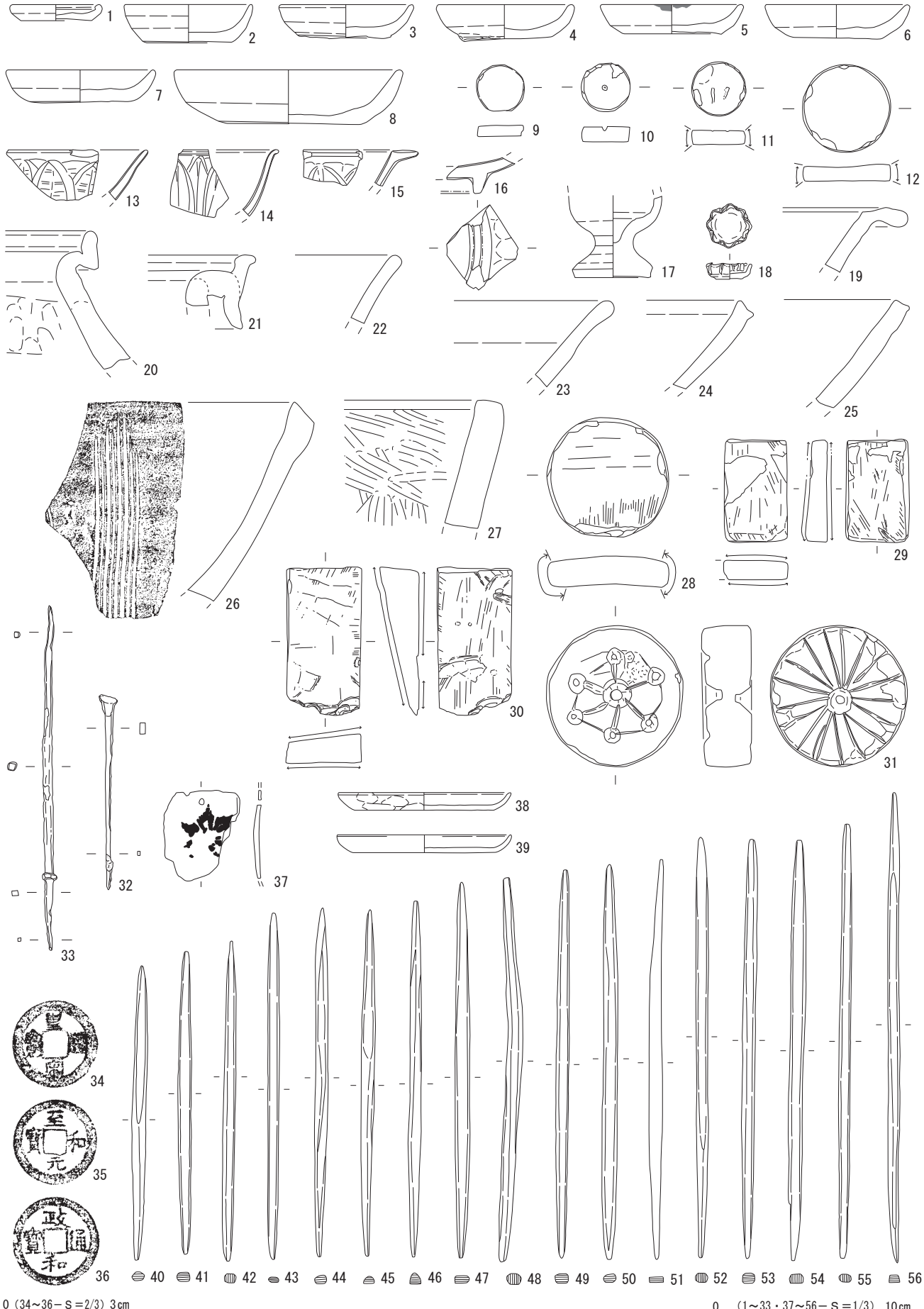


図63　第３面 遺構外出土遺物（１）

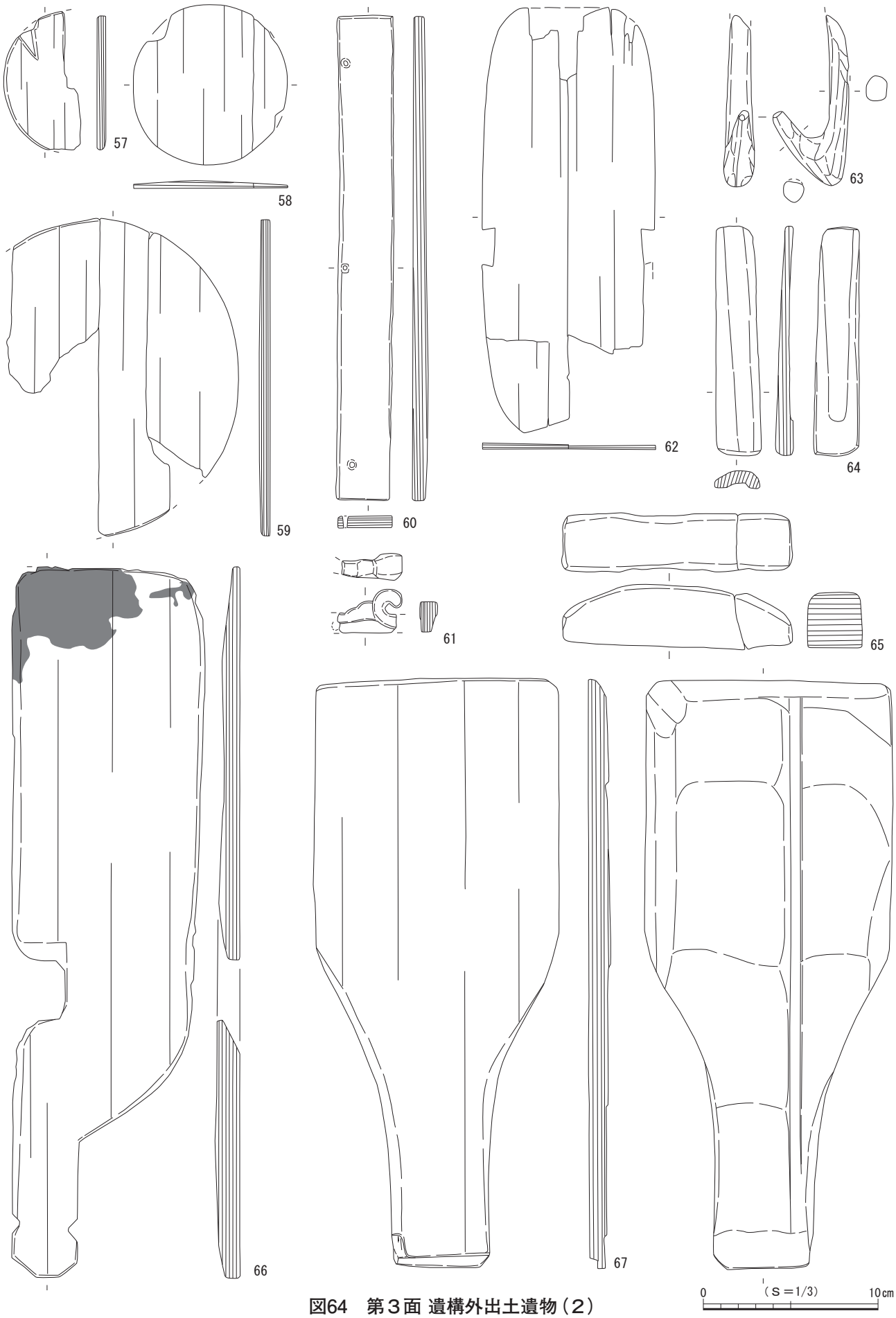


図64　第３面 遺構外出土遺物（２）

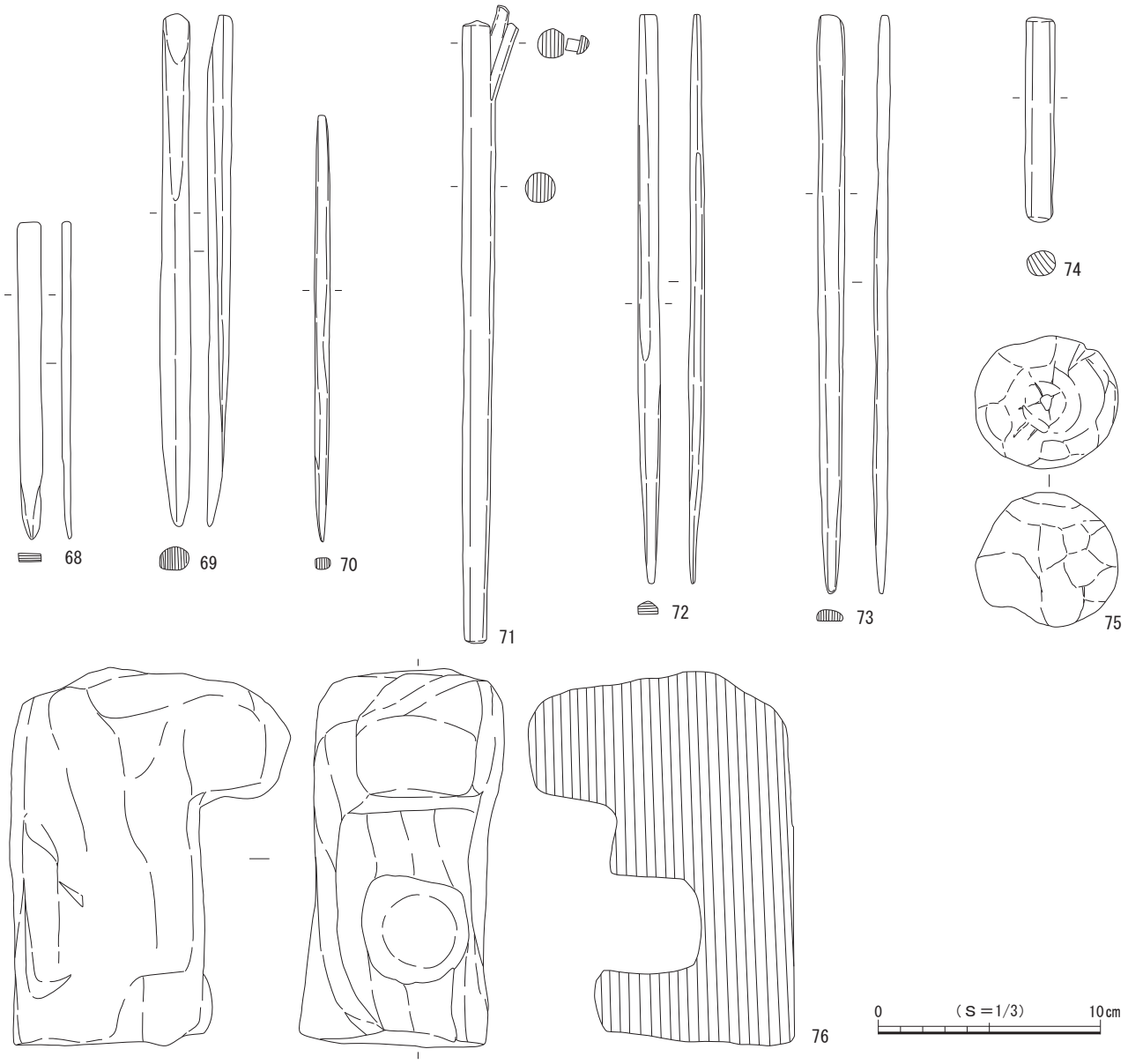


図65　第３面 遺構外出土遺物（３）

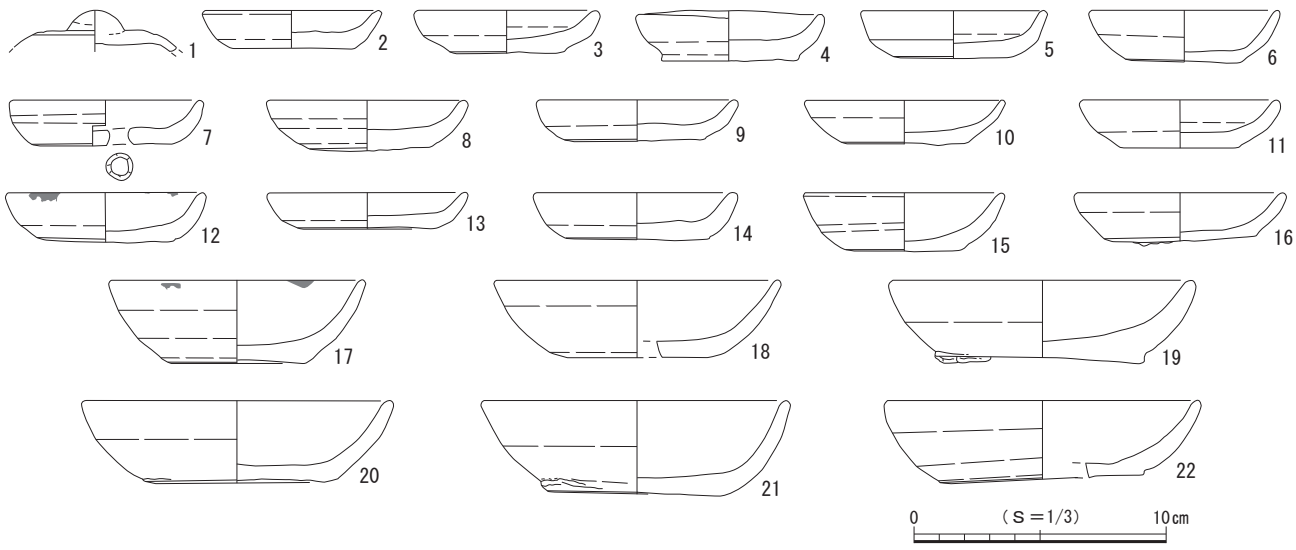


図66　第３面 構成土出土遺物（１）

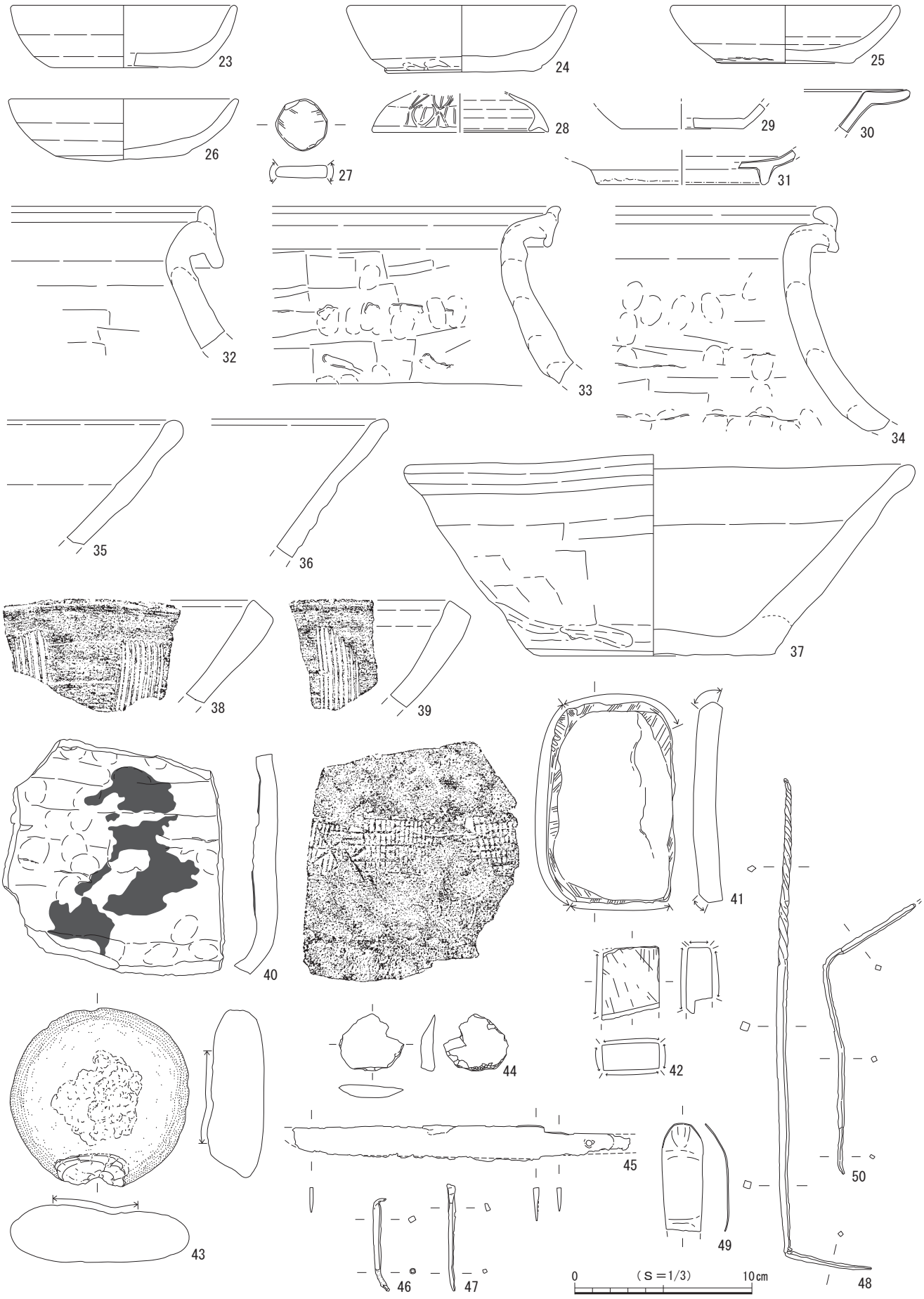


図67　第３面 構成土出土遺物（２）

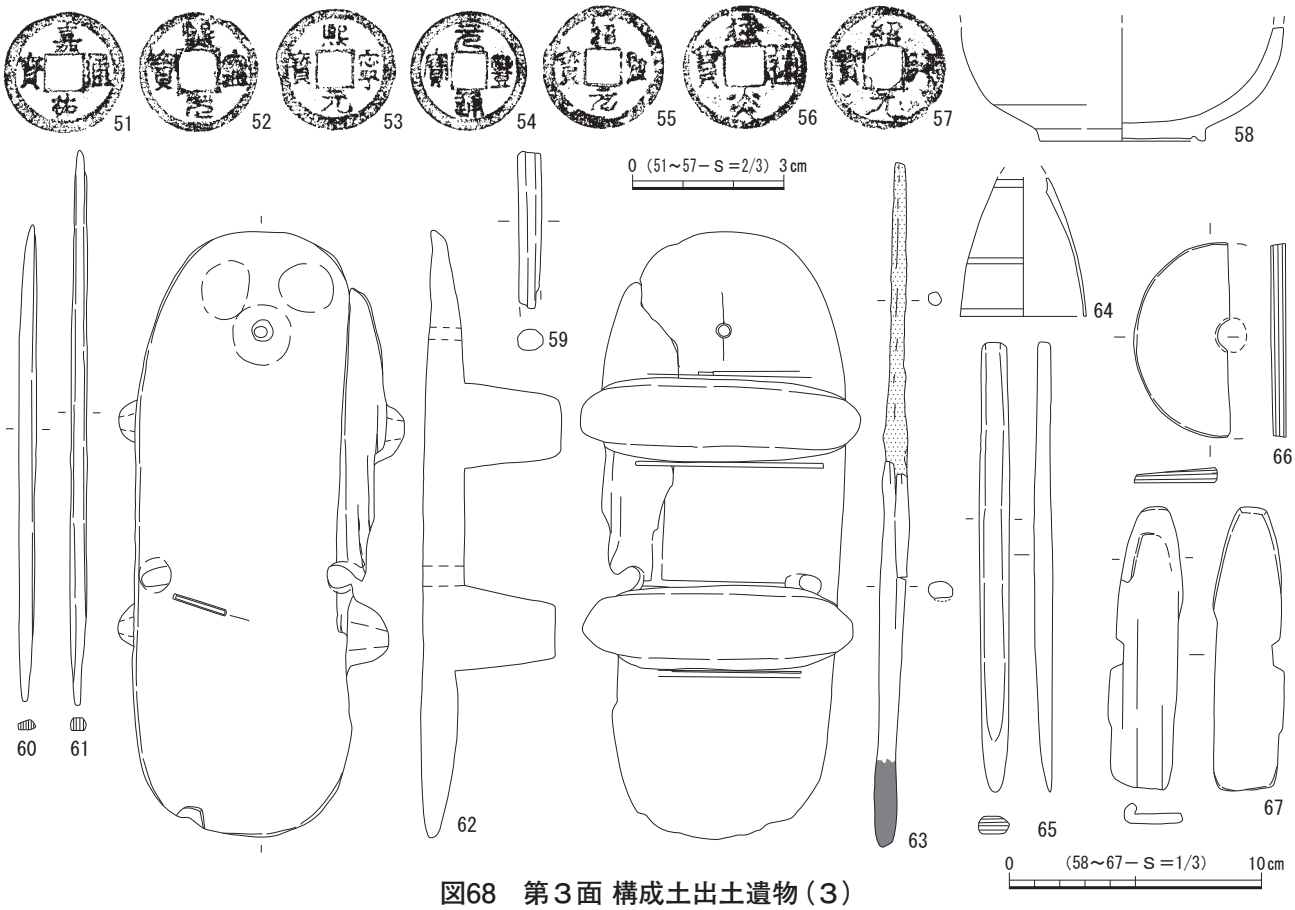


図68　第３面 構成土出土遺物（３）

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の18・21層上面で検出され、確認面の標高は19.1～19.2ｍを測る。18層は締まりのある黒褐色粘質土、21層は黄褐色砂質土を主体とする整地層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎石・礎板建物１棟、水路１条、井戸１基、土坑８基、ピット31基である（図69）。調査区全域に遺構が密に分布し、このうち主体となる遺構は礎石・礎板建物で、調査区の向きとほぼ同一方向に展開している。また、本面からは、礎石・礎板建物に伴う建築部材と考えられる木製品も多量に出土している。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

（１）礎石・礎板建物

礎石・礎板建物２（図70・71）

調査区のほぼ全域にわたって位置する。建物の広がりをピットや建築部材の出土位置などから推定すると、南北端は調査区内に収まり、東西側は調査区外に展開している可能性がある。南西側で水路１や井戸１、土坑49・50とも重複するが、本址との新旧関係は判然としない。調査区内では22本のピットと礎板のみ２基（Ｐ12・Ｐ20）、礎石のみ４基（Ｐ13・Ｐ17～19）を検出し、柱が立った状態で検出されたピットは５本（Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６・Ｐ11・Ｐ17）、礎板をもつピットは６本（Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７～Ｐ９・Ｐ15）、礎石をもつピットは３本（Ｐ１・Ｐ14・16）である。

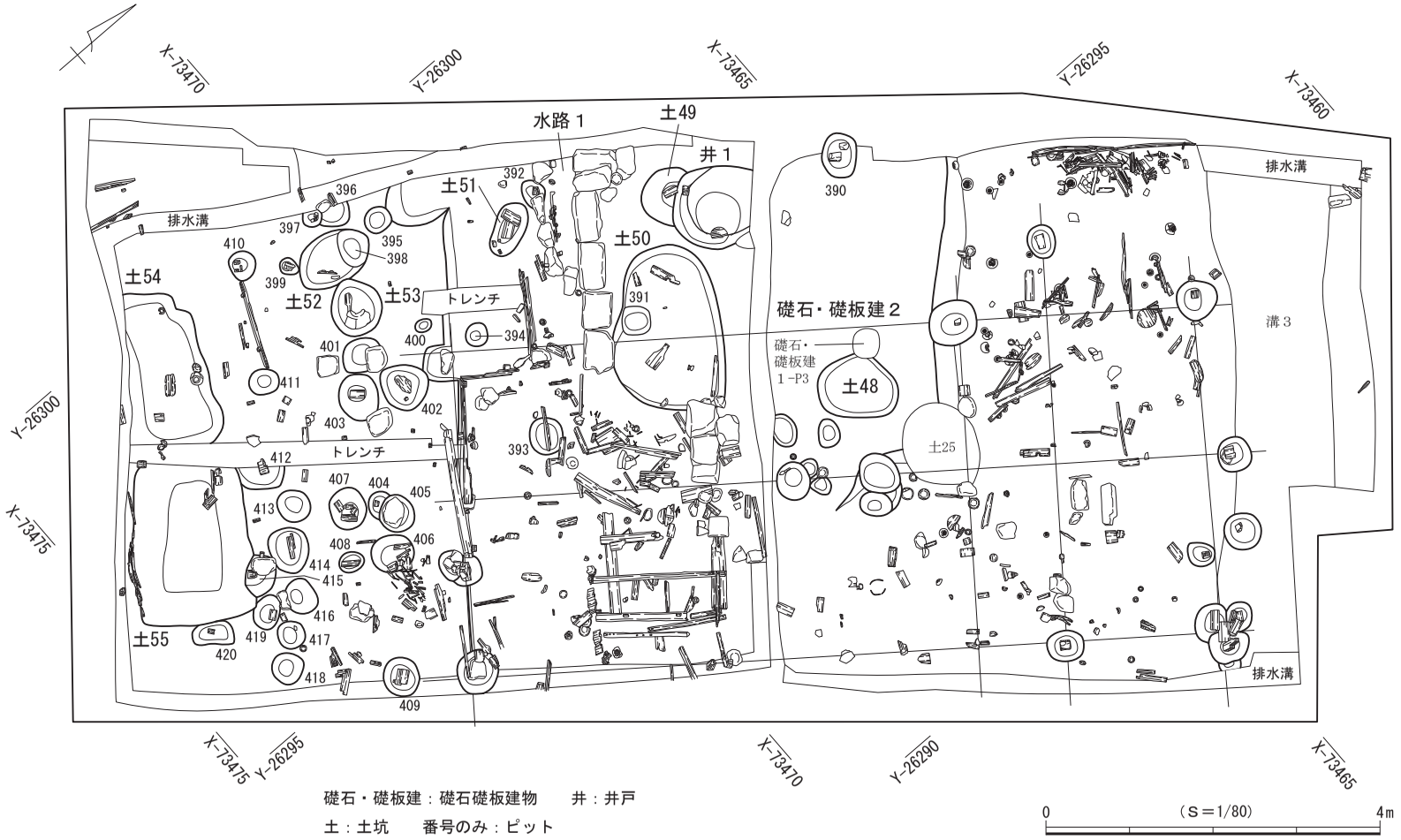


図69　第４面 遺構分布図

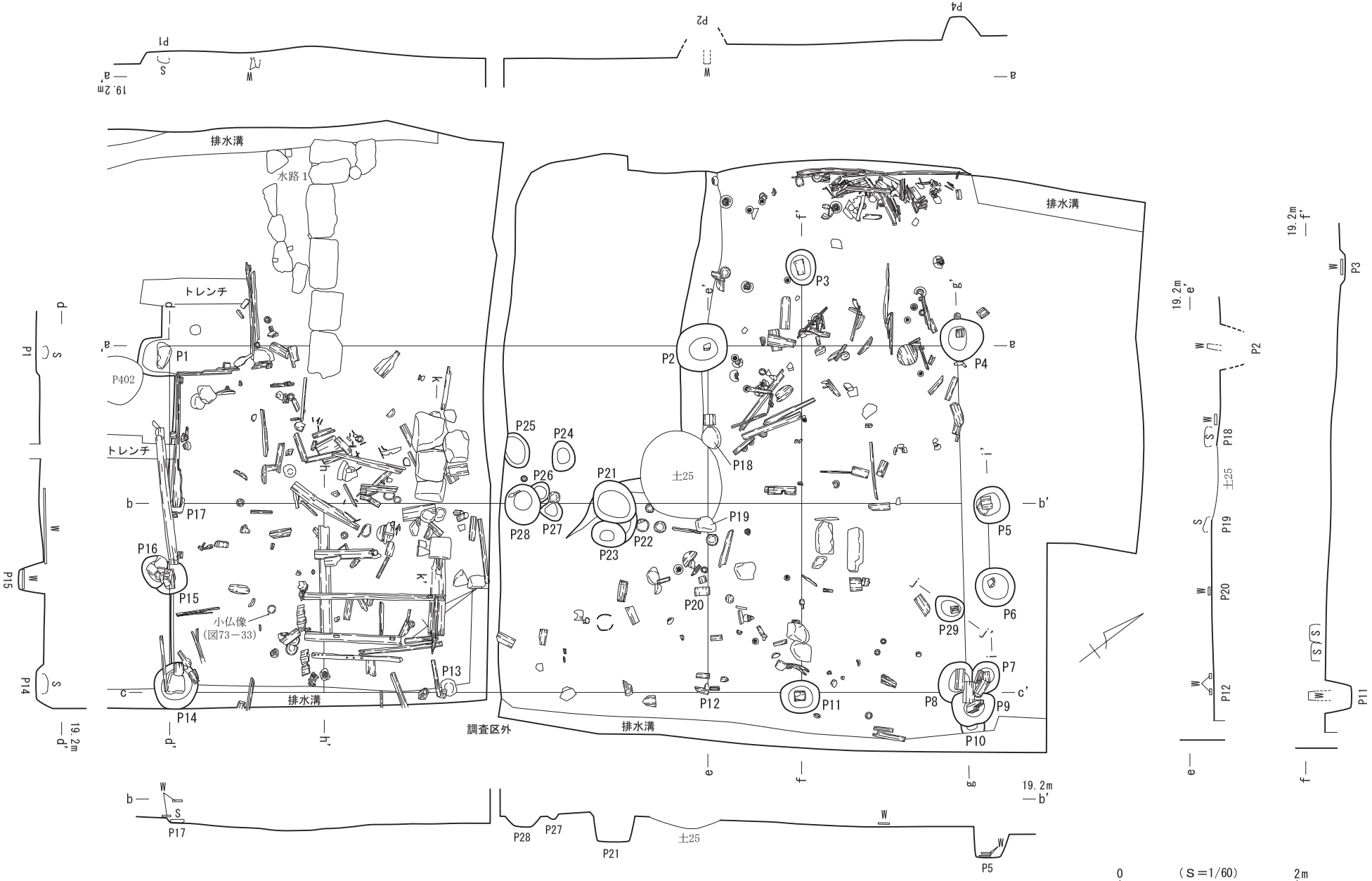


図70　第４面 礎石・礎板建物２

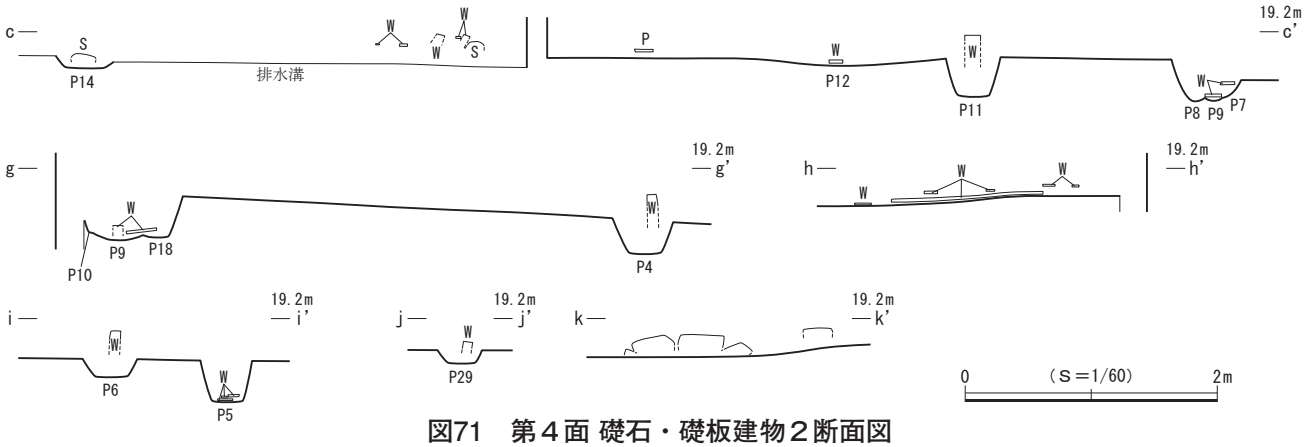


図71　第４面 礎石・礎板建物２断面図

本遺構は北東－南西方向が３間で、北西－南東方向が２間以上の規模をもつ建物と推定され、現状では北東－南西方向の現存長9.0ｍ以上、北西－南東方向の現存長4.8ｍ以上を測る。柱間寸法は心々間で南東面の北東－南西列が3.0ｍ等間で、南西面の北西－南東列が北西側から1.8ｍ、2.1ｍを測る。北東側に位置するＰ５とＰ６は、柱筋から北東側に30㎝ほど外れた場所にあり、また、中央付近に８基のピット（Ｐ21～Ｐ28）がまとまって検出されている。その南西側には長さ20～45㎝大の切石が北西－南東方向に列状に並ぶ石列が認められた。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－37°－Ｅで、調査区方向とほぼ同じである。

ピットの平面形は円形と楕円形がみられ、規模は長軸21～57㎝、深さ５～36㎝と幅がある。礎板の大きさは長さ15～25㎝、幅５～12㎝、厚さ２～３㎝、礎石は長さ20～30㎝であり、標高は礎板と礎石上面で18.63～19.08ｍ、ピット底面で18.55～18.97ｍを測る。

本遺構が広がる範囲においては、建築部材あるいは礎板と推定される木材や木製品が多量に出土した。原位置を保っていない部材も多く認められるが、南西面のピット列に沿って板壁の一部と考えられる木組が検出された。横板の際に杭を前後交互に打ち込んで固定した作りで、Ｐ14からＰ１までの長さ3.3ｍは直線的に延び、Ｐ１の手前で直角に折れて北東側に90㎝延び、再び直角に折れて北西側に1.2ｍの長さで遺存する。また、建物の南側で建築部材が格子目状に折り重なって出土しており、間仕切りの部材が北東側に向かって倒れたような出土状態を示している。この部材は長さ0.9～1.6ｍ、幅６～12㎝を測り、中にはほぞ穴をもつ部材も確認できた。なお、本址北側の調査区壁際にも木材の集中箇所が確認された。調査区の壁と平行するように長さ約１ｍと1.4ｍの板材が直線的に出土しており、この板材の検出方位は建物の主軸方位と合致することから、本址に伴う板壁の残存の可能性が考えられる。

出土遺物（図72～77）

遺物はかわらけ293点、磁器２点、陶器65点、土師質・瓦質土器４点、瓦９点、石製品３点、金属製品10点、木製品166点が出土し、このうち128点を図示した。また、これらの遺物の中には重要遺物として金属製小仏（図73－33）が建物の範囲内から出土しており、本址に関わる遺物と判断して掲載した。

１～23はロクロ成形によるかわらけである。24は吉備系土師質土器である。１・５～８・10～12・14・15・18・20・21・23・24の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。25はかわらけを転用した円盤状の製品である。26～29は常滑産の陶器類である。26・27は甕で６ａ～６ｂ型式、28・29は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。30は平瓦、31は丸瓦である。32は硯である。

33～43は金属製品である。33は鋳造による小仏像で、阿弥陀如来を表しているものと思われる。34は鞘に収められた刀子（刀子）、35は角釘、36は用途不明である。37～43は銭貨で、37は嘉祐元寶（1056年初鋳）、38は治平通寶（1064年初鋳）、39・40は熙寧元寶（1068年初鋳）、41は元豊通寶（1078年初鋳）、42は紹聖元寶（1094年初鋳）、43は聖宋元寶（1101年初鋳）である。

44～128は木製品で、その中で44～64は漆製品となる。44～54は皿、55～59は椀、60～64は膳、65～

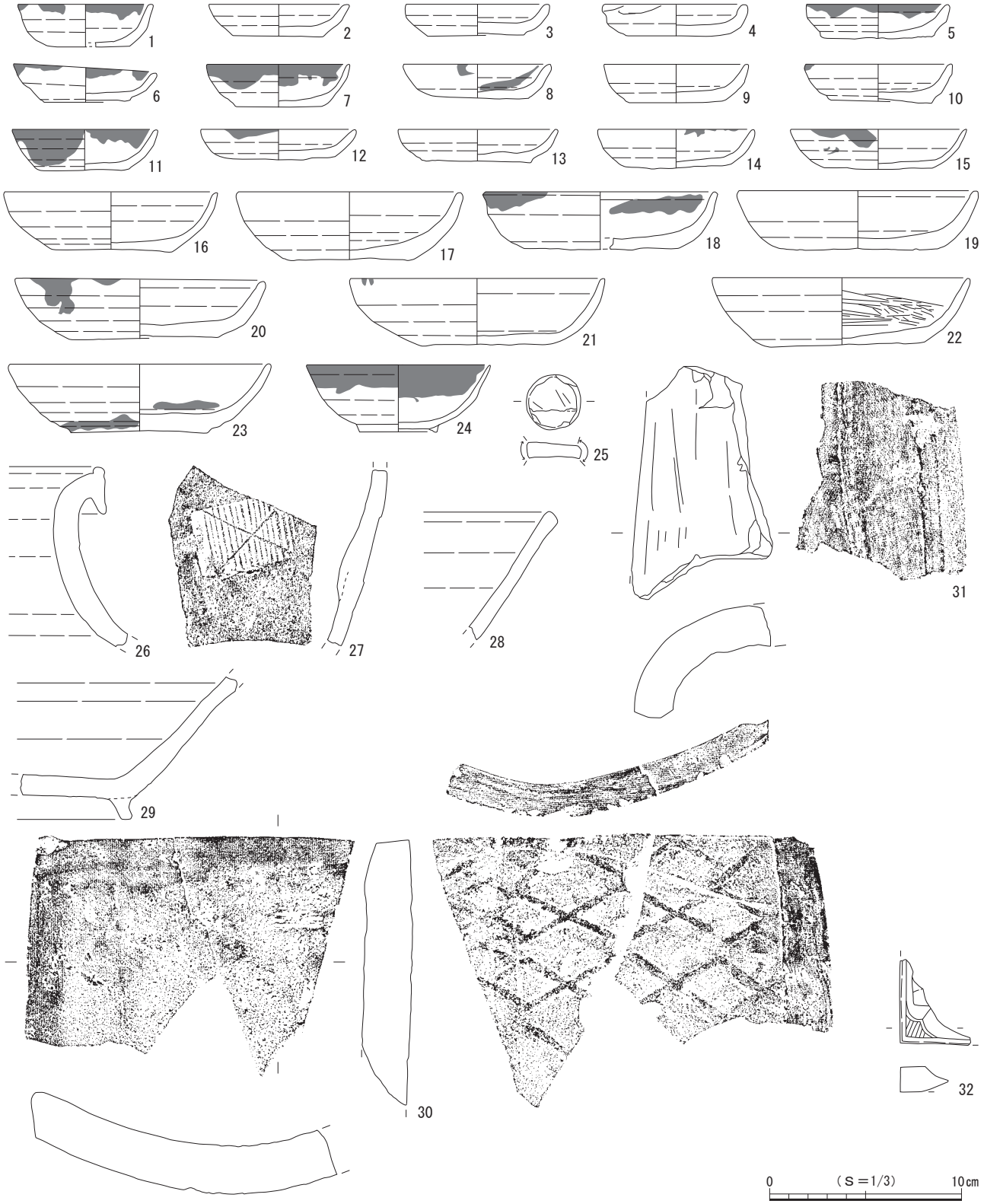


図72　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（１）

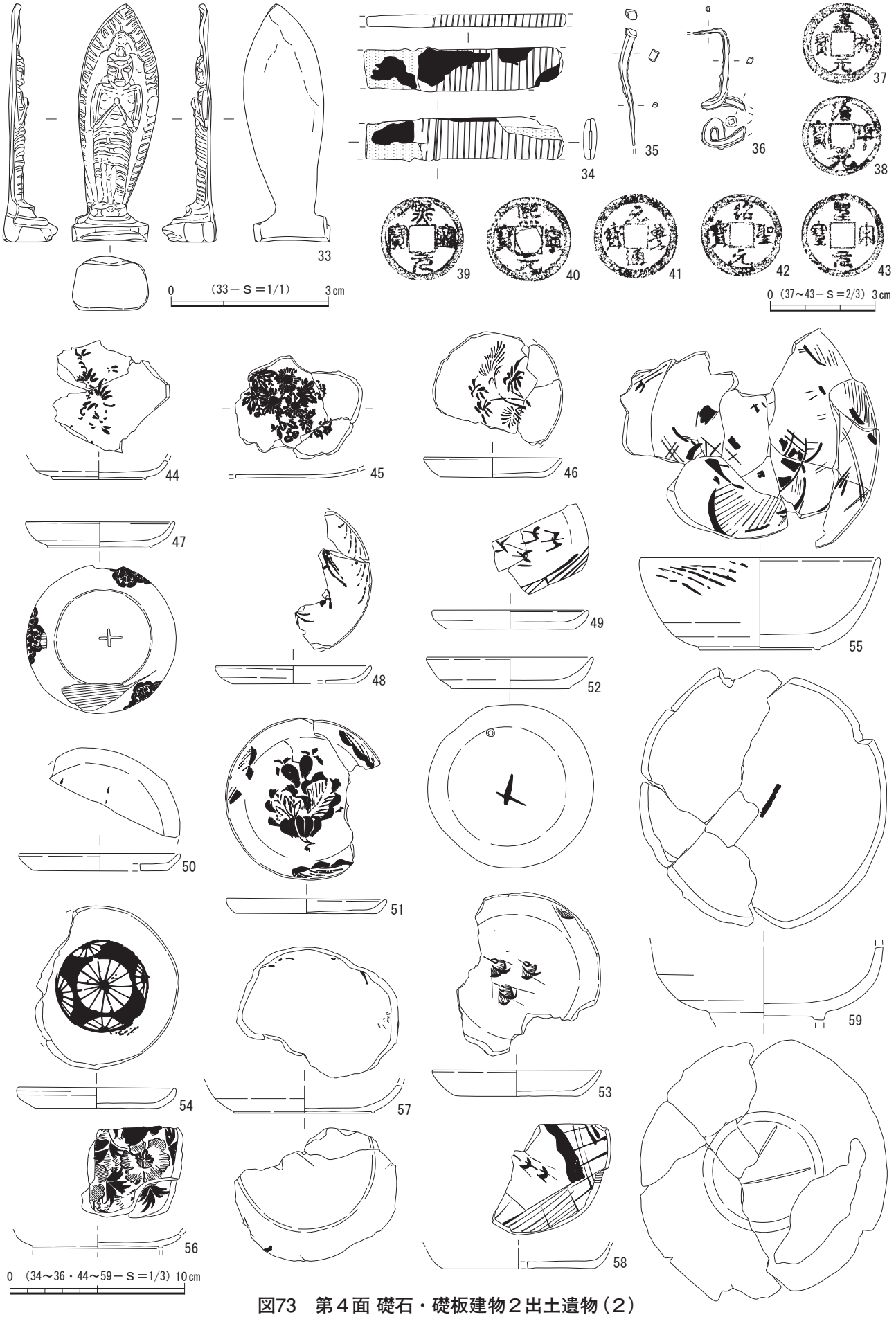


図73　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（２）

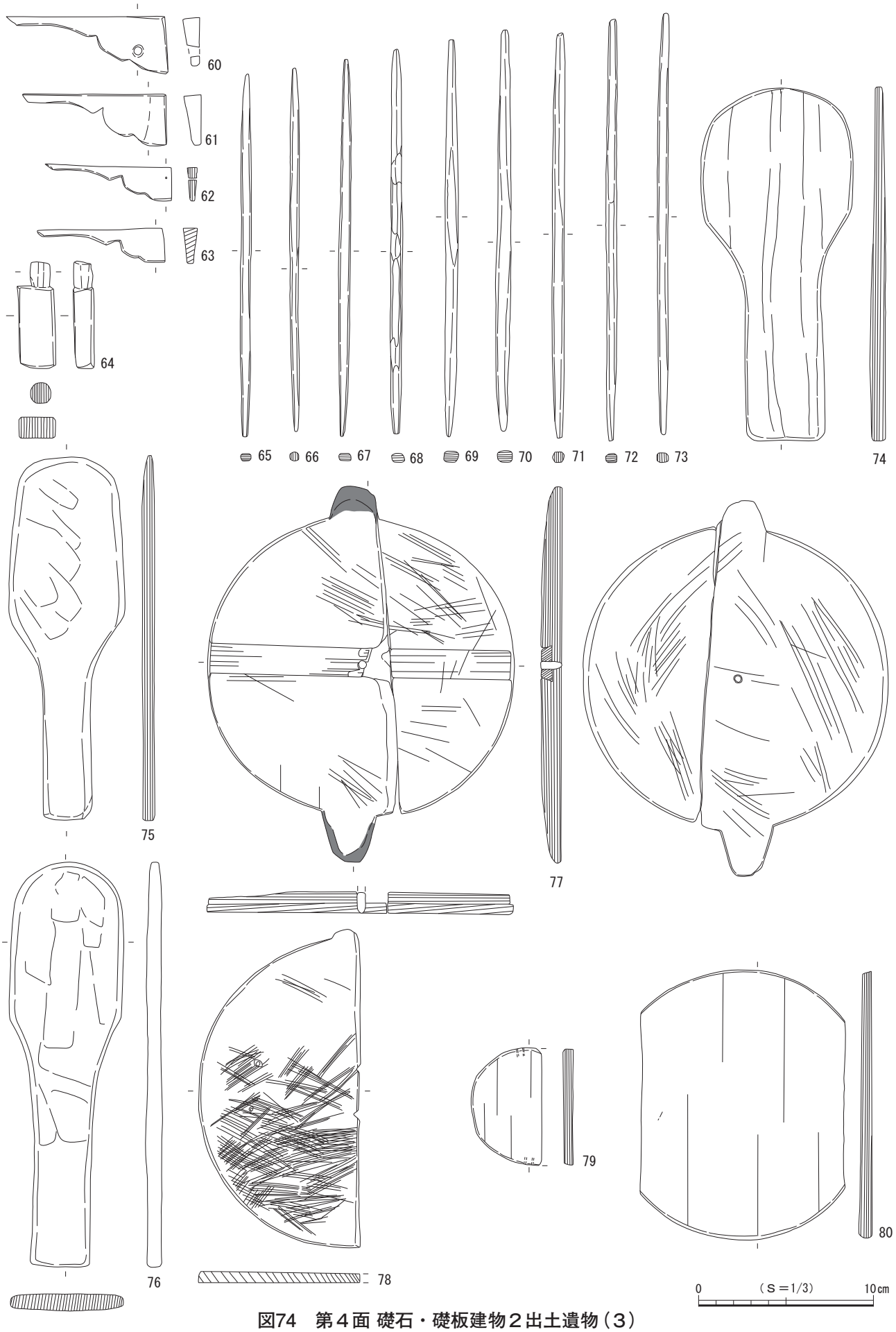


図74　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（３）

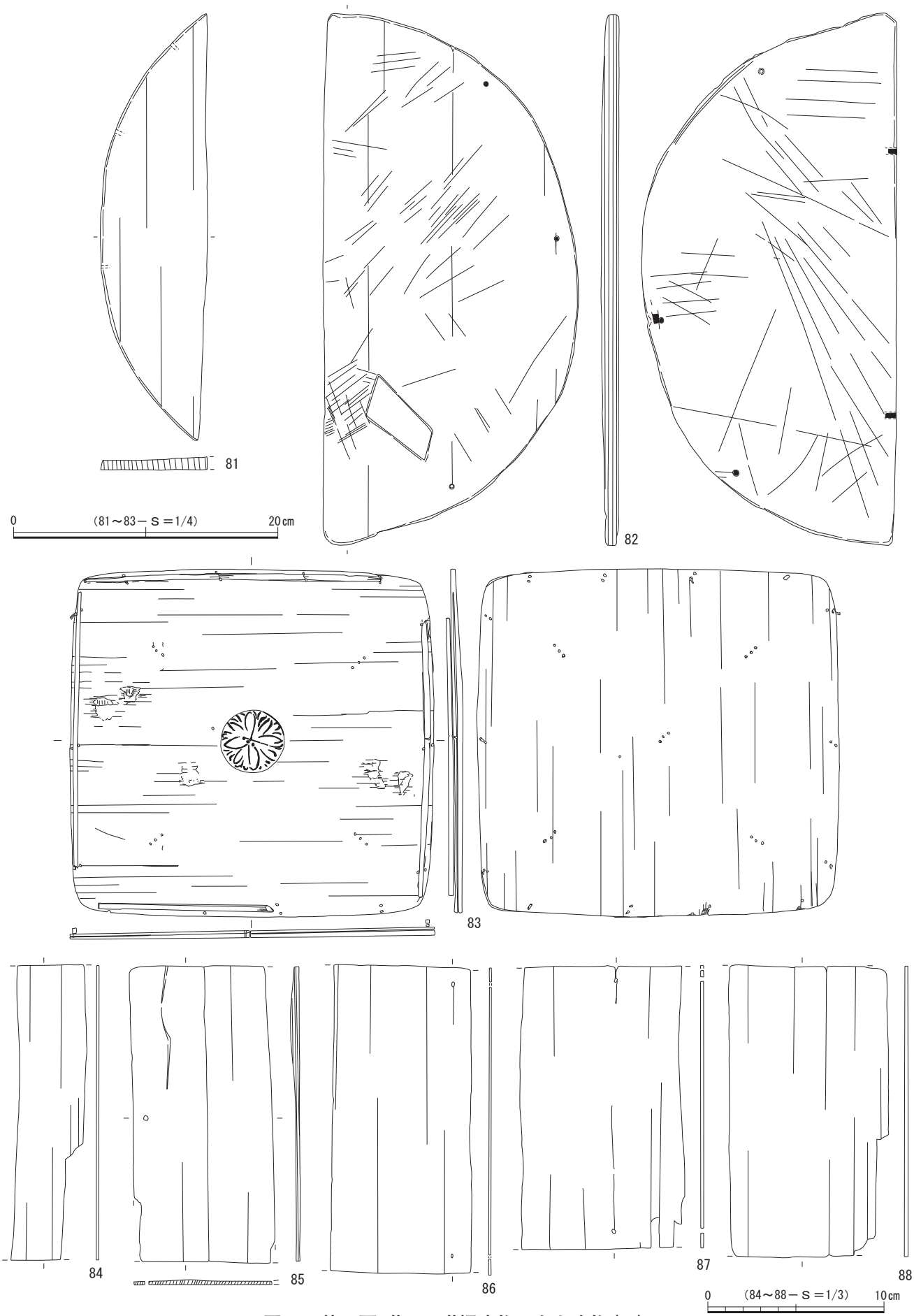


図75　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（４）

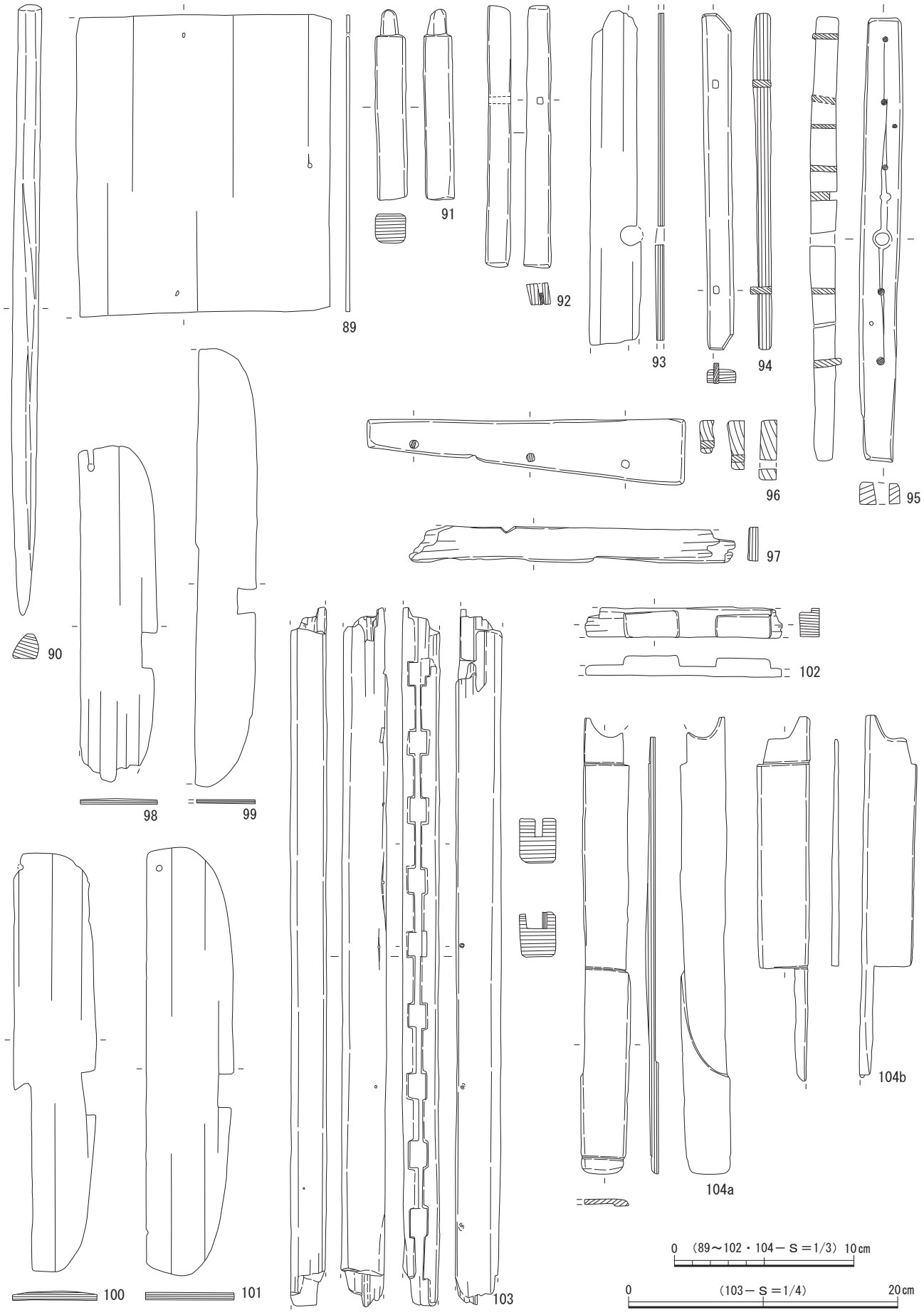


図76　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（５）

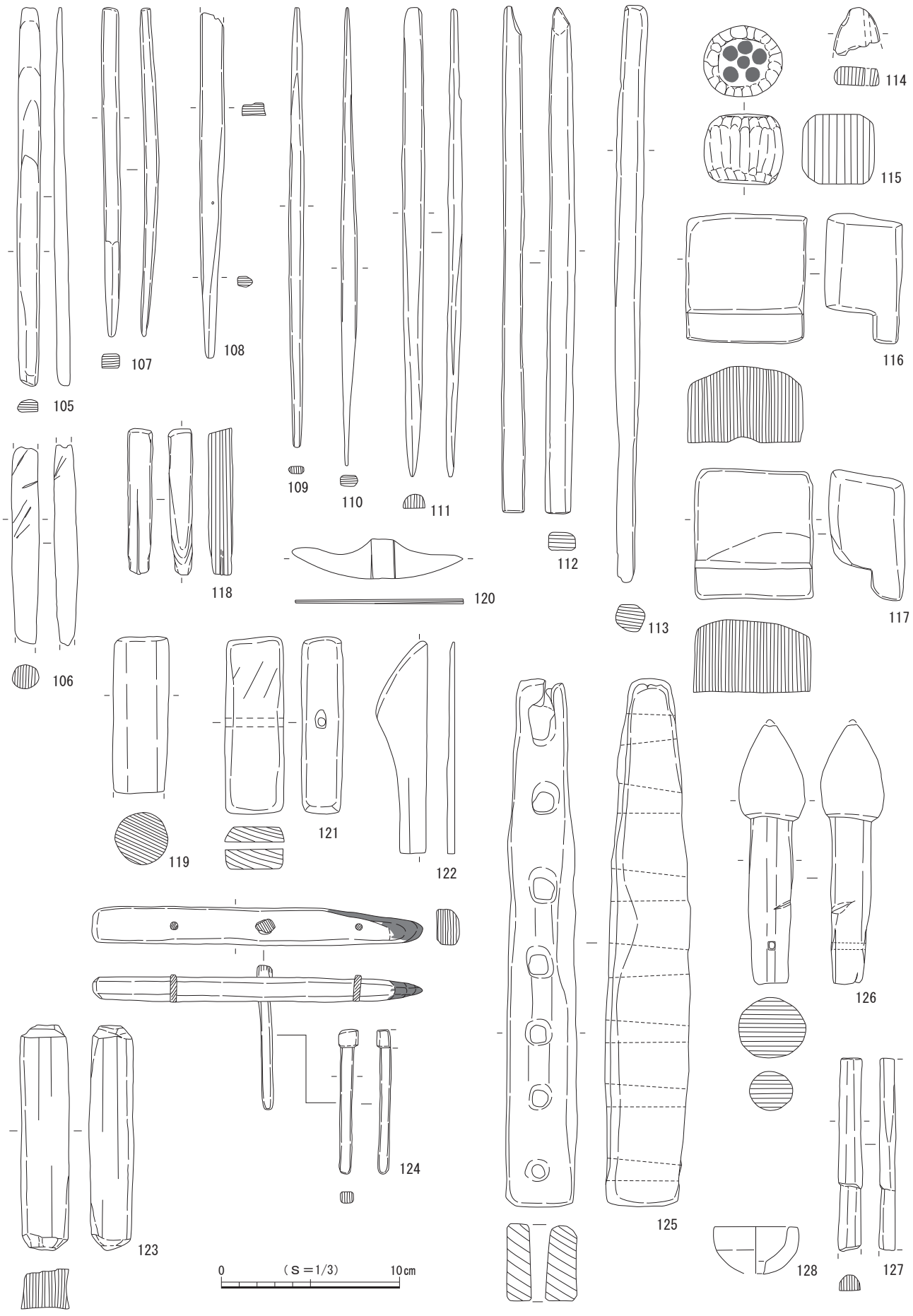


図77　第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（６）

73は箸状、74～76は板杓子、77は蓋、78は鍋蓋、79～82は曲物、83～89は折敷・板折敷・経木折敷で、83の中央には花文が墨書されている。90は柄杓、91～97は調度具、98～101は草履芯、102・103は建築部材、104は鞘、105は篦、106～113は串状、114～126は用途不明、127は形代、128は独楽である。

（2）水　路

水路１（図78）

調査区中央の西側に位置する。礎石・礎板建物２とは本址の南東端で重複するが、新旧関係などの詳細は不明である。また、北西端部は調査区の境となり判然としないが、調査区外の西側へ続く可能性がある。切石を用いた２列の石列が並行して検出され、南側の石列の北東面に沿って杭と横板による木組の護岸が認められた。規模は現存長2.65m、内寸幅約25cmで、北東側の石列は長さ40～60cm、幅20～35cm、厚さ15～20cmの切石を用いて構築されている。主軸方位はN－52°－Wを指す。

遺物は出土しなかった。

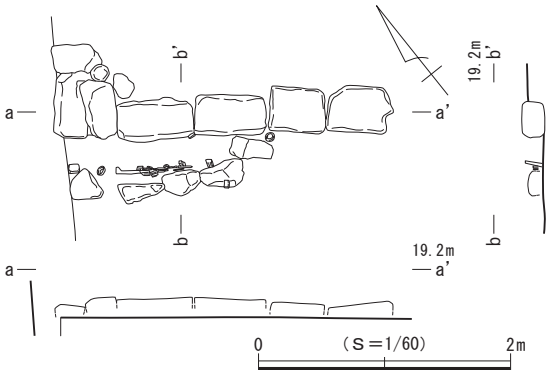


図78　第４面 水路１

（3）井　戸

井戸１（図79）

調査区北壁際の中央に位置する。西側で土坑49と重複して壊し、北側は調査区外へと続いており全容を把握できなかった。木材や切石を用いた井戸枠は検出されず、素掘りの井戸と推定される。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、北壁はやや開き気味であるが南壁は真っすぐに立ち上がる。開口部の南半には幅の狭いテラス状の段が作出され、断面形は筒状を呈する。規模は南北現存長1.12m、東西現存長97cm、深さ1.56mで、坑底面の標高は17.42mを測る。

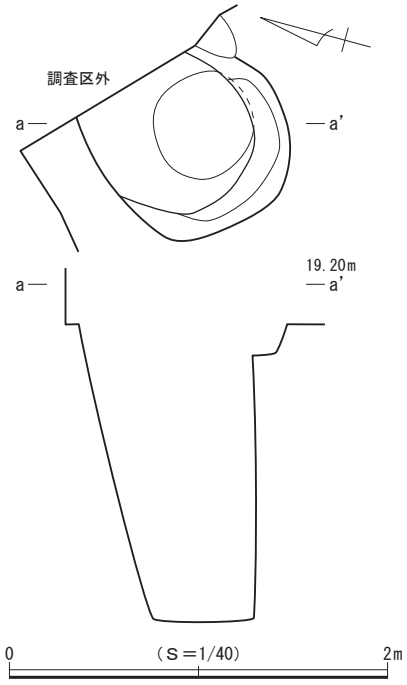


図79　第４面 井戸１

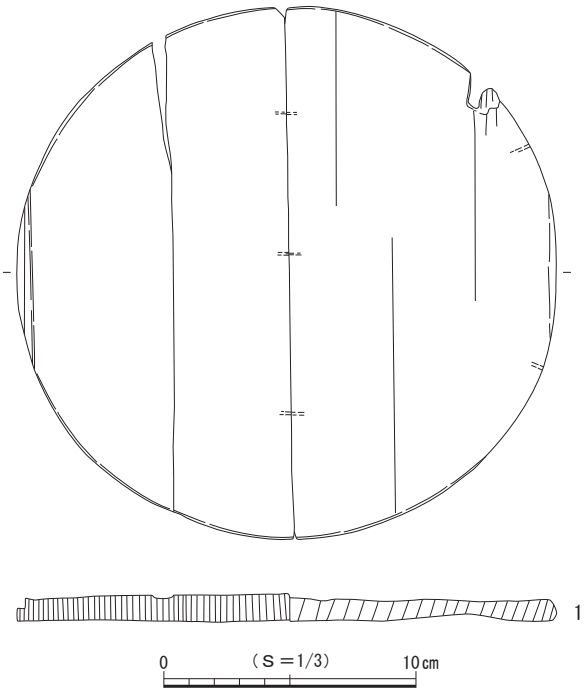


図80　第４面 井戸１出土遺物

出土遺物（図80）

遺物はかわらけ22点、磁器１点、陶器８点、瓦３点、木製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は曲物である。

（４）土　坑

土坑48（図81）

調査区中央の北側に位置する。西側を礎石・礎板建物１のＰ３によって壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸96㎝、短軸推定長75㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は18.92ｍを測る。主軸方位はＮ－47°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑49（図69）

調査区西壁際の中央に位置する。東側で井戸１と重複して壁と底面を壊され、全容を把握できなかった。底面の標高に関する記録が残されていないため、個別図は掲載しなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、規模は長軸69㎝、短軸現存長37㎝を測る。

遺物は出土しなかった。

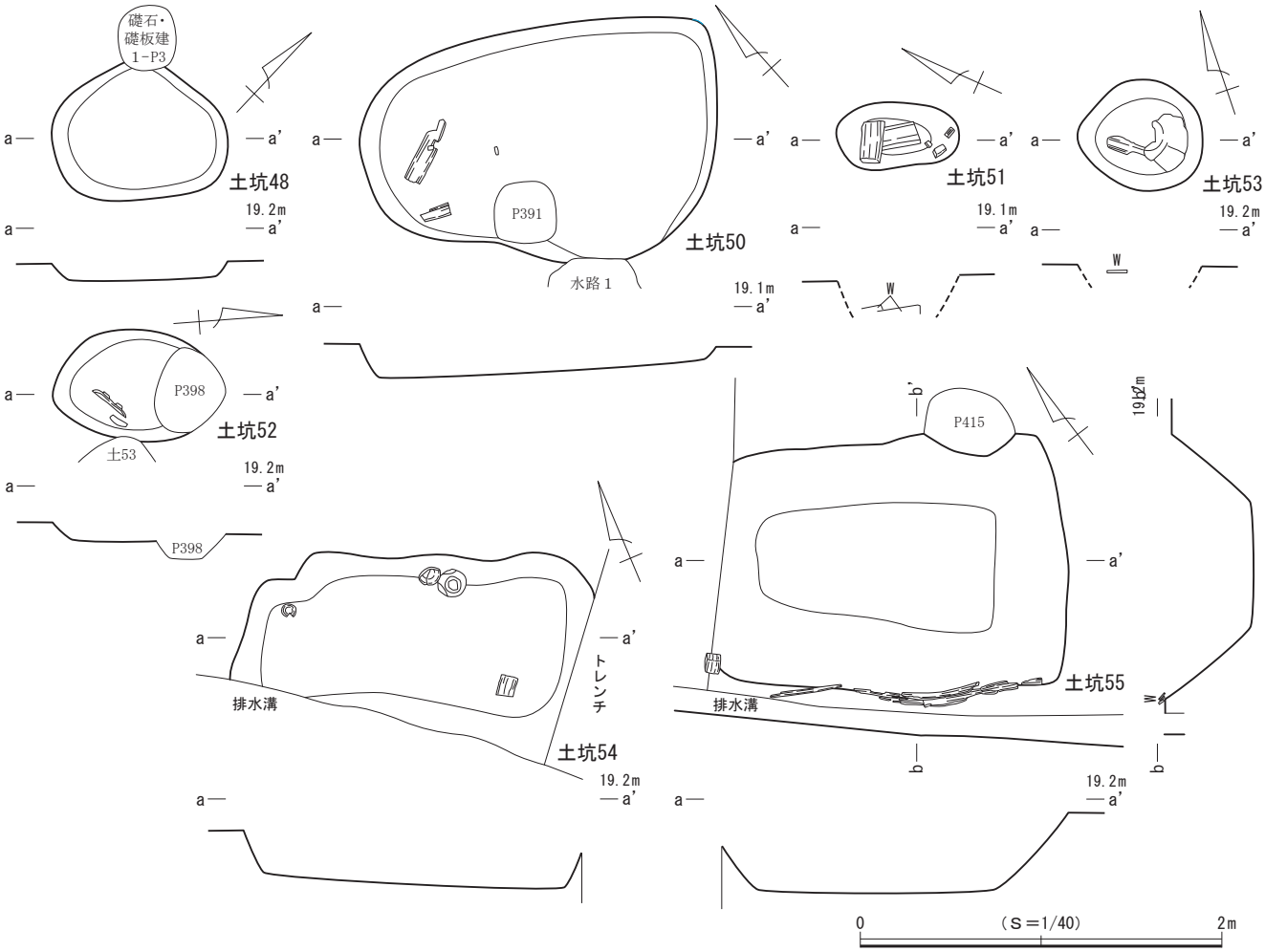


図81　第４面 土坑48・50～55

土坑50（図81）

調査区中央の西側に位置する。南側で水路１と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面は南東から北西に向かって傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.97m、短軸1.05～1.33m、深さ７～20㎝を測り、主軸方位はＮ－51°－Ｗを指す。

出土遺物（図82）

遺物はかわらけ64点、陶器32点、土師質・瓦質土器２点、金属製品２点、多数の箸状を含む木製品383点が出土し、このうち９点を図示した。

１～９は木製品である。１は小型の呪符木簡と推定される資料で、木簡の形状は短冊形を呈する。墨書は表裏面に記され、その釈文を実測図に掲載した。２～４は箸状、５は調度具、６は曲物、７は草履芯、８・９は用途不明である。

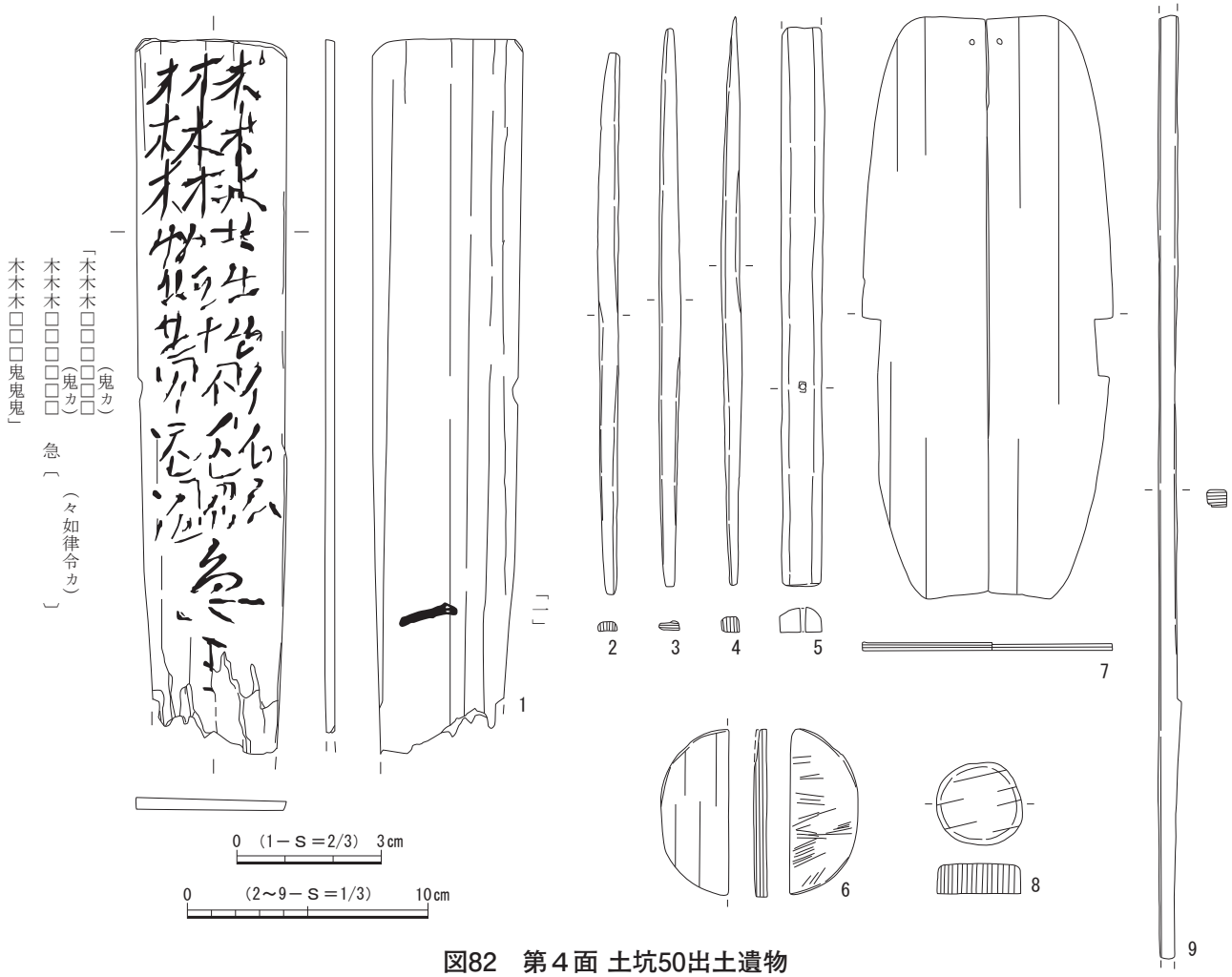


図82　第４面 土坑50出土遺物

土坑51（図81）

調査区西壁付近の南側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。底面の標高に関する記録が残されていないため、深さは判然としない。平面形は略楕円形を呈し、規模は長軸68㎝、短軸36㎝を測る。主軸方位はＮ－24°－Ｗを指す。中央付近から長さ約20㎝、幅約12㎝の板材２枚が出土し、礎板の可能性が推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑52（図81）

調査区の南西側に位置する。北側でピット398、東側で土坑53と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸推定長95㎝、短軸62㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は18.89ｍを測る。主軸方位はＮ－８°－Ｅを指す。

遺物は木製品１点が出土した。

土坑53（図81）

調査区の南西側に位置する。西側で土坑52と重複して壁の一部を壊している。底面の標高に関する記録が残されていないため、深さは判然としない。平面形は略円形を呈し、規模は長軸69㎝、短軸61㎝を測る。西壁寄りから長さ約20㎝、幅約10㎝の板材が出土し、礎板の可能性が推定される。

出土遺物（図83）

遺物は陶器２点、木製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は板杓子である。

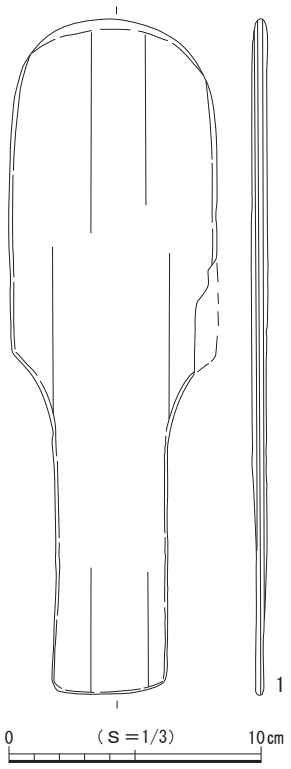


図83　第４面 土坑53出土遺物

土坑54（図81）

調査区の南壁際に位置する。東壁をトレンチによって失われ、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整隅丸長方形と考えられ、底面は西から東に向かってわずかに傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.88ｍ、短軸現存長1.35ｍ、深さ27㎝で、坑底面の標高は西側で18.71ｍを測る。主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。

出土遺物（図84）

遺物はかわらけ23点、陶器４点、土師質・瓦質土器１点、瓦１点、骨角製品１点、金属製品１点、木製品76点が出土し、このうち16点を図示した。

１～16は木製品で、その中で１は漆製品となる。１は椀、２～４は箸状、５～７は経木折敷、８は曲物、９は調度具、10～15は草履芯、16は用途不明である。

土坑55（図81）

調査区の南壁際に位置する。西壁をトレンチによって失われ、北側でピット415と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.91ｍ、短軸1.35ｍ、深さ43㎝で、坑底面の標高は18.70ｍを測る。主軸方位はＮ－53°－Ｗを指す。南壁に沿って横板が長さ1.5ｍにわたって検出されており、壁体の一部であった可能性が推定される。なお、西隅に方10㎝の柱が立った状態で出土しているが、本址との関連は判然としない。

出土遺物（図85）

遺物はかわらけ34点、磁器２点、陶器９点、金属製品１点、木製品47点が出土し、このうち７点を図示した。

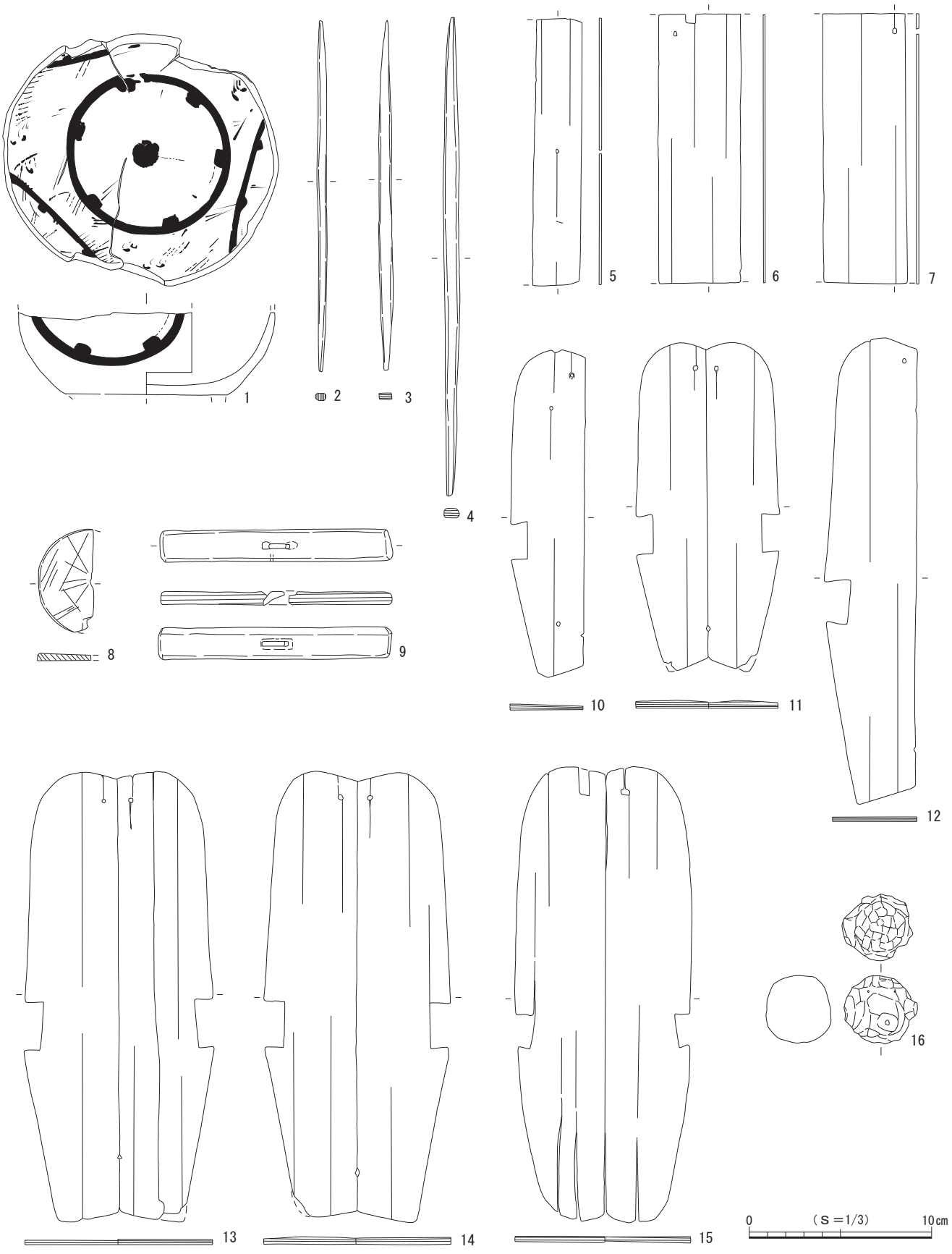


図84　第４面 土坑54出土遺物

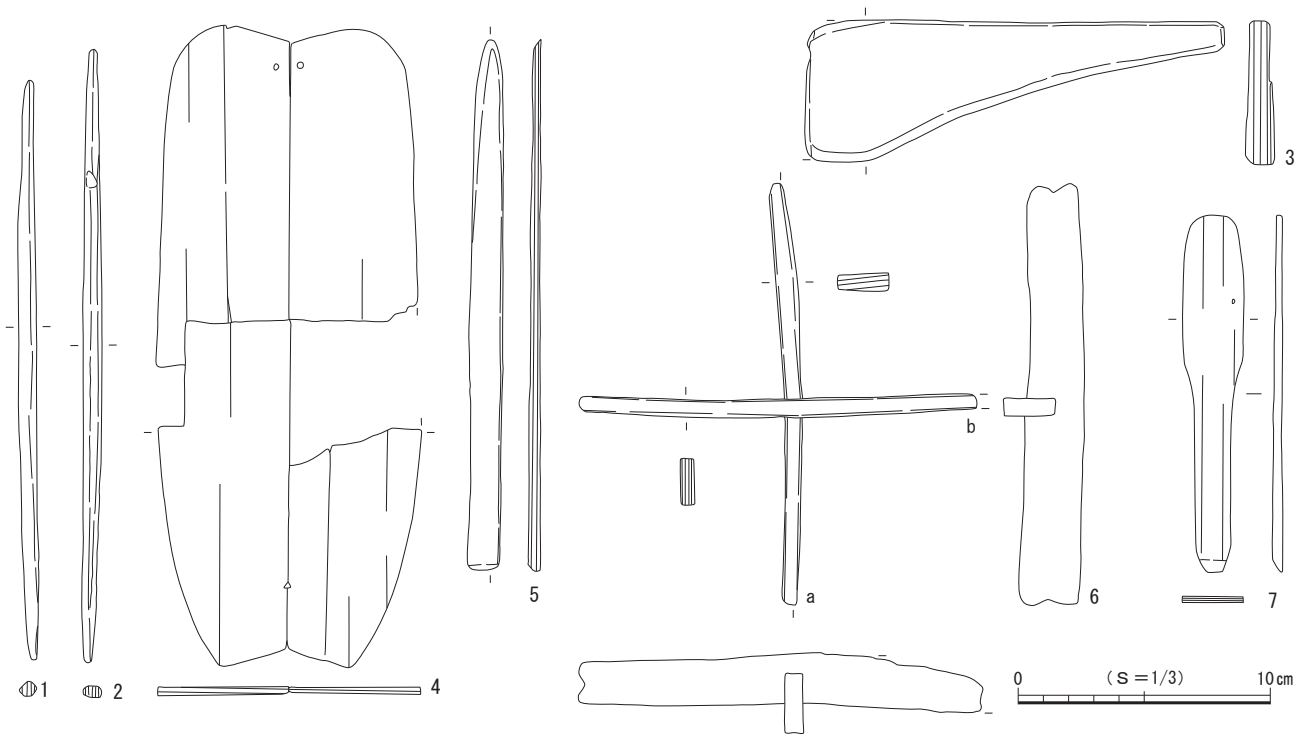


図85　第４面 土坑55出土遺物

１～７は木製品である。１・２は箸状、３は調度具、４は草履芯、５は篦、６は用途不明、７は形代である。

（５）ピット

第４面では、31基を検出した。礎石・礎板建物２の範囲外にあたる調査区南西側に集中して分布し、列状に配置する様相も認められるが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸20～59㎝、深さ４～34㎝を測る。31基のうち１基のピット（ピット405）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ38㎝、幅26㎝、上

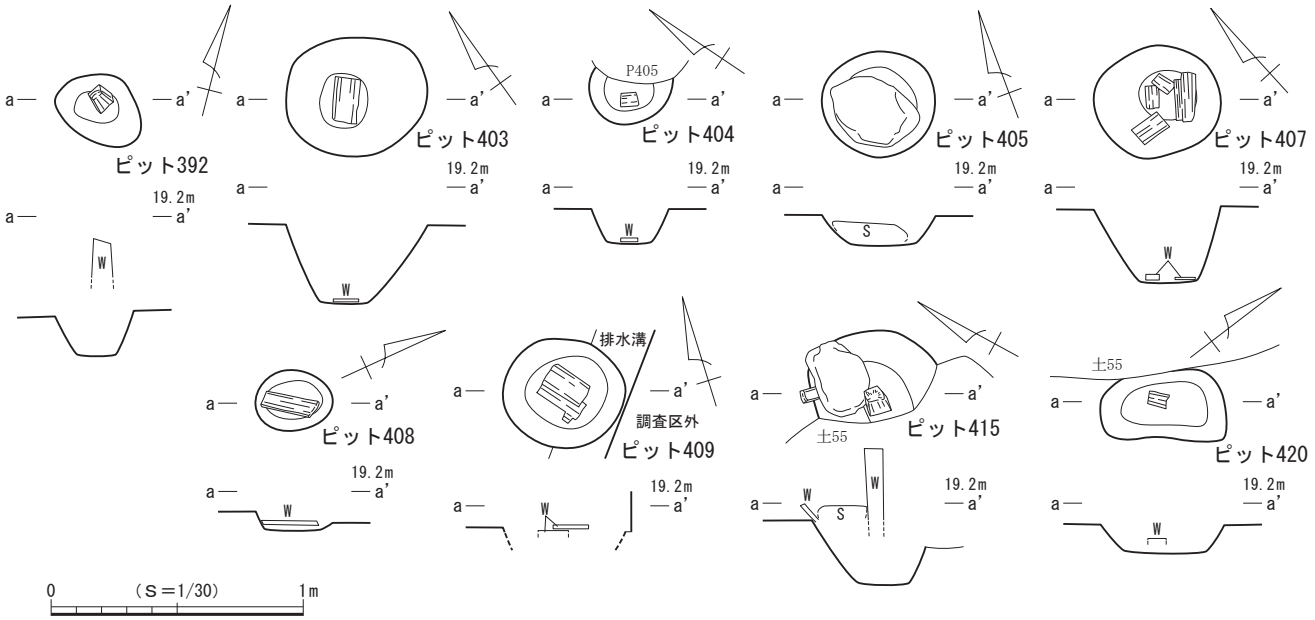


図86　第４面 ピット392・403～405・407～409・415・420

面の標高は19.09mである。また、６基のピット（ピット403・404・407～409・420）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ７～20cm、幅５～10cm、上面の標高は18.77～19.13mである。柱が立った状態で検出されたピットも２基（ピット392・415）確認され、柱の太さは方７cmほどを測る。なお、礎石や礎板、柱が検出されたピットについては個別図を作成し、図86に図示した。

出土遺物（図87）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち７点を図示した。

１～７は木製品である。１は草履芯、２は下駄、３は部材、４は膳、５は串状、６・７は箸状である。

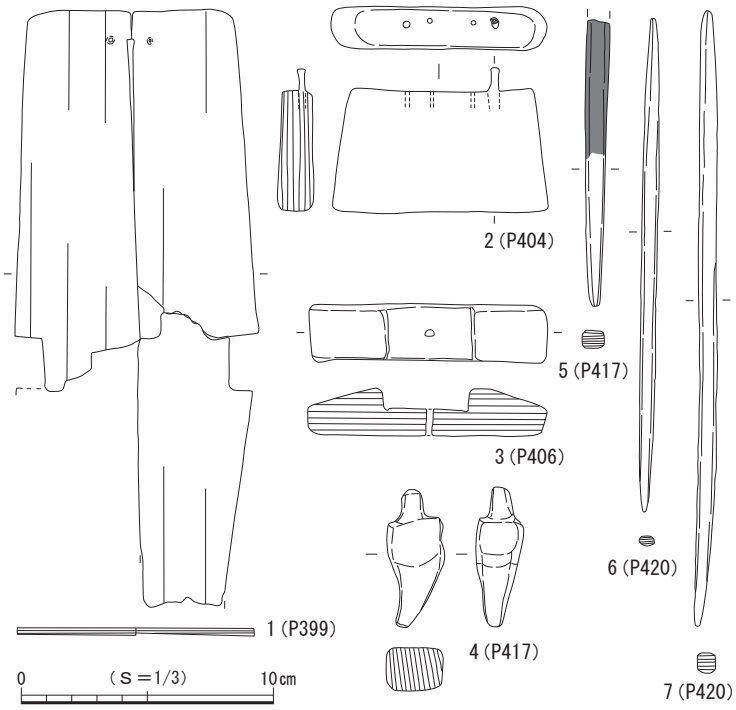


図87　第４面 ピット出土遺物

１はピット399、２はピット404、３はピット406、４・５はピット417、６・７はピット420からそれぞれ出土した。

（６）第４面 遺構外出土遺物（図88～94）

第４面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち216点を図示した。

１は白かわらけ、２～45はロクロ成形によるかわらけで、３・12・13・16～18・20・22・23・27・29・32・37の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。46はかわらけを転用した円盤状の製品である。47は土錘である。48・49は龍泉窯系青磁で、48は碗でⅡ－ｂ類に比定される。49は盤である。50は瀬戸産の入子で古瀬戸中期様式に比定される。51～58は常滑産の陶器類である。51～55は甕で６ａ～７型式、56・57は片口鉢Ⅰ類で６ａ型式、58は片口鉢Ⅱ類で６ａ～６ｂ型式に比定される。59・60は常滑産の甕破片を転用した摩耗陶片である。61は土師質・瓦質土器類の台と思われる製品である。62は温石である。63は骨角製の笄である。

64～84は金属製品である。64～68は刀子（小刀）、69は鑿、70は錐、71は角釘で朱が付着している。72は用途不明である。73～84は銭貨で、73は開元通寶（621年初鋳）、74は周元通寶（955年初鋳）、75は祥符元寶（1008年初鋳）、76は皇宋通寶（1038年初鋳）、77は至和通寶（1054年初鋳）、78は嘉祐通寶（1056年初鋳）、79は治平元寶（1064年初鋳）、80・81は元豊通寶（1078年初鋳）、82は元祐通寶（1086年初鋳）、83は聖宋元寶（1101年初鋳）、84は政和通寶（1111年初鋳）である。

85～216は木製品で、その中で85～99・167・205は漆製品となる。85～88は皿、89・90は椀、91は鉢、92は蓋、93～95・136は膳、96は調度具、97は櫛、98・99・190～212は用途不明である。100～120は箸状、121～124は経木折敷、125～133は曲物、134は板杓子、135は盆、137～139は栓、140・141は部材、142は燭台、143～148は火きり棒、149～157は草履芯、158は下駄、159～163は建築部材、164は杭、165は夾纈、166～169は円盤状である。170・171は刷毛、172～178は篦、179は鞘、180～188は串状、189は棒状、190～212は用途不明、213～215は形代、216は球である。

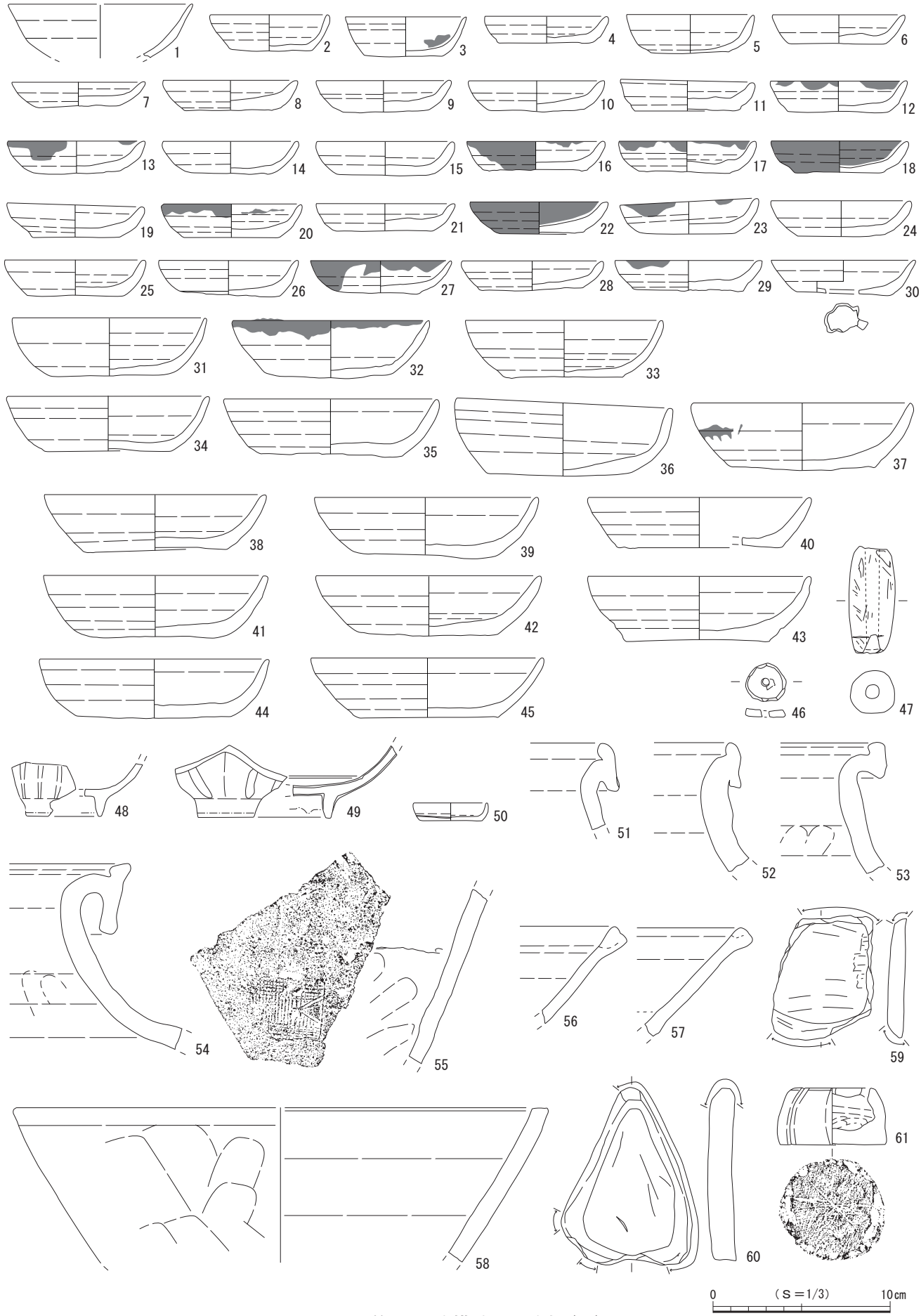


図88　第４面 遺構外出土遺物（１）

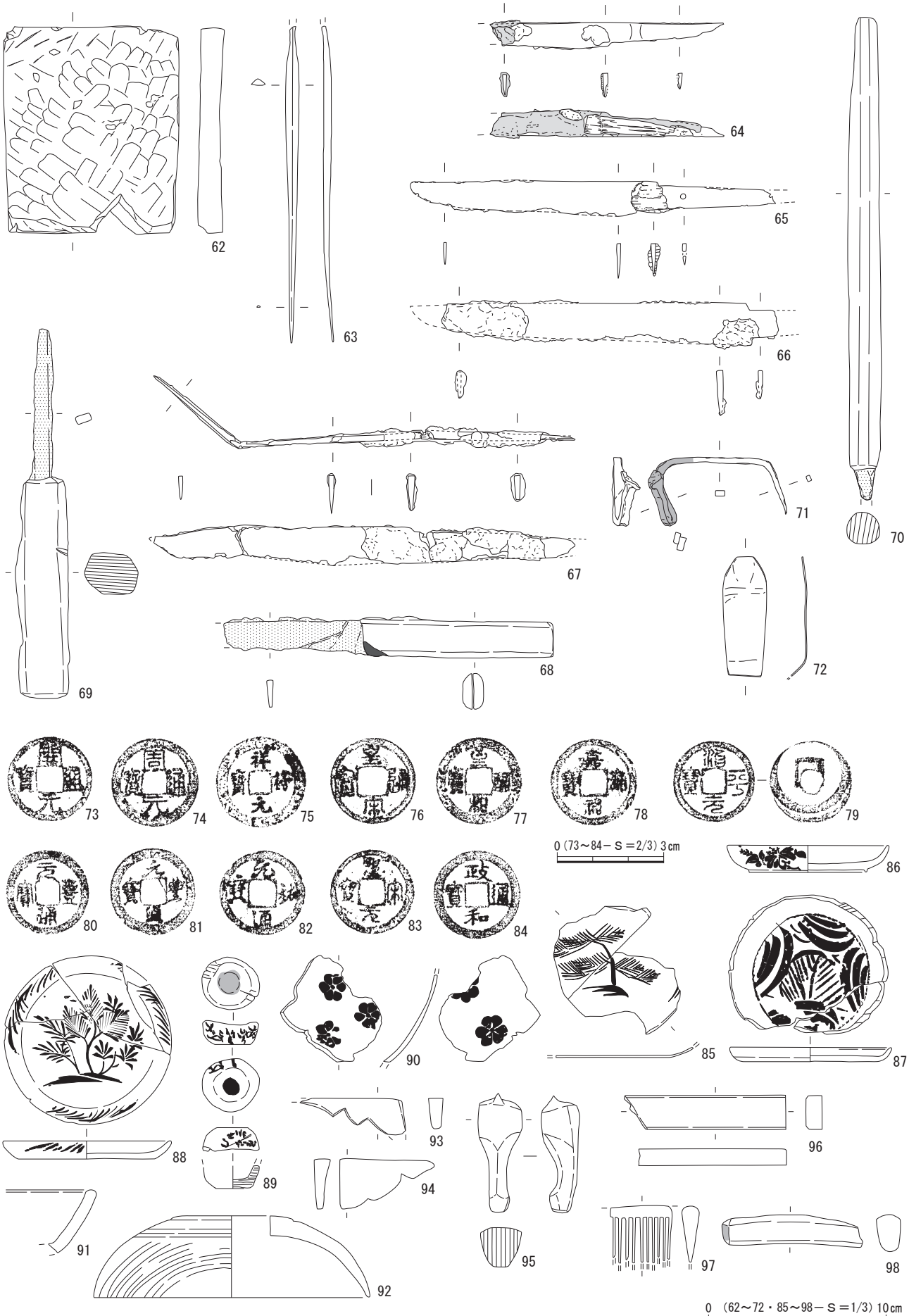


図89　第４面 遺構外出土遺物（２）

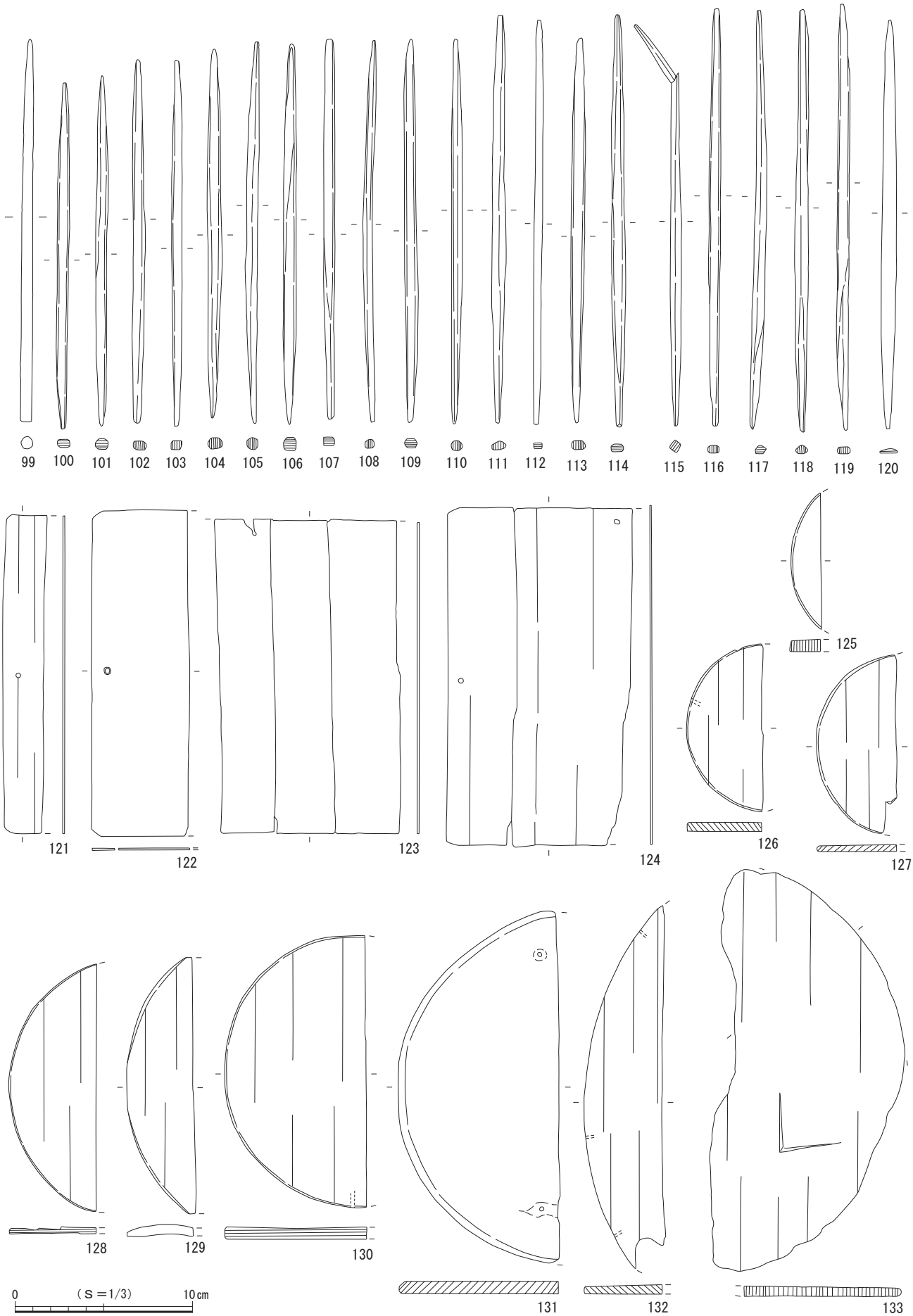


図90　第４面 遺構外出土遺物（３）

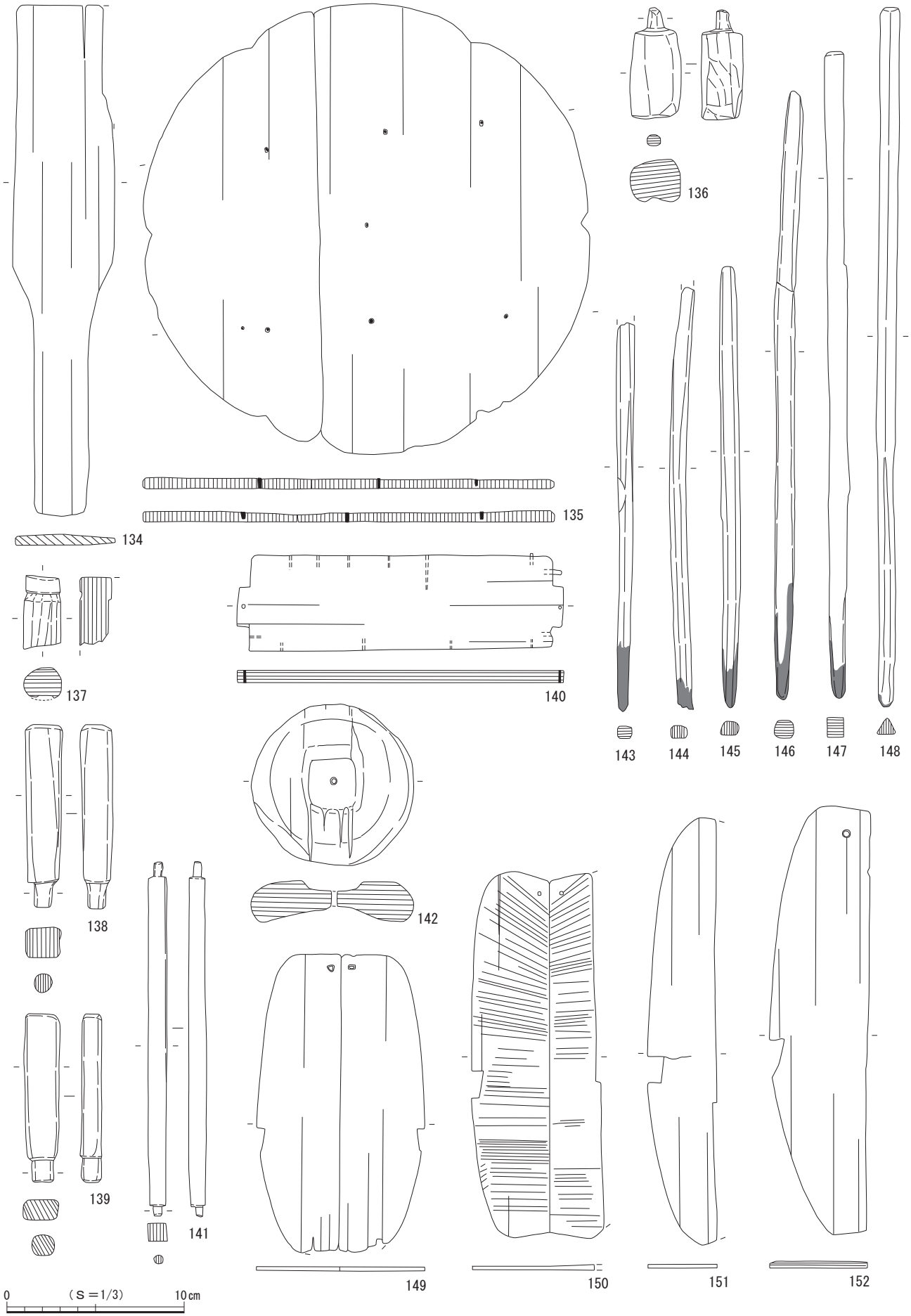


図91　第４面 遺構外出土遺物（４）

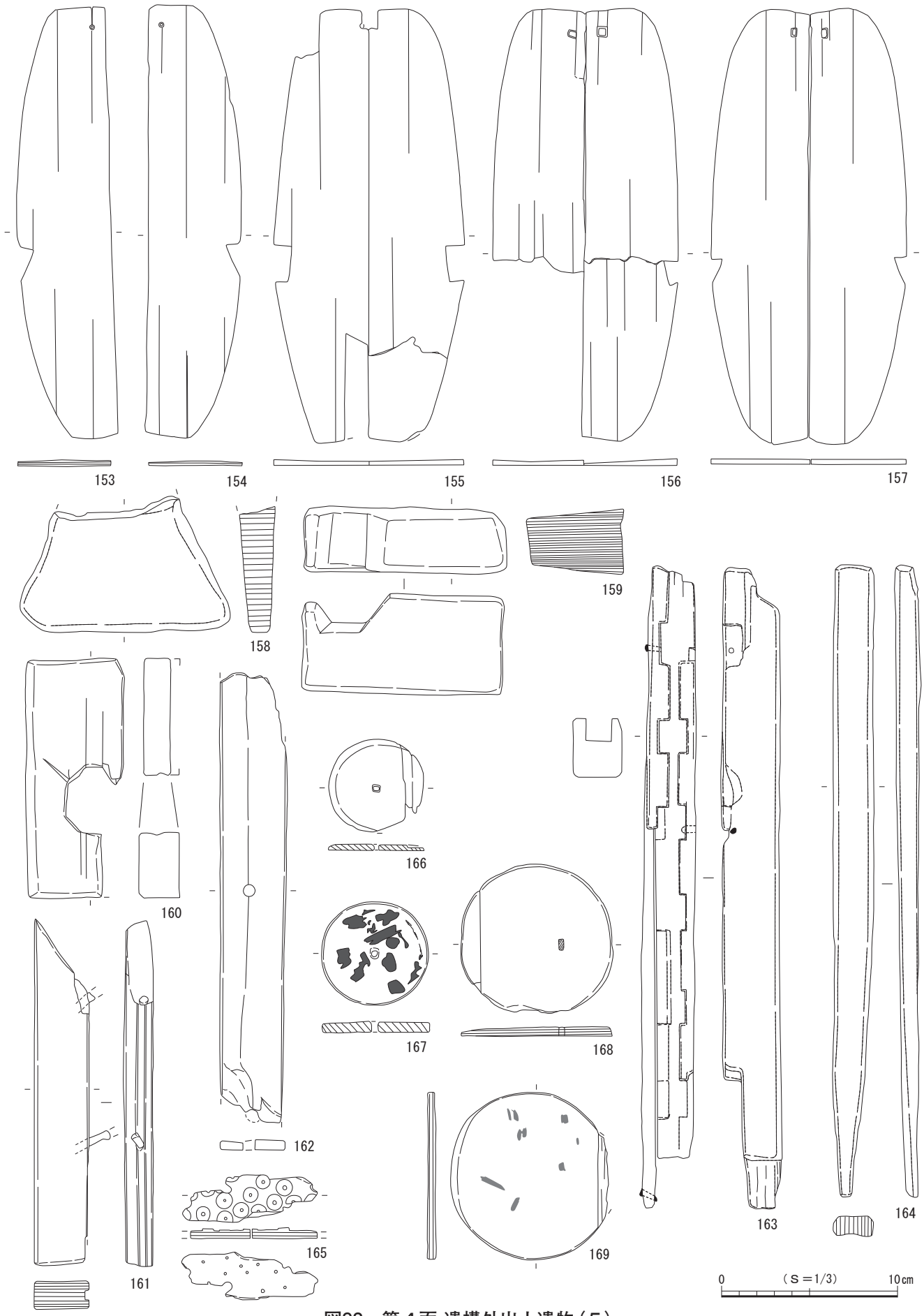


図92　第４面 遺構外出土遺物（５）

図93　第４面 遺構外出土遺物（６）

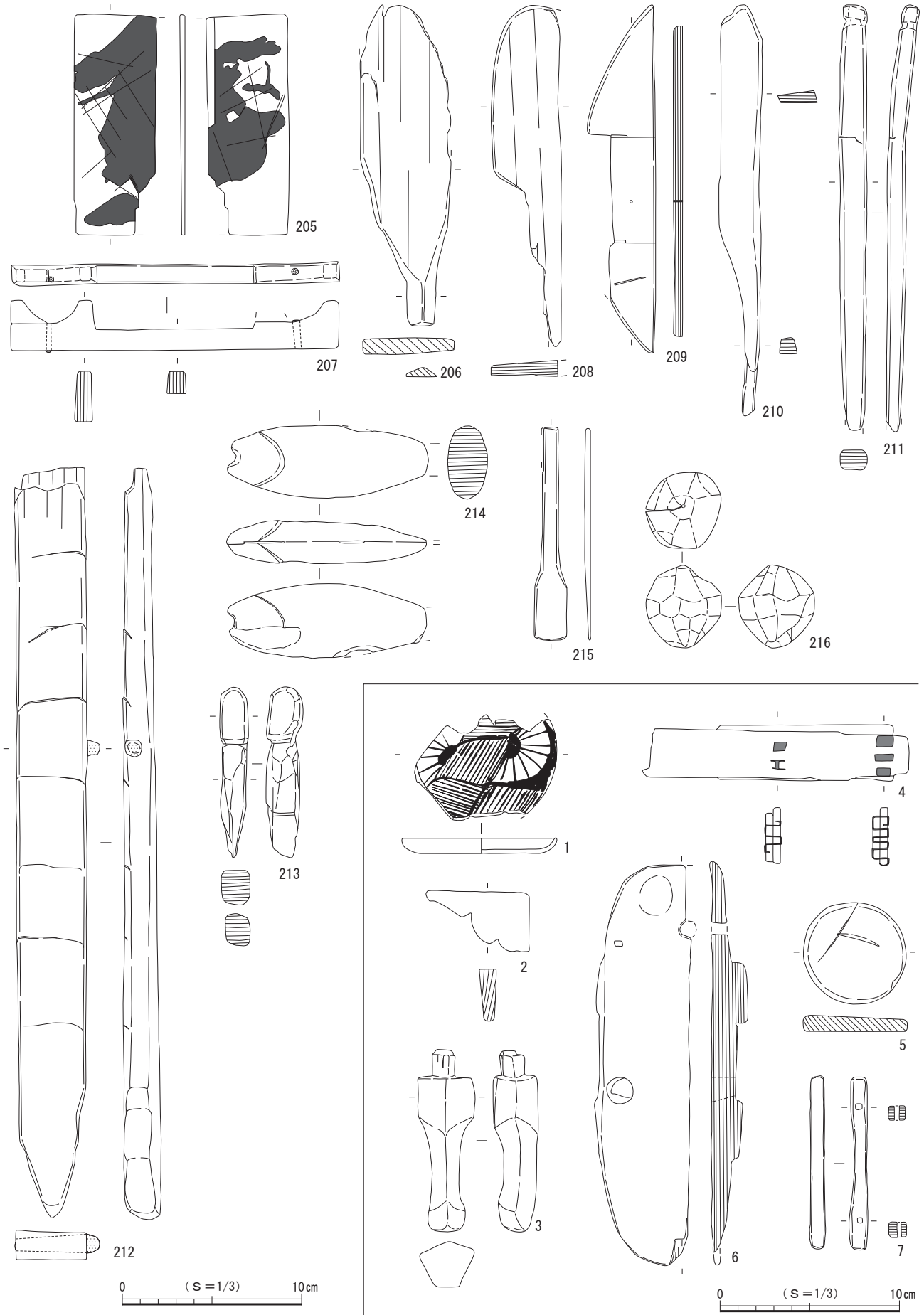


図94　第４面 遺構外出土遺物（７）

図95　第４面 構成土出土遺物

（７）第４面 構成土出土遺物（図95）

第４面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち７点を図示した。

１～７は木製品で、その中で１～３は漆製品となる。１は皿、２・３は膳、４・５は曲物、６は連歯下駄、７は用途不明である。

第５節　第５面の遺構と遺物

第５面の遺構は堆積土層の26・27層上面で検出され、確認面の標高は約18.7ｍを測る。26層は暗黄褐色砂質土を主体とする整地層、27層は黄褐色砂質土を主体とする整地層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎石・礎板建物１棟、板壁建物１棟、溝状遺構２条、土坑19基、ピット58基である（図96）。調査区全域にわたって遺構が密に分布し、このうち主体となる遺構は礎石・礎板建物と板壁建物で、第４面で検出された礎石・礎板建物よりも主軸方位が西側に振れて展開している。また、遺構間の重複が認められることから、同一面において新旧関係をもって構築された遺構群と考えられる。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

（１）礎石・礎板建物

礎石・礎板建物３（図97・98）

調査区の中央から南側にかけて位置する。建物の広がりをピットの配置から推定すると、南側と西側は調査区内に収まり、北側と東側は調査区外に展開している可能性がある。調査区内では11本のピットと礎板のみ４基（Ｐ11・Ｐ12・Ｐ15・Ｐ16）を検出し、柱が立った状態で検出されたピットは１本（Ｐ４）、礎板をもつピットは７本（Ｐ２・Ｐ５～Ｐ８・Ｐ10・Ｐ16）、礎石をもつピットは１本（Ｐ１）である。

柱間や柱の配置から本址の構造を推定すると、大きく主体部と縁側や出入り口などの付帯施設とに分けることができる。現状では北西－南東方向の現存長5.0ｍ、北東－南西方向の現存長4.1ｍを測る。Ｐ１～Ｐ４とＰ７～Ｐ９は、建物主体部の外縁にあたる付帯施設に伴うピットと考えられ、北東－南西方向が４間以上で心々間の柱間寸法は北東側から1.2ｍ、0.9ｍ、1.2ｍ、北西－南東方向が３間以上で柱間寸法は北西側から1.6ｍ、1.1ｍを測る。建物の主体部は北東－南西方向が３間以上、北西－南東方向が２間以上であるがピットの配置は規格性に乏しく、北東－南西方向列の柱間寸法は南側からＰ10からＰ12が1.5ｍ、1.3ｍ、Ｐ15からＰ17が0.9ｍ、1.5ｍ、Ｐ５とＰ６が2.3ｍと不規則であり一定しない。また、北西－南東方向列での柱間寸法は西側からＰ10とＰ17間が2.8ｍを測る。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－29°－Ｅである。

ピットの平面形は円形と楕円形、隅丸方形がみられ、規模は長軸40～69㎝、深さ３～44㎝と幅がある。礎板の大きさは長さ16～35㎝、幅５～14㎝、厚さ２～３㎝、礎石は長さ27㎝であり、標高は礎板と礎石上面で18.59～18.86ｍ、ピット底面で18.49～18.76ｍを測る。

本址の中央から南東側にかけて北西－南東方向に細長く延びる現存長3.8ｍ、幅1.0ｍの木組遺構が検出され、南東側の調査区外へと続いている。長さ40～65㎝の横板を打ち込み杭で固定した構造で、西側にはごく浅い掘り込みが認められた。内部からは十文字に置かれた敷板の上面に径44㎝の大形の曲物が設置された状態で出土し、こうした状況から、木組遺構は建物に付随する床下施設の可能性が推定される。

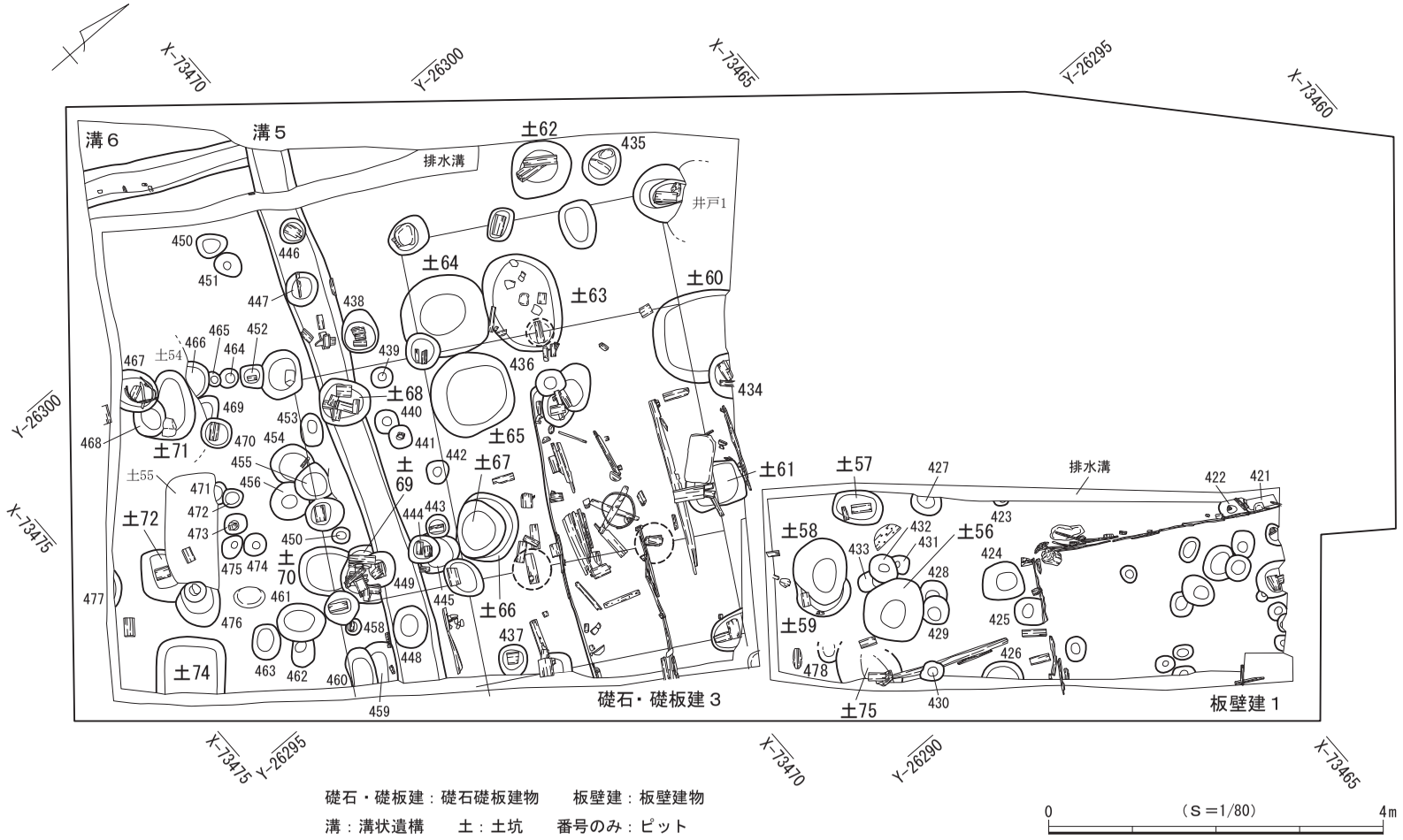


図96　第５面 遺構分布図

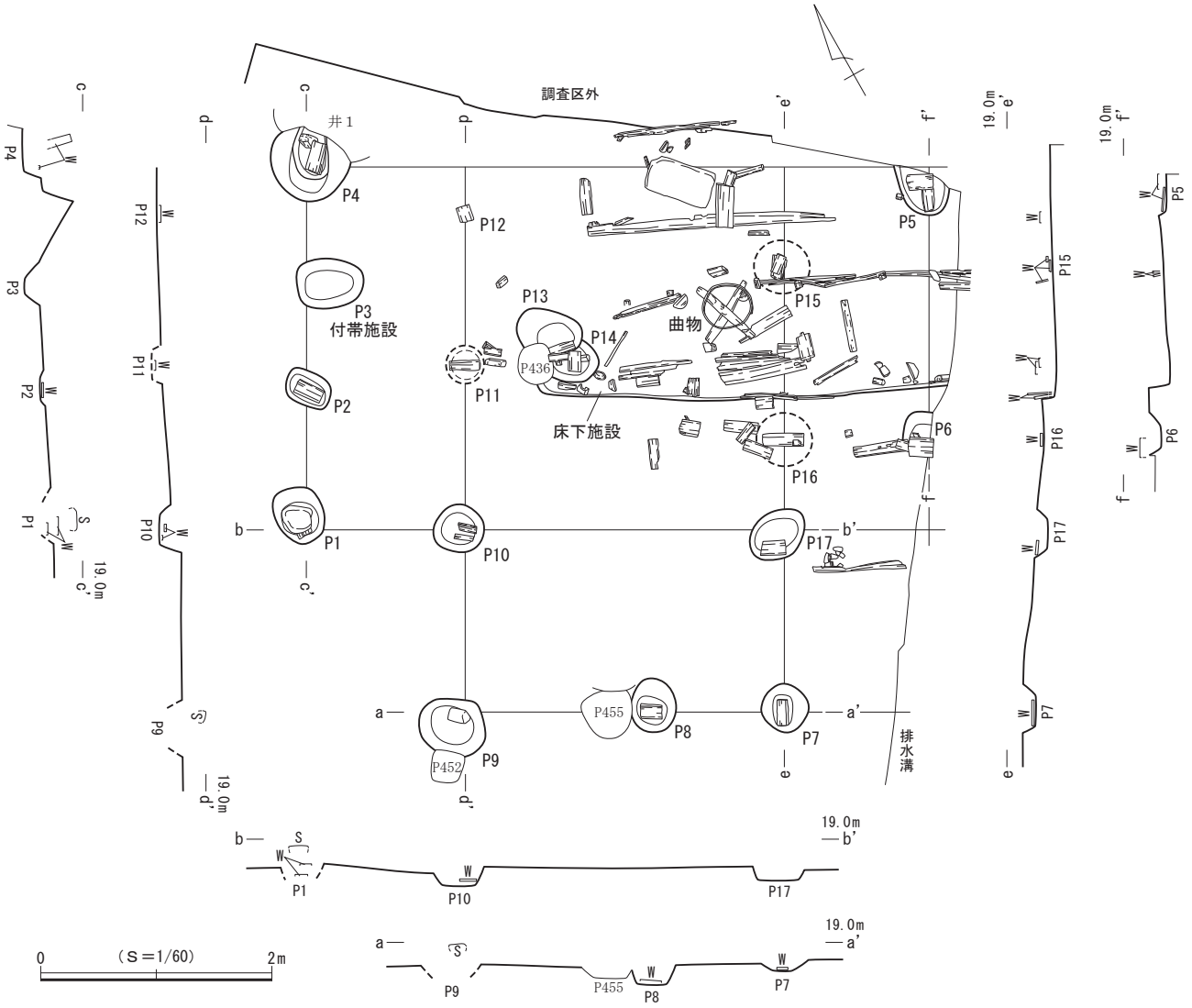
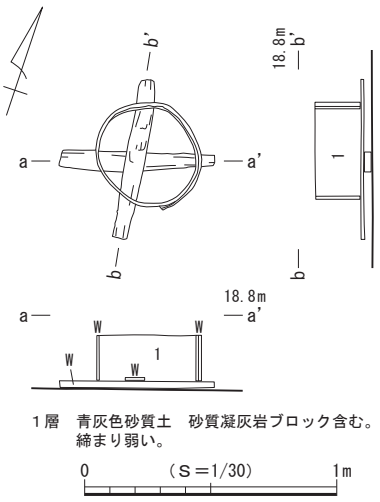


図97　第５面 礎石・礎板建物３



１層　青灰色砂質土　砂質凝灰岩ブロック含む。
締まり弱い。

図98　第５面 礎石・礎板建物３出土曲物

出土遺物（図99）

遺物はかわらけ62点、磁器１点、陶器17点、土製品１点、瓦１点、石製品１点、金属製品２点、木製品７点が出土し、このうち９点を図示した。

１は龍泉窯系青磁坏で坏Ⅲ－１ａ類に比定される。２・３は常滑産の陶器類である。２は甕、３は片口鉢Ⅱ類で７型式に比定される。４は土錘である。５・６は角釘である。７～９は木製品で、７は曲物、８・９は７の曲物の下に×状に敷かれていた曲物敷板である。

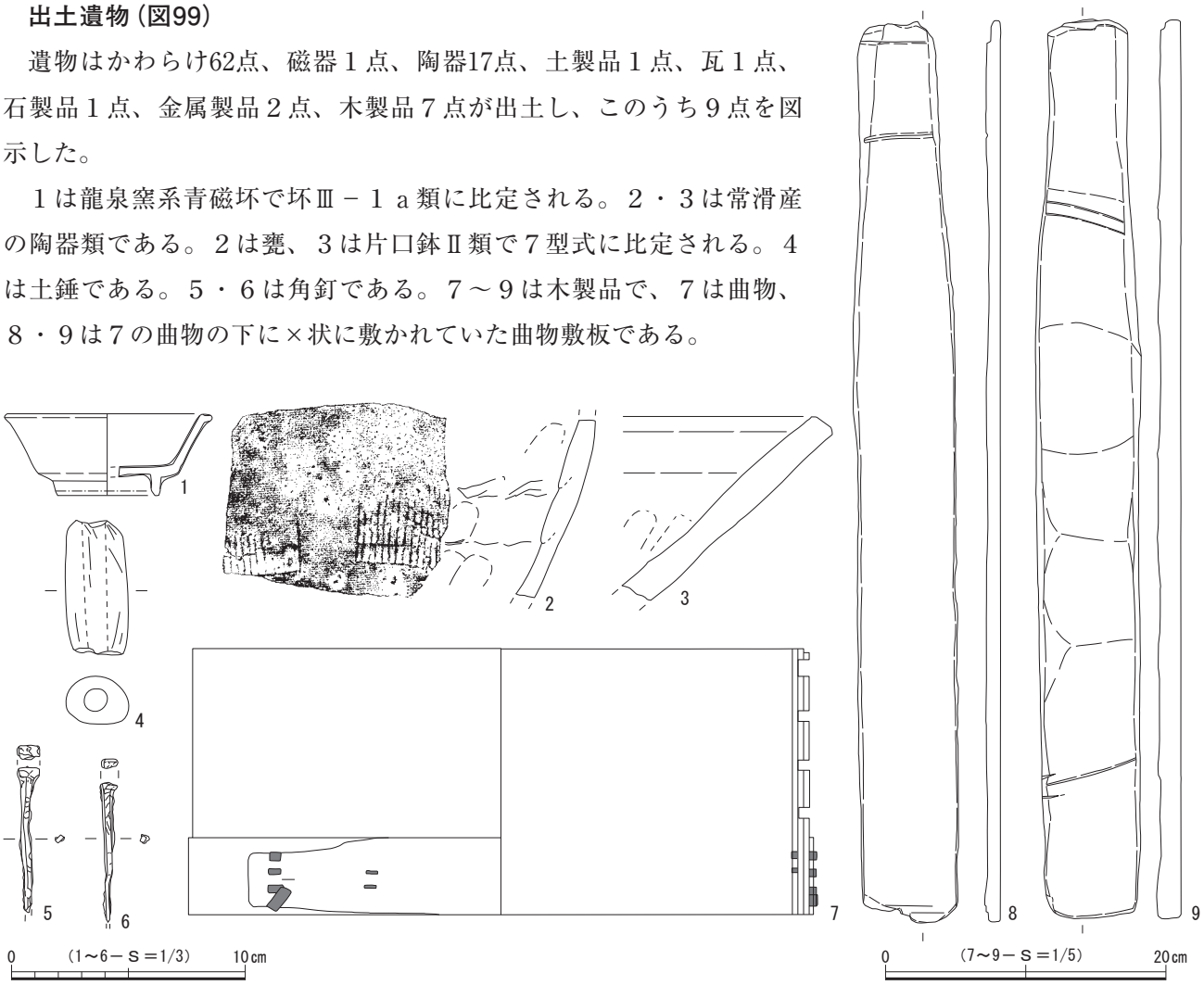


図99　第５面 礎石・礎板建物３出土遺物

（２）板壁建物

板壁建物１（図100）

調査区の北東隅に位置する。南側でピット425、北西側でピット421・422と重複して壊し、北側と東側は調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまるため建物の平面形や規模の詳細は判然としない。長さ約25～75㎝の横板を渡して杭で固定した板壁が南側と西側に確認され、規模は南北現存長2.90m、東西現存長1.80mを測る。内部からは17基のピットが検出されたが、調査範囲内では規則的な配置は認められなかった。ピットの

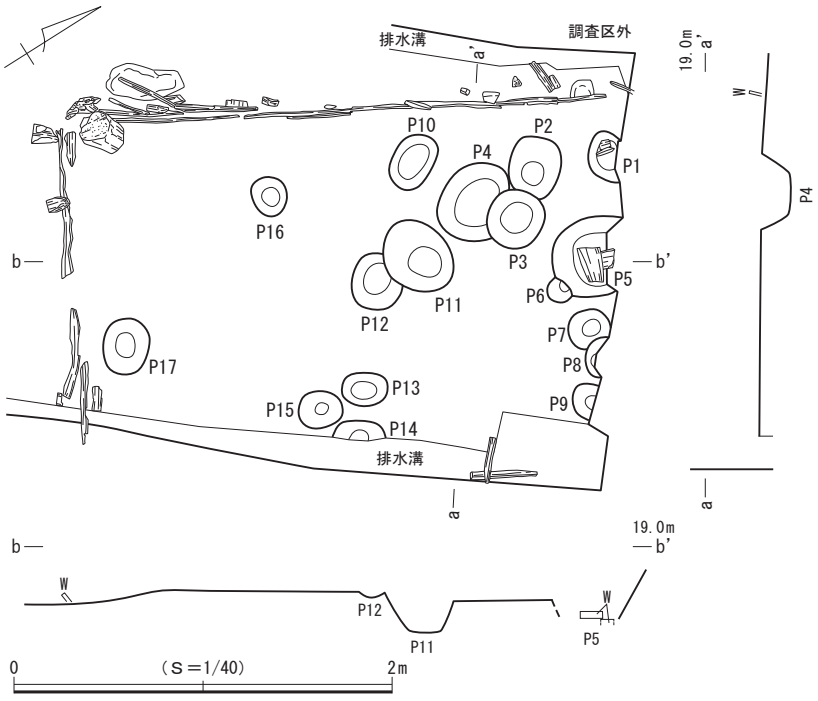


図100　第５面 板壁建物１

平面形は円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸19～43㎝、深さ３～21㎝である。Ｐ１とＰ５からは礎板が出土し、大きさは長さ10㎝と18㎝、幅６㎝と12㎝を測る。主軸方位はＮ－30°－Ｅを指す。

出土遺物（図101・102）

遺物はかわらけ70点、磁器５点、陶器28点、土師質・瓦質土器１点、瓦３点、石製品２点、木製品15点が出土し、このうち16点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけで、２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。３は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅲ類に比定される。４～16は木製品である。４～７は箸状、８・９は曲物、10は板杓子、11・12は草履芯、13は火きり棒、14・15は串状、16は用途不明である。

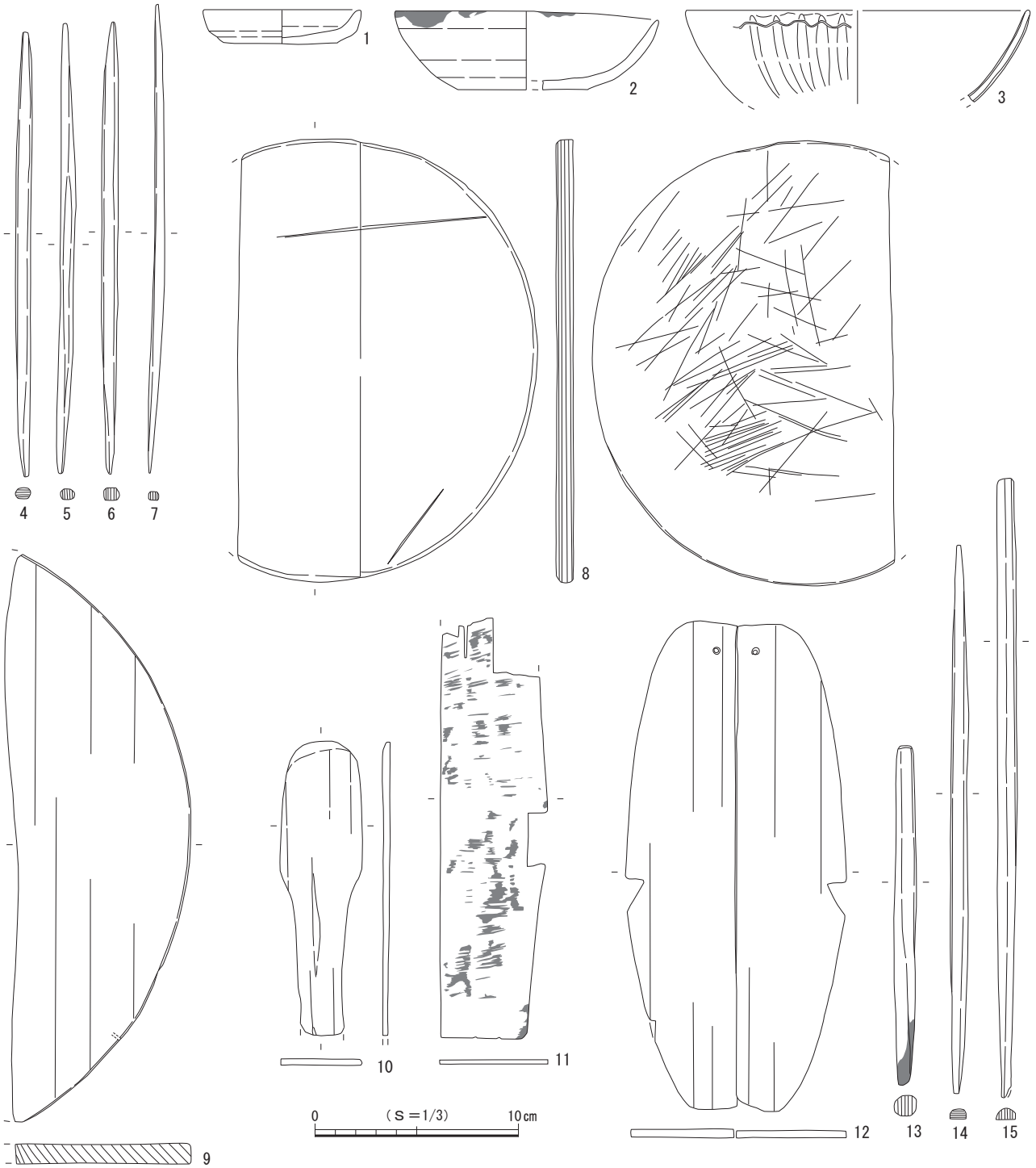


図101　第５面 板壁建物１出土遺物（１）

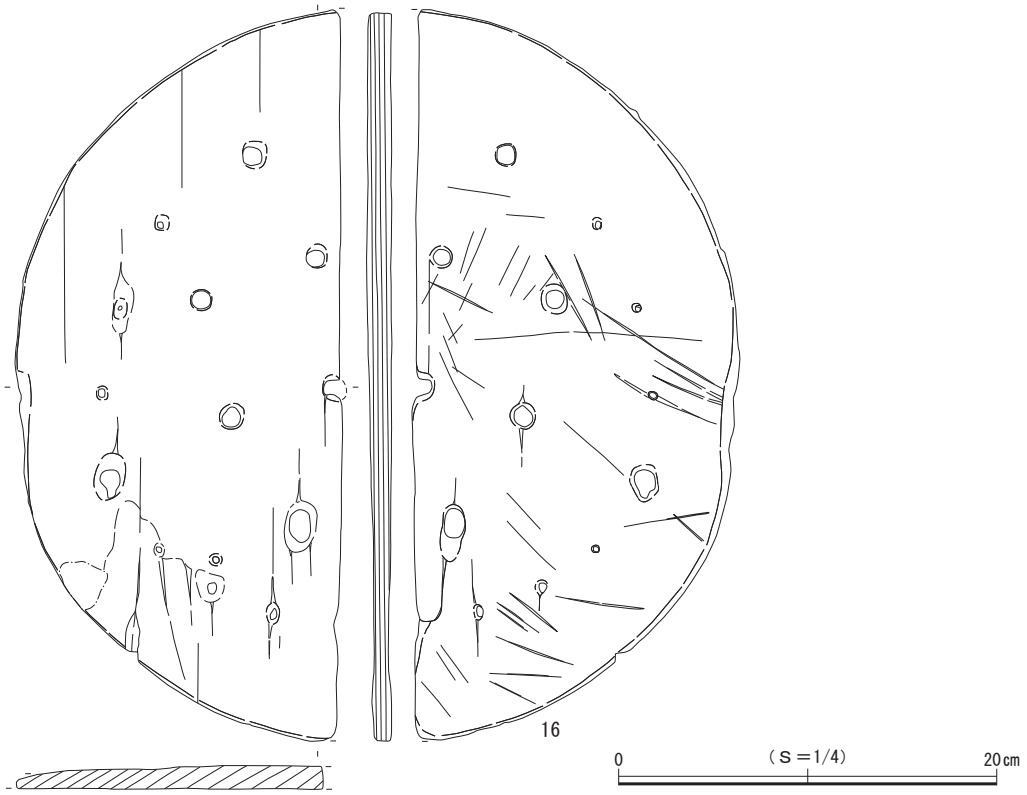


図102　第５面 板壁建物１出土遺物（２）

（３）溝状遺構

溝状遺構５（図104）

調査区の南側に位置し、東西方向におおむね直線的に横断して調査区外の東西側に続いている。調査区内では土坑68、ピット438・444・446～449と重複して壁や底面の一部が壊されている。検出した規模は現存長約6.6m、幅40～60㎝、深さ６～14㎝を測り、主軸方位はＮ－66°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、底面の標高は東西側とも18.66mを測る。本址は西側で溝状遺構６と直交しており、関連をもつ可能性が考えられる。

出土遺物（図103）

遺物はかわらけ21点、磁器１点、陶器７点、金属製品１点、木製品12点が出土し、このうち７点を図示した。

１は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ類に比定される。２は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。３は角釘である。４～７は木製品で、４～６は箸状、７は用途不明である。

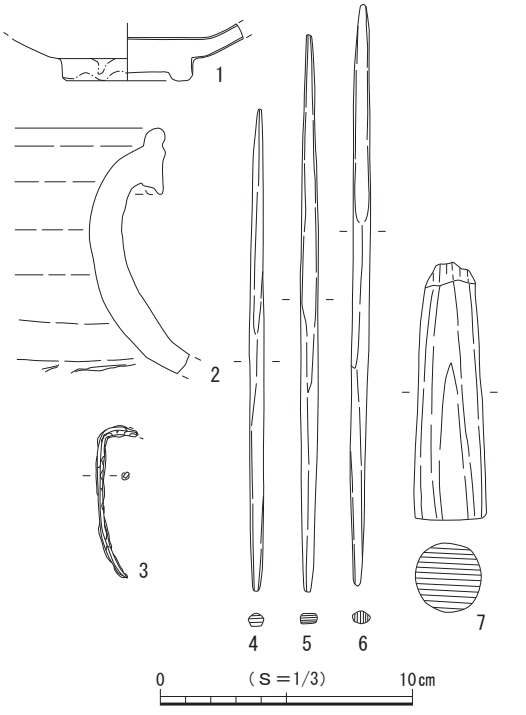


図103　第５面 溝状遺構５出土遺物

溝状遺構６（図104）

調査区の南西隅に位置し、調査区外の南北側に続いている。調査区内では北側で溝状遺構５と重複して壊され、南北方向におおむね直線的に延びる。検出した規模は現存長約2.0m、幅30～40㎝、深さ14

cmを測り、主軸方位はN－28°－Eを指す。壁は開いて立ち上がり、東壁際には杭が４本打ち込まれた状態で残存しており、使用時には杭を用いた護岸を伴っていた可能性がある。断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平らで、底面の標高は18.70mを測る。本址は北側で溝状遺構５と直交しており、関連をもつ可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

（４）土　坑

土坑56（図108）

調査区中央の北東側に位置する。北側でピット428・429、西側でピット432・433と重複して壁の一部を壊している。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77cm、短軸74cm、深さ28cmで、坑底面の標高は18.42mを測る。

出土遺物（図105）

遺物は木製品１点が出土し、それを図示した。

１は漆製品の皿である。

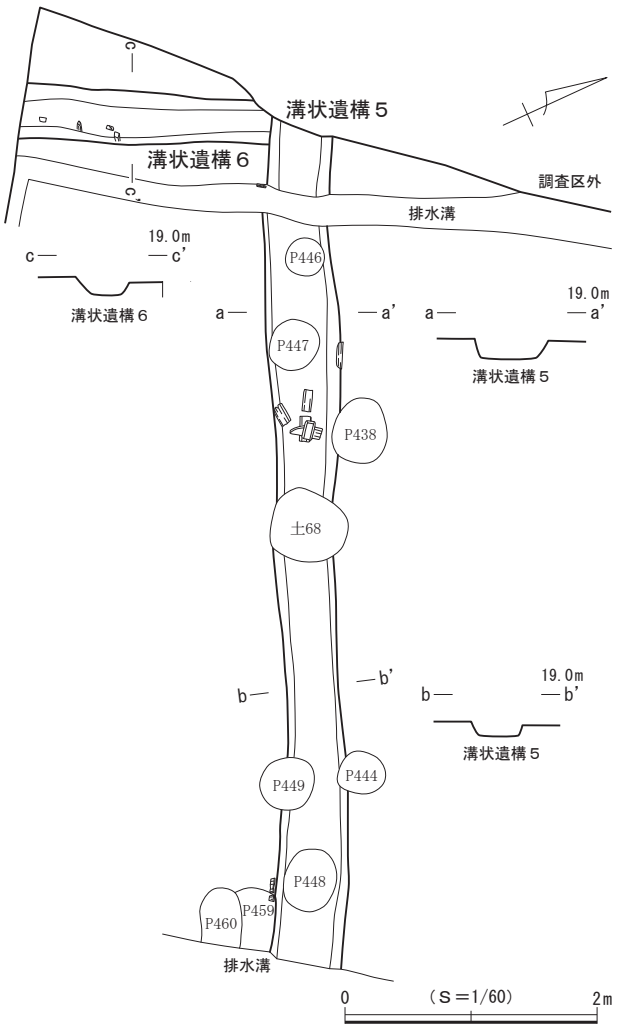


図104　第５面 溝状遺構５・６

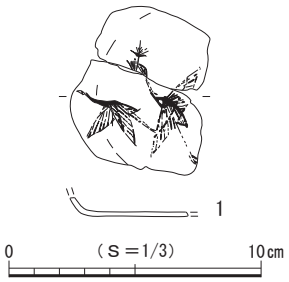


図105　第５面 土坑56出土遺物

土坑57（図108）

調査区中央の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸60cm、短軸41cm、深さ９cmで、坑底面の標高は18.55mを測る。主軸方位はN－46°－Eを指す。中央および南壁寄りから板材が出土し、大きさは長さ25cm、幅10cm、厚さ５cmと長さ17cm、幅７cm、厚さ２cmで、上面の標高は18.70mと18.63mを測る。それぞれ底面から９cmと４cm上方に水平に据えられており、礎板の可能性が推定される。

遺物はかわらけ１点、陶器２点が出土した。

土坑58（図108）

調査区中央の北東側に位置する。東側で土坑59と重複して大半の部分を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸80cm、短軸63cm、深さ27cmで、坑底面の標高は18.39mを測る。主軸方位はN－56°－Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑59（図108）

調査区中央の北東側に位置する。西側で土坑58と重複して大半の部分を壊されており、全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。残存部の底面は平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形と推定される。規模は南北61㎝、東西現存長68㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は18.57ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑60（図108）

調査区中央の西側に位置する。東側でピット434と重複して壁と底面の一部が壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い形状を呈する。規模は北東－南西方向の現存長86㎝、北西－南東1.10ｍ、深さ50㎝で、坑底面の標高は18.12ｍを測る。主軸方位はＮ－38°－Ｅを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑61（図108）

調査区中央の東側に位置する。礎石・礎板建物３の範囲内にあり、同遺構に伴うと考えられる板材との重複関係から推定すると、本址のほうが時期的に古く位置づけられる。平面形は隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70㎝、短軸53㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は18.87ｍを測る。主軸方位はＮ－22°－Ｅを指す。南壁寄りから長さ12㎝、幅５㎝、厚さ２㎝の板材が出土し、底面に対してやや斜めの状態であるが礎板の可能性が推定される。上面の標高は18.91ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑62（図108）

調査区の西壁際に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77㎝、短軸69㎝、深さ35㎝で、坑底面の標高は18.30ｍを測る。中央から板材が２枚出土し、大きさはそれぞれ長さ40㎝、幅10㎝と長さ35㎝、幅10㎝で、上面の標高はともに18.50ｍを測り、礎板の可能性が推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑63（図108）

調査区中央の南西側に位置する。南側で土坑64と重複して壁の一部を壊している。本址の検出面からは礎石・礎板建物３の礎板が出土しており、建物よりも時期的に古く位置づけられる。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.25ｍ、短軸91㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は18.50ｍを測る。主軸方位はＮ－62°－Ｗを指す。

出土遺物（図106）

遺物はかわらけ17点、陶器８点、木製品３点が出土し、このうち４点を図示した。

１・２は常滑産の甕で６ａ～７型式に比定される。３・４は木製品で、３は曲物、４は串状である。

土坑64（図108）

調査区中央の南西側に位置する。北側で土坑63、南側で礎石・礎板建物３のピットと土坑65と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.03m、短軸97cm、深さ47cmで、坑底面の標高は18.28mを測る。

遺物はかわらけ３点、陶器３点、木製品２点が出土した。

土坑65（図108）

調査区中央の南側に位置する。西側で土坑64と重複して壁の一部を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径98cm、深さ32cmで、坑底面の標高は18.40mを測る。

出土遺物（図107）

遺物は陶器７点、木製品８点が出土し、このうち３点を図示した。

１～３は木製品で、その中で１・２は漆製品である。１は皿、２は折敷、３は箸状である。

土坑66（図108）

調査区の南東側に位置する。土坑67と入れ子状に重複して大半が失われ、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、残存する底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸81cm、短軸現存長64cm、深さ22cmで、坑底面の標高は18.48mを測る。主軸方位はN－35°－Wを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑67（図108）

調査区の南東側に位置する。土坑66と入れ子状に重複して大半を壊し、南側でピット445と

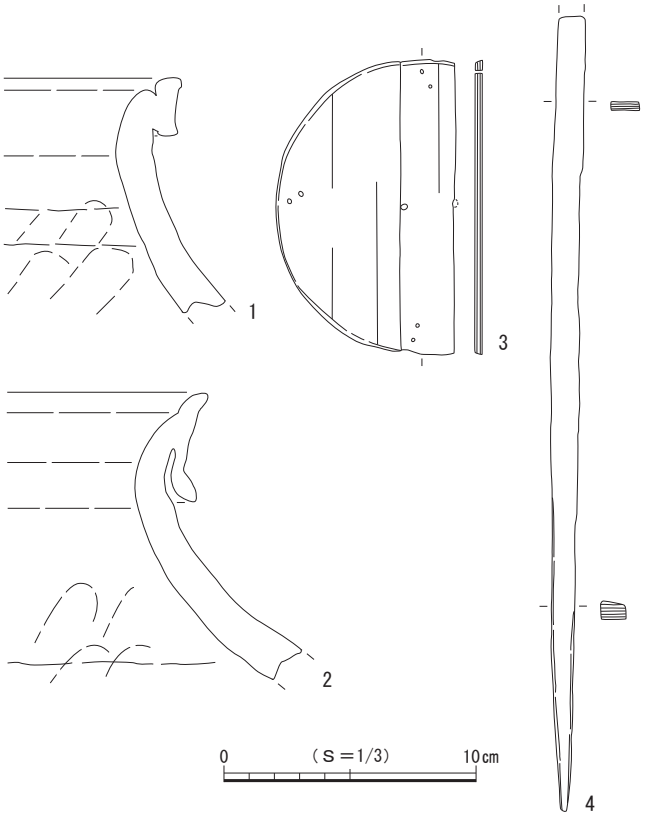


図106　第５面 土坑63出土遺物

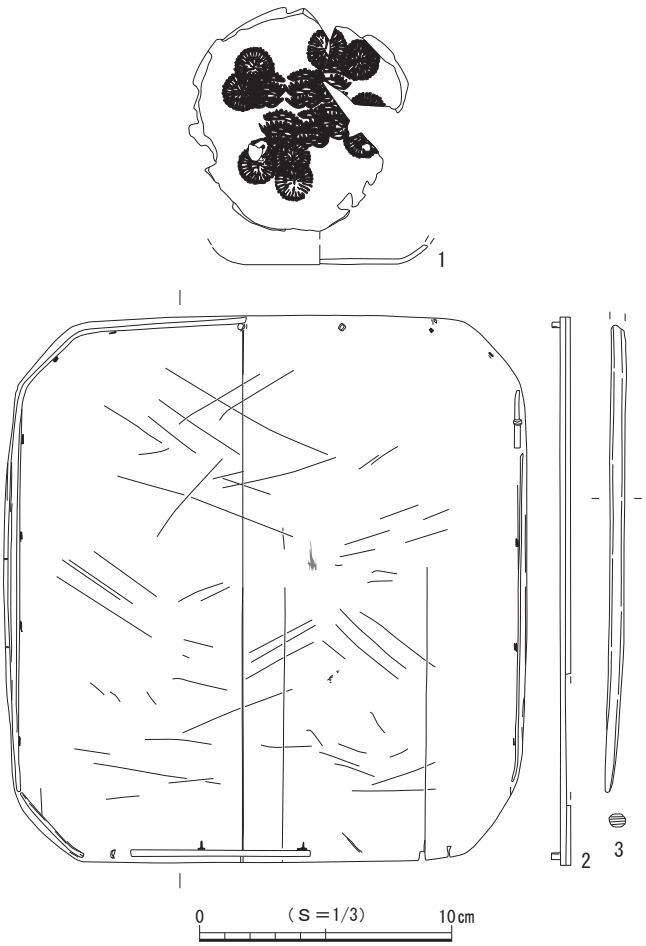


図107　第５面 土坑65出土遺物

重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。南壁はわずかに開いて立ち上がり、北壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸66㎝、短軸58㎝、深さ36㎝で、坑底面の標高は18.36ｍを測る。

遺物はかわらけ17点、陶器８点、木製品４点が出土した。

土坑68（図108）

調査区の南側に位置する。溝状遺構５と重複して底面と壁の一部を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸60㎝、短軸55㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は18.60ｍを測る。板材が７枚出土し、このうち４枚は重なり合っていた。大きさは長さ12～20㎝、幅７～14㎝、厚さ２～３㎝で、上面の標高は18.62～18.78ｍを測り、礎板の可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

土坑69（図108）

調査区の南側に位置する。北側で溝状遺構５、ピット449、南側で礎石・礎板建物３のピットと重複して壁と底面を壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69㎝、短軸現存長47㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は18.57ｍを測る。主軸方位はＮ－36°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑70（図108）

調査区の南東側に位置する。北東側で土坑69、東側で礎石・礎板建物３のピットと重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長52㎝、短軸60㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は18.65ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指すと推定される。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑71（図96）

調査区南壁際の中央に位置する。南側でピット467・468と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。底面の標高に関する記録が残されていないため、個別図は掲載しなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、規模は長軸83㎝、短軸現存長43㎝を測る。主軸方位はＮ－43°－Ｗを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑72（図96）

調査区の南隅に位置する。北側で土坑55・73、ピット476と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。底面の標高に関する記録が残されていないため、個別図は掲載しなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形ないし楕円形と考えられ、規模は南北現存長54㎝、東西66㎝を測る。

遺物は出土しなかった。

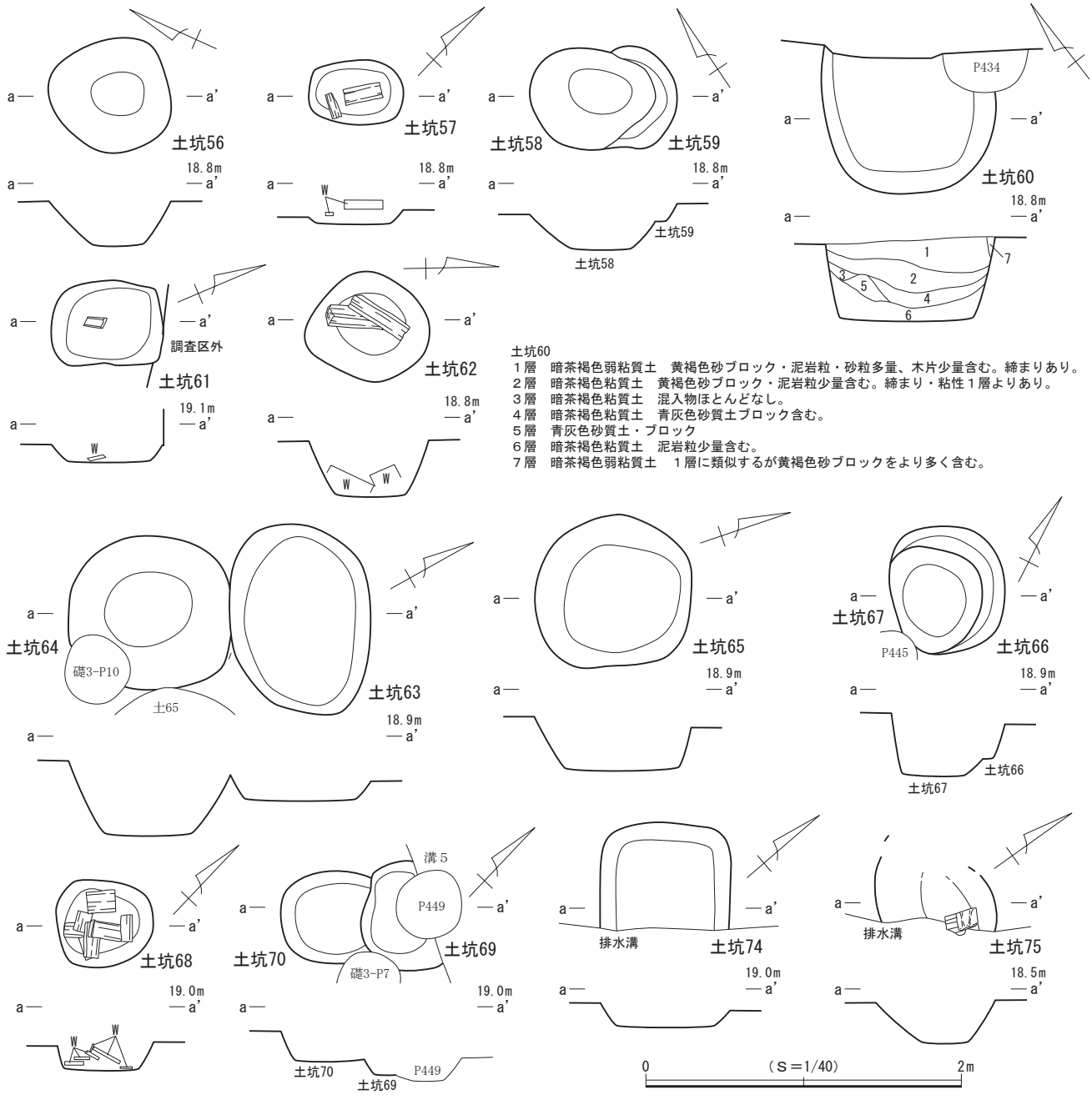
土坑74（図108）

調査区の南隅に位置する。他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形ないし隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北東－南西82㎝、北西－南東方向の現存長67㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は18.77ｍを測る。主軸方位はＮ－48°－Ｗを指すと推定される。なお、本址の底面直上から箸が束の状態で出土しており、おそらく袋状のものに収納されて廃棄あるいは埋納されたと推定される。

出土遺物（図109）

遺物はかわらけ５点、木製品56点が出土し、このうち14点を図示した。

１～14は木製品である。１～11は箸状、12～14は串状である。



土坑60
１層　暗茶褐色弱粘質土　黄褐色砂ブロック・泥岩粒・砂粒多量、木片少量含む。締まりあり。
２層　暗茶褐色粘質土　黄褐色砂ブロック・泥岩粒少量含む。締まり・粘性１層よりあり。
３層　暗茶褐色粘質土　混入物ほとんどなし。
４層　暗茶褐色粘質土　青灰色砂質土ブロック含む。
５層　青灰色砂質土・ブロック
６層　暗茶褐色粘質土　泥岩粒少量含む。
７層　暗茶褐色弱粘質土　１層に類似するが黄褐色砂ブロックをより多く含む。

図108　第５面 土坑56～70・74・75

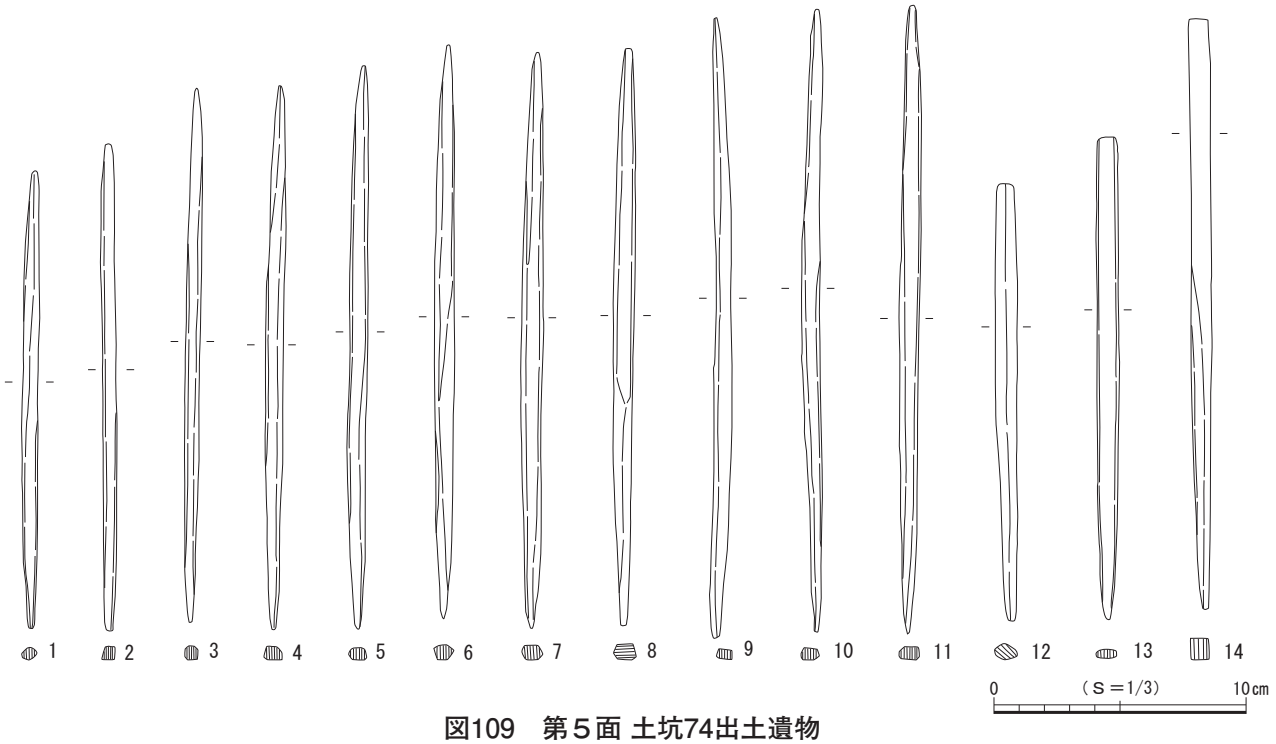


図109　第５面 土坑74出土遺物

土坑75（図108）

調査区東壁際の中央北側に位置する。南側でピット478と重複して壁を壊し、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長76cm、短軸70cm、深さ28cmで、坑底面の標高は18.17ｍを測る。主軸方位はＮ－80°－Ｗを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

（５）ピット

第５面では、58基を検出した。礎石・礎板建物３よりも南側に多く分布するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調と

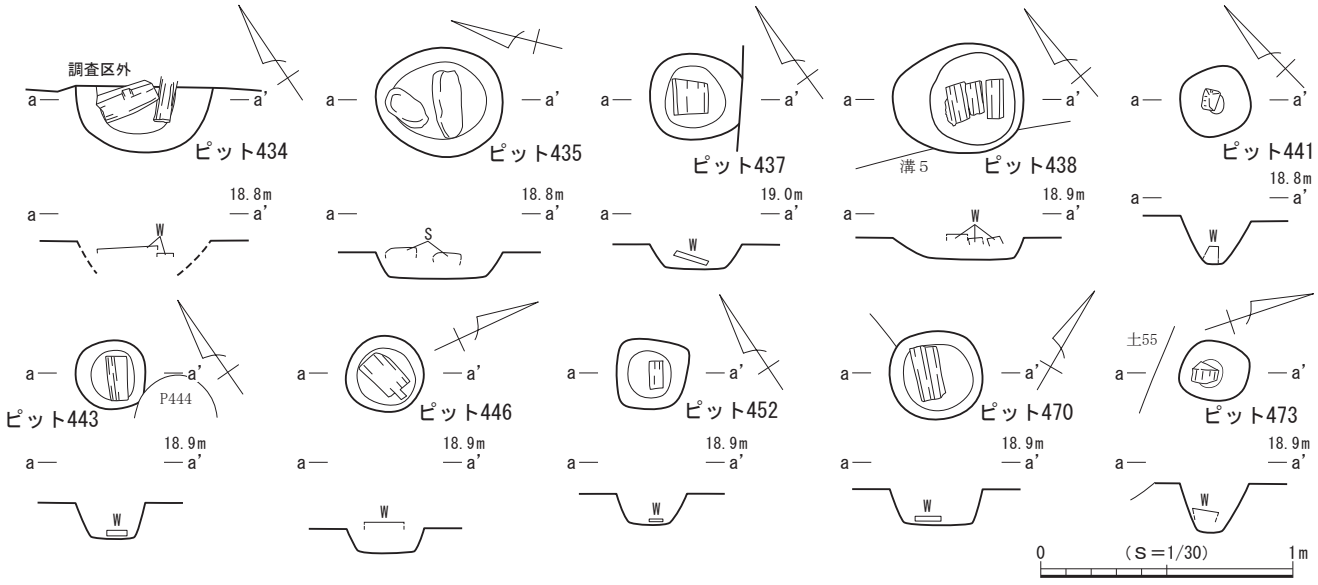


図110　第５面 ピット434・435・437・438・441・443・446・452・470・473

し、規模は長軸17～58㎝、深さ４～33㎝を測る。57基のうち１基のピット（ピット435）に礎石が２基据えられており、礎石の大きさは長さ26㎝、幅12㎝と長さ18㎝、幅10㎝で、上面の標高は18.56ｍと18.58ｍである。また、８基のピット（ピット434・437・438・443・446・452・470・473）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ10～22㎝、幅６～12㎝、上面の標高は18.60～18.87ｍである。柱が立った状態で検出されたピットも１基（ピット441）確認され、柱の太さは方６㎝を測る。なお、礎石や礎板、柱が検出されたピットについては個別図を作成し、図110に図示した。

出土遺物（図111）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち３点を図示した。

１～３は木製品で、その中で１は漆製品となる。１は天目台、２は火きり棒、３は用途不明である。

１はピット441、２・３はピット448からそれぞれ出土した。

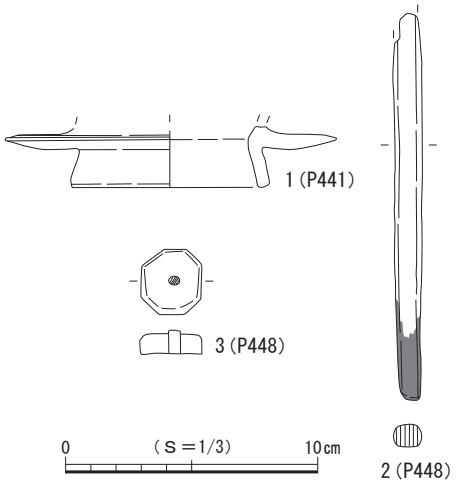


図111　第５面 ピット出土遺物

（６）第５面 遺構外出土遺物（図112）

第５面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち14点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。３は中国産陶器の緑釉盤である。４～６は常滑産の片口鉢Ⅱ類で６ａ～６ｂ型式に比定される。７・８は金属製品で、７は角釘、８は飾金具である。９～14は木製品で、その中で９・10は漆製品となる。９・10は皿、11は判読不明の文字が書かれている墨書板、12は建築部材、13は串状、14は用途不明である。

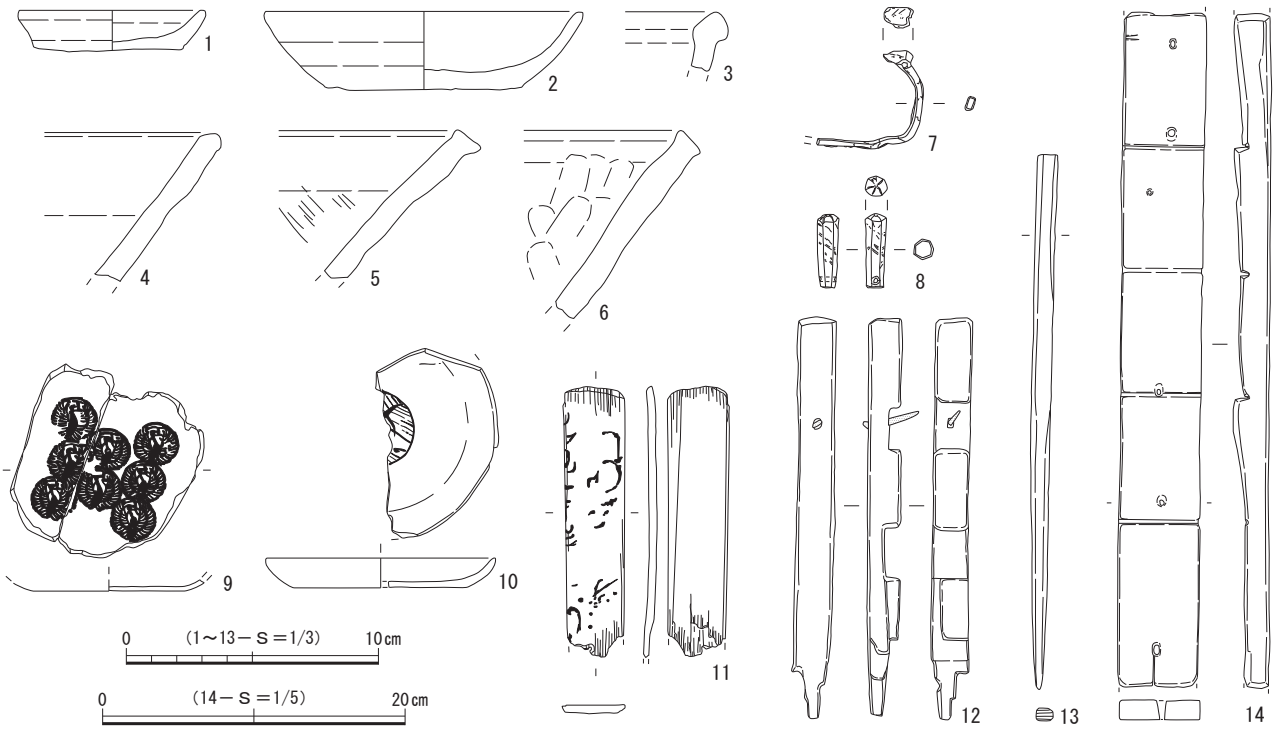


図112　第５面 遺構外出土遺物

第四章　まとめ

今回報告する山ノ内字松岡1323番１、1338番２地点は、「円覚寺門前遺跡（№287）」の範囲内に所在する。本遺跡は鎌倉市の北部域に位置し、その包蔵地範囲はＪＲ横須賀線北鎌倉駅の南西側を北西－南東方向に走る県道21号線の西側に隣接して広がる。地形的には北西方向の大船方面に開けた開析谷の中にあり、調査地点は円覚寺寺域の北限とされ十王堂橋付近から西側へと入り込む小袋谷の支谷、「瓜ヶ谷」の開口部付近に位置する。瓜ヶ谷は奥行き700ｍを測る東側に開口する谷戸で、円覚寺伽藍のある谷戸とは対峙する位置関係にある。

本調査で検出した遺構確認面は第１～５面までの合計５面で、いずれも中世に属する。検出した遺構は礎石・礎板建物３棟、板壁建物１棟、方形竪穴状遺構１基、水路１条、溝状遺構６条、井戸１基、据甕遺構１基、方形土坑３基、土坑74基、ピット478基で、出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して98箱を数える。

各面における主要な遺構の様相をみていくと、第１面（15世紀前葉頃）からは、南北方向に延びる石組の護岸を伴う溝状遺構が検出された。この溝状遺構の主軸方位は本地点の最下面にあたる第５面以降、連綿と踏襲されてきた区画方位と合致する。また、調査区の中央から北側にかけてピットが密集して分布しており、溝によって区画された範囲に建物が展開していた可能性も想定される。第２面（14世紀後葉～15世紀初頭頃）では第１面の南北溝にほぼ直行する溝状遺構が検出されたほか、調査区の北側にかわらけ微細破片を多量に用いた地業面が広がり、調査区外の北側へと続く様相を呈していた。第３面（14世紀前葉～後葉頃）においては、南北を溝状遺構によって区画された礎石・礎板建物１が東西方向に展開し、調査区外へと続いている。礎石・礎板建物１の広がる範囲には小ピットが多く検出されていることから、これらが床束柱にあたる可能性も考慮すべきであろう。

第４面（13世紀後葉頃）は遺構密度が最も高く、遺構の種類も多様であった。また、遺物も土器・陶磁器類のほかに、有機質遺物の遺存状態がきわめて良好であり、建築部材や多種多様な生活用具としての木製品が多量に出土した。調査区のほぼ全面にわたって展開する礎石・礎板建物２は南北９ｍ以上に及ぶ建物で、柱穴の配置からは床束柱と想定されるピットが確認されている。本址範囲外の南西側で検出されたピット群も、規則性は見いだせなかったものの本址に関連するピットの可能性がある。建物範囲の南側には、ほぞ穴をもつ建築部材が格子状に組まれた状態を保って出土したほか、柱が直立したピットが５本検出された。本址は調査区外へと広がるため建物の全体構造や空間利用は判然としないが、調査区中央の西側で検出した井戸や水路も本址と深い関わりをもつ遺構であった可能性にも留意しておきたい。

第４面出土の特筆すべき遺物についてふれると、礎石・礎板建物２の範囲内からは図73－33に図示した「阿弥陀如来」と考えられる鋳造による小仏像が出土しているほかにも、土坑50からは図82－１に図示した呪符木簡が出土している。形状は短冊形で「木」の文字が３つ３列に並び、おそらくは「鬼」が同様に３つ３列で墨されて、その下中央に「急」の字が中央にある。以下には「急急如律令」と続くものと考えられる。類似例としては「若宮大路周辺遺跡群－小町一丁目106番１地点」出土の木簡があげられる（大三輪・手塚 1999）。「火」の文字が３つ３列に並び、その下に「鬼」が同様に３つ３列、その中央下に「急急如律令」が墨書されている。「木」（本遺跡例）、「火」（若宮大路遺跡群例）の文字は陰陽五行の「木火土金水」との関係性も指摘される一方、滋賀県の「東良遺跡（北方田中遺跡）」からは本遺跡例と同様な斎串状で「水」が並び「急急如律令」と墨書された例もあるので（滋賀県教育委員会 1985）、当時は広く一般的に使われていた可能性も考えられる※注１。また、注意すべき点として第１面～

第４面を通じて、かわらけを大小の円盤状に加工した用途不明の転用品が合計34点も出土したことや、多種多様な木製品の中でも箸状の量が極めて多いこともあげられる。

第５面（13世紀中葉～後葉頃）では、礎石・礎板建物と板壁建物が１棟ずつ確認された。礎石・礎板建物は、横板を杭で固定した構造の床下施設をもち、その内部には十文字に敷かれた板材の上に曲物が据えられており、床下の収納施設ではないかと考えられる。本址も調査区外に広がることが予想され、今回は一部の調査であるため規模や構造は明らかではないが、柱の配置や柱間の状況からは、建物主体部の外縁に縁側や出入り口などの付帯施設を伴う建物であったと推定される。板壁建物は調査区の北側で検出され、主体は調査区外の北東側にあると想定される。今回の報告では単独の遺構と捉えたが、主軸方位や検出位置から礎石・礎板建物３の一部を構成する施設となる可能性も考えられる。なお、土坑74から箸状の木製品48本が束ねられたような状態で出土しており（図版８－３）、一括廃棄されたものと推定される。

本地点に隣接する場所では、図２に示した②～④地点の合計３地点において調査が行われている。いずれも狭小な調査区で遺跡の様相は断片的な把握にとどまるが、西側に隣接する②地点の４面からは曲物が据えられた土坑が検出され、年代は14世紀前半に位置づけられている。また、南西側に隣接する③地点からは、同じく14世紀前半の礎板建物が検出されている。本地点では第３面がこれにほぼ平行する時期に相当し、検出された礎石・礎板建物１との関連性について、留意する必要があろう。

注１）松吉大樹氏から御教示頂いた。

引用・参考文献（著者五十音順）

大三輪龍彦・手塚直樹　1999『若宮大路周辺遺跡群 小町一丁目106番１他点－第１次』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団

沖元　道　2013「円覚寺門前遺跡－鎌倉市山ノ内字松岡1323番１、1338番２地点－」『第23回 鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨』鎌倉市教育委員会

菊川英政・兼行佻枝　1998「円覚寺旧境内遺跡（№434）山ノ内字瑞鹿山509番１地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14』平成９年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

滋賀県教育委員会　1985「東良遺跡（北方田中遺跡）」『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書12－６』滋賀県教育委員会

宗臺秀明・宗臺富貴子　2007「円覚寺門前遺跡（№287）山ノ内松岡1377番６地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23』平成18年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

宗臺秀明・宗臺富貴子・加納克己　2005「円覚寺門前遺跡（№287）山ノ内松岡1344番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21』平成16年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

継　実　1998「円覚寺門前遺跡（№287）山ノ内字藤源治951番２地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14』平成９年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

永田史子・米澤雅美　2019「西瓜ヶ谷遺跡（№213）山ノ内字瓜ヶ谷980番３外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』平成30年度発掘調査報告（第４分冊）　鎌倉市教育委員会

馬淵和雄・松原康子　2006「西瓜ヶ谷遺跡（№213）山ノ内字東瓜ヶ谷1294番４・５地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22』平成17年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

宮田　眞・滝澤晶子　2008「円覚寺門前遺跡（№287）山ノ内字松岡1337番６地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』平成19年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

宮田　眞・滝澤晶子・安藤龍馬　2008「円覚寺門前遺跡（№287）山ノ内字松岡1337番１地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』平成19年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構１出土遺物（図８・９）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	6.8	4.1	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	4.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	4.4	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	4.0	2.2	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	4.2	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	4.8	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	3/4
7	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	4.4	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
8	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	4.8	2.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
9	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	4.4	2.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロかわらけ・小	(7.9)	(5.0)	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
11	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.7	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
12	土器	ロクロかわらけ・小	8.3	5.3	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
13	土器	ロクロかわらけ・中	(11.4)	(6.8)	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
14	土器	ロクロかわらけ・中	(11.4)	(6.7)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、砂粒、海綿骨針、粗土　色調：黒褐色　焼成：良好　備考：二次焼成	1/2
15	土器	ロクロかわらけ・中	11.5	5.6	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
16	土器	ロクロかわらけ・中	(11.8)	7.0	2.7	底面－回転糸切＋板状圧痕、焼成後穿孔（径0.5cm）　胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
17	土器	ロクロかわらけ・中	(12.2)	(7.4)	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
18	土器	ロクロかわらけ・中	(12.2)	(8.3)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/6
19	土器	ロクロかわらけ・中	(12.4)	(8.6)	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
20	土器	ロクロかわらけ・中	(12.4)	(7.2)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/5
21	土器	ロクロかわらけ・中	(12.8)	(7.0)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/5
22	土器	かわらけ転用品	直径3.0	－	厚0.8	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
23	土器	かわらけ転用品	直径3.8	－	厚0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
24	磁器	青磁碗	－	－	現3.0	外面－鎬蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
25	磁器	青磁碗	－	－	現3.0	色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅲ類	
26	陶器	瀬戸瓶子	－	－	現5.2	ロクロ成形　外面－灰釉・陰刻による瓔珞・三重圏線・草花文　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅲ期	肩部小破片
27	陶器	瀬戸天目茶碗	(11.2)	－	現2.0	ロクロ成形　内外面－鉄釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、鉄釉－灰褐色・黒褐色　備考：古瀬戸中期～後期様式	口縁部小破片
28	陶器	瀬戸天目茶碗	－	－	現4.5	ロクロ成形　内外面－鉄釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、鉄釉－黒褐色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期	口縁部小破片
29	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現5.6	ロクロ成形　内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ期	口縁部小破片
30	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現3.8	ロクロ成形　内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅱ～Ⅲ期	口縁部小破片
31	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現3.8	ロクロ成形　内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅱ～Ⅲ期	口縁部小破片
32	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現5.4	ロクロ成形　内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅲ期	口縁部小破片
33	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現7.0	ロクロ成形　内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅱ～Ⅲ期	1/6
34	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現5.6	ロクロ成形　内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	口縁部小破片
35	陶器	常滑甕	－	－	現6.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：７～８型式	口縁部小破片
36	陶器	常滑甕	－	－	現5.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：９型式	口縁部小破片
37	陶器	常滑甕	－	－	現10.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：９～10型式	口縁部小破片
38	陶器	常滑甕	－	－	現7.3	輪積成形　外面－格子状押印　胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色	肩部小破片

39	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.9	輪積成形　外面－重四角状押印　胎土：微砂、白色粒　色調：黒褐色	同部 小破片
40	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 2.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：黄褐色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
41	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
42	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 8.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：７型式	口縁部 小破片
43	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 5.7	ロクロ成形　内面－摩耗・擂目６条一単位の擂目　胎土：微砂　色調：灰色	底部 小破片
44	土師質・ 瓦質土器	香炉	－	(9.4)	現 3.5	輪花形　内外面－磨き、外面－スタンプ菊花・重菱・重四角文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色	底部 小破片
45	瓦	平瓦	現長 16.6	現幅 11.8	厚 2.0	凸面－斜格子叩き　凹面－ナデ　胎土：粗　色調：灰色	1/2
46	石製品	温石	現長 9.8	幅 7.5	厚 1.7	１面に使用痕跡　石材－流紋岩	
47	石製品	砥石	現長 6.4	幅 5.2	厚 3.3	２面に使用痕跡　石材－流紋岩	
48	石製品	砥石	現長 6.3	幅 3.1	厚 1.2	４面に使用痕跡　上面－溝状の窪み　石材－流紋岩	
49	石製品	磨石	長 7.1	幅 2.9	厚 1.9	先端－朱付着　石材－頁岩	完形
50	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.8	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
51	金属 製品	銭貨	直径 2.2	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形

据甕遺構１出土遺物（図11）

1	陶器	常滑 甕	39.6	－	現 19.5	胎土：微砂、白色粒　色調：暗灰色　備考：９型式	口縁部～ 肩部小破片

土坑１出土遺物（図12）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	3.7	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形

土坑４出土遺物（図13）

1	土器	白かわらけ	－	－	現 2.4	内外面－横ナデ　胎土：白色砂粒、良土　色調：乳白色　焼成：良好	口縁部 小破片
2	石製品	燧石	現長 1.9	現幅 2.9	厚 1.1	下端－敲打痕　石材－瑪瑙	略完形

土坑９出土遺物（図14）

1	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	7.5	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3

土坑13出土遺物（図16）

1	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 6.3	ロクロ成形、内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ期	口縁部 小破片

土坑19出土遺物（図18）

1	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 9.0	ロクロ成形、内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期	口縁部 小破片

土坑21出土遺物（図19）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.4	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
3	陶器	中国陶器 壺	(9.4)	－	現 4.4	ロクロ成形　外面－鉄釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、鉄釉－黒褐色	1/6
4	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 4.8	ロクロ成形　内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅳ期	口縁部 小破片
5	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.9	胎土：微砂、白色粒　色調：褐灰色　備考：７型式	口縁部 小破片
6	陶器	常滑 甕	－	－	現 12.0	胎土：微砂、白色粒　色調：褐灰色　備考：７型式	口縁部 小破片
7	陶器	常滑 甕	－	－	現 43.1	胎土：微砂、白色粒　色調：褐灰色　備考：７型式	口縁部～ 肩部小破片
8	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
9	陶器	摩耗陶片	現長 10.6	現幅 4.9	厚 1.2	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：暗褐色	略完形
10	石製品	砥石	現長 13.2	幅 2.6～4.9	厚 3.2	４面に使用痕跡　上面－溝状の窪み　石材－流紋岩	略完形

ピット出土遺物（図21）

1	土器	かわらけ 転用品	直径 1.9	－	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット２	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	7.5	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット５	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.0	2.3	口縁部～内面－油煤付着、打欠き　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット８	3/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.8	2.6	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット８	1/2

5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.2	2.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット８	3/4
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.7)	(5.3)	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット８	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.2)	(6.5)	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 27	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.9)	3.5	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 29	1/3
9	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 6.4	輪花形　内外面－磨き　外面－スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色　備考：Ⅲ類　出土遺構：ピット 35	口縁部 小破片
10	土器	かわらけ 転用品	直径 2.6	－	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 39	完形
11	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－宋通元寶（北宋・960）　書体－楷書　出土遺構：ピット 39	完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	9.9	6.3	3.3	口縁部の歪みが著しい　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 56	完形
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	3.8	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 67	完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.8)	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 69	完形
15	磁器	青白磁 梅瓶	－	－	現 4.2	上面－ヘラ彫りによる渦文　色調：胎土－乳白色、青白磁釉－淡青色　出土遺構：ピット 69	肩部 小破片
16	磁器	青白磁 皿	－	－	現 1.6	ロクロ型打成形？　見込み－意匠不明文、畳付－無釉　色調：胎土－乳白色、青白磁釉－淡青色　出土遺構：ピット 78	体部～底部 小破片
17	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書　出土遺構：ピット 106	完形
18	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	5.6	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 108	略完形
19	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	7.0	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 108	略完形
20	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(30.2)	－	現 6.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：７～８型式　出土遺構：ピット 137	1/6
21	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.0	胎土：微砂、白色粒　色調：褐灰色　備考：７型式　出土遺構：ピット 157	口縁部 小破片
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	4.8	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、砂粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 159	1/4
23	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(6.2)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、海綿骨針、やや良土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 169	1/5
24	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 6.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：７～８型式　出土遺構：ピット 169	口縁部 小破片
25	陶器	常滑 甕	－	－	現 10.5	胎土：微砂、白色粒　色調：黒褐色　備考：６ｂ型式　出土遺構：ピット 170	口縁部 小破片
26	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(7.6)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好　備考：二次焼成　出土遺構：ピット 171	1/3
27	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(7.4)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 178	4/5
28	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.6	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 184	2/3
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.8	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：褐灰色　焼成：良好　備考：二次焼成　出土遺構：ピット 184	1/2
30	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 6.8	ロクロ成形　内外面－灰釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ期　出土遺構：ピット 184	口縁部 小破片
31	石器	砥石	現長 7.2	幅 2.9	厚 2.2	３面に使用痕跡　石材－流紋岩　出土遺構：ピット 184	
32	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.2	胎土：微砂、白色粒　色調：黒褐色　備考：７～８型式　出土遺構：ピット 188	口縁部 小破片
33	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 203	1/6
34	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.4	胎土：微砂、白色粒　色調：明褐色　備考：７～８型式　出土遺構：ピット 203	口縁部 小破片
35	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.7)	2.6	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、砂粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 205	1/3
36	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 11.6	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、外面－暗灰色　備考：ⅣＡ類　出土遺構：ピット 205	口縁部 小破片
37	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書　出土遺構：ピット 205	完形
38	陶器	瀬戸 緑釉小皿	11.2	5.6	2.4	ロクロ成形　内外面－灰釉　外面体部下半－無釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色　灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期　出土遺構：ピット 211	見込み 小破片
39	土師質 土器	南伊勢系土鍋	(19.4)	－	現 3.3	羽釜形　内外面－ナデ・ハケメ　胎土：砂粒、雲母、粗土　色調：灰色　出土遺構：ピット 221	口縁部 小破片
40	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.0	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、砂粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 225	2/3

第１面 炭層出土遺物（図22・23）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	(3.4)	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　備考：二次焼成	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　備考：二次焼成	3/4

5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.3	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	2.1	口縁部～外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	2.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	5/6
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.9	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	5/6
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.8	2.3	内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.3	2.4	口縁部～外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.5	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	4.8	2.3	全体－油煤・煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：黒褐色　焼成：良好　備考：二次焼成	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.5	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	4.4	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.3	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	4.9	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.1)	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：黒褐色　焼成：良好　備考：二次焼成	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.9)	5.6	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0	6.8	3.2	口縁部～外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
20	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(7.4)	2.8	体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	1/3
21	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.1	3.6	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	2/3
22	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.2	3.6	内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
23	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.6)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
24	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.0)	8.6	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
25	土器	ロクロ かわらけ・大	(15.6)	(8.4)	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/5
26	土器	ロクロ かわらけ・大	(16.5)	(10.6)	4.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
27	磁器	青磁 碗	(13.9)	－	現 4.9	口縁部－輪花、外面－縦沈線文、内面－二重沈線・陽刻花文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳウ類	口縁部～ 体部小破片
28	磁器	青磁 皿	(11.8)	－	現 1.9	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁皿Ⅰ類	口縁部 小破片
29	陶器	瀬戸 天目茶碗	－	－	現 6.2	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、鉄釉－黒色　備考：古瀬戸中期様式Ⅳ期～後期様式Ⅰ期	口縁部 小破片
30	陶器	瀬戸 卸皿	－	－	現 3.0	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	口縁部 小破片
31	陶器	瀬戸 卸皿	－	－	現 2.5	胎土：緻密　色調：胎土－灰黄色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	口縁部 小破片
32	陶器	瀬戸 柄付片口	－	－	現 6.4	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	体部 小破片
33	陶器	瀬戸 袴腰形香炉	15.5	9.6	10.6	口唇部－敲打痕　脚１ヵ所遺存　外面－三重沈線・蓮弁文　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅳ期	1/2
34	陶器	常滑 広口壺小	(15.0)	－	現 5.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ～８型式	口縁部 小破片
35	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.0	胎土：白色粒　色調：黒褐色　備考：６ｂ～８型式	口縁部 小破片
36	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.5	胎土：白色粒　色調：黒褐色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
37	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
38	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.1	胎土：白色粒　色調：黒褐色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
39	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：８～９型式	口縁部 小破片
40	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.1	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：９型式	口縁部 小破片
41	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.1	外面－斜格子・米形の押印　胎土：白色粒　色調：褐色	胴部 小破片
42	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.5	外面－米形の押印　胎土：白色粒　色調：黒褐色	胴部 小破片
43	陶器	常滑 甕	－	(19.4)	現 8.6	胎土：白色粒　色調：暗褐色	底部 小破片
44	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５～７型式	口縁部 小破片

45	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	−	−	現 4.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：９～10型式	口縁部 小破片
46	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	−	−	現 5.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：９～10型式	口縁部 小破片
47	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	−	−	現 6.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：９～10型式	口縁部 小破片
48	土師質 土器	南伊勢系土鍋	−	−	現 2.1	羽釜形　穿孔１ヵ所（径0.2㎝）　内外面－ナデ・ハケメ　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒、粗土　色調：灰白色	口縁部 小破片
49	土師質 土器	南伊勢系土鍋	(20.6)	−	現 10.7	羽釜形　内外面－ナデ・ハケメ　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒、粗土　色調：にぶい黄橙色	1/3
50	土師質・ 瓦質土器	火鉢	−	−	現 5.6	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土・内外面－黒灰色　備考：Ⅳ類	口縁部 小破片
51	土師質・ 瓦質土器	火鉢	−	−	現 7.3	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ雷文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内外面－黒色　備考：Ⅳ類	体部下半 小破片
52	土師質・ 瓦質土器	香炉	(9.6)	(6.8)	4.6	内外面－磨き　脚１ヵ所遺存　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土・内面－灰色、外面－暗黒色	1/3
53	瓦	丸瓦	現長 18.0	現幅 11.5	厚 2.4	凸面－ヘラケズリ・ヘラナデ　凹面－布目・吊り紐痕　胎土：粗　色調：灰色・黒灰色	1/4
54	瓦	軒平瓦	現長 9.5	現幅 17.0	厚 2.2	瓦当－下向き剣頭文　凸面－縄目叩き　凹面－ナデ　胎土：粗　色調：灰色	1/8
55	瓦	平瓦	現長 15.0	現幅 12.9	厚 2.3	凸面－格子目叩き　凹面－ナデ　胎土：粗　色調：灰色	1/6？
56	石製品	砥石	現長 5.9	幅 3.5	厚 0.9	３面に使用痕跡　石材－粘板岩	
57	石製品	砥石	現長 8.3	幅 2.8	厚 2.1	４面に使用痕跡　石材－流紋岩	
58	石製品	砥石	現長 12.6	現幅 5.8	厚 3.1	３面に使用痕跡　石材－流紋岩	
59	金属 製品	笄	現長 14.3	幅 0.6	厚 0.2	扁平で端部が曲がっている　材質－銅	4/5
60	金属 製品	釘	現長 7.3	頭幅 1.2	厚 0.8	角釘　材質－鉄	4/5
61	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書	完形
62	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－政和通寶（北宋・1111）　書体－篆書	完形

第１面 遺構外出土遺物（図24・25）

1	土器	白かわらけ	(12.8)	5.3	3.7	ロクロ成形、底面－回転糸切＋ヘラケズリ　胎土：微砂、雲母、小石、良土　色調：乳白色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.5	1.6	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.0)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.8	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.2	2.3	内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.1	1.9	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.3	2.0	内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.5	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.1	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.4	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.0)	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	4.5	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
14	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	5.0	2.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
15	土器	ロクロ かわらけ・小	9.8	5.7	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
16	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	5.7	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(6.9)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(6.0)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
19	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	(6.4)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
20	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	6.5	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
21	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(6.8)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
22	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.3	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、城色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4

23	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.8)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
24	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	6.4	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、砂粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
25	土器	かわらけ 転用品	直径 2.1	－	厚 1.0	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
26	土器	かわらけ 転用品	直径 2.8	－	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
27	土器	かわらけ 転用品	直径 3.3	－	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
28	土器	かわらけ 転用品	直径 (4.7)	－	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
29	磁器	青磁 碗	－	5.2	現 3.3	高台・畳付－露胎　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	体部～底部 小破片
30	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.3	外面－鎬蓮弁文　高台・畳付－露胎　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
31	陶器	瀬戸 広口壺	(9.5)	－	現 7.7	外面－鉄釉・陰刻による花蔓文　胎土：緻密　色調：胎土－にぶい黄橙色、鉄釉－暗褐色　備考：古瀬戸中期様式Ⅱ期	1/8
32	陶器	瀬戸 小杯	(5.2)	(3.5)	1.9	胎土：緻密　色調：灰白色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	1/4
33	陶器	瀬戸 入子	(7.4)	(3.8)	2.5	口縁部－油煤付着　胎土：緻密　色調：灰色　備考：古瀬戸前期様式Ⅱ期	1/3
34	陶器	瀬戸 水滴	(3.0)	(3.2)	3.6	胎土：緻密　色調：灰白色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	2/3
35	陶器	瀬戸 折縁深皿	(19.8)	－	現 6.4	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅳ期	1/4
36	陶器	瀬戸 直縁大皿	－	－	現 5.6	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－浅黄色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ～Ⅳ期	口縁部～ 体部小破片
37	陶器	瀬戸 縁釉小皿	(11.0)	(5.9)	2.7	外面体部下半－無釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	1/3
38	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.7	胎土：微砂、白色粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
39	陶器	常滑 甕	－	－	現 12.2	胎土：微砂、白色粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
40	陶器	常滑 甕	－	－	現 11.1	胎土：微砂、白色粒　色調：灰色　備考：７型式	口縁部 小破片
41	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.6	胎土：微砂、白色粒　色調：灰色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
42	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.2	胎土：微砂、白色粒　色調：灰色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
43	陶器	常滑 甕	－	－	現 13.7	胎土：微砂、白色粒　色調：暗灰色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
44	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.2	胎土：微砂、白色粒　色調：灰色　備考：９～10型式	口縁部 小破片
45	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.5	胎土：微砂、白色粒　色調：暗赤褐色　備考：９型式	口縁部 小破片
46	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.5	胎土：微砂、白色粒　色調：暗赤褐色　備考：９型式	口縁部 小破片
47	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.4	胎土：微砂、白色粒　色調：暗褐色　備考：９型式	口縁部 小破片
48	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 7.2	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
49	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：にぶい赤褐色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
50	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(26.7)	－	現 5.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：にぶい赤褐色　備考：７～８型式	1/8
51	土師質 土器	南伊勢系土鍋	－	－	現 3.6	羽釜形　内外面－ナデ・ハケメ　胎土：砂粒、雲母、粗土　色調：灰白色	口縁部 小破片
52	土師質・ 瓦質土器	香炉	－	－	現 3.7	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・縦位の沈線文　胎土：白色粒　色調：胎土－灰色、外面－黒色	口縁部～ 頸部小破片
53	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 3.5	内外面－磨き、外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文　胎土：赤色粒、黒色粒　色調：胎土－灰色・にぶい橙色、内・外面－灰褐色　備考：ⅣＡ類	口縁部 小破片
54	石製品	スタンプ	長 5.1	短 3.4	厚 0.9	長方形に切り出し、表面に草花文の陽刻　石材－滑石	完形
55	石製品	砥石	現長 5.3	現幅 4.8	厚 9.1	１面に使用痕跡　石材－粘板岩	
56	石製品	砥石	現長 12.1	現幅 3.5	厚 2.0	２面に使用痕跡　石材－粘板岩	
57	石製品	砥石	現長 6.3	現幅 3.2	厚 7.6	１面に使用痕跡　石材－粘板岩	
58	石製品	砥石	現長 6.1	現幅 3.0	厚 5.8	１面に使用痕跡　石材－粘板岩	
59	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－隷書	完形
60	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－景徳元寶（北宋・1004）　書体－楷書	完形
61	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－祥符元寶（北宋・1008）　書体－楷書	完形
62	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.5	厚 0.1	銭名－永楽通寶（明・1408）　書体－楷書	完形
63	漆製品	蓋	5.9	現幅 4.7	現 0.2～0.3	表裏面－黒色漆鞣漆　丁寧な成形	4/5

64	木製品	用途不明	現長 13.0	現幅 5.0	厚 0.2～0.5	曲物底板か　閉じ紐の桜皮遺存　焼痕あり	1/2
65	木製品	用途不明	現長 2.9	幅 1.1～1.7	厚 3.0	栓か　断面円形　中心に貫通し内孔あり　中央辺に浅く凹みが回る	略完形
66	木製品	用途不明	現長 13.1	幅 2.6～2.9	厚 1.3	調度具部材か　丁寧な整形	
67	木製品	用途不明	現長 16.7	幅 1.6	厚 1.3	調度具部材か　丁寧な整形　端部焼痕	

第１面 構成土出土遺物（図26～28）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.4	2.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.0	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.6)	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	5.4	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	4.9	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.1	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
8	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	4.4	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	7.2	3.2	口縁部を欠いて使用、口縁部～体部内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
10	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(7.2)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
11	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(6.6)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
12	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	6.4	3.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
13	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(8.0)	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
14	磁器	青磁 碗	－	(7.0)	現 2.4	劃花文碗　高台・畳付－露胎　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	底部 小破片
15	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.9	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
16	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.2	輪花形　外面－二重圏線　内面－重菱連続文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部 小破片
17	磁器	青磁 盤	－	－	現 2.9	色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：龍泉窯系	口縁部 小破片
18	磁器	青白磁 皿	－	－	現 3.1	口唇部－口兀　外面－二重圏線　色調：胎土－白色、青白磁釉－青白色	口縁部 小破片
19	陶器	瀬戸 花瓶Ⅰｂ類	－	頸径 2.4	現 6.3	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、鉄釉－黄褐色　備考：古瀬戸中期様式	頸部 小破片
20	陶器	瀬戸 花瓶Ⅰｂ類	－	頸径 3.8	現 7.3	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、鉄釉－黄褐色　備考：古瀬戸中期様式	頸部 小破片
21	陶器	瀬戸 天目茶碗	(11.5)	－	現 6.4	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、鉄釉－黒色　備考：古瀬戸中期様式Ⅲ期	1/5
22	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 3.9	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式	口縁部 小破片
23	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 4.4	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式	口縁部 小破片
24	陶器	瀬戸 卸皿	－	8.0	現 2.5	胎土：緻密　色調：胎土－黄灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式	1/3
25	陶器	渥美 袈裟襷文・蓮弁文壺	－	－	現 4.8	外面－ヘラ彫りによる袈裟襷文・蓮弁文　胎土：微砂　色調：灰色	肩部 小破片
26	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
27	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
28	陶器	常滑 甕	－	－	現 12.1	胎土：白色粒、黒色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：６ｂ型式	口縁部～ 肩部小破片
29	陶器	常滑 甕	－	－	現 16.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ型式	口縁部～ 肩部小破片
30	陶器	常滑 甕	－	－	現 10.5	胎土：白色粒　色調：暗褐色　備考：９～10 型式	口縁部 小破片
31	陶器	常滑 甕	－	－	現 12.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：９～10 型式	口縁部～ 肩部小破片
32	陶器	常滑 甕	－	－	現 12.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：９～10 型式	口縁部～ 肩部小破片
33	陶器	常滑 甕	－	－	現 11.2	外面－格子形の押印　胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色	肩部 小破片
34	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.0	外面－格子形の押印　胎土：白色粒、小石粒　色調：褐色	胴部 小破片
35	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.5	外面－格子形・×形の押印　胎土：白色粒　色調：黒褐色	胴部 小破片
36	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.9	外面－巴形の押印　胎土：白色粒　色調：黒褐色	胴部 小破片

37	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.1	外面－米形の押印　胎土：白色粒　色調：黒褐色	胴部 小破片
38	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.5	胎土：白色粒　色調：黒褐色　備考：８～９型式	片口・口縁 部小破片
39	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 6.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：８～９型式	口縁部 小破片
40	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 6.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：８～９型式	口縁部 小破片
41	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：９～10 型式	片口部 小破片
42	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：９～10 型式	片口部 小破片
43	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 3.3	胎土：微砂、白色粒　色調：黒褐色	片口部 小破片
44	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 6.7	内面－摩耗・擂目８条一単位の擂目　胎土：微砂、白色粒　色調：黒褐色	口縁部 小破片
45	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 7.8	内面－摩耗・擂目９条一単位の擂目　胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：黒褐色	口縁部～ 体部小破片
46	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 9.8	内面－摩耗・擂目９条一単位の擂目　胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：黒褐色・ 暗赤褐色	口縁部～ 体部小破片
47	陶器	備前 擂鉢	－	(11.6)	現 3.5	内面－摩耗・擂目９条一単位の擂目　胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：黒褐色・ 暗赤褐色	底部 小破片
48	陶器	摩耗陶片	現長 6.3	現幅 4.6	厚 1.4	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：黒褐色	略完形
49	陶器	摩耗陶片	現長 8.2	現幅 4.8	厚 1.3	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗、白色粒、小石粒　色調：灰色・緑灰 色	略完形
50	陶器	摩耗陶片	現長 9.7	現幅 3.9	厚 1.0	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗、白色粒、黒色粒　色調：灰色・緑灰 色	略完形
51	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 11.6	輪花形　内外面－磨き　外面－スタンプ菊花文　胎土：砂粒、小石粒　色調：胎土・ 内外面－灰色　備考：Ⅲ類	口縁部 小破片
52	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 6.1	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒　色 調：胎土－にぶい橙色、内・外面－暗灰色　備考：ⅣＡ類	口縁部 小破片
53	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	(26.5)	現 6.1	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒、小石 粒　色調：胎土－灰色、内・外面－黒灰色　備考：ⅣＡ類	1/8
54	土師質・ 瓦質土器	香炉	(18.6)	(17.8)	5.3	内外面－磨き　脚１ヵ所遺存、外面－連珠貼り付け文・スタンプ雷文・渦文　胎土： 砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土・外面－にぶい褐色、内面－黒色	1/6
55	土師質・ 瓦質土器	風炉	(26.4)	－		内外面－磨き　外面－突帯・窓　胎土：砂粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内・外面 －黒色	1/8
56	石製品	滑石製石鍋	(26.6)	－	現 5.6	色調：灰色	口縁部 小破片
57	石製品	砥石	現長 7.7	現幅 3.4	厚 0.2～1.0	２面に使用痕跡　石材－粘板岩	
58	石製品	砥石	現長 8.1	現幅 3.4	厚 2.2	２面に使用痕跡　石材－粘板岩	略完形
59	石製品	砥石	現長 10.1	現幅 5.4	厚 2.9	４面に使用痕跡　石材－流紋岩	
60	石製品	用途不明	現長 7.9	現幅 2.9	厚 1.1	表面－沈線状の使用痕跡 10 ヵ所　上端部－孔３ヵ所（径 0.5㎝）　石材－滑石	
61	金属 製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
62	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－天聖元寶（北宋・1023）　書体－楷書	完形
63	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形
64	金属 製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－嘉祐通寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形
65	金属 製品	銭貨	直径 2.2	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書	完形
66	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	完形

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（㎝）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構２出土遺物（図31）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	4.1	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙 色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調：にぶい褐色　焼成：良好	4/5
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.3)	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙 色　焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.2)	2.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色 粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.2)	5.3	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙 色　焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	5.9	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(7.0)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調： にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	6.7	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼 成：良好	2/3

9	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	(6.6)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
10	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	5.9	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	(7.2)	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/5
12	土器	かわらけ 転用品	直径 3.2	－	厚 0.6	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
13	磁器	白磁 皿	(13.7)	－	現 2.5	口唇部－口兀　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	1/8
14	磁器	青磁 盤	－	－	現 1.8	内外面－無文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：龍泉窯系	口縁部 小破片
15	陶器	瀬戸 花瓶	5.1	－	現 6.1	外面－二重沈線　胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式	口縁部～ 頸部小破片
16	陶器	瀬戸 入子	(6.0)	(3.7)	2.1	輪花形　胎土：緻密　色調：灰白色　備考：古瀬戸後期様式	1/3
17	陶器	瀬戸 平底末広碗	－	(4.7)	1.4	胎土：緻密　色調：胎土－灰色　備考：古瀬戸後期様式	底部 小破片
18	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 4.2	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式	口縁部～ 体部小破片
19	陶器	瀬戸 水滴	現長 3.1	現幅 3.8	現 2.8	鳥形　胎土：緻密　色調：灰白色、鉄釉：暗褐色　備考：古瀬戸後期様式	1/5
20	陶器	常滑 広口壺小	17.9	－	現 12.7	外面－窯印刻印　胎土：白色粒、小石粒、小礫　色調：黒褐色　備考：９型式	2/3
21	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色・暗赤褐色　備考：７型式	口縁部 小破片
22	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：11 型式	口縁部 小破片
23	陶器	常滑 甕	－	(14.4)	現 6.5	胎土：白色粒、小石粒、小礫　色調：灰色・灰褐色	底部 小破片
24	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	29.2	11.6	11.6	胎土：白色粒、小石粒、小礫　色調：暗褐色　備考：９～10 型式	口縁部 小破片
25	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.4	輪花形　内外面－磨き　外面－スタンプ菊花文　胎土：砂粒、小石粒、小礫　色調：胎土－灰色、内外面－黒色　備考：Ⅲ類	口縁部 小破片
26	石製品	砥石	長 8.2	幅 3.0	厚 1.5	５面に使用痕跡　石材－粘板岩	略完形
27	金属 製品	銭貨	直径 2.6	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－宋通元寶（北宋・960）　書体－楷書	3/4

方形土坑１出土遺物（図32）

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.0)	(2.8)	0.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	(4.0)	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(4.6)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(6.7)	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
5	陶器	常滑 甕	－	－	現 10.1	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部～ 頸部小破片
6	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 6.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：７型式	口縁部 小破片
7	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(31.0)	(15.4)	12.2	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・灰褐色　備考：９型式	1/3
8	土師質・ 瓦質土器	火鉢	(28.7)	(26.4)	15.8	輪花形　脚２ヵ所遺存　内外面－磨き　胎土：砂粒、黒色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内外面－黒色　備考：Ⅲ類	1/2
9	瓦	丸瓦	現長 9.3	現幅 6.0	厚 1.2～1.6	凸面－布目痕　凹面－縄叩き痕　胎土：粗　色調：灰色	小破片
10	金属 製品	銭貨	直径 3.0	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－篆書	完形
11	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－開元通寶（島銭？）　書体－隷書	完形

方形土坑２出土遺物（図33）

1	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	8.8	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	3/4
2	瓦	鬼瓦	現長 12.8	現幅 16.5	厚 3.2	瓦当－連珠１ヵ所遺存・ヘラナデ　裏面－糸切痕　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒、粗　色調：灰白色	
3	瓦	平瓦	現長 15.3	現幅 10.2	厚 2.3	凸面－斜格子叩き　凹面－糸切痕　胎土：粗　色調：灰色　備考：永福寺Ｄ類	1/8

土坑23出土遺物（図35）

1	木製品	箸状	現長 16.1	幅 0.6	厚 0.6	断面方形	7/8

土坑25出土遺物（図36）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.8	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.5	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	6.8	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	7.8	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3

5	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.0)	8.0	4.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
6	磁器	青白磁 梅瓶	－	－	現 2.5	外面－ヘラ彫りによる唐草文　色調：胎土－乳白色、青白磁釉－暗青灰色	胴部 小破片
7	磁器	青白磁 梅瓶	－	5.2	現 2.0	外面－二重沈線　色調：胎土－灰白色、青白磁釉－暗青灰色	底部 小破片
8	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.7	輪花形　内外面－磨き、外面－スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗褐色　備考：Ⅲ類	口縁部 小破片
9	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 6.8	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文・七宝文　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒灰色　備考：ⅣＡ類	口縁部 小破片
10	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 4.6	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒灰色　備考：ⅣＡ類	底部 小破片
11	木製品	建築部材	長 23.6	幅 2.4	厚 1.6	端部仕口あり　断面方形　仕口部（長－ 1.7㎝、幅－ 2.0㎝、厚－ 0.5㎝）	完形
12	木製品	箸状	長 23.1	幅 0.4	厚 0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形

土坑33出土遺物（図38）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	5.5	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3

土坑37出土遺物（図39）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(4.1)	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	4.9	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2

土坑38出土遺物（図40）

1	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.2	胎土：黒色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片

ピット出土遺物（図42）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.9	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 228	略完形
2	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書　出土遺構：ピット 228	完形
3	土師質・ 瓦質土器	火鉢	(48.0)	(43.4)	15.8	脚１ヵ所残存　内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文・梅花文　胎土：赤色粒、白色粒　色調：胎土－灰白色・にぶい橙色、内外面－黒色　備考：ⅣＡ類　出土遺構：ピット 234	1/6
4	土器	かわらけ 転用品	直径 1.9	－	厚 0.6	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 236	1/6
5	土器	かわらけ 転用品	直径 2.9	－	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 241	完形
6	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書　出土遺構：ピット 249	完形
7	土器	かわらけ 転用品	直径 2.2	－	厚 0.6	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 256	完形
8	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ～７型式　出土遺構：ピット 262	口縁部 小破片
9	陶器	中国 短頸壺	(9.0)	－	現 2.6	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－灰黒色　備考：二次焼成　出土遺構：ピット 267	口縁部 小破片
10	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 3.7	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期　出土遺構：ピット 267	口縁部 小破片
11	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 6.9	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期　出土遺構：ピット 274	口縁部 小破片
12	陶器	常滑 玉縁口縁壺	(15.4)	－	現 5.2	口縁部玉縁状　胎土：粗　色調：灰色　備考：６ｂ型式　出土遺構：ピット 290	口縁部 小破片
13	磁器	青白磁 水瓶蓋	2.6	－	1.2	表面－型押し・絞り出し花文様　裏面－無釉　色調：胎土－白色、青白磁釉－緑青色　出土遺構：ピット 310	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.2)	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 313	1/2
15	土器	かわらけ 転用品	直径 2.3	－	厚 0.6～0.9	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 314	完形
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.0	2.2	全面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：褐灰色　焼成：良好　出土遺構：ピット 320	完形
17	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	6.6	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 320	完形
18	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	6.6	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 320	略完形
19	石製品	砥石	現長 10.0	現幅 3.2	厚 0.4～1.0	１面に使用痕跡　石材－粘板岩　出土遺構：ピット 323	
20	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：８型式　出土遺構：ピット 325	口縁部 小破片
21	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 8.0	内面－摩耗・擂目６条以上一単位の擂目　胎土：微砂　色調：暗赤褐色～黒褐色　出土遺構：ピット 330	口縁部 小破片
22	磁器	青磁 碗	－	－	現 4.2	外面－蓮弁文　畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類　出土遺構：ピット 332	口縁部 小破片
23	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.0	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 338	略完形
24	金属 製品	銭貨	直径 3.0	孔径 0.8	厚 0.1	銭名－元符通寶（北宋・1098）　書体－行書　出土遺構：ピット 338	完形
25	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.2	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 343	完形
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.1	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 343	完形

第２面 遺構外出土遺物（図43～46）

1	土器	白かわらけ	－	－	現 4.4	ロクロ成形　底面－回転糸切＋ヘラケズリ　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、良土　色調：灰白色　焼成：良好	口縁部～体部小破片
2	土器	白かわらけ	(10.8)	－	現 2.6	ロクロ成形　底面－回転糸切＋ヘラケズリ　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、良土　色調：灰白色　焼成：良好	1/5
3	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.7	4.0	0.9	底面－回転糸切、焼成後穿孔（径0.9㎝）　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.0	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	3.9	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.9	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.1	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.2	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.3	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.5	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.0	2.2	口縁部～内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	5/6
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.3	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.8	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	3.8	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	4.4	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.3	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
17	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.9	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	4.5	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.8	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.9	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕、焼成後穿孔２ヵ所（径0.9㎝・0.7㎝）　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色～黒色　焼成：良好　備考：二次焼成により全体が黒化	4/5
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.3	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
22	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.9	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
23	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.8	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	3.8	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
25	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.2	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.2	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色・明褐色　焼成：良好	略完形
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.0	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色・明褐色　焼成：良好	2/3
28	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.6	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　備考：二次焼成	4/5
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.8	2.6	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
30	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.0	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
31	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.3	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
32	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.5	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
33	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.5	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
34	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
35	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.7	2.3	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
36	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	4.5	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　備考：二次焼成により全体が黒化	2/3
37	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
38	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.1	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
39	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.6	2.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5

40	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.6	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
41	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.4	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
42	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.3	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　備考：二次焼成により全体が黒化	3/4
43	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
44	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.5)	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
45	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.2	2.6	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
46	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.2	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色・明褐色　焼成：良好	完形
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.3	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
48	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.9	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
49	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.1	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
50	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.3	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
51	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.6	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
52	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.9	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
53	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.0	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
54	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.8	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色・黒色　焼成：良好　備考：二次焼成により全体が黒化	4/5
55	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(4.8)	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
56	土器	ロクロ かわらけ・中	10.0	6.4	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
57	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.0	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
58	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.5	3.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
59	土器	ロクロ かわらけ・中	10.7	5.7	3.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
60	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	5.6	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
61	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	6.4	3.0	口縁部～内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
62	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	5.9	3.3	口縁部～外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
63	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	6.4	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
64	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0	5.9	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
65	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0	6.4	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	2/3
66	土器	ロクロ かわらけ・中	11.1	6.5	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
67	土器	ロクロ かわらけ・中	11.1	6.2	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
68	土器	ロクロ かわらけ・中	11.1	6.0	3.3	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
69	土器	ロクロ かわらけ・中	11.3	6.3	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
70	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	7.3	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
71	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	7.5	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
72	土器	ロクロ かわらけ・中	11.5	7.3	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
73	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.5)	5.3	3.3	内外面－黒漆付着（ハケメ痕跡）、底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐灰色　焼成：良好	1/2
74	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	6.4	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	略完形
75	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	6.8	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
76	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.8	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
77	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	6.7	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
78	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.6	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
79	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.0	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形

80	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.3	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
81	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
82	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.8	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	5/6
83	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.1	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
84	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.0	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
85	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	6.2	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
86	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.2	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
87	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.5	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
88	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	6.5	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
89	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	7.0	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
90	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	7.8	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
91	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	7.1	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
92	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.0)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
93	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.8	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
94	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.8	3.3	口縁部～内面・体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
95	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.4	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
96	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.5	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
97	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.0	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
98	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	7.3	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：淡橙色　焼成：良好	4/5
99	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	7.5	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄色　焼成：良好	2/3
100	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	7.8	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
101	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.4	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
102	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	8.0	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
103	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	7.5	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
104	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	7.8	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
105	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	7.0	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
106	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	8.5	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄色　焼成：良好	略完形
107	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	8.1	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
108	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	7.9	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
109	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	8.0	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
110	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	6.9	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
111	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	7.8	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	4/5
112	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	7.5	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
113	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	7.7	3.2	口縁部～外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	5/6
114	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	7.6	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
115	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	7.6	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
116	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	7.5	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
117	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(7.6)	3.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
118	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.2)	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
119	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	7.3	4.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形

120	土器	ロクロ かわらけ・大	13.7	7.5	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
121	土器	ロクロ かわらけ・大	13.7	7.6	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
122	土器	ロクロ かわらけ・大	13.9	8.0	3.7	口縁部～外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
123	土器	ロクロ かわらけ・大	13.9	8.5	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
124	土器	ロクロ かわらけ・大	14.0	8.0	4.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
125	土器	ロクロ かわらけ・大	14.4	7.0	3.5	外面－判読不明の墨書　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	2/3
126	土器	ロクロ かわらけ・大	16.6	9.5	5.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
127	土器	かわらけ 転用品	直径 2.0	－	厚 0.6	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
128	土器	かわらけ 転用品	直径 2.0	－	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
129	土器	かわらけ 転用品	直径 2.7	－	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
130	土器	かわらけ 転用品	直径 3.1	－	厚 0.8～1.1	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
131	土器	かわらけ 転用品	直径 5.8	－	厚 0.4～0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
132	土器	かわらけ 転用品	直径 6.5	孔径 1.5	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工　外周部・底部－打ち欠いた後に研磨し孔を穿つ　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
133	土器	かわらけ 転用品	直径 7.4	孔径 1.2	厚 1.0	かわらけ片を円盤状に加工　外周部・底部－打ち欠いた後に研磨し孔を穿つ　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
134	土器	かわらけ 転用品	直径 7.9	孔径 1.1	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部・底部－打ち欠いた後に研磨し孔を穿つ　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
135	土器	かわらけ 転用品	直径 8.0	孔径 1.1	厚 1.0	かわらけ片を円盤状に加工　外周部・底部－打ち欠いた後に研磨し孔を穿つ　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
136	土器	かわらけ 転用品	直径 8.0	孔径 1.2	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工　外周部・底部－打ち欠いた後に研磨し孔を穿つ　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
137	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.9	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
138	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.9	外面－沈線文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－明オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部 小破片
139	磁器	青磁 碗	(13.7)	(5.0)	4.7	外面－無文　内面－微突帯　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳイ類	1/5
140	陶器	瀬戸 天目茶碗	(11.8)	－	現 5.3	胎土：緻密　色調：胎土－灰色　鉄釉－黒褐色　備考：古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ期	1/5
141	陶器	瀬戸 平底末広碗	－	5.4	現 1.7	輪花形　胎土：緻密　色調：胎土－黄灰色、釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸中期様式	1/2
142	陶器	瀬戸 入子	4.6	2.5	1.7	輪花形　胎土：緻密　色調：黄灰色　備考：古瀬戸中期～後期様式	1/3
143	陶器	瀬戸 入子	－	3.1	現 1.4	底部－水平を保つために粘土を２ヵ所貼り付け　胎土：緻密　色調：胎土－黄灰色、釉－灰黄色　備考：古瀬戸中期～後期様式	底部 小破片
144	陶器	瀬戸 入子	(6.4)	(4.0)	1.6	輪花形　胎土：緻密　色調：胎土－黄灰色、釉－灰黄色　備考：古瀬戸中期～後期様式	1/3
145	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 6.7	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	口縁部～ 体部小破片
146	陶器	北部系 山茶碗	(10.0)	(3.6)	4.3	胎土：黒色微粒　色調：灰色	1/2
147	陶器	常滑 広口壺小	－	－	現 6.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰色・黒褐色　備考：９型式	口縁部 小破片
148	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗赤褐色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
149	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色・黒褐色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
150	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰色　備考：９型式	口縁部 小破片
151	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.2	外面－判読不明文字の押印　胎土：白色粒　色調：暗褐色	胴部 小破片
152	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 7.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：８～９型式	口縁部 小破片
153	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(32.2)	15.2	11.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：８型式	1/5
154	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	32.1	12.0	11.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：９型式	1/5
155	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 4.8	内面－摩耗　胎土：微砂、白色粒、小礫　色調：暗赤褐色・暗青灰色	口縁部 小破片
156	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 3.7	内面－摩耗・擂目７条一単位の擂目　胎土：微砂、白色粒、小礫　色調：にぶい赤褐色	口縁部 小破片
157	陶器	摩耗陶片	現長 7.7	現幅 9.8	厚 1.1	常滑片口鉢の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：灰褐色	略完形
158	陶器	摩耗陶片	現長 7.8	現幅 4.6	厚 0.7	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：褐灰色・にぶい黄褐色	略完形
159	陶器	摩耗陶片	現長 9.0	現幅 5.6	厚 1.1	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：暗灰色・茶褐色	略完形

160	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現 5.7	脚部貼り付け　内外面－磨き　外面－スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内外面－灰色　備考：Ⅲ類	底部小破片
161	土師質・瓦質土器	南伊勢系土鍋	－	－	現 3.1	羽釜形　内外面－ナデ・ハケメ　胎土：砂粒、雲母、粗土　色調：にぶい黄橙色	口縁部小破片
162	石器	砥石	長 8.3	幅 4.5	厚 1.7～2.3	５面に使用痕跡　石材－流紋岩	略完形
163	石器	砥石	長 8.3	幅 3.6	厚 1.7	２面に使用痕跡　石材－粘板岩	略完形
164	石器	砥石	現長 9.3	幅 3.1	厚 0.5～1.0	２面に使用痕跡　石材－粘板岩	
165	石器	砥石	現長 13.3	幅 3.3	厚 1.9	２面に使用痕跡　石材－粘板岩	
166	石器	砥石	現長 9.6	幅 3.5	厚 1.8	２面に使用痕跡　石材－粘板岩	
167	金属製品	刀子（小刀）	現長 11.9	幅 2.1	幅 0.4	黒漆に収められた刀子（小刀）　材質－鉄・木（黒漆鞘）	刃部小破片
168	金属製品	刀子（小刀）	現長 25.9	鞘幅 3.5 刃部幅 2.4～2.6	鞘厚 1.1 刃部幅 0.4～0.5	黒漆に収められた刀子（小刀）　材質－鉄・木（黒漆鞘）	
169	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
170	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
171	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形
172	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－篆書	完形
173	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－行書	完形
174	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－淳熙元寶（南宋・1174）　背文－十二　書体－楷書	完形

第２面 構成土出土遺物（図47・48）

1	土器	白かわらけ	－	－	現 3.9	ロクロ成形　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、やや良土　色調：灰白色　焼成：良好	口縁部小破片
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	4.1	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(3.9)	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色・黒灰色　焼成：良好　備考：二次焼成	2/3
4	土器	ロクロかわらけ・中	11.2	6.4	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロかわらけ・中	12.3	6.8	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	かわらけ転用品	直径 3.4	－	厚 0.7	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
7	土器	かわらけ転用品	直径 3.5	－	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
8	磁器	青磁碗	－	－	現 4.0	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
9	磁器	青磁坏	－	(2.6)	現 2.6	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ類	底部小破片
10	陶器	瀬戸合子蓋	4.7	1.4	1.5	上面－ロクロ成形後に文様を貼り付け＋菊花状の印花　胎土：緻密　色調：胎土－黄橙色、鉄釉－褐色　備考：古瀬戸中期～後期様式	完形
11	陶器	瀬戸水注Ⅰ類	－	最大径 (12.0)	現 11.7	外面－二重沈線　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸前期様式Ⅲ～Ⅳ期	1/3
12	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現 3.6	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式	口縁部小破片
13	陶器	常滑甕	－	－	現 9.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・茶褐色　備考：10 型式	口縁部小破片
14	陶器	常滑甕	－	－	現 3.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・暗灰褐色　備考：７型式	口縁部小破片
15	陶器	常滑甕	－	－	現 4.4	外面－矢羽根形の押印　胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色	胴部小破片
16	陶器	常滑甕	－	－	現 6.2	外面－格子形の押印　胎土：白色粒　色調：にぶい橙色・灰色	胴部小破片
17	陶器	常滑甕	－	－	現 8.9	外面－格子形の押印　胎土：白色粒　色調：暗灰褐色	胴部小破片
18	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	－	12.3	現 10.7	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	2/3
19	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.1	内外面－磨き外面－スタンプ四つ菱文　胎土：砂粒、黒色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内外面－黒色	体部小破片
20	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現 12.0	脚１ヵ所残存　内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文・梅花文　胎土：赤色粒、白色粒　色調：胎土－灰白色・にぶい橙色、内外面－黒色　備考：ⅣＡ類	口縁部～胴部小破片
21	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－天聖元寶（北宋・1023）　書体－楷書	完形
22	骨角製品	笄	長 10.7	幅 1.5	厚 0.3	本来の長さより短く二次加工　素材－鹿中足骨	完形
23	漆製品	椀	現長 4.0	現幅 8.6	厚 0.9	内外面－黒色漆錆漆　粗い成形	5/6
24	漆製品	皿	現長 8.2	現幅 6.4	0.9	内外面－黒色漆錆漆　内面－漆絵（手描き）・文様（橘か）	

25	漆製品	皿	9.3	6.4	1.8	内面－赤色漆鞣漆　外面－黒色漆鞣漆・漆絵（手描き）・蝶文（外側面３ヵ所に施文）輪高台	完形
26	漆製品	椀	現長 5.5	現幅 2.2	現 2.2	内面－黒色漆鞣漆　外面－赤色漆鞣漆・漆絵（手描き）・亀文・鶴文・漆絵も赤色漆で描いている	
27	木製品	箸状	長 16.5	幅 0.5	厚 0.6	断面方形	完形
28	木製品	箸状	長 20	幅 0.7	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
29	木製品	連歯下駄	長 16.9	幅 7.7	厚 2.0	台部－中央がやや張り出し、四隅の丸い小判形を呈する　歯部－磨滅している・台部から横に張り出し台幅よりも歯底部の幅が広い　前壺横に指圧痕	略完形
30	木製品	草履芯	長 18.1	現幅 4.1	厚 0.3～0.4	先端部－山形に切り込み、最先端が山型の頂点となる・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となる山型　切り取り部－平行四辺形型で前方に深く切り込む	1/2
31	木製品	自在鉤	現長 19.4	径 1.5～1.8	－	自然木を加工	略完形
32	木製品	箆	長 20.1	幅 1.6	厚 0.2～0.8	丁寧な整形	完形
33	木製品	箆	現長 22.3	幅 1.7	厚 0.8	端部に黒色漆付着	略完形
34	木製品	形代	長 9.4	幅 0.7	厚 1.8	烏帽子をかぶった人型　やや雑な整形	完形
35	木製品	用途不明	現長 7.0	幅 2.4～4.5	厚 1.3～1.4	建材か	
36	木製品	建築部材	現長 51.0	6.1	6.5	一面に凹上の刳りが入り、１ヵ所のみ裏面まで貫通し楔状の板材が遺存する	

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
方形竪穴状遺構１出土遺物（図52）							
1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.4)	(3.9)	1.7	底面－回転糸切　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	2.0	5.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.4)	2.4	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：暗灰色　焼成：良好	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.8	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.3	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	6.7	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.2)	4.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
8	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰褐色　備考：８～９型式	口縁部小破片
9	漆製品	雲型	長 6.6	幅 2.9	厚 0.4～0.7	膳部品　全面黒色漆鞣漆　中央辺に孔が開く　接着部鞣漆なし	完形
10	木製品	用途不明	現長 10.4	幅 1.8	厚 2.1	斜めに凹の刻みあり　断面隅丸方形	
溝状遺構３出土遺物（図54～57）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	4.5	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.0	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.7	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.7	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.9	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.2	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.7	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.4	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.3	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	4.3	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	(6.3)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	7.8	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
14	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	8.0	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
15	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.7	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形

16	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.3	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
17	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.2	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	3/5
18	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	6.6	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色　焼成：良好	完形
19	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.1	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
20	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	7.5	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
21	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	8.0	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
22	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	6.8	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
23	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	6.4	3.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
24	磁器	白磁 皿	－	(6.0)	1.6	口唇部－口兀　色調：胎土－白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ Ⅸ類	1/4
25	磁器	白磁 小壺	(6.1)	－	現 4.5	外面－型押し菊花・魚文・蓮弁文　色調：胎土－灰白色、白磁釉－乳白色　備考：６ｂ型式	2/5
26	磁器	青磁 梅瓶	－	－	現 6.4	外面－白泥により文様を象眼　色調：胎土－灰色、白泥－乳白色、青磁釉－緑灰色 備考：高麗青磁	口縁部 小破片
27	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.8	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
28	陶器	瀬戸 入子	(5.8)	(3.6)	2.2	輪花形　胎土：緻密　色調：灰色　備考：古瀬戸中期様式	1/3
29	陶器	常滑 広口壺大	(22.0)	－	現 23.3	胎土：白色粒、小礫　色調：暗褐色　備考：６ｂ～７型式	2/5
30	陶器	常滑 甕	－	－	現 17.3	外面－格子の押印　胎土：白色粒、小石粒、小礫　色調：灰褐色・暗灰色　備考：６ｂ型式	口縁部～ 肩部小破片
31	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：７型式	口縁部 小破片
32	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.4	外面－斜格子・米形の押印　胎土：白色粒、小礫　色調：灰色・明赤褐色	胴部 小破片
33	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 9.4	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	片口部～ 体部小破片
34	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 12.3	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：６ａ～７型式	1/8
35	陶器	摩耗陶片	現長 7.8	現幅 5.7	厚 1.1	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：にぶい暗灰色・暗茶褐色・緑灰色	略完形
36	土師質 土器	吉備系 土師質土器	－	(3.9)	現 3.9	胎土：砂粒、白色粒　色調：胎土－灰白色	1/4
37	瓦	平瓦	現長 11.8	現幅 16.5	厚 2.3	凸面－斜格子叩き・糸切痕　凹面－ナデ・糸切痕　胎土：粗　色調：灰色	1/6
38	石製品	温石	現長 6.2	幅 7.1	厚 1.2	孔１ヵ所（径 1.1㎝）　石材－滑石	
39	石製品	砥石	現長 8.6	幅 2.2～3.4	厚 1.5～1.8	１面に使用痕跡　石材－流紋岩	
40	金属 製品	刀子 （小刀）	現長 9.3	幅 1.8	厚 0.2～0.3	刃部の一部　材質－鉄	刃部 小破片
41	金属 製品	釘	現長 3.9	頭部幅 0.4	厚 0.1～0.2	角釘　材質－鉄	略完形
42	金属 製品	釘	現長 6.3	頭部幅 0.4	厚 0.1～0.4	角釘　材質－鉄	略完形
43	金属 製品	釘	現長 7.8	頭部幅 0.6	厚 0.1～0.4	角釘　材質－鉄	略完形
44	金属 製品	釘	現長 10.9	頭部幅 1.0	厚 0.1～0.3	角釘　材質－鉄	略完形
45	金属 製品	用途不明	現長 7.3	現幅 6.9	軸厚 0.4~0.5	２本の軸をＬ字状に繋げ、花菱状の飾り金具が付く　材質－鉄	
46	金属 製品	銭貨	直径 2.6	孔径 0.5	厚 0.1	銭名－天禧通寶（北宋・1071）　書体－楷書	完形
47	金属 製品	銭貨	直径 2.6	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－周元通寶（後周・655）　書体－楷書	完形
48	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－嘉祐通寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形
49	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形
50	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形
51	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－天聖元寶（北宋・1023）　書体－篆書	完形
52	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－至道元寶（北宋・995）　書体－草書	完形
53	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形
54	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	完形
55	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.5	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形
56	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形

57	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.5	厚 0.1	銭名－祥符元寶（北宋・1008）　書体－楷書	完形
58	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－至和通寶（北宋・1054）　書体－楷書	完形
59	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－淳祐元寶（南宋・1241）　背文－五　書体－楷書	完形
60	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
61	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－嘉祐元寶（北宋・1056）　書体－篆書	完形
62	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形
63	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－行書	完形
64	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.9	厚 0.1	銭名－五銖銭（後漢・24）　書体－篆書	完形
65	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－政和通寶（北宋・1111）　書体－隷書	完形
66	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
67	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.5	厚 0.1	銭名－景祐元寶（北宋・1034）　書体－楷書	完形
68	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－嘉祐通寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形
69	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－嘉祐元寶（北宋・1056）　書体－篆書	完形
70	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－嘉祐元寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形
71	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	完形
72	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	完形
73	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－紹聖元寶（北宋・1094）　書体－行書	完形
74	骨角製品	栗形	現長 5.0	幅 1.4～1.9	厚 0.1～0.2	螺旋形の紐通しを削り出す　素材－鹿角	略完形
75	骨角製品	笄	長 16.9	幅 0.2～0.8	厚 0.2	素材－鹿中足骨	完形
76	漆製品	皿	9.4	6.4	1.2	内外面－黒色漆黍漆　内面－漆絵（スタンプ）・内面全体に梶文　無高台	略完形
77	漆製品	皿	(9.6)	(7.4)	1.1	内外面－黒色漆黍漆　無高台	
78	漆製品	椀	現長 8.3	(7.0)	現 0.9	内外面－黒色漆黍漆　内面－漆絵（スタンプ）・籠垣文・梅文・鶯文（施文は非常に緻密で装飾的）　良品　輪高台	底部片
79	漆製品	椀	現長 11.4	(6.4)	現 2.2	内外面－黒色漆黍漆　内面－漆絵（スタンプ）籠垣文・花文・花枝文（梅か）　外面－漆絵（スタンプ）　輪高台	1/5
80	漆製品	膳	現長 4.1	幅 1.6	厚 1.5	膳脚部　全面－黒色漆黍漆　端部欠損	略完形
81	漆製品	膳	長 8.6	幅 1.5～3.3	厚 1.7～2.4	膳脚部　全面－黒色漆黍漆　差し込み部欠損	略完形
82	漆製品	膳	現長 11.6	現幅 3.9	厚 1.2～1.7	膳脚部　全面－黒色漆黍漆　膳脚部片面焼失	2/3
83	漆製品	雲型	長 6.5	幅 2.6	厚 0.2～1.1	膳部品　全面－黒色漆黍漆　丁寧な整形	完形
84	木製品	箸状	長 17.2	幅 0.6	厚 0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
85	木製品	箸状	長 17.7	幅 0.5	厚 0.5	断面円形	完形
86	木製品	箸状	長 17.9	幅 0.5	厚 0.4	断面不整形	完形
87	木製品	箸状	長 18.4	幅 0.6	厚 0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
88	木製品	箸状	長 18.6	幅 0.4	厚 0.4	断面方形	完形
89	木製品	箸状	長 19.1	幅 0.6	厚 0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
90	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平な方形	完形
91	木製品	箸状	長 21.2	幅 0.7	厚 0.5	丁寧な整形	完形
92	木製品	箸状	長 22.8	幅 0.7	厚 0.6	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
93	木製品	箸状	長 24	幅 0.7	厚 0.6	断面不整形	完形
94	木製品	箸状	長 24.2	幅 0.7	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
95	木製品	串状	現長 23.4	幅 0.8	厚 0.8	断面方形　粗い整形　端部斜めに切断	略完形
96	木製品	板杓子	現長 14.8	幅 6.0	厚 0.4	持ち手部欠損	1/2
97	木製品	板杓子	長 18.6	幅 1.6～3.1	厚 0.5	杓子部の形状が細身の方形を呈する	完形

98	木製品	経木折敷	現長 17.8	現幅 6.6	厚 0.2	端部に小孔痕	
99	木製品	膳	長 8.3	幅 1.6	厚 2.5	膳の脚部分	
100	木製品	調度具	長 15.5	幅 1.5	厚 0.4～0.6	部材・両端部に枘あり	完形
101	木製品	連歯下駄	長 22.3	幅 10.0	厚 1.4	歯部－上幅 10.0～10.3㎝・下幅 10.0～10.5㎝・厚 3.5㎝　台部－長楕円形・台部から横に張り出しては底部の幅が広い台形型を呈する　四面を丁寧に削り面取りしている　横緒に鼻緒を止めた木片遺存　前緒横に指痕あり	完形
102	木製品	草履芯	現長 24.1	現幅 5.6	厚 0.3～0.4	端部－緩く山型を呈する・最先端は山型の頂点となる　側縁部－曲線的　切り取り部－台形　薄く藁状圧痕遺存	1/2
103	木製品	火きり棒	現長 16.1	幅 1.0	厚 0.6～0.7	端部焼痕	
104	木製品	火きり棒	長 26.4	幅 0.8	厚 0.7	断面方形・端部焼痕あり	完形
105	木製品	円盤状	直径 3.7	－	厚 0.8～0.9	中央に木釘遺存	完形
106	木製品	円盤状	現長 6.1	現幅 1.9	厚 0.2～0.3	曲物か　周縁に圧痕あり　端部一部突起状	1/4
107	木製品	円盤状	直径 6.9	－	厚 0.3～0.5	曲物底板か　周縁は雑な整形	略完形
108	木製品	円盤状	直径 7.0	－	厚 1.6～2.2	粗い整形	完形
109	木製品	円盤状	直径 9.2	現幅 3.1	厚 0.6～0.7	側縁辺に木釘遺存・焼痕あり	1/3
110	木製品	円盤状	直径 9.5	幅 9.3	厚 0.7～1.0	復元直径－ 9.4㎝　表面線刻あり　雑な整形	略完形
111	木製品	楔	長 5.8	幅 2.3	厚 1.1～1.3	断面方形	完形
112	木製品	楔	長 9.5	幅 1.3	厚 1.2	断面方形	完形
113	木製品	楔	長 13.8	幅 1.7	厚 1.4	断面方形	完形
114	木製品	箆	長 18.6	幅 1.4	厚 1.2	断面かまぼこ型	完形
115	木製品	串状	長 12.6	幅 0.9	厚 0.9	断面半円形　丁寧な整形	完形
116	木製品	串状	長 31.0	幅 0.9	厚 0.8	断面半円形　両端部鋭角に整形	完形
117	木製品	棒状	現長 18.6	幅 1.5～1.6	厚 0.8	自然木か　中心部刳り抜かれる	
118	木製品	用途不明	現長 5.7	現幅 1.4～2.4	厚 0.5	中央部に方形と思われる孔が開く　平面形は楕円形を呈するか	
119	木製品	用途不明	現長 6.4	幅 1.2	厚 1.2	調度具部材か　差し込み部分－断面円形　長 1.9㎝、径 0.6㎝	
120	木製品	用途不明	現長 7.0	現幅 3.5	厚 0.5～0.6	円盤状製品か　中央部円形に孔が開く	1/2
121	木製品	用途不明	現長 8.2	現幅 4.2	厚 0.8	建築部材か　側縁に半円（円形）の孔が開く	
122	木製品	用途不明	現長 10.4	現幅 1.8～3.4	現厚 0.6～1.6	調度具部材か　端部焼痕	
123	木製品	用途不明	現長 11.7	現幅 6.0～6.3	厚 0.4～0.9	円盤状の蓋の一部か　中央に孔（径２㎝）が開く　端部焼痕あり	

溝状遺構４出土遺物（図58）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(4.4)	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.0	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.4	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(4.0)	2.4	内面－「神」の墨書　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/5
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(7.0)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
8	土器	ロクロ かわらけ・大	(16.6)	(8.8)	4.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
9	土器	かわらけ 転用品	直径 1.8	－	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
10	磁器	青磁 盤	－	－	現 4.7	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：龍泉窯系	口縁部 小破片
11	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(34.2)	(17.0)	11.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：７～８型式	1/3
12	石製品	砥石	現長 6.5	幅 3.4	厚 1.0	３面に使用痕跡　石材－流紋岩	
13	金属 製品	装飾金具	直径 1.6	孔径 0.2 × 0.6	厚 0.1	外周を菊花状に加工　材質－銅	完形
14	金属 製品	火箸	現長 21.4	幅 0.3	厚 0.2～0.4	先端を匙状に曲げ、鍔状の突帯が付く　材質－鉄	略完形

15	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
16	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.6	厚 0.6	雑な整形	完形
17	木製品	箸状	長 21.3	幅 0.5	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
18	木製品	連歯下駄	長 13.9	幅 7.6	厚 1.2	台部－中央がやや張り出し、四隅の丸い小判型を呈する　歯部－台部から横に張り出して台幅より歯底部の幅が広い　歯底部は摩耗しほとんど遺存していない　子供用	完形
19	木製品	串状	現長 17.5	幅 1.1	厚 1.2	丁寧な整形	

土坑47出土遺物（図60）

1	土器	かわらけ 転用品	直径 2.5	－	厚 1.0	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形

ピット出土遺物（図62）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	（12.2）	（6.3）	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 373	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・大	（14.4）	（7.6）	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 373	1/4
3	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－行書　出土遺構：ピット 386	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	6.7	4.1	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 389	3/4

第３面 遺構外出土遺物（図63～65）

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	（4.8）	（3.8）	0.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	（7.0）	4.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.8	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.7	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	（7.7）	（5.3）	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.9	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.4	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
8	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.2	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	かわらけ 転用品	直径 2.6	－	厚 0.6	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
10	土器	かわらけ 転用品	直径 2.7	－	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨、上面－中心に孔１ヵ所（0.3㎝）を穿つ　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
11	土器	かわらけ 転用品	直径 3.0	－	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
12	土器	かわらけ 転用品	直径 4.9	－	厚 0.9	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
13	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.8	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
14	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.8	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
15	磁器	青磁 坏	－	－	現 2.0	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅳ－４ａ類	口縁部小破片
16	磁器	青磁 坏	－	－	現 2.0	外面－蓮弁文　高台・畳付－露胎　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅳ－４ａ類	底部小破片
17	陶器	瀬戸 花瓶Ⅰ類	－	4.2	現 4.6	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式	1/3
18	陶器	瀬戸 入子	2.5	1.5	0.9	輪花形　胎土：緻密　色調：灰白色　備考：古瀬戸中期～後期様式	完形
19	陶器	瀬戸 折縁深皿	－	－	現 3.6	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式	口縁部小破片
20	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：５～６ａ型式	口縁部小破片
21	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.1	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ型式	口縁部小破片
22	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 3.8	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部小破片
23	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 4.8	胎土：微砂、黒色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部小破片
24	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 6.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰色　備考：６ａ～８型式	口縁部小破片
25	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰色　備考：７～８型式	口縁部小破片
26	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 11.1	内面－摩耗・擂目８条一単位の擂目　胎土：微砂　色調：暗赤褐色・黒色	口縁部～体部小破片
27	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.2	輪花形、内外面－磨き・黒色処理　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒色　備考：Ⅲ類	口縁部小破片
28	瓦	瓦 転用品	直径 6.8	－	厚 1.5	平瓦片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、小礫　色調：灰色　焼成：良好	完形

29	石製品	砥石	長 5.8	幅 3.6	厚 1.2	２面に使用痕跡　石材－粘板岩	略完形
30	石製品	砥石	現長 8.3	幅 4.2	厚 2.4	２面に使用痕跡　石材－流紋岩	
31	石製品	用途不明	直径 7.6～7.9	－	厚 2.8	表面－中央に１ヵ所の孔（径 1.0cm）、周囲に７ヵ所の孔（径 0.8～0.9cm）を穿ち、法輪状に溝を刻む　裏面－中央に１ヵ所の孔（径 1.5cm）を穿ち、放射状に溝を 17 本刻む　石質－凝灰岩質砂岩　色調：灰白色	完形
32	金属製品	釘	現長 10.9	頭幅 1.0	厚 0.2～0.3	角釘　材質－鉄	略完形
33	金属製品	火箸	現長 19.3	－	厚 0.2～0.4	先端を匙状に曲げ、鍔状の突帯が付く　材質－鉄	略完形
34	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形
35	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－至和元寶（北宋・1054）　書体－楷書	完形
36	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－政和通寶（北宋・1111）　書体－隷書	完形
37	漆製品	皿	現長 5.0	現幅 4.2	－	表面－黒色漆黎漆・漆絵（手描き）・楓文　裏面－黎漆なく木地のままだが漆が剝離した可能性もある　１ヵ所穿孔あり	
38	漆製品	皿	9.6	7.7	1.0	内外面－黒色漆黎漆　無高台　外側面に粗形の痕跡残る	略完形
39	漆製品	皿	10.9	7.0	1.0	内外面－黒色漆黎漆　無高台	略完形
40	木製品	箸状	長 16.4	幅 0.7	厚 0.5	断面楕円形	完形
41	木製品	箸状	長 16.8	幅 0.7	厚 0.5	断面方形	完形
42	木製品	箸状	長 17.8	幅 0.6	厚 0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
43	木製品	箸状	長 19.3	幅 0.6	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
44	木製品	箸状	長 19.4	幅 0.7	厚 0.5	断面楕円形	完形
45	木製品	箸状	長 19.4	幅 0.6	厚 0.4	断面かまぼこ型　丁寧な整形	完形
46	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.6	厚 0.6	断面三角形	完形
47	木製品	箸状	長 21.0	幅 0.8	厚 0.4	断面方形	完形
48	木製品	箸状	長 21.4	幅 0.8	厚 0.6	断面楕円形　丁寧な整形	完形
49	木製品	箸状	長 21.6	幅 0.7	厚 0.5	断面方形	完形
50	木製品	箸状	長 2.2	幅 0.7	厚 0.4～0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
51	木製品	箸状	長 22.4	幅 0.8	厚 0.3	断面方形	完形
52	木製品	箸状	長 23.4	幅 0.7	厚 0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
53	木製品	箸状	長 23.4	幅 0.7	厚 0.6	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
54	木製品	箸状	長 23.4	幅 0.8	厚 0.5	断面方形　丁寧な整形	完形
55	木製品	箸状	長 24.2	幅 0.7	厚 0.4	断面楕円形　丁寧な整形	完形
56	木製品	箸状	長 26.2	幅 0.6	厚 0.4	断面方形	完形
57	木製品	曲物	直径 (8.6)	－	厚 0.5	曲物底板部分	1/2
58	木製品	曲物	直径 9.2	幅 8.8	厚 0.2～0.4	曲物底板部分	略完形
59	木製品	曲物	直径 (18.4)	－	厚 0.5～0.6	曲物底板部分	3/4
60	木製品	調度具	長 27.6	幅 3.1～3.2	厚 0.6～0.9	側縁辺に木釘痕・木釘間の距離は 11.7cm・11.3cmと不規則で、直線状に並ばない	完形
61	木製品	仏具部材	現長 3.7	幅 1.1～3.6	厚 0.6～1.0	仏具か　細かな彫りが施される	
62	木製品	草履芯	長 24.2	幅 9.8	厚 0.1～0.3	側縁部－直線的　切り込み部－台形を呈する	4/5
63	木製品	自在鉤	現長 9.7	幅 1.2	厚 1.4	自然木を加工　端部のみ遺存	
64	木製品	鞘	現長 13.0	幅 2.1～2.6	厚 0.5～1.0	丁寧な整形	1/2
65	木製品	手押木	現長 13.1	幅 3.0	厚 3.1	遺存状態悪く一部破損	略完形
66	木製品	鍬	長 40.6	現幅 3.7～10.9	厚 1.0～1.4	端部焼痕	1/2
67	木製品	鋤	長 33.6	幅 5.6～14.0	厚 1.0～1.2	手斧による整形痕残る　丁寧な整形	完形
68	木製品	箆	長 14.2	幅 1.0	厚 0.4	断面長方形	完形

69	木製品	箆	長 23.0	幅 1.3	厚 0.6～1.1	断面楕円形　片端部のみ斜めに削り出している	完形
70	木製品	串状	長 19.1	幅 0.7	厚 0.5	断面方形　片端部のみ鋭角に削り出している	完形
71	木製品	串状	長 22.9	幅 1.4	厚 1.4	端部に鉄釘が打たれる　呪詛に使用か　断面ほぼ正円　丁寧な整形　鉄釘長 4.0㎝以上・幅 0.5㎝・厚 0.5㎝	完形
72	木製品	串状	長 25.5	幅 0.9	厚 0.6	断面かまぼこ型　丁寧な整形	完形
73	木製品	串状	長 25.9	幅 1.2	厚 0.5	断面かまぼこ型　丁寧な整形	完形
74	木製品	用途不明	長 9.2	幅 1.3	厚 1.2	断面円形　丁寧な整形　栓か	完形
75	木製品	球	直径 6.0	－	－	毬杖の玉か　雑な整形	完形
76	木製品	建築部材	現長 16.8	幅 7.6～8.4	厚 4.2～11.6	ほぞ穴か、円形の孔あり　遺存状態悪い	

第３面 構成土出土遺物（図66～68）

1	土器	白かわらけ 蓋	－	－	現高 1.7	半円形のつまみが上部に付く　胎土：微砂、雲母、白色粒　色調：灰白色・灰色　焼成：良好	
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.4	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.0)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	4.3	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.1	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	4.0	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.2	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕、穿孔１ヵ所（径 0.6㎝）　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.4	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	4.5	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.9	2.0	口縁部－煤付着、底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.1)	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.2	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.5	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.0)	(5.2)	3.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.1)	(5.5)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.6	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
20	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	6.7	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
21	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	6.5	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
22	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.4	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
23	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(7.7)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/5
24	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	8.3	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好	2/3
25	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(7.3)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
26	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	6.4	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
27	土器	かわらけ 転用品	直径 2.9	－	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
28	磁器	白磁 合子蓋	(9.9)	－	現 2.2	外面－型押しによる蓮弁文、口唇部・天井部上半－露胎　色調：胎土－灰白色、白磁釉－乳白色	1/8
29	磁器	白磁 皿	－	(7.0)	現 1.4	底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－灰白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	底部 小破片
30	磁器	青磁 盤	－	－	現高 2.5	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色	口縁部 小破片
31	磁器	青磁 皿	－	9.8	現高 2.0	畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色	底部 小破片

32	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.1	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
33	陶器	常滑 甕	－	－	現 10.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：６ａ型式	口縁部～ 肩部小破片
34	陶器	常滑 甕	－	－	現 12.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：６ａ型式	口縁部～ 肩部小破片
35	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 7.1	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
36	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 7.8	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
37	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	28.2	12.8	11.4	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰色	略完形
38	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 5.8	内面－摩耗・擂目８条一単位の擂目　胎土：微砂　色調：にぶい灰褐色・にぶい赤褐色	口縁部 小破片
39	陶器	備前 擂鉢	－	－	現 6.0	内面－摩耗・擂目８条一単位の擂目　胎土：微砂　色調：にぶい灰褐色	口縁部 小破片
40	陶器	転用陶片	現長 13.3	現幅 12.6	厚 0.9～1.3	常滑甕破片の裏面を漆パレットとして使用　胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色・橙褐色	略完形
41	陶器	摩耗陶片	現長 11.4	現幅 7.2	厚 1.3	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：白色粒、黒色粒　色調：灰褐色	略完形
42	石製品	砥石	現長 6.3	現幅 3.2	厚 7.6	１面に使用痕跡　石材－粘板岩	
43	石製品	凹石	現長 10.1	現幅 10.1	厚 3.2	上面中央・下端－敲打痕　石材－安山岩	略完形
44	石製品	燧石	現長 3.2	現幅 3.6	厚 8.3	下端－敲打痕　石材－瑪瑙	略完形
45	金属 製品	刀子 （小刀）	現長 19.9	幅 1.3～1.8	厚 0.2～0.3	茎－目釘孔１ヵ所（径0.3㎝）　材質－鉄	4/5
46	金属 製品	釘	現長 5.5	－	厚 0.4	角釘　材質－鉄	略完形
47	金属 製品	釘	現長 6.0	－	厚 0.4	角釘　材質－鉄	略完形
48	金属 製品	火箸	現長 27.8	－	厚 0.2～0.5	1/3 を捻り状に加工　材質－鉄	略完形
49	金属 製品	用途不明	現長 6.1	現幅 1.9～2.3	厚 0.1	端部を丸く加工　材質－銅　備考：第４面遺構外出土遺物（図89－72）に類似	
50	金属 製品	用途不明	現長 17.8	－	厚 0.2~0.3	先端を匙状に曲げ、鍔状の突帯が付く　材質－鉄	略完形
51	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－嘉祐通寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形
52	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形
53	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書	完形
54	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－楷書	完形
55	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－紹聖元寶（北宋・1094）　書体－篆書	完形
56	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－建炎通寶（南宋・1127）　書体－篆書	完形
57	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－紹興元寶（南宋・1131）　書体－楷書	完形
58	漆製品	椀	現長 12.8	（6.6）	現 4.5	内外面－黒色漆糅漆・内外面無文　輪高台　外面焼痕	4/5
59	漆製品	仏具部材	現長 6.3	幅 1.0	厚 0.8	全面－黒色漆糅漆　断面八角形に整形　仏具（光背）か	
60	木製品	箸状	長 18.9	幅 0.7	厚 0.4	断面不整形　雑な整形	完形
61	木製品	箸状	長 22.0	幅 0.6	厚 0.5	断面方形	完形
62	木製品	連歯下駄	長 23.9	現幅 9.9	厚 5.4	台部－中央がやや張り出し、四隅の丸い小判型を呈する・前坪横に指圧痕あり　歯部－台部から横に張り出して台幅より歯底部の幅が広い	略完形
63	木製品	錐	現長 27.0	幅 1.0	厚 1.0	錐＋柄部分－現長 15.2㎝・幅 1.0㎝　端部焼痕　錐部分－幅 0.5㎝	
64	漆製品	鏑矢	現長 5.5	幅 （5.0）	厚 0.1～0.3	内外面－黒色漆糅漆　木質が痩せてしまい漆被膜のみ遺存	
65	木製品	箆	長 17.8	幅 1.2	厚 0.7	丁寧な整形	完形
66	木製品	円盤状	直径 7.7	現幅 3.3～3.7	厚 0.3～0.6	中央に穿孔	1/2
67	木製品	形代	現長 11.2	現幅 2.7	厚 0.4～0.7	舟型か	

表５　第４面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
礎石・礎板建物２出土遺物（図72～77）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.3	2.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	5/6
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.8	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	5/6

3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.9	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.4	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.7	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.4	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.4	2.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.1	1.8	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：灰褐色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.9	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.4	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：赤褐色　焼成：良好	3/4
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.6	2.2	口縁部～内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.8)	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.7	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.6	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	5.6	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0	6.2	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・中	11.6	6.8	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.0)	3.0	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/5
19	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.0	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
20	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.9	3.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好	完形
21	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	6.9	3.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好	5/6
22	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	8.4	3.6	内面－荒いハケメ、底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
23	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	7.2	3.6	外面下半・内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
24	土師質 土器	吉備系 土師質土器	9.6	4.0	3.5	口縁部～内面－油煤付着　底面－高台貼り付け　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、黒色粒、やや粗土　色調：灰白色　焼成：良好	1/3
25	土器	かわらけ 転用品	直径 2.9	－	厚 0.8	かわらけ片を円盤状に加工、外周部－打ち欠いた後に研磨　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
26	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部～ 頸部小破片
27	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.2	外面－×・格子形の押印　胎土：白色粒　色調：灰色・緑灰色	胴部 小破片
28	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 6.6	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部～ 体部小破片
29	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 7.4	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	体部～底部 小破片
30	瓦	平瓦	現長 13.9	現幅 17.3	厚 2.5	凸面－斜格子叩き　凹面－ヘラナデ　胎土：粗　色調：灰色	1/3
31	瓦	丸瓦	現長 10.6	現幅 9.2	厚 2.3	凸面－ヘラナデ　凹面－布目痕　胎土：粗　色調：灰色・黒色	1/4
32	石製品	硯	現長 4.4	現幅 3.7	1.3	海部分のみ遺存　角部に波文の彫刻	破片
33	金属 製品	小仏像	高 4.6	幅 1.6	厚 0.3	鋳造　表－阿弥陀仏・光背　裏面－平坦　材質－銅？	略完形
34	金属 製品	刀子 （小刀）	現長 11.3	現幅 2.3	現厚 0.8	柄－鉄製の刃物柄を木製の鞘で挟み紐で縛っている・紐の上から黒色漆で鞣漆した痕跡残る	1/2
35	金属 製品	釘	現長 6.7	頭幅 0.6	厚 0.5	角釘　材質－鉄	略完形
36	金属 製品	用途不明	現長 4.6	－	厚 0.3	角釘状製品の端部を丸く曲げる　材質－鉄	略完形
37	金属 製品	銭貨	直径 2.3	頭幅 0.6	厚 0.1	銭名－嘉祐元寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形
38	金属 製品	銭貨	直径 2.3	頭幅 0.6	厚 0.1	銭名－治平通寶（北宋・1064）　書体－楷書	完形
39	金属 製品	銭貨	直径 2.4	頭幅 0.6	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書	完形
40	金属 製品	銭貨	直径 2.4	頭幅 0.6	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書	完形
41	金属 製品	銭貨	直径 2.4	頭幅 0.6	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	完形
42	金属 製品	銭貨	直径 2.3	頭幅 0.6	厚 0.1	銭名－紹聖元寶（北宋・1094）　書体－行書	完形
43	金属 製品	銭貨	直径 2.4	頭幅 0.6	厚 0.1	銭名－聖宋元寶（北宋・1101）　書体－楷書	完形

44	漆製品	皿	－	(5.4)	現 1.1	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)・花文(竜胆文か)　輪高台	1/4
45	漆製品	皿	現長 7.3	現幅 5.8	現 0.6	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(スタンプ)・菊花文・菊枝文　無高台	1/5
46	漆製品	皿	(7.8)	(6.0)	1.1	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)・笹文　無高台	2/3
47	漆製品	皿	8.5	6.0	1.5	内外面－黒色漆糅漆　内面－無文　外面－漆絵(手描き)・側面３ヵ所に木瓜文　外底部に「十字」の線刻あり(糅漆前に線刻されている)	完形
48	漆製品	皿	(8.8)	(7.0)	1.0	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)　無高台	1/3
49	漆製品	皿	(8.8)	(7.2)	1.1	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)・見込みに鳥文(千鳥)・側面に波文　無高台	1/4
50	漆製品	皿	(9.2)	(7.6)	1.0	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)・文様　無高台	1/5
51	漆製品	皿	9.2	8.0	現 0.8	内外面－黒色漆糅漆・内面－漆絵(手描き)・花文(文様種不明)　無高台	2/3
52	漆製品	皿	9.5	6.8	1.8	内外面－黒色漆糅漆　外底面－「十字」の線刻と貫通しない小孔あり　無高台	完形
53	漆製品	皿	(9.6)	7.0	1.5	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)・見込みに千鳥文・内側面に個所に千鳥文　無高台	2/3
54	漆製品	皿	10.2	7.0	1.2	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)・見込みの円文の中央に菊花文(15弁)と円文周縁４ヵ所に半分の菊花文　無高台	2/3
55	漆製品	椀	(7.8)	(6.8)	5.3	内外面－黒色漆糅漆・漆絵(手描き)・波文か　輪高台　備考：遺存状態悪く計測値は参考値	2/3
56	漆製品	椀	－	(7.4)	現 0.7	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)・芙蓉文か　輪高台	1/5
57	漆製品	椀	－	(8.0)	現 1.5	内外面－黒色漆糅漆・漆絵(手描き)・文様　外底面－「一」の文字　輪高台・高台部漆剥離	1/4
58	漆製品	椀	－	(8.6)	現 1.2	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)千鳥文・雲文　無高台	1/5
59	漆製品	椀	(12.8)	(5.8)	現 4.2	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵(手描き)・見込みに文字文「一」　外底面－線刻あり・「八」か　輪高台	1/2
60	漆製品	膳	長 2.9	幅 8.3	厚 0.5～1.0	雲形　黒色漆糅漆　膳接着部は糅漆なし	完形
61	漆製品	膳	長 3.2	幅 9.1	厚 0.5～0.9	雲形　黒色漆糅漆　膳接着部は糅漆なし　小孔あり	完形
62	漆製品	膳	長 7.2	幅 1.9	厚 0.3～0.6	雲型　黒色漆糅漆　端部に木釘痕遺存	完形
63	漆製品	膳	長 7.2	幅 2.0	厚 0.3～0.8	雲型　黒色漆糅漆　接着部は糅漆なし	完形
64	漆製品	膳	長 6.1	幅 2.0	厚 1.2	膳脚部　断面方形　差し込み部断面円形	完形
65	木製品	箸状	長 20.6	幅 0.6	厚 0.4	断面方形	完形
66	木製品	箸状	長 20.7	幅 0.5	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
67	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平な方形	完形
68	木製品	箸状	長 21.8	幅 0.7	厚 0.5	丁寧な整形	完形
69	木製品	箸状	長 22.6	幅 0.8	厚 0.6	断面方形	完形
70	木製品	箸状	長 22.8	幅 0.8	厚 0.7	断面方形	完形
71	木製品	箸状	長 23.0	幅 0.7	厚 0.6	断面円形　丁寧な整形	完形
72	木製品	箸状	長 24.1	幅 0.6	厚 0.5	断面隅丸方形型	完形
73	木製品	箸状	長 24.1	幅 0.6	厚 0.5	断面方形　丁寧な整形	完形
74	木製品	板杓子	長 20.1	幅 4.5～8.7	厚 0.4～0.8	丁寧な整形	完形
75	木製品	板杓子	長 20.7	幅 2.8～6.6	厚 0.2～0.7	整形痕が顕著に残る	完形
76	木製品	板杓子	長 23.0	幅 6.5	厚 0.8～0.9	整形痕あり	完形
77	木製品	蓋	直径 17.3	－	厚 0.5～1.2	凸部－長さ21.4㎝・帯状に幅1.4～1.8㎝の材を嵌め込んでおり、修繕と思われる　凸部端部に焼痕　両面に刃物痕	完形
78	木製品	鍋蓋	直径 (18.2)	－	厚 0.5～0.6	中央辺と側縁辺にそれぞれ２ヵ所の木釘痕　刃物痕あり	1/2
79	木製品	曲物	直径 (6.8)	－	厚 0.5～0.6	対面の位置に木釘痕２ヵ所ずつ残る	2/3
80	木製品	曲物	直径 15.4	－	厚 0.5～0.7		4/5
81	木製品	曲物	現長 21.5	現幅 6.1	厚 0.7～1.0	曲げ物底板・側面に４ヵ所木釘痕	1/5
82	木製品	曲物	直径 (40.0)	－	厚 0.7～1.3	表裏－刃物痕　一部方形の圧痕あり　中心部修理痕－木釘２本あり　側縁部－木釘痕・桜皮の紐残る	3/4
83	木製品	折敷	長 26.3	幅 27.5	厚 0.5～2.0	２枚の板材を柾目で90度交差させて貼り合わせてある　表面中央に花文の墨書あり(菊花か)　四辺に3.5～4.0㎜の太さの角棒状の縁が桜皮によって固定される(固定位置は３ヵ所と４ヵ所あり)　折敷中央と対角線上に小孔が３ヵ所遺存・２枚の板材を固定するためだったのか・裏面に脚を取り付けた可能性もあり	略完形

84	木製品	経木折敷	長 16.7	現幅 3.8	厚 0.15		
85	木製品	板折敷	長 16.9	現幅 7.9	厚 0.2～0.5	側縁部中央辺に小孔あり　雑な整形のため厚さが一定しない	1/2
86	木製品	経木折敷	長 17.4	現幅 8.0	厚 0.1	端部辺に２ヵ所小孔あり	1/2
87	木製品	経木折敷	長 16.0	現幅 8.9～9.1	厚 0.1	側縁辺に小孔あり	1/2
88	木製品	経木折敷	長 16.5	現幅 9.0	厚 0.2		1/2
89	木製品	経木折敷	長 16.4	現幅 14.1	厚 0.2	端部中央辺対面に其々小孔あり　角は斜めに整形	4/5
90	木製品	柄杓	長 33.9	幅 1.5	厚 1.4	柄杓の柄部分　断面三角形	完形
91	木製品	調度具	長 10.7	幅 1.7	厚 1.6	断面方形・側縁部丁寧に面取り整形　端部差し込み－断面円形	完形
92	木製品	調度具	現長 14.5～14.7	幅 1.2～1.5	厚 1.2～1.3	木釘痕あり　やや雑な整形	
93	木製品	調度具	現長 18.4	幅 2.5～2.9	厚 0.3～0.5	側縁部辺に円形の切り込みあり	
94	木製品	調度具	長 18.7	幅 1.5	厚 0.8～1.0	端部丁寧な整形　端部から 3.0～3.5㎝辺に木釘遺存	略完形
95	木製品	調度具	長 24.6	幅 1.9～2.2	厚 1.1～1.5	中央辺に小孔　直線状に木釘痕６ヵ所あるが、その間隔は（左から）3.5㎝・3.7㎝・1.6㎝・5.3㎝・3.8㎝と一定の間隔ではない　側縁部近くに２ヵ所木釘痕あり	略完形
96	木製品	調度具	現長 17.7	現幅 1.5～3.7	厚 0.6～1.0	端部辺に木釘痕（２ヵ所に木釘遺存）・木釘の芯芯距離は 6.5㎝と 5.3㎝	
97	木製品	調度具	現長 18.2	現幅 1.8	厚 0.5～0.7	側縁部に菱形の切り込みあり	
98	木製品	草履芯	現長 18.9	現幅 4.3	厚 0.2～0.3	先端部－緩く山型に切り込む・最先端は山型の頂点・小孔あり　側縁部－直線的　切り込み部－方形に切り込む	1/2
99	木製品	草履芯	長 24.3	現幅 3.4	厚 0.3	端部－直線的　側縁部－直線的　切り取り部－方形に切り込む	1/3
100	木製品	草履芯	長 23.3	現幅 4.7	厚 0.3～0.5	先端部－合わせの部分が最先端となり、側縁部にかけて丸みを帯びる・小孔あり　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形で前方に深く切り込む	1/2
101	木製品	草履芯	長 23.8	現幅 4.9	厚 0.4	先端部－緩く山型に切り込む・小孔あり　側縁部－曲線的　切り取り部－方形に切り込む	1/2
102	木製品	建築部材	現長 10.9	幅 1.6～1.7	厚 0.5～1.1	格子部材？	
103	木製品	建築部材	現長 51.9	幅 3.2	厚 3.2～3.3	ほぞ穴９ヵ所遺存　ほぞ穴－長さ 1.8～2.2㎝・幅 1.5～1.6㎝・深さ 1.1～1.2㎝　側縁部－釘痕	
104	木製品	鞘	現長 25.3	幅 2.6	厚 0.2～0.4	ａとｂは同一の鞘　計測値はａの部位	1/2
105	木製品	箆	長 21.1	幅 1.2	厚 0.7	丁寧な整形	完形
106	木製品	串状	現長 10.9	幅 1.4	厚 1.3	両端欠損　断面円形　丁寧な整形	
107	木製品	串状	長 18.4	幅 1.0	厚 0.8	断面方形　片端部のみ削り出し	完形
108	木製品	串状	現長 19.4	幅 0.4～1.4	厚 0.5～0.7	断面方形　端部鋭角に整形	
109	木製品	串状	長 24.7	幅 0.9	厚 0.4	断面扁平な方形　丁寧な整形	完形
110	木製品	串状	長 25.6	幅 1.0	厚 0.6	断面扁平な方形　丁寧な整形	完形
111	木製品	串状	長 26.3	幅 1.2	厚 0.8	断面半円形　丁寧な整形	完形
112	木製品	串状	長 28.3	幅 1.5	厚 1.0	断面方形　丁寧に面取り整形している　片端部のみ鋭角に削り出し	完形
113	木製品	串状	長 32.3	幅 1.6	厚 1.5	断面円形　丁寧な整形	完形
114	木製品	用途不明	現長 2.7	現幅 2.5	厚 0.9～1.0	丁寧な整形　孔あり	
115	木製品	用途不明	長 3.9	幅 4.4	厚 4.0	端部は円形に整形　断面方形　側面細かな整形痕　頂部に梅文型の小痕あり	完形
116	木製品	用途不明	現長 7.2	現幅 6.7	厚 3.9～4.1	端材か	
117	木製品	用途不明	現長 7.2	現幅 6.5	厚 1.4～4.0	端材か	
118	木製品	用途不明	長 8.2	現幅 1.4	厚 1.3	端部に楔が入る　栓か	完形
119	木製品	用途不明	現長 8.7	直径 3.0	－ 	丁寧な整形　棒状製品	
120	木製品	用途不明	現長 9.6	現幅 2.1	厚 0.2～0.3	中央部両面に圧痕残る	
121	木製品	用途不明	現長 10.0	現幅 3.3	厚 2.3	中央辺に木釘痕	
122	木製品	用途不明	長 11.8	幅 1.5～2.8	厚 0.1～0.4	箆か　丁寧な整形	完形
123	木製品	用途不明	現長 12.7	現幅 2.3～2.6	厚 1.9～2.2	断面方形　両端部削り出し	

124	木製品	用途不明	現長 18.5	現幅 2.0～2.1	厚 1.3～1.4	端部焼痕　断面半円形　中央辺に太い木釘、木釘から 5.1～5.2㎝の位置に 12 本の細い木釘が打たれる　木釘（大）－長 8.1・幅 0.7・厚 0.6㎝　木釘（小）－長 1.5・幅 0.3・厚 0.3㎝	
125	木製品	用途不明	現長 29.5	現幅 3.9	厚 4.4	7ヵ所円形の孔が開く　孔間の距離は 4.5㎝・5.0㎝・4.3㎝・3.9㎝・3.6㎝・4.0㎝と不規則である	
126	木製品	用途不明	長 14.4	直径 3.8・2.4	－	蓮蕾あるいは宝珠形・仏具？　軸下部に方形の孔（径 0.3㎝）	完形
127	木製品	形代	現長 10.7	1.2	厚 0.8	杵型か	
128	木製品	独楽	直径 (4.7)	－	現 2.6	木地のまま　遺存状態悪く、復元値は参考値	

井戸１出土遺物（図80）

1	木製品	曲物	直径 20.9～ 21.1	－	厚 0.5～1.1	曲物底板　破損後中央付近で別の板材で修復している・中央部補修用の木釘痕３ヵ所遺存　片側のみ側面に木釘痕２ヵ所遺存	完形

土坑50出土遺物（図82）

1	木製品	呪符木簡	現長 14.7	幅 3.2	厚 0.25	図82 の釈文参照	7/8
2	木製品	箸状	長 22.3	幅 0.8	厚 0.4	断面半円形	完形
3	木製品	箸状	長 23.1	幅 0.9	厚 0.3～0.4	断面不整形	完形
4	木製品	箸状	長 23.6	幅 0.8	厚 0.7	断面方形　丁寧な整形	完形
5	木製品	調度具	現長 23.1	幅 1.7～1.8	厚 1.0～1.1	小孔（木釘痕）あり　断面半円形　丁寧な整形	
6	木製品	曲物	直径 (7.0)	－	厚 0.5～0.6	刃物痕あり	1/3
7	木製品	草履芯	長 24.0	幅 10.3	厚 0.2～0.3	先端部－緩く山型に切り込む・最先端は山型の頂点・小孔あり　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形で前方に深く切り込む	完形
8	木製品	用途不明	直径 3.5	－	厚 1.2	円盤状木製品	完形
9	木製品	用途不明	現長 39.8	幅 0.8	厚 0.7	断面方形　建築部材か	

土坑53出土遺物（図83）

1	木製品	板杓子	長 26.7	幅 4.4～8.2	厚 0.3～0.6	先端部使用痕、摩滅している	略完形

土坑54出土遺物（図84）

1	漆製品	椀	(14.2)	(8.8)	現 4.5	内外面－黒色漆鞣漆　内面－漆絵（手描き）・見込みに御所車文・側面３ヵ所に半輪の御所車文・線描きで水文　外面－３ヵ所に半輪の御所車文・高台部剥離　輪高台か	1/2
2	木製品	箸状	長 19.1	幅 0.5	厚 0.4	断面方形　丁寧な整形	完形
3	木製品	箸状	長 19.1	幅 0.7	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
4	木製品	箸状	長 26.3	幅 0.8	厚 0.5	断面扁平な方形　丁寧な整形	完形
5	木製品	経木折敷	長 14.2	現幅 2.5～2.7	厚 0.1	角を斜めに整形　長辺中央辺に小孔あり	1/6
6	木製品	経木折敷	長 14.8	現幅 4.5	厚 0.1	側縁部片に小孔あり	1/3
7	木製品	経木折敷	長 14.8	現幅 4.5	厚 0.1	側縁部片に小孔あり	1/3
8	木製品	曲物	直径 (6.0)	－	厚 0.3～0.4	曲物底板　刃物痕あり	1/2
9	木製品	調度具	長 12.9	幅 1.7	厚 0.7	中央に木片遺存・側縁部に木釘痕があり木片を留めている	略完形
10	木製品	草履芯	長 17.9	現幅 4.0	厚 0.2～0.3	先端部－山型に切り込む・小孔あり　側縁部－直線的　切り取り部－平行四辺形で前方に深く切り込む　合わせ部後方に菱形の切り込みあり　子供用	1/2
11	木製品	草履芯	長 17.8	幅 7.8	厚 0.3～0.4	先端部－山型に切り込み最先端は山型の頂点となる・小孔あり　側縁部－直線的　切り込み部－方形に切り込む　合わせ部後方に菱形の切り込みあり　子供用	完形
12	木製品	草履芯	長 25.5	現幅 4.2	厚 0.2～0.3	先端部－山型に切り込む・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となる山型を呈する　切り取り部－台形を呈する　合わせ部後方に菱形の切り込みあり	1/2
13	木製品	草履芯	長 24.3	幅 10.3	厚 0.2～0.3	先端部－緩く山型に切り込む・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となる山型を呈する　切り取り部－方形　合わせ部後方に三角形の切り込みあり	完形
14	木製品	草履芯	長 24.3	幅 10.2	厚 0.3～0.4	先端部－山型に切り込む・小孔あり　側縁部－直線的　切り取り部－方形に切り込む　合わせ部後方に菱形の切り込みあり	完形
15	木製品	草履芯	長 24.8	幅 14.5	厚 0.3～0.4	先端部－合わせ部分から側縁部にかけて全体が丸みを帯びる・合わせの部分は最先端より切り込まれる・小孔あり　側縁部－直線的　切り取り部－台形	完形
16	木製品	用途不明	直径 3.6～4.0	－	－	球状に整形　細かく整形痕が残る　毬杖の玉か	完形

土坑55出土遺物（図85）

1	木製品	箸状	長 22.9	幅 0.7	厚 0.6	断面不整形	完形
2	木製品	箸状	長 24.2	幅 0.7	厚 0.5	断面扁平な方形	完形
3	木製品	調度具	長 16.6	幅 1.2～5.6	厚 0.8～1.2	雲型か	略完形
4	木製品	草履芯	長 25.3	幅 10.4	厚 0.2～0.4	端部－山型に切り込み・最先端は山型の頂点・小孔あり　側縁部－直線的　切り取り部－長方形に切り込む	5/6

5	木製品	箆	長 20.8	幅 1.2～1.3	厚 0.2～0.5	丁寧な整形	完形
6	木製品	用途不明	a 長 16.7 b 長 15.7	a 幅 2.1～2.4 b 幅 1.7～1.9	a 厚 0.7～0.8 b 厚 0.7	a 部分と b 部分を十字に組んでいる　端部Ｖ字に成型	
7	木製品	形代	長 14.1	幅 1.4～2.4	厚 0.2～0.4	板杓子型　丁寧な整形　木釘痕あり	完形

ピット出土遺物（図87）

1	木製品	草履芯	長 23.5	幅 9.6	厚 0.2～0.3	先端部－直線的・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となり直線的　切り取り部－方形に切り込む　出土遺構：ピット 399	3/4
2	木製品	下駄	現長 4.8	幅 6.4～8.6	厚 1.2～1.4	下駄の歯部分・鉄釘による修理痕遺存（釘痕 4 ヵ所）　出土遺構：ピット 404	
3	木製品	部材	長 9.4	幅 2.1～2.2	厚 1.1～1.9	中央に鉄釘痕　出土遺構：ピット 406	略完形
4	木製品	膳	長 5.5	現幅 2.2～2.3	厚 1.8	膳の脚部分・生地のまま　出土遺構：ピット 417	完形
5	木製品	串状	現長 11.4	幅 0.9	厚 0.7	断面方形　四隅を面取りして成型　中央付近焼痕　出土遺構：ピット 417	
6	木製品	箸状	長 19.5	幅 0.6	厚 0.4	断面楕円形　丁寧な整形　出土遺構：ピット 420	完形
7	木製品	箸状	長 24.3	幅 0.7	厚 0.7	断面方形　四隅面取りして成型　出土遺構：ピット 420	完形

第４面 遺構外出土遺物（図88～94）

1	土器	白かわらけ	（10.4）	－	現 3.0	ロクロ成形　胎土：微砂、良土　色調：乳白色・にぶい黄橙色　焼成：良好	口縁部 小破片
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.6	4.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.4	2.3	内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：明褐色　焼成：良好　備考：二次焼成	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.4	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.4	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好　備考：二次焼成	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.5	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.5	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.4	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.6	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.8	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.4	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	略完形
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.8	1.7	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
17	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.9	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
18	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	1.8	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.9	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：褐灰色　焼成：良好	略完形
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.6	1.9	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：褐灰色　焼成：良好	4/5
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
22	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.7	1.8	全体－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：黒色　焼成：良好	完形
23	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.3	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	略完形
25	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄色　焼成：良好	略完形
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　備考：二次焼成	略完形
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.6	1.9	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
28	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.6	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形

29	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.2	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	略完形
30	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.4	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕、焼成後穿孔１ヵ所（径 1.8㎝）　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
31	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	6.4	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
32	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0	7.0	3.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
33	土器	ロクロ かわらけ・中	11.2	6.6	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
34	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	7.1	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/5
35	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.9	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	5/6
36	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	8.1	4.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/5
37	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.3	3.8	体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄褐色　焼成：良好	3/4
38	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.8	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
39	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.7	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
40	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	9.0	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
41	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.9	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
42	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.6	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
43	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.0	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
44	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.8	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好	4/5
45	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
46	土器	かわらけ 転用品	直径 2.3	孔径 0.4	厚 0.4	かわらけ片を円盤状に加工　外周部－打ち欠いた後に研磨し、中央に孔を穿つ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
47	土製品	土錘	現長 6.1	幅 2.6	孔径 0.8	手づくね成形　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
48	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.0	外面－蓮弁文　畳付－無釉　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	底部 小破片
49	磁器	青磁 盤	－	－	現 4.1	外面－蓮弁文　畳付－無釉　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：龍泉窯系	底部 小破片
50	陶器	瀬戸 入子	4.1	3.5	1.0	胎土：緻密　色調：灰白色　備考：古瀬戸中期様式	略完形
51	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.9	胎土：白色粒　色調：黒褐色・緑灰色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
52	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.3	胎土：白色粒　色調：黒褐色・褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
53	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.4	胎土：白色粒　色調：黒灰色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
54	陶器	常滑 甕	－	－	現 10.5	胎土：白色粒　色調：黒褐色　備考：６ｂ～７型式	口縁部 小破片
55	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.9	外面－格子形の押印　胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色	胴部 小破片
56	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 5.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
57	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 6.1	胎土：微砂、白色粒　色調：灰色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
58	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(30.2)	－	現 8.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色・黒褐色・橙色　備考：６ａ～６ｂ型式	1/8
59	陶器	摩耗陶片	現長 7.1	現幅 5.5	厚 0.9	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：黒褐色	略完形
60	陶器	摩耗陶片	現長 10.0	現幅 7.4	厚 1.4	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：黒褐色	略完形
61	土師質・ 瓦質土器	台？	4.2	6.0	2.2	瓜割形　内外面－磨き　胎土：砂粒、白色粒　色調：胎土－灰色、内外面－黒色	完形
62	石製品	温石	現長 11.8	幅 9.9	厚 1.4	石材－片状砂岩	略完形
63	骨角 製品	笄	現長 17.8	0.1～0.8	0.1～04	先端部－耳かき（欠損）　細く丁寧な細工　素材－鹿中足骨	略完形
64	金属 製品	刀子 （小刀）	現長 13.2	幅 1.4	厚 0.2～0.3	刃部・中子に木質部と鞘と思われる胴巻き	
65	金属 製品	刀子 （小刀）	現長 20.1	幅 2.0	厚 0.1～0.3	刃部・中子の境に木質部遺存	
66	金属 製品	刀子 （小刀）	現長 19.0	幅 2.3	厚 0.2～0.3	刃部・中子に木質部と鞘と思われる胴巻き	
67	金属 製品	刀子 （小刀）	現長 25.0	幅 2.0	厚 0.2～0.4	刃部を意識的に折り曲げる	
68	金属 製品	刀子 （小刀）	現長 25.9	柄幅 3.5 刃部幅 2.4～2.6	鞘厚 1.1 刃部幅 0.4～0.5	刃部と柄部が装着された状態で遺存、柄の一部に黒漆付着	

69	金属製品	鑿	現長 20.8	柄長 12.3 柄幅 3.0	鑿長 8.5 鑿幅・厚 0.9・0.4	鑿部と柄部が装着された状態で遺存	
70	金属製品	錐	現長 27.1	1.8	1.7	柄部分－断面方形　端部僅かに鉄部分遺存	
71	金属製品	釘	長 7.8	－	厚 0.4	角釘を鏃状に曲げ、一部に朱が付着　材質－鉄	略完形
72	金属製品	用途不明	現長 6.8	幅 3.9	厚 0.8～0.1	端部を丸く加工　材質－銅　備考：第３面構成土出土遺物（図67－49）に類似	
73	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
74	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－周元通寶（後周・955）　書体－楷書	完形
75	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.5	厚 0.1	銭名－祥符元寶（北宋・1008）　書体－楷書	完形
76	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
77	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－至和通寶（北宋・1054）　書体－楷書	完形
78	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－嘉祐通寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形
79	金属製品	銭貨	直径 2.2	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－治平元寶（北宋・1064）　裏面－二枚重ねのような痕跡・円形孔　書体－楷書	完形
80	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－楷書	完形
81	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	完形
82	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－行書	完形
83	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－聖宋元寶（北宋・1101）　書体－楷書	完形
84	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－政和通寶（北宋・1111）　書体－隷書	完形
85	漆製品	皿	現長 7.2	現幅 7.1	現厚 0.6	内外面－黒色漆鞣漆　内面－漆絵（手描き）・松文・土坡　外面－無文　無高台	
86	漆製品	皿	(9.0)	(6.6)	1.5	内面－赤色漆鞣漆　外面－黒色漆鞣漆・漆絵（手描き）・桐文を側面に３ヵ所施文　輪高台	3/4
87	漆製品	皿	(9.1)	7.4	0.8	内外面－黒色漆鞣漆　内面－漆絵（手描き）・見込みに葉文・土坡　無高台	4/5
88	漆製品	皿	9.4	7.6	1.0	内外面－黒色漆鞣漆　内面－漆絵（手描き）・見込みに植物文・土坡・内側面３ヵ所に笹文　外面－１ヵ所に笹文　無高台	略完形
89	漆製品	椀	－	1.8～2.0	現高 1.3	外面－赤色漆鞣漆・漆絵（手描き）・文様不明・文字文か　外底－面黒色の丸が描かれる　内面－無鞣漆・見込みに赤色の丸が描かれる　無高台	略完形
90	漆製品	椀	現長 5.7	現幅 5.8	現高 5.8	内外面－黒色漆鞣漆　内面－漆絵（スタンプ）花文　外面－漆絵（スタンプ）酢漿文　内外面のスタンプが異なるのは珍しい	破片
91	漆製品	鉢	－	－	現厚 3.5	内外面－黒色漆鞣漆	口縁部片
92	漆製品	蓋	頂部径 (7.0)	底部径 (15.5)	4.5	表裏－黒色漆鞣漆　上部に浅く沈線が巡る	
93	漆製品	膳	現長 5.9	現幅 2.0	厚 0.3～0.8	雲型　全面－黒色漆鞣漆　接着部鞣漆なし	7/8
94	漆製品	膳	長 5.3	幅 2.8	厚 0.3～0.8	雲型　全面－黒色漆鞣漆	完形
95	漆製品	膳	長 6.7	幅 2.3	厚 2.2	膳脚部　全面－黒色漆鞣漆　差し込み部欠損	略完形
96	漆製品	調度具	現長 9.1	幅 1.9	厚 0.9	全面－黒色漆鞣漆　側面１ヵ所は接着面か・鞣漆なし	
97	漆製品	櫛	現長 3.3	現幅 3.5	厚 0.9～1.0	全面－黒色漆鞣漆　解き櫛	1/3
98	漆製品	用途不明	現長 8.4	現幅 1.2	厚 2.0	全面－黒色漆鞣漆・端部のみ赤色漆鞣漆　断面長楕円形	
99	漆製品	用途不明	長 21.5	幅 0.6	0.7	仏具（光背）か　全面－赤色漆鞣漆　断面円形　丁寧な整形	完形
100	木製品	箸状	長 19.5	幅 0.7	厚 0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
101	木製品	箸状	長 19.6	幅 0.7	厚 0.6	断面円形	完形
102	木製品	箸状	長 20.4	幅 0.7	厚 0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
103	木製品	箸状	長 20.5	幅 0.6	厚 0.5	断面方形	完形
104	木製品	箸状	長 20.7	幅 0.8	厚 0.6	断面円形　丁寧な整形	完形
105	木製品	箸状	長 21.4	幅 0.6	厚 0.7	断面円形　丁寧な整形	完形
106	木製品	箸状	長 21.4	幅 0.7	厚 0.7	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
107	木製品	箸状	長 21.4	幅 0.6	厚 0.5	断面方形	完形
108	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.5	厚 0.5	断面円形	完形

109	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.7	厚 0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
110	木製品	箸状	長 21.6	幅 0.6	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
111	木製品	箸状	長 21.6	幅 0.8	厚 0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
112	木製品	箸状	長 22.8	幅 0.5	厚 0.3	断面方形	完形
113	木製品	箸状	長 22.9	幅 0.8	厚 0.5	断面不整形　やや雑な整形	完形
114	木製品	箸状	長 23.2	幅 0.7	厚 0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
115	木製品	箸状	長 23.3	幅 0.5	厚 0.5	断面方形　一部折れている	完形
116	木製品	箸状	長 23.4	幅 0.6	厚 0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
117	木製品	箸状	長 23.6	幅 0.6	厚 0.5	断面不整形	完形
118	木製品	箸状	長 23.6	幅 0.7	厚 0.5	断面方形	完形
119	木製品	箸状	長 23.9	幅 0.8	厚 0.4	断面方形	完形
120	木製品	箸状	長 23.9	幅 1.0	厚 0.3	断面扁平	完形
121	木製品	経木折敷	長 17.8	現幅 2.3	厚 0.1	側縁部中央に小孔　折敷角を隅丸に整形	
122	木製品	経木折敷	長 18.4	現幅 5.5	厚 0.1	隅丸に整形　側縁部辺中央に孔が開く	1/3
123	木製品	経木折敷	長 17.6	現幅 10.1	厚 0.1	四隅近くに１ヵ所小孔遺存	2/3
124	木製品	経木折敷	長 18.9	現幅 10.4	厚 0.1	側縁部、ほぼ中央に小孔あり	2/3
125	木製品	曲物	現長 7.6	現幅 1.7	厚 0.6～0.7	復元直径－ 10.6㎝	1/6
126	木製品	曲物	現長 9.5	現幅 4.2	厚 0.5	復元直径－ 9.6㎝　曲物底板	1/2
127	木製品	曲物	現長 10.0	現幅 4.5	厚 0.3～0.4	復元直径－ 10.4㎝　曲物底板	1/2
128	木製品	曲物	現長 13.9	現幅 4.9	厚 0.2～0.3	復元直径－ 15.0㎝　曲物底板	1/2
129	木製品	曲物	現長 14.4	現幅 3.8	厚 0.2～0.6	復元直径－ 18.6㎝　曲物底板	
130	木製品	曲物	直径 15.3	現幅 7.9	厚 0.6～0.7	復元直径－ 15.4㎝　側縁１ヵ所に木釘遺存　曲物底板	1/2
131	木製品	曲物	現長 19.7	現幅 9.0	厚 0.7	復元直径－ 20.2㎝　中央部に小孔２ヵ所	1/2
132	木製品	曲物	現長 21.3	現幅 4.4	厚 0.4～0.5	復元直径－ 32.0㎝　側面に木釘痕３ヵ所遺存　曲物底板	1/8
133	木製品	曲物	現長 26.6	現幅 9.6	厚 0.5～0.6	曲物底板　Ｌ字の圧痕あり	1/2
134	木製品	板杓子	長 28.8	幅 3.0～5.7	厚 0.2～0.6		略完形
135	木製品	盆	直径 25.3	－ 	厚 0.5～0.6	側縁部輪花型に成型　平面部に木釘が８ヵ所打たれている	完形
136	木製品	膳	長 6.3	幅 2.5～2.9	厚 1.7～2.4	脚部　自然木を整形か・木地のまま	完形
137	木製品	栓	現長 4.1	幅 2.1	厚 1.6	断面楕円形　頂部辺に刳りが入る　丁寧な整形	1/2
138	木製品	栓	長 9.5	幅 2.0	厚 1.6	断面方形　端部断面やや扁平な円形を呈し、先端径1.1～1.2㎝	完形
139	木製品	栓	長 10.3	幅 2.0	厚 1.7	断面方形　端部断面円形を呈し、先端径1.0㎝	完形
140	木製品	部材	長 18.3	幅 5.3	厚 0.7	箱部材　側面木釘・木釘痕遺存	完形
141	木製品	部材	長 19.9	幅 1.0	厚 1.0	両端部にホゾあり　断面方形	完形
142	木製品	燭台	直径 9.0	－ 	現 0.8～2.2	燭台の台座部分　中央穿孔あり	
143	木製品	火きり棒	現長 21.9	幅 0.8	厚 0.7	断面隅丸方形　丁寧な整形　端部焼痕	
144	木製品	火きり棒	現長 23.8	幅 0.9	厚 0.7	端部焼痕	
145	木製品	火きり棒	長 24.9	幅 1.0	厚 0.8	断面楕円形　端部焼痕	完形
146	木製品	火きり棒	長 34.3	幅 1.1	厚 1.0	断面円形　端部焼痕	完形
147	木製品	火きり棒	長 36.4	幅 0.9	厚 1.1	断面方形　端部焼痕	完形
148	木製品	火きり棒	長 39.4	幅 1.0	厚 0.9	断面三角形　片端部焼痕	完形
149	木製品	草履芯	長 16.8	幅 9.4	厚 0.2	端部－合わせの部分が最先端となり直線的・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となる山形状　切り取り部－前方に深く切り込む	完形

150	木製品	草履芯	長 20.5	現幅 7.3	厚 0.2～0.3	端部－小孔あり・山型に切り込み最先端はその山型の頂点となる・小孔あり　側縁部－直線的　切り取り部－平行四辺形で前方に深く切り込む　平面に藁痕遺存	2/3
151	木製品	草履芯	長 24.1	現幅 3.9	厚 0.2	端部－山型を呈する　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形を呈し、前方に深く切り込む	1/4
152	木製品	草履芯	長 24.1	現幅 5.5	厚 0.3～0.4	先端部－山型に切り込む・最先端は山型の頂点となる　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形型で前方に深く切り込む	1/2
153	木製品	草履芯	長 24.4	現幅 5.3	厚 0.2～0.4	先端部－直線的・合わせ部分は最先端となる・小孔あり　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形型で前方に深く切り込む	1/2
154	木製品	草履芯	長 24.4	現幅 5.3	厚 0.2～0.3	先端部－直線的・合わせ部分は最先端となる・小孔あり　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形型で前方に深く切り込む	1/2
155	木製品	草履芯	長 24.5	幅 10.8	厚 0.2～0.3	端部－緩く山型に切り込み、最先端は山型の頂点となる・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となる山型状　切り取り部－長方形に切り込む	略完形
156	木製品	草履芯	長 24.5	幅 10.5	厚 0.1～0.4	端部－緩く山型に切り込む・最先端は山型の頂部となる・方形の小孔あり　側縁部－曲線的　切り込み部－後方に深く切り込む	3/4
157	木製品	草履芯	長 24.7	幅 10.1	厚 0.3	端部－緩く山型に切り込む・最先端は山型の頂部となる・方形の小孔あり　側縁部－曲線的　切り込み部－前方に深く切り込む	完形
158	木製品	下駄	現長 8.0	現幅 11.9	厚 1.1～2.0	高下駄の歯部分	
159	木製品	建築部材	現長 11.3	現幅 3.7	厚 5.6	端部に仕口痕	
160	木製品	建築部材	現長 13.7	現幅 5.6	厚 2.3	中央部に八角形を呈すると考えるほぞ穴が開く	
161	木製品	建築部材	現長 19.7	幅 3.1	厚 1.5	側面にホゾ　鉄釘２本遺存	
162	木製品	建築部材	現長 25.5	幅 3.7	厚 0.5～0.6	２ヵ所孔遺存	
163	木製品	建築部材	現長 36.4	幅 2.8	厚 3.3	側面に方形の仕口が約 3.0㎝間隔に開く　鉄釘３ヵ所に遺存	
164	木製品	杭	長 35.8	幅 2.3	厚 1.0～1.2	丁寧な整形	完形
165	木製品	夾纈	現長 7.7	現幅 2.7	厚 0.3～0.7	片面に径 0.9㎝の凸型円形が全体に彫られ、円形中央に小孔貫通する	
166	木製品	円盤状	直径 5.2	－ 	厚 0.2～0.3	中央に孔が貫通する　丁寧な整形	略完形
167	漆製品	円盤状	直径 6.1	－ 	厚 0.5～0.6	中心に孔が貫通　裏表両面に黒色漆付着	完形
168	木製品	円盤状	直径 8.6	－ 	厚 0.2～0.5	蓋か　中央からやや縁部寄りに閉じ紐の桜皮遺存	略完形
169	木製品	円盤状	直径 9.5	－ 	厚 0.4～0.5	片面所々に焼痕あり	略完形
170	木製品	刷毛	現長 13.7	幅 1.7～1.8	厚 0.9	軸部分のみ遺存　上部から約 6.9㎝を毛部分を挟むために二分割している	
171	木製品	刷毛	現長 13.8	幅 1.5	厚 0.75～1.0	毛先に赤色漆残存　端部から約 5.1㎝の位置まで軸となる材を分割して刷毛の毛束を挟んでいる	
172	木製品	篦	現長 5.2	現幅 1.7	厚 0.1～0.2	全体に黒色漆付着	
173	木製品	篦	現長 12.2	幅 1.2	厚 0.6	断面半円形	
174	木製品	篦	長 12.4	幅 0.7	厚 0.5	断面台形	完形
175	木製品	篦	長 13.1	幅 0.3～0.8	厚 0.1～0.3	断面半円形	完形
176	木製品	篦	現長 14.0	現幅 0.6～1.1	厚 0.1～0.3	端部に黒色漆付着	
177	木製品	篦	現長 22.3	幅 1.4	厚 0.9	断面方形	
178	木製品	篦	22.5	幅 1.2～1.5	厚 0.3～0.7	断面不整形	完形
179	木製品	鞘	現長 16.2	幅 2.9	厚 0.3～0.5	丁寧な整形	略完形
180	木製品	串状	長 20.6	幅 0.8	厚 0.6	断面楕円形	完形
181	木製品	串状	長 23.4	幅 1.0	厚 1.0	断面円形　丁寧な整形	完形
182	木製品	串状	長 23.6	幅 0.8	厚 0.5	断面方形	完形
183	木製品	串状	長 25.8	幅 0.5	厚 0.6	断面方形	完形
184	木製品	串状	長 27.3	幅 1.3	厚 0.7～0.8	断面隅丸長円形	完形
185	木製品	串状	現長 28.9	幅 0.8	厚 0.5	断面隅丸方形	略完形
186	木製品	串状	現長 27.7	幅 0.7～1.1	厚 0.7	断面隅丸方形　丁寧な整形	
187	木製品	串状	長 29.5	幅 1.3	厚 1.2	丁寧な整形　断面不整円形	完形
188	木製品	串状	長 41.4	幅 1.0	厚 0.8	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
189	木製品	棒状	長 18.8	幅 0.8	厚 0.3～0.4	断面不整形な長方形	略完形
190	木製品	用途不明	径 2.5	－ 	厚 1.3～1.4	円形を呈する　丁寧な整形	完形

191	木製品	用途不明	長 2.7	幅 2.6	厚 1.3	八角形を呈する　製作途中か	完形
192	木製品	用途不明	現長 2.7	幅 2.3	厚 2.2	断面円形　棒状　中心部に孔が貫通する	
193	木製品	用途不明	長 3.6	幅 3.4	厚 0.5～0.6	夾纈の一部か　梅型　3ヵ所に孔が貫通　梅型中央に凹痕	完形
194	木製品	用途不明	1辺長 3.9	2辺長 3.7	厚 0.2	二等辺三角形を呈する　端材か	略完形
195	木製品	用途不明	長 4.0	幅 3.0	厚 2.9	断面円形　上部に刳りが入る　編具の木垂か	完形
196	木製品	用途不明	現長 4.3	幅 1.5	厚 1.8	断面楕円形　中央部に鉄製品貫通	
197	木製品	用途不明	現長 4.7	幅 1.3～2.8	厚 1.0～1.9	丁寧な整形　頂部に枘穴遺存　膳脚部か	略完形
198	木製品	用途不明	長 8.0	幅 7.4	厚 2.3～2.6	丁寧に整形した孔あり　建材か	略完形
199	木製品	用途不明	現長 8.6	幅 2.5	厚 0.8	先端を細く削り出す（長 4.3cm・幅 0.5cm・厚 0.5cm）	
200	木製品	用途不明	長 10.4	幅 2.7～3.2	厚 1.0～1.6	雑な整形　未製品か	略完形
201	木製品	用途不明	現長 11.2	現幅 1.9～4.0	厚 2.2～4.6	人形未製品か	略完形
202	木製品	用途不明	長 12.0	幅 3.1～4.2	厚 3.0～3.6	膳脚部か　円筒形　端部に差し込み部と思われる突起遺存　円筒部中央に圧痕が回る	完形
203	木製品	用途不明	現長 12.3	幅 3.4	厚 1.5～1.7	調度具部材か	
204	木製品	用途不明	現長 12.3	幅 1.7	厚 0.5	端部辺に小孔4ヵ所（貫通していない）	
205	漆製品	用途不明	現長 12.3	現幅 4.5	厚 0.2～0.3	カケ盤の上でツケを取った痕か・黒色漆付着　刃物痕遺存	
206	木製品	用途不明	現長 17.9	現幅 1.6～4.9	厚 0.5～0.9	板杓子か	
207	木製品	用途不明	長 18.3	幅 1.2～2.8	厚 0.7～0.9	両端に半円の刳りが入り、刳りの中心に木釘遺存　調度具部材か	略完形
208	木製品	用途不明	現長 19.0	現幅 3.8	厚 0.5～0.9	片端部丸く加工・片端部杭状に削り出している	
209	木製品	用途不明	長 19.3	現幅 2.4～3.8	厚 0.4～0.5	2ヵ所、平行線状に圧痕が遺存　中央付近に細い鉄釘遺存	
210	木製品	用途不明	現長 20.4	現幅 0.9～2.2	厚 0.4～0.9	板杓子か　雑な整形	
211	木製品	用途不明	現長 23.6	現幅 1.5	厚 1.2	形代か？　片端部玉状に整形　片端部やや鋭角に端部を整形	略完形
212	木製品	用途不明	現長 36.9	幅 3.8	厚 1.5～2.1	杭か　鉄釘遺存　表面に 4.0～5.0cmの感覚で刻みが入る・物差しとして代用か	
213	木製品	形代	現長 9.5	幅 1.3～1.6	厚 1.8	人形　雑な整形	略完形
214	木製品	形代	現長 11.2	現幅 4.1	厚 2.3	魚形　尾部欠損　鰓は丁寧に整形	略完形
215	木製品	形代	長 11.8	幅 0.9～1.3	厚 0.1～0.3	櫂形	完形
216	木製品	球	直径 4.6	－	－	雑な整形　未製品か	略完形

第4面 構成土出土遺物（図95）

1	漆製品	皿	(8.5)	(6.5)	0.8	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵（手描き）・御所車文・水（波）文　無高台	2/3
2	漆製品	膳	長 5.8	幅 0.6～3.2	厚 0.6～0.9	雲型　全面－黒色漆糅漆　接着部糅漆なし	完形
3	漆製品	膳	長 10.2	幅 1.5～3.2	厚 1.8～2.5	膳脚　全面－黒色漆糅漆　差し込み部糅漆なし	完形
4	木製品	曲物	現長 14.3	現幅 2.7～3.0	厚 0.2～0.4	曲物側面－桜皮の綴じ紐により綴じている	
5	木製品	曲物	直径 5.7	－	厚 0.7～0.9	曲物底板	完形
6	木製品	連歯下駄	長 22.0	現幅 5.0	厚 1.3	台部－長楕円形を呈する　歯部－台部から横に張り出す・歯底部は摩耗　先端部辺に方形の穿孔あり	1/2
7	木製品	用途不明	長 9.7	幅 0.9～10.8	厚 0.9～1.0	両端部に方形の穿孔あり　調度具部材か	完形

表6　第5面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

礎石・礎板建物3出土遺物（図99）

1	磁器	青磁 坏	(8.2)	(4.4)	3.5	高台・畳付－露胎　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ－1ａ類	1/3
2	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.6	外面－格子の押印　胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色・緑灰色	胴部 小破片
3	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 7.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：7型式	口縁部 小破片
4	土製品	土錘	現長 5.7	幅 2.7	孔径 1.0	手づくね成形　胎土：微砂、雲母、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形

5	金属製品	釘	現長 6.4	頭幅 0.9	厚 0.3	角釘　材質－鉄	略完形
6	金属製品	釘	現長 6.5	頭幅 0.7	厚 0.3	角釘　材質－鉄	略完形
7	木製品	曲物	直径 44.0	－	現 19.0	２枚の側板を合わせ部分が対面になるように成型し、桜皮の綴じ紐で綴じ、側板下部を幅の狭い側板を外面に回し、さらに桜皮の綴じ紐によって綴じている・下部の綴じ方は遺存していた紐のみを図面に表している	略完形
8	木製品	曲物敷板	長 64.5	幅 5.7～7.2	厚 0.8～1.0	曲物の底部に十字に組んであった板材・曲物底部が当たっていた個所は黒く変色している・曲物と板材は接着していない	略完形
9	木製品	曲物敷板	長 64.2	幅 6.1～7.0	厚 1.5～1.7	曲物の底部に十字に組んであった板材・曲物底部が当たっていた個所は黒く変色している・曲物と板材は接着していない・手斧痕あり	略完形

板壁建物１出土遺物（図101・102）

1	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.5	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・大	13.0	6.5	3.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	5/6
3	磁器	青磁碗	16.8	－	現 4.5	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅲ類	1/8
4	木製品	箸状	21.8	0.7	0.5	断面楕円形	完形
5	木製品	箸状	22.0	0.7	0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
6	木製品	箸状	22.2	0.7	0.6	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
7	木製品	箸状	22.9	0.5	0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
8	木製品	曲物	直径 21.6	－	厚 0.8～0.9	曲物底板部分　裏面に複数の刃物痕	1/2
9	木製品	曲物	現長 26.7	現幅 8.4	厚 0.9～1.0	曲物底板部分　側縁部木釘痕	1/3
10	木製品	板杓子	現長 14.4	幅 4.0	厚 0.2～0.3	丁寧な整形	略完形
11	木製品	草履芯	現長 20.6	現幅 5.3	厚 0.2	後端部－直線的　側縁部－直線的　切り取り部－方形に切り込む　両面に藁痕遺存	1/3
12	木製品	草履芯	長 24.9	幅 10.6	厚 0.3～0.4	先端部－緩く山型に切り込む・先端部が山型の頂点となる・小孔あり　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形型で前方に深く切り込む	完形
13	木製品	火きり棒	長 16.6	幅 1.1	厚 1.0	断面円形　端部焼痕	完形
14	木製品	串状	長 26.8	幅 0.8	厚 0.5	断面かまぼこ型　両端を細く整形	完形
15	木製品	串状	長 30.3	幅 0.9	厚 0.6	断面かまぼこ型　片端部のみ細く整形	完形
16	木製品	用途不明	現長 38.6	現幅 17.1	厚 0.4～1.2	甑の部品か　円盤状　平面に 13 ヵ所の穿孔あり　１穴のみ貫通していない　裏表不明　片面擦り傷と刃物痕あり	1/2

溝状遺構５出土遺物（図103）

1	磁器	青磁碗	－	4.8	現 2.3	畳付・高台内－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	底部小破片
2	陶器	常滑甕	－	－	現 9.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部小破片
3	金属製品	釘	現長 6.5	頭幅 0.7	厚 0.3	角釘　材質－鉄	略完形
4	木製品	箸状	長 19.1	幅 0.6	厚 0.5	断面不整形	完形
5	木製品	箸状	長 22.0	幅 0.7	厚 0.4	断面方形	完形
6	木製品	箸状	長 23.0	幅 0.7	厚 0.5	断面不整形	完形
7	木製品	用途不明	現長 10.1	幅 2.6	厚 2.7	断面円形　丁寧な整形	

土坑56出土遺物（図105）

1	漆製品	皿	－	－	現 0.7	内外面－黒色漆黍漆　内面－漆絵（手描き）・松喰い鶴が飛翔する様子を写実的に描いている　無高台	底部片

土坑63出土遺物（図106）

1	陶器	常滑甕	－	－	現 9.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部～頸部小破片
2	陶器	常滑甕	－	－	現 11.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：６ｂ～７型式	口縁部～頸部小破片
3	木製品	曲物	直径 (11.8)	－	厚 0.3	側縁辺に２穴単位の小孔が３ヵ所・中央辺に２穴の小孔あり	3/5
4	木製品	串状	現長 31.4	幅 0.3～1.1	厚 0.3～0.8	断面方形　雑な整形　片端部のみ鋭角に削り出している	

土坑65出土遺物（図107）

1	漆製品	皿	－	(6.2)	現 0.7	内外面－黒色漆黍漆　内面－漆絵（スタンプ）・撫子文・松文　無高台	1/4
2	漆製品	折敷	長 21.6	幅 20.7	厚 0.8	表裏面－黒色漆黍漆・刃物痕・２枚の板材を柾目で 90 度交差させて貼り合わせてある・表面に縁を木釘によって止めている	略完形
3	木製品	箸状	現長 18.4	幅 0.5	厚 0.5	断面扁平な円形	

土坑74出土遺物（図109）

1	木製品	箸状	長 18.1	幅 0.6	厚 0.5	断面楕円形	完形
2	木製品	箸状	長 19.2	幅 0.5	厚 0.5	断面方形	完形
3	木製品	箸状	長 21.1	幅 0.5	厚 0.5	断面方形　丁寧な整形	完形
4	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.7	厚 0.5	断面方形	完形
5	木製品	箸状	長 22.2	幅 0.7	厚 0.5	断面方形	完形
6	木製品	箸状	長 22.6	幅 0.8	厚 0.6	断面不整形	完形
7	木製品	箸状	長 22.7	幅 0.8	厚 0.6	断面方形	完形
8	木製品	箸状	長 22.8	幅 0.8	厚 0.6	断面方形	完形
9	木製品	箸状	長 24.5	幅 0.6	厚 0.4	断面方形	完形
10	木製品	箸状	長 24.6	幅 0.7	厚 0.5	断面方形	完形
11	木製品	箸状	長 24.8	幅 0.8	厚 0.5	断面方形	完形
12	木製品	串状	長 17.3	幅 0.9	厚 0.7	断面不整形	完形
13	木製品	串状	長 19.0	厚 0.5	厚 0.3	断面扁平　丁寧な整形	完形
14	木製品	串状	長 23.4	幅 0.7	厚 0.8	断面方形　片端部のみ鋭角に削り出している	完形

ピット出土遺物（図111）

1	漆製品	天目台	羽直径 (13.1) 内径 (6.8)	(7.8)	現 2.4	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵（スタンプ）・鶴文　出土遺構：ピット 441	1/3
2	木製品	火きり棒	現長 15.3	幅 1.1	厚 0.9	端部焼痕　断面楕円形　丁寧な整形　出土遺構：ピット 448	
3	木製品	用途不明	現長 2.5	幅 2.4	厚 0.7～0.8	八角形に成型　平面中心に木釘痕　出土遺構：ピット 448	

第５面 遺構外出土遺物（図112）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.9	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.8	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
3	陶器	中国 緑釉盤	－	－	現 2.4	内外面－緑釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰色、緑釉－緑灰色	口縁部 小破片
4	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
5	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
6	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 7.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
7	金属製品	釘	現長 7.4	頭幅 1.1	厚 0.5	角釘　材質－鉄	略完形
8	金属製品	飾金具	長 2.4	幅 0.8	厚 0.03	木質軸に被せる飾り金具？　七角形状　材質－銅	完形
9	漆製品	皿	－	(6.0)	現 0.3	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵（スタンプ）・鶴文　無高台	1/4
10	漆製品	皿	(9.0)	(6.8)	1.2	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵（手描き）・向鶴文　無高台	1/2
11	木製品	墨書板	現長 10.7	現幅 2.4	厚 0.4	判読不明の墨書	
12	木製品	建築部材	現長 15.9	幅 1.5	厚 1.3	鉄釘遺存　凹状に仕口	
13	木製品	串状	長 21.1	幅 0.7	厚 0.5	断面隅丸方形　片端部のみ鋭角に削り出している	完形
14	木製品	用途不明	現長 44.4	幅 5.3	厚 1.6～2.4	梯子か　不規則な感覚で釘痕残る	

表７　遺構計測表

（ ）＝推定値、〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
溝状遺構１	第１面	〈700〉	30～75	50
掘甕遺構１	第１面	〈94〉	86	－
土坑１	第１面	100	91	17
土坑２	第１面	76	67	13
土坑３	第１面	61	58	10
土坑４	第１面	〈82〉	104	20
土坑５	第１面	87	76	28
土坑６	第１面	69	－	24
土坑７	第１面	63	48	15
土坑８	第１面	65	46	－

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
土坑９	第１面	62	56	9
土坑10	第１面	66	46	8
土坑11	第１面	66	61	4
土坑12	第１面	82	67	10
土坑13	第１面	69	66	55
土坑14	第１面	〈67〉	67	20
土坑15	第１面	71	64	19
土坑16	第１面	88	73	10
土坑17	第１面	81	70	30
土坑18	第１面	60	56	20

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
土坑19	第１面	〈78〉	73	31
土坑20	第１面	87	62	11
土坑21	第１面	194	〈102〉	41
土坑22	第１面	63	43	28
ピット１	第１面	29	18	25
ピット２	第１面	45	37	16
ピット３	第１面	25	14	5
ピット４	第１面	11	9	4
ピット５	第１面	48	39	8
ピット６	第１面	40	34	20

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット７	第１面	〈22〉	〈16〉	16
ピット８	第１面	56	44	21
ピット９	第１面	45	43	19
ピット10	第１面	(28)	(25)	9
ピット11	第１面	35	〈12〉	11
ピット12	第１面	40	32	8
ピット13	第１面	30	23	6
ピット14	第１面	54	47	8
ピット15	第１面	30	26	9
ピット16	第１面	42	(34)	20

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット17	第１面	30	22	22
ピット18	第１面	29	23	9
ピット19	第１面	14	12	9
ピット20	第１面	60	〈31〉	22
ピット21	第１面	24	〈18〉	18
ピット22	第１面	35	31	16
ピット23	第１面	51	32	23
ピット24	第１面	29	23	4
ピット25	第１面	44	37	25
ピット26	第１面	15	14	－
ピット27	第１面	41	36	10
ピット28	第１面	(12)	10	22
ピット29	第１面	32	28	23
ピット30	第１面	41	28	9
ピット31	第１面	36	32	26
ピット32	第１面	〈34〉	38	33
ピット33	第１面	31	23	9
ピット34	第１面	40	〈22〉	28
ピット35	第１面	58	55	11
ピット36	第１面	47	〈11〉	31
ピット37	第１面	40	〈21〉	36
ピット38	第１面	37	31	13
ピット39	第１面	33	31	12
ピット40	第１面	43	38	12
ピット41	第１面	23	20	9
ピット42	第１面	27	〈11〉	16
ピット43	第１面	31	(20)	5
ピット44	第１面	30	(30)	11
ピット45	第１面	(41)	35	10
ピット46	第１面	31	30	8
ピット47	第１面	40	36	30
ピット48	第１面	38	29	23
ピット49	第１面	〈28〉	〈21〉	－
ピット50	第１面	(27)	17	8
ピット51	第１面	37	31	15
ピット52	第１面	45	29	35
ピット53	第１面	27	23	14
ピット54	第１面	49	(39)	24
ピット55	第１面	39	〈17〉	－
ピット56	第１面	(39)	30	18
ピット57	第１面	34	33	20
ピット58	第１面	24	23	11
ピット59	第１面	26	(25)	7
ピット60	第１面	29	28	8
ピット61	第１面	48	(40)	59
ピット62	第１面	26	17	45
ピット63	第１面	(15)	14	46
ピット64	第１面	29	25	35
ピット65	第１面	36	30	23
ピット66	第１面	31	24	23
ピット67	第１面	(30)	26	21
ピット68	第１面	38	32	16
ピット69	第１面	(54)	49	29
ピット70	第１面	27	24	19
ピット71	第１面	28	23	6
ピット72	第１面	43	(34)	11
ピット73	第１面	37	33	15
ピット74	第１面	〈21〉	33	29
ピット75	第１面	57	40	7～17
ピット76	第１面	31	〈11〉	22
ピット77	第１面	21	13	5
ピット78	第１面	32	27	30
ピット79	第１面	16	13	5
ピット80	第１面	30	26	17
ピット81	第１面	〈55〉	46	18
ピット82	第１面	(30)	27	38
ピット83	第１面	37	33	50
ピット84	第１面	(40)	35	11
ピット85	第１面	25	23	5
ピット86	第１面	30	24	17
ピット87	第１面	(30)	22	6
ピット88	第１面	26	19	3
ピット89	第１面	42	(32)	6
ピット90	第１面	41	31	9
ピット91	第１面	38	29	14
ピット92	第１面	39	28	25
ピット93	第１面	40	(35)	21
ピット94	第１面	35	31	9
ピット95	第１面	44	36	30
ピット96	第１面	33	27	13
ピット97	第１面	24	〈14〉	26
ピット98	第１面	22	22	19
ピット99	第１面	40	38	15
ピット100	第１面	33	30	10
ピット101	第１面	47	38	5
ピット102	第１面	38	33	9
ピット103	第１面	48	39	37
ピット104	第１面	26	〈16〉	10
ピット105	第１面	(43)	38	36
ピット106	第１面	36	30	29
ピット107	第１面	28	26	15
ピット108	第１面	30	28	25
ピット109	第１面	24	20	3
ピット110	第１面	20	17	8
ピット111	第１面	34	28	12
ピット112	第１面	36	25	30
ピット113	第１面	32	24	7
ピット114	第１面	34	24	16
ピット115	第１面	〈35〉	44	19
ピット116	第１面	48	〈10〉	15
ピット117	第１面	36	(30)	4
ピット118	第１面	30	30	－
ピット119	第１面	35	28	10
ピット120	第１面	45	36	12
ピット121	第１面	59	(39)	30～32
ピット122	第１面	〈34〉	25	22
ピット123	第１面	〈47〉	〈12〉	24
ピット124	第１面	24	22	－
ピット125	第１面	28	23	10
ピット126	第１面	38	35	17
ピット127	第１面	27	26	18
ピット128	第１面	40	38	12
ピット129	第１面	(20)	15	－
ピット130	第１面	32	28	5
ピット131	第１面	36	29	16
ピット132	第１面	39	37	19
ピット133	第１面	16	〈７〉	－
ピット134	第１面	23	19	5
ピット135	第１面	25	21	5
ピット136	第１面	28	28	11
ピット137	第１面	51	34	10
ピット138	第１面	47	31	8
ピット139	第１面	36	31	13
ピット140	第１面	〈22〉	21	9
ピット141	第１面	〈31〉	27	15
ピット142	第１面	34	27	7
ピット143	第１面	〈39〉	〈30〉	16
ピット144	第１面	(38)	28	16
ピット145	第１面	47	〈20〉	－
ピット146	第１面	42	38	26
ピット147	第１面	37	31	10
ピット148	第１面	31	24	8
ピット149	第１面	43	25	20
ピット150	第１面	37	31	7
ピット151	第１面	21	19	11
ピット152	第１面	29	25	9
ピット153	第１面	31	(22)	11
ピット154	第１面	25	21	11
ピット155	第１面	33	32	24
ピット156	第１面	22	18	10
ピット157	第１面	29	28	18
ピット158	第１面	59	37	11～29
ピット159	第１面	33	28	18
ピット160	第１面	43	29	7
ピット161	第１面	42	28	9
ピット162	第１面	45	42	10
ピット163	第１面	34	33	12
ピット164	第１面	25	〈13〉	12
ピット165	第１面	35	33	18
ピット166	第１面	27	22	28
ピット167	第１面	33	29	39
ピット168	第１面	46	40	40
ピット169	第１面	55	51	－
ピット170	第１面	52	46	22
ピット171	第１面	22	16	19
ピット172	第１面	40	〈34〉	12
ピット173	第１面	45	40	8
ピット174	第１面	30	27	－
ピット175	第１面	42	28	11
ピット176	第１面	23	〈９〉	9
ピット177	第１面	32	23	14
ピット178	第１面	34	32	14
ピット179	第１面	44	34	20
ピット180	第１面	(32)	31	5
ピット181	第１面	34	27	12
ピット182	第１面	45	(30)	8
ピット183	第１面	28	25	10
ピット184	第１面	57	43	35
ピット185	第１面	29	20	11
ピット186	第１面	55	46	13
ピット187	第１面	(28)	21	6
ピット188	第１面	45	37	15
ピット189	第１面	44	34	9
ピット190	第１面	〈57〉	24	27
ピット191	第１面	34	22	25
ピット192	第１面	29	26	6
ピット193	第１面	32	20	15
ピット194	第１面	19	12	9
ピット195	第１面	40	28	9
ピット196	第１面	27	25	5
ピット197	第１面	22	21	18
ピット198	第１面	〈28〉	27	6
ピット199	第１面	43	37	19
ピット200	第１面	22	〈９〉	17
ピット201	第１面	〈17〉	27	10
ピット202	第１面	50	33	26
ピット203	第１面	39	37	29
ピット204	第１面	35	30	6
ピット205	第１面	39	36	36
ピット206	第１面	25	〈17〉	33
ピット207	第１面	22	18	8
ピット208	第１面	44	42	29
ピット209	第１面	49	39	20
ピット210	第１面	〈30〉	27	32
ピット211	第１面	30	〈23〉	16
ピット212	第１面	34	23	25
ピット213	第１面	35	25	6
ピット214	第１面	34	29	21
ピット215	第１面	49	36	29
ピット216	第１面	34	33	－
ピット217	第１面	35	〈22〉	30
ピット218	第１面	〈17〉	19	12
ピット219	第１面	23	22	11
ピット220	第１面	32	26	－
ピット221	第１面	55	38	－
ピット222	第１面	13	11	18
ピット223	第１面	23	22	5
ピット224	第１面	30	23	18
ピット225	第１面	51	45	18
ピット226	第１面	〈22〉	25	11
溝状遺構２	第２面	〈600〉	90～128	20～34
方形土坑１	第２面	223	〈150〉	28～32
方形土坑２	第２面	159	74	10～20
方形土坑３	第２面	166	112	16
土坑23	第２面	68	61	20
土坑24	第２面	77	64	9
土坑25	第２面	115	109	30
土坑26	第２面	(64)	〈19〉	5
土坑27	第２面	80	〈30〉	16
土坑28	第２面	69	49	5
土坑29	第２面	79	52	16
土坑30	第２面	66	61	8
土坑31	第２面	76	〈48〉	27
土坑32	第２面	78	62	31
土坑33	第２面	63	53	8
土坑34	第２面	77	68	9
土坑35	第２面	88	〈40〉	10
土坑36	第２面	82	63	12
土坑37	第２面	73	55	14
土坑38	第２面	87	71	9
土坑39	第２面	70	57	29
土坑40	第２面	63	39	10
土坑41	第２面	〈66〉	〈38〉	25
ピット227	第２面	47	〈33〉	9
ピット228	第２面	43	27	14
ピット229	第２面	34	(32)	9
ピット230	第２面	21	20	18
ピット231	第２面	31	26	6
ピット232	第２面	40	28	5
ピット233	第２面	22	20	11
ピット234	第２面	48	38	9
ピット235	第２面	39	38	14
ピット236	第２面	48	38	28
ピット237	第２面	〈24〉	20	9
ピット238	第２面	36	30	27
ピット239	第２面	27	27	19
ピット240	第２面	〈23〉	〈15〉	－
ピット241	第２面	39	34	33
ピット242	第２面	35	28	5
ピット243	第２面	28	(27)	6
ピット244	第２面	45	〈43〉	4
ピット245	第２面	33	〈16〉	－
ピット246	第２面	35	31	6
ピット247	第２面	26	25	9
ピット248	第２面	29	28	7
ピット249	第２面	48	47	5
ピット250	第２面	50	37	18
ピット251	第２面	31	30	26
ピット252	第２面	48	34	31
ピット253	第２面	29	26	27
ピット254	第２面	24	19	7
ピット255	第２面	35	31	7
ピット256	第２面	48	42	24
ピット257	第２面	35	34	30
ピット258	第２面	23	〈８〉	－
ピット259	第２面	44	〈23〉	－
ピット260	第２面	23	10	13
ピット261	第２面	〈17〉	〈11〉	42
ピット262	第２面	(35)	32	5
ピット263	第２面	(32)	30	4
ピット264	第２面	38	(30)	21
ピット265	第２面	〈34〉	〈14〉	23
ピット266	第２面	14	9	25
ピット267	第２面	37	27	26
ピット268	第２面	41	(41)	9
ピット269	第２面	20	18	17
ピット270	第２面	20	19	－
ピット271	第２面	32	23	－
ピット272	第２面	(43)	40	14
ピット273	第２面	22	10	10
ピット274	第２面	52	45	37
ピット275	第２面	49	29	8
ピット276	第２面	14	12	25
ピット277	第２面	46	33	9
ピット278	第２面	19	15	6
ピット279	第２面	24	24	20
ピット280	第２面	40	33	15
ピット281	第２面	12	11	19
ピット282	第２面	27	20	9
ピット283	第２面	15	12	15
ピット284	第２面	32	〈12〉	13
ピット285	第２面	18	16	5
ピット286	第２面	21	20	6
ピット287	第２面	30	24	18
ピット288	第２面	52	〈32〉	12
ピット289	第２面	〈38〉	〈19〉	10
ピット290	第２面	56	40	13
ピット291	第２面	33	32	36
ピット292	第２面	12	11	11
ピット293	第２面	40	32	48
ピット294	第２面	47	38	28
ピット295	第２面	29	12	19
ピット296	第２面	37	30	29
ピット297	第２面	24	23	8
ピット298	第２面	(37)	33	25
ピット299	第２面	39	37	21
ピット300	第２面	〈26〉	〈21〉	28
ピット301	第２面	14	14	27
ピット302	第２面	10	8	32
ピット303	第２面	20	19	30
ピット304	第２面	12	11	25
ピット305	第２面	23	19	24

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット306	第２面	22	13	－
ピット307	第２面	40	28	34
ピット308	第２面	32	29	23
ピット309	第２面	27	18	11
ピット310	第２面	27	〈25〉	19
ピット311	第２面	28	22	28
ピット312	第２面	(34)	34	－
ピット313	第２面	50	41	25
ピット314	第２面	53	34	10
ピット315	第２面	29	26	22
ピット316	第２面	24	23	24
ピット317	第２面	40	38	21
ピット318	第２面	22	19	4
ピット319	第２面	29	27	7
ピット320	第２面	32	28	6
ピット321	第２面	37	24	10
ピット322	第２面	16	15	8
ピット323	第２面	33	29	33
ピット324	第２面	34	30	23
ピット325	第２面	(58)	40	32
ピット326	第２面	28	23	12
ピット327	第２面	19	12	6
ピット328	第２面	32	29	11
ピット329	第２面	37	32	17
ピット330	第２面	35	32	14
ピット331	第２面	32	25	8
ピット332	第２面	30	21	10
ピット333	第２面	31	29	6
ピット334	第２面	53	40	11
ピット335	第２面	31	14	－
ピット336	第２面	43	39	12
ピット337	第２面	46	40	16
ピット338	第２面	(48)	〈14〉	10
ピット339	第２面	33	30	30
ピット340	第２面	51	43	7
ピット341	第２面	31	13～26	14
ピット342	第２面	47	44	－
ピット343	第２面	34	25	27
ピット344	第２面	22	16	－
ピット345	第２面	42	31	19
ピット346	第２面	49	38	30
ピット347	第２面	〈24〉	〈17〉	28
ピット348	第２面	11	10	32
ピット349	第２面	(26)	15	4
ピット350	第２面	23	23	25
ピット351	第２面	32	23	30
ピット352	第２面	13	9	12
ピット353	第２面	29	〈15〉	5
礎石･礎板建物１	第３面	〈450〉	〈420〉	9～34
方形竪穴状遺構１	第３面	250～270	〈200〉	20
溝状遺構３	第３面	〈600〉	150～220	40～44
溝状遺構４	第３面	〈600〉	30～120	10～20
土坑42	第３面	81	〈50〉	19
土坑43	第３面	60	〈40〉	51

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
土坑44	第３面	78	42	15
土坑45	第３面	84	80	21
土坑46	第３面	65	54	18
土坑47	第３面	109	90	21
ピット354	第３面	25	21	6
ピット355	第３面	41	40	12
ピット356	第３面	(33)	(30)	6
ピット357	第３面	42	38	17
ピット358	第３面	42	31	12
ピット359	第３面	40	〈29〉	9
ピット360	第３面	(53)	45	37
ピット361	第３面	29	27	15
ピット362	第３面	22	22	24
ピット363	第３面	42	27	20
ピット364	第３面	25	17	10
ピット365	第３面	43	〈20〉	15
ピット366	第３面	(26)	23	22
ピット367	第３面	23	21	8
ピット368	第３面	(27)	22	23
ピット369	第３面	36	21	20
ピット370	第３面	34	28	21
ピット371	第３面	57	〈31〉	20
ピット372	第３面	21	18	5
ピット373	第３面	31	22	17
ピット374	第３面	34	26	20
ピット375	第３面	26	19	10
ピット376	第３面	25	21	12
ピット377	第３面	(26)	24	6
ピット378	第３面	27	26	17
ピット379	第３面	(26)	24	6
ピット380	第３面	16	15	20
ピット381	第３面	29	26	24
ピット382	第３面	26	19	7
ピット383	第３面	49	41	11
ピット384	第３面	44	41	31
ピット385	第３面	37	〈26〉	24
ピット386	第３面	25	23	17
ピット387	第３面	39	28	34
ピット388	第３面	35	34	28
ピット389	第３面	55	45	37
礎石･礎板建物２	第４面	〈900〉	〈480〉	5～36
水路１	第４面	〈265〉	〈25〉	－
井戸１	第４面	〈112〉	〈97〉	156
土坑48	第４面	96	(75)	11
土坑49	第４面	69	〈37〉	－
土坑50	第４面	197	105~133	7～20
土坑51	第４面	68	36	－
土坑52	第４面	(95)	62	11
土坑53	第４面	69	61	－
土坑54	第４面	〈188〉	〈135〉	27
土坑55	第４面	〈191〉	135	43
ピット390	第４面	52	41	－
ピット391	第４面	34	34	25
ピット392	第４面	(33)	26	18
ピット393	第４面	44	40	18

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット394	第４面	29	27	23
ピット395	第４面	33	29	15
ピット396	第４面	〈37〉	〈25〉	14
ピット397	第４面	23	〈19〉	19
ピット398	第４面	47	38	14
ピット399	第４面	24	20	5
ピット400	第４面	20	15	10
ピット401	第４面	50	40	23
ピット402	第４面	59	54	5
ピット403	第４面	56	48	31
ピット404	第４面	32	〈17〉	13
ピット405	第４面	45	42	4
ピット406	第４面	51	49	16
ピット407	第４面	50	44	34
ピット408	第４面	31	24	5
ピット409	第４面	48	42	－
ピット410	第４面	35	31	24
ピット411	第４面	36	30	14
ピット412	第４面	(59)	〈26〉	8
ピット413	第４面	41	37	14
ピット414	第４面	55	47	13
ピット415	第４面	50	〈36〉	23
ピット416	第４面	42	35	18
ピット417	第４面	33	32	10
ピット418	第４面	38	38	20
ピット419	第４面	42	31	26
ピット420	第４面	49	〈26〉	11
礎石･礎板建物３	第５面	〈500〉	〈410〉	3～44
板壁建物１	第５面	〈290〉	〈180〉	3～21
溝状遺構５	第５面	〈660〉	40～60	6～14
溝状遺構６	第５面	〈200〉	30～40	14
土坑56	第５面	77	74	28
土坑57	第５面	60	41	9
土坑58	第５面	80	63	27
土坑59	第５面	〈68〉	61	11
土坑60	第５面	110	〈86〉	50
土坑61	第５面	70	53	11
土坑62	第５面	77	69	35
土坑63	第５面	125	91	16
土坑64	第５面	〈103〉	97	47
土坑65	第５面	98	－	32
土坑66	第５面	81	〈64〉	22
土坑67	第５面	66	58	36
土坑68	第５面	60	55	18
土坑69	第５面	69	〈47〉	11
土坑70	第５面	〈52〉	60	18
土坑71	第５面	83	〈43〉	－
土坑72	第５面	66	〈54〉	－
土坑73	欠番			
土坑74	第５面	82	〈67〉	15
土坑75	第５面	〈76〉	70	28
ピット421	第５面	〈37〉	〈17〉	17
ピット422	第５面	〈31〉	〈18〉	13
ピット423	第５面	17	〈５〉	13
ピット424	第５面	48	45	8

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット425	第５面	〈33〉	32	10
ピット426	第５面	50	〈20〉	4
ピット427	第５面	36	〈22〉	12
ピット428	第５面	〈30〉	〈19〉	19
ピット429	第５面	34	〈30〉	28
ピット430	第５面	30	24	7
ピット431	第５面	21	〈17〉	18
ピット432	第５面	(38)	32	13
ピット433	第５面	〈25〉	〈21〉	17
ピット434	第５面	54	〈26〉	16
ピット435	第５面	50	44	12
ピット436	第５面	36	31	33
ピット437	第５面	40	35	10
ピット438	第５面	51	43	5
ピット439	第５面	25	24	17
ピット440	第５面	28	28	6
ピット441	第５面	27	26	17
ピット442	第５面	28	26	15
ピット443	第５面	27	27	14
ピット444	第５面	37	33	－
ピット445	第５面	(49)	48	15
ピット446	第５面	30	30	23
ピット447	第５面	41	38	7
ピット448	第５面	50	41	22
ピット449	第５面	42	(40)	18
ピット450	第５面	36	28	12
ピット451	第５面	34	27	19
ピット452	第５面	27	27	12
ピット453	第５面	39	26	14
ピット454	第５面	51	〈45〉	11
ピット455	第５面	45	(45)	15
ピット456	第５面	47	45	29
ピット457	第５面	21	19	－
ピット458	第５面	20	18	－
ピット459	第５面	〈48〉	〈24〉	16
ピット460	第５面	〈45〉	32	18
ピット461	第５面	58	45	20
ピット462	第５面	〈30〉	26	15
ピット463	第５面	〈42〉	33	14
ピット464	第５面	25	22	17
ピット465	第５面	19	16	11
ピット466	第５面	45	〈28〉	9
ピット467	第５面	〈45〉	49	－
ピット468	第５面	42	〈31〉	－
ピット469	第５面	32	〈23〉	12
ピット470	第５面	36	34	14
ピット471	第５面	26	〈15〉	6
ピット472	第５面	25	23	5
ピット473	第５面	27	23	20
ピット474	第５面	26	26	17
ピット475	第５面	30	23	14
ピット476	第５面	〈56〉	53	30
ピット477	第５面	44	〈９〉	26
ピット478	第５面	〈23〉	〈14〉	57

※礎石・礎板建物の長軸・短軸は心々間の計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表８　出土遺物一覧表

表土

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	136
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
	盤	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
	緑釉盤	1
瀬戸	瓶子	1
	四耳壺	1
	花瓶Ⅰａ類	1
	平碗	2
	天目茶碗	4
	直縁大皿	3
	折縁深皿	9
	縁釉皿	1

常滑	甕	110
	壺	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ類	2
	火鉢小破片	5
【瓦】		
	軒丸瓦	1
	丸瓦	3
	平瓦	4
【石製品】		
	砥石	4
【金属製品】		
	銭貨	3
【木製品】		
	漆器	1
	箸状	1
	下駄	1
合計		301

撹乱

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	64
【青磁】		
龍泉窯系	盤	1
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
常滑	甕	57
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ類	1
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	6
【石製品】		
	砥石	2
【金属製品】		
	釘	1
合計		134

第１面

溝状遺構１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	366
	かわらけ転用品	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
	碗Ⅲ類	1
	碗小破片	1
	鉢	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	瓶子	4
	広口壺	1
	入子	1
	平碗	1
	天目茶碗	2

瀬戸	直縁大皿	1
	折縁深皿	10
	卸皿	3
	稜花皿	1
	蓋	2
	袋物	4
常滑	甕	132
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	13
備前	擂鉢	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢Ⅳ類	2
	火鉢小破片	11
	土風呂	1
	香炉	1
【瓦】		
	軒丸瓦	6
	軒平瓦	4
	平瓦	2
【石製品】		
	温石	1
	砥石	4
	磨石（朱付着）	1
	硯	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	金属滓	1
【木製品】		
	用途不明	2
合計		594

据甕遺構１

産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

土坑１

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	入子	1
合計		2

土坑２

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
合計		6

土坑３

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

土坑４

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	7
【瓦】		
	平瓦	2
【石製品】		
	熔石	1
合計		11

土坑５

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	22
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	鉄滓	1
合計		24

土坑７

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

土坑８

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
【陶器】		
常滑	甕	1
【瓦】		
	丸瓦	1
合計		13

土坑９

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑10

産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		3

土坑11

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

土坑13

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	甕	1
合計		3

土坑14

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	瓶子	6
常滑	甕	6
合計		16

土坑15

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
常滑	甕	1
備前	擂鉢	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
合計		12

土坑17

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	19
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅱ類	1
合計		23

土坑18

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		7

土坑19

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	甕	3
【金属製品】		
	釘	1
合計		11

土坑20

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	甕	4
合計		9

土坑21

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	29
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
【陶器】		
中国	壺	1
瀬戸	壺	2
	花瓶	2
	折縁深皿	2
常滑	甕	65
	片口鉢Ⅱ類	1
	摩耗陶片	1
産地不明	小破片	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	2
【瓦】		
	平瓦	2
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	1
合計		111

土坑22

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
合計		10

土坑13

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	甕	1
合計		3

土坑14

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	瓶子	6
常滑	甕	6
合計		16

ピット１

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット２

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	かわらけ転用品	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		4

ピット５

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット６

産地	器種	破片数
【石製品】		
	砥石	1
合計		1

ピット８

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	3
【石製品】		
	砥石	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
合計		12

ピット11

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット12

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット16

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

ピット19

産地	器種	破片数
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
合計		1

ピット20

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット22

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット23

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	小杯	1
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		

	燭台	1
	合計	6

ピット27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	6

ピット29		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	5

ピット35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
	合計	2

ピット36		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
	合計	12

ピット37		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
	合計	14

ピット39		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	20
	かわらけ転用品	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	22

ピット40		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	2

ピット41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット43		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット48		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット54		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット55		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット56		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット57		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット58		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット60		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット61		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
常滑	甕	2
	合計	9

ピット62		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット64		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	燭台	1
	合計	8

ピット66		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット67		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
	合計	5

ピット68		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット69		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	9
【青白磁】		
	梅瓶	1
	合計	10

ピット70		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット76		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
常滑	甕	1
	合計	9

ピット78		
産　地	器　種	破片数
【青白磁】		
	皿	1
	合計	1

ピット81		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット88		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	6

ピット90		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	5

ピット95		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット97		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット102		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
	合計	1

ピット103		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット104		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット106		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	2

ピット107		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット108		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
【鉄製品】		
	釘	1
	合計	4

ピット114		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット115		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
常滑	甕	1
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	7

ピット125		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット126		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
	合計	3

ピット128		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	11

ピット132		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット134		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット136		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット137		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	6

ピット138		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	6

ピット139		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	4

ピット140		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット141		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

ピット146		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	3

ピット147		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	5

ピット149		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
	合計	3

ピット150		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
常滑	甕	1
	合計	5

ピット151		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット152		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	6

ピット153		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット154		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

ピット157		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット159		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢	1
	合計	5

ピット160		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
瀬戸	耳壺	1
常滑	甕	5
	合計	12

ピット161		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット162		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	8
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	9

ピット165		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット166		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	3

ピット167		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	7

ピット168		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	5

ピット169		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	11

ピット170		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	5
	合計	8

ピット171		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
	合計	8

ピット174		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	5

ピット176		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
	合計	8

ピット177		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット178		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット179		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	6

ピット180		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット181		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	2

ピット184		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
【石製品】		
	砥石	1
	合計	6

ピット185		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット186		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	10

ピット188		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	10

ピット189		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢	1
	合計	5

ピット190		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット191		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【金属製品】		
	釘	1
	合計	10

ピット192		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット193		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット194		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット195		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	香炉	1
常滑	甕	1
合計		4

ピット196		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット197		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット199		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット202		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		15

ピット203		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		18

ピット204		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
常滑	甕	2
【土師質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
合計		20

ピット205		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
【陶器】		
瀬戸	壺	1
	卸皿	1
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ⅣA類	1
【金属製品】		
	銭貨	1
合計		19

ピット207		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
備前	擂鉢	1
合計		1

ピット209		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	7
合計		9

ピット210		
産　地	器　種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	香炉	1
合計		1

ピット211		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	縁釉小皿	1
合計		1

ピット212		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	壺	1
	天目茶碗	1
合計		6

ピット213		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
合計		9

ピット214		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット215		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット216		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		3

ピット221		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
【土師質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
【瓦】		
	平瓦	1
合計		20

ピット224		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット225		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
	折縁深皿	1
合計		4

ピット226		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
合計		1

炭層出土遺物		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	514
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－b類	4
	碗Ⅳ類	3
	碗Ⅳウ類	1
	皿Ⅰ類	1
	器種不明小破片	4
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	瓶子	2
	壺	2
	花瓶Ⅰ類	1
	花瓶Ⅱ類	1
	平碗	3
	天目茶碗	4
	折縁深皿	11
	卸皿	2
	柄付片口	1
	袴腰形香炉	1
	器種不明小破片	1
常滑	甕	333
	壺	3
	広口壺小	1
	片口鉢Ⅱ類	10
備前	擂鉢	1
【土師質・瓦質土器】		
	土鍋	10
	南伊勢系土鍋	2
	火鉢Ⅲ類	11
	火鉢Ⅳ類	3
	香炉	1
	器種不明小破片	4
【瓦】		
	軒丸瓦	3
	軒平瓦	2
	丸瓦	5
	平瓦	17
【石製品】		
	砥石	3
	硯	2
【金属製品】		
	銭貨	4
	釘	14
	笄	1
【木製品】		
	漆器（器種不明）	1
合計		988

第１面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	602
	かわらけ転用品	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	2
	碗Ⅱ－b類	1
	碗小破片	7
	花瓶	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	2
	壺	2
	広口壺	2
	花瓶Ⅰa類	1
	水滴	1
	入子	3
	平碗	2
	天目茶碗	8
	小杯	1
	直縁大皿	2
	折縁深皿	2
	卸皿	6
	縁釉小皿	2
	黄瀬戸鉢	9
	器種不明小破片	25
常滑	甕	262
	壺	2
	広口壺	1
常滑	片口鉢Ⅰ類	4
	片口鉢Ⅱ類	4
備前	擂鉢	1
【土師質・瓦質土器】		
	土鍋	2
	南伊勢系土鍋	2
	火鉢Ⅰ類	1
	火鉢Ⅲ類	5
	火鉢ⅣA類	5
	火鉢小破片	21
	香炉	1
【瓦】		
	軒丸瓦	1
	丸瓦	6
	平瓦	14
	近世平瓦	29
【石製品】		
	砥石	7
	硯	2
	温石	1
	スタンプ	1
	用途不明	1
【金属製品】		
	銭貨	5
	釘	3
【木製品】		
	漆器（蓋）	1
	箸状	57
	装身具	1
	用途不明	5
合計		1,131

第１面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	617
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
	碗Ⅱ－b類	2
	碗Ⅳ類	2
	腕小破片	1
	盤	1
	酒会壺	1
【青白磁】		
	皿	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	6
	四耳壺	2
	花瓶Ⅰa類	1
	花瓶Ⅰb類	3
	香炉	1
	天目茶碗	7
	折縁皿	2
	折縁深皿	15
	卸皿	5
	皿小破片	1
	器種不明小破片	14
渥美	袈裟襷文・蓮弁文壺	1
常滑	甕	672
	片口鉢Ⅰ類	2
	片口鉢Ⅱ類	13
	摩耗陶片	3
備前	擂鉢	11
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢ⅣA類	6
	土鍋	1
	香炉	1
	風炉	1
	器種不明小破片	32
【瓦】		
	軒平瓦	1
	平瓦	7
【石製品】		
	石鍋	5
	砥石	12
	硯	1
	用途不明	1
【金属製品】		
	銭貨	6
合計		1,460

第２面

溝状遺構２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	186
	かわらけ転用品	1
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1
	酒会壺	1
	盤	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	3
	花瓶	1
	入子	1
	平底末広碗	1
	折縁深Ⅲ	4
	仏供	1
	水滴	1
常滑	甕	54
	広口壺小	1
	片口鉢Ⅱ類	9
備前	擂鉢	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢小破片	4
【瓦】		
	丸瓦	3
【石製品】		
	砥石	2
【金属製品】		
	銭貨	1
	用途不明鉄製品	1
	合計	281

方形土坑１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	84
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅳ類	1
【陶器】		
瀬戸	袴腰形香炉	1
常滑	甕	13
	片口鉢Ⅱ類	3
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	4
【石製品】		
	砥石	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	用途不明	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	合計	114

方形土坑２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	21
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	鬼瓦	1
	平瓦	1
	合計	25

方形土坑３		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1
【陶器】		
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ類	1
	火鉢小破片	2
	合計	8

土坑23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	3
【木製品】		
	箸状	1
	合計	11

土坑25		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	45
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
【青白磁】		
	梅瓶	2
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅱ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢Ⅳ A 類	2
	火鉢小破片	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
【木製品】		
	建築部材	1
	箸状	3
	合計	62

土坑27		
産　地	器　種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	1

土坑29		
産　地	器　種	破片数
【瓦】		
	平瓦	1
	丸瓦	1
	合計	2

土坑30		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

土坑31		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ類	1
	合計	3

土坑32		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	11

土坑33		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
	合計	14

土坑34		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	2
	合計	3

土坑35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

土坑36		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

土坑37		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	合計	10

土坑38		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

土坑39		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

土坑40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
	折縁深皿	1
	合計	3

土坑41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	20
【陶器】		
常滑	壺	1
	合計	21

ピット227		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット228		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	2

ピット234		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青磁】		
	碗Ⅱ類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ A 類	1
	合計	5

ピット236		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	かわらけ転用品	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	13

ピット237		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット238		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット241		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	かわらけ転用品	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	6

ピット244		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット248		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット249		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	5

ピット250		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	砥石	1
	合計	16

ピット251		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	3

ピット253

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット256		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ転用品	1
合計		1

ピット257		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		3

ピット262		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	9
合計		9

ピット263		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	5
合計		7

ピット264		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
【瓦】		
	平瓦	1
合計		3

ピット267		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
中国	短頸壺	1
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	壺	1
合計		4

ピット268		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
備前	擂鉢	1
合計		2

ピット274		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
中国	褐釉陶器	7
瀬戸	直縁大皿	1
常滑	甕	10
	片口鉢Ⅱ類	2
備前	擂鉢	3
【金属製品】		
	釘	1
合計		26

ピット275		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット279		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	壺	2
合計		2

ピット280		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
中国	無釉甕	2
瀬戸	大皿	2
常滑	壺	7
	広口壺	2
	甕	3
合計		17

ピット286		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット290		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	玉縁口縁壺	1
合計		1

ピット293		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット294		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	壺	2
合計		7

ピット298		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【青白磁】		
	梅瓶	1
【骨角製品】		
	用途不明	1
合計		5

ピット299		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	4
合計		5

ピット308		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット310		
産　地	器　種	破片数
【青白磁】		
	水瓶蓋	1
合計		1

ピット313		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット314		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	かわらけ転用品	1
合計		6

ピット315		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット316		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	8
合計		9

ピット318		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット319		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		2

ピット320		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット323		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【青磁】		
	碗Ⅱ類	1
【陶器】		
瀬戸	瓶	1
	卸皿	1
常滑	甕	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		9

ピット324		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		10

ピット325		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
合計		6

ピット329		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット330		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
備前	擂鉢	1
合計		1

ピット331		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
合計		8

ピット332		
産　地	器　種	破片数
【磁器】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
合計		1

ピット334		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
合計		2

ピット336		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
合計		2

ピット338		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
【金属製品】		
	銭貨	1
合計		3

ピット340		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット341		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット343		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【木製品】		
	漆製品（器種不明）	1
合計		3

ピット350		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	壺	1
常滑	甕	1
合計		3

第２面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	5
	かわらけ　ロクロ成形	1,616
	かわらけ転用品	17
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
【青磁】		
	碗Ⅰ類	1
	碗Ⅱ－ｂ類	2
	碗Ⅳ類	1
龍泉窯系	碗Ⅳイ類	1
	浮文花貼付壺	1
	香炉	1
	器種不明小破片	1
【青白磁】		
	瓶子	3
【陶器】		
	褐釉陶器	9
中国	無釉甕	10
	耳壺	1
	瓶子	2
	壺	5
	水注Ⅰ類	1
	袋物	1
	入子	6
	平碗	1
	平底末広碗	1
瀬戸	天目茶碗	2
	合子蓋	1
	茶入	2
	直縁大皿	2
	折縁深皿	11
	卸皿	1
	中皿	1
	器種不明小破片	5
	甕	188
	広口壺小	1
常滑	片口鉢Ⅰ類	4
	片口鉢Ⅱ類	37
	摩耗陶片	4
渥美	甕	3
北部系	山茶碗	2
備前	擂鉢	9
【土器・土師質・瓦質土器】		
	弥生時代後期壺	1
	南伊勢系土鍋	1
	火鉢Ⅱ類	6
	火鉢Ⅲ類	2
	火鉢Ⅳ類	6
	火鉢小破片	18
	土鍋	1
	碗	4
【瓦】		
	丸瓦	10
	平瓦	13
	瓦転用品	1
【石製品】		
	滑石製石鍋転用品	1
	砥石	7
	硯	1
	用途不明	2
	玉石	1
【金属製品】		
	銭貨	9
	釘	17
	刀子（小刀）	2
【木製品】		
	漆製品（椀）	4
	漆製品（器種不明）	5
	箸状	31
	杓子	1
	調度具	1
	装身具	1
	棒状・串状	5
	杭	1
	用途不明	5
合計		2,117

第２面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	208
	かわらけ転用品	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	坏Ⅲ類	1
	瓶類	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
	瓶子	1
	水注Ⅰ類	1
	入子	1
瀬戸	合子蓋	1
	折縁深皿	3
	卸皿	1
	袴形香炉	1
	甕	28
常滑	広口壺小	1
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	10
備前	擂鉢	3
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅱ類	1
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢ⅣＡ類	1
	火鉢小破片	2
	碗	1
	器種不明小破片	1
【瓦】		
	丸瓦	2
	平瓦	3
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	1
【骨角製品】		
	笄	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	漆製品（椀）	5
	漆製品（皿）	5
	箸状	203
	連歯下駄	1
	草履芯	1
	自在鉤	1
	折敷	2
	建築部材	1
	箆	2
	棒状・串状	2
	形代	1
	用途不明	1
合計		509

第３面

礎石・礎板建物１－Ｐ１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

方形竪穴状遺構１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	49
	かわらけ転用品	1
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
備前	擂鉢	1
常滑	甕	6
	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【木製品】		
	漆製品（雲型）	1
	折敷	1
	用途不明	1
合計		66

溝状遺構３		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ　ロクロ成形	510
	かわらけ転用品	1
【白磁】		
	壺	1
	小壺	1
	Ⅲ区類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	坏	1
高麗青磁	梅瓶	6
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
瀬戸	瓶子	1
	入子	1
	甕	85
	広口壺大	1
常滑	片口鉢Ⅰ類	6
	片口鉢Ⅱ類	11
	摩耗陶片	2
亀山	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	吉備系土師質土器	1
	火鉢Ⅰ類	1
	火鉢小破片	4
【瓦】		
	軒平瓦	1
	丸瓦	1
	平瓦	5
【石製品】		
	温石	1
	砥石	13
【金属製品】		
	銭貨	28
	銭貨（差し状）	12
	刀子（小刀）	1
	釘	6
	用途不明	1
【骨角製品】		
	栗形	1
	笄	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	7
	漆製品（皿）	2
	漆製品（膳）	4
	漆製品（雲型）	1
	漆製品（器種不明）	2
	箸状	312
	串状	1
	板柄杓	2
	経木折敷	1
	膳	1
	調理具（曲物）	5
	調度具	2
	装身具	1
	連歯下駄	2
	草履芯	5
	火きり棒	2
	紡織機	1
	建具	3
	建築部材	3
	杭	1
	箆状	2
	楔	4
	棒状・串状	8
	円盤状	6
	用途不明	6
合計		1,095

溝状遺構４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	156
	かわらけ転用品	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
	盤	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
	平碗	1
瀬戸	入子	1
	卸皿	2
	甕	6
常滑	広口壺	1
	片口鉢Ⅱ類	4
【瓦】		
	平瓦	2
【石製品】		
	砥石	4
【金属製品】		
	銭貨	1
	装飾金具	1
	火箸	1
【木製品】		
	箸状	53
	連歯下駄	1
	串状	1
合計		239

土坑46		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
中国	耳壺	2
瀬戸	折縁深皿	1
【瓦】		
	平瓦	3
合計		9

土坑47		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	かわらけ転用品	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【瓦】		
	平瓦	1
合計		10

ピット369		
産　地	器　種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢	1
合計		1

ピット370		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット371		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	かわらけ転用品	1
合計		8

ピット372		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット373		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

ピット383		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

ピット386		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【金属製品】		
	銭貨	1
合計		3

ピット388		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット389		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【石製品】		
	滑石	1
合計		5

第３面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ　ロクロ成形	440
	かわらけ転用品	4
【白磁】		
	器種不明小破片	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	6
	坏Ⅳ－４ａ類	2
【青白磁】		
	壺	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	瓶子	2
	花瓶Ｉ類	1
	入子	1
	皿	1
	直縁大皿	1
	折縁深皿	2
	卸皿	4
	縁釉皿	1
常滑	甕	50
	片口鉢Ｉ類	11
	片口鉢Ⅱ類	6
備前	擂鉢	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	2
	火鉢小破片	13
【瓦】		
	丸瓦	6
	平瓦	5
	瓦転用品	1
【石製品】		
	砥石	4
	硯	2
	用途不明	1
【金属製品】		
	銭貨	3
	釘	4
	角釘	1
	火箸	1
	用途不明	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	9
	漆製品（皿）	3
	漆製品（器種不明）	6
	箸状	752
	調理具（曲物）	3
	調度具	2
	仏具部材	1
	草履芯	2
	自在鉤	1
	鞘	1
	手押木	1
	鍬	1
	鋤	1
	箆	1
	棒状・串状	10
	用途不明	2
	球	2
	建築部材	2
合計		1,383

第３面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	4
	かわらけ　ロクロ成形	722
	かわらけ転用品	2
【白磁】		
	合子蓋	1
	皿Ⅸ類	2
【青磁】		
	盤	1
龍泉窯系	碗小破片	2
	皿	1
【陶器】		
	瓶子	3
	花瓶Ｉａ類	1
瀬戸	入子	1
	折縁深皿	3
	卸皿	3
	甕	123
	片口鉢Ｉ類	13
常滑	片口鉢Ⅱ類	11
	転用陶片（パレット）	1
	摩耗陶片	1
備前	擂鉢	3
【土師質・瓦質土器】		
	土鍋	1
	火鉢Ｉ類	4
	火鉢ＩＤ類	1
	火鉢Ⅳ類	1
	火鉢小破片	9
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	5
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	滑石製石鍋転用品	2
	砥石	13
	凝石	2
	凹石	1
	赤間ヶ石（硯原材料？）	1
	碁石？	1
【金属製品】		
	銭貨	7
	刀子（小刀）	1
	角釘	2
	火箸	1
	用途不明	2
【木製品】		
	漆製品（椀）	5
	漆製品（皿）	3
	箸状	86
	調理具（曲物）	1
	調度具	21
	仏具部材	1
	連歯下駄	1
	草履芯	2
	錐	1
	鏑矢	1
	箆	1
	円盤状	1
	棒状・串状	19
	端材	2
	用途不明	2
	形代	1
合計		1,102

第４面

礎石・礎板建物２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ　ロクロ成形	265
	かわらけ転用品	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
【陶器】		
	瓶子	1
瀬戸	卸皿	3
	器種不明小破片	1
	甕	39
	鳶口壺	1
常滑	片口鉢Ｉ類	3
	片口鉢Ⅱ類	4
	摩耗陶片	1
【土師質・瓦質土器】		
	吉備系土師質土器	1
	火鉢小破片	2
	土鍋	1
【瓦】		
	軒丸瓦	1
	丸瓦	1
	平瓦	5
	瓦転用品	1
【石製品】		
	砥石	1
	碁石？	2
【金属製品】		
	小仏像	1
	銭貨	7
	釘	1
	器種不明	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	14
	漆製品（皿）	11
	漆製品（膳）	5
	箸状	1,048
	板杓子	3
	折敷	7
	蓋	1
	鍋蓋	1
	調理具（曲物）	4
	経木折敷・板折敷	6
	柄杓	1
	調度具	7
	装身具	1
	下駄	2
	草履芯	27
	火処具	1
	棒状・串状	8
	建築部材	2
	鞘	1
	箆	1
	用途不明	13
	形代	1
	独楽	1
合計		1,515

礎石・礎板建物２－Ｐ２		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
【木製品】		
	漆製品（皿）	1
合計		3

礎石・礎板建物２－Ｐ５		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
【木製品】		
	箸状	2
	折敷	1
	建築部材	1
	棒状・串状	1
合計		7

礎石・礎板建物２－Ｐ６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【瓦】		
	丸瓦	1
【木製品】		
	建築部材	1
	棒状・串状	2
	端材	1
	用途不明	2
合計		12

礎石・礎板建物２－Ｐ８		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	4
合計		4

礎石・礎板建物２－Ｐ11		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
合計		9

礎石・礎板建物２－Ｐ15		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

礎石・礎板建物２－Ｐ18		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		5

礎石・礎板建物２－Ｐ20		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		4

礎石・礎板建物２－Ｐ21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

礎石・礎板建物２－Ｐ22		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【木製品】		
	箸状	1
合計		2

礎石・礎板建物２－Ｐ24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

井戸１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	22
【白磁】		
	壺	1

【陶器】		
瀬戸	香炉	1
	折縁深皿	1
	坩堝転用陶器	1
常滑	甕	4
	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	2
【木製品】		
	調理具（曲物）	1
合計		35

土坑50		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	64
【陶器】		
常滑	甕	32
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	2
【金属製品】		
	釘	2
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	漆製品（皿）	5
	呪符木簡	1
	箸状	364
	調理具（曲物）	1
	調度具	1
	草履芯	1
	建築部材	2
	棒状・串状	4
	用途不明	2
	端材	1
合計		483

土坑52		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	下駄	1
合計		1

土坑53		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅱ類	1
【木製品】		
	板柄杓	1
合計		3

土坑54		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	22
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	3
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【骨角製品】		
	笄	1
【金属製品】		
	銭貨	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	箸状	50
	経木折敷	3
	調理具（曲物）	1
	調度具	1
	草履芯	18
	棒状・串状	1
	用途不明	1
合計		107

土坑55		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	32
	かわらけ転用品	2
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	8
【金属製品】		
	銭貨	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	箸状	38
	調理具（曲物）	1
	調度具	1
	草履芯	1
	箆	1
	棒状・串状	2
	用途不明	1
	形代	1
合計		93

ピット391		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット393		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
合計		3

ピット396		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		2

ピット397		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		15

ピット398		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	建築部材	4
合計		6

ピット399		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	草履芯	1
合計		1

ピット403		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【木製品】		
	用途不明	2
合計		3

ピット404		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
【木製品】		
	下駄	1
合計		2

ピット406		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	調理具（曲物）	1
	部材	1
合計		5

ピット409		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
合計		5

ピット410		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
合計		2

ピット411		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【瓦】		
	平瓦	1
【木製品】		
	漆製品（皿）	1
合計		3

ピット415		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット416		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【木製品】		
	折敷（経木）	1
	棒状・串状	1
【骨角製品】		
	笄	1
合計		9

ピット417		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【木製品】		
	膳	1
	串状	1
合計		6

ピット418		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【金属製品】		
	銭貨	1
【木製品】		
	箸状	2
合計		4

ピット420		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【木製品】		
	箸状	2
	串状	1
	端材	2
合計		7

第４面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	534
	かわらけ転用品	1
【白磁】		
	Ⅲ区類	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	14
	坏	1
	盤	1
	器種不明小破片	5
【陶器】		
瀬戸	入子	2
	折縁深皿	4
	卸皿	4
	器種不明小破片	6
常滑	甕	404
	片口鉢Ⅰ類	4
	片口鉢Ⅱ類	5
	摩耗陶片	3
北部系	山茶碗	10
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	16
	台？	1
【土製品】		
	土錘	1
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	2
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	温石	1
	硯	1
	砥石	5
【金属製品】		
	銭貨	13
	小刀（刀子）	6
	鑿	1
	錐	1
	釘	12
	用途不明	14
【骨角製品】		
	笄	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	9
	漆製品（皿）	6
	漆製品（鉢）	1
	漆製品（蓋）	1
	漆製品（膳）	3
	漆製品（調度具）	1
	漆製品（楕）	1
	漆製品（用途不明）	4
	箸状	700
	経木折敷	7
	調理具（曲物）	13
	板杓子	1
	盆	1
	膳	1
	栓	3

	部材	2
	調度具	2
	装身具	1
	燭台	1
	火きり棒	6
	下駄	1
	草履芯	9
	建築部材	7
	杭	1
	夾纈	1
	円盤状	4
	刷毛	2
	篦	7
	鞘	1
	棒状・串状	29
	用途不明	34
	形代	2
	球	1
合計		1,943

第４面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	152
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	62
	片口鉢Ⅰ類	6
	片口鉢Ⅱ類	8
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅰ類	1
	火鉢ＩＤ類	2
	火鉢小破片	4
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	小刀（刀子）	1
【木製品】		
	漆製品（皿）	3
	漆製品（膳）	2
	箸状	159
	調理具（曲物）	2
	連歯下駄	1
	用途不明	1
合計		417

第５面

礎石・礎板建物３		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	50
【青磁】		
龍泉窯系	坏Ⅲ－１ａ類	1
【陶器】		
常滑	甕	16
【瓦】		
	丸瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【木製品】		
	曲物	1
	曲物敷板	2
合計		72

礎石・礎板建物３－Ｐ３		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【金属製品】		
	釘	1
【木製品】		
	建築部材	1
	棒状・串状	1
	端材	2
合計		12

礎石・礎板建物３－Ｐ４		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【土製品】		
	土錘	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		3

礎石・礎板建物３－Ｐ８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

礎石・礎板建物３－Ｐ９		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

板壁建物１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	59
【白磁】		
	Ⅲ区類	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	碗Ⅲ類	1
【青白磁】		
	梅瓶蓋	1
【陶器】		
常滑	甕	26
	片口鉢Ⅰ類	1
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	滑石製石鍋	2
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	箸状	121
	調理具（曲物）	2
	板柄杓	1
	草履芯	2
	火きり棒	1
	串状	2
	用途不明	1
合計		227

板壁建物１－Ｐ５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
合計		8

板壁建物１－Ｐ10		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	碗	1
合計		5

溝状遺構５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	21
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1
【陶器】		
常滑	甕	7
【金属製品】		
	釘	1
【木製品】		
	箸状	10
	調度具	1
	用途不明	1
合計		42

土坑56		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	漆製品（皿）	1
合計		1

土坑57		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		3

土坑63		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	17
【陶器】		
常滑	甕	8
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	調理具（曲物）	1
	串状	1
合計		28

土坑64		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	3
【木製品】		
	箸状	1
	棒状・串状	1
合計		8

土坑65		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	7
【木製品】		
	漆製品（皿）	1
	折敷	1
	箸状	4
	端材	2
合計		15

土坑67		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	17
【陶器】		
常滑	甕	8
【木製品】		
	箸状	1
	火きり棒	1
	棒状・串状	2
合計		29

土坑70		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑74		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【木製品】		
	箸状	48
	棒状・串状	7
	用途不明	1
合計		61

ピット420		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	6
合計		9

ピット421		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット427		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		2

ピット431		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット432		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
合計		2

ピット441		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	漆製品（天目台）	1
合計		1

ピット448		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
渥美	壺	1
常滑	甕	2
【土製品】		
	土錘	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【金属製品】		
	釘	1
【木製品】		
	火きり棒	1
	用途不明	1
合計		11

ピット450		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット456		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット457		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
合計		2

ピット458		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット459		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	4
	合計	5

ピット461		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット464		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット467		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	調理具（曲物）	1
	合計	1

ピット470		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット471		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット472		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

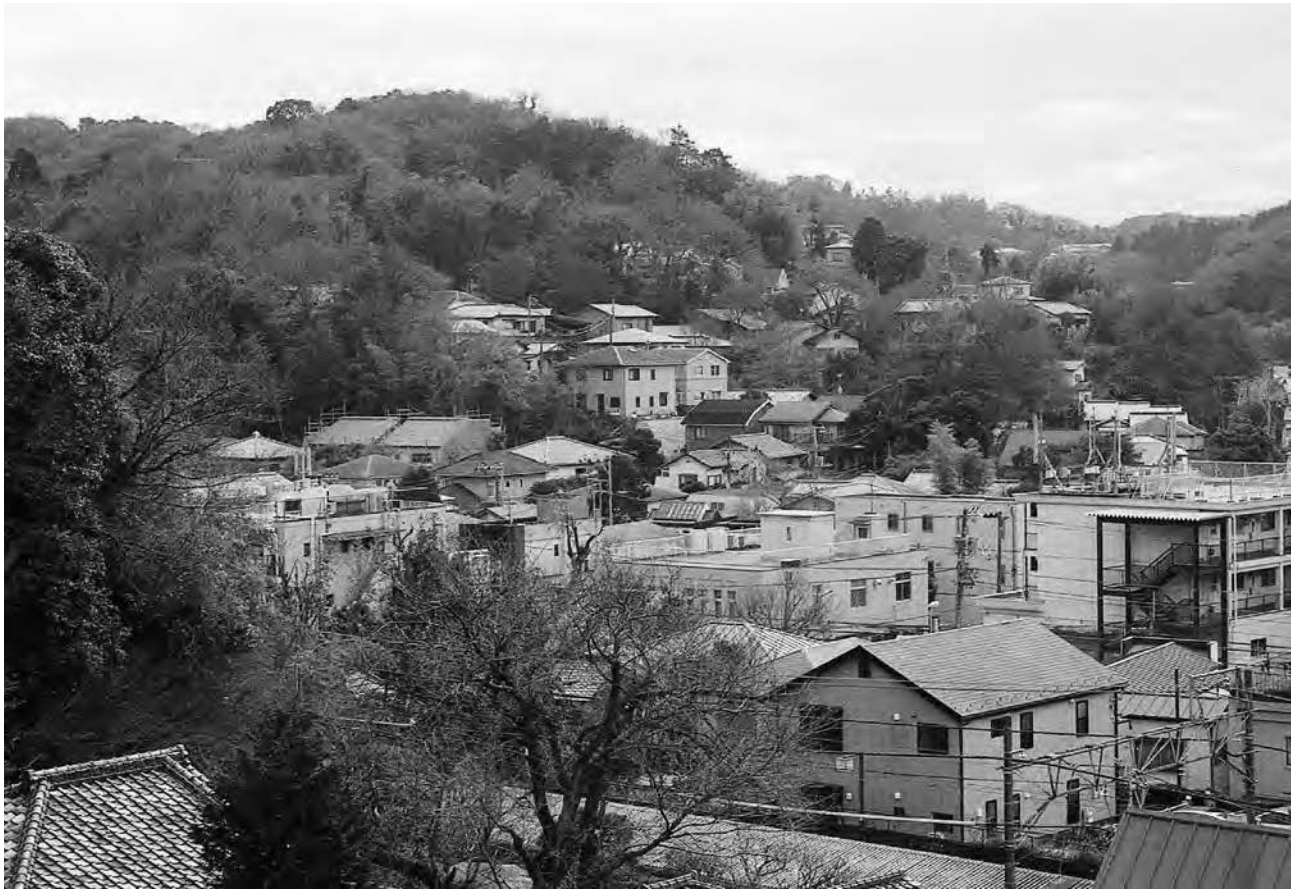
ピット473

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット474		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	棒状・串状	2
	合計	2

ピット475		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

第５面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	62
	かわらけ　手づくね成形	1
【青磁】		
同安窯系	皿	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
渥美	壺	1
常滑	甕	33
	片口鉢Ⅰ類	3
	片口鉢Ⅱ類	3
	摩耗陶片	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅰ類	2
	火鉢小破片	1
【瓦】		
	平瓦	2
【金属製品】		
	釘	3
	飾金具	2
【木製品】		
	漆製品（皿）	1
	箸状	1,444
	墨書板	1
	建築部材	1
	火きり棒	1
	棒状・串状	4
	端材	2
	杭	1
	用途不明	4
	合計	1,575



1．調査区近景（北から）

2．調査区北側東壁土層断面（北から）

図版２

１．調査区南側第１面全景（北から）

２．調査区北側第１面全景（東から）

３．第１面 据甕遺構１（西から）

1．調査区南側第２面全景（東から）

2．調査区北側第２面全景（東から）

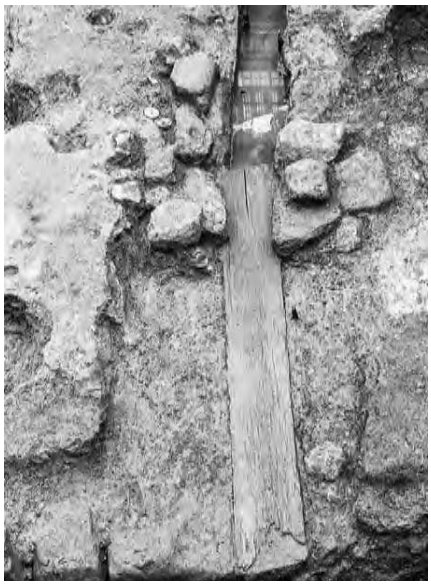
図版 4

1．調査区南側第３面全景（西から）

2．調査区北側第３面全景（東から）

1．第３面 方形竪穴状遺構１（東から）

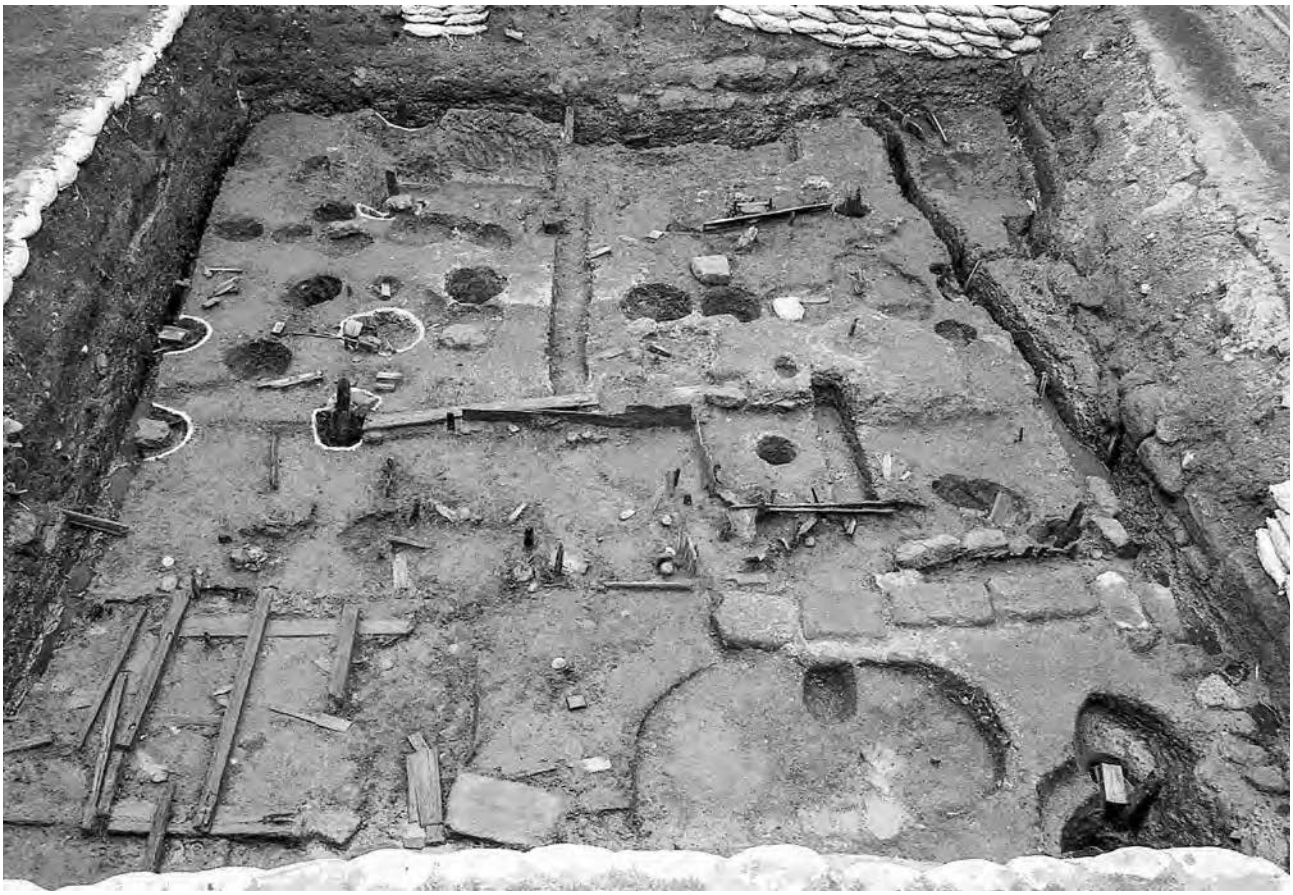
2．第３面 方形竪穴状遺構１石列部分（北から）



3．第３面 溝状遺構４西側（西から）

4．第３面 溝状遺構４東側（東から）

図版 6



1．調査区南側第 4 面全景（北から）

2．調査区北側第 4 面全景（東から）

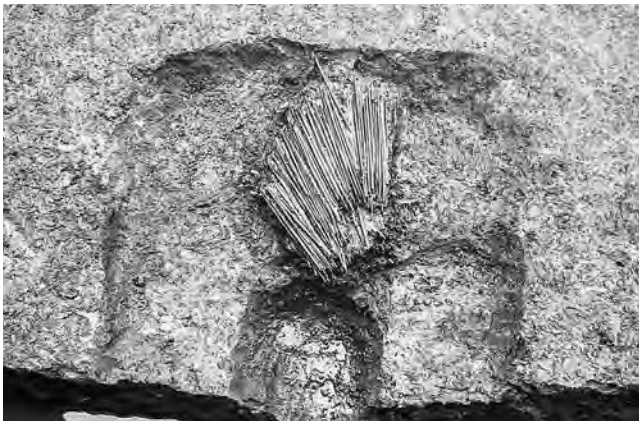
１．調査区南側第５面全景（西から）

２．調査区北側第５面全景（東から）

図版 8

1．第４面 水路１（北から）

2．第４面 井戸１（西から）



3．第５面 土坑74（東から）

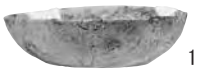
4．第５面 礎石・礎板建物３曲物出土状態（東から）

5．第５面 板壁建物１（西から）

1．第 1 面 溝状遺構 1 出土遺物

図版 10

1．第１面 据甕遺構１出土遺物



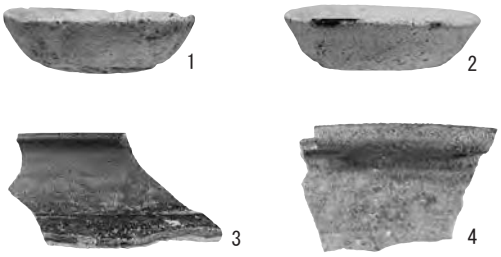
2．第１面 土坑１出土遺物

3．第１面 土坑４出土遺物

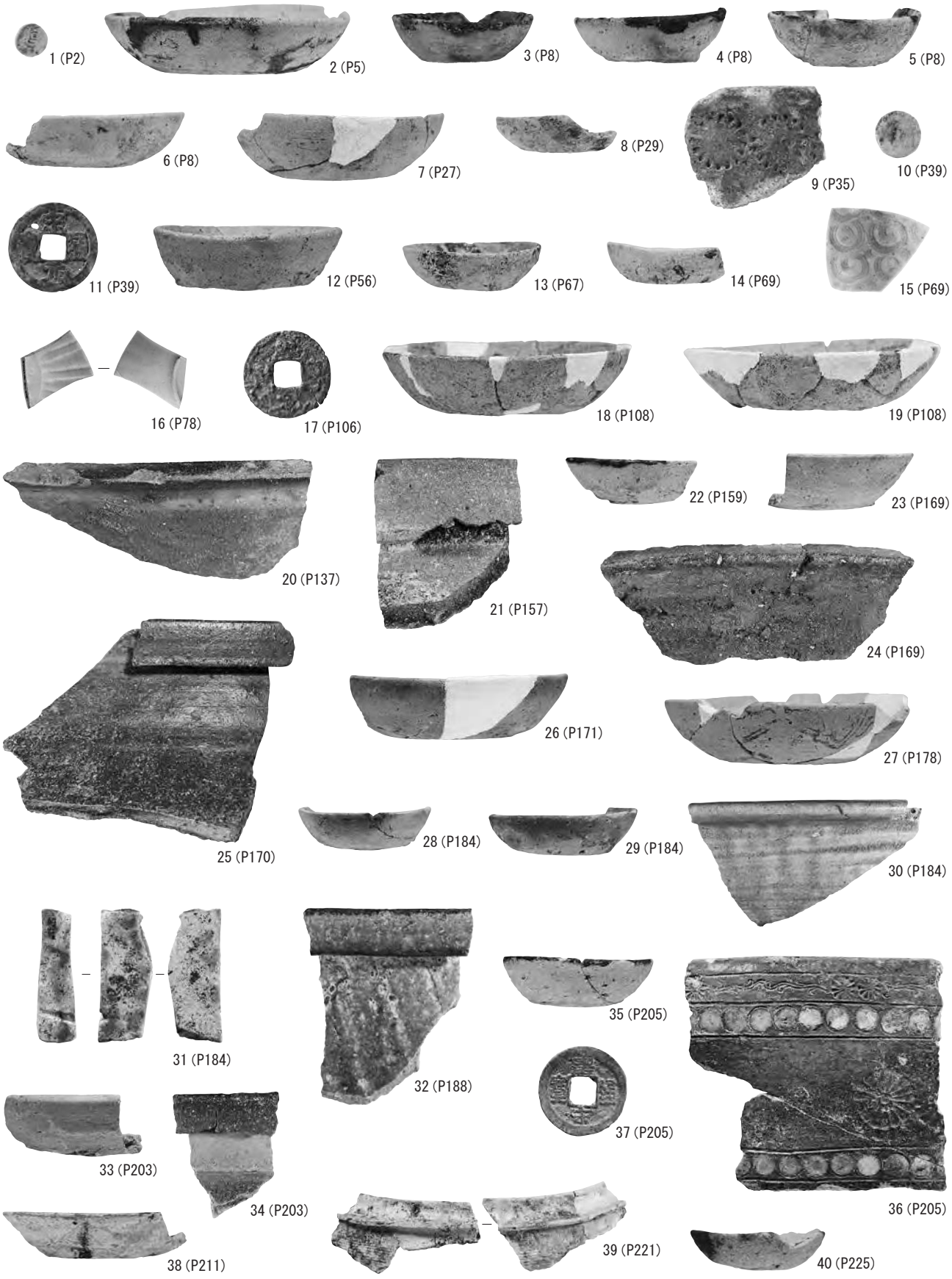
4．第１面 土坑９出土遺物

5．第１面 土坑13出土遺物

6．第１面 土坑19出土遺物

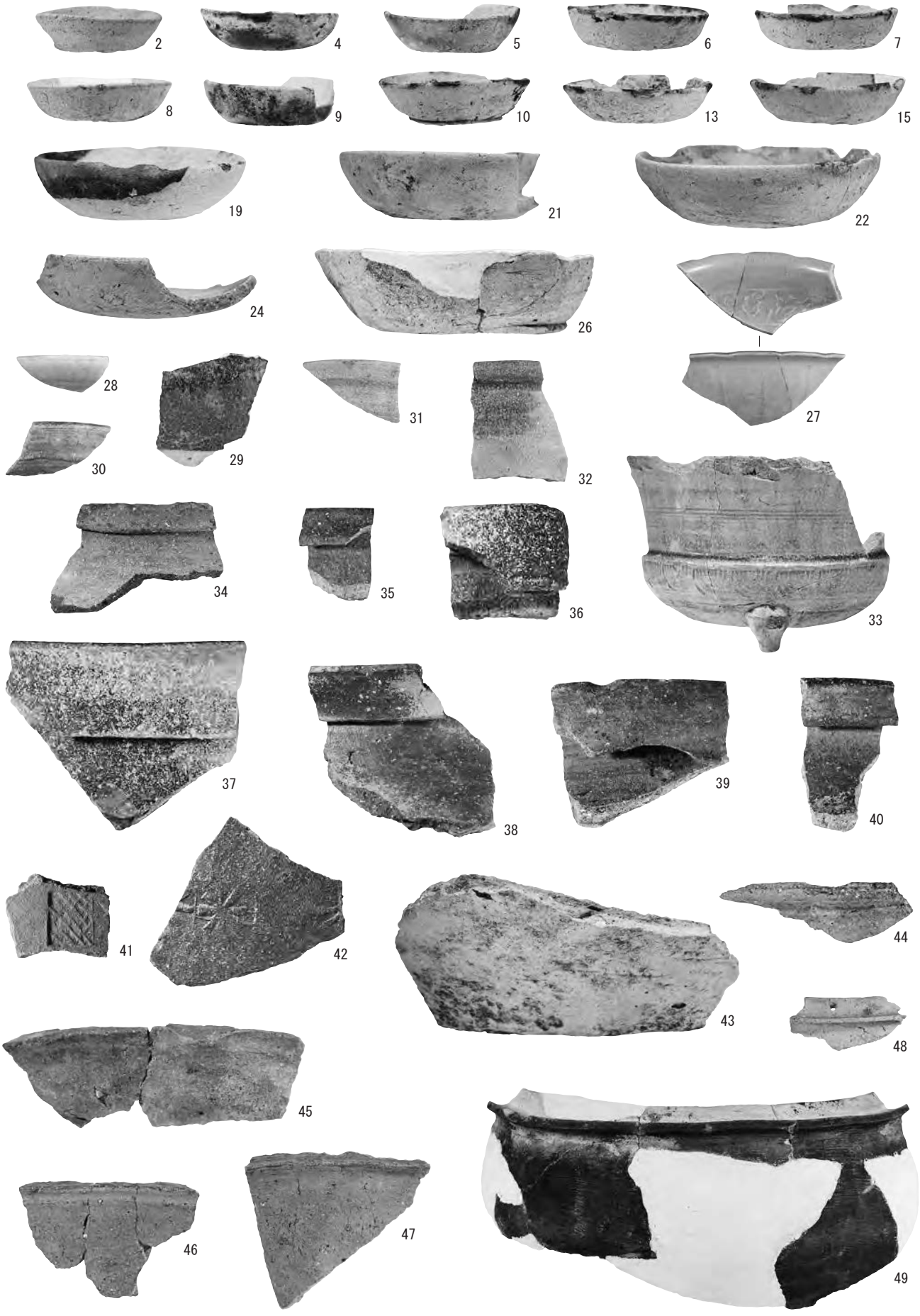


7．第１面 土坑21出土遺物

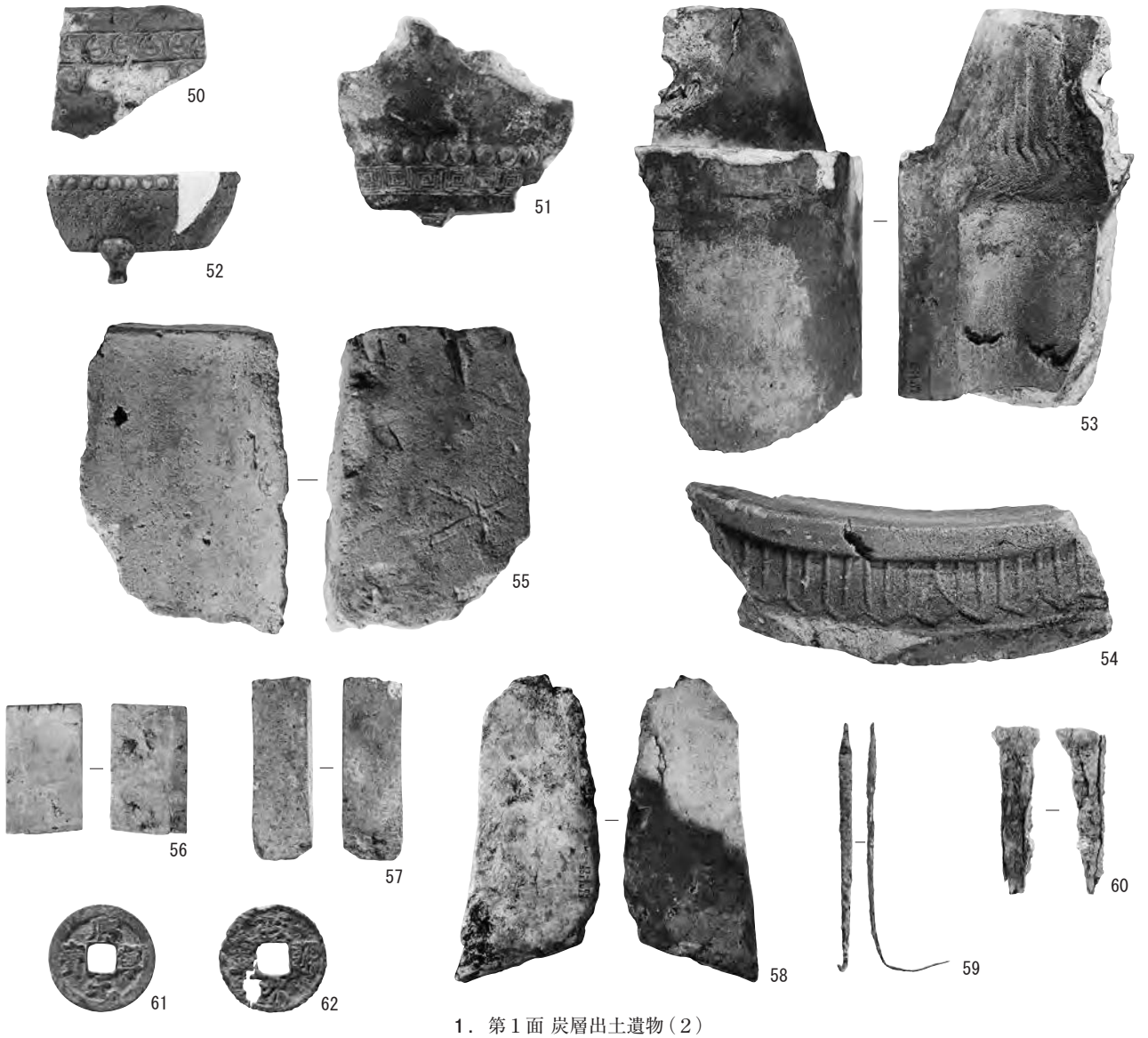


1．第 1 面 ピット出土遺物

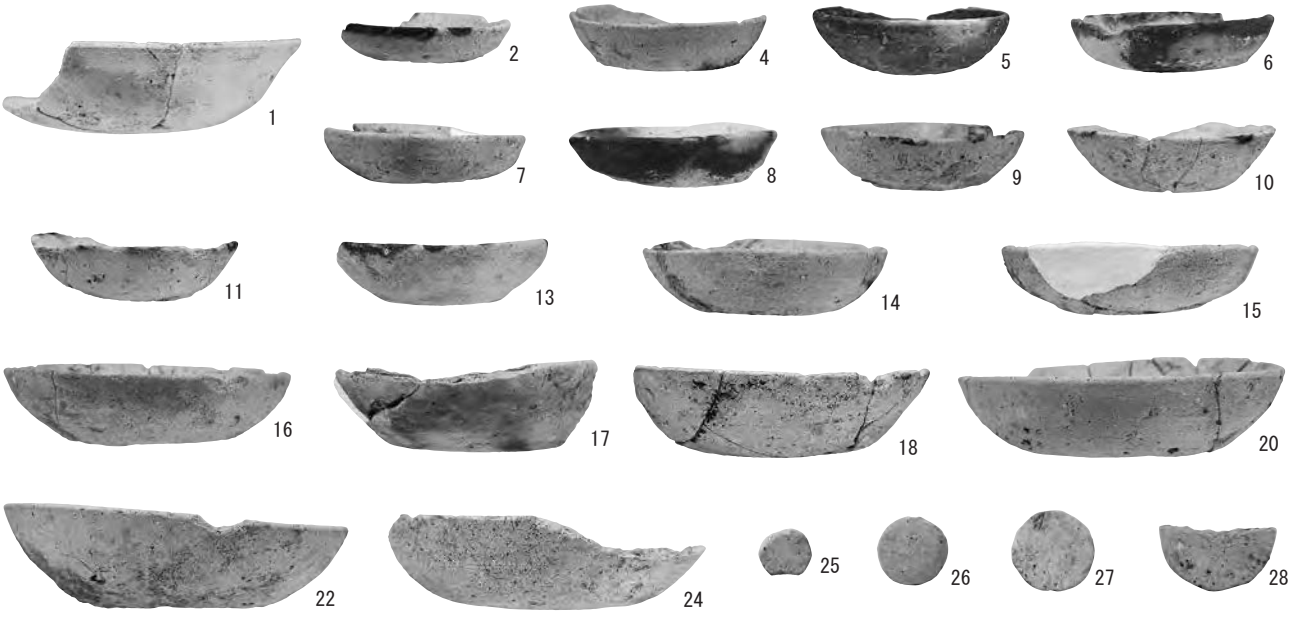
図版 12



1．第 1 面 炭層出土遺物（1）

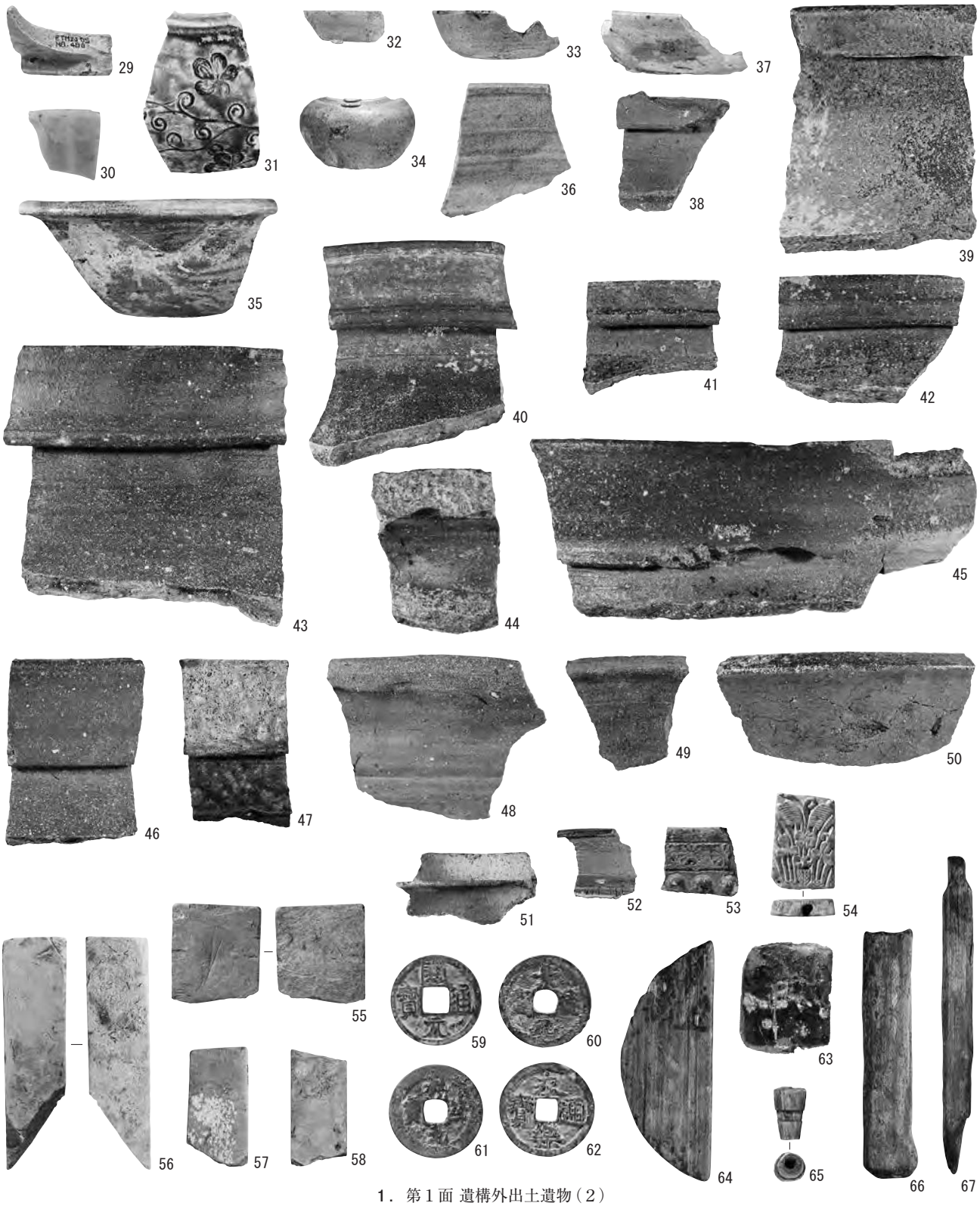


1．第 1 面 炭層出土遺物（2）



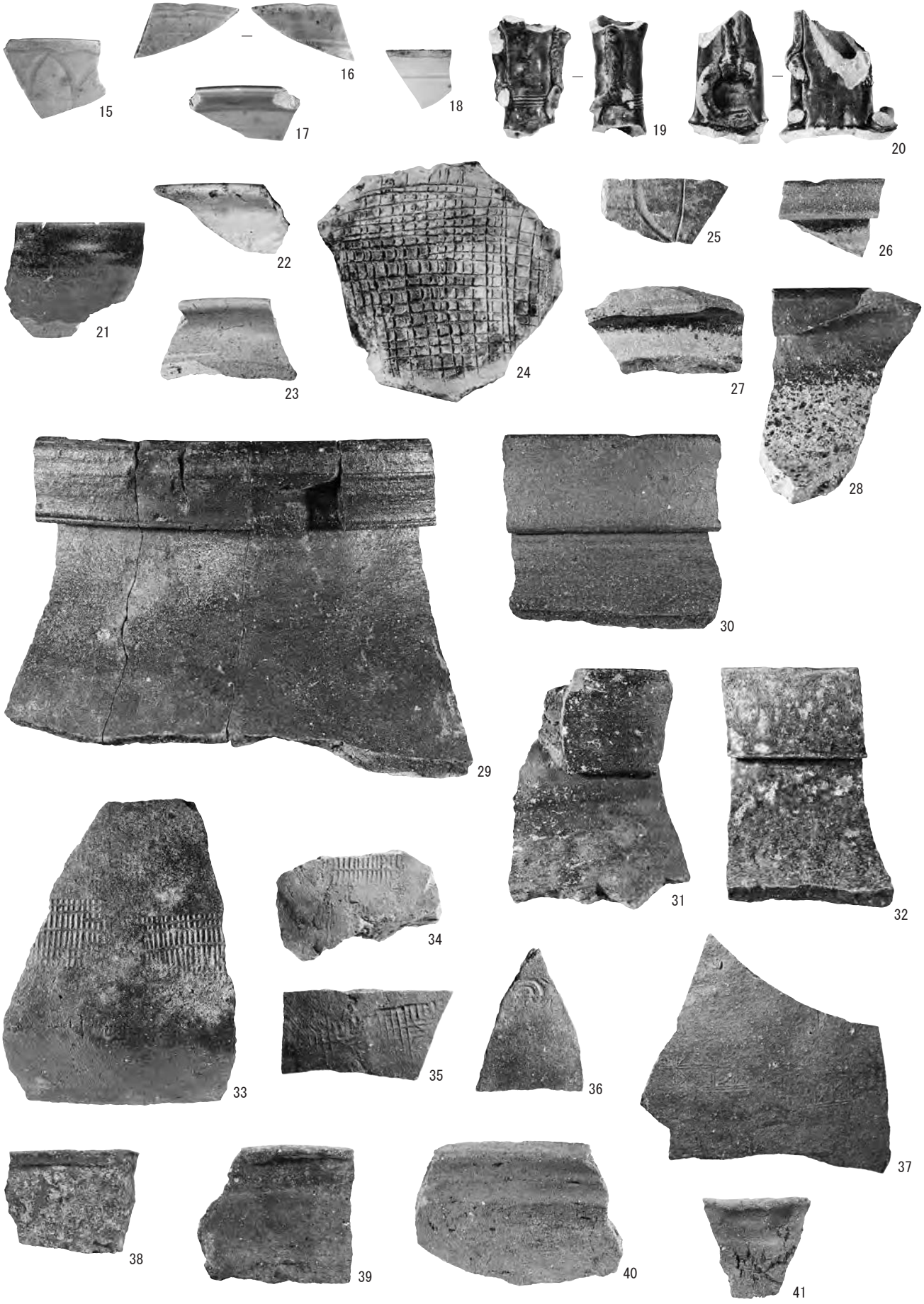
2．第 1 面 遺構外出土遺物（1）

図版 14



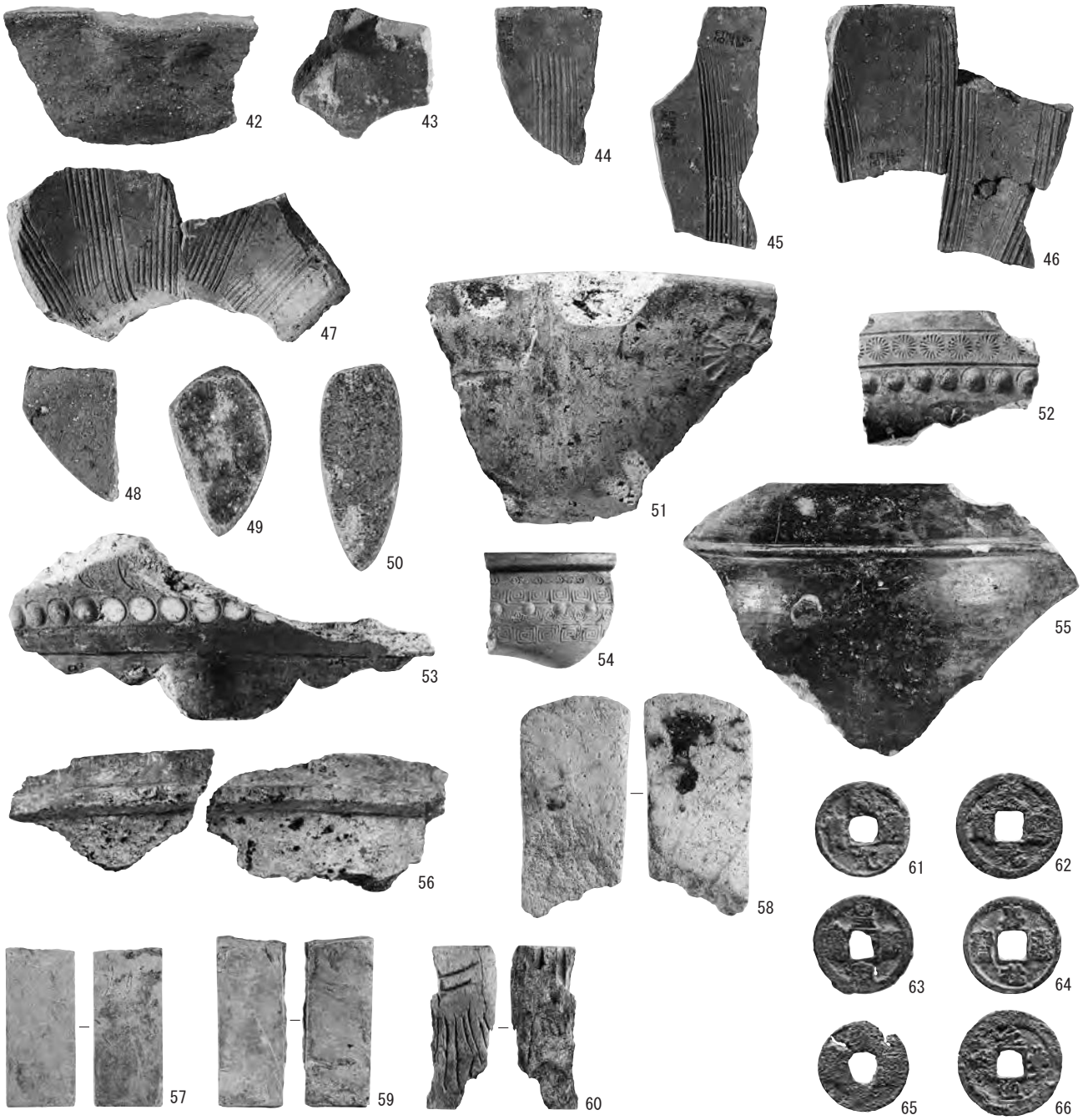
1．第１面 遺構外出土遺物（２）

2．第１面 構成土出土遺物（１）

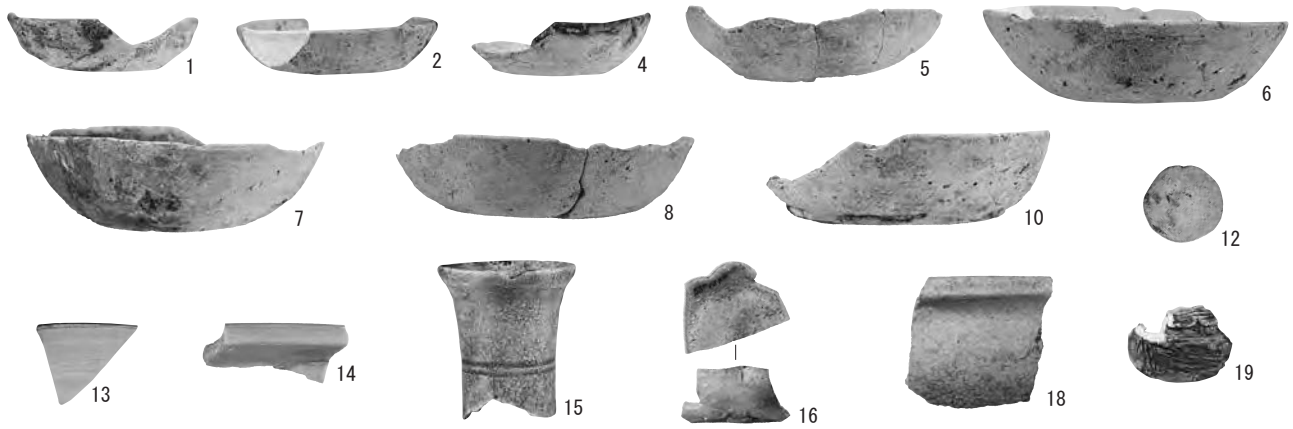


1．第 1 面 構成土出土遺物（2）

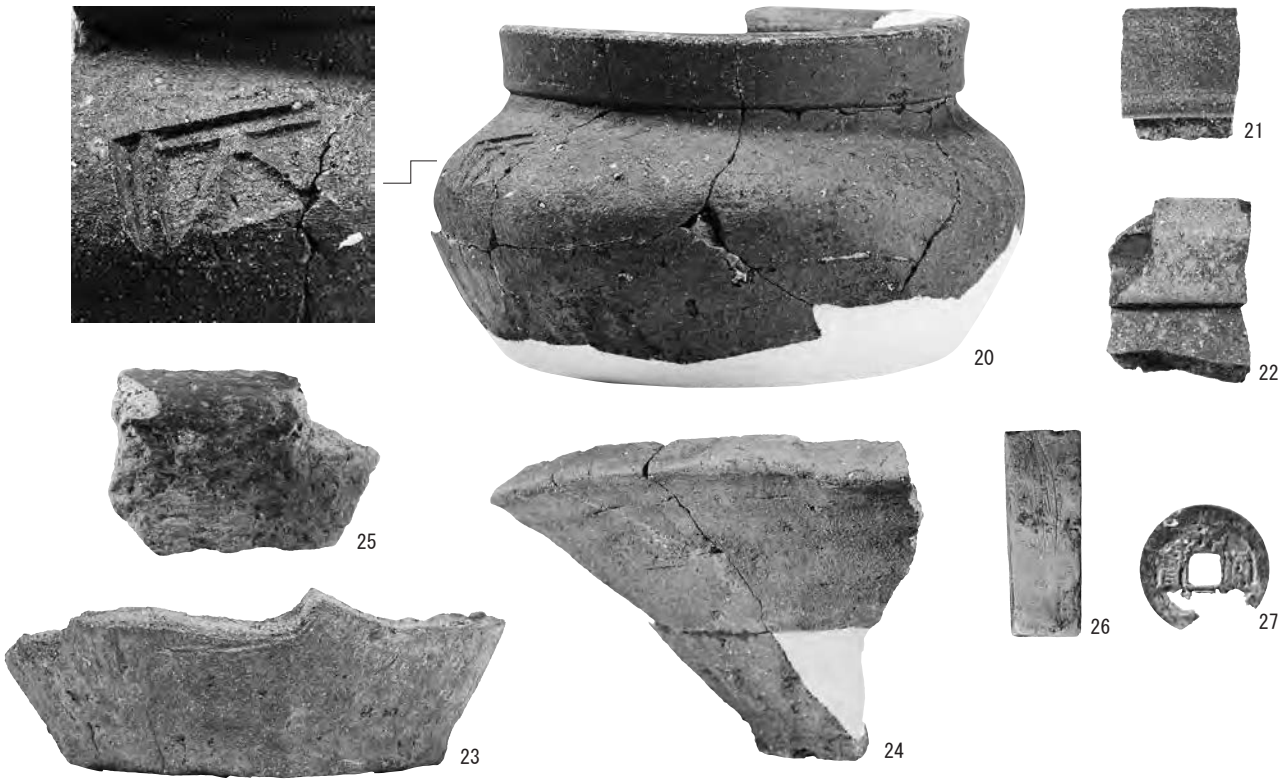
図版 16



1．第１面 構成土出土遺物（３）



2．第２面 溝状遺構２出土遺物（１）



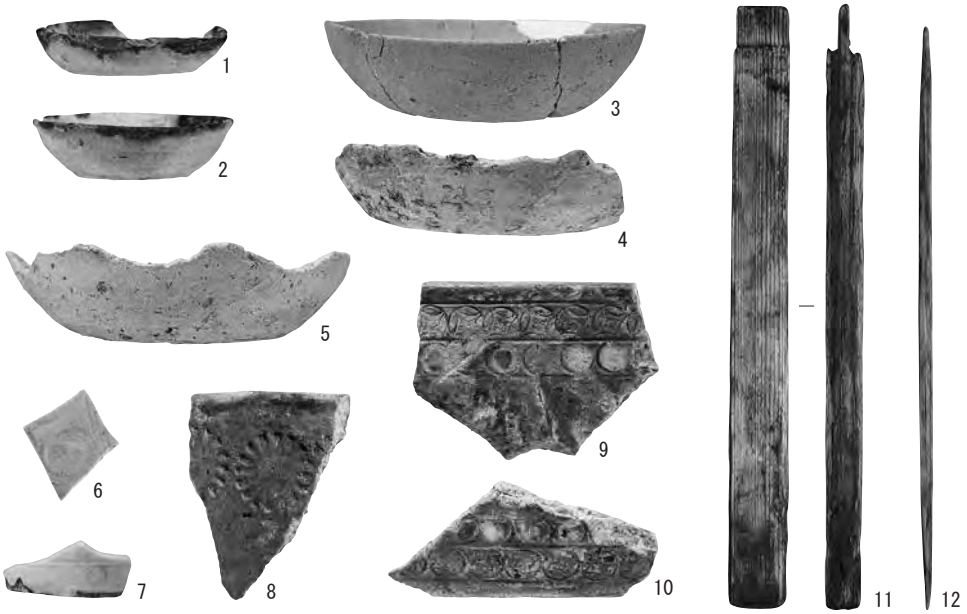
1．第２面 溝状遺構２出土遺物（２）

2．第２面 方形土坑１出土遺物

図版 18

1．第２面 方形土坑２出土遺物

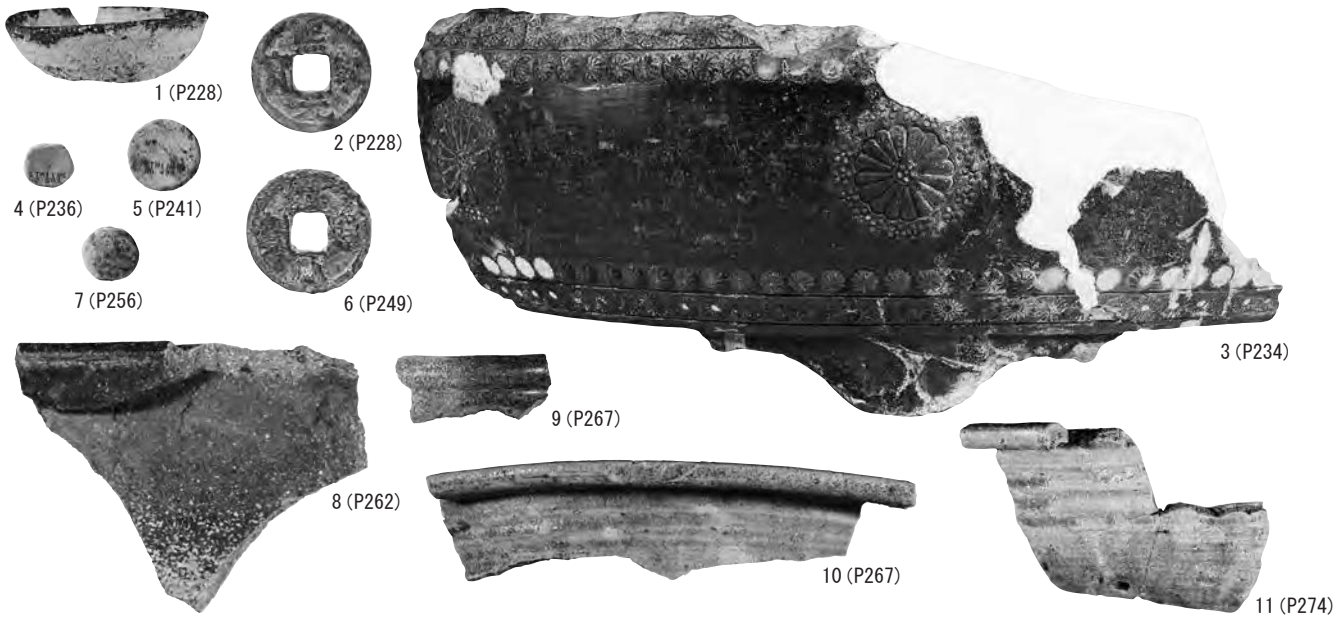
2．第２面 土坑23出土遺物



3．第２面 土坑25出土遺物

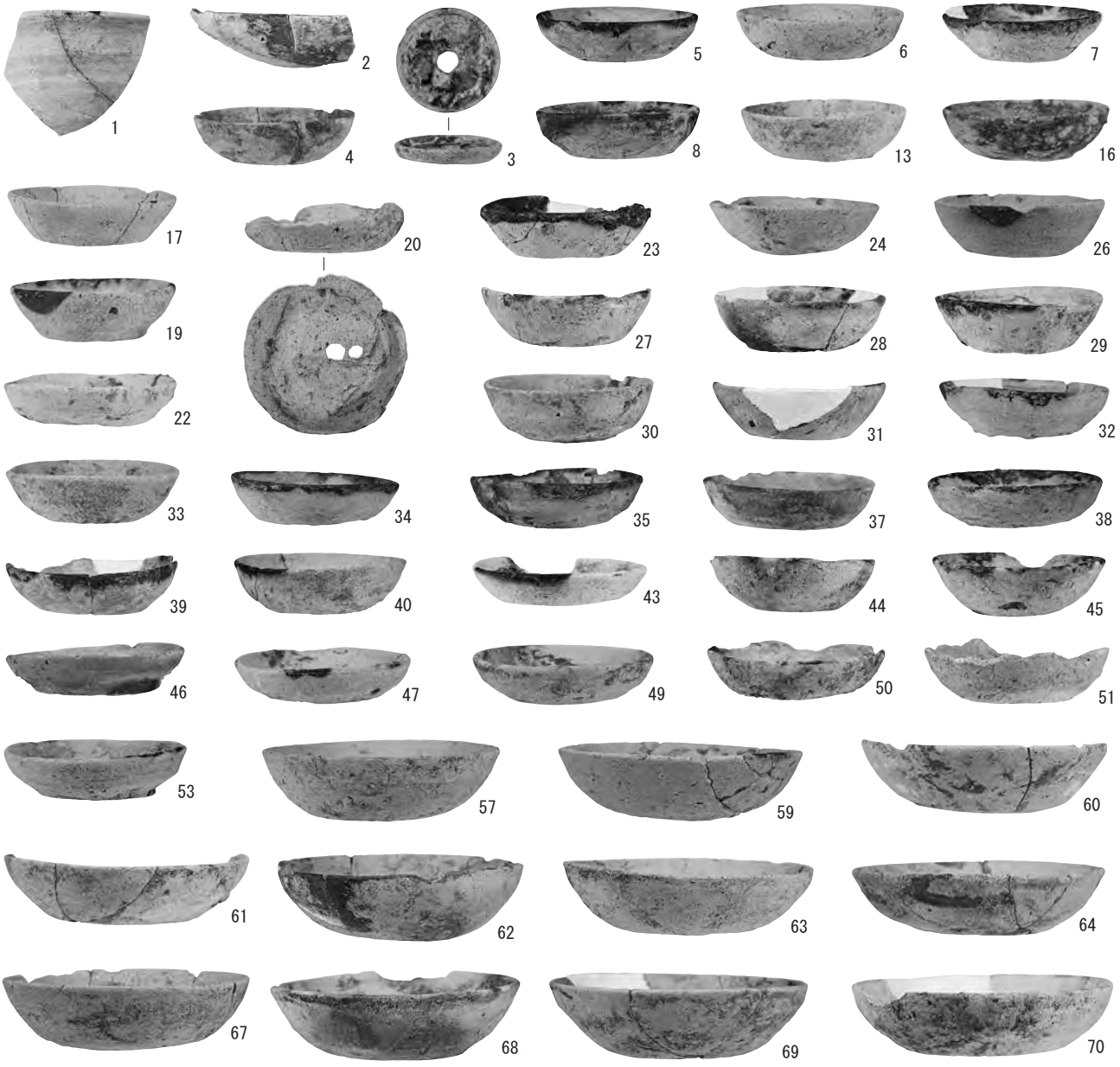
4．第２面 土坑37出土遺物

5．第２面 土坑38出土遺物



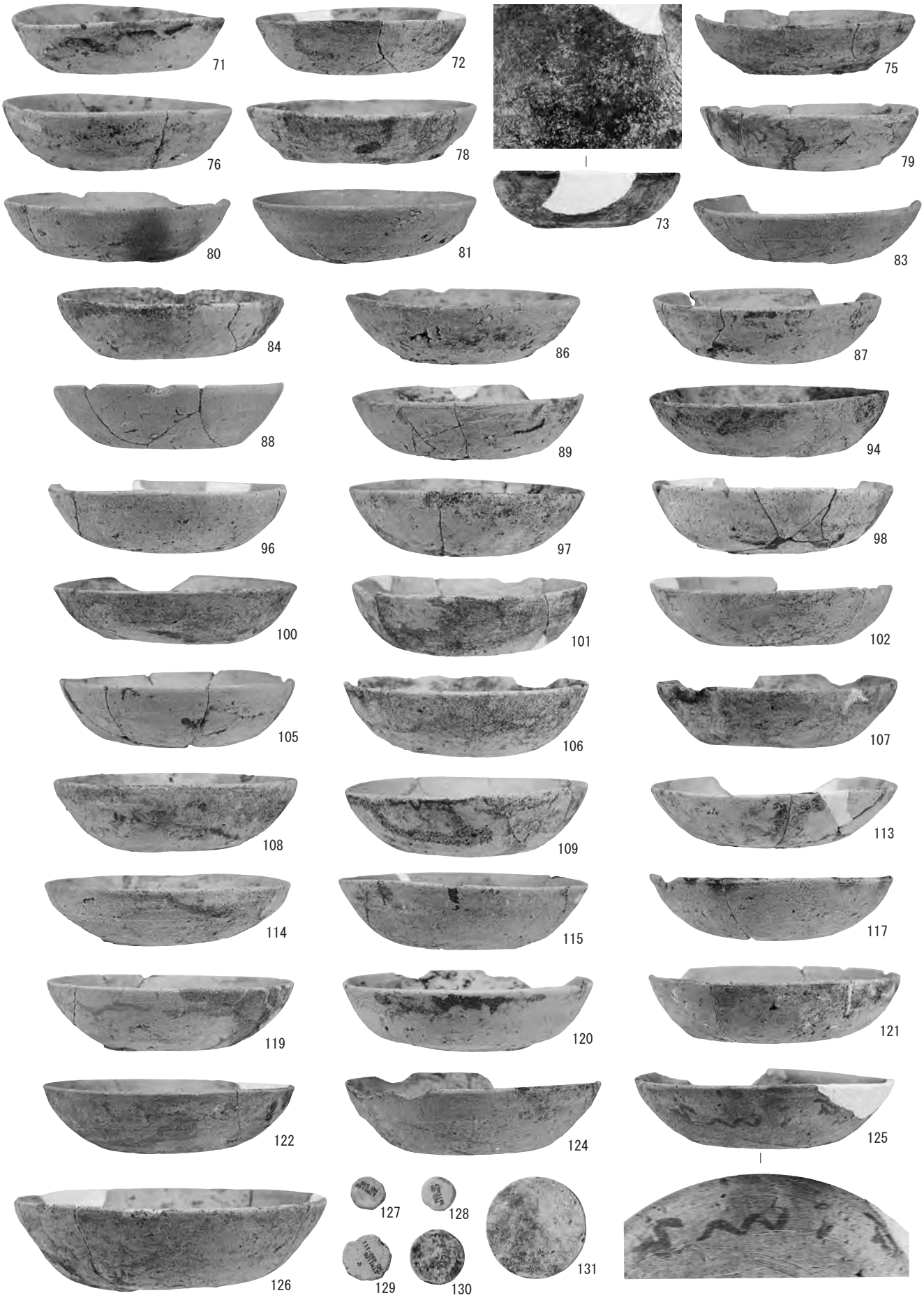
6．第２面 ピット出土遺物（１）

1．第２面 ピット出土遺物（２）

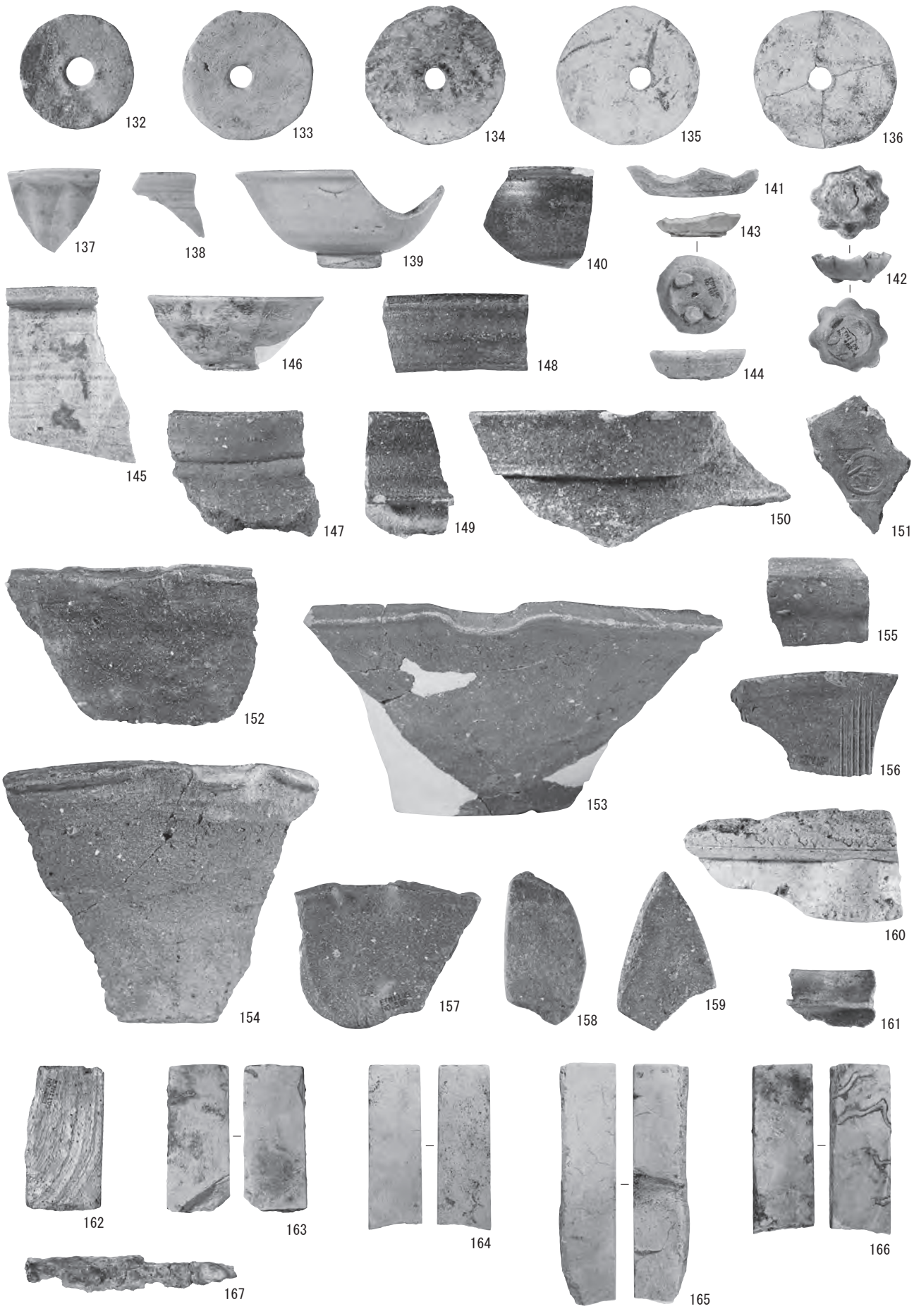


2．第２面 遺構外出土遺物（１）

図版 20

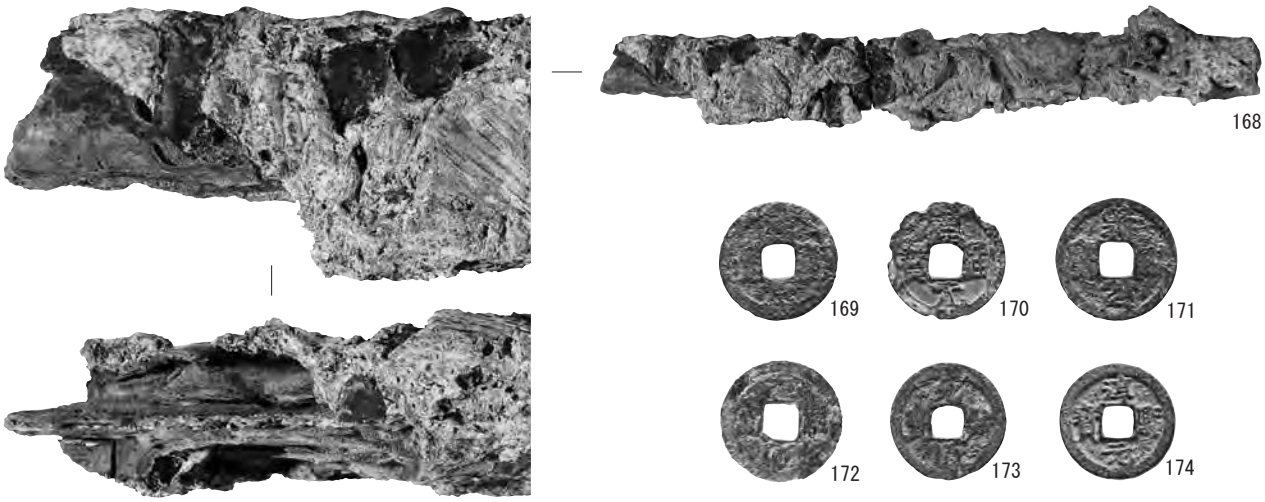


1．第２面 遺構外出土遺物（２）



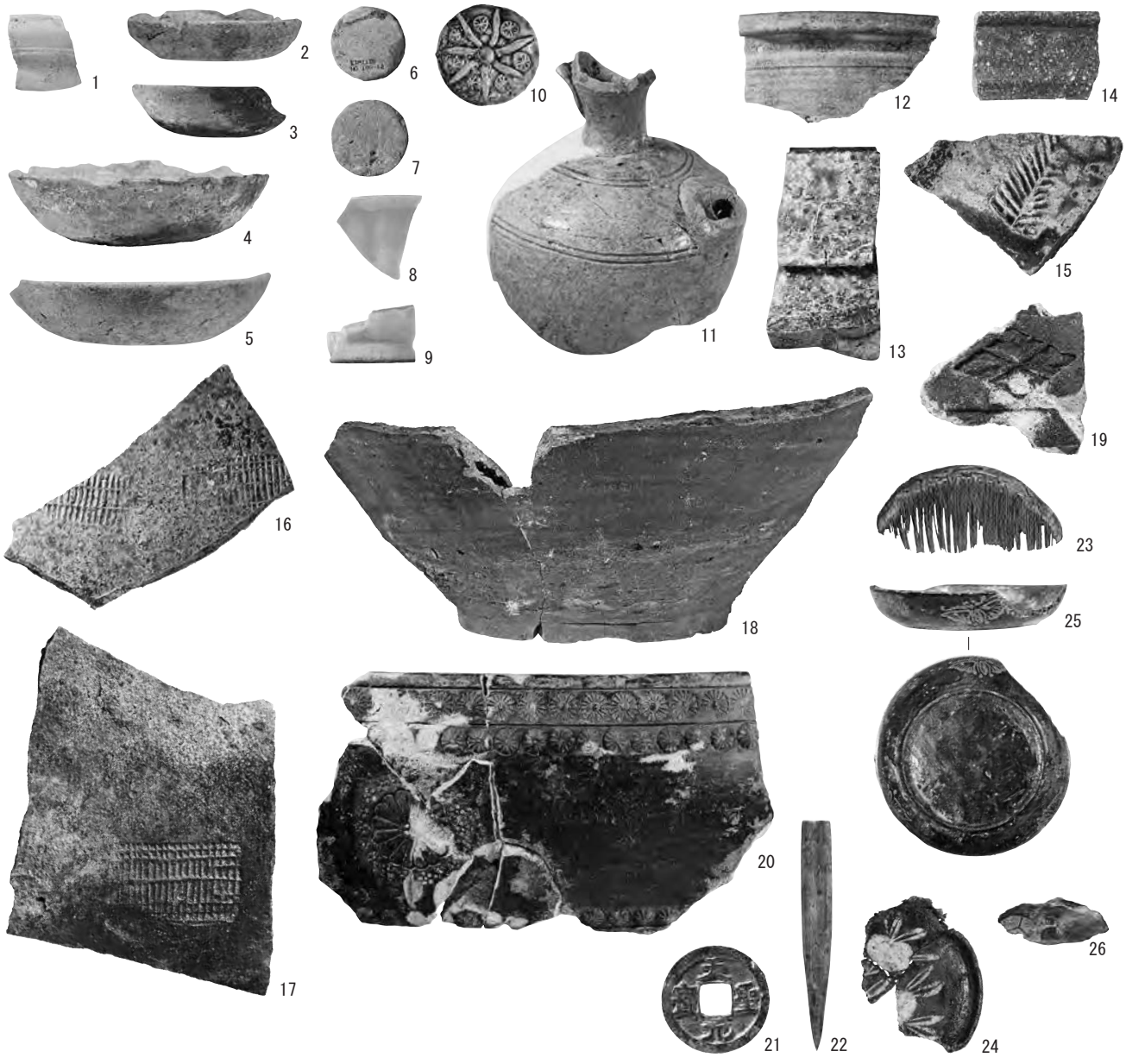
1．第２面 遺構外出土遺物（３）

図版 22

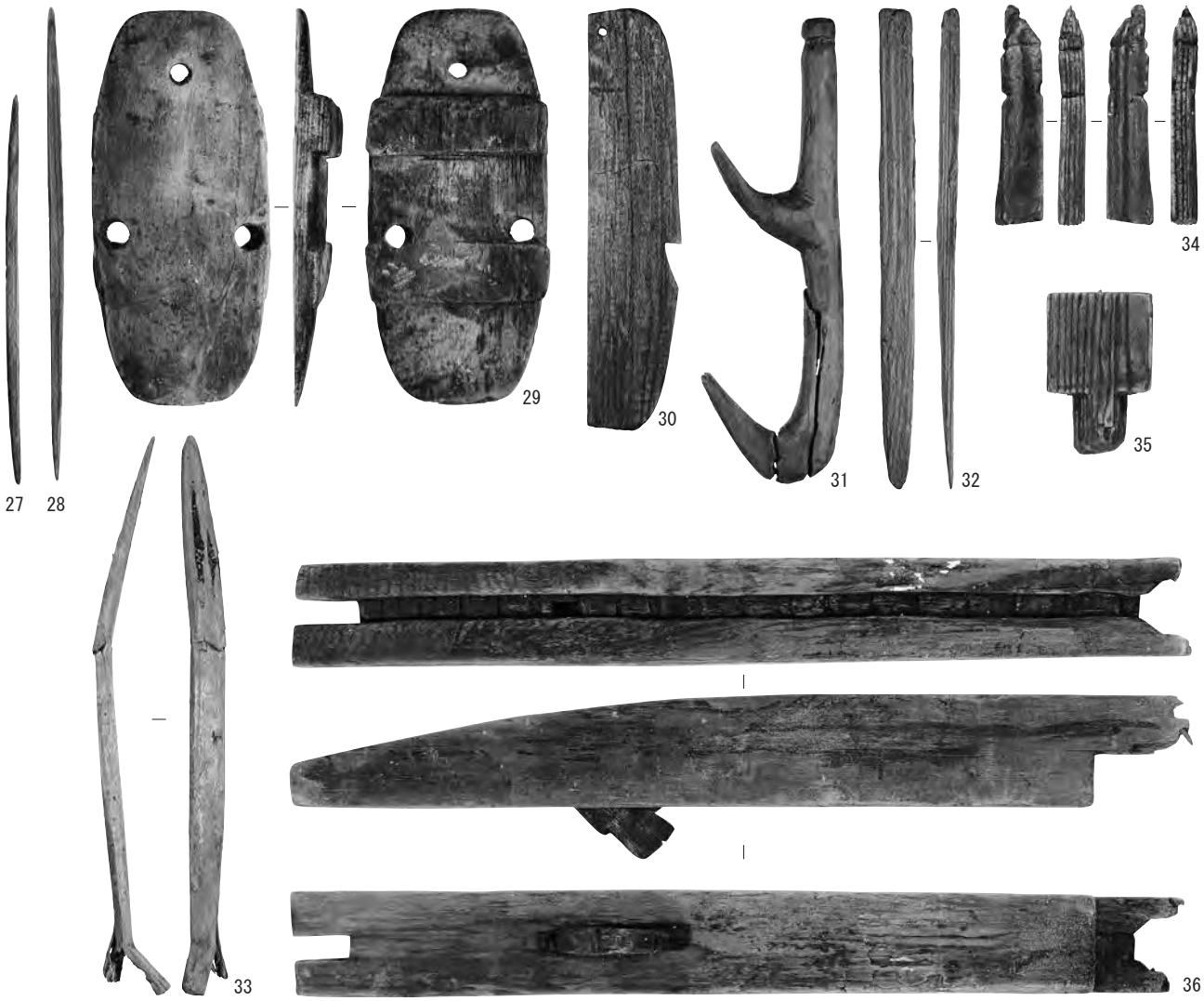


168 刀身遺存部（1/1）

1．第２面 遺構外出土遺物（４）

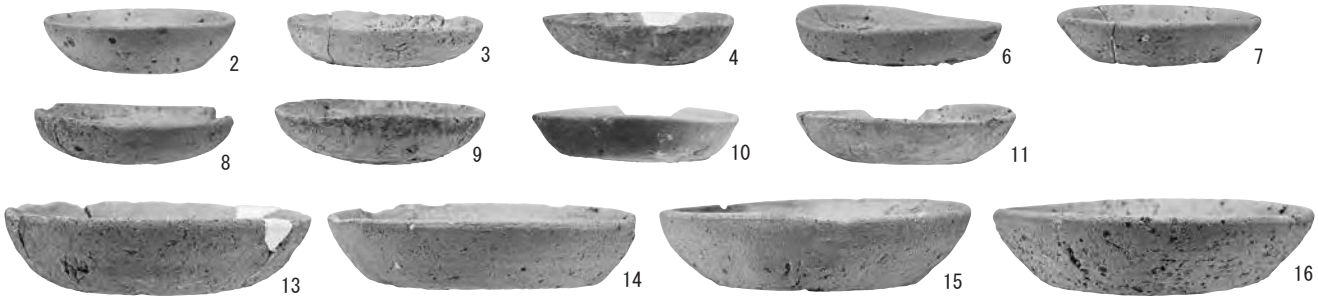


2．第２面 構成土出土遺物（１）



1．第２面 構成土出土遺物（２）

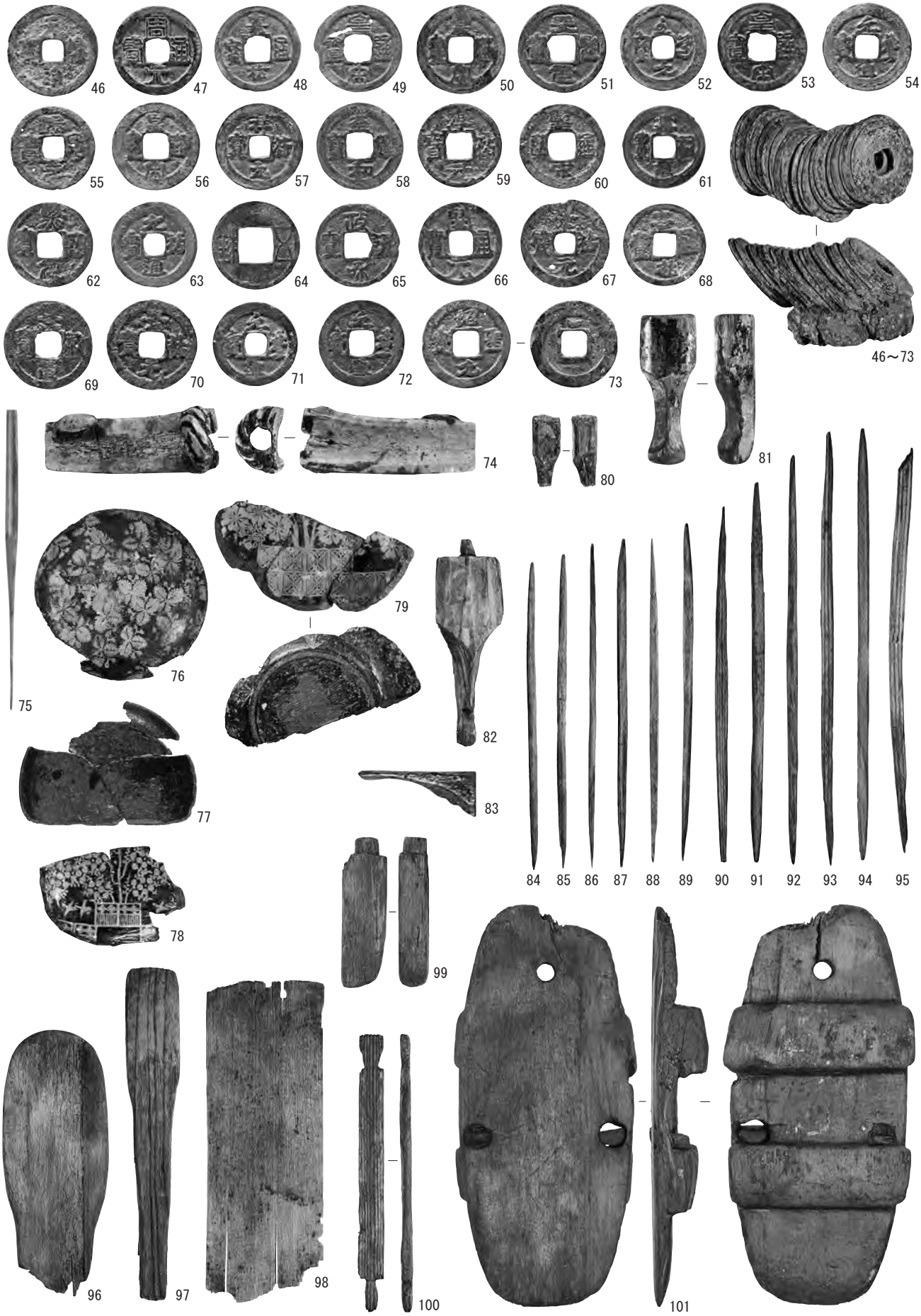
2．第３面 方形竪穴状遺構１出土遺物



3．第３面 溝状遺構３出土遺物（１）

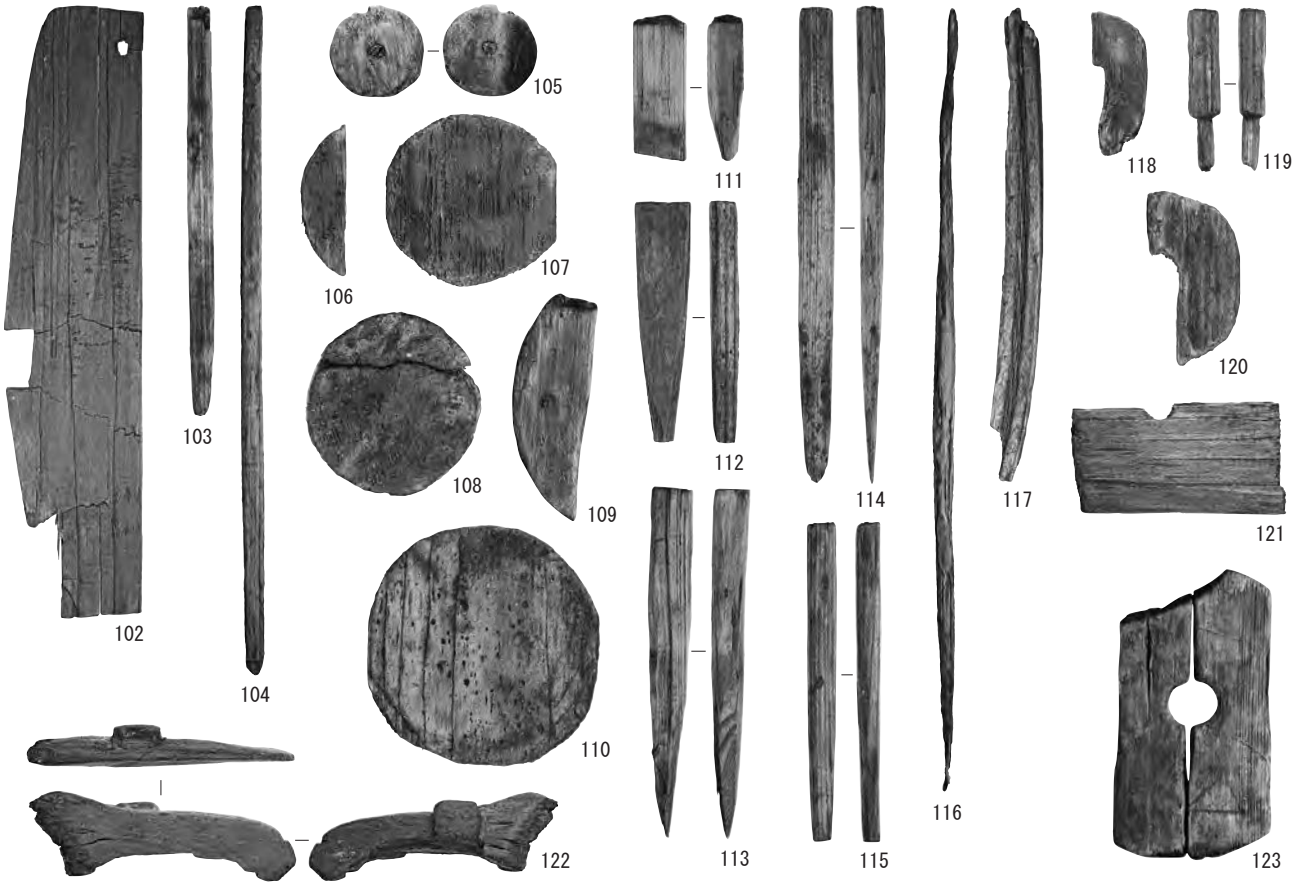
図版 24

1．第３面 溝状遺構３出土遺物（２）

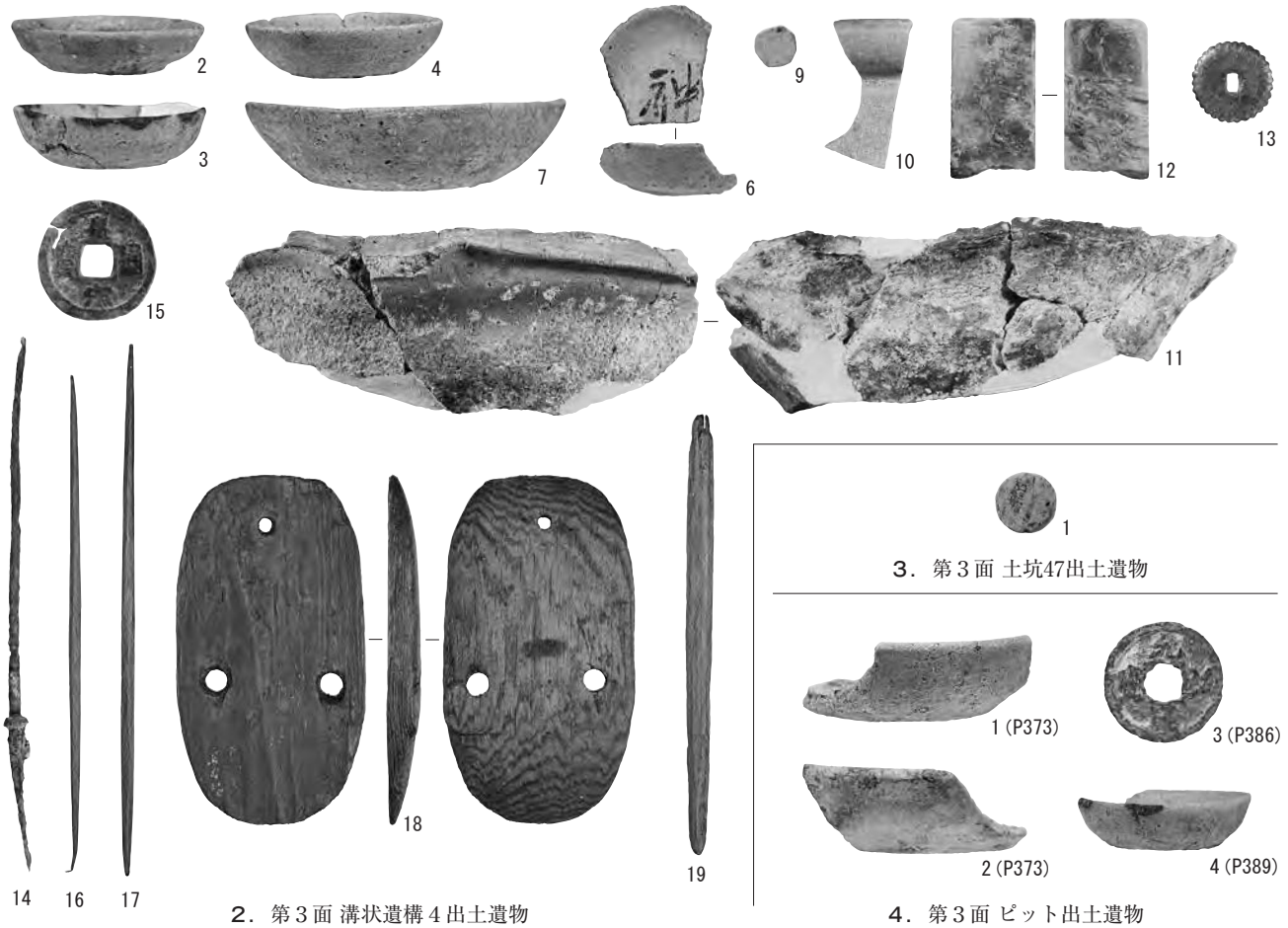


1．第３面 溝状遺構３出土遺物（３）

図版 26



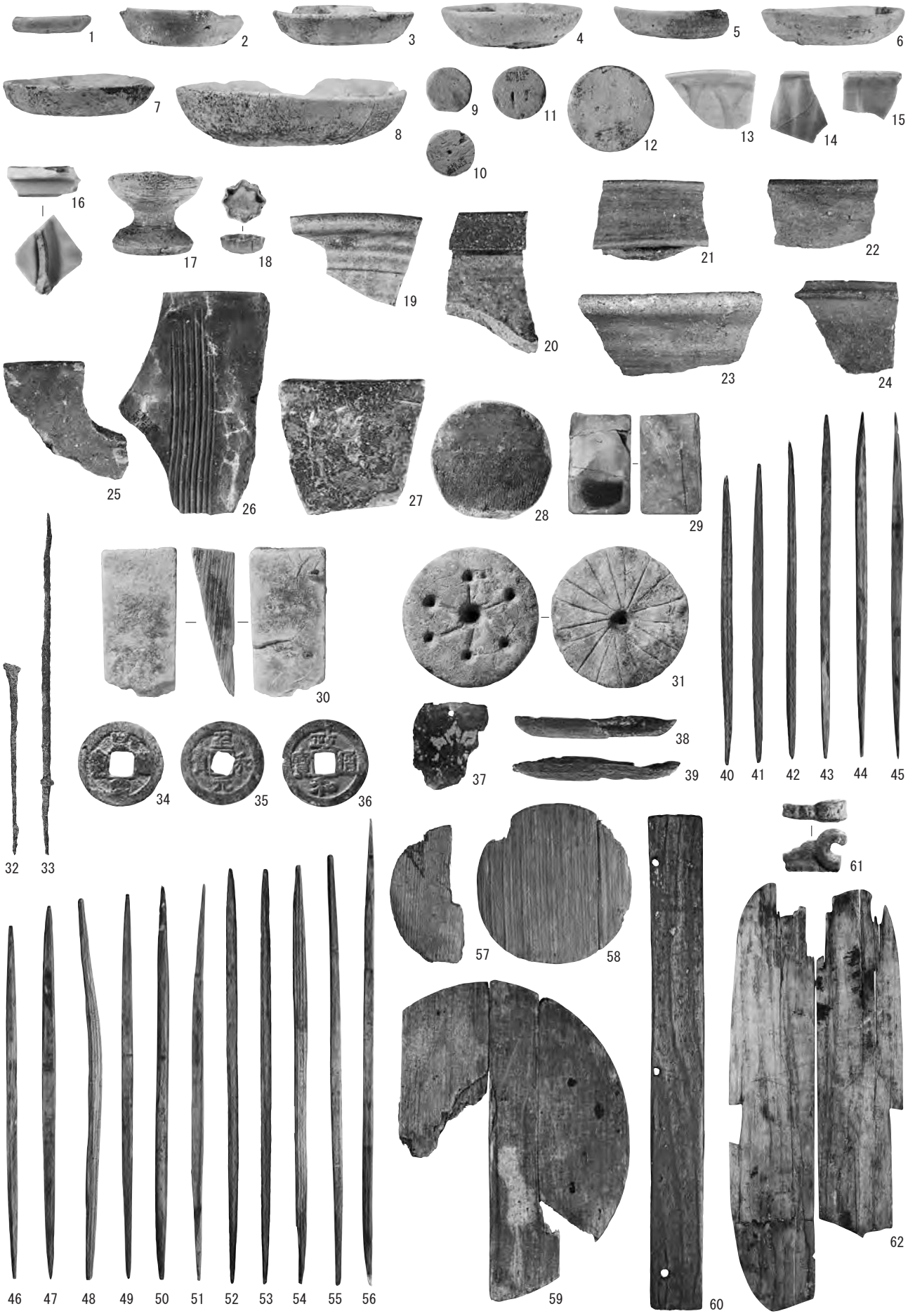
1．第３面 溝状遺構３出土遺物（４）



2．第３面 溝状遺構４出土遺物

3．第３面 土坑47出土遺物

4．第３面 ピット出土遺物

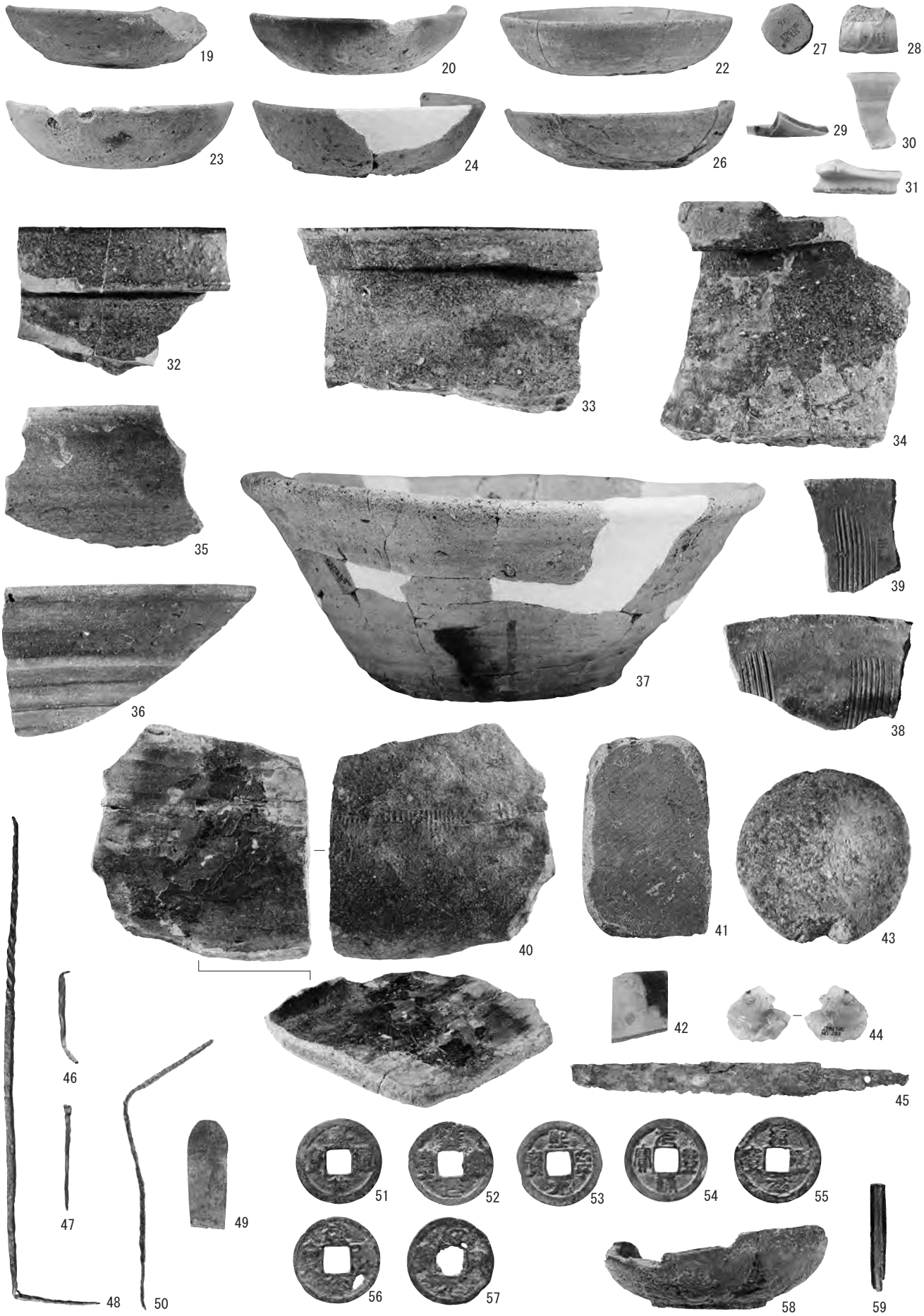


1． 第３面 遺構外出土遺物（１）

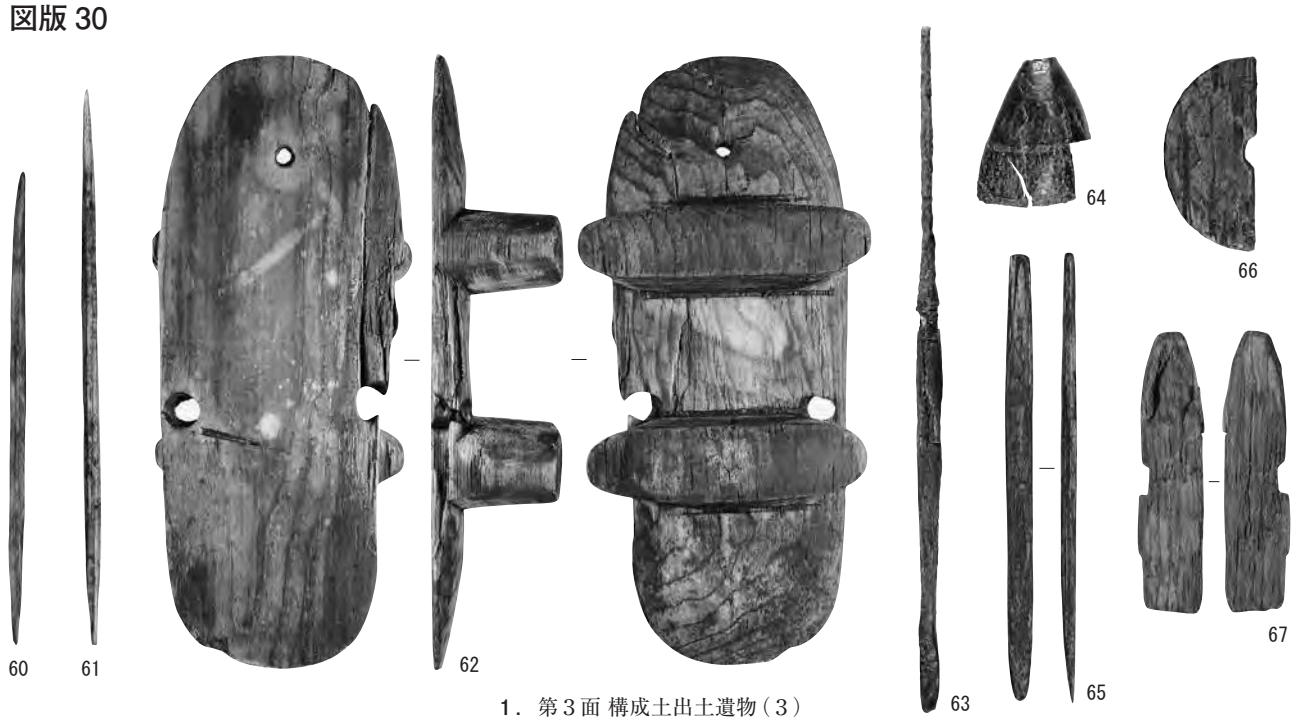
図版 28

1．第３面 遺構外出土遺物（２）

2．第３面 構成土出土遺物（１）

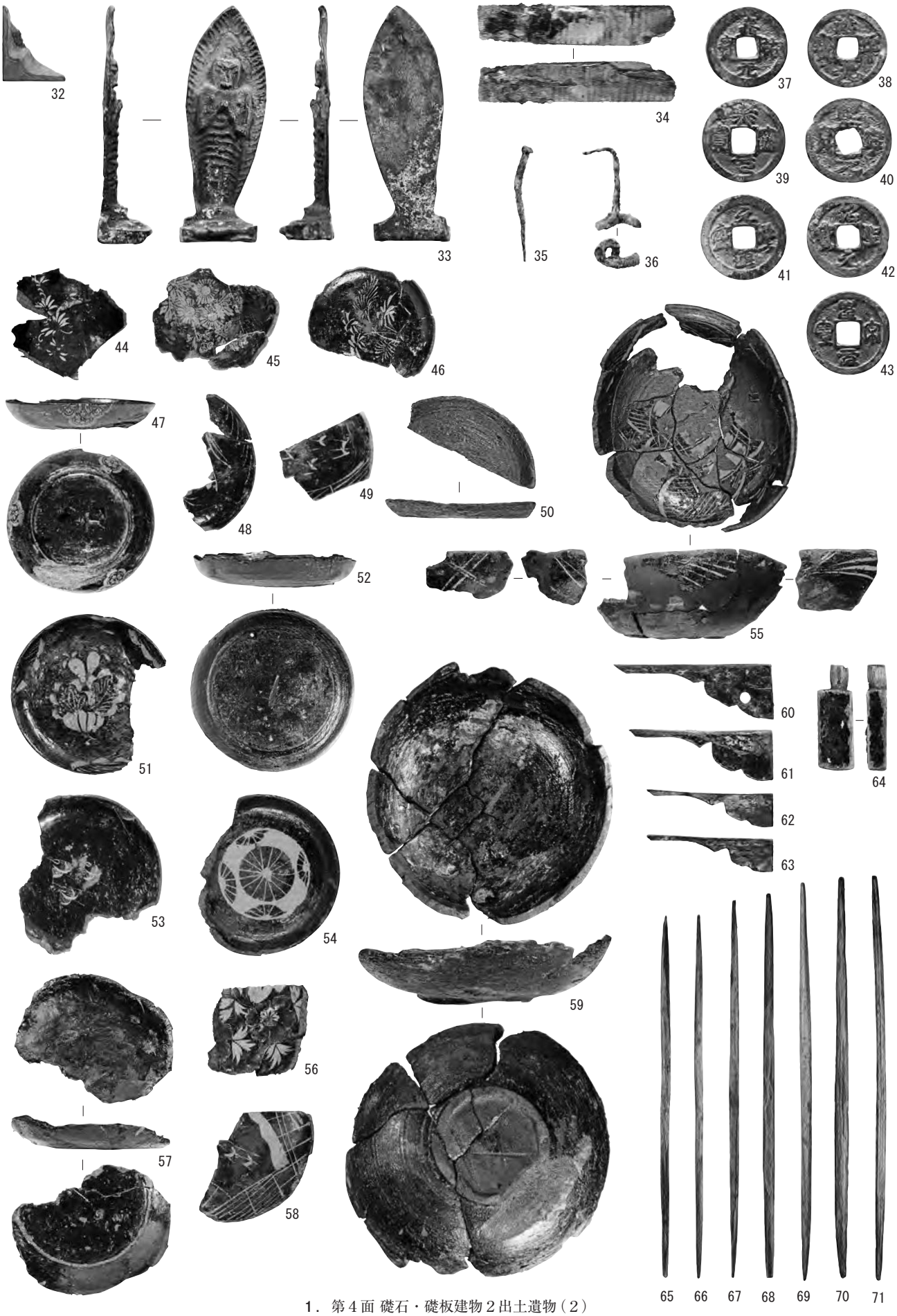


1．第３面 構成土出土遺物（２）



1．第３面 構成土出土遺物（３）

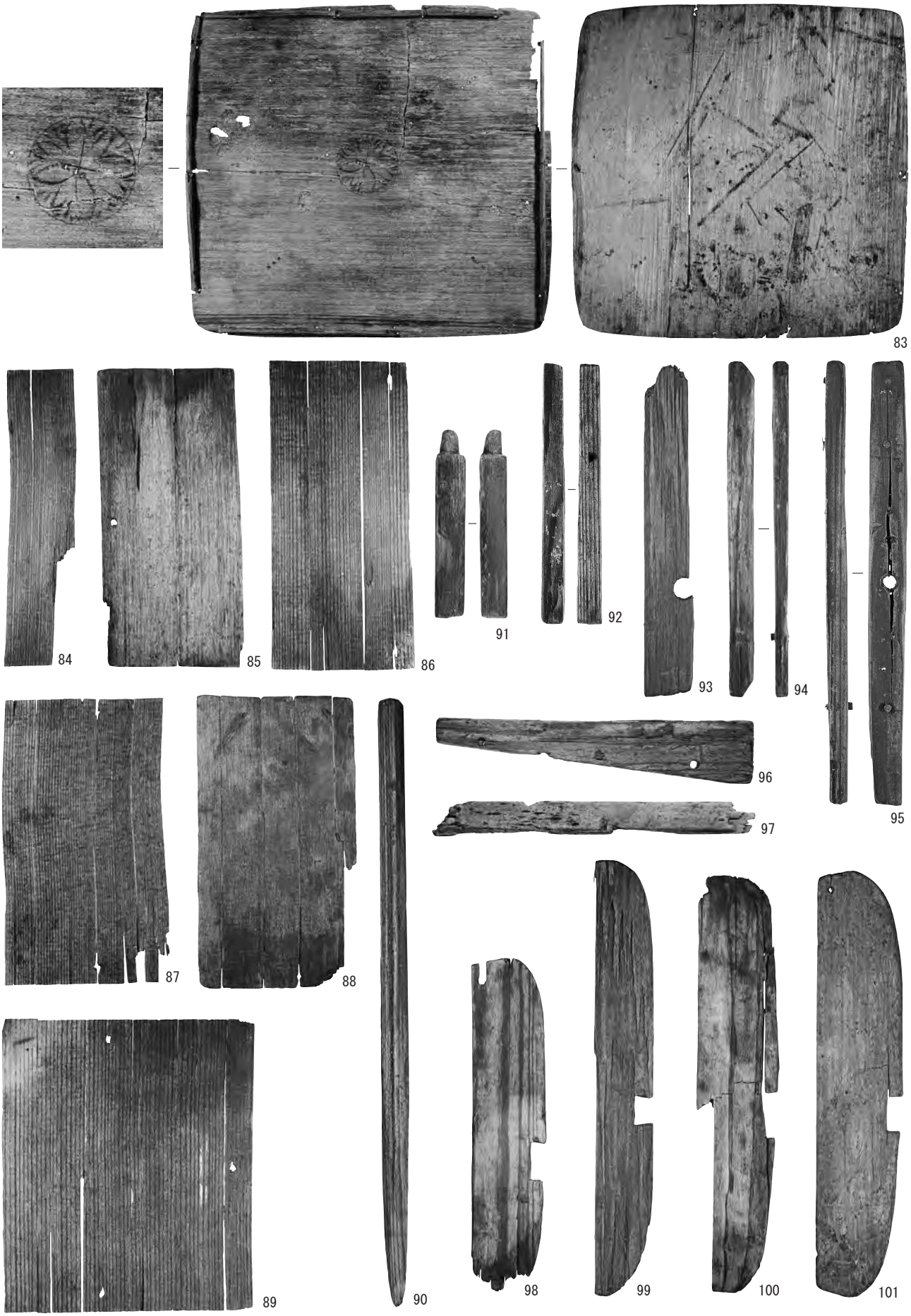
2．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（１）



1．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（２）

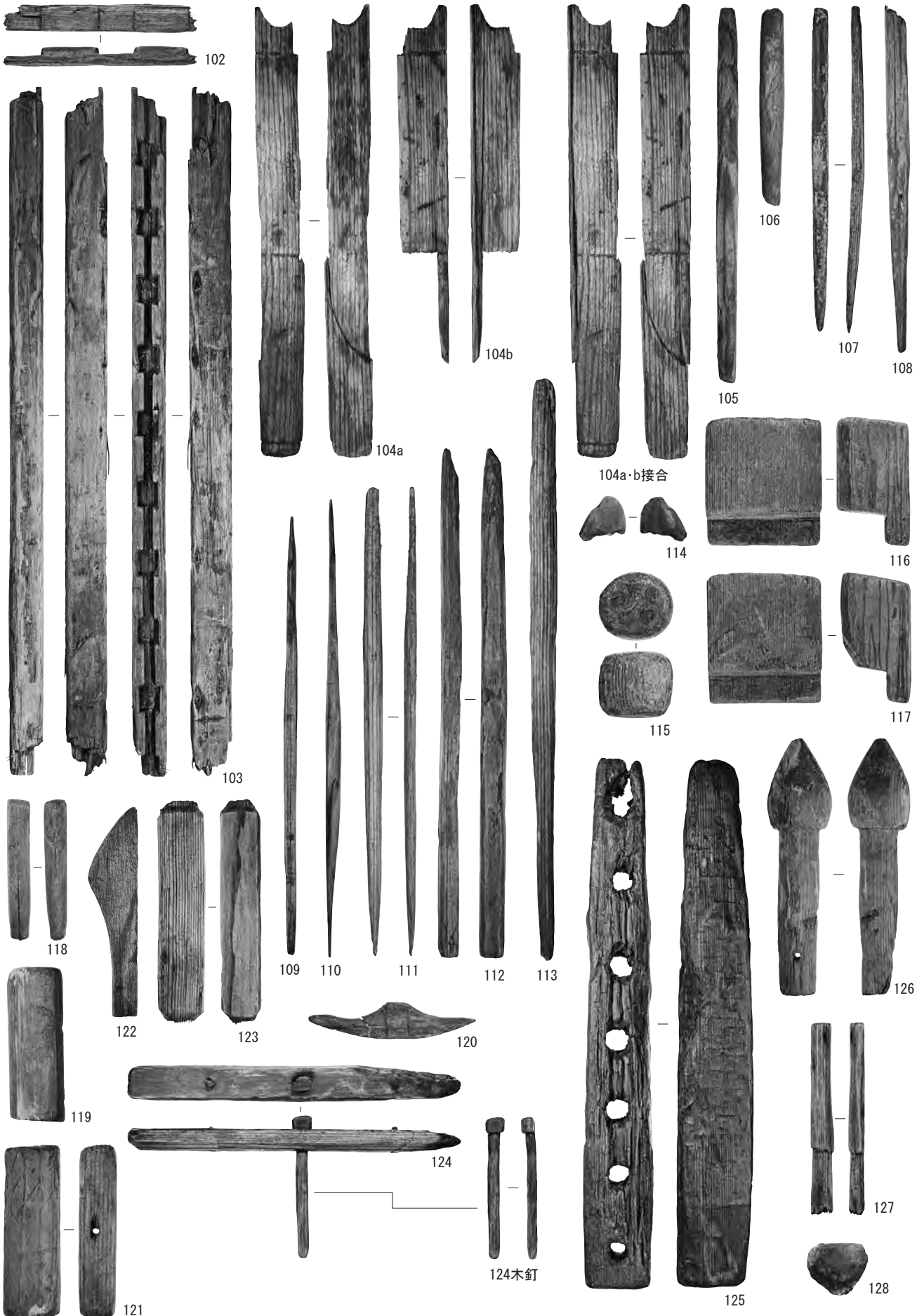
図版 32

1．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（３）



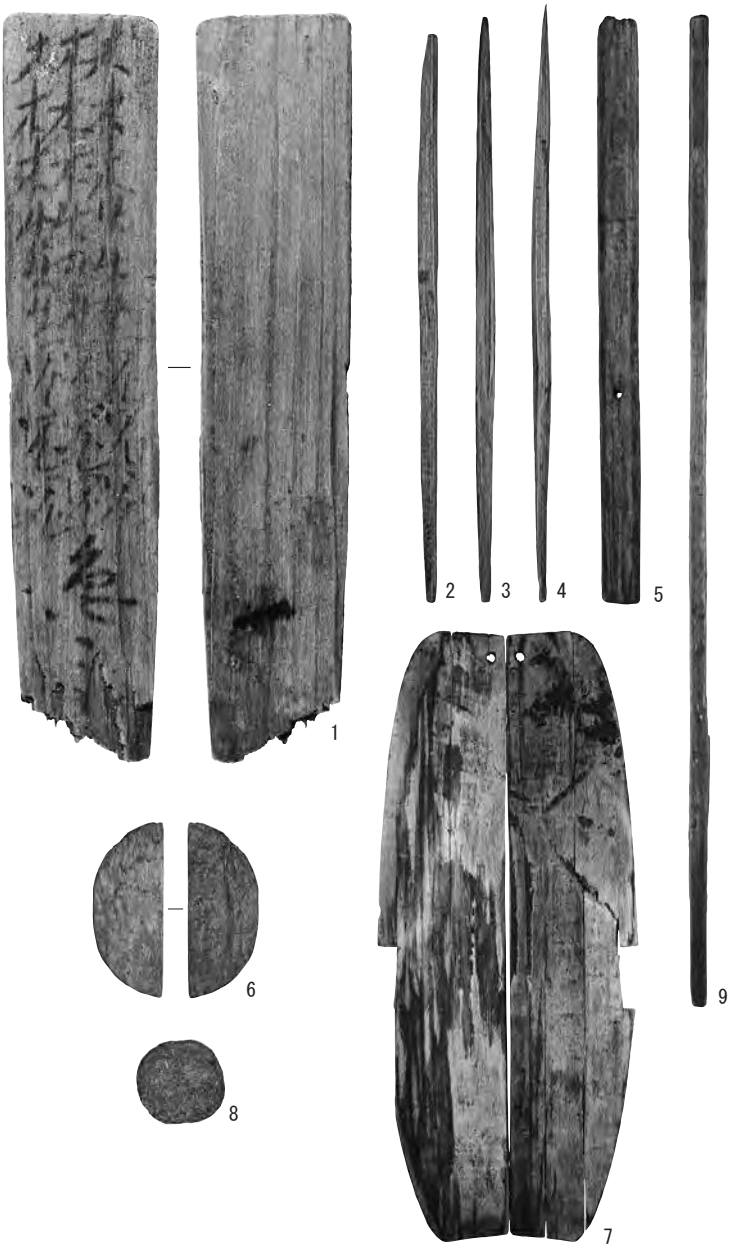
1．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（４）

図版 34

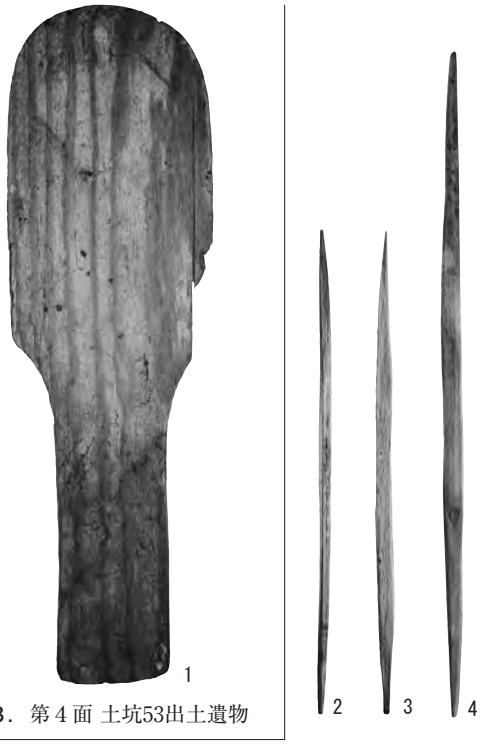


1．第４面 礎石・礎板建物２出土遺物（５）

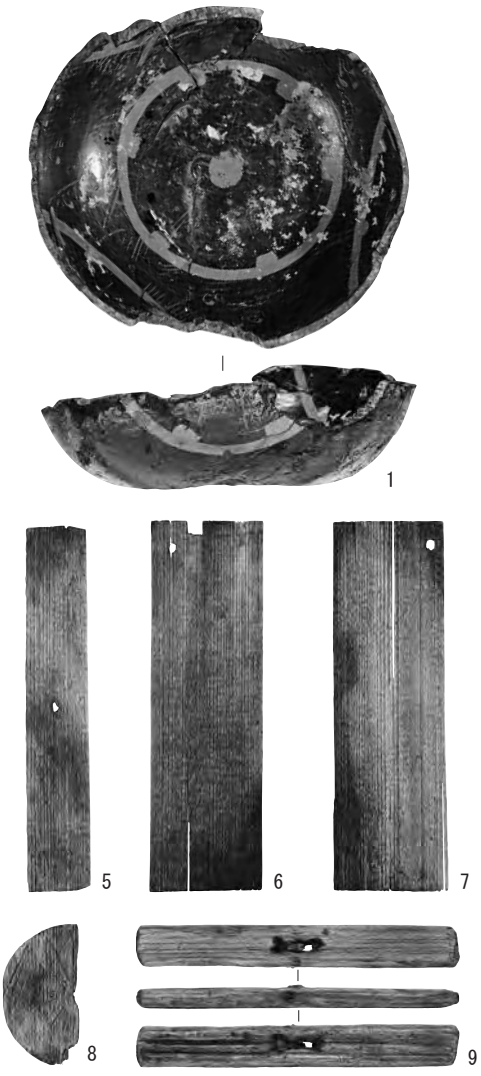
1．第４面 井戸１出土遺物



2．第４面 土坑50出土遺物



3．第４面 土坑53出土遺物

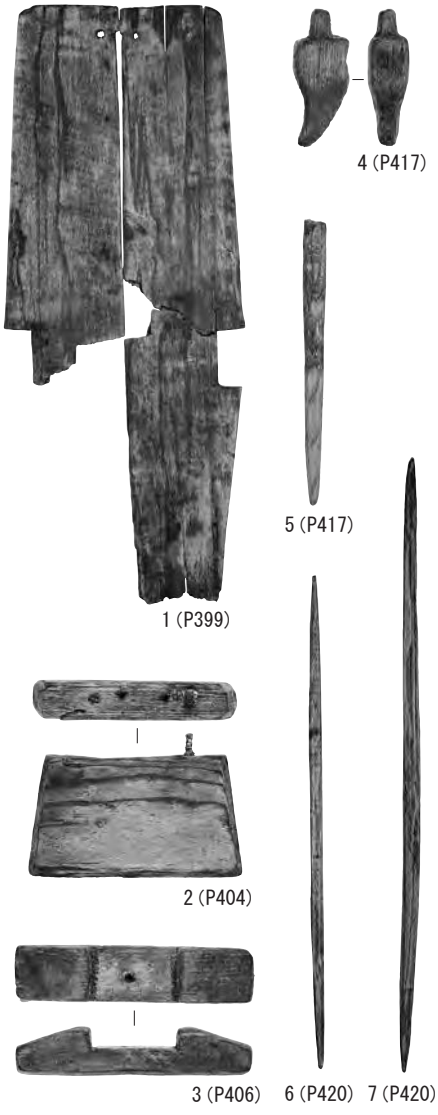


4．第４面 土坑54出土遺物（１）

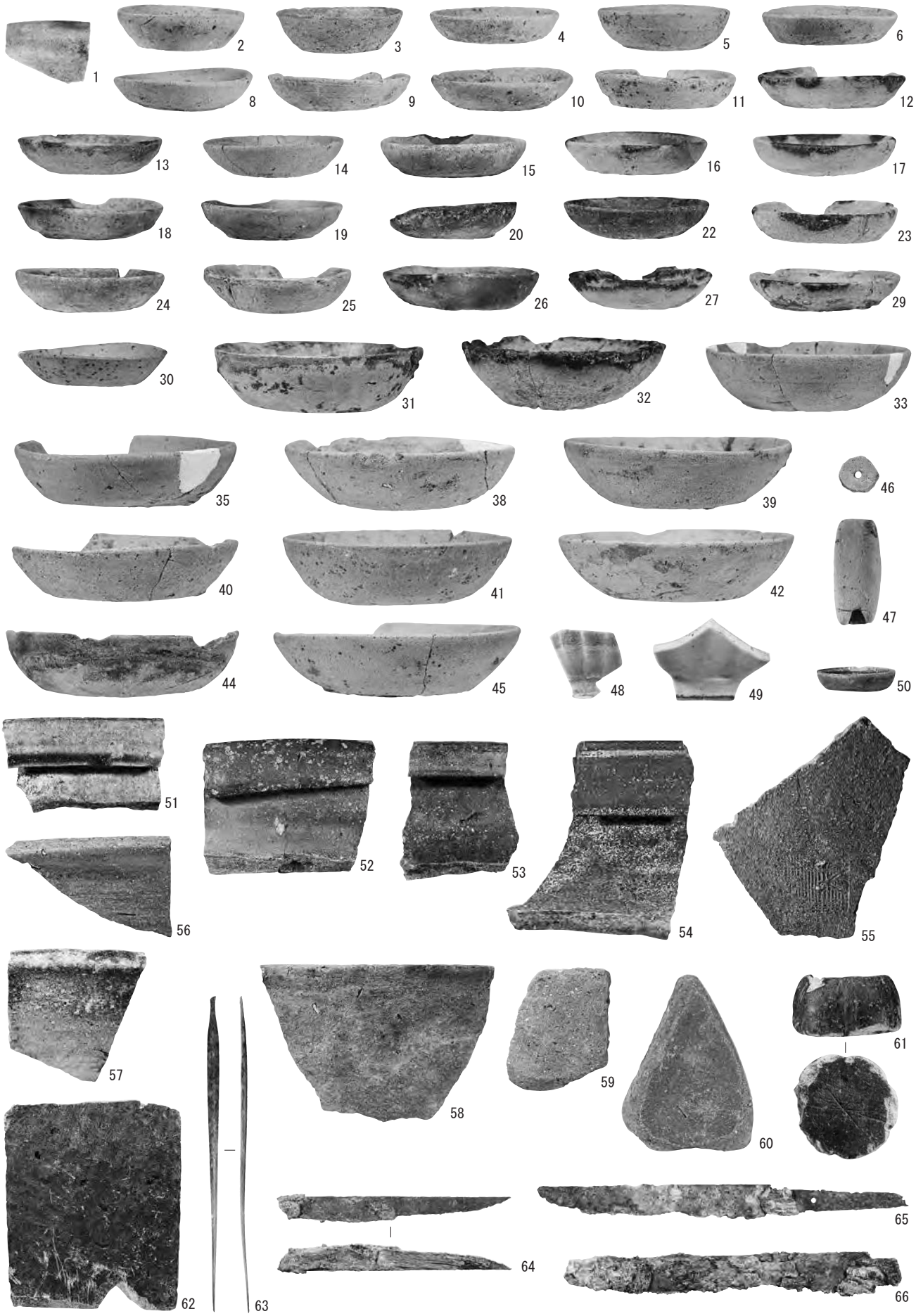
図版 36

1．第４面 土坑54出土遺物（２）

2．第４面 土坑55出土遺物

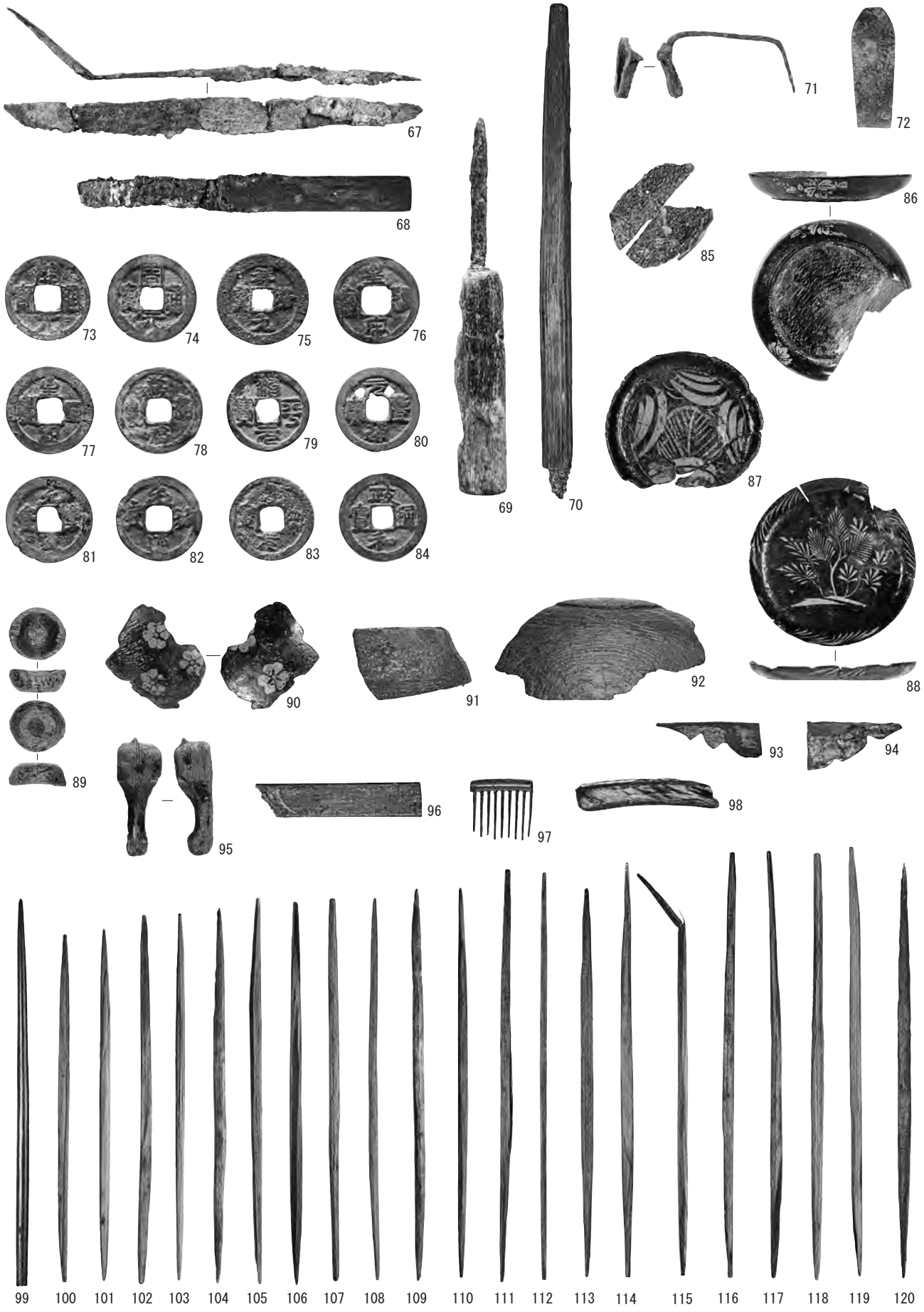


3．第４面 ピット出土遺物

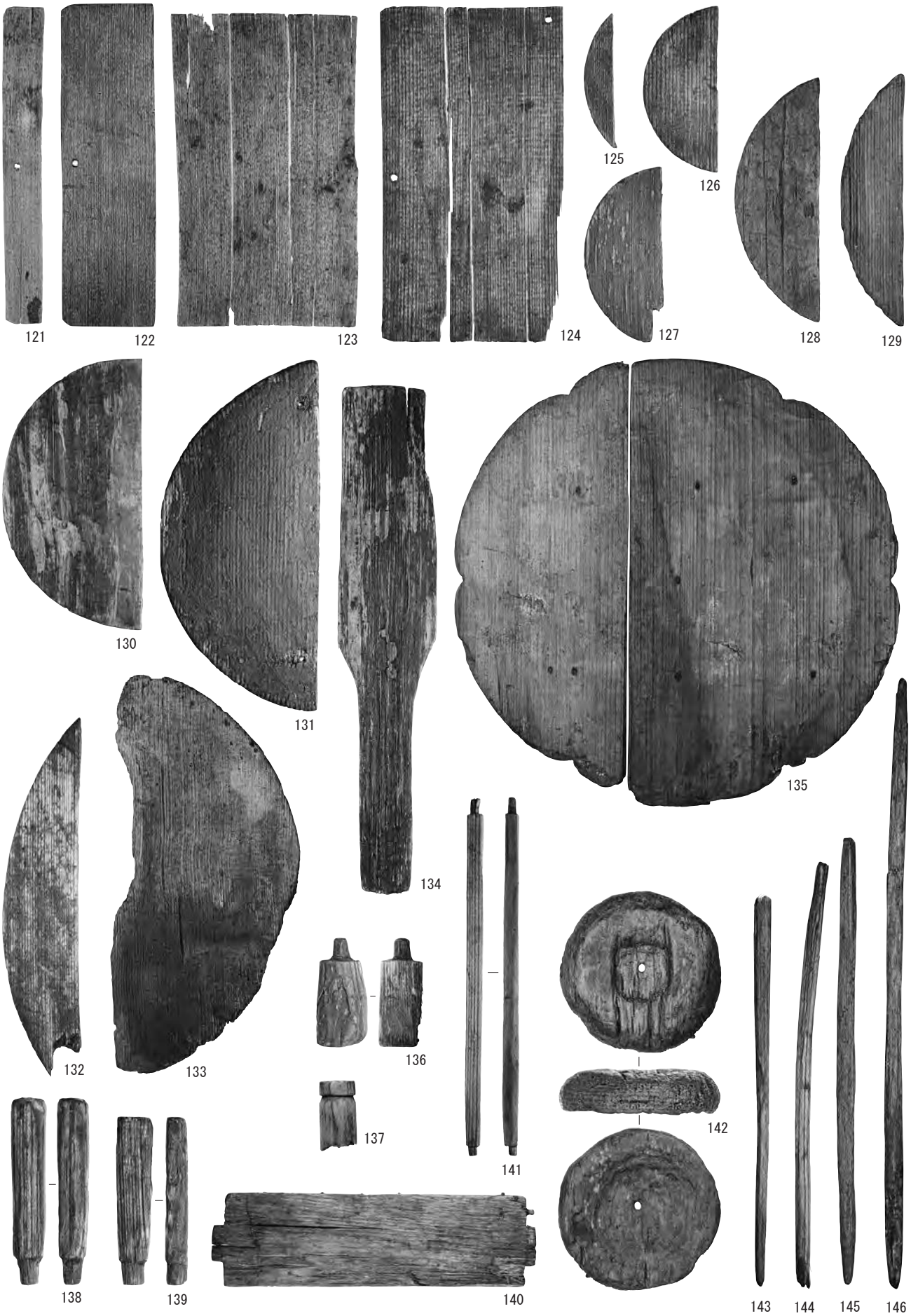


1．第 4 面 遺構外出土遺物（1）

図版 38

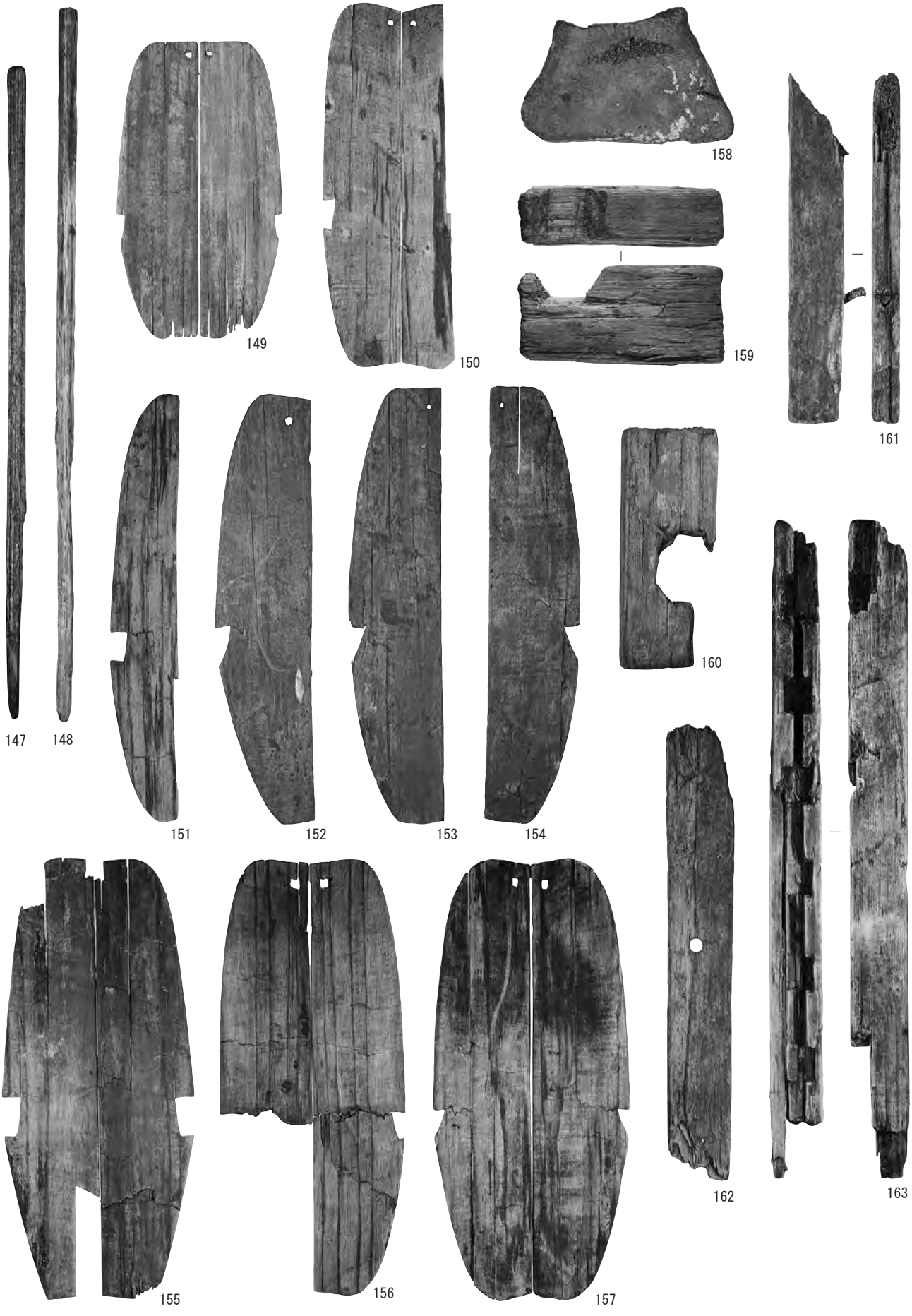


1．第 4 面 遺構外出土遺物（2）

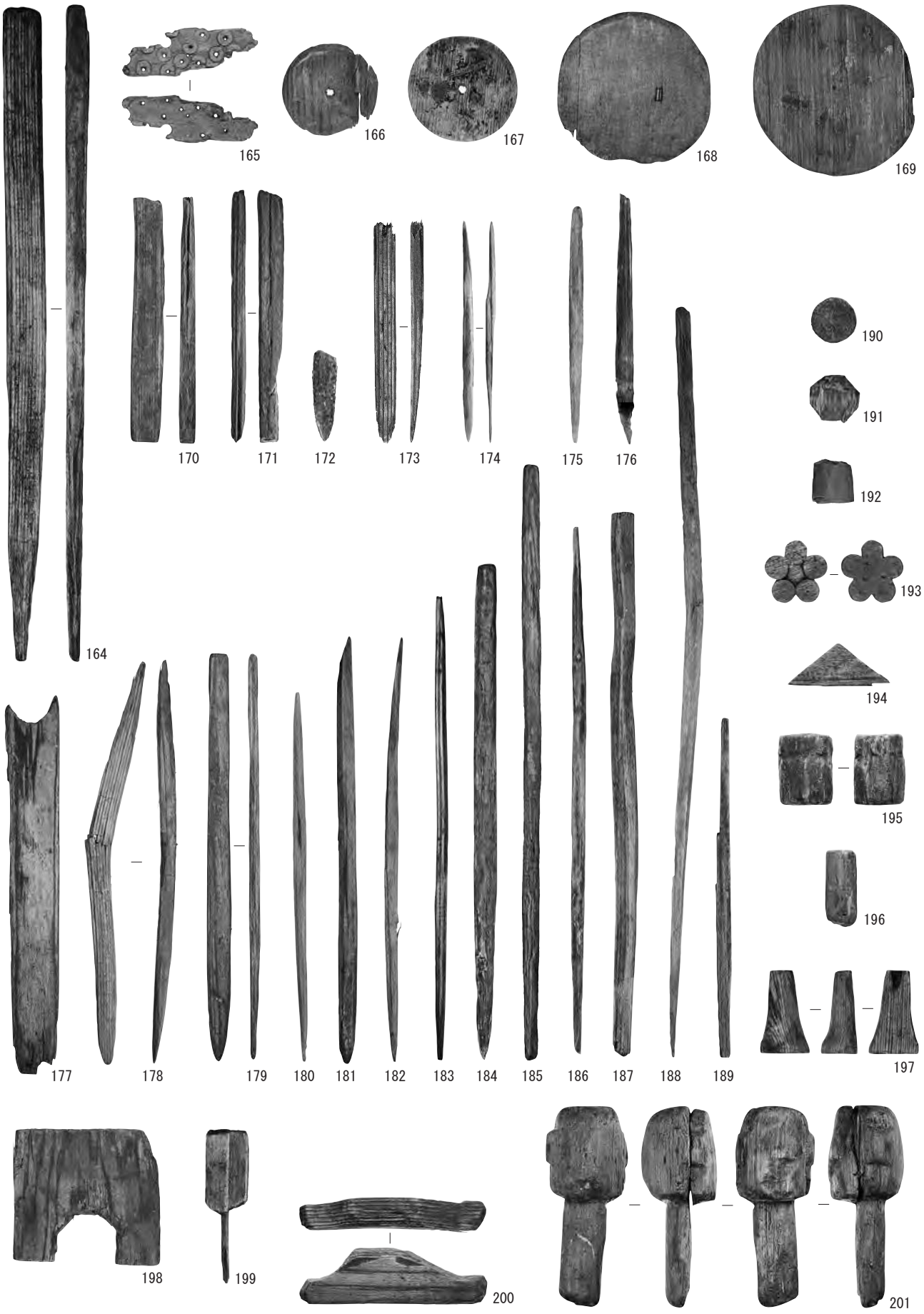


1．第４面 遺構外出土遺物（３）

図版 40

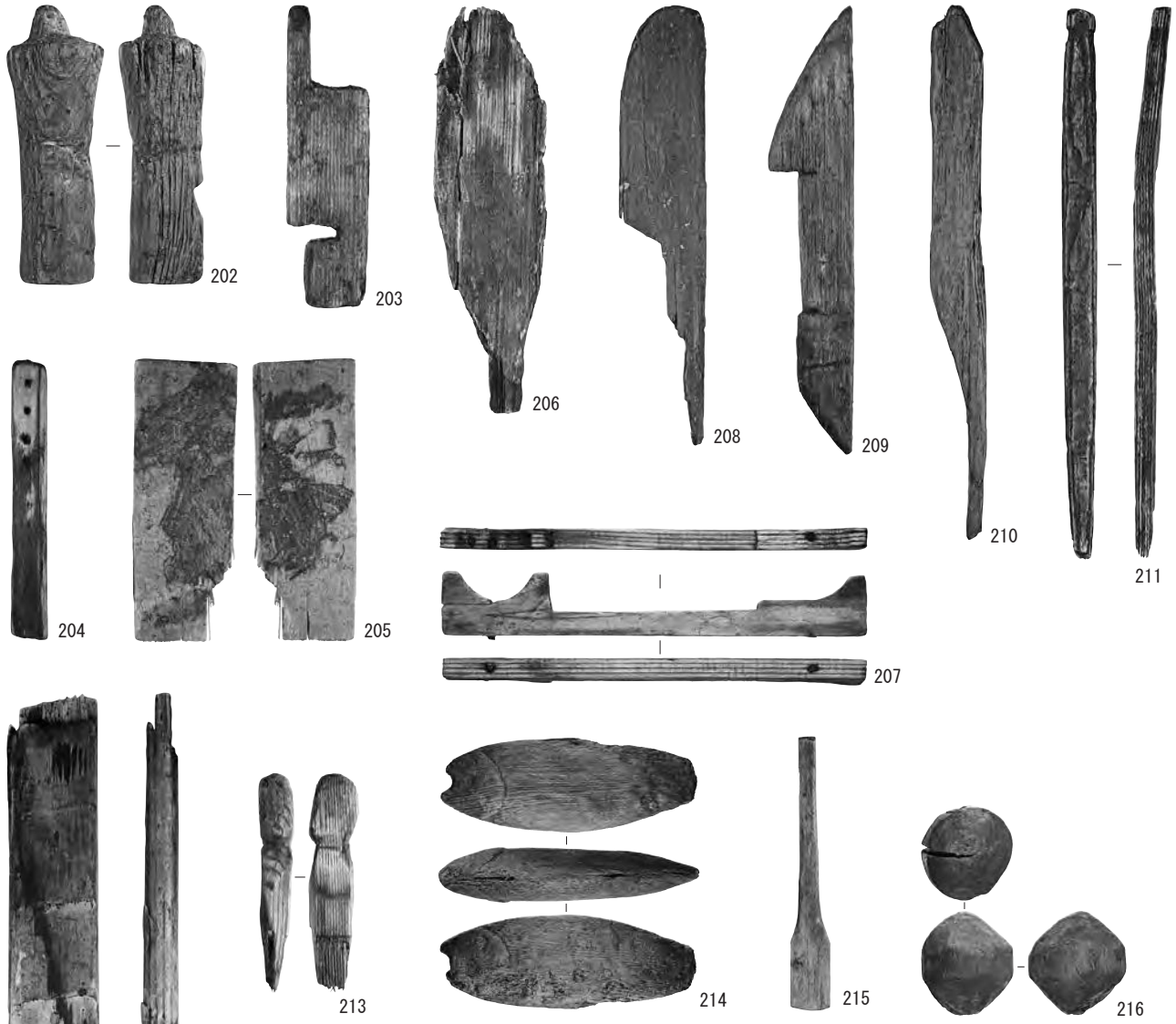


1．第 4 面 遺構外出土遺物（4）

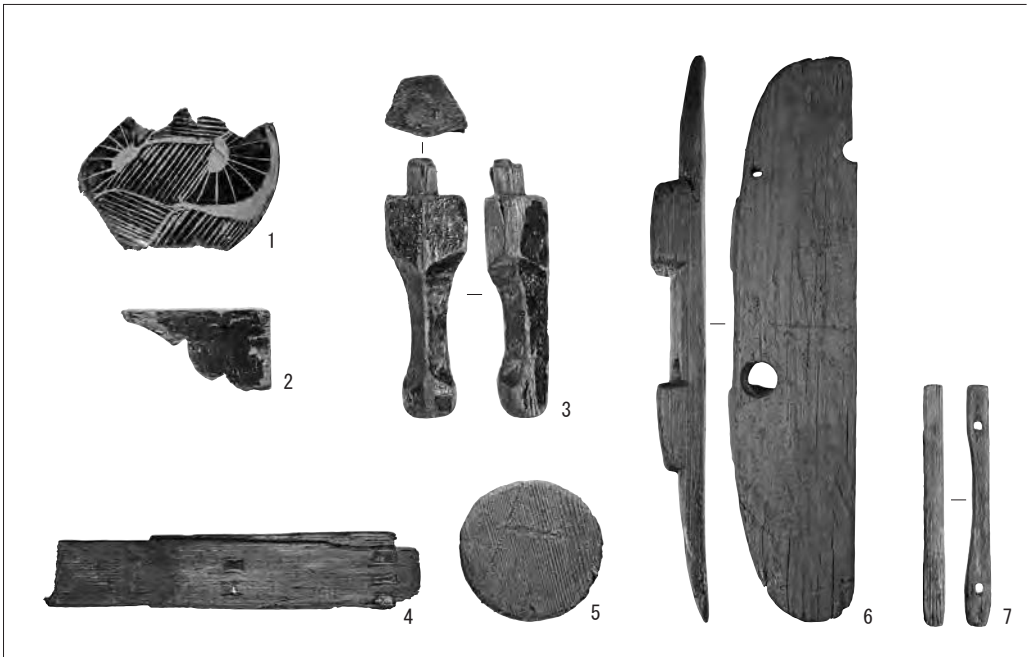


1．第４面 遺構外出土遺物（５）

図版 42

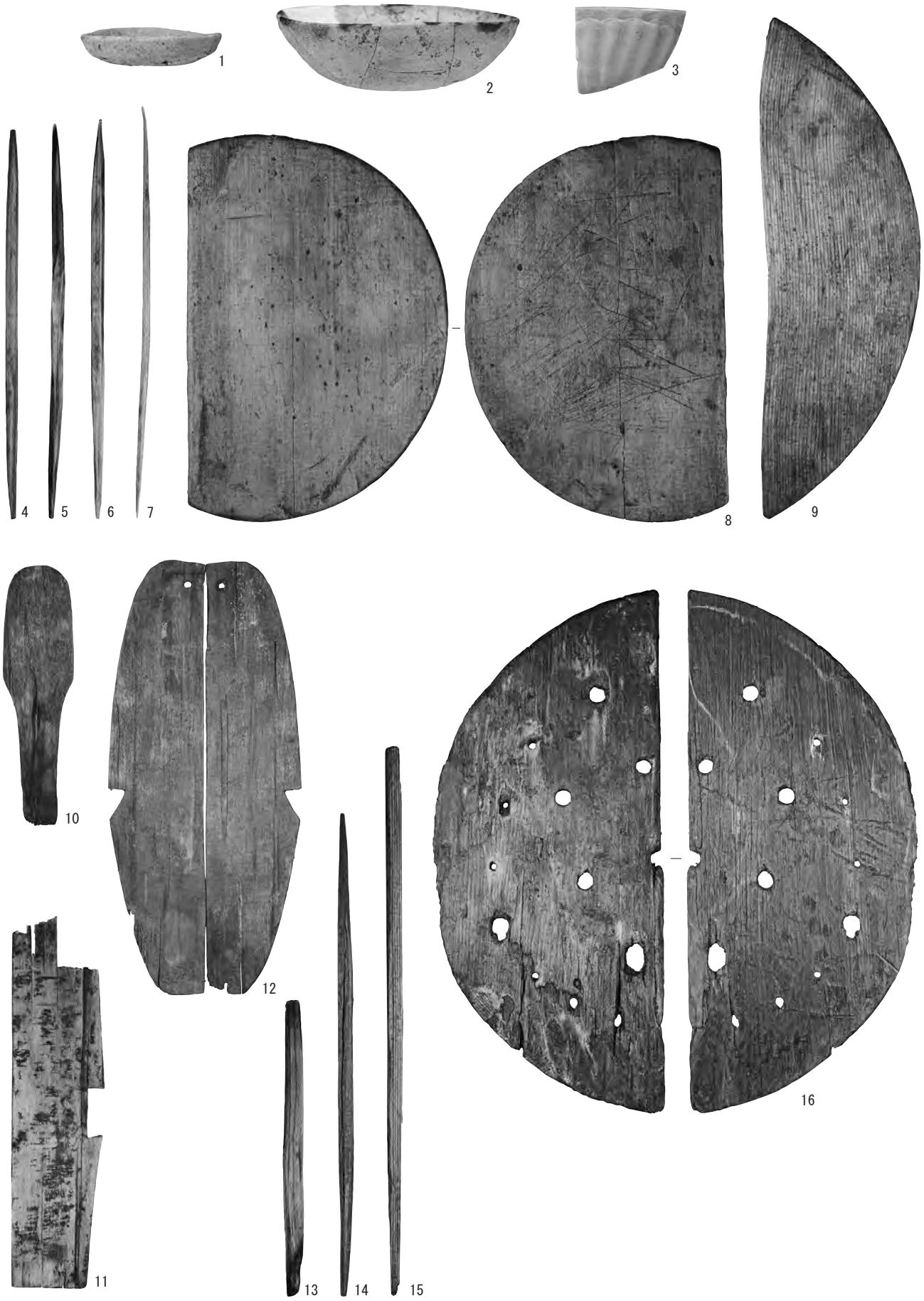


1．第 4 面 遺構外出土遺物（6）

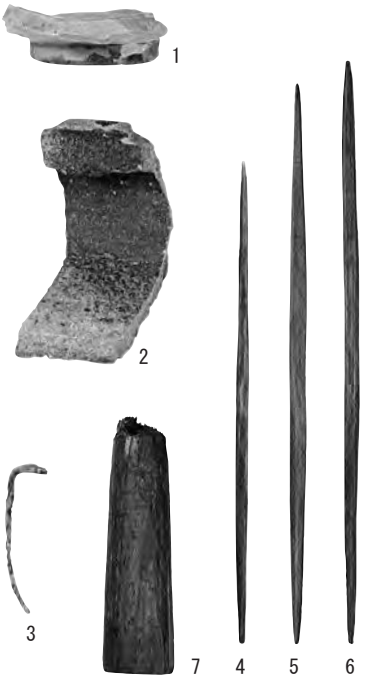


2．第 4 面 構成土出土遺物

1．第５面 礎石・礎板建物３出土遺物



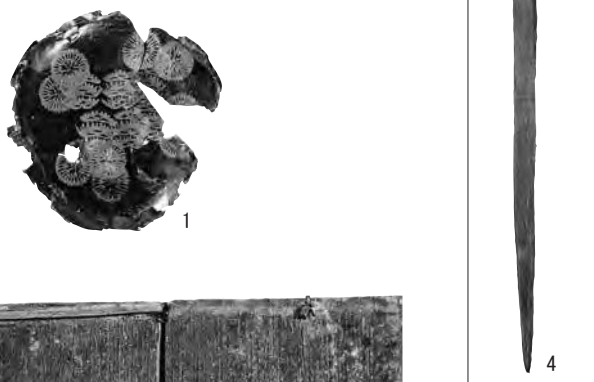
1．第５面 板壁建物１出土遺物

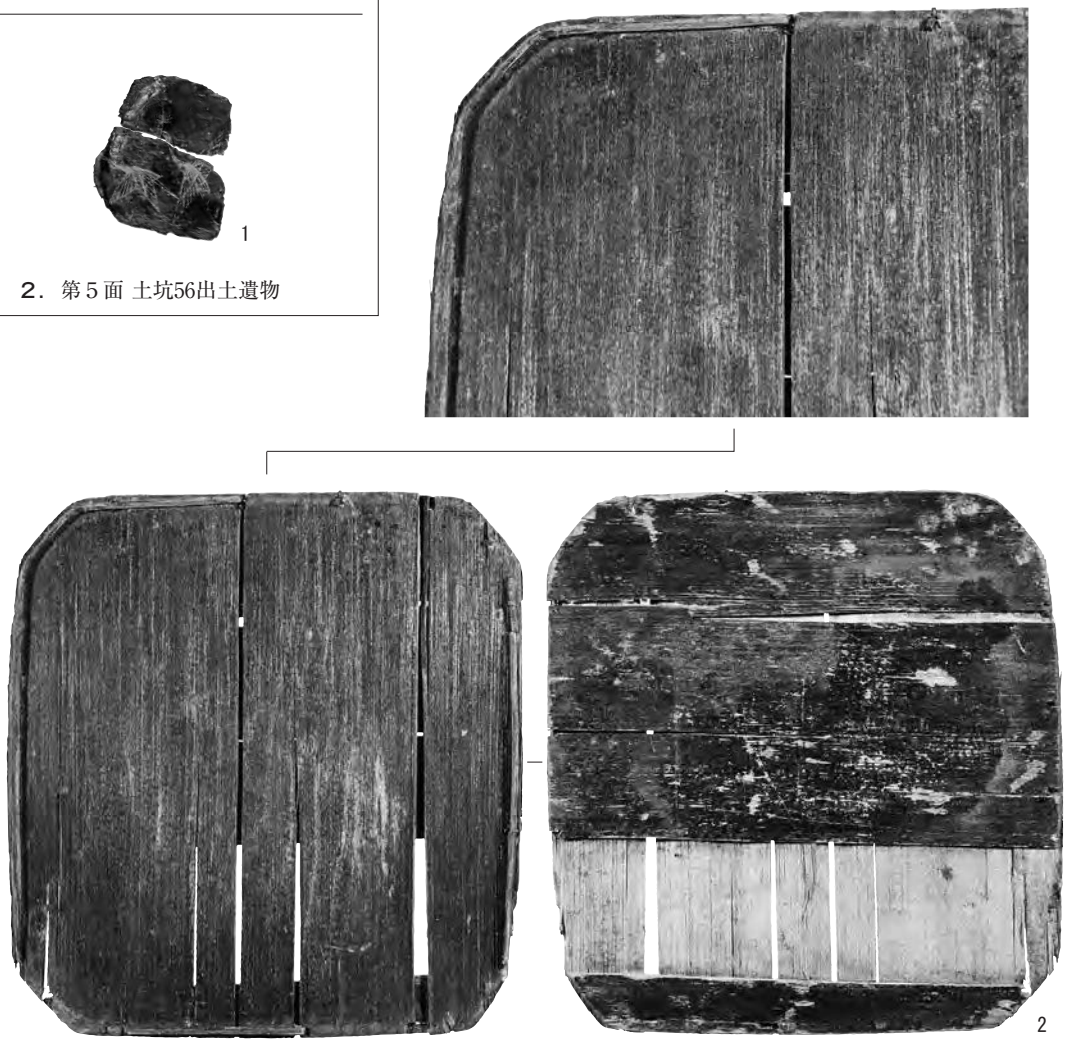


1．第５面 溝状遺構５出土遺物

2．第５面 土坑56出土遺物

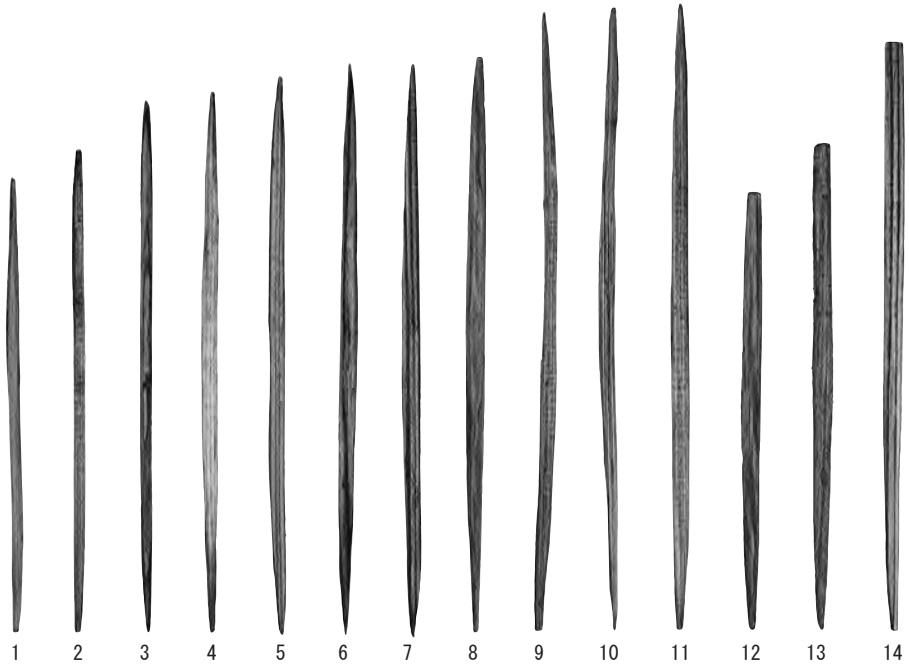
3．第５面 土坑63出土遺物





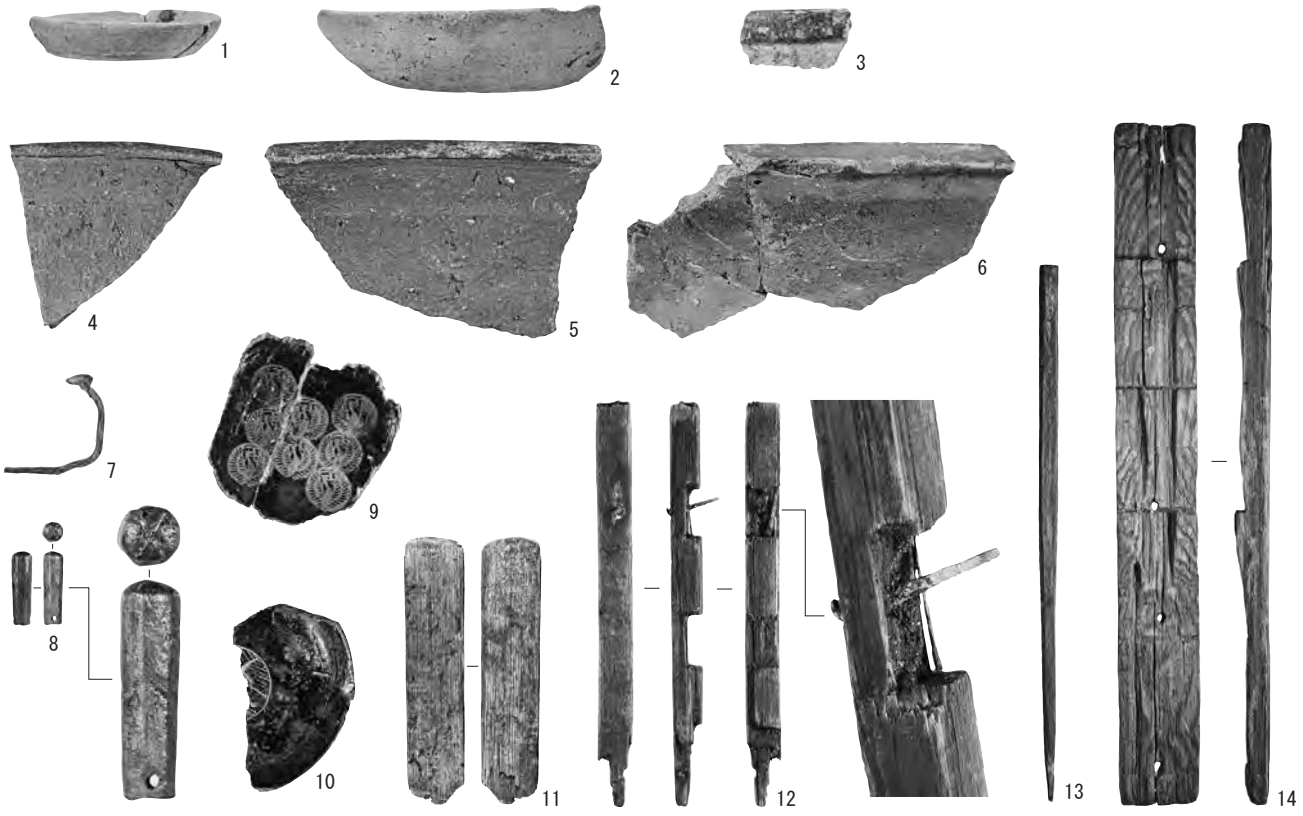
4．第５面 土坑65出土遺物

図版 46



1．第５面 土坑74出土遺物

2．第５面 ピット出土遺物



3．第５面 遺構外出土遺物

建長寺旧境内遺跡（№397）

山ノ内字白黒小路1479番６地点

例　言

1．本報は「建長寺旧境内遺跡」（神奈川県遺跡台帳№397）内、鎌倉市山ノ内字白黒小路1479番６地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成22年９月15日～平成23年１月７日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は96㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　森　孝子
調　査　員　　赤堀祐子・松原康子・栂岡ケイト・岡田慶子・本城　裕
作　業　員　　沼上三代治・倉澤六郎・浅香文保・安達越郎・金丸義一・田島道夫
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．本報に掲載した写真は、遺構を森　孝子、遺物を赤間和重が撮影した。

6．測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系ＡＲＥＡ９）を用い、図４に座標値を示した。

7．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

8．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ＫＴＴ1007」とした。

9．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

10．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：▭ 整地・地業範囲
　　▬ 炭化物分布範囲
遺物：▬ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分

11．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２ 中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』

12．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・桑島晴香・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 207
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 207
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 207
第３節　周辺の考古学的調査 …… 208

第二章　堆積土層 …… 212

第三章　発見された遺構と遺物 …… 213
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 213
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 223
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 230
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 237
第５節　第５面の遺構と遺物 …… 242
第６節　第６面の遺構と遺物 …… 247
第７節　第７面の遺構と遺物 …… 252
第８節　第８面の遺構と遺物 …… 258
第９節　第９面の遺構と遺物 …… 262
第10節　第10面の遺構と遺物 …… 266
第11節　第11面の遺構と遺物 …… 272
第12節　第12面の遺構と遺物 …… 274

第四章　まとめ …… 277

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 209
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 210
図３　調査区位置図 …… 211
図４　調査区配置図 …… 211
図５　調査区東側南壁 土層断面図 …… 212
図６　第１面 遺構分布図 …… 214
図７　第１面 土坑６出土遺物 …… 215
図８　第１面 土坑８出土遺物 …… 215
図９　第１面 土坑１～16 …… 217
図10　第１面 土坑24出土遺物 …… 219
図11　第１面 土坑17～31 …… 220
図12　第１面 ピット34・41・47 …… 221
図13　第１面 遺構外出土遺物 …… 222
図14　第２面 遺構分布図 …… 222
図15　第２面 溝状遺構１・２ …… 223
図16　第２面 溝状遺構１出土遺物 …… 223
図17　第２面 土坑40出土遺物 …… 225
図18　第２面 土坑41出土遺物 …… 225
図19　第２面 土坑32～51 …… 226
図20　第２面 ピット出土遺物 …… 228
図21　第２面 遺構外出土遺物 …… 229
図22　第３面 遺構分布図 …… 230
図23　第３面 溝状遺構３ …… 231
図24　第３面 溝状遺構３出土遺物 …… 231
図25　第３面 据鉢遺構１ …… 231
図26　第３面 据鉢遺構１出土遺物 …… 231
図27　第３面 土坑52出土遺物 …… 232
図28　第３面 土坑58出土遺物 …… 233
図29　第３面 土坑61出土遺物 …… 234
図30　第３面 土坑52～66 …… 234
図31　第３面 土坑65出土遺物 …… 235
図32　第３面 ピット105・111 …… 236
図33　第３面 遺構外出土遺物 …… 236
図34　第４面 遺構分布図 …… 237
図35　第４面 溝状遺構４・５ …… 238
図36　第４面 土坑67～75 …… 239
図37　第４面 土坑71出土遺物 …… 240
図38　第４面 ピット出土遺物 …… 241
図39　第４面 遺構外出土遺物 …… 241
図40　第４面 構成土出土遺物 …… 242
図41　第５面 遺構分布図 …… 243
図42　第５面 土坑76～84 …… 244
図43　第５面 土坑84出土遺物 …… 245
図44　第５面 ピット出土遺物 …… 245
図45　第５面 ピット200・203・225・231・232・236 …… 246
図46　第５面 遺構外出土遺物 …… 246
図47　第６面 遺構分布図 …… 247
図48　第６面 土坑85～98 …… 249
図49　第６面 土坑93出土遺物 …… 250
図50　第６面 土坑94出土遺物 …… 250
図51　第６面 ピット246 …… 251
図52　第６面 遺構外出土遺物 …… 251
図53　第７面 遺構分布図 …… 252
図54　第７面 溝状遺構６・７ …… 253
図55　第７面 土坑100出土遺物 …… 254
図56　第７面 土坑99～117 …… 257
図57　第７面 ピット出土遺物 …… 258
図58　第７面 遺構外出土遺物 …… 258
図59　第８面 遺構分布図 …… 259
図60　第８面 土坑118・119・121～126 …… 260
図61　第８面 遺構外出土遺物 …… 262
図62　第９面 遺構分布図 …… 262
図63　第９面 道路状遺構１ …… 263
図64　第９面 土坑127・129～132 …… 264
図65　第９面 ピット出土遺物 …… 265
図66　第９面 遺構外出土遺物（１） …… 265
図67　第９面 遺構外出土遺物（２） …… 266
図68　第10面 遺構分布図 …… 267
図69　第10面 道路状遺構２ …… 268
図70　第10面 溝状遺構８ …… 269
図71　第10面 常滑溜まり１ …… 269
図72　第10面 土坑133～139 …… 270
図73　第10面 遺構外出土遺物（１） …… 271

図74　第10面 遺構外出土遺物（２）…… 272
図75　第11面 遺構分布図…… 273
図76　第11面 溝状遺構９…… 273
図77　第11面 土坑141～143…… 273
図78　第11面 ピット474…… 274
図79　第11面 遺構外出土遺物…… 274
図80　第12面 遺構分布図…… 275
図81　第12面 土坑144・145…… 275
図82　第12面 遺構外出土遺物…… 276

表　目　次

表１　建長寺旧境内遺跡および周辺遺跡 調査地点一覧…… 208
表２　第１面 出土遺物観察表…… 279
表３　第２面 出土遺物観察表…… 279
表４　第３面 出土遺物観察表…… 281
表５　第４面 出土遺物観察表…… 282
表６　第５面 出土遺物観察表…… 283
表７　第６面 出土遺物観察表…… 284
表８　第７面 出土遺物観察表…… 284
表９　第８面 出土遺物観察表…… 285
表10　第９面 出土遺物観察表…… 285
表11　第10面 出土遺物観察表…… 286
表12　第11面 出土遺物観察表…… 287
表13　第12面 出土遺物観察表…… 287
表14　遺構計測表…… 287
表15　出土遺物一覧表…… 289

図　版　目　次

図版１　１．調査区近景（東から）…… 297
２．調査区東側南壁土層断面（北から）…… 297
図版２　１．調査区西側第１面全景（北から）・ 298
２．第１面 土坑６かわらけ出土状態（北から）…… 298
３．発掘調査風景…… 298
図版３　１．調査区西側第２面全景（北から）・ 299
２．調査区東側第２面全景（北から）・ 299
図版４　１．調査区西側第３面全景（北から）・ 300
２．第３面 据鉢遺構１（東から）…… 300
３．調査区東側第４面全景（東から）・ 300
図版５　１．調査区東側第５面全景（北から）・ 301
２．第５面 ピット189仏花瓶出土状態（南西から）…… 301
３．調査区西側第６面全景（北から）・ 301
図版６　１．調査区東側第９面全景（北から）・ 302
２．調査区東側第10面全景（北から）・ 302
図版７　１．第10面 常滑溜まり１（北西から）・ 303
２．調査区東側第11面全景（西から）・ 303
３．調査区東側第12面全景（西から）・ 303
図版８　１．第１面 土坑６出土遺物…… 304
２．第１面 土坑８出土遺物…… 304
３．第１面 土坑24出土遺物…… 304
４．第１面 遺構外出土遺物…… 304
５．第２面 溝状遺構１出土遺物…… 304
６．第２面 土坑40出土遺物…… 304
７．第２面 土坑41出土遺物…… 304
８．第２面 ピット出土遺物…… 304
９．第２面 遺構外出土遺物（１）…… 304
図版９　１．第２面 遺構外出土遺物（２）…… 305
２．第３面 溝状遺構３出土遺物…… 305
３．第３面 据鉢遺構１出土遺物…… 305
４．第３面 土坑52出土遺物…… 305
５．第３面 土坑58出土遺物…… 305
図版10　１．第３面 土坑61出土遺物…… 306

２．第３面 土坑65出土遺物 …… 306
３．第３面 遺構外出土遺物 …… 306
４．第４面 土坑71出土遺物 …… 306
５．第４面 ピット出土遺物 …… 306
６．第４面 遺構外出土遺物（１）…… 306
図版11 １．第４面 遺構外出土遺物（２）…… 307
２．第４面 構成土出土遺物 …… 307
３．第５面 土坑84出土遺物 …… 307
４．第５面 ピット出土遺物 …… 307
図版12 １．第５面 遺構外出土遺物 …… 308
２．第６面 土坑93出土遺物 …… 308
３．第６面 土坑94出土遺物 …… 308
４．第６面 遺構外出土遺物 …… 308
５．第７面 土坑100出土遺物 …… 308
６．第７面 ピット出土遺物 …… 308
７．第７面 遺構外出土遺物 …… 308
図版13 １．第８面 遺構外出土遺物 …… 309
２．第９面 ピット出土遺物 …… 309
３．第９面 遺構外出土遺物 …… 309
図版14 １．第10面 遺構外出土遺物 …… 310
２．第11面 遺構外出土遺物 …… 310
３．第12面 遺構外出土遺物 …… 310

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市山ノ内字白黒小路1479番６で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である建長寺旧境内遺跡（神奈川県遺跡台帳№397）の範囲内にあたる。建築主から鋼管杭工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成22年３月16日～平成22年３月17日に６㎡の調査区を設定して調査を実施した。その結果、中世の遺構が建築予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される96㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、森　孝子が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成22年９月15日～平成23年１月７日までの４ヵ月ほどである。現地表の標高は約27.4ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、西側をⅠ区、東側をⅡ区として調査を実施した。調査はまず重機により約70㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、中世に属する第１～12面の合計12面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして１月７日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては日本測地系（座標系ＡＲＥＡ９）に準じた、鎌倉市三級基準点（Ｘ＝－74131.202、Ｙ＝－25632.903）、（Ｘ＝－74383.457、Ｙ＝－25445.426）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海抜標高値は、鎌倉市三級基準点№43413（標高24.206ｍ）を基に移設した。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市山ノ内字白黒小路1479番６に位置し、「建長寺旧境内遺跡（№397）」の包蔵地範囲の中に所在する。建長寺旧境内遺跡は鎌倉市の北部域に位置し、ＪＲ北鎌倉駅の500ｍ程南側で横須賀線と県道21号線が交差する地点の南東側に隣接している。地形的には北西方向の大船方面に開けた開析谷の中に立地し、この開析谷に面した両側には複雑に入り組んだ大小の谷戸が形成されている。谷戸を取り囲む丘陵頂部から湧出した小河川は地形に沿って低地に流れ込み、山ノ内の中央部を貫流する小袋谷川に集まりその流れは市域の北西部で柏尾川に合流している。

隣接する包蔵地としては、西側に尾藤景綱邸跡（№171）が隣接し、県道21号線を挟んだ東側に北から順に正法寺跡（№172）、徳泉寺跡（№173）、安国寺跡（№174）、保寧寺跡（№175）があり、北側には山ノ内上杉邸跡（№170）が展開している。また、この県道21号線沿いには、円覚寺や東慶寺、浄智寺、明月院、長寿寺、建長寺などの鎌倉を代表する寺院が集まっており、これら以外にも明月院には第三代執権北条時頼が建立した「最明寺」や、第八代執権北条時宗が建立した「禅興寺」などの存在が伝えられている。とりわけ本調査地点一帯は、建長寺をはじめとする臨済宗の拠点であったといえよう。

この他に建長寺境内を描いた徳川光圀施入と伝えられている『建長寺伝延宝寺図』には、廃寺も含めて49院の塔頭が描かれており、正法寺や徳泉寺、安国寺、保寧寺などが軒を連ねていたことが知られる。

さらに、本地点の住所表記にもなっている「山ノ内」は、室町期以降に関東管領山ノ内上杉氏の屋敷があったとされる。『相模國鎌倉郡村誌』山ノ内村の項には、「本村中央ニアリ徳泉寺旧趾ノ西北隣ナリ今畠地トナル即山内上杉氏ノ旧趾ナリ」と記されており、現在は山ノ内上杉邸跡（№170）として周知の包蔵地範囲となっている。

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図２）。本地点は、県道21号線の西側に南北方向に長く展開する包蔵地範囲の北端に位置している。周辺遺跡を含めても山ノ内地域は調査事例の少ない場所といえ、調査地点は主に県道21号線沿いに点在している。

本遺跡の調査は今回報告する地点を除くと２地点で行われているのみであり、ここでは①山ノ内字白黒小路1489番１外地点を図上に示した。①地点では２面にわたる調査が行われ、14世紀中葉～15世紀代にかけての掘立柱建物や溝状遺構、井戸などが検出されている（野本 1997）。

②～④は本報告地点の北側に近接しており、山ノ内道周辺遺跡の②山ノ内字東管領屋敷180番10地点では、鎌倉時代後期～室町期にかけて２面の遺構面が検出され、名月谷方面からの自然流路と山ノ内道に平行する自然流路、および両流路の合流地点が発見されている（鎌倉市教育委員会 1997）。山ノ内上杉邸跡の③山ノ内字東管領屋敷180番１外地点では８面の遺構面を検出し、13世紀後葉～15世紀代に至る礎石建物、掘立柱建物、盛土、苑池とも捉えられる大形溝などが確認され、これらの遺構群は山ノ内上杉邸に関連するものではなく、『明月院絵図』に記載がみられる「傳宗庵」に関連する可能性があると指摘されている（福嶋ほか 2012）。同じく山ノ内上杉邸跡の④山ノ内字東管領屋敷179番39地点では、５面にわたる中世の生活面が検出され、礎石建物や掘立柱建物、溝などの他に苑池と推定される遺構が発見されている（永田・米澤 2019ａ）。

本遺跡の南東に位置する徳泉寺跡の⑤山ノ内字東管領屋敷168番４地点からは、中世の地業１ヵ所と中世～近世に属する河川１本が検出された（永田・齋藤 2018）。調査地点が街道の東側に面しており、建長寺から流れ出る小河川の東側に隣接していることから、検出された河川はこの旧流路にあたる可能性が指摘されている。⑥は安国寺跡の山ノ内字東管領屋敷147番９外地点で、13世紀代～15世紀中葉の遺構群が検出され、高嶋産の刻書硯や呪符木簡が出土している（永田・米澤 2019ｂ）。図示した地図上で最も南に位置する保寧寺跡の⑦山ノ内字東管領屋敷133番３・９地点では、３面にわたる遺構確認面が調査され、15世紀代の石列や石組遺構、土坑などが検出された（手塚 1997）。調査区からは寺を想起させるような遺構は発見されていないが、舶載陶磁器や茶の湯に関連した遺物が出土したため、調査者は寺の境内であった可能性を指摘している。

表１　建長寺旧境内遺跡および周辺遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	建長寺旧境内遺跡（№397）	山ノ内字白黒小路1479番６地点	
①	建長寺旧境内遺跡（№397）	山ノ内字白黒小路1489番１外地点	野本 1997
②	山ノ内道周辺遺跡（№136）	山ノ内字東管領屋敷180番10地点	鎌倉市教育委員会 1997
③	山ノ内上杉邸跡（№170）	山ノ内字東管領屋敷180番１外地点	福嶋ほか 2012
④	山ノ内上杉邸跡（№170）	山ノ内字東管領屋敷179番39地点	永田・米澤 2019ａ
⑤	徳泉寺跡（№173）	山ノ内字東管領屋敷168番４地点	永田・齋藤 2018
⑥	安国寺跡（№174）	山ノ内字東管領屋敷147番９外地点	永田・米澤 2019ｂ
⑦	保寧寺跡（№175）	山ノ内字東管領屋敷133番３・９地点	手塚 1997

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

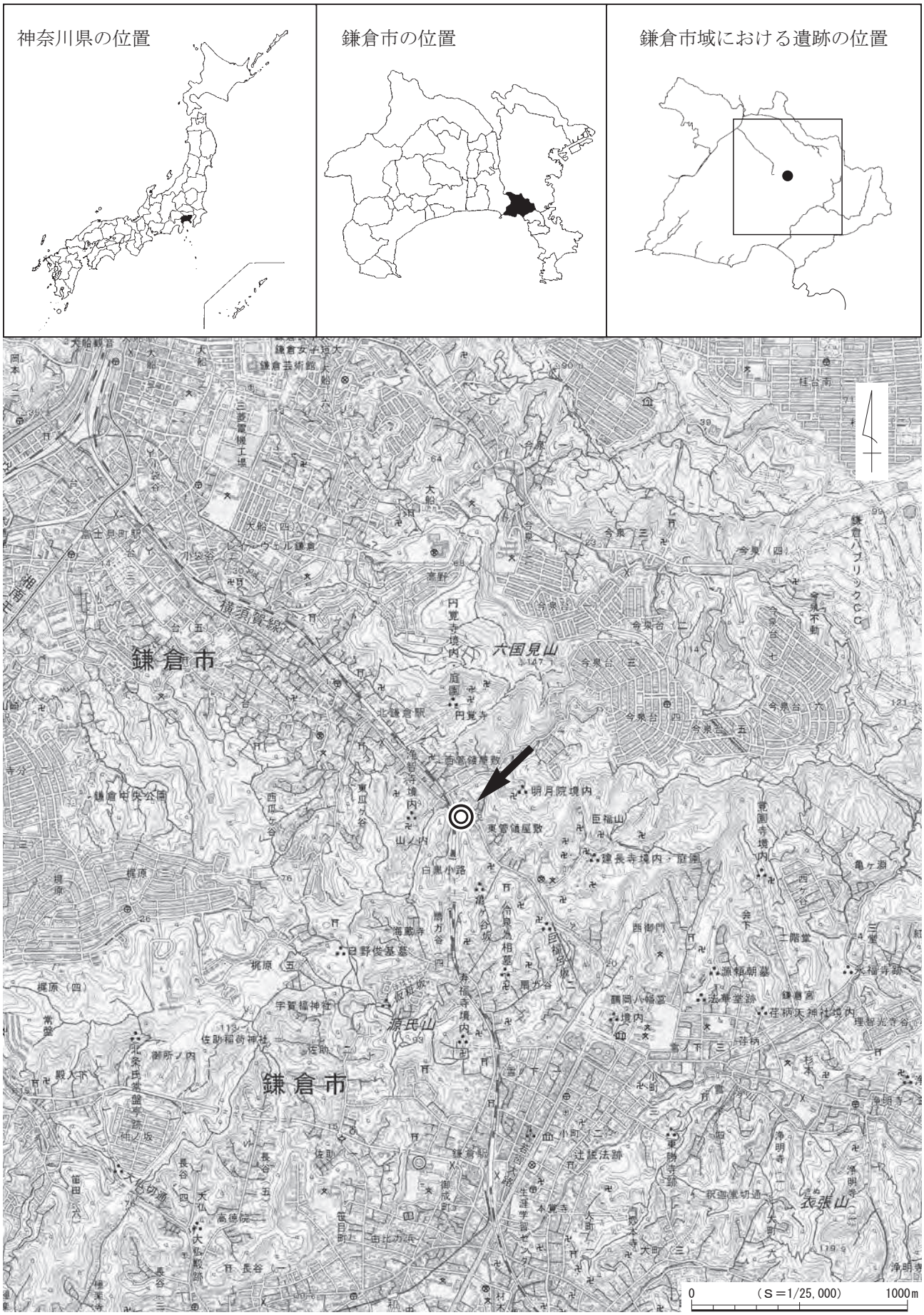
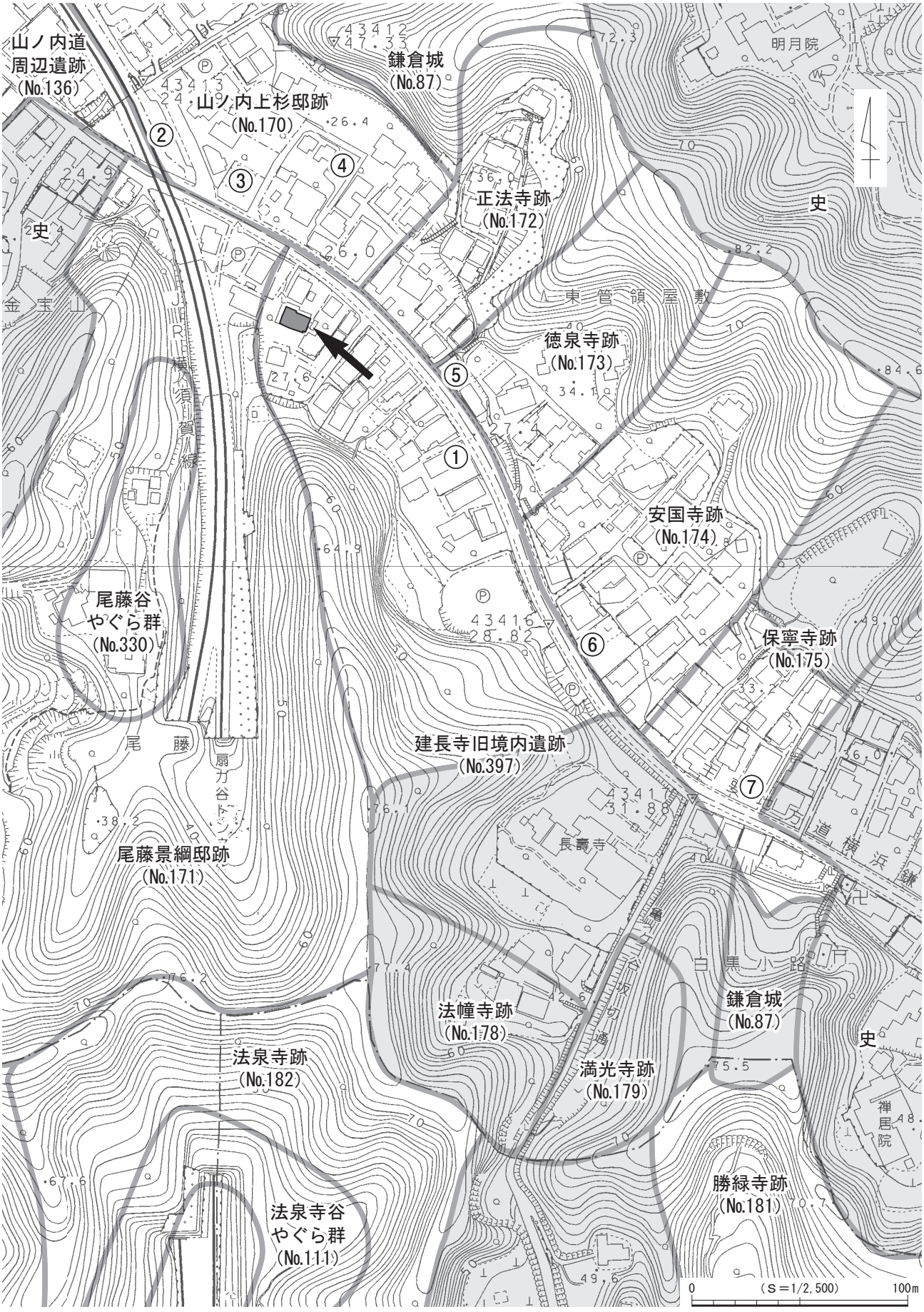

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
鎌倉市
六国見山
鎌倉市
源氏山
衣張山
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図



※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

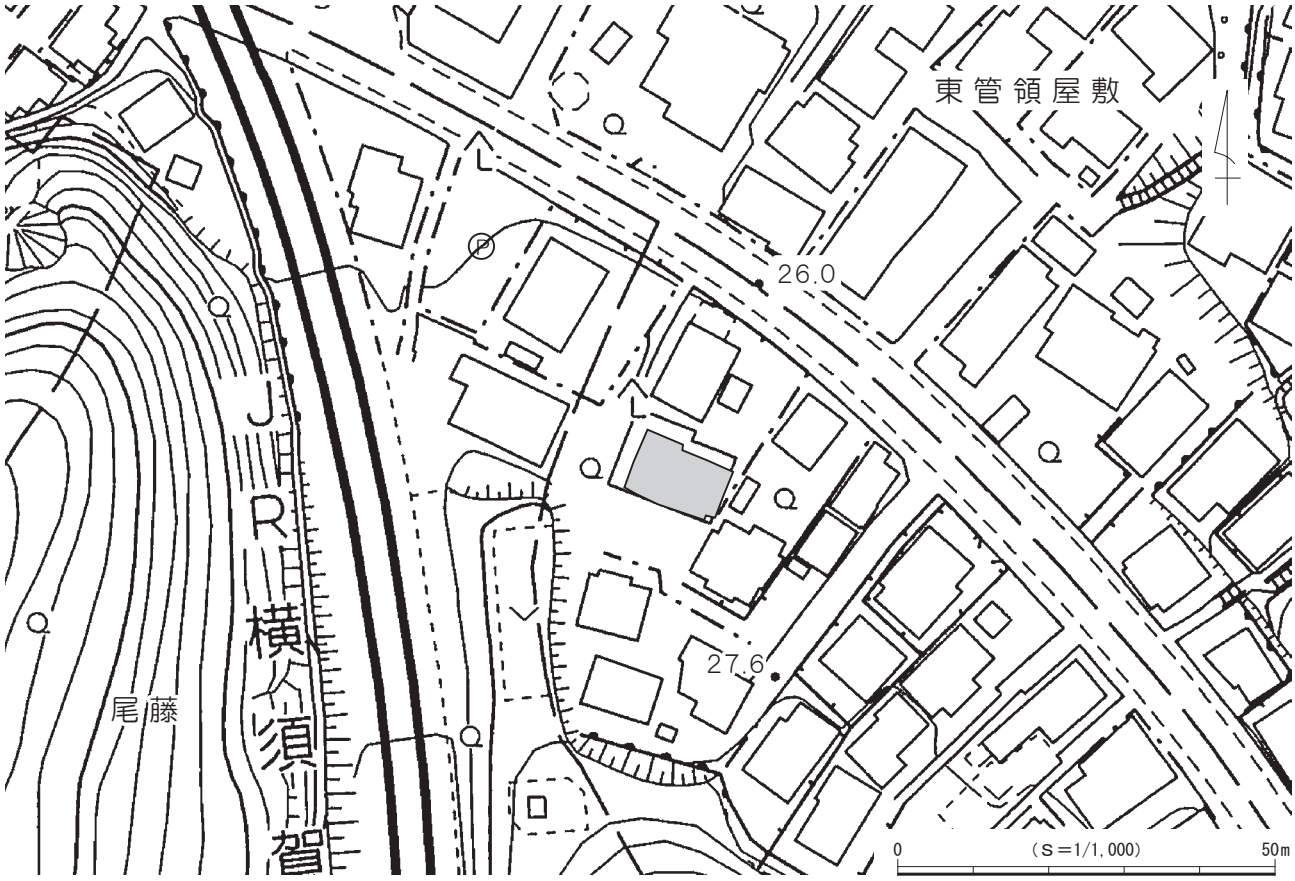


図３　調査区位置図

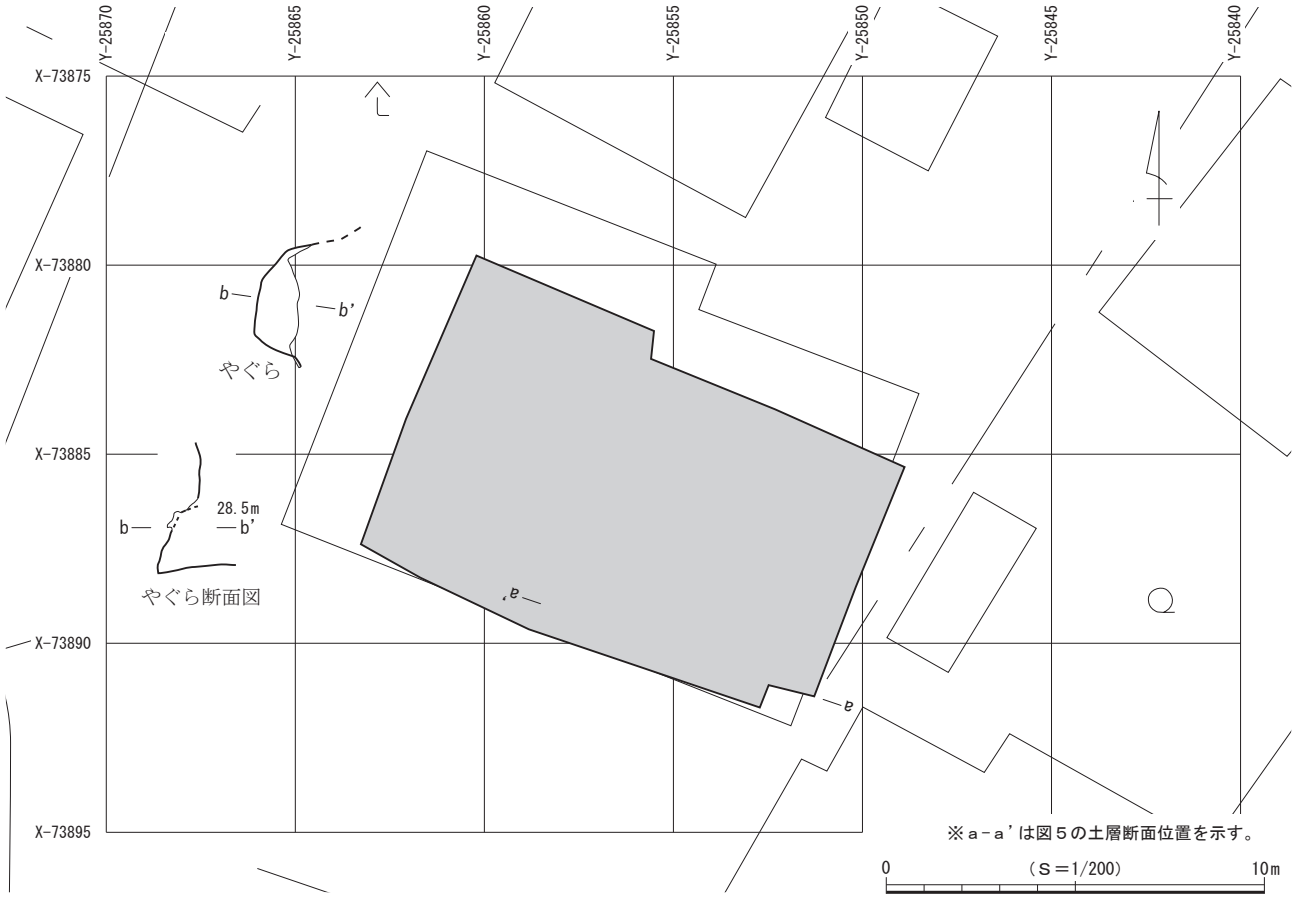
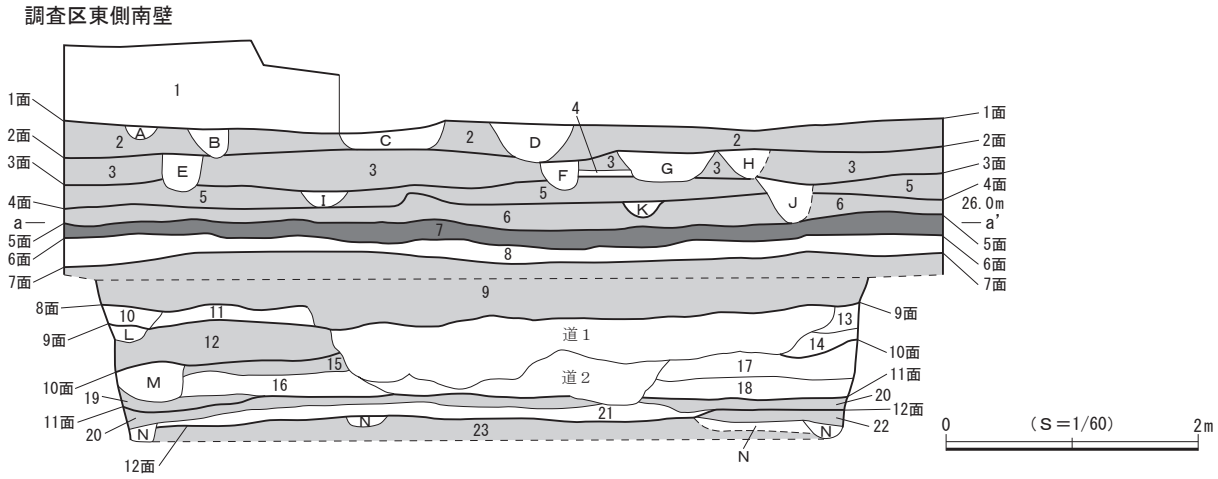


図４　調査区配置図

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、第１～12面までの合計12面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区東側南壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高約27.4ｍを測り、最上部には層厚60～70㎝の表土（１層）が堆積している。遺構確認面の第１面は２層上面で検出した。確認面の標高は約26.8ｍを測る。２層は多量の泥岩ブロックによる締まりのある整地層で、層厚13～30㎝である。第２面は３層上面で確認し、確認面の標高は26.5～26.6ｍを測る。３層は多量の泥岩ブロックによる締まりのある整地層で、層厚８～30㎝である。部分的に締まりが強く粘性に富む茶色粘質土（４層）が層厚５㎝前後堆積している。第３面は５層上面で確認し、確認面の標高は26.3～26.4ｍを測る。５層は泥岩粒を主体とする非常に強く締まる整地層で、層厚６～20㎝である。第４面は６層上面で確認し、確認面の標高は26.1～26.2ｍを測る。６層は多量の泥岩ブロックによる整地層で、層厚８～25㎝である。第５面は７層上面で確認し、確認面の標高は約26.0ｍを測る。７層は少量の泥岩粒と多量の炭化物を含む黒茶色粘質土を主体とする炭層で、層厚10～15㎝である。第６面は８層上面で確認し、確認面の標高は25.8～25.9ｍを測る。８層は多量の泥岩粒を含み、締まりがあり粘性の強い灰茶色粘質土層で、層厚７～22㎝である。第７面は９層上面で確認し、確認面の標高は約25.7ｍを測る。９層は泥岩粒・泥岩ブロックを主体とし、鉄分を含む整地層で、層厚33～60㎝である。第８面は10・11層上面で確認し、確認面の標高は約25.3ｍを測る。10層は泥岩ブロックによる整地層、11層は泥岩粒・炭化物およびかわらけ片を含む黒灰色粘土層で、いずれも層厚15㎝前後である。第９面



１層　表土
２層　泥岩整地層　泥岩ブロック多量に含む。締まりあり。（第１面）
３層　泥岩整地層　泥岩ブロック多量に含む。締まりあり。（第２面）
４層　茶色粘質土　泥岩微量含む。締まり・粘性非常に強い。
５層　泥岩整地層　泥岩粒主体。締まり非常に強い。（第３面）
６層　泥岩整地層　泥岩ブロック多量に含む。（第４面）
７層　黒茶色粘質土　泥岩粒少量、炭化物多量に含む。（第５面）
８層　灰茶色粘質土　泥岩粒多量に含む。締まりあり。粘性強い。（第６面）
９層　泥岩整地層　泥岩粒・泥岩ブロック主体。鉄分含む。（第７面）
10層　泥岩ブロック層　（第８面）
11層　黒灰色粘土　泥岩粒・炭化物・かわらけ片含む。締まりなし。（第８面）
12層　泥岩整地層　強固な泥岩整地。（第９面）
13層　黒灰色粘質土　炭化物多量に含む。締まりなし。（第９面）
14層　暗灰色粘質土　泥岩粒多量に含む。締まりややあり。
15層　黒灰色粘質土　泥岩粒含む。粘性強い。（第10面）
16層　灰黄色粘質土　泥岩ブロック・シルト質粘土含む。
17層　暗灰色粘質土　泥岩粒・炭化物多量に含む。締まりややあり。（第10面）
18層　暗灰色粘質土　泥岩粒多量に含む。締まりあり。
19層　泥岩ブロック層
20層　泥岩整地層　泥岩粒主体。（第11面）
21層　黄褐色粘土　泥岩ブロック含む。
22層　泥岩整地層（第12面）
23層　泥岩整地層　泥岩粒主体。（第12面）

〔遺構〕
Ａ層　暗茶褐粘質土　締まりなし。
Ｂ層　暗茶褐粘質土　泥岩粒少量含む。締まりなし。
Ｃ層　暗茶褐粘質土　泥岩ブロック多量に含む。締まりなし。
Ｄ層　暗茶褐粘質土　泥岩ブロック含む。締まりなし。
Ｅ層　黒茶色粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック含む。締まりなし。
Ｆ層　黒茶色粘質土　泥岩粒含む。締まりなし。
Ｇ層　暗茶色粘質土　泥岩ブロック多量に含む。締まりなし。
Ｈ層　暗茶色粘質土　泥岩粒・炭化物含む。締まりなし。
Ｉ層　黒茶色粘質土　締まりなし。
Ｊ層　暗茶褐粘質土　泥岩ブロック・かわらけ片含む。締まりなし。
Ｋ層　黒茶色粘質土　泥岩粒・炭化物含む。締まりなし。
Ｌ層　暗茶色粘土　締まりなし。
Ｍ層　黒色粘土　泥岩ブロック含む。締まりなし。
Ｎ層　遺構覆土

図５　調査区東側南壁 土層断面図

は、12・13層上面で確認した。確認面の標高は約25.2mを測る。12層は強固に突き固められた泥岩整地層で、層厚30cm前後である。13層は多量の炭化物を含む黒灰色粘質土層で、層厚約18cmである。第10面は15・17層上面で確認し、確認面の標高は約24.9mを測る。15層は泥岩粒を含み粘性の強い黒灰色粘質土を主体とする整地層で、層厚５～12cmを測る。17層は多量の泥岩粒と炭化物を含み、やや締まりのある暗灰色粘質土層で、層厚20cm前後である。第11面は20層上面で確認し、確認面の標高は24.5～24.6mを測る。20層は泥岩粒を主体とする整地層で、層厚５～10cmである。遺構確認面の最下位にあたる第12面は、22・23層上面で確認した。確認面の標高は約24.4mを測る。22層および23層は泥岩による整地層である。

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～12面までの合計12面である。遺構確認面はいずれも中世に属し、検出した遺構は道路状遺構２本、溝状遺構９条、常滑溜まり１基、据鉢遺構１基、落ち込み２ヵ所、土坑144基、ピット502基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14cm）に換算して27箱を数える。詳細は出土遺物一覧表（表15）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～12面）に説明する。

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の２層上面で検出され、確認面の標高は約26.8mを測る。２層は多量の泥岩ブロックによる締まりのある整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑31基、ピット47基である（図６）。これらの遺構は主に調査区の東側に非常に密集した状態で分布しており、さらに調査区外に広がる様相を呈していた。一方で調査区の中央から西側にかけての範囲は遺構の分布密度が低く、撹乱も広く及んでいた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、土製品、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は15世紀後葉頃に属すると考えられる。

（１）土　坑

土坑１（図９）

調査区の北東隅に位置する。西側で土坑３と重複して壁の一部を壊し、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈する。規模は東西現存長83cm、南北現存長40cm、深さ11cmで、坑底面の標高は26.38mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑２（図９）

調査区の北東隅に位置する。他の遺構との重複は認められないが、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北83cm、東西現存長55cm、深さ12cmで、坑

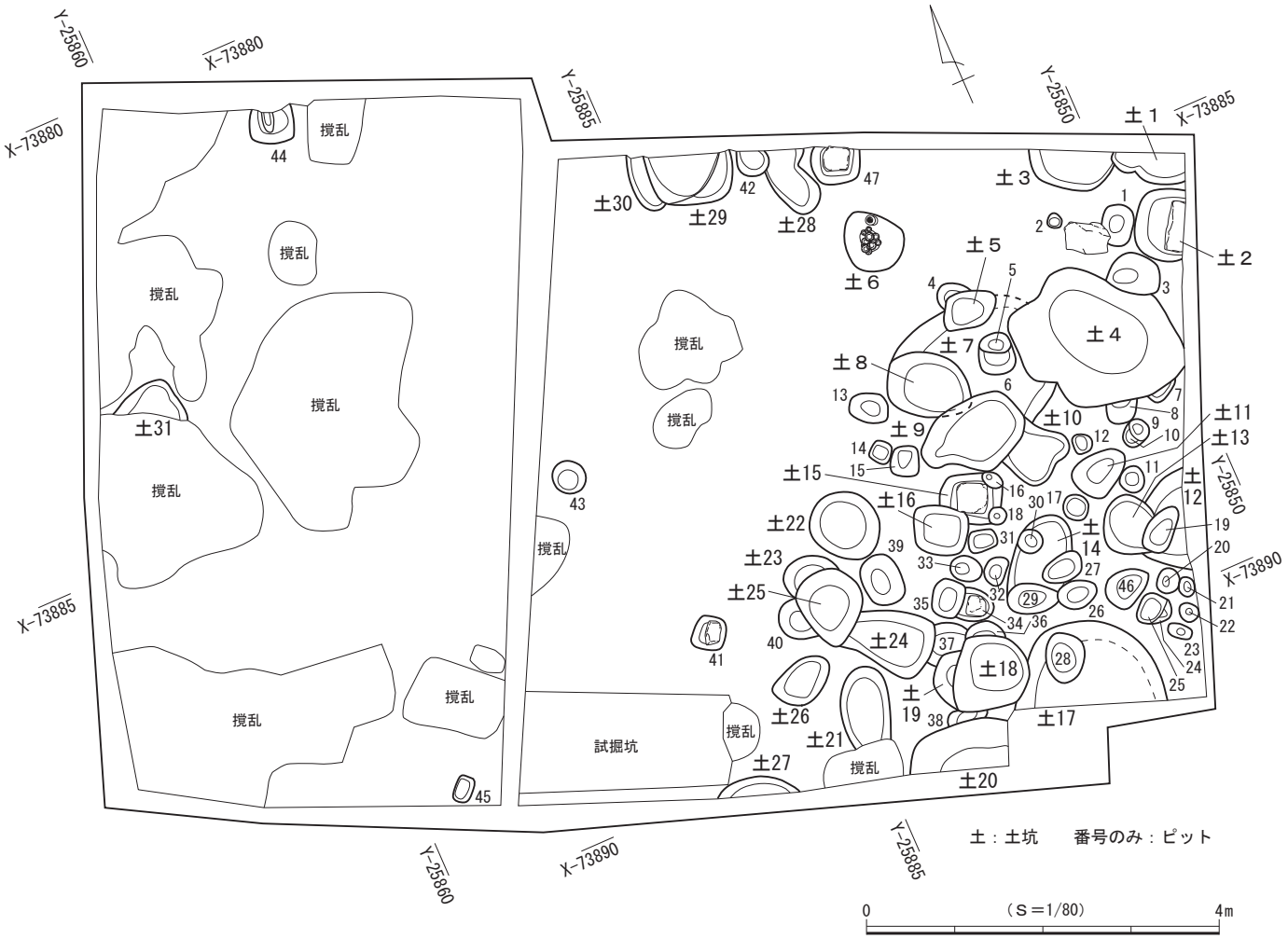


図６　第１面 遺構分布図

底面の標高は26.38ｍを測る。底面付近から長さ56㎝の礫が出土し、礎石の可能性が推定される。

遺物はかわらけ１点、陶器３点が出土した。

土坑３（図９）

調査区の北東隅に位置する。東側で土坑１と重複して壁の一部が壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈する。規模は東西現存長94㎝、南北現存長44㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は26.45ｍを測る。

遺物は金属製品１点が出土した。

土坑４（図９）

調査区東壁際の中央北寄りに位置する。北側でピット３と重複して壁の一部が壊され、南と西側で土坑７とピット７・８と重複して壊しているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面は西側に向かってごくわずかに傾斜する。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸2.04ｍ、短軸1.52ｍ、深さ20㎝で、坑底面の標高は26.27ｍを測る。主軸方位はＮ－30°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑５（図９）

調査区の北東側に位置する。北側でピット４、南側で土坑７と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面は東側に向かって傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65㎝、短軸42㎝、深さ24㎝で、坑底面の標高は26.43ｍを測る。主軸方位はＮ－77°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑６（図９）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸74㎝、短軸63㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は26.59ｍを測る。完形のかわらけが中央付近と北東壁にまとまって出土した。

出土遺物（図７）

遺物はかわらけ31点が出土し、このうち10点を図示した。

１～10はロクロ成形によるかわらけである。

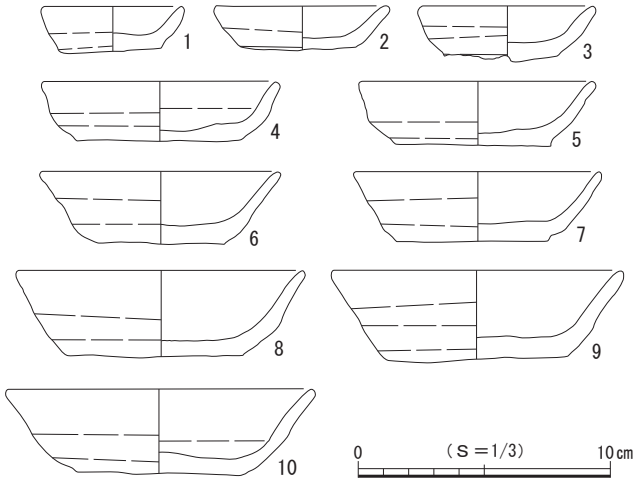


図７　第１面 土坑６出土遺物

土坑７（図９）

調査区の北東側に位置する。土坑４・５・８～10、ピット５・６と重複して西側半分と東および北壁が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は東西現存長1.66ｍ、南北現存長1.60ｍ、深さ17㎝で、坑底面の標高は26.52ｍを測る。主軸方位はＮ－87°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑８（図９）

調査区の北東側に位置する。南側で土坑９と重複して壁の上部が壊され、東側で土坑７と重複して壊しているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.00ｍ、短軸74㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は26.49ｍを測る。主軸方位はＮ－41°－Ｗを指す。

出土遺物（図８）

遺物はかわらけ１点が出土し、それを図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

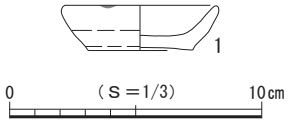


図８　第１面 土坑８出土遺物

土坑９（図９）

調査区東側の中央に位置する。北側で土坑７・８、東側で土坑10と重複して壁と底面の一部を壊して

いる。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.20m、短軸81cm、深さ31cmで、坑底面の標高は26.41mを測る。主軸方位はN－83°－Eを指す。

遺物はかわらけ6点が出土した。

土坑10（図9）

調査区東側の中央に位置する。西側で土坑9と重複して壁と底面の一部が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60cm、短軸67cm、深さ16cmで、坑底面の標高は26.50mを測る。主軸方位はN－31°－Wを指す。

遺物はかわらけ9点が出土した。

土坑11（図9）

調査区東壁の中央付近に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62cm、短軸43cm、深さ26cmで、坑底面の標高は26.34mを測る。主軸方位はN－68°－Eを指す。

遺物はかわらけ4点が出土した。

土坑12（図9）

調査区東壁際の中央南寄りに位置する。土坑13とピット19と重複して壁と底面の一部が壊され、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長1.16m、東西現存長50cm、深さ13cmで、坑底面の標高は26.51mを測る。

遺物はかわらけ2点が出土した。

土坑13（図9）

調査区東壁付近の中央南寄りに位置する。東側で土坑12と重複して壁の一部を壊し、ピット19と重複して東壁が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長66cm、東西63cm、深さ9cmで、坑底面の標高は26.51mを測る。

遺物はかわらけ38点、陶器1点が出土した。

土坑14（図9）

調査区の南東側に位置する。南側でピット26・27・29、北側でピット30と重複して南壁の大半が失われており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長81cm、短軸68cm、深さ6cmで、坑底面の標高は26.61mを測る。主軸方位はN－40°－Eを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑15（図９）

調査区の南東側に位置する。東と南側でピット16・18、西側で土坑16と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は隅丸方形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70㎝、短軸57㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は26.58ｍを測る。主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。底面付近から一辺34㎝の角礫が出土し、礎石の可能性が推定される。

遺物はかわらけ４点が出土した。

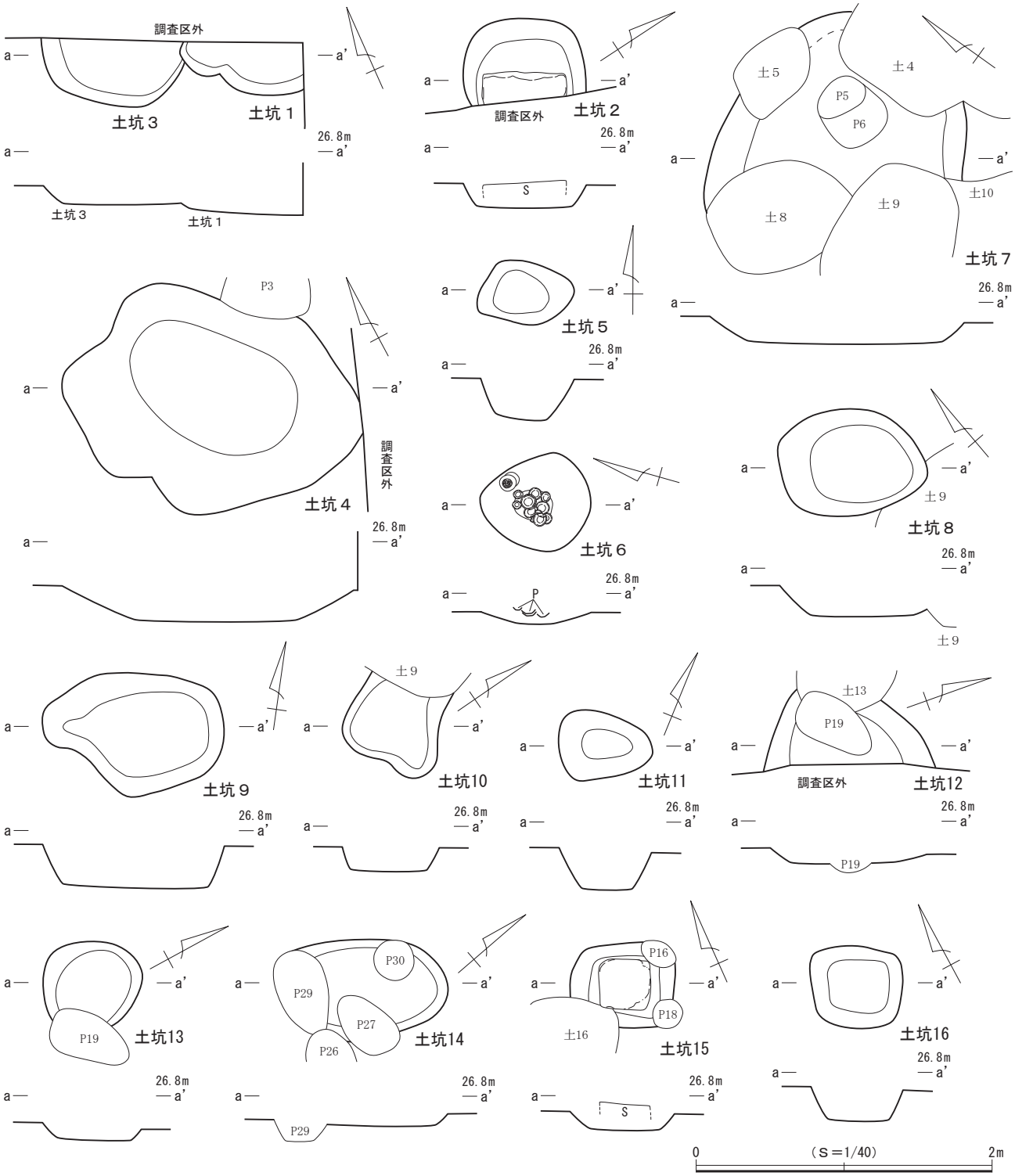


図９　第１面 土坑１～16

土坑16（図９）

調査区東側の中央付近に位置する。東側で土坑15と重複して壁の一部を壊している。平面形は隅丸方形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸55㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は26.48ｍを測る。主軸方位はＮ－62°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑17（図11）

調査区の南東隅に位置する。北側でピット28、西側で土坑18と重複して壁と底面の一部が壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長95㎝、東西現存長1.73ｍ、深さ13㎝と大型で、坑底面の標高は26.53ｍを測る。

遺物はかわらけ８点、陶器２点が出土した。

土坑18（図11）

調査区南壁際の東側に位置する。西側で土坑19、北側でピット36・37と重複して壊している。平面形は不整円形を呈し、底面はごくわずかに湾曲する。壁は開いて立ち上がり、西壁は大きく開く。断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸85㎝、短軸82㎝、深さ21㎝で、坑底面の標高は26.42ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑19（図11）

調査区南壁際の東側に位置する。東側で土坑18と重複して全体の半分以上が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長66㎝、東西現存長22㎝、深さ22㎝で、坑底面の標高は26.49ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑20（図11）

調査区南壁際の東側に位置する。北側でピット38と重複して壊し、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面は東側に向かってわずかに傾斜し、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長55㎝、東西現存長1.10ｍ、深さ29㎝で、坑底面の標高は26.46ｍを測る。

遺物はかわらけ14点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

土坑21（図11）

調査区の南東側に位置する。南側を撹乱によって壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長88㎝、短軸55㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は26.52ｍを測る。主軸方位はＮ－14°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ８点、陶器２点が出土した。

土坑22（図11）

調査区中央の東寄りに位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸80㎝、短軸74㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は26.55ｍを測る。

遺物はかわらけ７点が出土した。

土坑23（図11）

調査区中央の南東寄りに位置する。南側で土坑25と重複して上面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64㎝、短軸49㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は26.57ｍを測る。主軸方位はＮ－84°－Ｅを指す。

遺物は陶器１点が出土した。

土坑24（図11）

調査区の南東側に位置する。北西側で土坑25と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長93㎝、短軸70㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は26.57ｍを測る。主軸方位はＮ－51°－Ｗを指す。

出土遺物（図10）

遺物はかわらけ25点、磁器１点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅳ類に比定される。

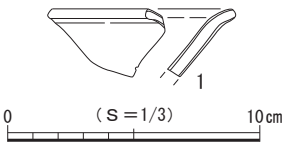


図10　第１面 土坑24出土遺物

土坑25（図11）

調査区の南東側に位置する。北側で土坑23、西側でピット40、東側で土坑24と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸88㎝、短軸73㎝、深さ25㎝で、坑底面の標高は26.50ｍを測る。主軸方位はＮ－18°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑26（図11）

調査区南壁付近の中央東寄りに位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69㎝、短軸44㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は26.64ｍを測る。主軸方位はＮ－55°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑27（図11）

調査区南壁際の中央東寄りに位置する。南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面は平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は

逆台形を呈する。規模は東西現存長93㎝、南北現存長21㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は26.67ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑28（図11）

調査区北壁際の中央に位置する。北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長80㎝、東西38～42㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は26.57ｍを測る。主軸方位はＮ－５°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑29（図11）

調査区北壁際の中央に位置する。西側で土坑30と重複して壁と底面の一部を壊し、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。南側にテラス状の段をもつが、２基の

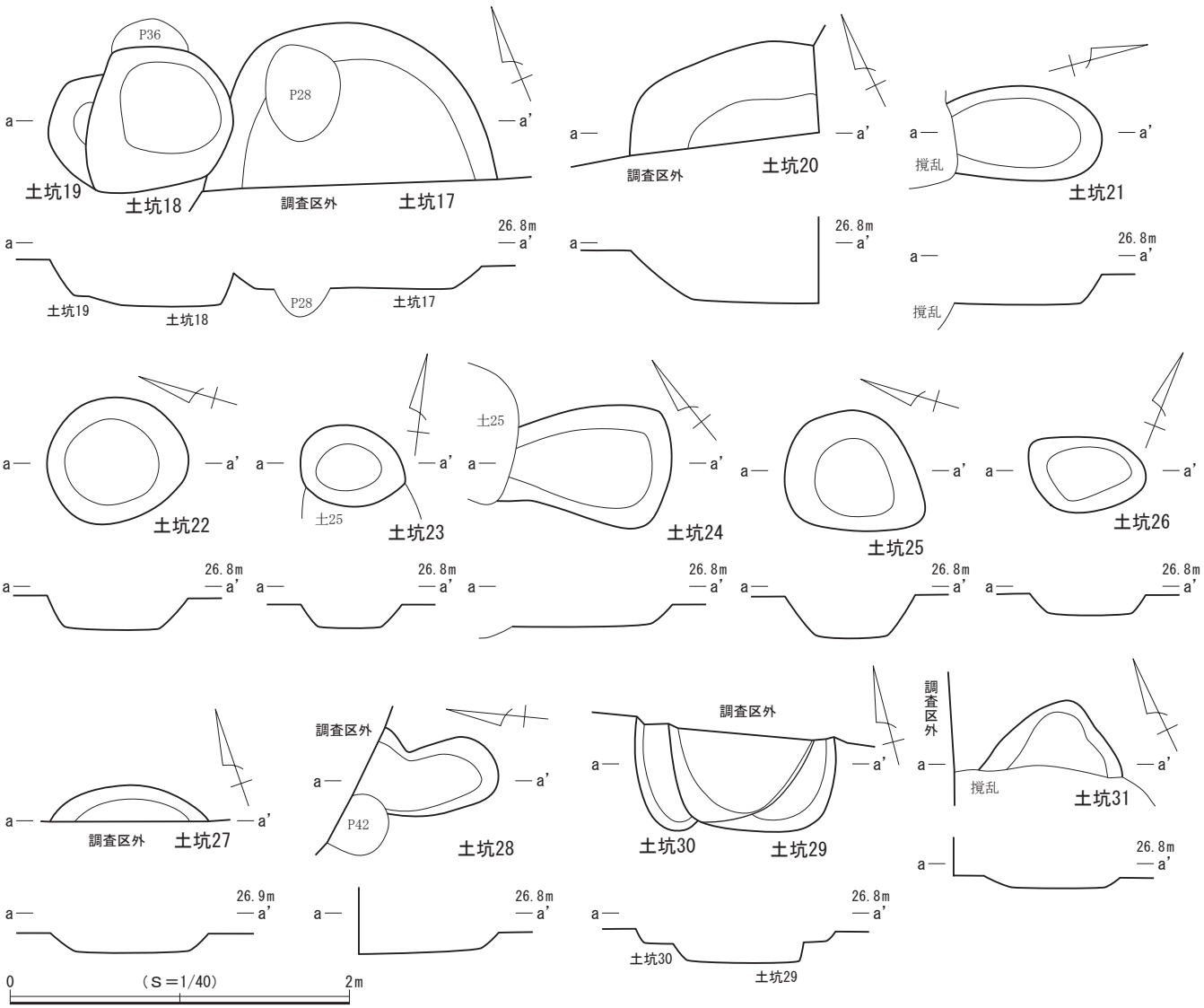


図11　第１面 土坑17～31

土坑が重複している可能性もある。規模は南北現存長56㎝、東西95㎝、深さ20㎝、テラス部の深さ６㎝で、坑底面の標高は26.51ｍを測る。主軸方位はＮ－75°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑30（図11）

調査区北壁際の中央に位置する。東側で土坑29と重複して大半が壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面は平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長63㎝、東西現存長23㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は26.62ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑31（図11）

調査区西壁際の中央付近に位置する。南側を撹乱によって壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形ないし不整楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長40㎝、東西現存長80㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は26.66ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（２）ピット（図12）

第１面では、47基を検出した。調査区の南東側に密集するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、隅丸方形を基調とし、規模は長軸17～59㎝、深さ６～31㎝を測る。47基のうち３基のピット（ピット34・41・47）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ30～40㎝と大型の礫を用いている。礎石上面の標高は26.76～26.82ｍを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図12に図示した。

遺物は47基中、18基（ピット１・８・12・15～20・26・29～31・35・36・40・42・46）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）を参照されたい。

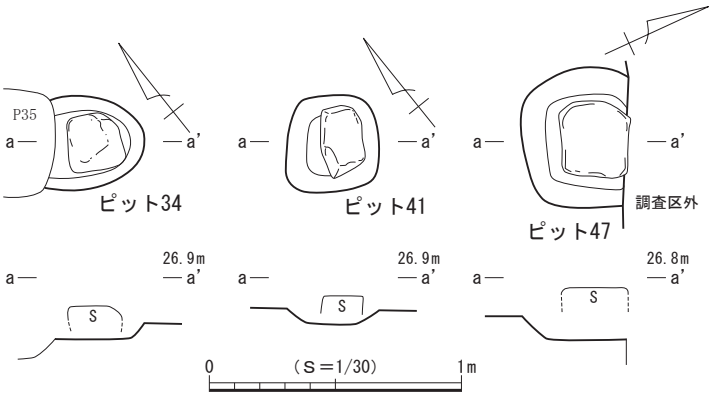


図12　第１面 ピット34・41・47

（３）第１面 遺構外出土遺物（図13）

第１面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち17点を図示した。

１～10はロクロ成形によるかわらけである。11は青白磁の梅瓶である。12は瀬戸産の平碗で古瀬戸後期様式Ⅲ～Ⅳ期に比定される。13は土錘、14は硯である。15～17は銭貨で、15は開元通寶（621年初鋳）、16は政和通寶（1111年初鋳）、17は洪武通寶（1368年初鋳）である。

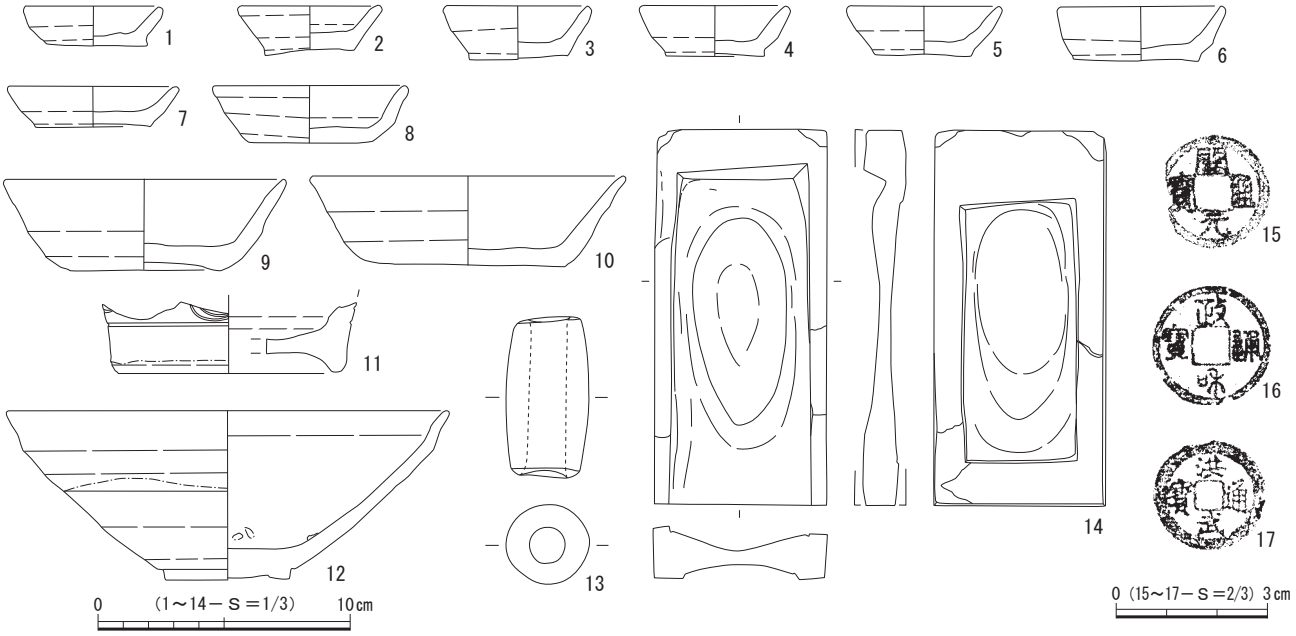


図13　第１面 遺構外出土遺物

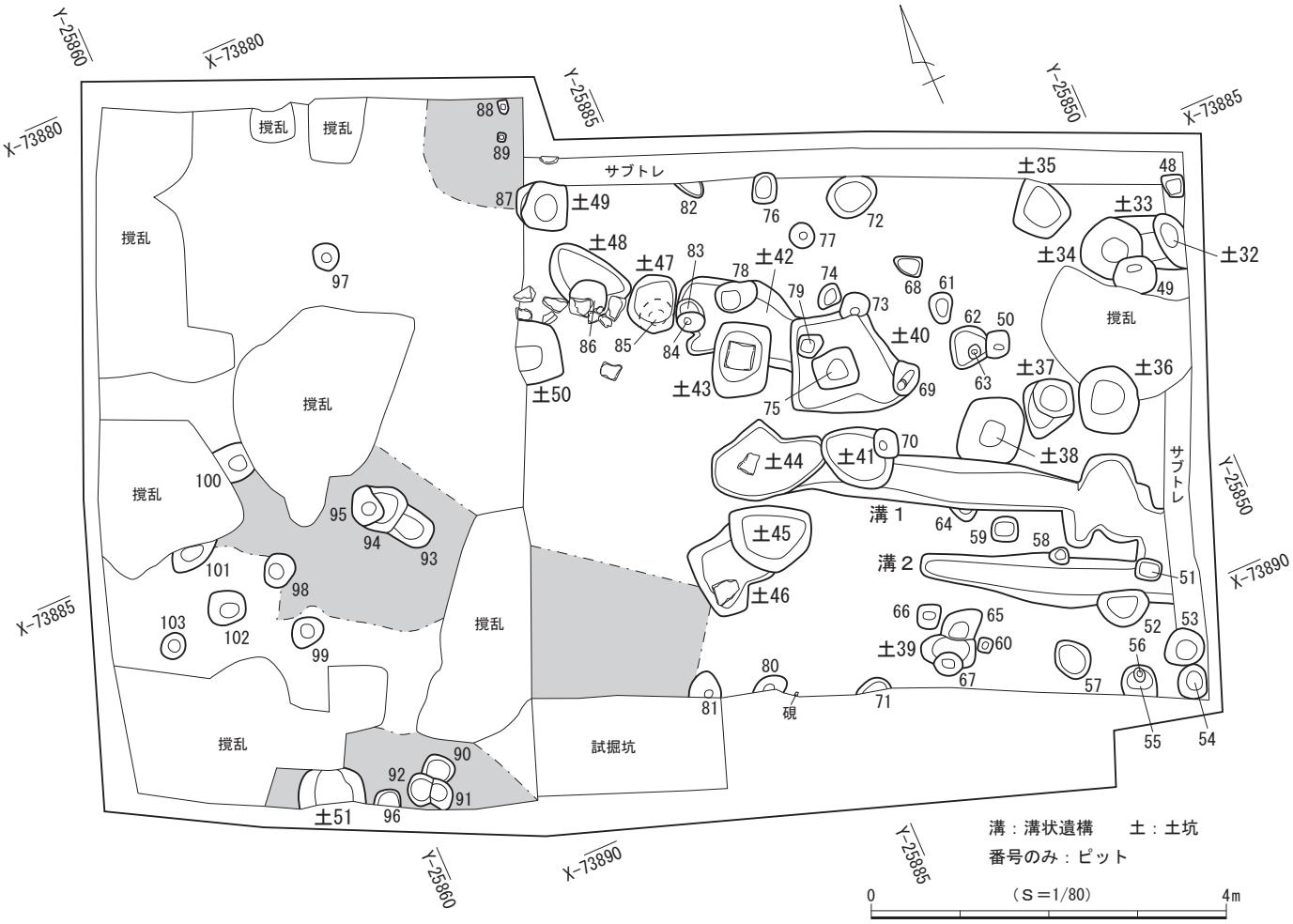


図14　第２面 遺構分布図

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の３層上面で検出され、確認面の標高は26.5～26.6ｍを測る。３層は多量の泥岩ブロックによる締まりのある整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構２条、土坑20基、ピット56基である（図14）。これらの遺構は主に調査区の中央から東側にかけて分布しており、さらに調査区外に広がる様相を呈していた。一方で調査区の西側は第１面と同様に遺構の分布密度が低く、加えて撹乱が広く及んでいた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は15世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

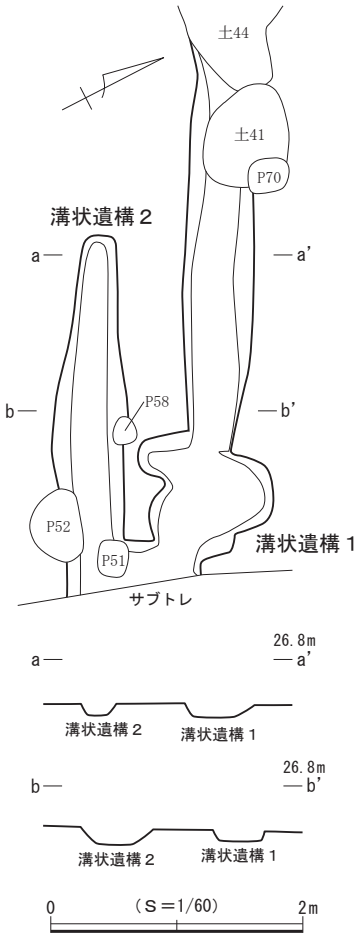


図15　第２面 溝状遺構１・２

（１）溝状遺構

溝状遺構１（図15）

調査区の東側に位置する。本址の東側は調査区外へと延び、西側は土坑44と重複して壊されている。土坑38・41・44、ピット64と重複し、土坑41・44によって西側が壊されている。東側の部分はプランが明瞭ではなく不整形をなし、土坑やピットなどと重複している可能性も考えられる。検出した規模は現存長約4.2ｍ、幅40～100㎝、深さ９～15㎝を測る。主軸方位はＮ－61°－Ｗを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、底面の標高は東側で26.38ｍ、西側で26.35ｍを測り、西側に向かってごくわずかに傾斜している。

出土遺物（図16）

遺物はかわらけ６点、金属製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は銭貨で皇宋通寶（1038年初鋳）である。

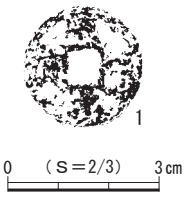


図16　第２面 溝状遺構１出土遺物

溝状遺構２（図15）

調査区の東側に位置する。東側は調査区外へと延び、西側は調査区内に収まる。ピット51・52・58と重複し、壁と底面の一部が壊されている。北側に隣接する溝状遺構１と平行して直線的に延びており、検出した規模は現存長約2.8ｍ、幅30～60㎝、深さ９～11㎝を測る。主軸方位はＮ－62°－Ｗを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は東西側とも26.35ｍを測る。

遺物はかわらけ23点、陶器１点が出土した。

（2）土　坑

土坑32（図19）

調査区の北東隅に位置する。西側で土坑33と重複して壁と底面を壊し、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長66㎝、短軸現存長32㎝、深さ24㎝で、坑底面の標高は26.17ｍを測る。主軸方位はＮ－９°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑33（図19）

調査区の北東隅に位置する。西側で土坑34、東側で土坑32と重複して壊され、全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面は平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北60㎝、東西現存長44㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は26.31ｍを測る。主軸方位はＮ－73°－Ｗを指すものと推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑34（図19）

調査区の北東隅に位置する。東側で土坑33と重複して大半を壊し、南側でピット49と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径71㎝、深さ29㎝で、坑底面の標高は26.14ｍを測る。

遺物は陶器１点が出土した。

土坑35（図19）

調査区の北東隅に位置する。北壁の上面をサブトレンチによって失われているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸58㎝、深さ34㎝で、坑底面の標高は26.11ｍを測る。主軸方位はＮ－28°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ３点が出土した。

土坑36（図19）

調査区東壁付近の中央に位置する。北側の上面を撹乱によって壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸73㎝、短軸63㎝、深さ30㎝で、坑底面の標高は26.07ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑37（図19）

調査区の東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。南西側にテラス状の段をもち、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69㎝、短軸54㎝、深さは22㎝、テラス部の深さ12㎝で、坑底面の標高は26.21ｍを測る。主

軸方位はＮ－47°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑38（図19）

調査区東側の中央に位置する。南側で溝状遺構１と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長70㎝、短軸68㎝、深さ35㎝で、坑底面の標高は26.10ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑39（図19）

調査区南壁際の東側に位置する。北側でピット65、南側でピット67と重複して壁が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61㎝、短軸現存長30㎝、深さ24㎝で、坑底面の標高は26.28ｍを測る。主軸方位はＮ－60°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ４点、陶器３点が出土した。

土坑40（図19）

調査区中央の東側に位置する。ピット69・73・75・79と重複して壁や底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.30ｍ、短軸1.16ｍ、深さ22㎝で、坑底面の標高は26.25ｍを測る。主軸方位はＮ－70°－Ｗを指す。

出土遺物（図17）

遺物はかわらけ17点、土師質・瓦質土器１点、金属製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は銭貨で熙寧元寶（1068年初鋳）である。

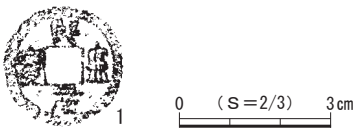


図17　第２面 土坑40出土遺物

土坑41（図19）

調査区中央の東側に位置する。西側で土坑44、南側で溝状遺構１と重複して壁と底面の一部を壊し、東側でピット70と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸86㎝、短軸66㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は26.31ｍを測る。主軸方位はＮ－42°－Ｗを指す。

出土遺物（図18）

遺物はかわらけ15点、陶器１点、土師質土器１点、金属製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は土師質土器で南伊勢系土鍋である。

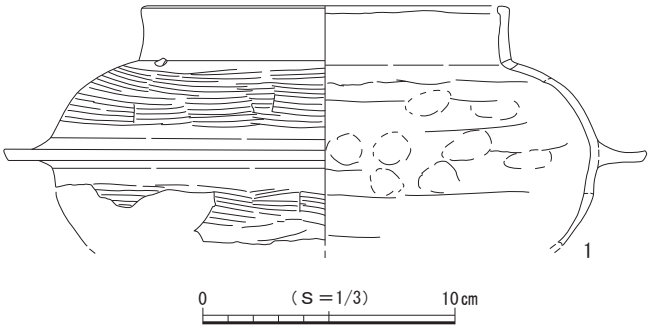


図18　第２面 土坑41出土遺物

土坑42（図19）

調査区中央の北側に位置する。北側でピット78、西側でピット83・84、東側で土坑40、南側で土坑43と重複して壁や底面を壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.33m、短軸61～86㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は26.30mを測る。主軸方位はN－51°－Wを指す。

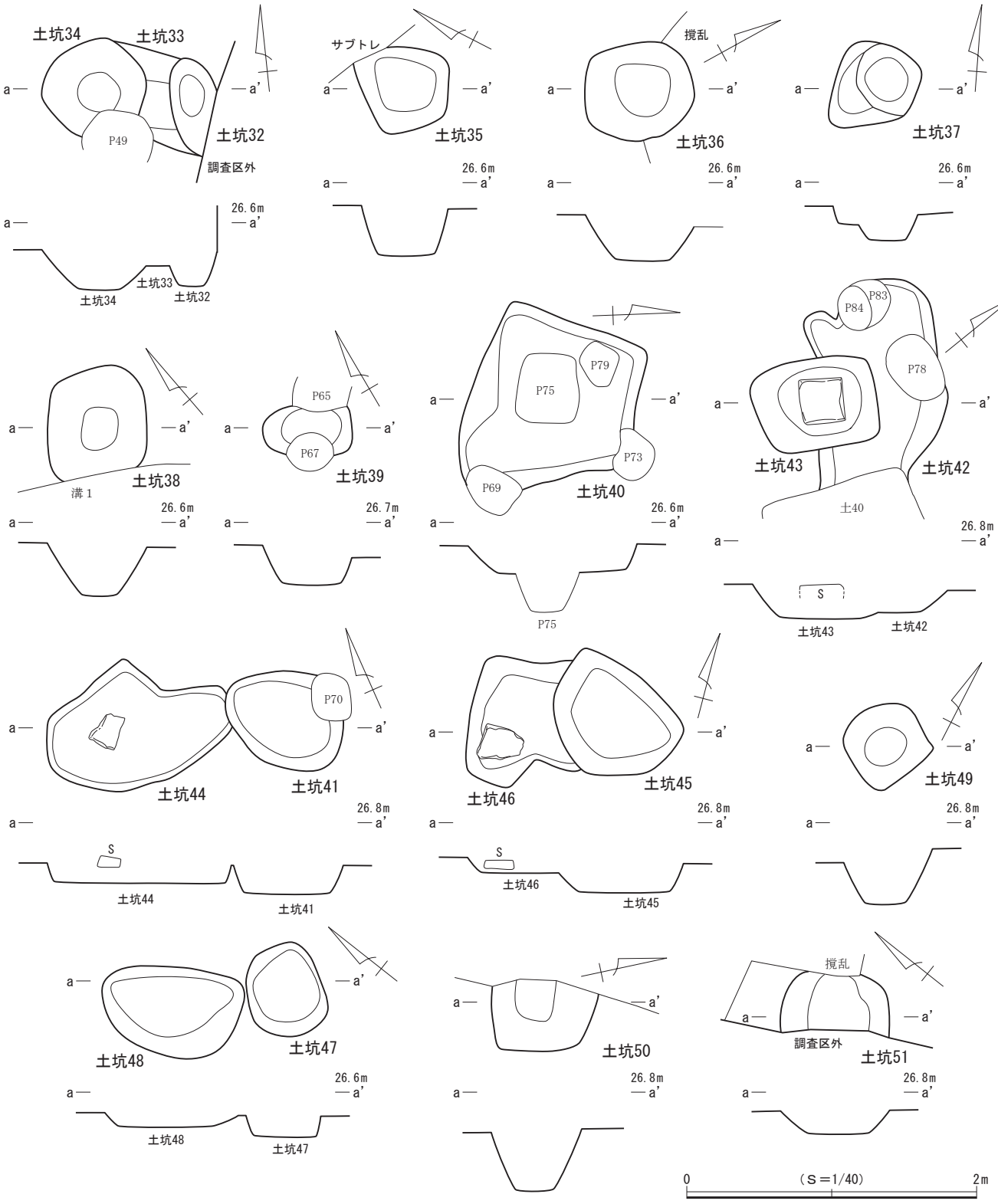


図19　第２面 土坑32～51

遺物は出土しなかった。

土坑43（図19）

調査区中央の北側に位置する。北側で土坑42と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸87㎝、短軸62㎝、深さ23㎝で、坑底面の標高は26.27ｍを測る。主軸方位はＮ－32°－Ｅを指す。底面付近から長さ、幅ともに30㎝の方形の礫が出土し、礎石の可能性が推定される。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑44（図19）

調査区の中央に位置する。東側で土坑41と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.30ｍ、短軸56～91㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は26.40ｍを測る。主軸方位はＮ－80°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑45（図19）

調査区中央の南側に位置する。西側で土坑46と重複して壁と底面を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸91㎝、短軸72㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は26.32ｍを測る。主軸方位はＮ－59°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑46（図19）

調査区中央の南側に位置する。東側で土坑45と重複して壁や底面を壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整形ないし不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長80㎝、南北90㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は26.46ｍを測る。主軸方位はＮ－87°－Ｗを指す。底面直上から長さ27㎝、幅25㎝、高さ６㎝の礫が出土し、礎石の可能性が推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑47（図19）

調査区中央の北側に位置する。南側でピット85と重複して上面を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸51㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は26.49ｍを測る。主軸方位はＮ－25°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑48（図19）

調査区中央の北側に位置する。南側でピット86と重複して上面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断

面形は皿状を呈する。規模は長軸97㎝、短軸59㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は26.57ｍを測る。主軸方位はＮ－35°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ４点が出土した。

土坑49（図19）

調査区北壁際の中央付近に位置する。西側でピット87と重複して大半を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸60㎝、深さ36㎝で、坑底面の標高は26.24ｍを測る。

遺物はかわらけ６点が出土した。

土坑50（図19）

調査区中央の北側に位置する。調査区内においては他の遺構との重複は認められなかったが、西半部が失われており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長73㎝、東西現存長49㎝、深さ39㎝で、坑底面の標高は26.12ｍを測る。主軸方位はＮ－10°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ10点が出土した。

土坑51（図19）

調査区南壁際の西側に位置する。北側のごく一部が撹乱によって失われ、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北75㎝、東西現存長37㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は26.52ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（３）ピット

第２面では、56基を検出した。調査区の東半に多く検出されたがほぼ全域にわたって疎らに分布し、中央付近にはみられなかった。礎石や礎板を伴うピットは検出されず、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、隅丸方形を基調とし、規模は長軸10～58㎝、深さ５～48㎝を測る。

出土遺物（図20）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）に掲げたが、このうち６点を図示した。

１～３・５はロクロ成形によるかわらけで、２・５の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。４・６は銭貨で、４は元祐通寶（1086年初鋳）、６は天聖元寶（1023年初鋳）である。

１はピット52、２はピット69、３・４はピット75、５はピット84、６はピット100からそれぞれ出土した。

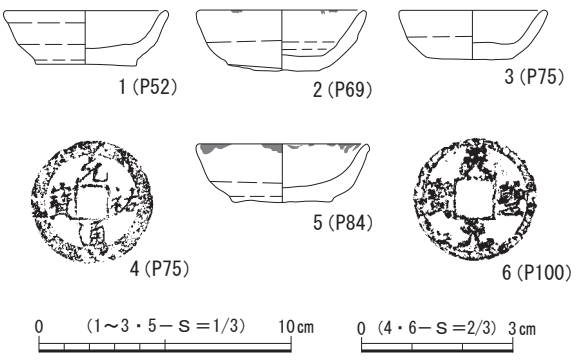


図20　第２面 ピット出土遺物

（４）第２面 遺構外出土遺物（図21）

第２面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち30点を図示した。

１～15はロクロ成形によるかわらけで、７の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。16～19は龍泉窯系青磁碗で、16は碗Ⅱ－ｂ類、17～19は碗Ⅳ類に比定される。20～24は瀬戸産の陶器類である。20は天目茶碗で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期、21は平碗で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期、22・23は折縁深皿で古瀬戸後期様式Ⅲ～Ⅳ期、24は卸皿で古瀬戸後期様式Ⅲ期に比定される。25～27は

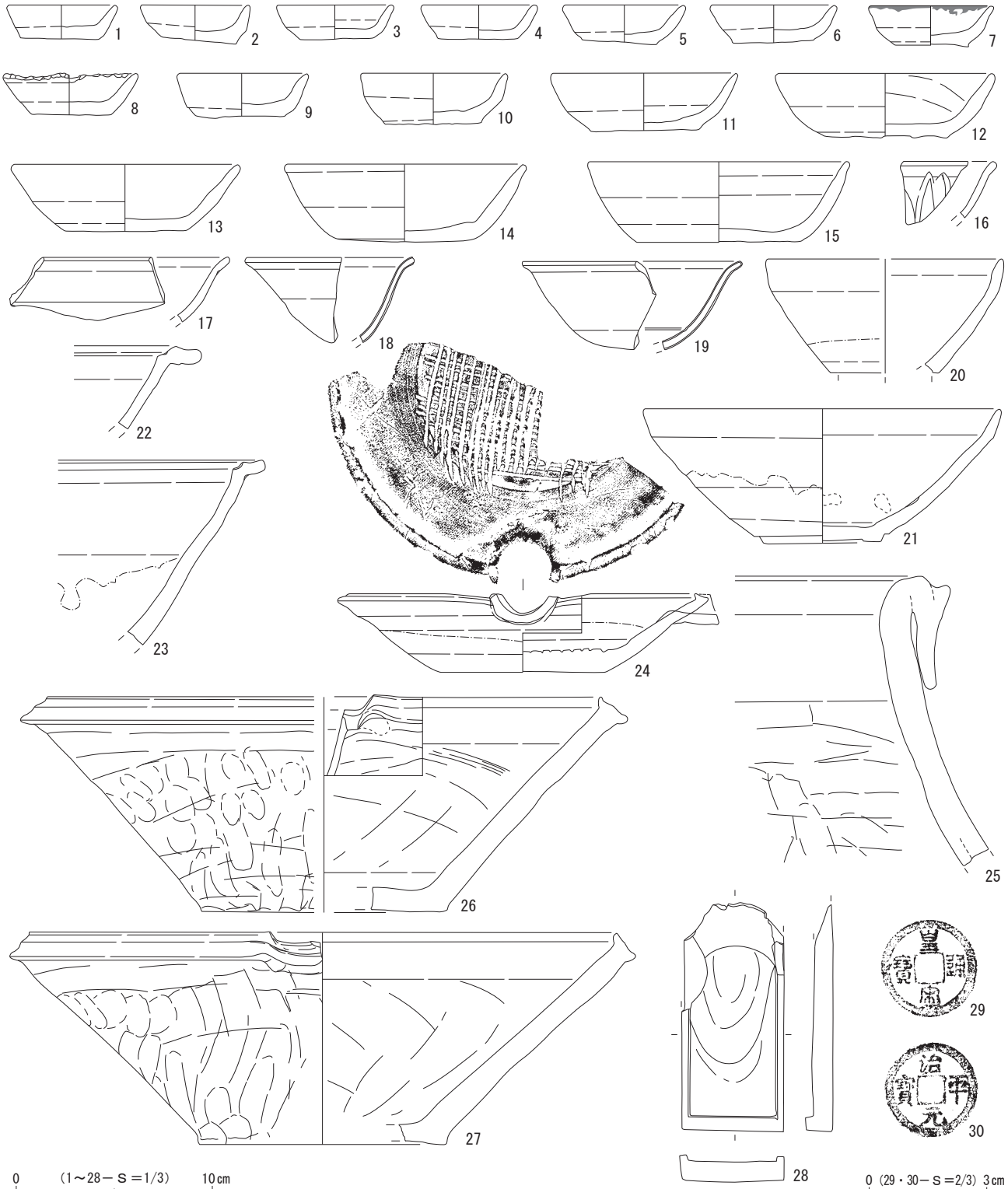


図21　第２面 遺構外出土遺物

常滑産の陶器類である。25は甕で９型式、26・27は片口鉢Ⅱ類で10～11型式に比定される。28は硯である。29・30は銭貨で、29は皇宋通寶（1038年初鋳）、30は治平通寶（1064年初鋳）である。

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の５層上面で検出され、確認面の標高は26.3～26.4ｍを測る。５層は泥岩粒を主体とする非常に強く締まる整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、据鉢遺構１基、土坑15基、ピット50基である（図22）。これらの遺構は調査区全域に及んでいるが、遺構密度は疎らである。調査区の西側は明瞭な整地面が広がっており、調査区北壁際の東西６ｍ、南北1.5ｍの範囲には炭化物の分布が認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は15世紀前中葉頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構３（図23）

調査区の北西側に位置する。わずかに湾曲しながら北側の調査区外へと延びるが、南側の端部は調査区内に収まることが確認できた。土坑63と重複し、東壁を壊している。検出した規模は現存長約1.6ｍ、幅40㎝、深さ15～26㎝を測る。主軸方位はＮ－22°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は

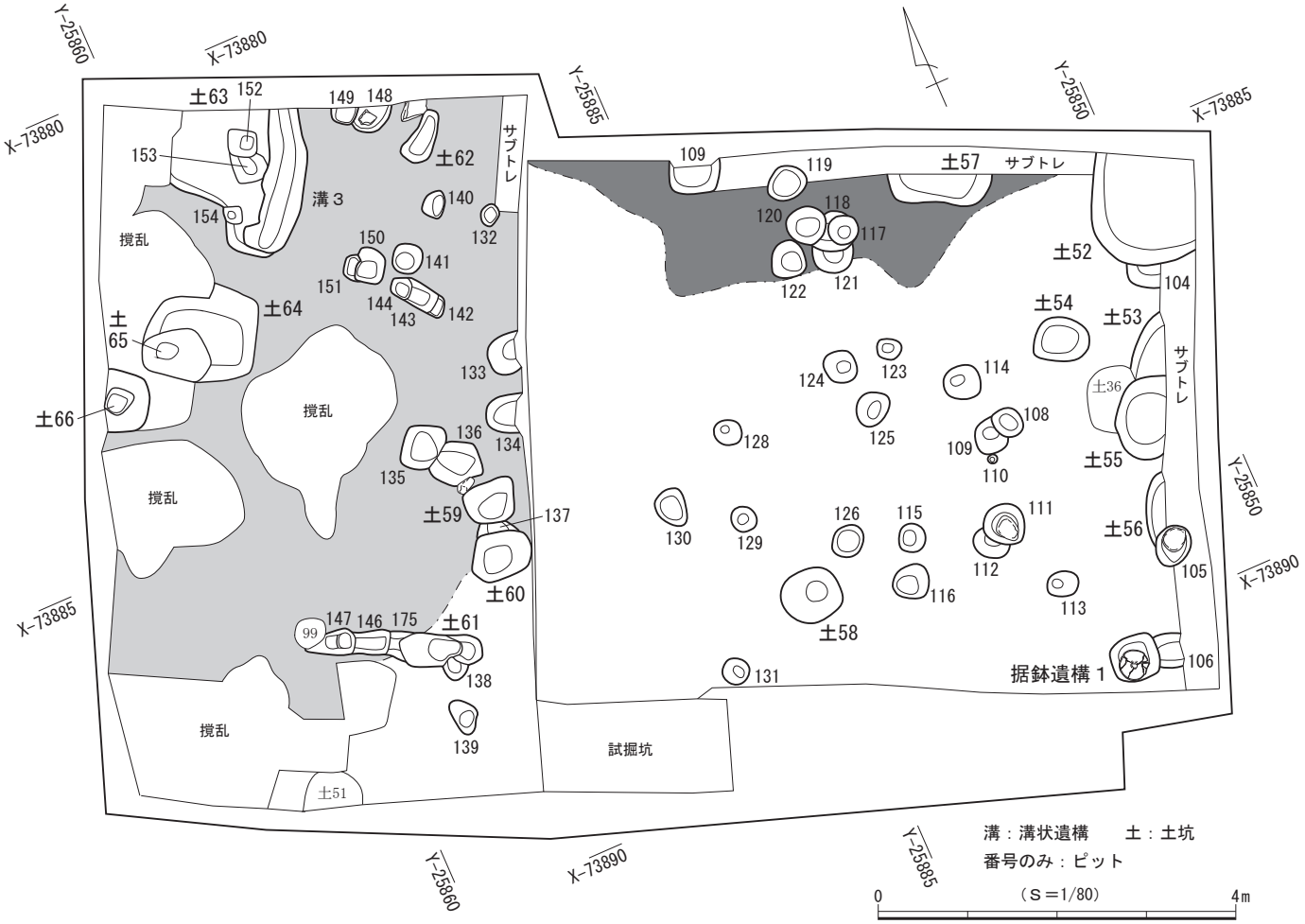


図22　第３面 遺構分布図

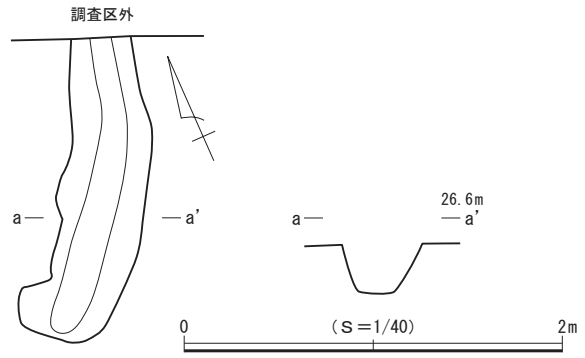


図23　第３面 溝状遺構３

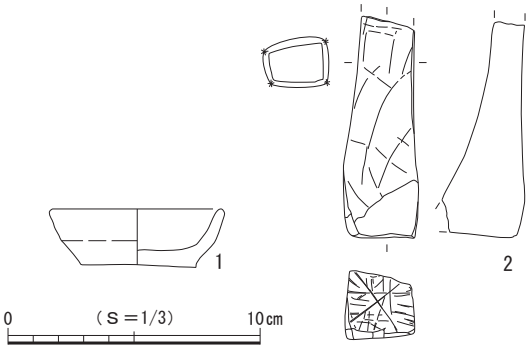


図24　第３面 溝状遺構３出土遺物

逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、底面の標高は26.21ｍを測る。

出土遺物（図24）

遺物はかわらけ11点、陶器２点、瓦１点、石製品２点が出土し、このうち２点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２は砥石である。

（２）据鉢遺構

据鉢遺構１（図25）

調査区の南東隅に位置する。東側でピット106と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形が隅丸方形を呈する掘り方に、底部を欠損する片口鉢を正位に埋設している。埋設位置は南壁寄りで、底面のほぼ直上に据えられている。掘り方の底面は平らで、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸53㎝、短軸50㎝、深さ20㎝で、底面の標高は25.90ｍを測る。

出土遺物（図26）

遺物はかわらけ１点、陶器１点、金属製品１点が出土し、このうち２点を図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅱ類で９～10型式に比定される。２は銭貨で熙寧元寶（1068年初鋳）である。

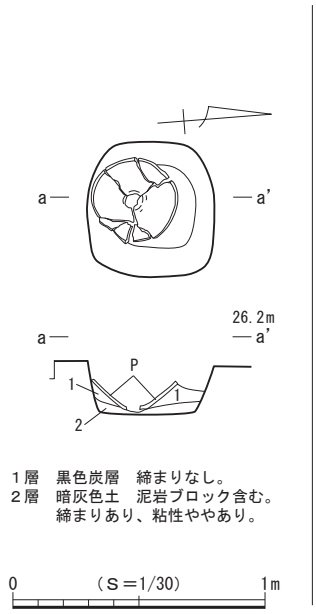


図25　第３面 据鉢遺構１

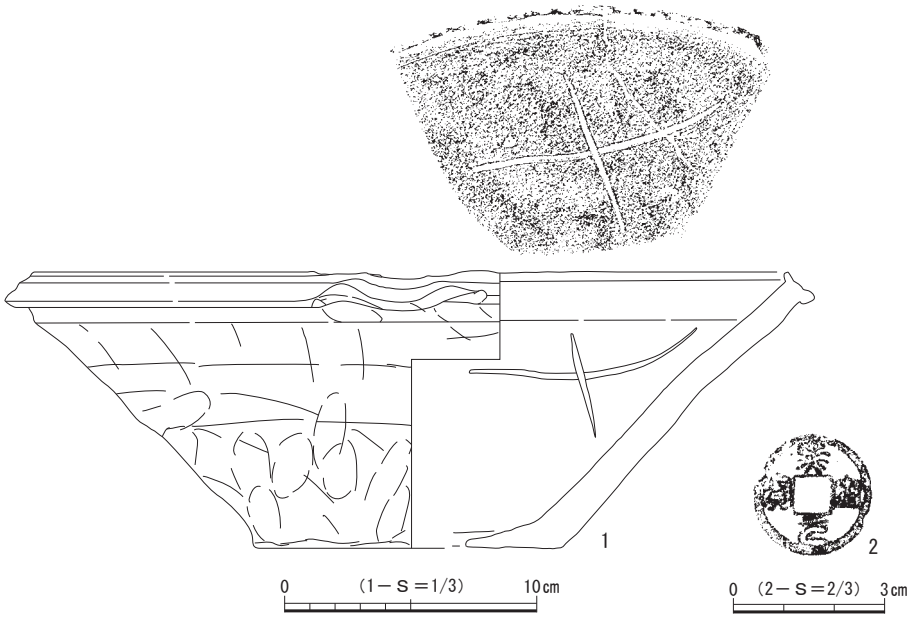


図26　第３面 据鉢遺構１出土遺物

（3）土　坑

土坑52（図30）

調査区の北東隅に位置する。南側でピット104と重複して大半を壊し、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長1.52m、東西現存長1.40m、深さ31cmで、坑底面の標高は25.86mを測る。

出土遺物（図27）

遺物はかわらけ７点、陶器２点が出土し、このうち１点を図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅱ類で９～10型式に比定される。

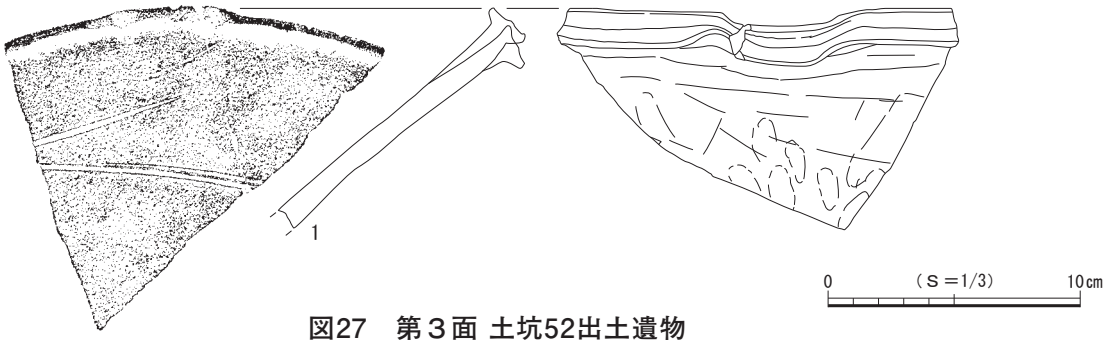


図27　第３面 土坑52出土遺物

土坑53（図30）

調査区東壁際の中央付近に位置する。南側で土坑55と重複して大半が壊され、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長80cm、東西現存長40cm、深さ14cmで、坑底面の標高は26.06mを測る。

遺物はかわらけ３点、陶器４点が出土した。

土坑54（図30）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61cm、短軸49cm、深さ12cmで、坑底面の標高は26.18mを測る。主軸方位はＮ－59°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑55（図30）

調査区東壁際の中央に位置する。北側で土坑53と重複して壁と底面の一部を壊し、東側が調査区外へと続いているが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸93cm、短軸現存長53cm、深さ31cmで、坑底面の標高は25.60mを測る。主軸方位はＮ－29°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ10点、陶器１点が出土した。

土坑56（図30）

調査区東壁際の中央南側に位置する。南側でピット105と重複して壁の一部が壊され、東側が調査区

外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長80㎝、東西現存長20㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は26.10ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑57（図30）

調査区北壁際の東側に位置する。北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形あるいは不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長31㎝、南北現存長1.16ｍ、深さ20㎝で、坑底面の標高は25.97ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑58（図30）

調査区中央の南側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸68㎝、短軸63㎝、深さ30㎝で、坑底面の標高は25.87ｍを測る。

出土遺物（図28）

遺物はかわらけ２点、陶器３点、金属製品１点が出土し、このうち４点を図示した。

１～３は瀬戸産の陶器である。１・２は平碗で古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅲ期、３は直縁大皿で古瀬戸後期様式Ⅳ期に比定される。４は銭貨で大観通寶（1107年初鋳）である。

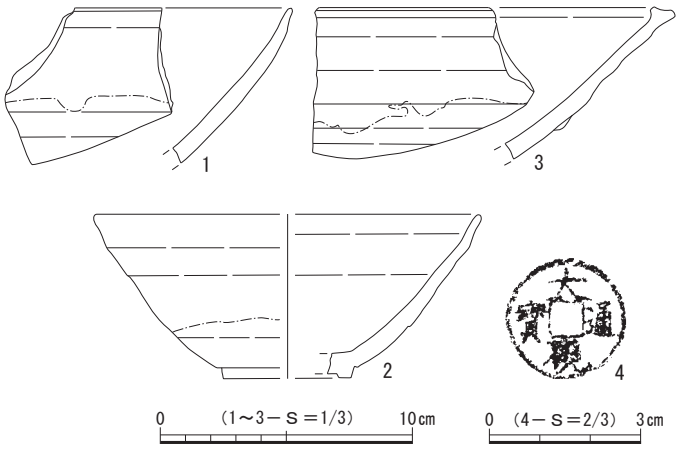


図28　第３面 土坑58出土遺物

土坑59（図30）

調査区中央の西側に位置する。南側でピット137と重複して壁の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、北壁側がより大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸50㎝、深さ26㎝で、坑底面の標高は26.31ｍを測る。主軸方位はＮ－84°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ６点、金属製品１点が出土した。

土坑60（図30）

調査区中央の西側に位置する。北側でピット137と重複して壁と底面を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、東壁側がより大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸71㎝、短軸54㎝、深さ32㎝で、坑底面の標高は26.27ｍを測る。主軸方位はＮ－75°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑61（図30）

調査区の南西側に位置する。南側でピット138、西側でピット175と重複して壁と底面を壊している。平面形は長楕円形を呈し、底面は緩やかに湾曲して東側が深くなる。断面形は皿状を呈し、東側はテラス状の段をもつ。規模は長軸92㎝、短軸24～34㎝、深さ14㎝、テラス部の深さは８㎝を測る。主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。

出土遺物（図29）

遺物はかわらけ６点、陶器１点、土師質・瓦質土器１点、金属製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅱ類で８～９型式に比定される。

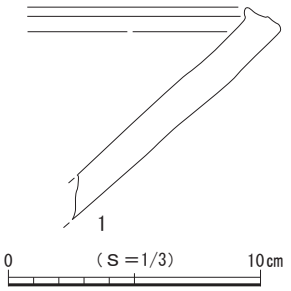


図29　第３面 土坑61出土遺物

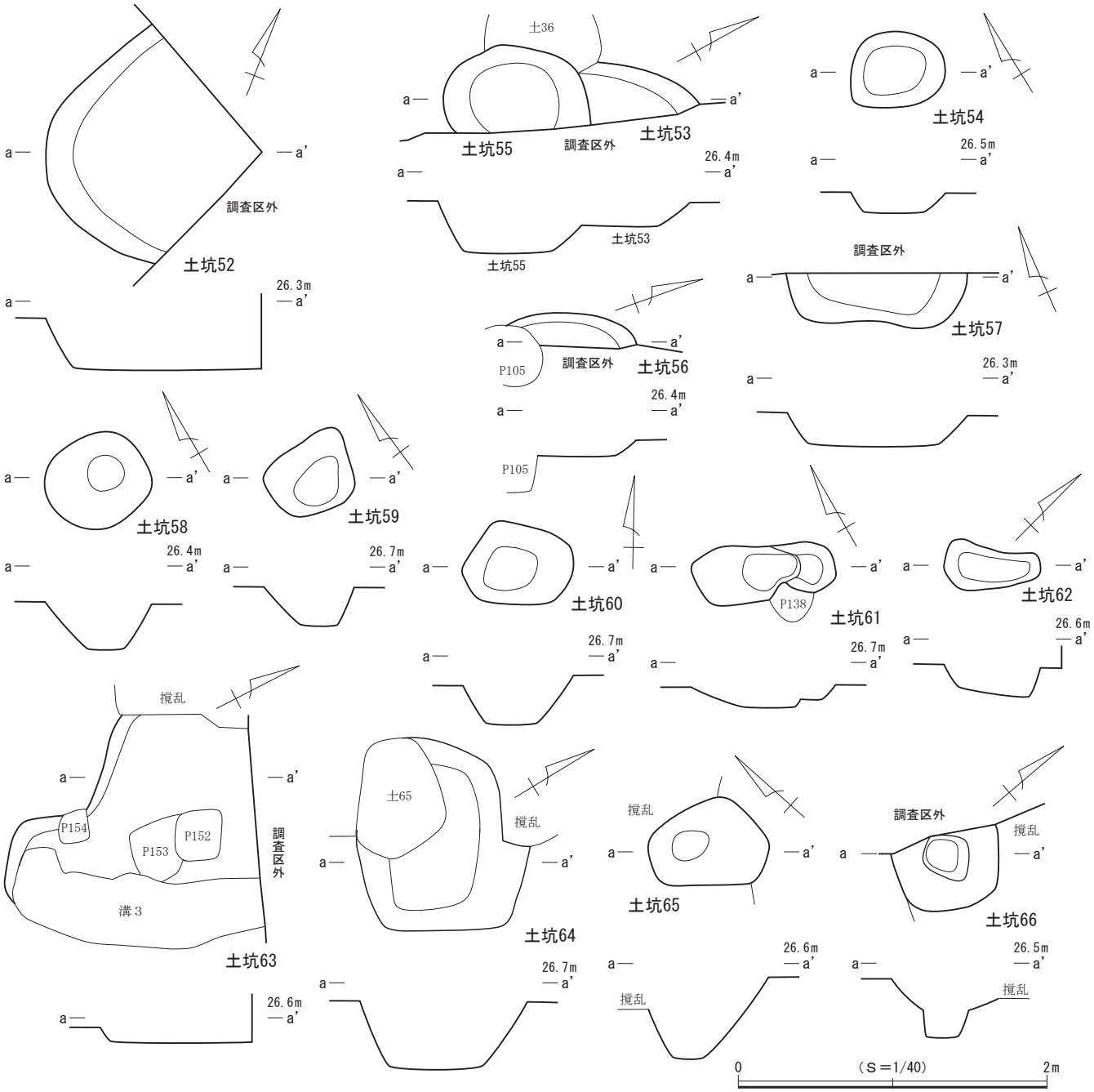


図30　第３面 土坑52～66

土坑62（図30）

調査区の北西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面は北東側に向かって傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61㎝、短軸18～34㎝、深さ11～20㎝で、坑底面の標高は最も低い北東側で25.23ｍを測る。主軸方位はＮ－49°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑63（図30）

調査区の北西隅に位置する。東側で溝状遺構３、南側でピット154、中央付近でピット152・153と重複して壁と底面の一部が壊されている。また、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形と推定される。規模は南北現存長1.90ｍ、東西現存長1.02ｍ、深さ８㎝で、坑底面の標高は26.44ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑64（図30）

調査区の北西側に位置する。西側で土坑65と重複して壁と底面の一部が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整隅丸方形と考えられ、底面はわずかに湾曲して中央部が窪む。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.20ｍ、南北現存長1.08ｍ、深さ43㎝で、坑底面の標高は26.15ｍを測る。主軸方位はＮ－57°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ13点、陶器１点が出土した。

土坑65（図30）

調査区西壁際の中央に位置する。東側で土坑64と重複して壊し、西側の上面が撹乱によって失われているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸78㎝、短軸60㎝、深さ51㎝で、坑底面の標高は25.99ｍを測る。主軸方位はＮ－50°－Ｗを指す。

出土遺物（図31）

遺物はかわらけ６点、磁器２点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅳ類に比定される。

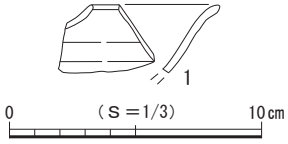


図31　第３面 土坑65出土遺物

土坑66（図30）

調査区西壁際の中央に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は下位では真っすぐに立ち上がり、中位で屈曲して大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長67㎝、東西現存長50㎝、深さ38㎝で、坑底面の標高は26.03ｍを測る。

遺物は陶器７点が出土した。

（４）ピット（図32）

第３面では、50基を検出した。調査区の全域に疎らに分布し、重複するものもあるが調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、隅丸方形を基調とし、規模は長軸10～57cm、深さ７～60cmを測る。50基のうち２基のピット（ピット105・111）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ35cmと40cmの大形礫を用いており、上面の標高は25.96mと26.01mを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図32に図示した。

遺物は50基中、16基（ピット105～107・116・118・120・123・125・127・128・134～136・143・147・150）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）を参照されたい。

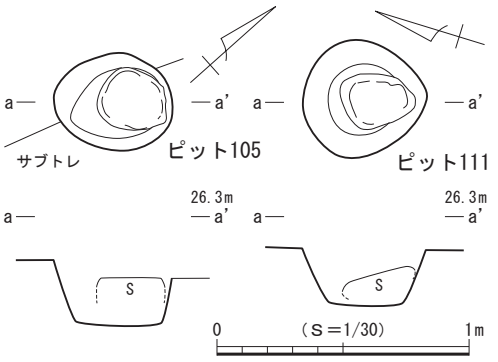


図32　第３面ピット105・111

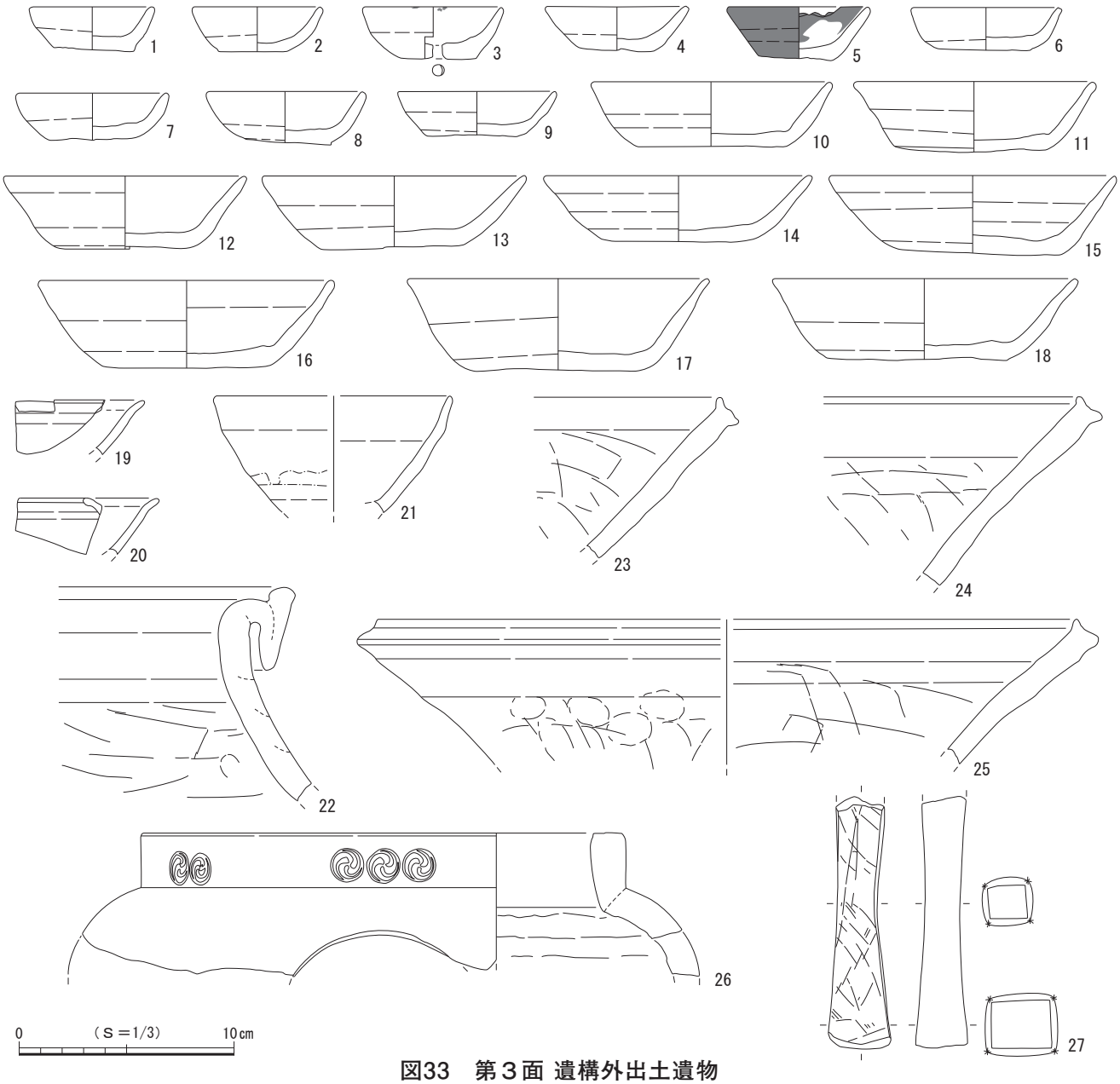


図33　第３面 遺構外出土遺物

（５）第３面 遺構外出土遺物（図33）

第３面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち27点を図示した。

１～18はロクロ成形によるかわらけで、３・５の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。19・20は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅳ類に比定される。21は瀬戸産の天目茶碗で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期に比定される。22～25は常滑産の陶器類である。22は甕で６ｂ～７型式、23～25は片口鉢Ⅱ類で９～10型式に比定される。26は土師質・瓦質土器の風炉である。27は砥石である。

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の６層上面で検出され、確認面の標高は26.1～26.2ｍを測る。６層は多量の泥岩ブロックによる整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構２条、土坑９基、ピット30基である（図34）。これらの遺構分布は調査区全域に及んでいるが、遺構密度は疎らである。調査区中央付近に火鉢（図39－16・17）がまとまって出土したが、掘り込みは確認されなかったため遺構名称は付さず、遺構外出土遺物として扱った。また、調査区の西側は明瞭な整地面が広がっており、調査区北壁際の東西６ｍ、南北1.5ｍの範囲には炭化物の分布が認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は15世紀前葉頃に属すると考えられる。

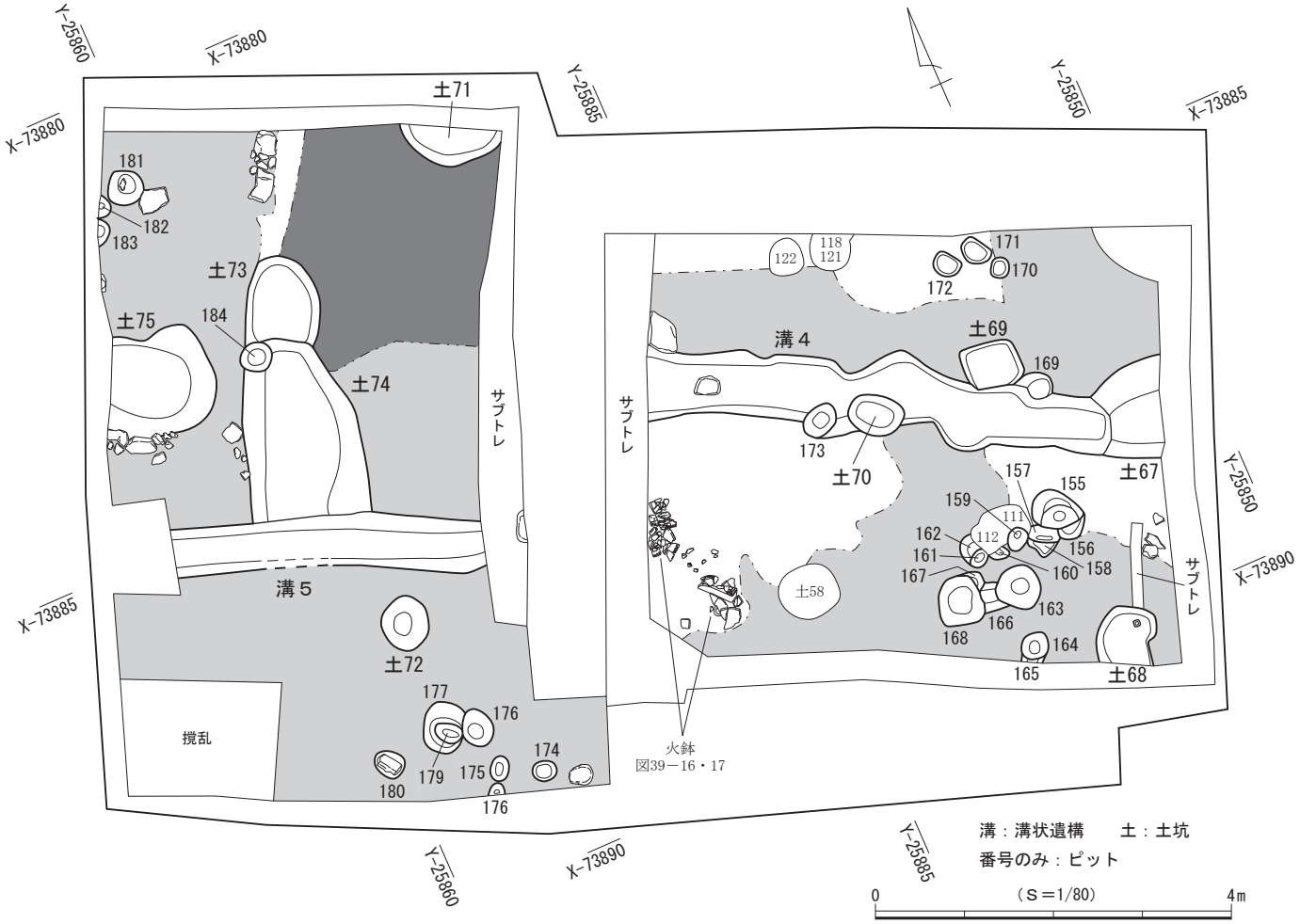


図34　第４面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構４（図35）

調査区東側の中央に位置する。東側に凹凸がみられるが、おおむね直線的に東西方向に延びている。端部は東側が調査区内に収まり、西側が調査区の境となるため様相は判然としない。土坑70、ピット169・173と重複して壁の一部が壊され、土坑69と重複して南側を壊している。検出した規模は現存長約5.2m、幅60～90㎝、深さ10～15㎝を測る。主軸方位はＮ－61°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、底面の標高は西側で25.89m、東側で25.91ｍを測る。

遺物はかわらけ136点、陶器10点、土師質・瓦質土器２点、石製品１点が出土した。

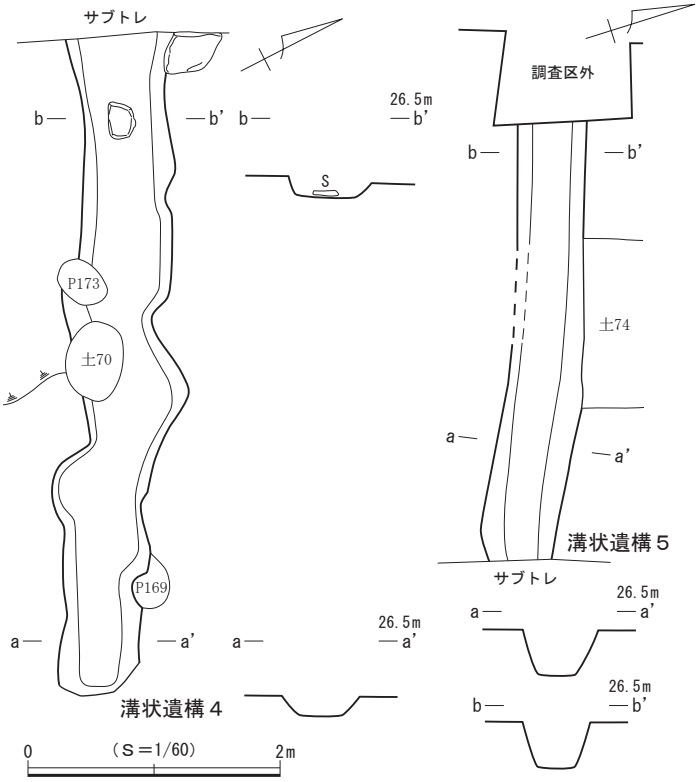


図35　第４面 溝状遺構４・５

溝状遺構５（図35）

調査区西側の中央南寄りに位置する。直線的に東西方向に延びており、端部は東側が調査区の境となり、西側が撹乱によって壊されるため様相は判然としない。中央付近で土坑74と重複して南側を壊している。検出した規模は現存長約3.5m、幅50～60㎝、深さ30～36㎝を測る。主軸方位はＮ－70°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、底面の標高は東西側とも26.00ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（２）土　坑

土坑67（図36）

調査区東壁際の中央に位置する。西側を溝状遺構４によって壊され、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長88㎝、短軸1.16ｍ、深さ18㎝で、坑底面の標高は25.91ｍを測る。主軸方位はＮ－73°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ18点が出土した。

土坑68（図36）

調査区の南東隅に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長64㎝、東西58～64㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は25.92ｍを測る。主軸方位はＮ－23°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ10点が出土した。

土坑69（図36）

調査区の東側に位置する。南側が溝状遺構４とピット169によって壊されているが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると略隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63㎝、短軸現存長50㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は25.98ｍを測る。主軸方位はＮ－84°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ４点が出土した。

土坑70（図36）

調査区の中央東側に位置する。溝状遺構４と重複して南壁と底面の一部を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸60㎝、短軸45㎝、深さ22㎝で、坑底面の標高は25.82ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑71（図36）

調査区北壁際の西側に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長44㎝、東西現存長1.14ｍ、深さ18㎝で、坑底面の標高は26.07ｍを測る。

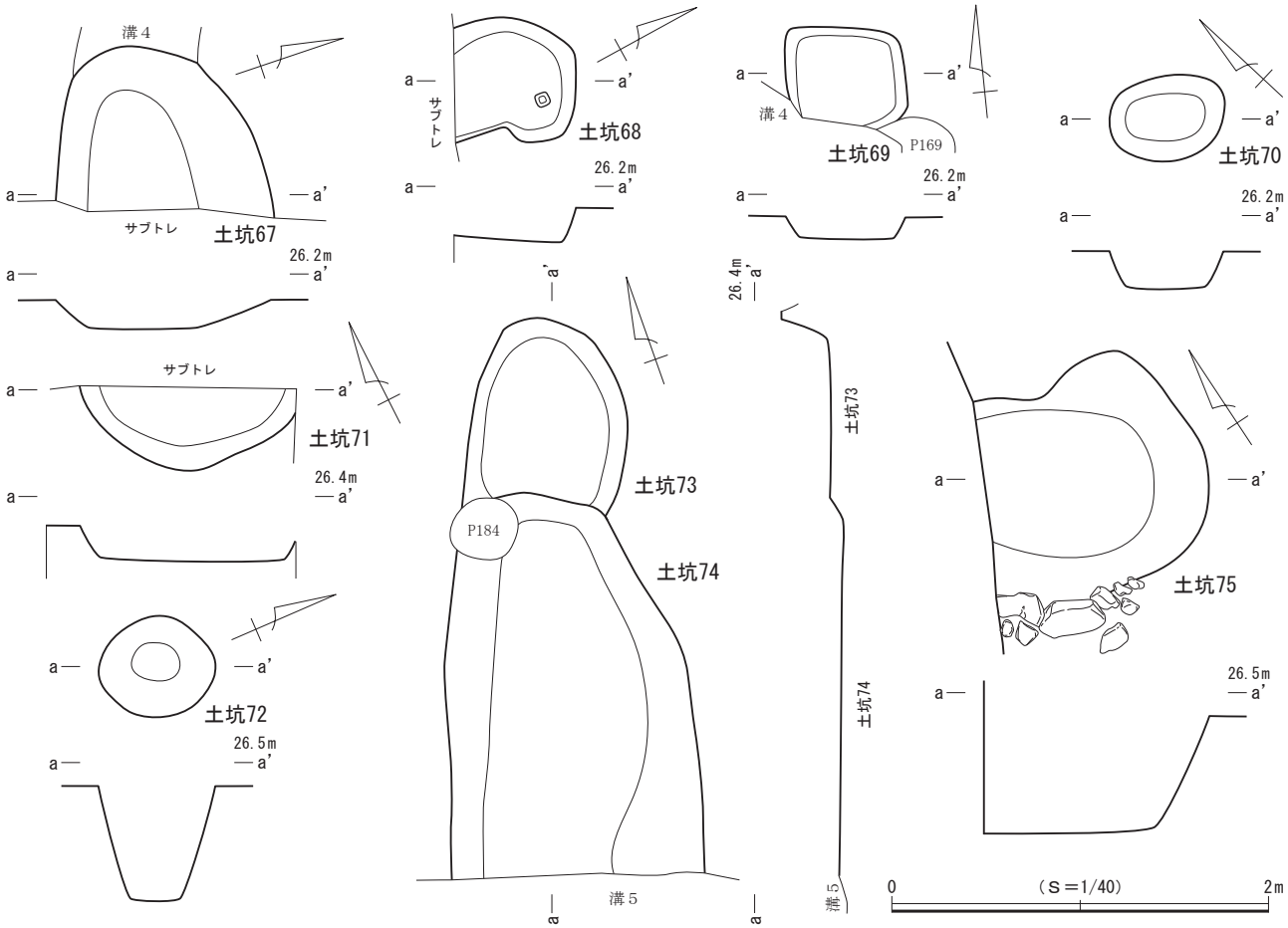


図36　第４面 土坑67～75

出土遺物（図37）

遺物は陶器１点が出土し、それを図示した。

１は瀬戸産の縁釉小皿で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅳ期に比定される。

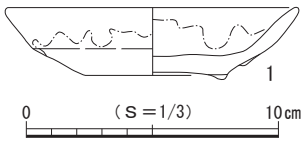


図37　第４面 土坑71出土遺物

土坑72（図36）

調査区南西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。

平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸53㎝、深さ61㎝で、坑底面の標高は25.78ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑73（図36）

調査区の北西側に位置する。南側で土坑74と重複して壁が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長93㎝、短軸83㎝、深さ30㎝で、坑底面の標高は26.00ｍを測る。主軸方位はＮ－26°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑74（図36）

調査区西側の中央に位置する。北側で土坑73と重複して壊し、南側で溝状遺構５と重複して壁と底面を壊されているが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると略長楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長2.03ｍ、短軸0.95～1.34ｍ、深さ12㎝で、坑底面の標高は25.93ｍを測る。主軸方位はＮ－20°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑75（図36）

調査区西壁際の中央付近に位置する。西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北西－南東方向の現存長1.19ｍ、北東－南西方向の現存長1.09～1.22ｍ、深さ60㎝で、坑底面の標高は25.77ｍを測る。主軸方位はＮ－58°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ17点、陶器３点、土師質・瓦質土器２点、石製品１点が出土した。

（３）ピット

第４面では、30基を検出した。調査区の南東側と南西側に若干の集中が認められるが、調査区全域にわたって疎らに分布し、中央付近にはみられなかった。礎石や礎板を伴うピットは検出されず、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸14～58㎝、深さ６～68㎝を測る。

出土遺物（図38）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）に掲げたが、このうち３点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は常滑産の片口鉢Ⅱ類で10型式に比定される。すべてピット175から出土した。

（4）第4面 遺構外出土遺物（図39）

第4面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち19点を図示した。

1～10はロクロ成形によるかわらけである。11・12は瀬戸産の陶器類である。11は卸皿で古瀬戸後期様式、12は直縁大皿で古瀬戸後期様式Ⅳ期に比定さ

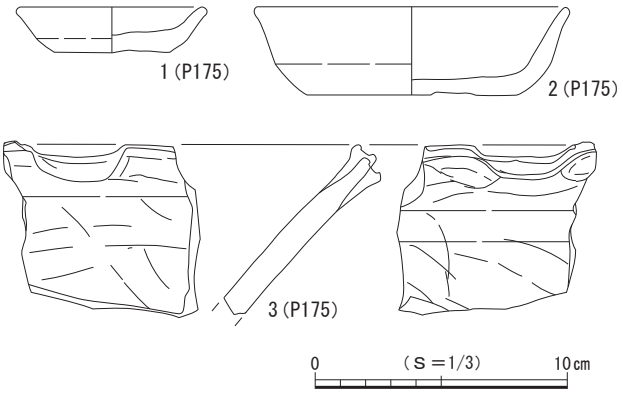


図38　第4面 ピット出土遺物

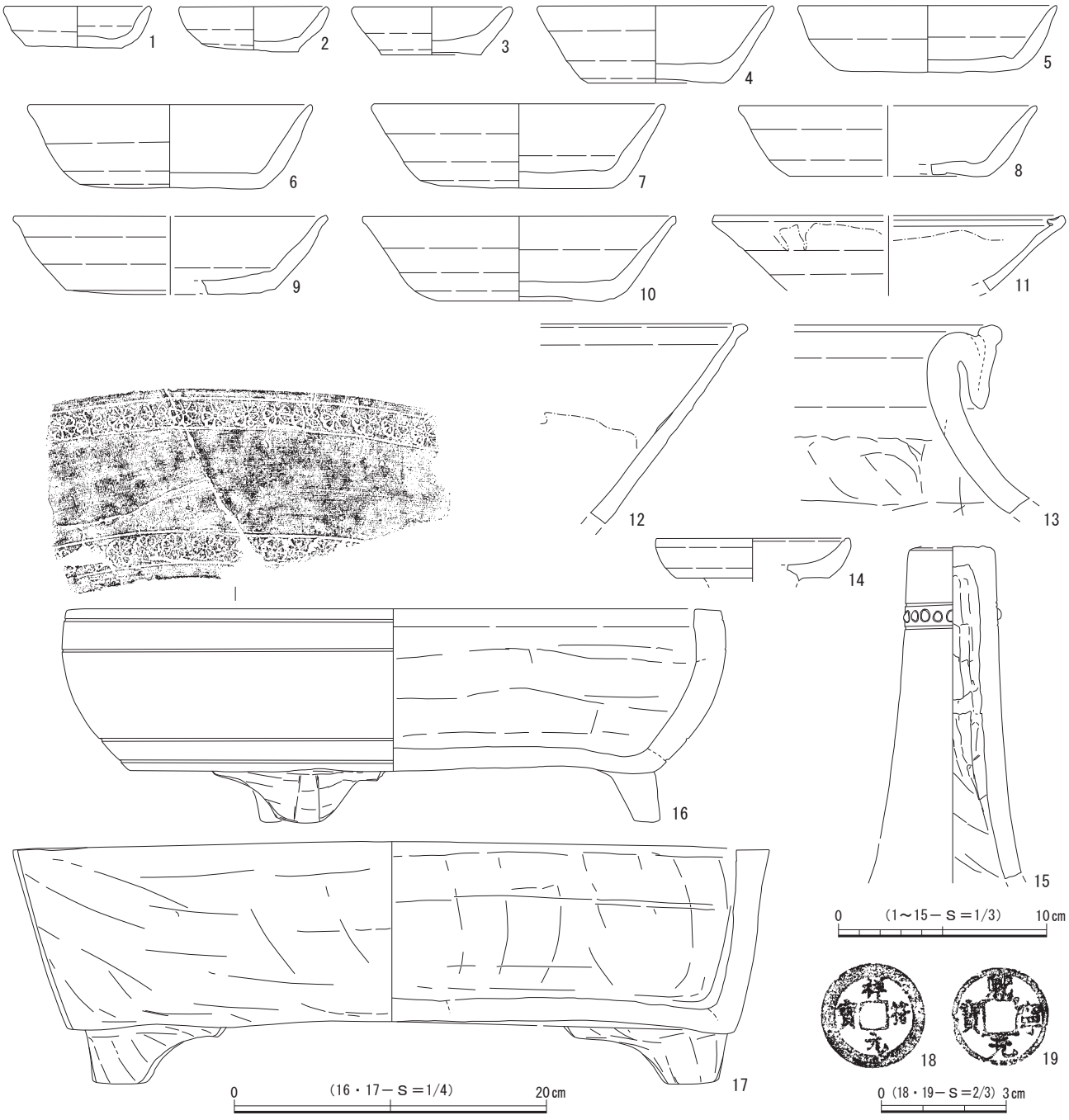


図39　第4面 遺構外出土遺物

れる。13は常滑産の甕で７～８型式に比定される。14～17は土師質・瓦質土器である。14・15は燭台と思われる破片、16・17は大型の火鉢である。18・19は銭貨で、18は祥符元寶（1008年初鋳）、19は熙寧元寶（1068年初鋳）である。

（５）第４面 構成土出土遺物（図40）

第４面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち５点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけで、１の口縁部から内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。３・４は瀬戸産の陶器類である。３は直縁大皿で古瀬戸後期様式Ⅲ期、４は袴腰形香炉で古瀬戸後期様式に比定される。５は土師質・瓦質土器の仏花瓶と思われる製品である。

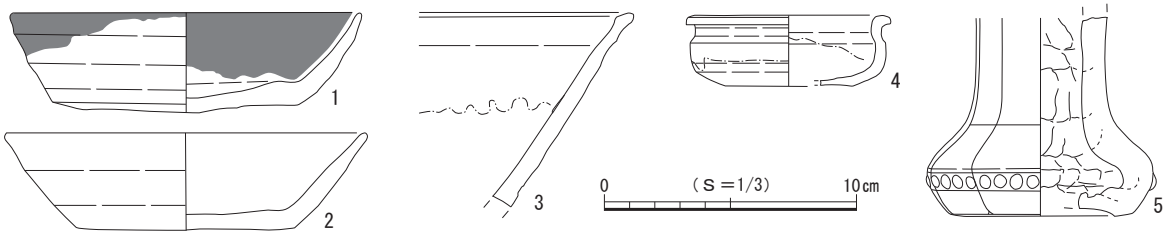


図40　第４面 構成土出土遺物

第５節　第５面の遺構と遺物

第５面の遺構は堆積土層の７層上面で検出され、確認面の標高は約26.0ｍを測る。７層は少量の泥岩粒と多量の炭化物を含む黒茶色粘質土を主体とする炭層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑９基、ピット59基である（図41）。これらの遺構は調査区東側に集中して分布し、中には重複するものも確認されたが、西側からはピット６基が検出されたのみである。なお、調査区の中央から北側にかけて明瞭な整地面が広がっていた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀末～15世紀前葉頃に属すると考えられる。

（１）土　坑

土坑76（図42）

調査区の北東側に位置する。西側で土坑77と重複して壁と底面を壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸76㎝、短軸70㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は25.81ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑77（図42）

調査区の北東側に位置する。東側で土坑76と重複して壁と底面を壊している。平面形は不整形を呈し、底面は狭くほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63㎝、短軸60㎝、深さ80㎝で、坑底面の標高は25.16ｍを測る。

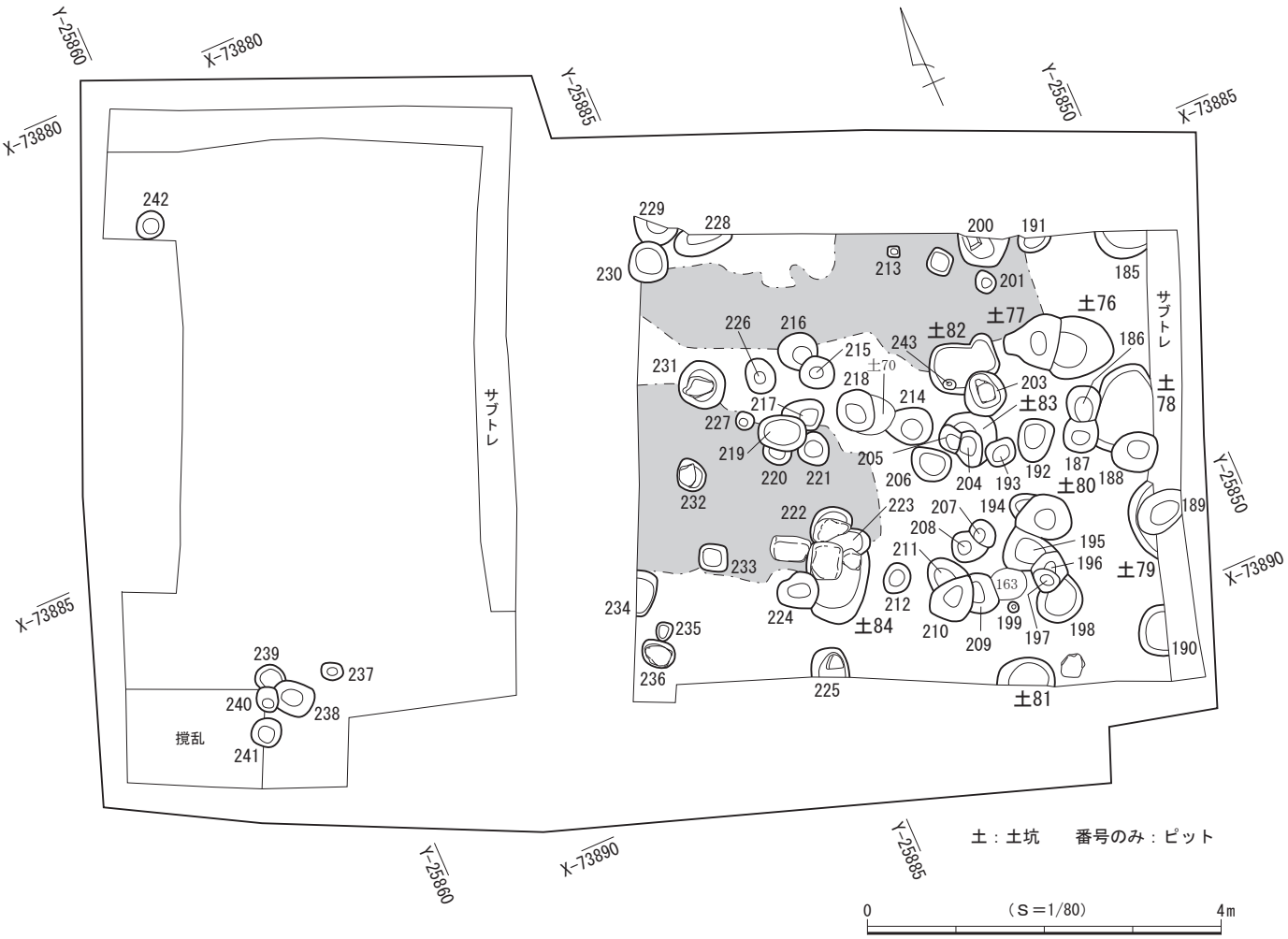


図41　第５面 遺構分布図

遺物は出土しなかった。

土坑78（図42）

調査区東壁際の中央に位置する。西側でピット186・187、南側でピット188と重複して壁の一部が壊され、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.03ｍ、短軸現存長62㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は25.90ｍを測る。主軸方位はＮ－40°－Ｅを指す。

遺物は陶器１点が出土した。

土坑79（図42）

調査区東壁際の中央南側に位置する。ピット189と重複して底面が壊され、東側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長89㎝、東西現存長９㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は25.81ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

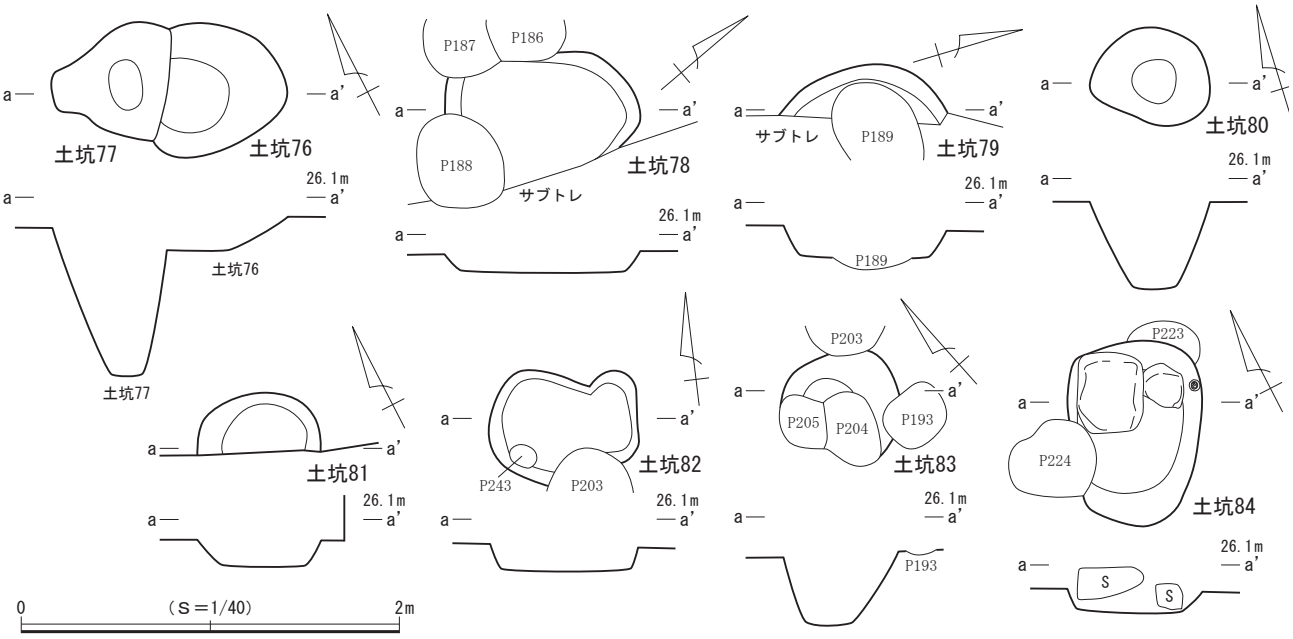


図42　第５面 土坑76～84

土坑80（図42）

調査区の南東側に位置する。西側でピット194、南側でピット195と重複して壁の一部や底面を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸52㎝、深さ47㎝で、底面の標高は25.52ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑81（図42）

調査区南壁際の東側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形ないし楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長31㎝、東西65㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は25.85ｍを測る。

遺物はかわらけ５点が出土した。

土坑82（図42）

調査区の北東側に位置する。南側でピット203・243と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77㎝、短軸現存長40㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は25.84ｍを測る。主軸方位はＮ－83°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ９点、陶器２点が出土した。

土坑83（図42）

調査区東側の中央付近に位置する。南側でピット193・204・205と重複して壁と底面を壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63㎝、短軸現存長39㎝、深さ40㎝

で、坑底面の標高は25.54ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑84（図42）

調査区中央の南側に位置する。北側でピット223と重複して上面が壊され、西側でピット224と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸97㎝、短軸70㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は25.85ｍを測る。主軸方位はＮ－34°－Ｅを指す。北壁寄りの底面付近から長さ24㎝と41㎝の礫が出土し、礎石の可能性も推定される。

出土遺物（図43）

遺物はかわらけ５点、石製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は砥石である。

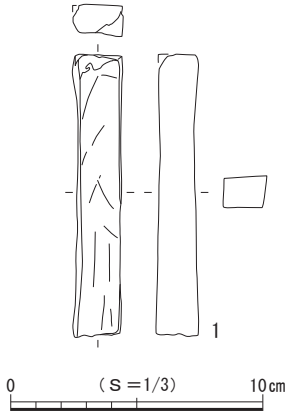


図43　第５面 土坑84出土遺物

（２）ピット（図45）

第５面では、59基を検出した。調査区の東側に密集して分布するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、隅丸方形を基調とし、規模は長軸12～58㎝、深さ７～59㎝を測る。59基のうち６基のピット（ピット200・203・225・231・232・236）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ15～35㎝で、上面の標高は25.78～26.06ｍを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図45に図示した。

出土遺物（図44）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）に掲げたが、このうち11点を図示した。

１は土師質・瓦質土器の仏花瓶である。２～５・７・９・11はロクロ成形によるかわらけで、２・９の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。10は龍泉窯系青磁の盤である。６・８は銭貨で、６は紹聖元寶（1094年初鋳）、８は皇宋通寶（1038年初鋳）である。

１はピット189、２はピット190、３はピット192、４はピット193、５はピット200、６はピット211、７はピット214、８はピット222、９はピット229、10はピット235、11はピット240からそれぞれ出土した。

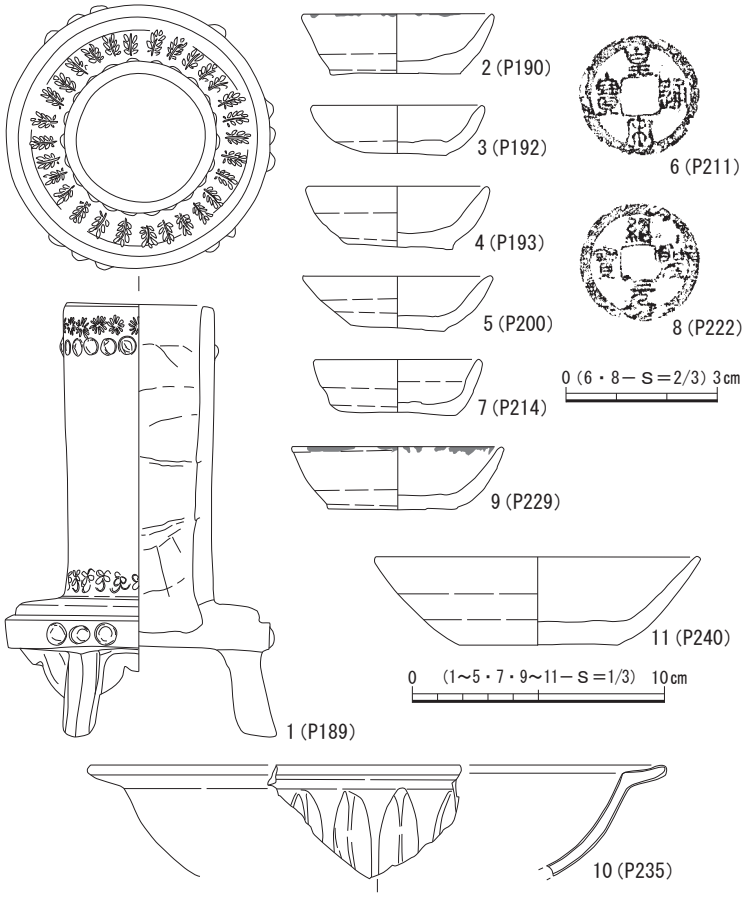


図44　第５面 ピット出土遺物

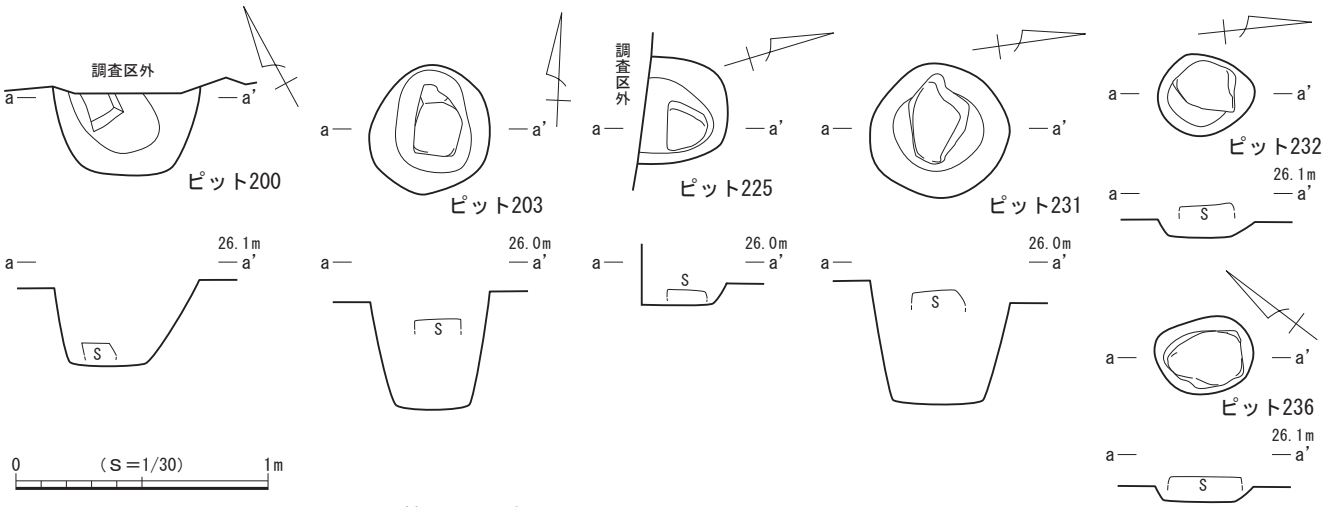


図45　第５面 ピット200・203・225・231・232・236

（３）第５面 遺構外出土遺物（図46）

第５面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち29点を図示した。

１～12はロクロ成形によるかわらけで、１・３・４の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。13～21は瀬戸産の陶器類である。13は碗形鉢で古瀬戸後期様式Ⅲ期、14～16は平碗で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期、17・18は折縁深皿で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期、19は卸皿で古瀬戸後期様式、20・21は縁釉小皿で古瀬戸後期様式Ⅲ期に比定される。22～29は銭貨で、22は開元通寶（621年初鋳）、23は祥符元寶（1008年初鋳）、24は至和通寶（1054年初鋳）、25～27は熙寧元寶（1068年初鋳）、28は元祐通寶（1086年初鋳）、29は元符通寶（1098年初鋳）である。

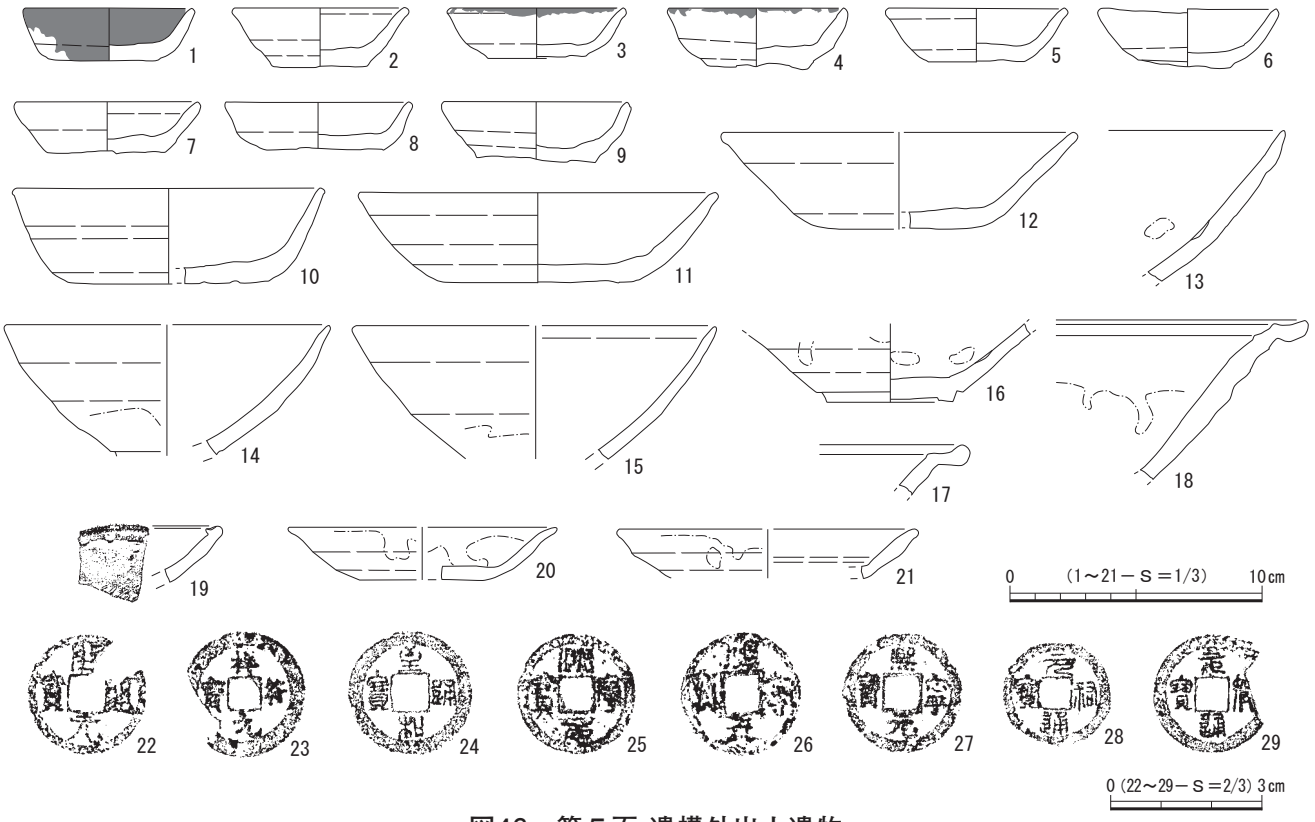


図46　第５面 遺構外出土遺物

第６節　第６面の遺構と遺物

第６面の遺構は堆積土層の８層上面で検出され、確認面の標高は25.8～25.9ｍを測る。８層は多量の泥岩粒を含み、締まりがあり粘性の強い灰茶色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑14基、ピット47基である（図47）。これらの遺構は調査区全域に満遍なく分布し重複するものもあるが、遺構密度は低い。一方で調査区外へ続く遺構もみられることから、遺跡は調査区外に展開するものと推定される。なお、調査区の北西側に南北2.8ｍ、東西1.8ｍの範囲に明瞭な整地面の広がりが認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土している。上面からの混入遺物が若干認められるが、多くの遺物の年代観から本面は14世紀末～15世紀初頭頃に属すると考えられる。

（１）土　坑

土坑85（図48）

調査区の北東隅に位置する。東側でピット244、南側でピット245と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面は平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.15ｍ、短軸65㎝、深さ

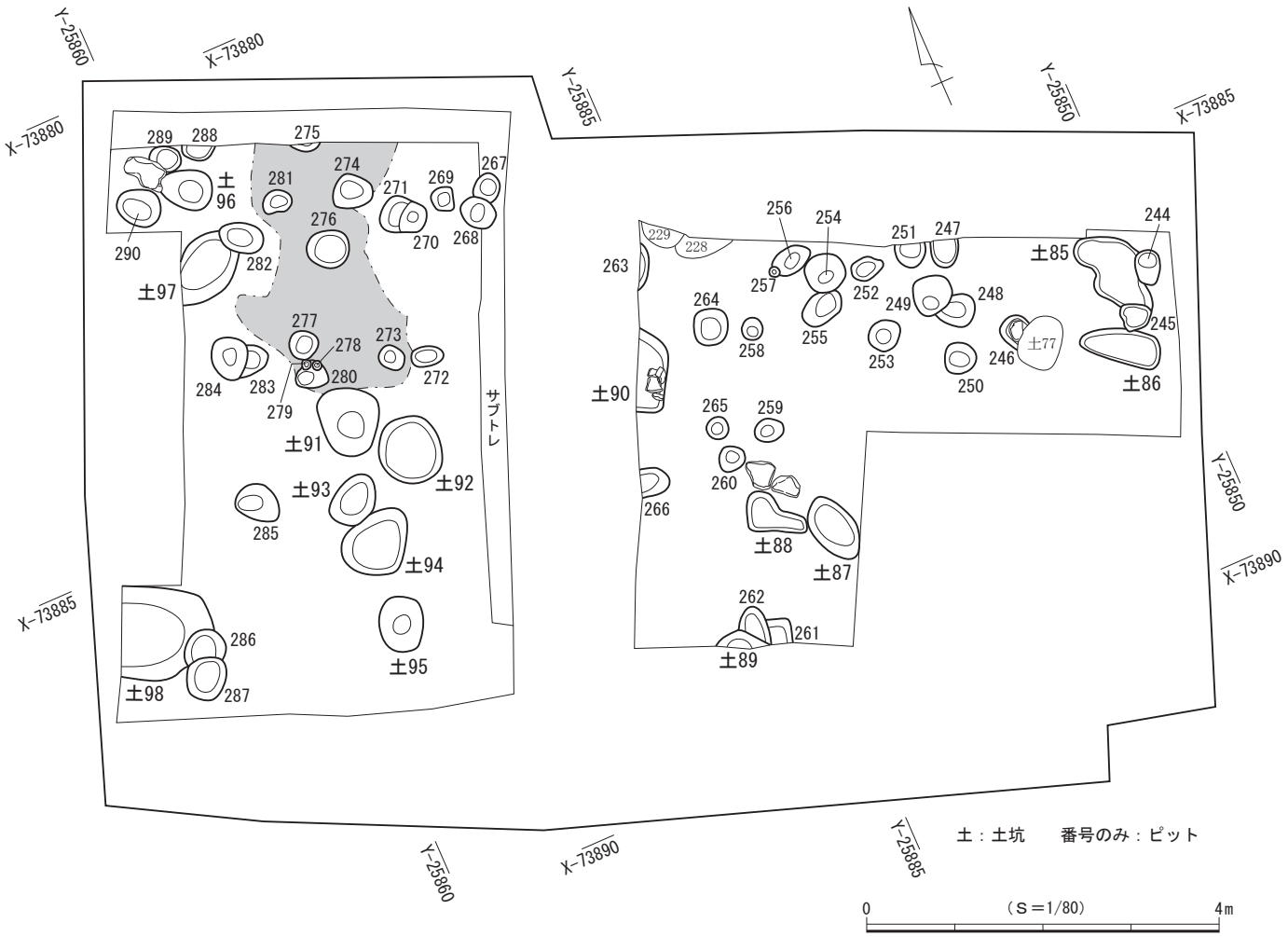


図47　第６面 遺構分布図

12㎝で、坑底面の標高は25.74ｍを測る。主軸方位はＮ－25°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ４点、陶器１点が出土した。

土坑86（図48）

調査区の北東隅に位置する。北側でピット245と重複して壁の一部が壊されるが、全容を把握できた。平面形は長楕円形で、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸93㎝、短軸39㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は25.78ｍを測る。主軸方位はＮ－56°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土した。

土坑87（図48）

調査区中央の東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸80㎝、短軸46㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は25.71ｍを測る。主軸方位はＮ－14°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ４点、陶器１点が出土した。

土坑88（図48）

調査区中央の東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸67㎝、短軸22～45㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は25.77ｍを測る。主軸方位はＮ－62°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ２点、陶器２点が出土した。

土坑89（図48）

調査区南壁際の東側に位置する。北側でピット262と重複して壁と底面の一部を壊し、南側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長20㎝、東西現存長61㎝、深さ31㎝で、坑底面の標高は25.51ｍを測る。

遺物はかわらけ６点が出土した。

土坑90（図48）

調査区中央の北側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長95㎝、東西現存長33㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は25.70ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑91（図48）

調査区西側の中央に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸76㎝、短軸70㎝、深さ29㎝で、坑底面の標高は25.64ｍを測る。主軸方位はＮ－23°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑92（図48）

調査区西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸76㎝、短軸70㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は25.71ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑93（図48）

調査区西側に位置する。南側で土坑94と重複して壁のごく一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸45㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は25.72ｍを測る。主軸方位はＮ－56°－Ｅを指す。

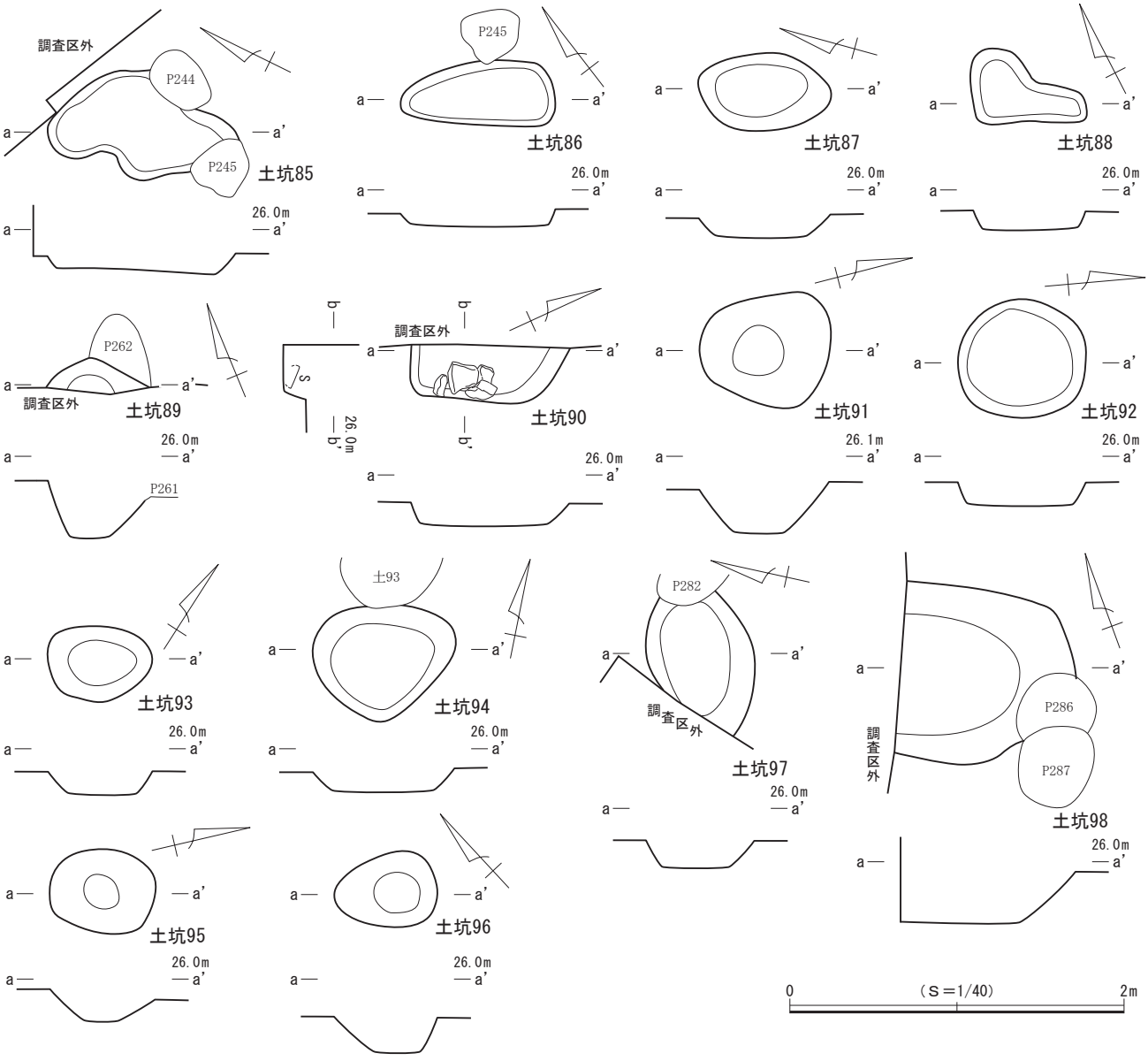


図48　第６面 土坑85～98

出土遺物（図49）

遺物はかわらけ３点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、口縁部から内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

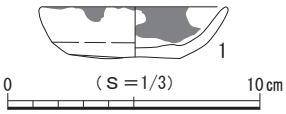


図49　第６面 土坑93出土遺物

土坑94（図48）

調査区西側に位置する。北側で土坑93と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸85cm、短軸69cm、深さ14cmで、坑底面の標高は25.75ｍを測る。主軸方位はＮ－56°－Ｅを指す。

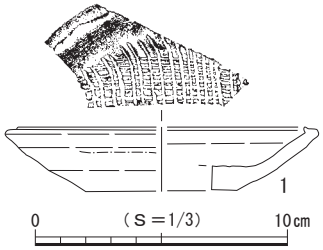


図50　第６面 土坑94出土遺物

出土遺物（図50）

遺物はかわらけ22点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は瀬戸産の卸皿で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期に比定される。

土坑95（図48）

調査区南壁付近の西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63cm、短軸50cm、深さ19cmで、坑底面の標高は25.71ｍを測る。主軸方位はＮ－25°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑96（図48）

調査区の北西隅に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸60cm、短軸44cm、深さ21cmで、坑底面の標高は25.58ｍを測る。主軸方位はＮ－47°－Ｗを指す。

遺物は陶器１点が出土した。

土坑97（図48）

調査区の北西隅に位置する。東側でピット282と重複して壁の一部が壊され、西側が調査区外へ続いているが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると略長楕円形と考えられ、底面は平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長89cm、短軸63cm、深さ16cmで、坑底面の標高は25.65ｍを測る。主軸方位はＮ－70°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ22点、陶器１点が出土した。

土坑98（図48）

調査区の南西隅に位置する。東側でピット286と重複して壁の一部が壊され、西側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.05ｍ、短軸1.05ｍ、深さ32cmで、坑底面の標高は25.63ｍを測る。主軸方位はＮ－70°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ７点、陶器２点が出土した。

（２）ピット（図51）

第６面では、47基を検出した。調査区の北西側から北東側にかけてやや多く分布するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、隅丸方形を基調とし、規模は長軸10～54cm、深さ７～41cmを測る。47基のうち１基のピット（ピット246）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ24cm、幅14cmで、上面の標高は25.90mを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図51に図示した。

遺物は47基中、16基（ピット245・248・250・253・255・259・260・261・263・264・268・270・275・276・285・287）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）を参照されたい。

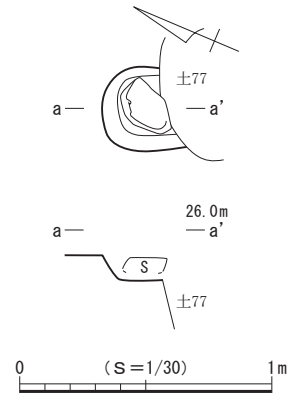


図51　第６面 ピット246

（３）第６面 遺構外出土遺物（図52）

第６面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち20点を図示した。

１～11はロクロ成形によるかわらけで、４の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。12は白磁皿で型押しによる花文が施される。13は白磁合子身である。14・15は瀬戸産の陶

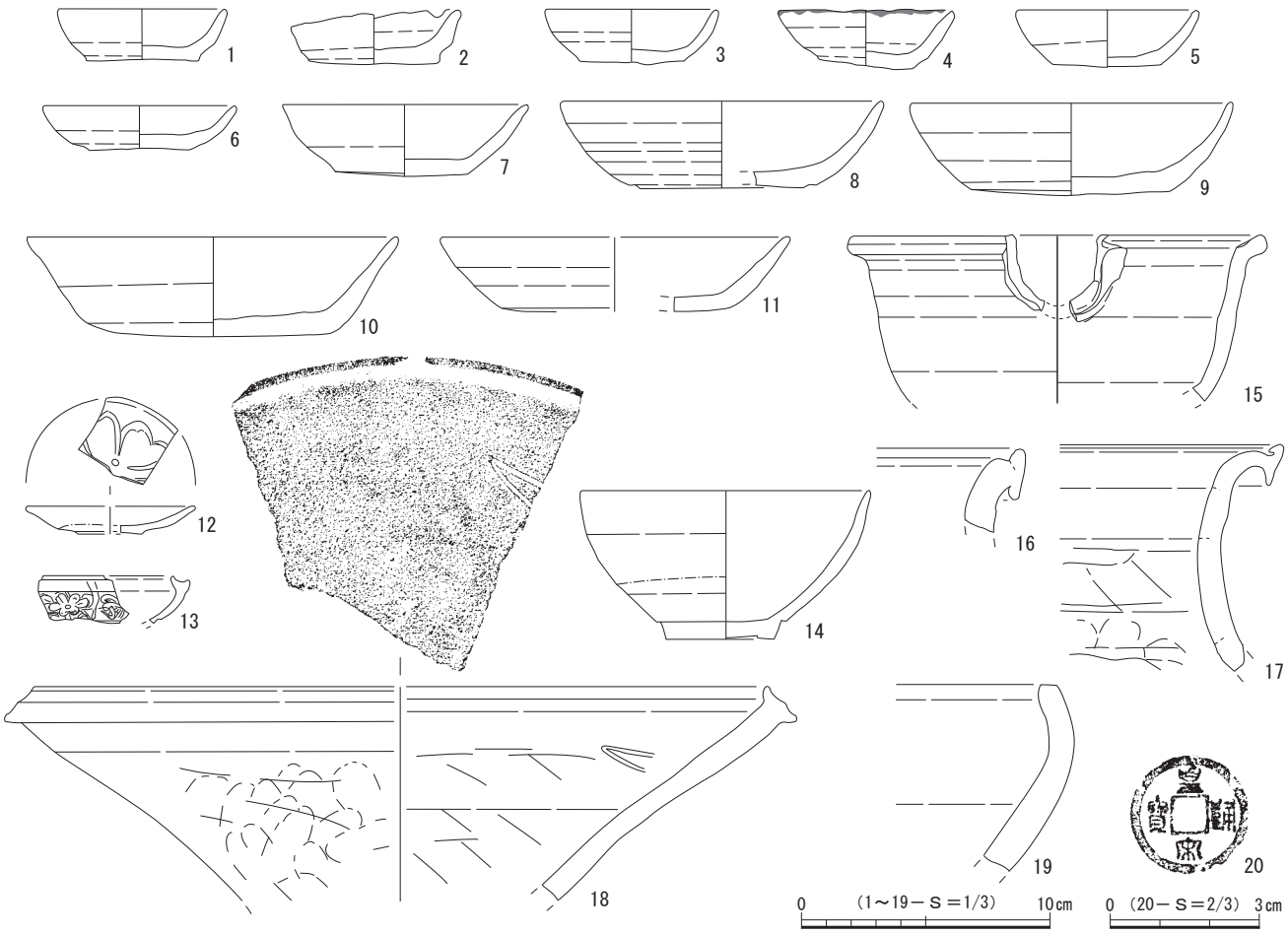


図52　第６面 遺構外出土遺物

器類である。14は天目茶碗で古瀬戸中期様式Ⅳ期～後期様式Ⅰ期、15は柄付片口で古瀬戸中期様式Ⅳ期～後期様式Ⅰ期に比定される。16～18は常滑産の陶器類である。16・17は甕で６ａ型式、18は上面からの混入と考えられる片口鉢Ⅱ類で10型式に比定される。19は土師質・瓦質土器の火鉢である。20は銭貨で皇宋通寶（1038年初鋳）である。

第７節　第７面の遺構と遺物

第７面の遺構は堆積土層の９層上面で検出され、確認面の標高は約25.7ｍを測る。９層は泥岩粒・泥岩ブロックを主体とし、鉄分を含む整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構２条、土坑19基、ピット119基である（図53）。これらの遺構は調査区全域にわたって高い密度で分布し、大型の土坑は調査区西側にまとまり、ピットは調査区東側から中央のやや西側にかけて多く認められた。なお、調査区北西側の南北3.3ｍ、東西3.6ｍの範囲に炭層の広がりが確認された。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土している。上面からの混入遺物が若干認められるが、多くの遺物の年代観から本面は14世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

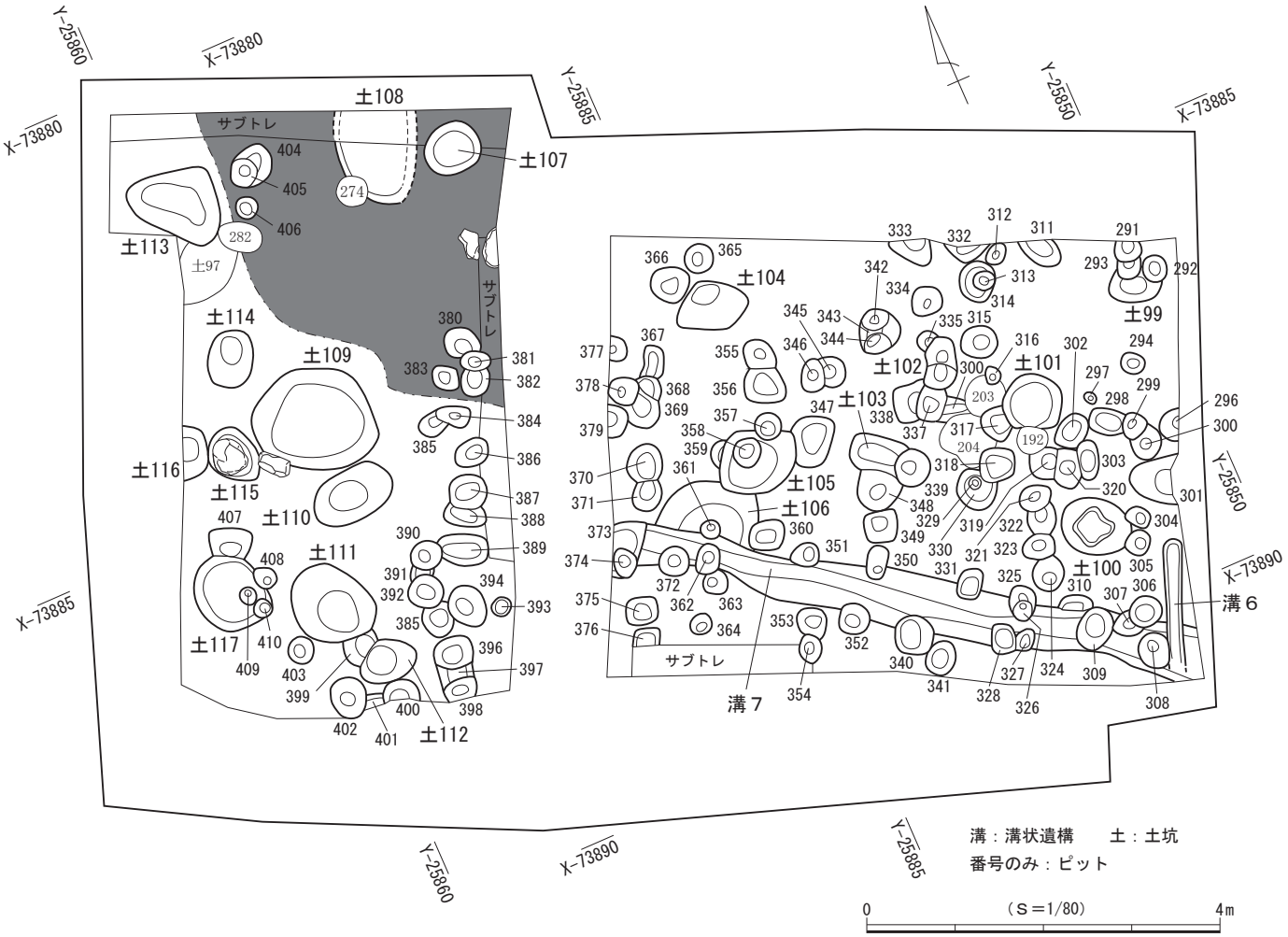


図53　第７面 遺構分布図

（1）溝状遺構

溝状遺構６（図54）

調査区の南東隅に位置する。ほぼ直線的に南側の調査区外へと延びるが、北側の端部は調査区内に収まり、確認することができた。溝状遺構７と重複して壁と底面の一部を壊し、南側でピット308と重複して壁の一部が壊されている。検出した規模は現存長約1.5m、幅20cm、深さ４～９cmを測る。主軸方位はＮ－22°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は25.60mを測る。

遺物は出土しなかった。

溝状遺構７（図54）

調査区の中央南側から南東隅にかけて位置する。わずかに蛇行しながら南東側の調査区外へと延びるが、北西側の端部は調査区境の西側では検出されていないため、調査区内に収まるものと推定される。重複する遺構は、東側から溝状遺構６、ピット306～309、ピット325～328、ピット331、ピット340、ピット350～352、ピット361・362、ピット372～374で、壁や底面の一部が壊されている。また、北西側で土坑106、南東側でピット310と重複してそれぞれの遺構を壊している。検出した規模は現存長約6.4m、幅50～70cm、深さ９～23cmを測る。主軸方位はＮ－55°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は南東側で25.50mを測る。

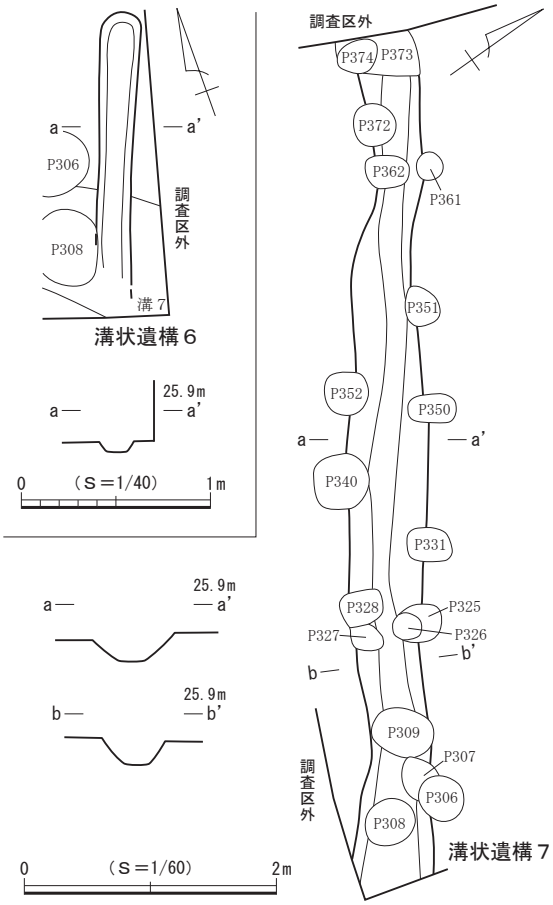


図54　第７面 溝状遺構６・７

遺物はかわらけ21点、陶器２点、瓦１点が出土した。

（2）土　坑

土坑99（図56）

調査区の北東隅に位置する。北側でピット292・293と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61cm、短軸現存長37cm、深さ27cmで、坑底面の標高は25.33mを測る。主軸方位はＮ－59°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑100（図56）

調査区の南東側に位置する。東側でピット304・305と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は下位ではほぼ真っすぐに立ち上がり、中位で屈曲して大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸79cm、短軸64cm、深さ28cmで、坑底面の標高は25.47mを測る。主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。

出土遺物（図55）

遺物はかわらけ４点、土師質・瓦質土器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は土師質・瓦質土器の燭台である。

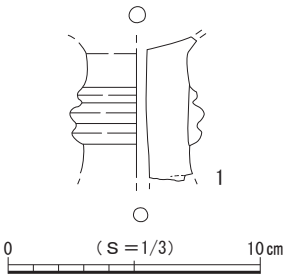


図55　第７面 土坑100出土遺物

土坑101（図56）

調査区の東側に位置する。西側でピット317と重複して壊し、南側でピット192と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸67㎝、短軸現存長61㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は25.53ｍを測る。

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土した。

土坑102（図56）

調査区の東側に位置する。北側でピット335、南側でピット337と重複して壁の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面に段をもち北側が３㎝ほど低くなる。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸60㎝、短軸33㎝、深さ28㎝で、坑底面の標高は北側の低い方で25.30ｍを測る。主軸方位はＮ－31°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑103（図56）

調査区の東側に位置する。東側でピット339、南側でピット348と重複して壁が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は緩やかに湾曲する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると考えられる。規模は長軸現存長63㎝、短軸現存長40㎝、深さ23㎝で、坑底面の標高は25.47ｍを測る。主軸方位はＮ－49°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑104（図56）

調査区中央の北側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はごくわずかに湾曲する。壁は開いて立ち上がり、南壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸82㎝、短軸61㎝、深さ25㎝で、坑底面の標高は25.38ｍを測る。主軸方位はＮ－85°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑105（図56）

調査区のほぼ中央に位置する。東側でピット347、西側でピット359を壊し、ピット357・358によって壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸99㎝、短軸78㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は25.54ｍを測る。主軸方位はＮ－70°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ７点が出土した。

土坑106（図56）

調査区中央の南側に位置する。南側でピット360・361、溝状遺構７と重複して全体の半分近くが壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形ないし略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長60㎝、短軸1.16ｍ、深さ10㎝で、坑底面の標高は25.61ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑107（図56）

調査区の北西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64㎝、短軸57㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は25.47ｍを測る。

遺物はかわらけ６点が出土した。

土坑108（図56）

調査区の北西側に位置する。南側をピット274によって壁の一部が壊され、北側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.06ｍ、短軸90㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は25.53ｍを測る。主軸方位はＮ－22°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ14点が出土した。

土坑109（図56）

調査区西側の中央に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.45ｍ、短軸1.15ｍ、深さ24㎝で、坑底面の標高は25.55ｍを測る。主軸方位はＮ－56°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器１点、石製品１点が出土した。

土坑110（図56）

調査区西側の中央付近に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸95㎝、短軸58㎝、深さ25㎝で、坑底面の標高は25.49ｍを測る。主軸方位はＮ－84°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑111（図56）

調査区の南西側に位置する。南側でピット399と重複して壁を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、北壁側は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸98㎝、短軸83㎝、深さ24㎝で、坑底面の標高は25.65ｍを測る。主軸方位はＮ－31°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑112（図56）

調査区の南西側に位置する。北側でピット399と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸66㎝、短軸49㎝、深さ27㎝で、坑底面の標高は25.58ｍを測る。主軸方位はＮ－88°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑113（図56）

調査区の北西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.10ｍ、短軸82㎝、深さ34㎝で、坑底面の標高は25.39ｍを測る。主軸方位はＮ－55°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑114（図56）

調査区の北西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65㎝、短軸50㎝、深さ36㎝で、坑底面の標高は25.50ｍを測る。主軸方位はＮ－30°－Ｅを指す。

遺物は陶器１点が出土した。

土坑115（図56）

調査区西壁付近の中央に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69㎝、短軸51㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は25.64ｍを測る。主軸方位はＮ－30°－Ｗを指す。西壁寄りに長さと幅がともに40㎝を測る礫が据えられており、礎石を伴うピットの可能性も考えられる。

遺物は出土しなかった。

土坑116（図56）

調査区西壁際の中央に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長61㎝、東西現存長28㎝、深さ22㎝で、坑底面の標高は25.60ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑117（図56）

調査区の南西隅に位置する。北側でピット407と重複して壁を壊し、東側でピット408～410と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸89㎝、短軸74㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は25.70ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

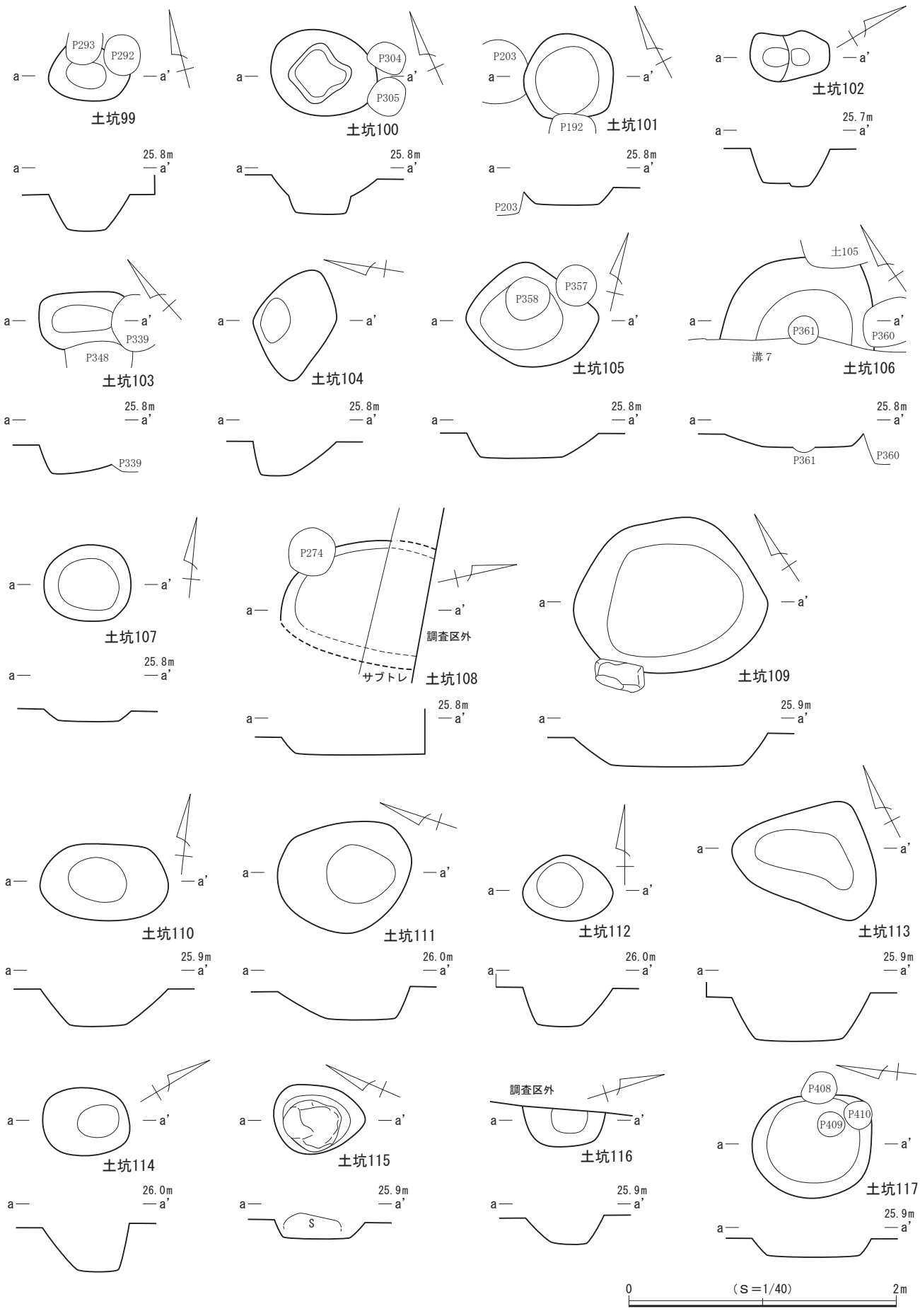


図56　第7面 土坑99～117

（３）ピット

第７面では、119基を検出した。調査区の全域に分布し、東側から中央やや西側にかけて高い密度で重複しながら分布する。調査区の北西部には炭化物層の広がりが認められ、この範囲にはピットの分布が疎らである。礎石や礎板を伴うピットは検出されず、南北に列状に配置する様相もみられるが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸14～58㎝、深さ６～61㎝を測る。

出土遺物（図57）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）に掲げたが、このうち３点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。１はピット299、２はピット366、３はピット372からそれぞれ出土した。

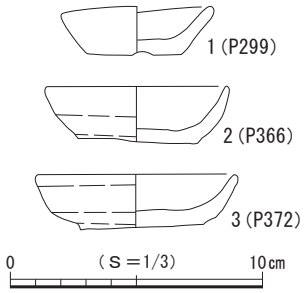


図57　第７面 ピット出土遺物

（４）第７面 遺構外出土遺物（図58）

第７面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち12点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけで、２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。３～５は瀬戸産の陶器類である。３は天目茶碗で古瀬戸中期様式Ⅲ期～後期様式、４は入子で古瀬戸中期様式、５は直縁大皿で古瀬戸中期様式Ⅲ期～後期様式に比定される。６は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。７は常滑産の甕破片を転用した摩耗陶片である。８・９は土師質・瓦質土器類である。８は羽釜形の香炉、９は火鉢でⅢ類に比定される。10～12は銭貨で、10は天聖元寶（1023年初鋳）、11は元豊通寶（1078年初鋳）、12は元祐通寶（1086年初鋳）である。

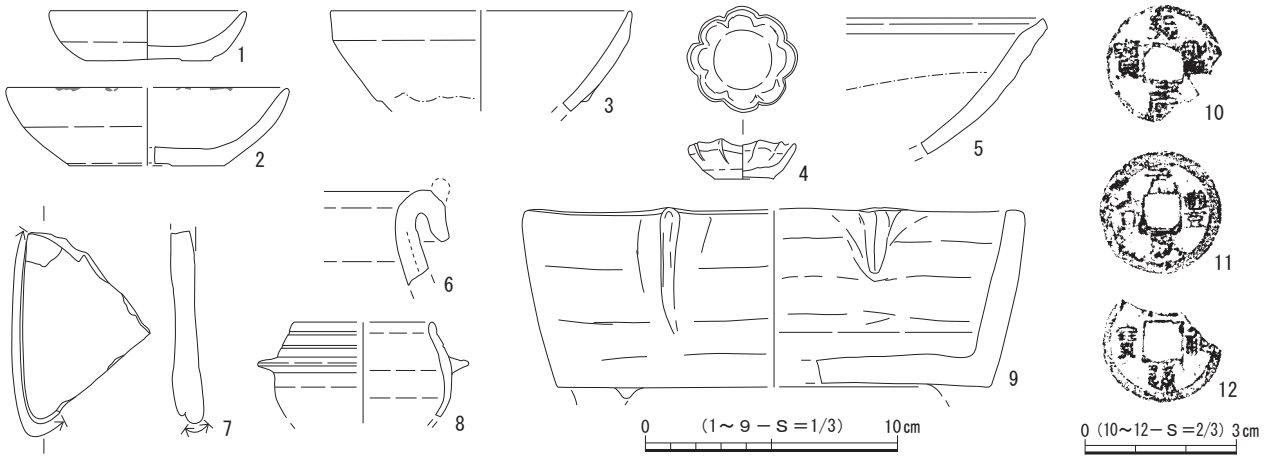


図58　第７面 遺構外出土遺物

第８節　第８面の遺構と遺物

第８面の遺構は堆積土層の10・11層上面で検出され、確認面の標高は約25.3ｍを測る。10層は泥岩ブロックによる整地層、11層は泥岩粒・炭化物およびかわらけ片を含む黒灰色粘土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑９基、ピット11基である（図59）。これらの遺構は調査区西側に集中して分布し、中には重複するものも確認されたが、東側からは土坑２基とピット３基

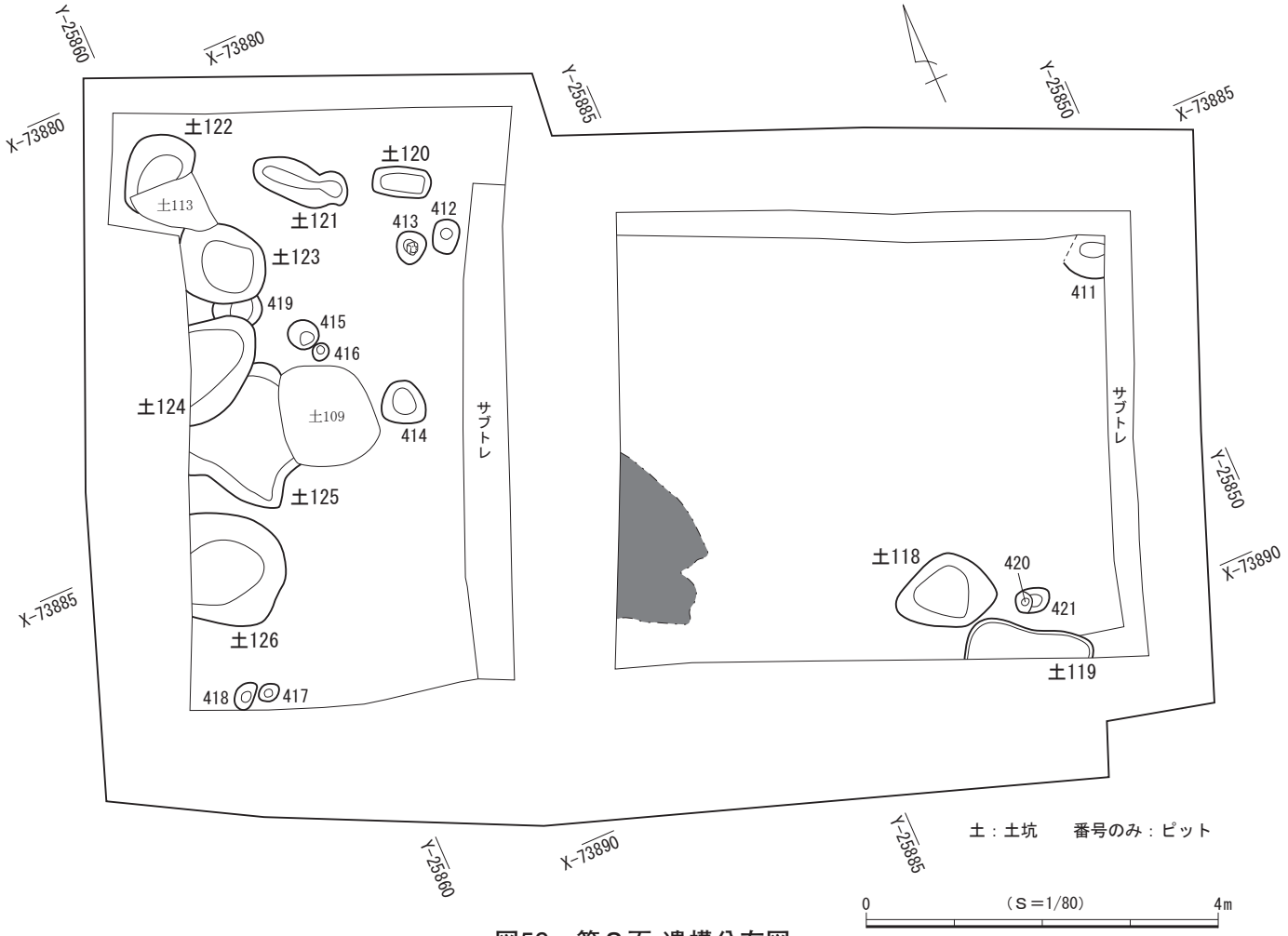


図59　第８面 遺構分布図

が検出されたのみである。なお、調査区中央の南北約1.9m、東西約１mの範囲に炭化物層の広がりが認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、石製品、金属製品などが出土している。本面は出土遺物が少なく、面の年代を特定することは難しい。上下の面となる、第７面と第９面の年代観を勘案すると、本面は14世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

（1）土　坑

土坑118（図60）

調査区の南東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はやや大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.14m、短軸85㎝、深さ25㎝で、坑底面の標高は25.10mを測る。主軸方位はN－80°－Wを指す。

遺物はかわらけ12点が出土した。

土坑119（図60）

調査区の南東隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長45㎝、東西現存長

1.44m、深さ14cmで、坑底面の標高は25.21mを測る。主軸方位はN－58°－Wを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑120（図59）

調査区の北西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。底面の標高に関する記録が残されていなかったため、個別図は掲載しなかった。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸66cm、短軸34cmを測る。主軸方位はN－62°－Wを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器３点が出土した。

土坑121（図60）

調査区の北西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整長楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.11m、短軸38～42cm、深さ40cmで、坑底面の標高は25.26mを測る。主軸方位はN－48°－Wを指す。

遺物はかわらけ４点、金属製品１点が出土した。

土坑122（図60）

調査区の北西隅に位置する。南側が第７面から掘り込まれた土坑113によって壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸92cm、短軸71cm、深さ43cmで、坑底面の標高は25.26mを測る。主軸方位はN－40°－Eを指す。

遺物は陶器21点が出土した。

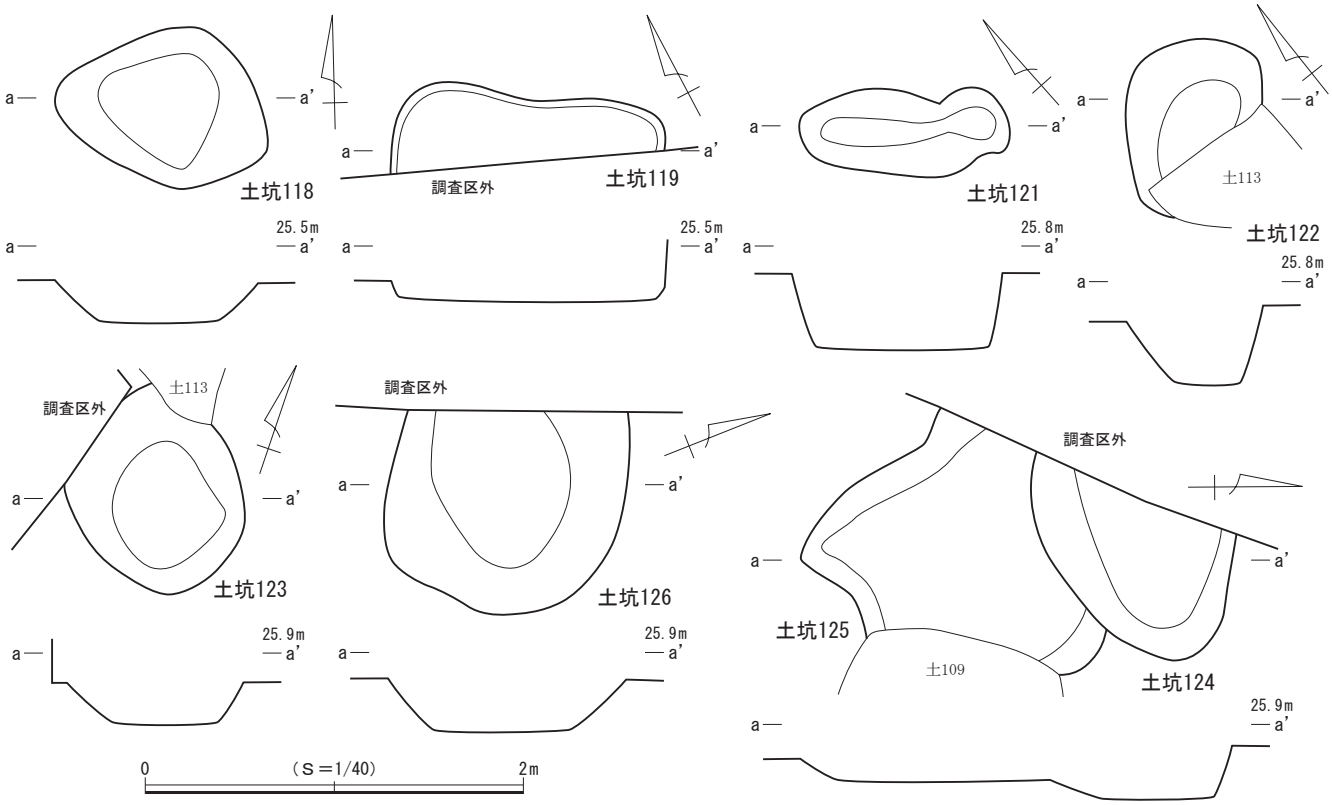


図60　第８面 土坑118・119・121～126

土坑123（図60）

調査区の北西部に位置する。南側でピット419と重複して壊し、北壁の一部が土坑３によって壊され西壁は調査区外へ続くが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸97㎝、短軸90㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は25.52ｍを測る。主軸方位はＮ－55°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑124（図60）

調査区西壁際の中央に位置する。北側でピット419、南側で土坑125と重複して壁と底面の一部を壊し、西側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、南壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長90㎝、短軸現存長92㎝、深さ27㎝で、坑底面の標高は25.40ｍを測る。主軸方位はＮ－88°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑125（図60）

調査区西壁際の中央に位置する。東側で第７面から掘り込まれた土坑109、北側で土坑124によって壁と底面が壊され、西側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長1.20ｍ、東西現存長1.32ｍ、深さ13㎝で、坑底面の標高は25.50ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑126（図60）

調査区の南西部に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北西－南東方向の現存長1.10ｍ、北東－南西方向1.22ｍ、深さ27㎝で、坑底面の標高は25.49ｍを測る。主軸方位はＮ－54°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

（２）ピット

第８面では、11基を検出した。調査区の北西部と北東隅、南東隅、南西隅に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸20～56㎝、深さ13～32㎝を測る。11基のうち１基のピット（ピット413）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ14㎝の礫を用いている。

遺物は２基（ピット411・413）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）を参照されたい。

（３）第８面 遺構外出土遺物（図61）

第８面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち２点を図示した。

１・２は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。

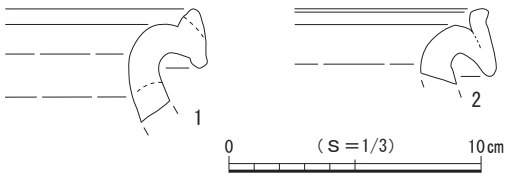


図61　第８面 遺構外出土遺物

第９節　第９面の遺構と遺物

第９面の遺構は堆積土層の12・13層上面で検出され、確認面の標高は約25.2ｍを測る。12層は強固に突き固められた泥岩整地層、13層は多量の炭化物を含む黒灰色粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は道路状遺構１本、土坑６基、ピット７基である（図62）。これらの遺構は調査区西壁際を除く全域に分布し、道路状遺構は調査区の東側を北東－南西方向に縦走する。なお、調査区中央から西側にかけての東西現存長約6.2ｍ、南北現存長約6.4ｍの範囲に明瞭な整地層が認められ、調査区外へと広がる様相が捉えられた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀末～14世紀前葉頃に属すると考えられる。

図62　第９面 遺構分布図

（1）道路状遺構

道路状遺構１（図63）

調査区の東側に位置する。北東－南西方向に延びて両端部とも調査区外へと続いている。南西側でピット425・427と重複して路面の一部が壊されている。おおむね直線的に延びており、10～60㎝大の泥岩を密に敷き詰めて路面を構築している。検出した規模は現存長約5.3m、幅約2.8～3.0mを測る。路面の西際に長さ約2.6m、幅約30㎝の礫空白部が認められ、これに沿って大形の泥岩が配置されている。路面の標高は25.2m前後を測り、ほぼ平らに揃えられている。主軸方位はＮ－41°－Ｅを指す。本遺構は検出位置や主軸方位が第10面で検出された道路状遺構２とほぼ重なることから、これを踏襲した同一道路の作り替えによる最終段階の路面と考えられる。

遺物は出土しなかった。

図63　第９面 道路状遺構１

（2）土　坑

土坑127（図64）

調査区の東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.55m、短軸99㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は25.02mを測る。主軸方位はＮ－60°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑128（図62）

調査区南壁際の東寄りに位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。底面の標高に関する記録が残されていなかったため、個別図は掲載しなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形ないし不整円形と考えられ、規模は南北現存長77㎝、東西現存長39㎝を測る。

遺物は石製品１点が出土した。

土坑129（図64）

調査区の北西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほ

ぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、北壁は大きく開く。断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長1.48m、東西現存長41cm、深さ19cmで、坑底面の標高は24.90mを測る。主軸方位はN－37°－Eを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑130（図64）

調査区の北西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、北側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.30m、短軸現存長1.00m、深さ20cmで、坑底面の標高は25.00mを測る。主軸方位はN－87°－Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑131（図64）

調査区の北西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長64cm、東西現存長40cm、深さ26cmで、坑底面の標高は24.90mを測る。主軸方位はN－68°－Wを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑132（図64）

調査区西側の中央に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64cm、短軸60cm、深さ20cmで、坑底面の標高は25.08mを測る。

遺物は出土しなかった。

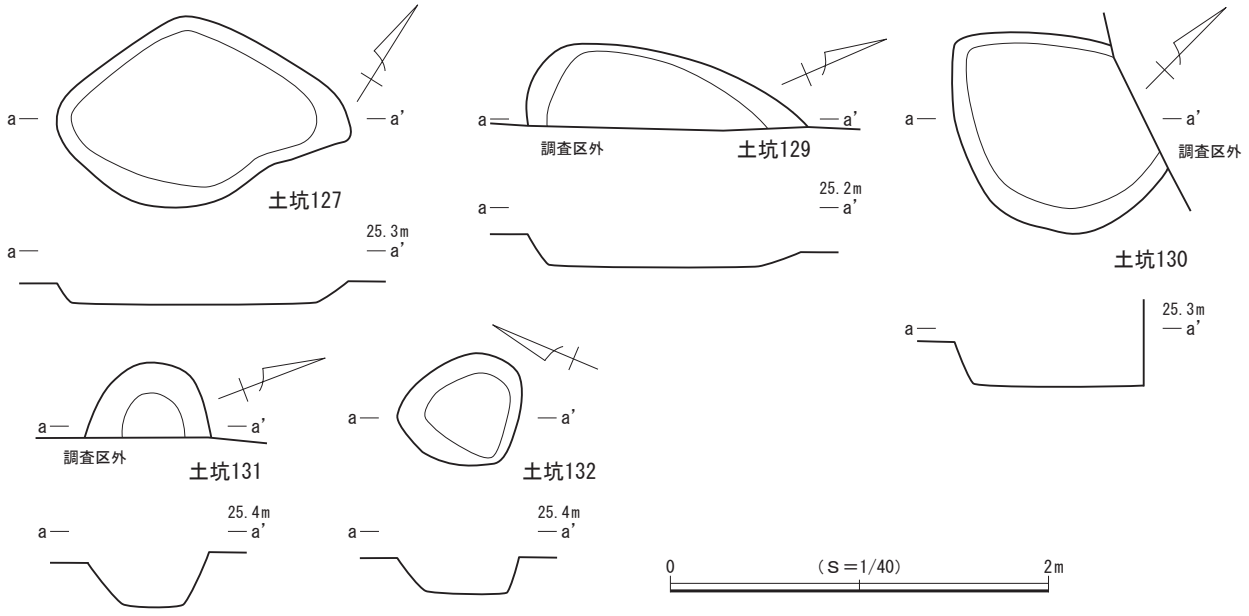


図64　第９面 土坑127・129～132

（３）ピット

第９面では、７基を検出した。道路状遺構１の西側に隣接して分布し、礎石や礎板を伴うピットは検出されなかった。調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸25～41㎝、深さ５～47㎝を測る。

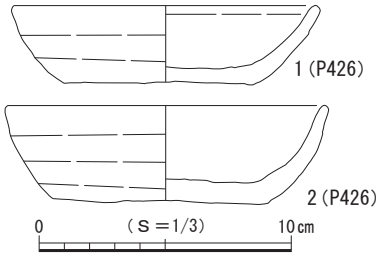


図65　第９面 ピット出土遺物

出土遺物（図65）

第９面ではピット426からのみ、かわらけ５点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

（４）第９面 遺構外出土遺物（図66・67）

第９面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち44点を図示した。

１～23はロクロ成形によるかわらけで、２・14・17の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。24は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。25・26は龍泉窯系青磁である。25は碗で碗Ⅱ－ｂ類、26は坏で坏Ⅲ－３ｂ類に比定される。27は瀬戸産の卸皿で古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ期に比定される。28～31は常滑産の陶器類である。28・29は甕で６ａ～６ｂ型式、30・31は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。32～34は瓦類である。32は瓦当文様に三つ巴と連数文をもつ軒丸瓦、33・34は丸瓦である。35～37は石製品である。35は滑石製石鍋を転用した硯、36は温石、37は砥石である。38～44は銭貨で、38は景徳元寶（1004年初鋳）、39は大観通寶（1107年初鋳）、40は祥符元寶（1008年初鋳）、41は皇宋通寶（1038年初鋳）、42・43は熙寧元寶（1068年初鋳）、44は政和通寶（1111年初鋳）である。

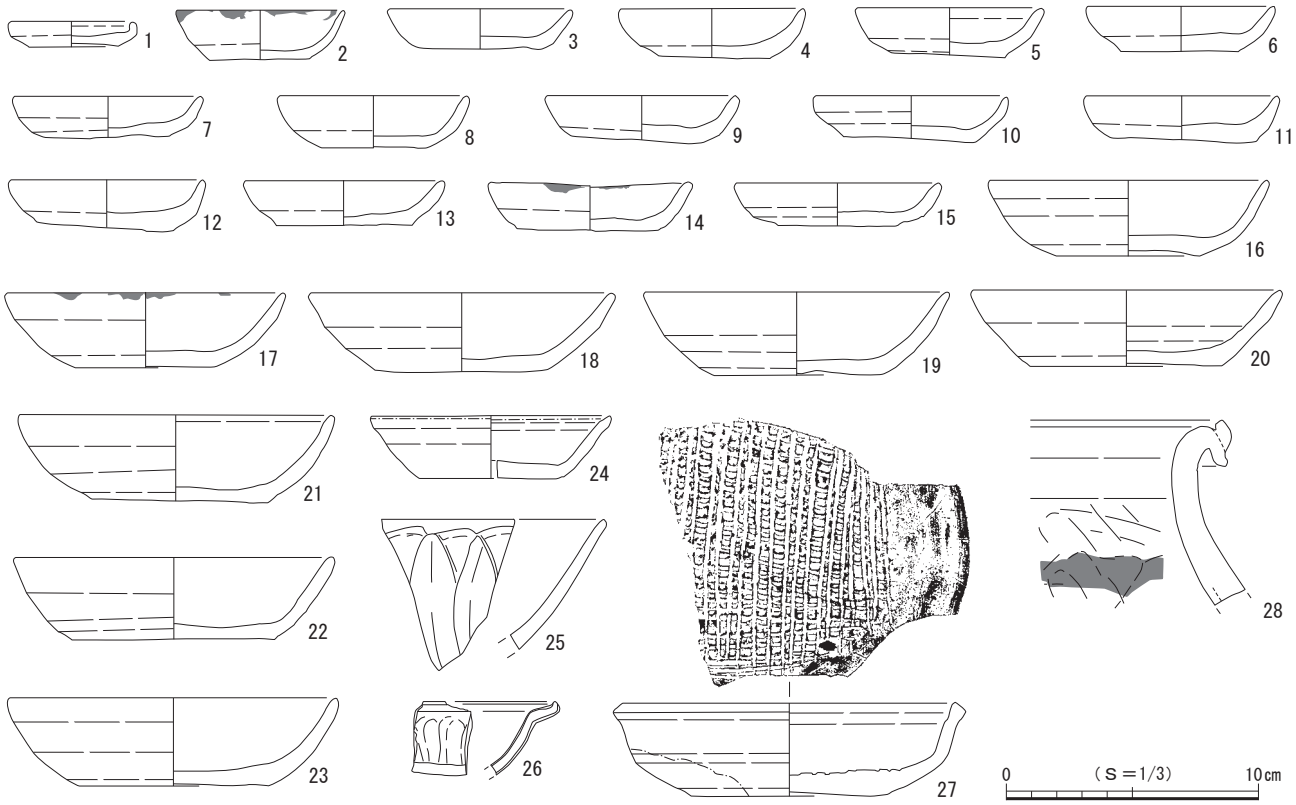


図66　第９面 遺構外出土遺物（１）

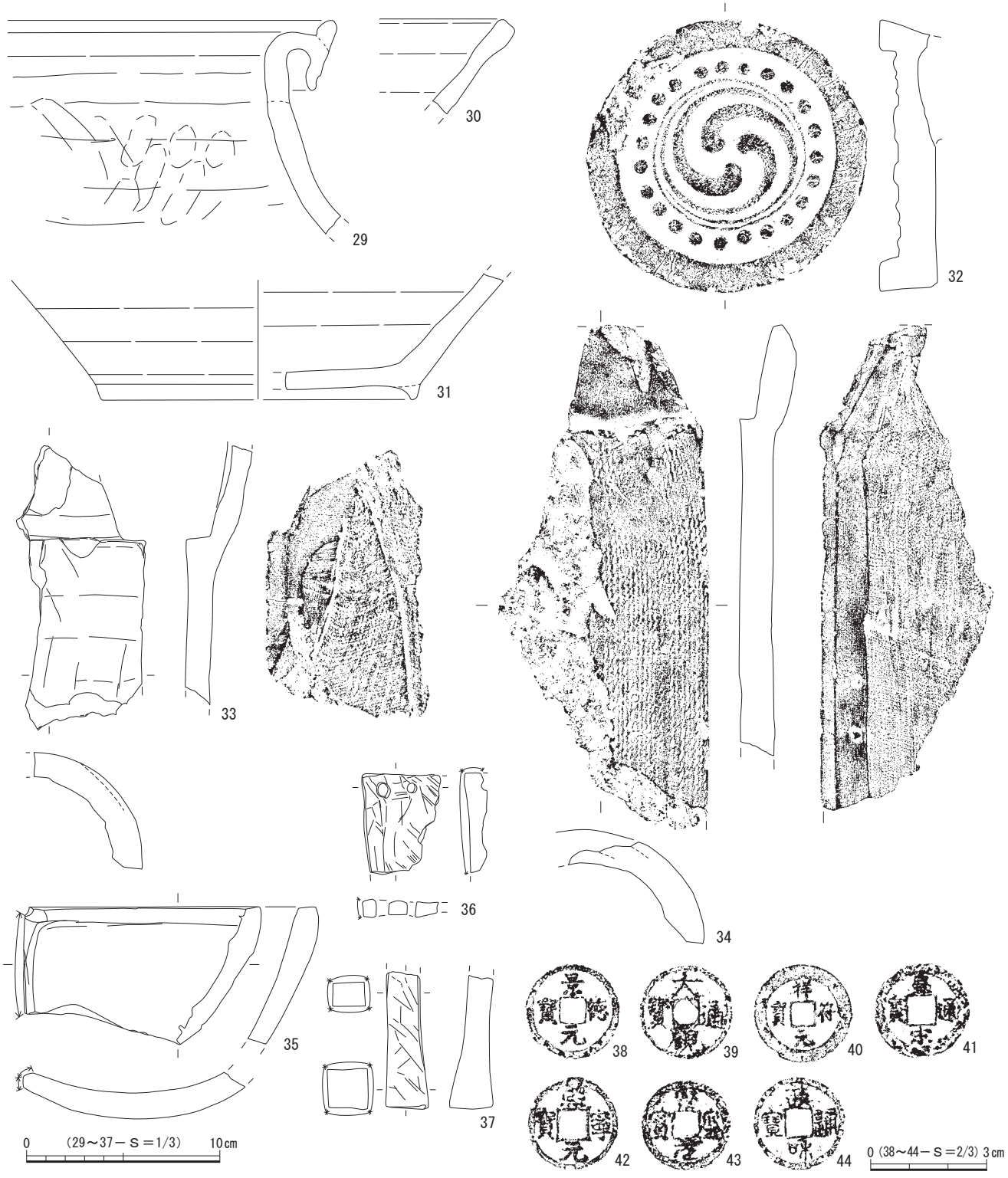


図67　第９面 遺構外出土遺物（２）

第10節　第10面の遺構と遺物

第10面の遺構は堆積土層の15・17層上面で検出され、確認面の標高は約24.9mを測る。15層は泥岩粒を含み粘性の強い黒灰色粘質土を主体とする整地層、17層は多量の泥岩粒と炭化物を含み、やや締まりのある暗灰色粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は道路状遺構１本、溝状遺構１条、常滑溜まり１基、土坑７基、ピット35基である（図68）。調査区西側に深さ10～

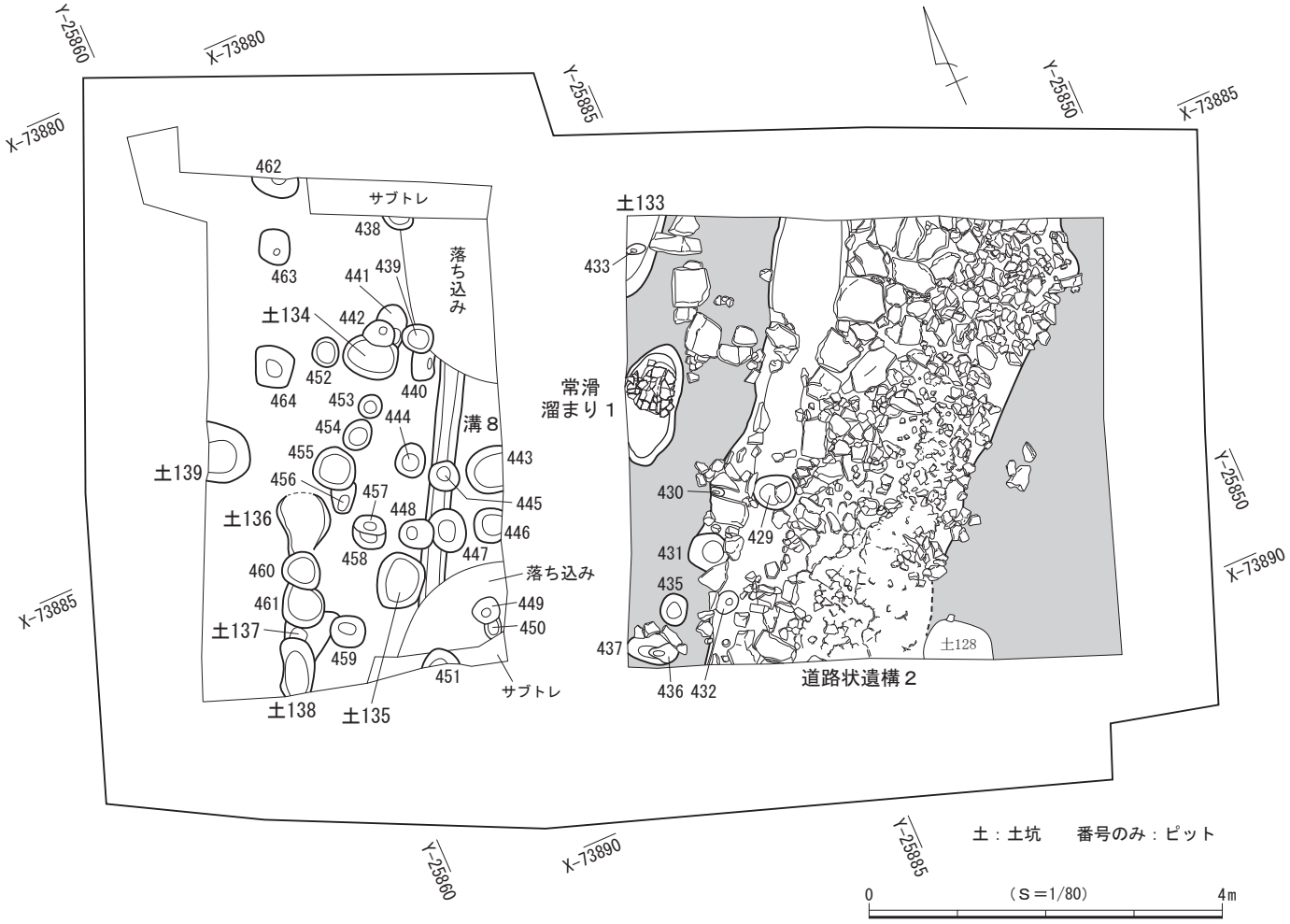


図68　第10面 遺構分布図

20㎝程の性格不明な落ち込みが２ヵ所で確認され、一部の遺構が壊されていた。調査区の東側には道路状遺構が北東－南西方向に縦走し、この西側に遺構が分布して東側は遺構の空白域となっている。なお、調査区中央から東側にかけての東西約2.7m、南北約2.6mの範囲に明瞭な整地層が認められ、調査区外へと広がる様相が捉えられた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀代に属すると考えられる。

（１）道路状遺構

道路状遺構２（図69）

調査区の東側に位置する。北東－南西方向に延びて両端部とも調査区外へと続いている。南西側でピット429～432と重複して路面の一部が壊されている。おおむね直線的に延びており、５～60㎝大の泥岩を密に敷き詰めて路面を構築している。路面の中央付近に大形の泥岩が多く、東側は小形のものを用いる様相がみられ、西側は泥岩の敷設があまり認められなかった。検出した規模は現存長約5.3m、幅約2.5～3.4mを測る。路面の標高は25.0～25.1m前後を測り、ほぼ平らに揃えられている。主軸方位はＮ－43°－Ｅを指す。本遺構は検出位置や主軸方位が第９面で検出された道路状遺構１とほぼ重なることから同一道路と捉えられ、本面で検出された路面はその古段階のものと考えられる。

本址は壁面が緩やかに立ち上がる掘り方を伴い、底面に２条の溝が掘り込まれている。掘り方の規模は

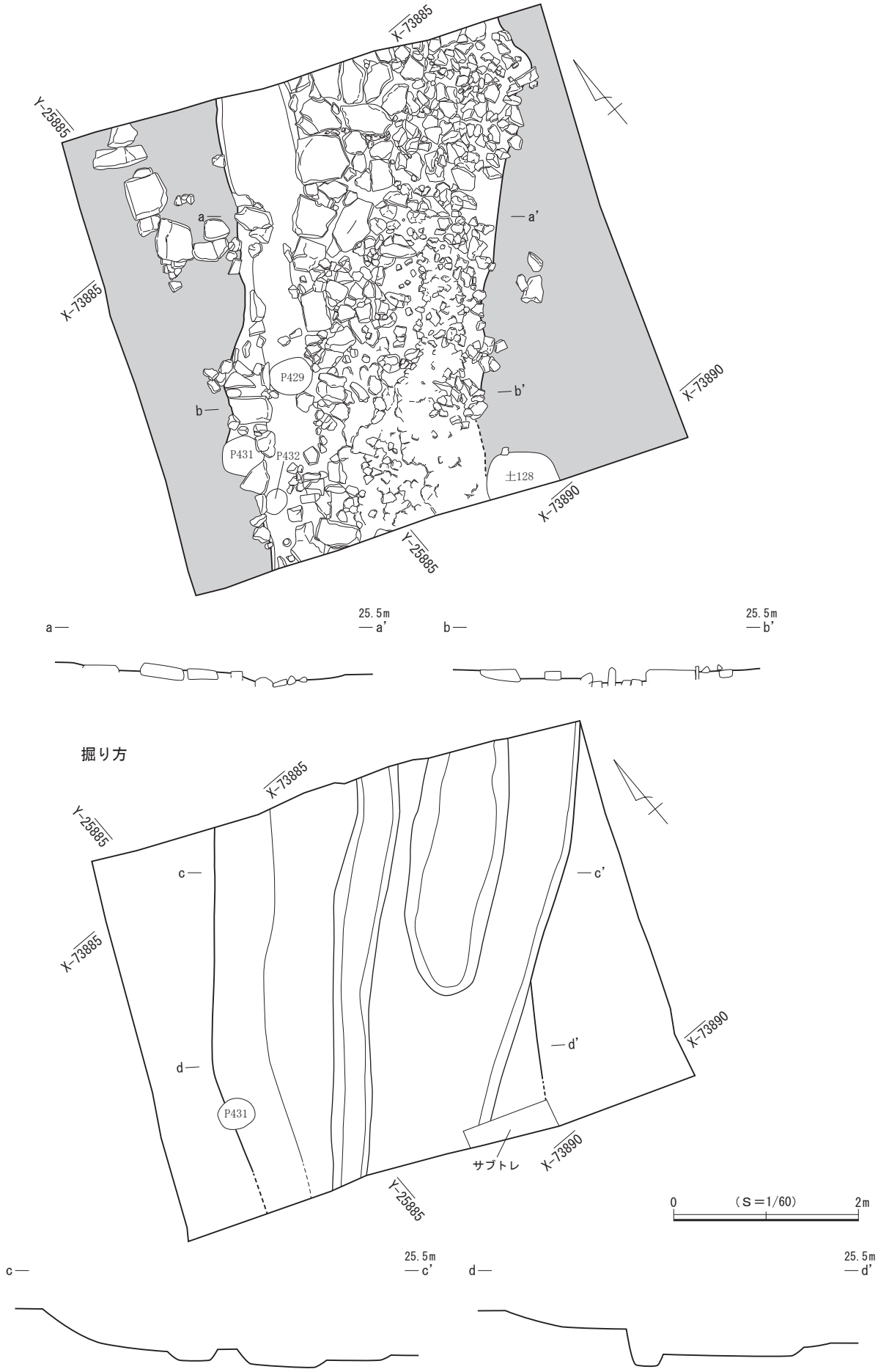


図69　第10面 道路状遺構２

現存長約4.8m、幅約2.9～3.8m、深さ60cmであり、底面の標高は南側が24.58m、北側が24.53mを測り、南から北に向かってわずかに傾斜している。底面の溝は現存長約2.7m、幅約1.0m、深さ10cmと現存長約4.4m、幅40～55cm、深さ15～40cmで、ともに断面形は逆台形を呈する。

遺物は出土しなかった。

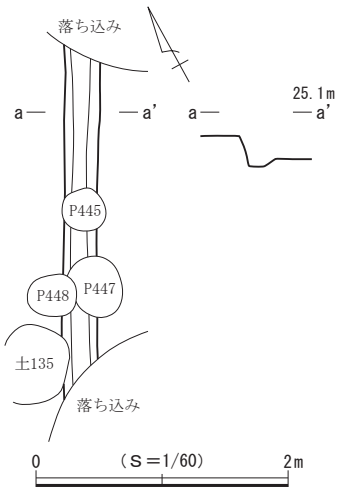


図70　第10面 溝状遺構８

（２）溝状遺構

溝状遺構８（図70）

調査区の西側に位置する。ピット445・447・448と重複して壁と底面の一部が壊され、加えて北東側と南西側が落ち込みによって壊されており、端部の様相については判然としない。北東－南西方向に向かっておおむね直線的に延びており、検出した規模は現存長約2.6m、幅30cm、深さ15～28cmを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は24.58mを測る。

遺物は出土しなかった。

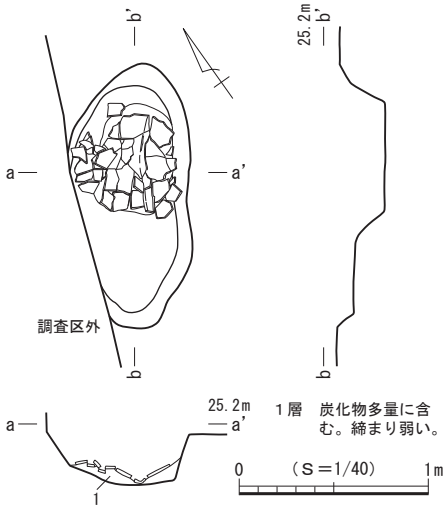


図71　第10面 常滑溜まり１

（３）常滑溜まり

常滑溜まり１（図71）

調査区の中央に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から掘り方の平面形を推定すると不整長楕円形と考えられ、掘り方の北半側の底面付近に常滑産の甕が潰れた状態で出土した。北側の底面は一段深く掘り込まれており、壁は開き断面形は逆台形を呈する。掘り方の規模は長軸1.40m、短軸現存長66cm、深さ10～24cmで、底面の標高は24.87～25.04mを測る。主軸方位はＮ－37°－Ｅを指す。

常滑産の甕は３個体分出土した。大破片ではあるが、図示し得なかった。

（４）土　坑

土坑133（図72）

調査区北壁際の中央に位置する。ピット433と重複して底面の一部が壊され、北側と西側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形と主軸方位は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長91cm、東西現存長44cm、深さ16cmで、坑底面の標高は25.04mを測る。

遺物はかわらけ４点が出土した。

土坑134（図72）

調査区の北西側に位置する。東側でピット442と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握す

ることができた。平面形は楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸現存長43㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は24.94ｍを測る。主軸方位はＮ－53°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑135（図72）

調査区の南西側に位置する。東側で溝状遺構８と重複して壁の一部を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63㎝、短軸53㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は24.91ｍを測る。主軸方位はＮ－41°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑136（図72）

調査区の南西側に位置する。南側でピット460と重複して壁の一部が壊され、北側のプランは遺存状態が悪く確認できなかったため全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長68㎝、東西38～58㎝、深さ６㎝で、坑底面の標高は25.02ｍを測る。主軸方位はＮ－19°－Ｅを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑137（図72）

調査区の南西隅に位置する。北側でピット461、南側で土坑138、ピット459と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は東と南側が大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は南北現存長39㎝、東西現存長66㎝、深さ27㎝で、坑底面の標高は24.91ｍを測る。主軸方位はＮ－59°－Ｅを指すと推定される。

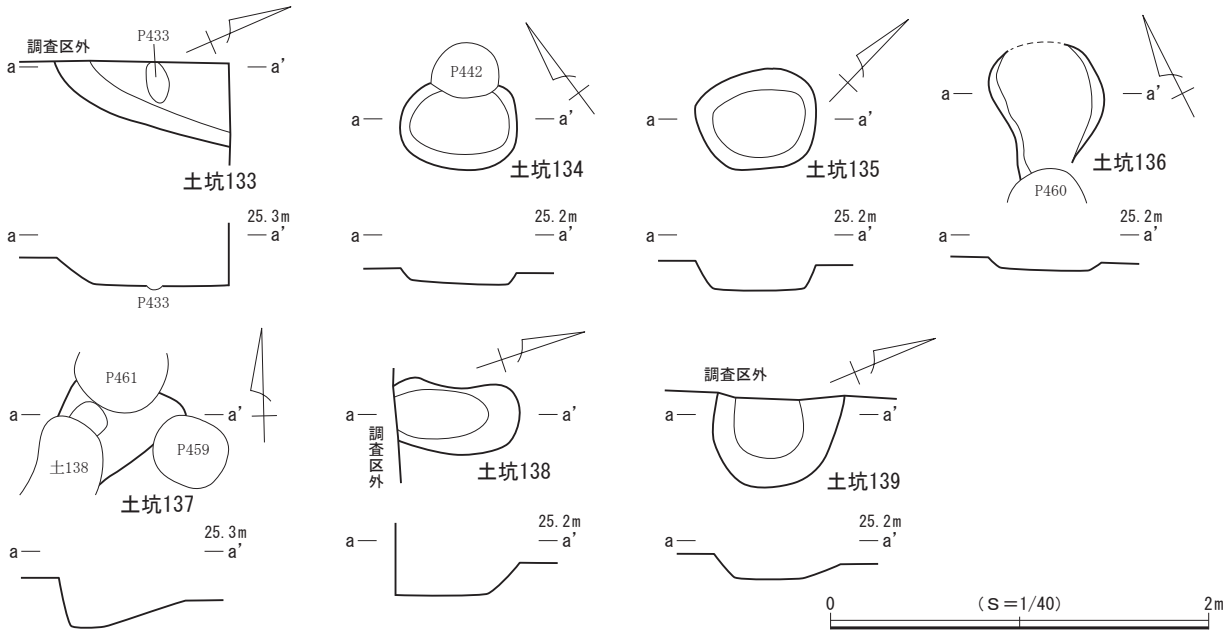


図72　第10面 土坑133～139

遺物は出土しなかった。

土坑138（図72）

調査区の南西隅に位置する。北側で土坑137と重複して壁と底面の大部分を壊し、南側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長64cm、短軸36cm、深さ18cmで、坑底面の標高は24.92mを測る。主軸方位はN－18°－Eを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑139（図72）

調査区西壁際の中央に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北66cm、東西現存長47cm、深さ12cmで、坑底面の標高は25.00mを測る。主軸方位はN－55°－Wを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

（5）ピット

第10面では、35基を検出した。調査区の中央から西側にかけて分布し、重複するものも認められる。礎石や礎板を伴うピットは検出されず、南北方向に列状に配置する様相もみられるが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸16～58cm、深さ５～40cmを測る。

遺物は35基中、４基（ピット431・439・457・486）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）を参照されたい。

（6）第10面 遺構外出土遺物（図73・74）

第10面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち20点を図示した。

１は白かわらけである。２～10はロクロ成形によるかわらけで、８の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。11・12は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。13は瀬戸産の入子で古瀬戸前期様式に比定される。14・15は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。16・17は土師質・瓦質土器の火鉢で、16はＩＤ類、17はＩＡ類に比定される。18は石製品の温石である。19・20は銭貨で、19は至道元寶（995年初鋳）、20は元豊通寶（1078年初鋳）である。

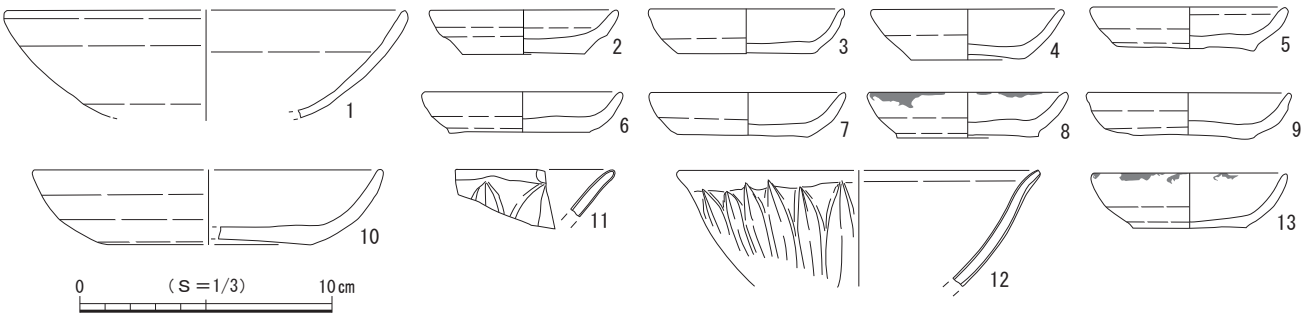


図73　第10面 遺構外出土遺物（１）

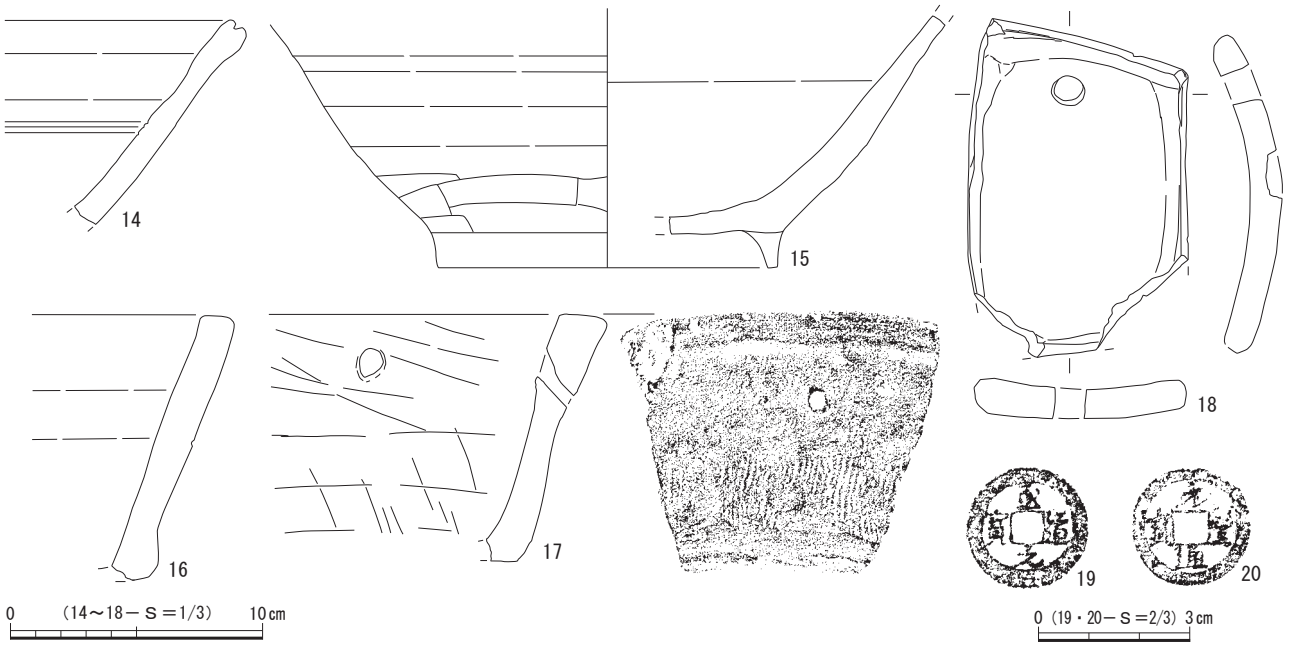


図74　第10面 遺構外出土遺物（２）

第11節　第11面の遺構と遺物

第11面の遺構は堆積土層の20層上面で検出され、確認面の標高は24.5～24.6ｍを測る。20層は泥岩粒を主体とする整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、土坑３基、ピット26基である（図75）。調査対象範囲は東半部であり、遺構は全体に散漫に分布し遺構種および遺構数ともに少ない。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、石製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀代に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構９（図76）

調査区の東壁際に位置する。北東側は調査区外へと延び、南西側は調査区内に収まりピット468と重複して端部が壊される。おおむね直線的に延びており、検出した規模は現存長約2.3ｍ、幅12～20㎝、深さ10㎝を測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は24.58ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（２）土　坑

土坑141（図77）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.03ｍ、短軸77㎝、深さ26㎝で、坑底面の標高は24.22ｍを測る。主軸方位はＮ－48°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ８点、磁器２点、陶器３点が出土した。

土坑142（図77）

調査区の北壁際中央に位置する。西側で土坑143と重複して壊し、南東側でピット471・472と重複して壁と底面の一部が壊される。また、北側が調査区外へと延びており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長73㎝、短軸現存長50㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は24.49ｍを測る。主軸方位はＮ－52°－Ｅを指す。

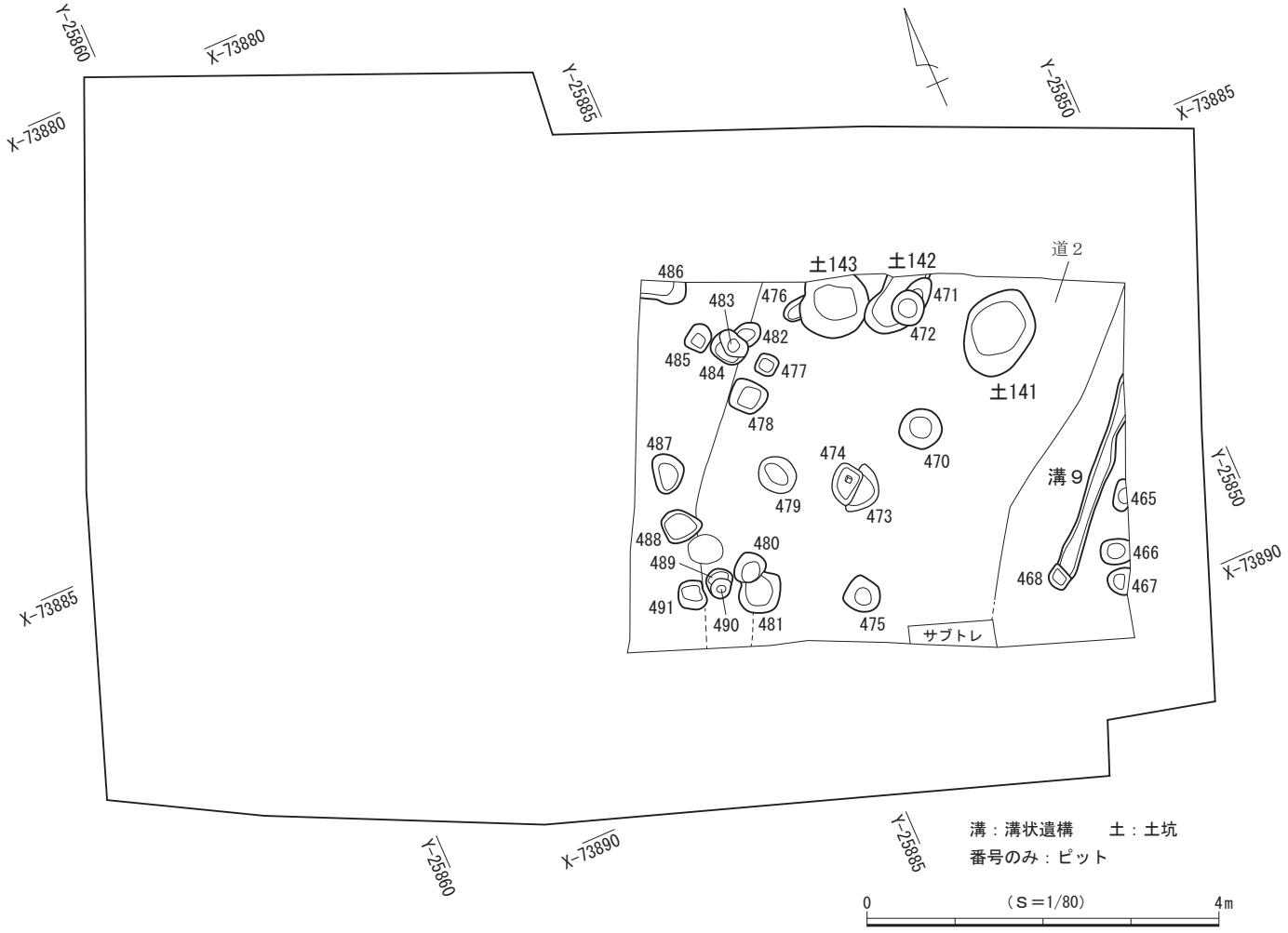


図75　第11面 遺構分布図

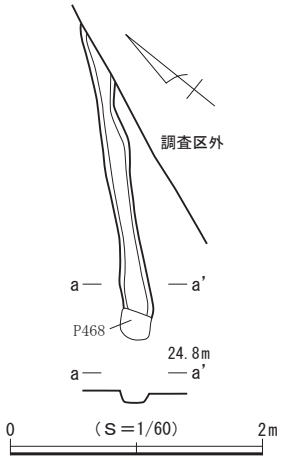


図76　第11面 溝状遺構９

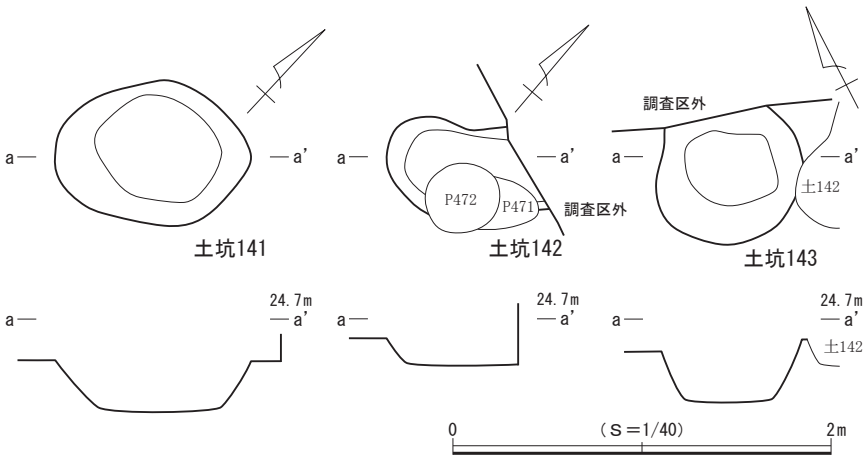


図77　第11面 土坑141～143

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑143（図77）

調査区の北壁際中央に位置する。西側でピット476と重複して壊し、東側で土坑142と重複して壁の一部が壊される。北側が調査区外へと延びるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸80㎝、短軸現存長68㎝、深さ32㎝で、坑底面の標高は24.27ｍを測る。

遺物はかわらけ２点が出土した。

（３）ピット（図78）

第11面では、26基を検出した。主に調査区の中央から西側にかけて分布するが、礎石や礎板を伴うピットは検出されず、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸21～57㎝、深さ４～31㎝を測る。調査区中央に位置するピット474は柱と考えられる方25㎝の角材が立った状態で出土し、個別図を作成して図78に図示した。

遺物は25基中、４基（ピット472・478・486・490）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表15）を参照されたい。

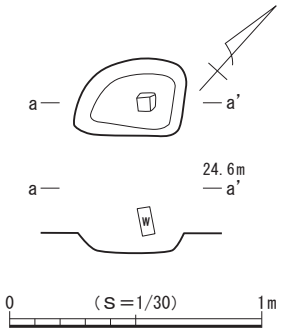


図78　第11面 ピット474

（４）第11面 遺構外出土遺物（図79）

第11面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

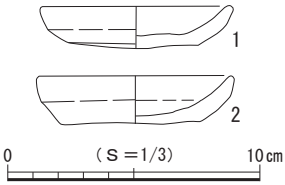


図79　第11面 遺構外出土遺物

第12節　第12面の遺構と遺物

第12面の遺構は堆積土層の22・23層上面で検出され、確認面の標高は約24.4ｍを測る。22層および23層は泥岩による整地層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑２基、ピット15基である（図80）。調査対象範囲は第11面とほぼ同じ東半部であり、遺構はその東半部に偏って散漫に分布する。

遺物は木製品のみが出土しているにすぎない。従って本面の時期を特定することは困難であるが、上面の第11面が13世紀代に属することを勘案して、本面を13世紀代以前としておく。

（１）土　坑

土坑144（図81）

調査区の南東隅に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へ延びており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長76㎝、東西現存

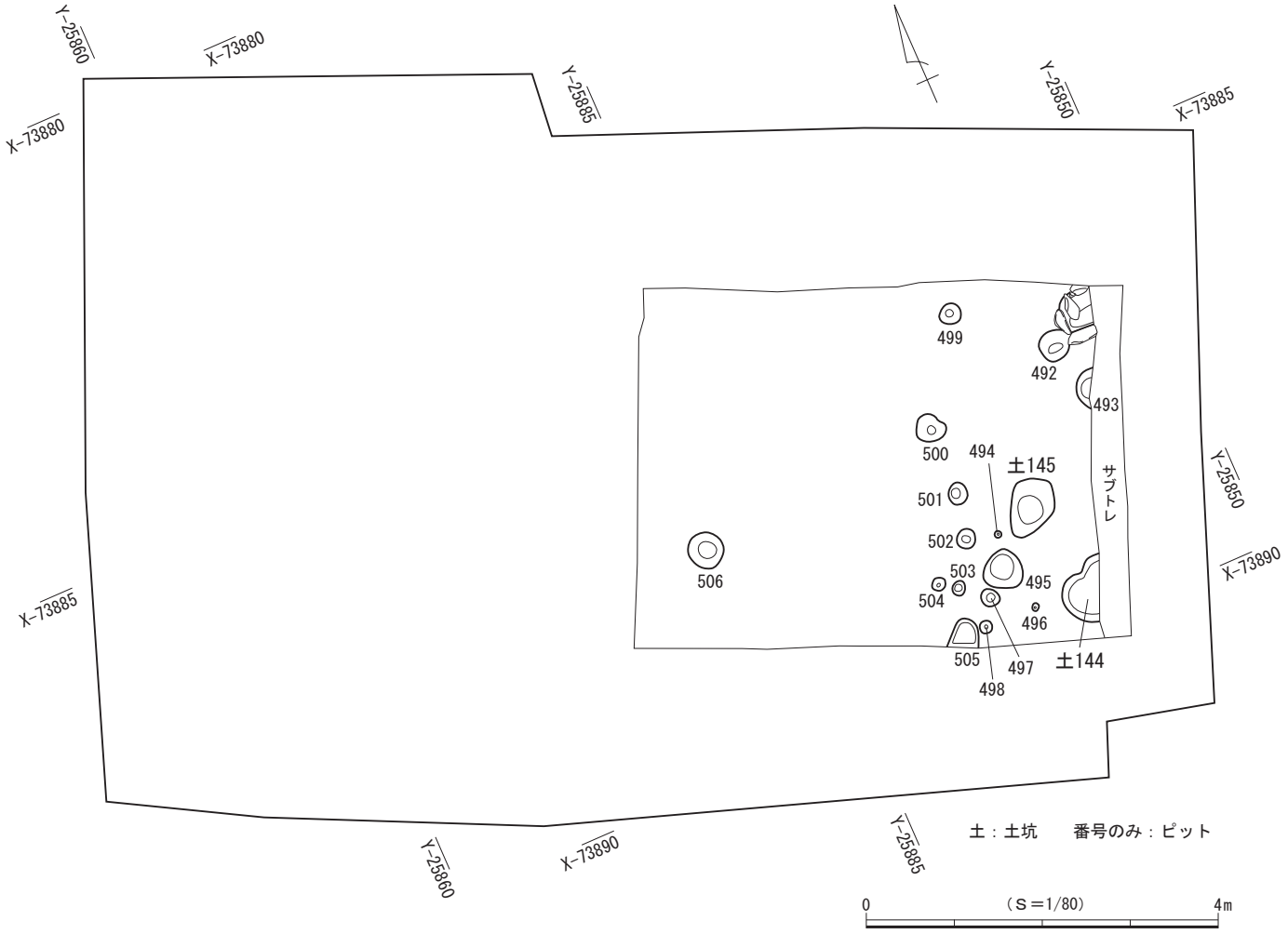


図80　第12面 遺構分布図

長42㎝、深さ７㎝で、坑底面の標高は24.37ｍを測る。主軸方位は判然としない。

遺物は出土しなかった。

土坑145（図81）

調査区の東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69㎝、短軸48㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は24.31ｍを測る。主軸方位はＮ－46°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

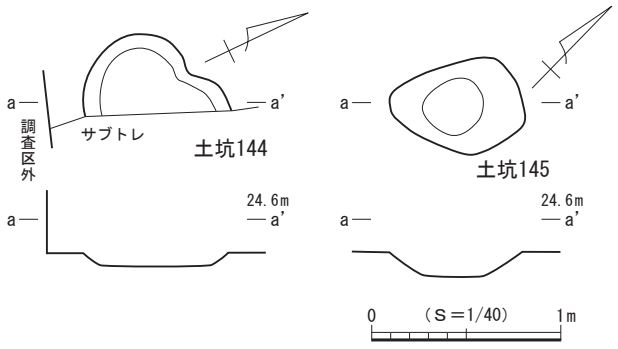


図81　第12面 土坑144・145

（２）ピット

第12面では、15基を検出した。主に調査範囲の中央から東側にかけて分布するが、礎石や礎板を伴うピットは検出されず、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸７～44㎝、深さ９～30㎝を測る。

遺物は出土しなかった。

（３）第12面 遺構外出土遺物（図82）

第12面では遺構外から木製品のみが出土し、このうち11点を図示した。

１～６は箸状、７は棒状、８・９は串状、10・11は用途不明の木製品である。

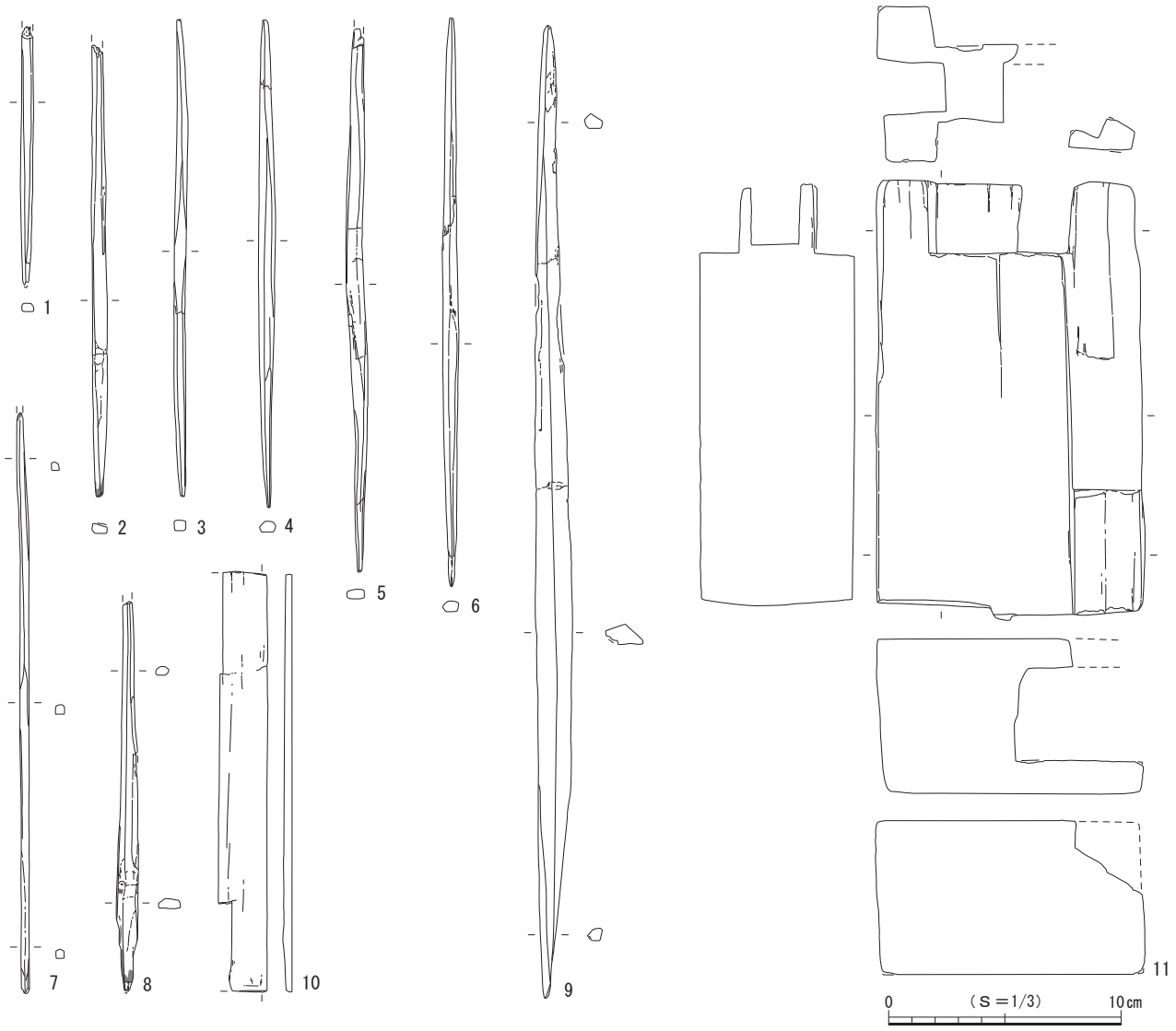


図82　第12面 遺構外出土遺物

第四章　まとめ

今回報告する山ノ内字白黒小路1479番６地点は、「建長寺旧境内遺跡（№397）」の範囲内に所在する。本遺跡の包蔵地範囲は鎌倉市の北部域に位置し、調査地点はＪＲ北鎌倉駅の500ｍ程南側で横須賀線と県道21号線が交差する場所の南東側に近接する。地形的には北西方向の大船方面に開けた開析谷の中に立地し、南側には南北方向に延びる痩せ尾根の先端部が迫る。建長寺旧境内遺跡の調査事例は今回報告する地点を含めて３例であり、山ノ内地域は調査例の少ない場所といえる。

今回の調査では、遺構確認面は第１～12面までの合計12面に及び、いずれも中世に属する。検出した遺構は道路状遺構２本、溝状遺構９条、常滑溜まり１基、据鉢遺構１基、落ち込み２ヵ所、土坑144基、ピット502基で、出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して27箱を数える。

最下面にあたる第12面は出土遺物が木製品のみのため時期の特定が困難であったが、第11面は出土遺物から13世紀代の年代観が得られた。また、第１面からは15世紀後葉の遺物群が出土していることから、本地点は13世紀代から15世紀後葉にかけて営まれたことが明らかとなった。各面を通じて主体をなす遺構は土坑とピットであるが、第２・４・７面では東西方向に延びる溝、第９・10面では道路状遺構も検出されている。ピットは各面において検出され、建物などの施設を構成する配置は認められなかったものの、第１・３・５・６面では大型の礎石が据えられたピットも確認されており、調査区外に展開する建物の一部であった可能性も推測される。

道路状遺構は第９・10面で各１本ずつ検出され、両遺構とも路面上に泥岩を密に敷き詰めた構造をもつ。遺構の西端に礫の空白部が幅約30㎝の帯状に延びており、おそらく片端に側溝をもつ道路であった可能性が考えられる。第９面に属する道路状遺構１と第10面に属する道路状遺構２は、構造のみではなく規模や主軸方位もほぼ同じで、加えて検出位置も重なることから作り替えが行われた同一遺構と捉えられる。道路状遺構からは遺物が出土しておらず詳細な時期は判然としないが、第９面が13世紀末～14世紀前葉、第10面が13世紀代に属することから、13世紀代から14世紀前葉にかけて機能していたと考えられる。

第９～11面にかけて検出された道路状遺構や溝状遺構は北東－南西方向に主軸をもつが、第４面を境として溝状遺構の主軸が東西方向へと変化することから、15世紀前葉段階から地割が変化したことが読み取れる。

出土遺物は磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、土製品、石製品、金属製品などで、このうち土師質・瓦質土器の仏花瓶や燭台などの宗教関連遺物や、大型の火鉢が複数出土していることが注意される。本遺跡の東側には、正法寺跡、徳泉寺跡、安国寺跡、保寧寺跡などのすでに廃寺となっている寺院が隣接していたことも考慮すると、間接的ながらも隣地に寺院の存在を想定することができよう。

なお、調査区の西側隣地において、東側に開口するやぐら１基が確認された（図４）。後世の削平により大半が破壊され、かろうじて奥壁部が残存するのみで、遺物も確認されなかったため詳細な時期は判然としない。通常やぐらは群在することが多いが、本地点の周辺は地形改変が進んでいるためにすでに失われている可能性が高いといえる。

引用・参考文献（著者五十音順）

鎌倉市教育委員会　1997『山ノ内道周辺遺跡発掘調査報告書』山ノ内道周辺遺跡発掘調査団

手塚直樹　1997『神奈川県・鎌倉市 保寧寺跡－第２次調査－』保寧寺跡発掘調査団

永田史子・齋藤修佑　2018「徳泉寺跡（№173）山ノ内字東管領屋敷168番４地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告34』平成29年度発掘調査報告（第５分冊）　鎌倉市教育委員会

永田史子・米澤雅美　2019ａ「山ノ内上杉邸跡（№170）山ノ内字東管領屋敷179番39地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告35』平成30年度発掘調査報告（第４分冊）　鎌倉市教育委員会

永田史子・米澤雅美　2019ｂ「安国寺跡（№174）山ノ内字東管領屋敷147番９外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告35』平成30年度発掘調査報告（第４分冊）　鎌倉市教育委員会

野本賢二　1997「建長寺旧境内遺跡（№397）山ノ内字白黒小路1489番１外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告13』平成８年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

福嶋正史ほか　2012『山ノ内上杉邸跡発掘調査報告書－山ノ内字東管領屋敷180番１外－』株式会社新技術コンサル

宮田　眞・滝澤晶子　2010「円覚寺旧境内遺跡（№434）山ノ内字西管領屋敷377番１」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告26』平成21年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑６出土遺物（図７）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	5.4	3.8	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	6.8	4.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	6.8	4.5	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロかわらけ・小	9.2	6.5	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロかわらけ・小	9.2	6.1	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロかわらけ・小	9.4	5.0	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロかわらけ・小	9.7	6.0	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
8	土器	ロクロかわらけ・中	11.3	6.9	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
9	土器	ロクロかわらけ・中	11.5	6.9	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロかわらけ・中	12.0	6.6	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
土坑８出土遺物（図８）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(6.0)	4.1	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
土坑24出土遺物（図10）							
1	磁器	青磁碗	－	－	現2.7	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部小破片
第１面 遺構外出土遺物（図13）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	5.3	4.0	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	(5.3)	(3.6)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明赤褐色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロかわらけ・小	5.5	3.9	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明赤褐色　焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロかわらけ・小	(5.6)	3.9	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
5	土器	ロクロかわらけ・小	5.9	3.8	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロかわらけ・小	6.4	5.0	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロかわらけ・小	6.6	4.5	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.0	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
9	土器	ロクロかわらけ・中	(11.0)	6.0	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロかわらけ・中	12.3	7.9	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
11	磁器	青白磁梅瓶	－	(9.0)	現2.8	畳付－無釉　外面－ヘラ彫りによる唐草文　色調：胎土－灰白色、青白磁釉－淡青色	底部小破片
12	陶器	瀬戸平碗	(17.5)	4.9	6.7	胎土：緻密　色調：胎土－淡黄色、灰釉－浅黄色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ～Ⅳ期	1/3
13	土製品	土錘	現長6.4	幅3.3	孔径1.5	手づくね成形　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
14	石製品	硯	現長14.8	幅6.9	厚0.5～1.7	上面・下面－摩耗　石材－粘板岩	略完形
15	金属製品	銭貨	直径2.4	孔径0.7	厚0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	8/9
16	金属製品	銭貨	直径2.4	孔径0.7	厚0.1	銭名－政和通寶（北宋・1111）　書体－篆書	略完形
17	金属製品	銭貨	直径2.3	孔径0.5	厚0.1	銭名－洪武通寶（明・1368）　書体－楷書	完形

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構１出土遺物（図16）							
1	金属製品	銭貨	直径2.3	孔径0.7	厚0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
土坑40出土遺物（図17）							
1	金属製品	銭貨	直径2.5	孔径0.7	厚0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形
土坑41出土遺物（図18）							
1	土師質土器	南伊勢系土鍋	(14.6)	－	現9.5	羽釜形　外面－ハケメ　内面－ナデ　肩部－孔１ヵ所（径0.4cm）　胎土：砂粒、黒色粒、粗土　色調：灰白色	1/4

ピット出土遺物（図20）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.3)	4.0	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット52	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.5	3.8	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット69	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	5.7	3.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット75	略完形
4	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－行書　出土遺構：ピット75	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	3.8	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット84	完形
6	金属 製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－天聖元寶（北宋・1023）　書体－楷書　出土遺構：ピット100	完形

第２面 遺構外出土遺物（図21）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	5.4	4.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	5.4	3.8	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	5.8	3.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	5.8	4.1	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
5	土器	ロクロ かわらけ・小	6.0	4.0	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	6.3	4.1	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.3)	3.8	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	4.0	2.1	口縁部を意識的に欠く　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	6.6	4.3	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	4.9	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	2/3
11	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	5.5	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.9)	6.2	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	2/3
13	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.5)	6.2	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	2/3
14	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(7.0)	4.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	1/4
15	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.3)	4.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	1/3
16	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.9	外面－蓮弁文　色調：胎土－黄灰色、青磁釉－黄褐色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
17	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.3	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－明オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部 小破片
18	磁器	青磁 碗	－	－	現 4.3	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－明緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部 小破片
19	磁器	青磁 碗	－	－	現 4.5	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部 小破片
20	陶器	瀬戸 天目茶碗	(11.9)	－	現 5.8	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、鉄釉－黒褐色、鉄化粧－暗褐色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	1/6
21	陶器	瀬戸 平碗	18.1	6.0	6.9	胎土：緻密　色調：胎土－灰黄色、灰釉－にぶい黄色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	3/4
22	陶器	瀬戸 折縁深Ⅲ	－	－	現 4.2	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－オリーブ黄色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ～Ⅳ期	口縁部 小破片
23	陶器	瀬戸 折縁深Ⅲ	－	－	現 9.4	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ～Ⅳ期	口縁部～ 体部小破片
24	陶器	瀬戸 卸Ⅲ	(17.6)	(8.3)	4.0	胎土：緻密　色調：胎土－淡黄色、灰釉－浅黄色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期	1/2
25	陶器	常滑 甕	－	－	現 14.8	胎土：白色粒、黒色粒　色調：にぶい赤褐色　備考：９型式	口縁部～ 肩部小破片
26	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(18.3)	(12.5)	11.0	胎土：赤色粒、黒色粒、小石粒　色調：暗赤褐色　備考：10～11型式	1/3
27	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(20.0)	(12.6)	10.8	胎土：赤色粒、黒色粒、小礫　色調：明赤褐色・にぶい赤褐色　備考：10～11型式	1/5
28	石製品	硯	現長 11.1	幅 5.2	厚 0.9～1.3	上面－陸部摩耗　石材－粘板岩	4/5
29	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形
30	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－治平通寶（北宋・1064）　書体－楷書	完形

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構３出土遺物（図24）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	6.7	4.5	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	石製品	砥石	現長 8.6	現幅 2.1～3.2	厚 1.0～3.2	４面に使用痕跡　石材－流紋岩	
据鉢遺構１出土遺物（図26）							
1	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	30.0	12.1	11.0	内面－窯印　胎土：白色粒、小石粒、小礫　色調：暗褐色　備考：９～10型式	略完形
2	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形
土坑52出土遺物（図27）							
1	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現 8.7	胎土：白色粒、赤色粒　色調：にぶい褐色・褐色　備考：９～10型式	片口部～体部小破片
土坑58出土遺物（図28）							
1	陶器	瀬戸平碗	－	－	現 6.2	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色・灰黄色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅲ期	1/7
2	陶器	瀬戸平碗	（15.3）	（5.1）	（6.5）	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅲ期	1/7
3	陶器	瀬戸直縁大皿	－	－	現 6.0	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅳ期	口縁部～体部小破片
4	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－大観通寶（北宋・1107）　書体－楷書	完形
土坑61出土遺物（図29）							
1	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現 8.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：８～９型式	口縁部小破片
土坑65出土遺物（図31）							
1	磁器	青磁碗	－	－	現 2.7	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部小破片
第３面 遺構外出土遺物（図33）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	5.5	3.7	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	5.9	3.3	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
3	土器	ロクロかわらけ・小	6.4	3.5	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕、底部穿孔１ヵ所（径0.4～0.5cm）　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロかわらけ・小	6.5	3.5	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロかわらけ・小	6.5	3.5	2.5	口縁部の一部を意識的に欠く　全体－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロかわらけ・小	6.8	4.2	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロかわらけ・小	6.9	3.8	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
8	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	4.0	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
9	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	4.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
10	土器	ロクロかわらけ・中	（11.0）	（6.9）	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
11	土器	ロクロかわらけ・中	11.1	7.2	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
12	土器	ロクロかわらけ・中	（11.2）	（7.5）	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
13	土器	ロクロかわらけ・中	12.1	6.6	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
14	土器	ロクロかわらけ・中	（12.2）	（7.1）	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
15	土器	ロクロかわらけ・大	13.2	7.5	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
16	土器	ロクロかわらけ・大	（13.6）	8.0	4.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
17	土器	ロクロかわらけ・大	13.9	7.6	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
18	土器	ロクロかわらけ・大	14.1	8.4	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
19	磁器	青磁碗	－	－	現 2.5	内外面－無文　色調：胎土－灰色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部小破片
20	磁器	青磁碗	－	－	現 2.6	内外面－無文　色調：胎土－灰色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅳ類	口縁部小破片
21	陶器	瀬戸天目茶碗	（11.0）	－	現 5.4	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、鉄釉－黒褐色、鉄化粧－暗褐色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	1/5
22	陶器	常滑甕	－	－	現 10.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：褐灰色・黒褐色　備考：６ｂ～７型式	口縁部～頸部小破片
23	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現 7.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰緑色・赤褐色・褐色　備考：９～10型式	口縁部～体部小破片

24	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	−	−	現 8.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：にぶい橙色・にぶい赤褐色　備考：９～10型式	口縁部～ 体部小破片
25	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(32.0)	−	現 6.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：にぶい橙色・にぶい赤褐色　備考：９～10型式	口縁部～ 体部小破片
26	土師質・ 瓦質土器	風炉	22.4	−	現 6.6	内外面－磨き　外面－スタンプ巴三つ文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－淡橙色、外面－黒褐色、内面－灰褐色	1/6
27	石製品	砥石	現長 11.8	現幅 1.9～2.8	厚 1.6～2.4	４面に使用痕跡　石材－流紋岩	8/9

表５　第４面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑71出土遺物（図37）							
1	陶器	瀬戸 緑釉小皿	11.5	5.5	2.7	胎土：緻密　色調：胎土－浅黄橙色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅳ期	3/4
ピット出土遺物（図38）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.5)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット175	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(8.3)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット175	1/3
3	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	−	−	現 6.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：橙色　備考：10型式　出土遺構：ピット175	口縁部 小破片
第４面 遺構外出土遺物（図39）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	4.6	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.3	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(4.8)	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	11.1	6.5	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.6	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/5
6	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	8.0	4.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・大	13.9	8.2	4.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
8	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.3)	(9.4)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/5
9	土器	ロクロ かわらけ・大	(15.0)	(10.0)	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/5
10	土器	ロクロ かわらけ・大	(15.0)	(7.9)	4.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
11	陶器	瀬戸 卸皿	(16.8)	−	現 3.6	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式	1/7
12	陶器	瀬戸 直縁大皿	−	−	現 9.0	胎土：緻密　色調：胎土－浅黄橙色、灰釉－黄褐色　備考：古瀬戸後期様式Ⅳ期	口縁部～ 体部小破片
13	陶器	常滑 甕	−	−	現 9.0	胎土：白色粒、小石粒、小礫　色調：暗褐色・黒褐色　備考：７～８型式	口縁部 小破片
14	土師質・ 瓦質土器	燭台	(9.3)	−	現 2.1	内外面－ミガキ　胎土：黒色粒　色調：胎土－灰色、内外面－黒色	皿部 小破片
15	土師質・ 瓦質土器	燭台	−	台基部径 4.0	現 16.0	内外面－ミガキ　胎土：黒色粒　色調：胎土－灰色、内外面－黒色	脚部 小破片
16	土師質・ 瓦質土器	火鉢	42.0	33.0	13.7	３脚付き　内外面－磨き　外面－スタンプ桜花文　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒色・黒灰色　備考：ⅣB類	4/5
17	土師質・ 瓦質土器	方形火鉢	48.5	42.7	15.5	方形で大型・脚は４脚付きと思われるが２脚遺存　内外面－磨き　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒灰色	2/3
18	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－祥符元寶（北宋・1008）　書体－楷書	完形
19	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書	完形
第４面 構成土出土遺物（図40）							
1	土器	ロクロ かわらけ・大	13.8	9.6	4.0	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.3)	(8.7)	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
3	陶器	瀬戸 直縁大皿	−	−	現 7.6	胎土：緻密　色調：胎土－浅黄橙色、灰釉－黄褐色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期	口縁部～ 体部小破片
4	陶器	瀬戸 袴腰形香炉	(8.0)	(5.1)	7.8	体部下半・内面下半－無釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式	1/4
5	土師質・ 瓦質土器	仏花瓶？	−	7.1	現 17.2	外面－磨き、連珠貼り付け文・花文　胎土：白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒灰色	1/4

表６　第５面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑84出土遺物（図43）							
1	石製品	砥石	現長 11.2	幅 1.7	厚 1.2	３面に使用痕跡　石材－流紋岩	
ピット出土遺物（図44）							
1	土師質・瓦質土器	仏花瓶	5.0	10.3	現 17.2	脚３足　内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文・花文　胎土：砂粒、黒色粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒色　出土遺構：ピット189	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.1	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット190	5/6
3	土器	ロクロかわらけ・小	6.7	3.6	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット192	完形
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.2	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット193	完形
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	3.8	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット200	完形
6	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－紹聖元寶（北宋・1094）　書体－篆書　出土遺構：ピット211	完形
7	土器	ロクロかわらけ・小	6.5	4.6	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット214	3/4
8	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書　出土遺構：ピット222	略完形
9	土器	ロクロかわらけ・小	8.3	5.1	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット229	2/3
10	磁器	青磁盤	（22.6）	－	現 4.4	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：龍泉窯系　出土遺構：ピット235	口縁部～体部小破片
11	土器	ロクロかわらけ・中	（12.6）	（6.3）	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット240	3/4
第５面 遺構外出土遺物（図46）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	6.6	4.3	2.1	口縁部～内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	（6.8）	3.8	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
3	土器	ロクロかわらけ・小	（6.9）	3.9	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロかわらけ・小	6.9	3.9	2.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロかわらけ・小	（7.0）	3.8	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	3.7	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
7	土器	ロクロかわらけ・小	（7.2）	（4.7）	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	3.8	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
9	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	4.9	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロかわらけ・中	（12.0）	（8.0）	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
11	土器	ロクロかわらけ・大	（14.1）	8.0	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
12	土器	ロクロかわらけ・大	（13.9）	（6.9）	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/5
13	陶器	瀬戸碗形鉢	－	－	現 6.0	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期	口縁部～体部小破片
14	陶器	瀬戸平碗	（12.9）	－	（5.2）	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色・褐灰色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	1/7
15	陶器	瀬戸平碗	（14.2）	－	現 5.3	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色・黄灰色、灰釉－灰黄褐色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	1/7
16	陶器	瀬戸平碗	－	5.0	現 3.1	胎土：緻密　色調：胎土－灰黄褐色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期	1/4
17	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現 2.0	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－灰黄色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	口縁部～体部小破片
18	陶器	瀬戸折縁深皿	－	－	現 6.3	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－灰黄色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	口縁部～体部小破片
19	陶器	瀬戸卸皿	－	－	現 2.2	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式	口縁部小破片
20	陶器	瀬戸縁釉小皿	（10.6）	（4.9）	2.1	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－明オリーブ灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期	1/5
21	陶器	瀬戸縁釉小皿	（11.8）	－	現 2.2	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－明オリーブ灰色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期	1/8
22	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	7/8
23	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－祥符元寶（北宋・1008）　書体－行書	7/8
24	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－至和通寶（北宋・1054）　書体－篆書	完形
25	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形

26	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068） 書体－楷書	完形
27	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068） 書体－楷書	完形
28	金属製品	銭貨	直径 2.2	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086） 書体－篆書	完形
29	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元符通寶（北宋・1098） 書体－篆書	7/8

表７　第６面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑93出土遺物（図49）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	4.4	2.1	口縁部～内面－油煤付着 底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：浅黄色 焼成：良好	4/5
土坑94出土遺物（図50）							
1	陶器	瀬戸卸皿	（12.2）	（6.0）	2.5	胎土：緻密 色調：胎土－灰白色、灰釉－灰黄色 備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	1/8
第６面 遺構外出土遺物（図52）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	6.6	4.5	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロかわらけ・小	（6.7）	5.2	2.2	口縁部－意識的に欠く 底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	（6.8）	4.3	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	3.8	2.4	口縁部－意識的に欠く・油煤付着 底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	5/6
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.3	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	完形
6	土器	ロクロかわらけ・小	（7.8）	4.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	2/3
7	土器	ロクロかわらけ・小	9.8	5.3	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロかわらけ・中	（12.8）	（6.5）	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	1/3
9	土器	ロクロかわらけ・中	（12.9）	8.0	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロかわらけ・大	（14.0）	（9.1）	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/5
11	土器	ロクロかわらけ・大	14.9	8.8	4.0	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	4/5
12	磁器	白磁皿	（6.7）	（2.6）	1.1	内面－型押しによる花文 底面－ヘラ切り・無釉 色調：胎土－灰白色、白磁釉－明青灰白色	1/5
13	磁器	白磁合子身	－	－	現 1.9	外面－型押しによる花文 受け部－無釉 色調：胎土－灰白色、白磁釉－明緑灰色	1/5
14	陶器	瀬戸天目茶碗	11.6	4.3	6.0	体部下半～高台－無釉 胎土：緻密 色調：胎土－灰白色、鉄釉－暗黒褐色 備考：古瀬戸中期様式Ⅳ期～後期様式Ⅰ期	2/3
15	陶器	瀬戸柄付片口	（16.5）	－	現 6.7	胎土：緻密 色調：胎土－灰白色、灰釉－オリーブ黄色 備考：古瀬戸中期様式Ⅳ期～後期様式Ⅰ期	1/6
16	陶器	常滑甕	－	－	現 7.5	胎土：白色粒、小石粒、小礫 色調：褐灰色 備考：６ａ型式	口縁部小破片
17	陶器	常滑甕	－	－	現 9.1	胎土：白色粒、小石粒 色調：明褐灰色 備考：６ａ型式	口縁部～頸部小破片
18	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	（29.2）	－	現 8.6	胎土：白色粒、小石粒 色調：橙色・暗褐色 備考：10型式	1/6
19	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.5	内外面－磨き 胎土：砂粒、白色粒、黒色粒、小石粒 色調：胎土－灰白色、内外面－黒色	口縁部小破片
20	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038） 書体－篆書	完形

表８　第７面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑100出土遺物（図55）							
1	土師質・瓦質土器	燭台	－	－	現 5.7	外面－突帯３条 内外面－磨き 胎土：黒色粒 色調：胎土－明褐灰色、内外面－黒色	脚部小破片
ピット出土遺物（図57）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	5.9	3.8	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好 出土遺構：ピット299	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.7	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明赤褐色 焼成：良好 出土遺構：ピット366	7/8
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	4.8	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好 出土遺構：ピット372	略完形
第７面 遺構外出土遺物（図58）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	（7.8）	5.0	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロかわらけ・中	（11.0）	（6.2）	3.1	口縁部－油煤付着 底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	1/5

3	陶器	瀬戸 天目茶碗	(11.9)	−	現 4.0	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、鉄釉－黒褐色　備考：古瀬戸中期様式Ⅲ期～後期様式	1/7
4	陶器	瀬戸 入子	4.2	2.4	1.6	輪花形　胎土：緻密　色調：灰色　備考：古瀬戸中期様式	完形
5	陶器	瀬戸 直縁大皿	−	−	現 5.4	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－オリーブ黄色　備考：古瀬戸中期様式Ⅲ期～後期様式	口縁部～ 体部小破片
6	陶器	常滑 甕	−	−	現 3.7	胎土：白色粒　色調：褐灰色・黒褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
7	陶器	摩耗陶片	現長 7.6	現幅 5.3	厚 0.8～1.3	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：暗褐色	略完形
8	土師質・ 瓦質土器	香炉	(5.5)	−	現 3.8	羽釜形　内外面－磨き　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－黒灰色、外面－黒色、内面－黒灰色	体部 小破片
9	土師質・ 瓦質土器	火鉢	(19.8)	(17.2)	現 7.4	輪花形・脚貼り付け　内外面－磨き　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒灰色　備考：Ⅲ類	1/5
10	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.8	厚 0.1	銭名－天聖元寶（北宋・1023）　書体－篆書	3/4
11	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－篆書	完形
12	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.8	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－篆書	2/3

表９　第８面 出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第８面 遺構外出土遺物（図61）							
1	陶器	常滑 甕	−	−	現 4.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：にぶい赤褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
2	陶器	常滑 甕	−	−	現 3.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：極暗赤褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片

表10　第９面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
ピット出土遺物（図65）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.4	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット426	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.6	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット426	3/4
第９面 遺構外出土遺物（図66・67）							
1	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.6	3.5	1.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.6	3.9	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.9	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.4	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.9	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	5/6
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	4.2	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.3	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.9	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.4	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.6	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	4.8	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	5.6	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	5.6	3.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	6.8	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	6.7	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
20	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.6)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3

21	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	6.9	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	3/4
22	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.0	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
23	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.5)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
24	磁器	白磁 皿	(9.4)	(5.7)	2.5	口唇部－口兀　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－灰白色、白磁釉－明緑白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	1/3
25	磁器	青磁 碗	－	－	現 5.1	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－明オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
26	磁器	青磁 坏	－	－	現 2.9	外面－蓮弁文　高台・畳付－露胎　色調：胎土－灰白色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ－３ｂ類	口縁部 小破片
27	陶器	瀬戸 卸皿	(13.2)	7.8	3.7	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－オリーブ灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ期	2/3
28	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.3	内面－煤付着　胎土：白色粒、小礫　色調：にぶい橙色・黒褐色　備考：６ｂ型式	口縁部～ 頸部小破片
29	陶器	常滑 甕	－	－	現 11.0	胎土：白色粒、黒色粒、小礫　色調：にぶい赤褐色・暗赤褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部～ 頸部小破片
30	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 5.0	胎土：微砂、白色粒　色調：灰白色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
31	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	(18.0)	現 6.5	胎土：微砂、白色粒、小礫　色調：黄灰色　備考：５～６ａ型式	1/8
32	瓦	軒丸瓦	現長	瓦当径 14.0～14.3	厚 3.0	瓦当－三つ巴文・連珠文23　胎土：粗　色調：黒色	瓦当部 遺存
33	瓦	丸瓦	現長 14.9	現幅 5.6	厚 1.5～1.8	有段式丸瓦　凸面－ヘラナデ　凹面－布目・枠板圧痕　胎土：粗　色調：暗灰黒色	1/6
34	瓦	丸瓦	現長 25.0	現幅 6.3	厚 1.5～1.8	有段式丸瓦　凸面－縄叩き　凹面－布目・糸切痕　胎土：粗　色調：灰白色・灰色	1/2
35	石製品	滑石製石鍋 転用硯	現長 7.1	現幅 12.0	現 1.4	滑石製石鍋を硯に加工転用　色調：灰色・黒色	
36	石製品	温石	現長 5.2	現幅 4.1	厚 0.3～0.9	孔２ヵ所（径0.4～0.6㎝）　石材－滑石	
37	石製品	砥石	現長 7.1	現幅 1.2～1.6	厚 1.8～2.2	１面に使用痕跡　石材－粘板岩	
38	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－景徳元寶（北宋・1004）　書体－楷書	完形
39	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－大観通寶（北宋・1107）　書体－隷書	完形
40	金属 製品	銭貨	直径 2.6	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－祥符元寶（北宋・1008）　書体－楷書	完形
41	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
42	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書	完形
43	金属 製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形
44	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－政和通寶（北宋・1111）　書体－隷書	完形

表11　第10面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（㎝）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第10面 遺構外出土遺物（図73・74）							
1	土器	白かわらけ	(15.9)	－	現 4.3	ロクロ成形　胎土：微砂、雲母、黒色粒、小石、良土　色調：灰白色　焼成：良好	1/6
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(4.9)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	4.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.1	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.8	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
10	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(8.0)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
11	磁器	青磁 碗	－	－	現 1.8	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－明オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類、二次焼成	口縁部 小破片
12	磁器	青磁 碗	(14.1)	－	現 4.6	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－明緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	1/6
13	陶器	瀬戸 入子	(7.6)	(4.5)	2.2	口縁部－油煤付着　胎土：緻密　色調：灰白色　備考：古瀬戸前期様式	1/3
14	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 8.0	胎土：微砂、白色粒、小礫　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片

15	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	−	13.5	現 10.0	胎土：微砂、白色粒、黒色粒、小礫　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	1/4
16	土師質・ 瓦質土器	火鉢	−	−	現 10.5	内外面－ハケメ　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒灰色　備考：ＩＤ類	口縁部～ 体部小破片
17	土師質・ 瓦質土器	火鉢	−	−	現 9.8	内外面－ハケメ　口縁部直下－穿孔(0.5cm)　胎土：砂粒、雲母、黒色粒　色調：胎土－灰色、内外面－黒灰色・褐灰色　備考：ＩＡ類	口縁部～ 体部小破片
18	石製品	温石	長 13.0	幅 8.6	厚 1.2	滑石製石鍋を転用　孔１ヵ所(径1.3cm)　石材－滑石	7/8
19	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－至道元寶(北宋・995)　書体－行書	完形
20	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元豊通寶(北宋・1078)　書体－行書	完形

表12　第11面 出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第11面 遺構外出土遺物(図79)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.2	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形

表13　第12面 出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第12面 遺構外出土遺物(図82)							
1	木製品	箸状	現長 11.1	幅 0.6	厚 0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形	
2	木製品	箸状	現長 19.4	幅 0.7	厚 0.4	断面不整形	
3	木製品	箸状	長 20.5	幅 0.5	厚 0.5	断面方形	完形
4	木製品	箸状	長 22.0	幅 0.7	厚 0.5	断面不整形	完形
5	木製品	箸状	現長 23.4	幅 0.5	厚 0.5	断面長方形	略完形
6	木製品	箸状	長 24.4	幅 0.7	厚 0.5	断面不整形	完形
7	木製品	棒状	現長 25.0	幅 0.4	厚 0.5	断面方形	
8	木製品	串状	現長 16.8	現幅 0.9	厚 0.5	断面不整形	
9	木製品	串状	長 41.9	幅 1.6	厚 0.9	断面不整形　両端を鋭角に整形	略完形
10	木製品	用途不明	現長 18.1	現幅 2.1	厚 0.3～0.4	草履芯か	
11	木製品	用途不明	現長 18.1～18.8	現幅 11.4	厚 6.7	建材転用か　仕口痕残る	

表14　遺構計測表

( )＝推定値、〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
土坑１	第１面	〈83〉	〈40〉	11
土坑２	第１面	83	〈55〉	12
土坑３	第１面	〈94〉	〈44〉	16
土坑４	第１面	204	152	20
土坑５	第１面	65	42	24
土坑６	第１面	74	63	9
土坑７	第１面	〈166〉	〈160〉	17
土坑８	第１面	100	74	20
土坑９	第１面	120	81	31
土坑10	第１面	〈60〉	67	16
土坑11	第１面	62	43	26
土坑12	第１面	〈116〉	〈50〉	13
土坑13	第１面	〈66〉	63	9
土坑14	第１面	〈81〉	68	6
土坑15	第１面	70	57	12
土坑16	第１面	62	55	20
土坑17	第１面	〈173〉	〈95〉	13
土坑18	第１面	85	82	21
土坑19	第１面	〈66〉	〈22〉	22
土坑20	第１面	〈110〉	〈55〉	29
土坑21	第１面	〈88〉	55	20
土坑22	第１面	80	74	20
土坑23	第１面	64	49	14
土坑24	第１面	〈93〉	70	14
土坑25	第１面	88	73	25
土坑26	第１面	69	44	11
土坑27	第１面	〈93〉	〈21〉	11
土坑28	第１面	〈80〉	38～42	11
土坑29	第１面	95	〈56〉	20
土坑30	第１面	〈63〉	〈23〉	10
土坑31	第１面	〈80〉	〈40〉	10
ピット１	第１面	47	35	22
ピット２	第１面	17	16	21
ピット３	第１面	59	45	31
ピット４	第１面	33	〈15〉	11
ピット５	第１面	36	23	20
ピット６	第１面	41	〈24〉	10
ピット７	第１面	37	〈13〉	10
ピット８	第１面	34	〈25〉	27
ピット９	第１面	26	20	13
ピット10	第１面	24	〈12〉	8
ピット11	第１面	30	27	11
ピット12	第１面	23	21	8
ピット13	第１面	45	33	6
ピット14	第１面	24	24	10
ピット15	第１面	34	31	14
ピット16	第１面	25	21	12
ピット17	第１面	30	29	7
ピット18	第１面	20	19	13
ピット19	第１面	56	31	27
ピット20	第１面	28	25	9
ピット21	第１面	22	18	12
ピット22	第１面	23	19	15
ピット23	第１面	28	15	15
ピット24	第１面	32	〈10〉	15
ピット25	第１面	36	26	22
ピット26	第１面	45	32	16
ピット27	第１面	49	29	18
ピット28	第１面	57	44	28
ピット29	第１面	(58)	39	21
ピット30	第１面	28	27	18
ピット31	第１面	32	24	12
ピット32	第１面	33	24	14
ピット33	第１面	36	28	12
ピット34	第１面	37	〈35〉	7
ピット35	第１面	43	36	10
ピット36	第１面	45	35	28
ピット37	第１面	53	〈34〉	15
ピット38	第１面	45	〈11〉	14
ピット39	第１面	58	44	20
ピット40	第１面	53	42	27
ピット41	第１面	38	36	6
ピット42	第１面	36	29	12
ピット43	第１面	38	36	14
ピット44	第１面	50	〈35〉	24
ピット45	第１面	30	20	23
ピット46	第１面	54	38	20
ピット47	第１面	〈55〉	42	9
溝状遺構１	第２面	〈420〉	40～100	９～15
溝状遺構２	第２面	〈280〉	30～60	９～11
土坑32	第２面	〈66〉	〈32〉	24
土坑33	第２面	〈44〉	60	9
土坑34	第２面	71	−	29
土坑35	第２面	62	58	34
土坑36	第２面	73	63	30
土坑37	第２面	69	54	12～22
土坑38	第２面	〈70〉	68	35
土坑39	第２面	61	〈30〉	24
土坑40	第２面	〈130〉	116	22
土坑41	第２面	86	66	16
土坑42	第２面	〈133〉	61～86	18
土坑43	第２面	87	62	23
土坑44	第２面	130	56～91	12
土坑45	第２面	91	72	20
土坑46	第２面	〈80〉	90	8
土坑47	第２面	62	51	16
土坑48	第２面	97	59	10
土坑49	第２面	62	60	36
土坑50	第２面	〈73〉	〈49〉	39
土坑51	第２面	75	〈37〉	16
ピット48	第２面	26	24	20
ピット49	第２面	48	42	39
ピット50	第２面	30	26	16
ピット51	第２面	29	24	16
ピット52	第２面	58	41	24
ピット53	第２面	46	41	33
ピット54	第２面	39	32	35
ピット55	第２面	39	〈35〉	12

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット56	第2面	16	12	24
ピット57	第2面	47	38	21
ピット58	第2面	21	20	13
ピット59	第2面	29	28	17
ピット60	第2面	17	16	33
ピット61	第2面	35	23	8
ピット62	第2面	50	45	11
ピット63	第2面	17	14	21
ピット64	第2面	30	13	5
ピット65	第2面	40	〈34〉	28
ピット66	第2面	27	25	29
ピット67	第2面	33	26	23
ピット68	第2面	33	20	33
ピット69	第2面	38	29	14～16
ピット70	第2面	32	27	29
ピット71	第2面	40	15	14
ピット72	第2面	56	46	29
ピット73	第2面	30	〈25〉	17
ピット74	第2面	32	25	13
ピット75	第2面	47	43	48
ピット76	第2面	34	27	24
ピット77	第2面	28	28	11
ピット78	第2面	48	39	17
ピット79	第2面	31	25	10
ピット80	第2面	34	〈25〉	15
ピット81	第2面	36	〈29〉	25
ピット82	第2面	〈21〉	30	9
ピット83	第2面	38	31	19
ピット84	第2面	31	22	31
ピット85	第2面	39	36	30
ピット86	第2面	45	42	42
ピット87	第2面	46	〈13〉	26
ピット88	第2面	16	11	11
ピット89	第2面	10	9	10
ピット90	第2面	34	〈33〉	12
ピット91	第2面	29	〈26〉	13
ピット92	第2面	36	〈26〉	13
ピット93	第2面	〈42〉	39	14
ピット94	第2面	51	〈28〉	16
ピット95	第2面	44	36	32
ピット96	第2面	30	〈19〉	5
ピット97	第2面	31	28	31
ピット98	第2面	39	31	26
ピット99	第2面	37	31	24
ピット100	第2面	42	〈32〉	17
ピット101	第2面	55	〈25〉	24
ピット102	第2面	42	38	15
ピット103	第2面	30	27	26
溝状遺構3	第3面	〈160〉	40	15～26
掘鉢遺構1	第3面	53	50	20
土坑52	第3面	〈152〉	〈140〉	31
土坑53	第3面	〈80〉	〈40〉	14
土坑54	第3面	61	49	12
土坑55	第3面	93	〈53〉	31
土坑56	第3面	〈80〉	〈20〉	8
土坑57	第3面	〈116〉	〈31〉	20
土坑58	第3面	68	63	30
土坑59	第3面	62	50	26
土坑60	第3面	71	54	32
土坑61	第3面	92	24～34	14
土坑62	第3面	61	18～34	11～20
土坑63	第3面	〈190〉	〈102〉	8
土坑64	第3面	120	〈108〉	43
土坑65	第3面	78	60	51
土坑66	第3面	〈67〉	〈50〉	38
ピット104	第3面	〈37〉	〈24〉	20
ピット105	第3面	47	37	32
ピット106	第3面	39	〈26〉	13
ピット107	欠番			
ピット108	第3面	35	31	24
ピット109	第3面	38	37	20
ピット110	第3面	10	10	18
ピット111	第3面	49	46	22
ピット112	第3面	41	〈20〉	23
ピット113	第3面	35	28	16
ピット114	第3面	41	37	9
ピット115	第3面	31	29	9
ピット116	第3面	40	40	23

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット117	第3面	33	33	15
ピット118	第3面	(50)	44	19
ピット119	第3面	43	38	11
ピット120	第3面	44	43	19
ピット121	第3面	45	24	23
ピット122	第3面	41	37	21
ピット123	第3面	27	22	11
ピット124	第3面	37	34	14
ピット125	第3面	41	34	20
ピット126	第3面	39	33	9
ピット127	第3面	56	30	27
ピット128	第3面	30	29	60
ピット129	第3面	29	27	7
ピット130	第3面	44	33	9
ピット131	第3面	29	29	12
ピット132	第3面	25	20	10
ピット133	第3面	43	〈33〉	30
ピット134	第3面	44	〈33〉	16
ピット135	第3面	50	43	25
ピット136	第3面	55	〈46〉	24
ピット137	第3面	37	〈11〉	20
ピット138	第3面	28	〈26〉	11
ピット139	第3面	41	26	22
ピット140	第3面	31	24	18
ピット141	第3面	33	33	28
ピット142	第3面	24	〈10〉	15
ピット143	第3面	31	25	23
ピット144	第3面	23	23	29
ピット145	第3面	30	〈20〉	8
ピット146	第3面	〈37〉	25	9
ピット147	第3面	57	28	15
ピット148	第3面	38	〈29〉	15
ピット149	第3面	30	〈19〉	15
ピット150	第3面	39	31	11
ピット151	第3面	28	〈13〉	13
ピット152	第3面	33	30	31
ピット153	第3面	45	34	13
ピット154	第3面	20	20	21
溝状遺構4	第4面	〈520〉	60～90	10～15
溝状遺構5	第4面	〈350〉	50～60	30～36
土坑67	第4面	〈88〉	116	18
土坑68	第4面	〈64〉	58～64	17
土坑69	第4面	63	〈50〉	10
土坑70	第4面	60	45	22
土坑71	第4面	〈114〉	〈44〉	18
土坑72	第4面	62	53	61
土坑73	第4面	〈93〉	83	30
土坑74	第4面	〈203〉	95～134	12
土坑75	第4面	109～122	〈119〉	60
ピット155	第4面	58	43	25
ピット156	第4面	(44)	29	9
ピット157	第4面	〈31〉	〈16〉	11
ピット158	第4面	32	〈17〉	7
ピット159	第4面	17	11	16
ピット160	第4面	19	〈13〉	19
ピット161	第4面	(23)	16	14
ピット162	第4面	〈21〉	〈20〉	7
ピット163	第4面	48	48	29
ピット164	第4面	31	28	10
ピット165	第4面	14	〈3〉	－
ピット166	第4面	32	〈17〉	14
ピット167	第4面	25	〈11〉	14
ピット168	第4面	52	48	36
ピット169	第4面	44	〈29〉	13
ピット170	第4面	23	20	8
ピット171	第4面	35	25	9
ピット172	第4面	31	25	9
ピット173	第4面	42	30	19
ピット174	第4面	27	23	42
ピット175	第4面	28	20	10
ピット176	第4面	18	〈13〉	11
ピット177	第4面	44	36	49
ピット178	第4面	56	45	51
ピット179	第4面	32	21	68
ピット180	第4面	34	28	－
ピット181	第4面	39	39	57
ピット182	第4面	26	〈14〉	28

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット183	第4面	24	〈13〉	6
ピット184	第4面	37	34	39
土坑76	第5面	76	70	16
土坑77	第5面	63	60	80
土坑78	第5面	103	〈62〉	10
土坑79	第5面	〈89〉	〈9〉	14
土坑80	第5面	62	52	47
土坑81	第5面	65	〈31〉	12
土坑82	第5面	77	〈40〉	15
土坑83	第5面	63	〈39〉	40
土坑84	第5面	97	70	11
ピット185	第5面	〈58〉	〈31〉	－
ピット186	第5面	〈40〉	〈36〉	13
ピット187	第5面	(42)	39	37
ピット188	第5面	54	47	21
ピット189	第5面	〈56〉	42	30
ピット190	第5面	57	〈31〉	8
ピット191	第5面	36	〈17〉	16
ピット192	第5面	49	37	59
ピット193	第5面	34	29	11
ピット194	第5面	33	〈16〉	－
ピット195	第5面	〈43〉	〈43〉	25
ピット196	第5面	40	〈22〉	47
ピット197	第5面	31	26	53
ピット198	第5面	〈56〉	51	35
ピット199	第5面	12	12	7
ピット200	第5面	58	〈32〉	14
ピット201	第5面	26	23	16
ピット202	第5面	29	27	15
ピット203	第5面	(47)	47	41
ピット204	第5面	34	〈17〉	25
ピット205	第5面	〈25〉	25	14
ピット206	第5面	47	36	8
ピット207	第5面	34	〈24〉	10
ピット208	第5面	35	〈29〉	17
ピット209	第5面	46	〈25〉	26
ピット210	第5面	58	40	34
ピット211	第5面	43	〈29〉	7
ピット212	第5面	34	30	11
ピット213	第5面	13	12	9
ピット214	第5面	(56)	42	12
ピット215	第5面	39	37	22
ピット216	第5面	(44)	44	13
ピット217	第5面	47	35	27
ピット218	第5面	48	42	33
ピット219	第5面	54	39	－
ピット220	第5面	33	29	－
ピット221	第5面	38	35	8
ピット222	第5面	51	(33)	7
ピット223	第5面	〈49〉	〈20〉	10
ピット224	第5面	47	41	24
ピット225	第5面	42	32	8
ピット226	第5面	40	33	11
ピット227	第5面	21	20	17
ピット228	第5面	〈41〉	〈23〉	14
ピット229	第5面	56	〈21〉	19
ピット230	第5面	47	47	20
ピット231	第5面	55	53	48
ピット232	第5面	38	32	7
ピット233	第5面	32	30	10
ピット234	第5面	〈43〉	〈21〉	10
ピット235	第5面	21	18	7
ピット236	第5面	39	30	7
ピット237	第5面	24	20	19
ピット238	第5面	48	37	26
ピット239	第5面	31	〈26〉	10
ピット240	第5面	28	25	28
ピット241	第5面	36	33	19
ピット242	第5面	33	30	14
ピット243	第5面	15	11	13
土坑85	第6面	115	65	12
土坑86	第6面	93	39	10
土坑87	第6面	80	46	12
土坑88	第6面	67	22～45	9
土坑89	第6面	〈61〉	〈20〉	31
土坑90	第6面	〈95〉	〈33〉	13
土坑91	第6面	76	70	29
土坑92	第6面	76	70	13

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
土坑93	第6面	62	45	14
土坑94	第6面	85	69	14
土坑95	第6面	63	50	19
土坑96	第6面	60	44	21
土坑97	第6面	〈89〉	63	16
土坑98	第6面	〈105〉	105	32
ピット244	第6面	39	28	22
ピット245	第6面	34	29	14
ピット246	第6面	33	〈27〉	12
ピット247	第6面	〈31〉	31	19
ピット248	第6面	〈36〉	35	11
ピット249	第6面	46	42	41
ピット250	第6面	37	35	16
ピット251	第6面	34	27	11
ピット252	第6面	37	25	10
ピット253	第6面	39	34	21
ピット254	第6面	44	42	25
ピット255	第6面	50	33	11
ピット256	第6面	(46)	29	10
ピット257	第6面	12	11	8
ピット258	第6面	35	24	14
ピット259	第6面	33	26	13
ピット260	第6面	30	28	14
ピット261	第6面	〈28〉	〈24〉	7
ピット262	第6面	〈35〉	21	16
ピット263	第6面	54	〈10〉	8
ピット264	第6面	41	37	21
ピット265	第6面	25	25	20
ピット266	第6面	〈32〉	32	11
ピット267	第6面	(34)	28	12
ピット268	第6面	41	33	26
ピット269	第6面	27	25	10
ピット270	第6面	34	28	35
ピット271	第6面	42	〈22〉	10
ピット272	第6面	36	23	9
ピット273	第6面	30	25	15
ピット274	第6面	44	38	28
ピット275	第6面	34	〈9〉	－
ピット276	第6面	48	42	14
ピット277	第6面	32	32	19
ピット278	第6面	10	10	14
ピット279	第6面	12	11	9
ピット280	第6面	36	25	12
ピット281	第6面	34	24	19
ピット282	第6面	51	33	20
ピット283	第6面	35	〈25〉	11
ピット284	第6面	50	41	41
ピット285	第6面	42	35～40	31
ピット286	第6面	47	〈32〉	7
ピット287	第6面	49	45	19
ピット288	第6面	37	〈16〉	9
ピット289	第6面	36	29	13
ピット290	第6面	51	41	12
溝状遺構6	第7面	〈150〉	20	4～9
溝状遺構7	第7面	〈640〉	50～70	9～23
土坑99	第7面	61	〈37〉	27
土坑100	第7面	79	64	28
土坑101	第7面	67	〈61〉	12
土坑102	第7面	60	33	28
土坑103	第7面	〈63〉	〈40〉	23
土坑104	第7面	82	61	25
土坑105	第7面	99	78	17
土坑106	第7面	〈60〉	116	10
土坑107	第7面	64	57	9
土坑108	第7面	〈106〉	90	13
土坑109	第7面	145	115	24
土坑110	第7面	95	58	25
土坑111	第7面	98	83	24
土坑112	第7面	66	49	27
土坑113	第7面	110	82	34
土坑114	第7面	65	50	36
土坑115	第7面	69	51	14
土坑116	第7面	〈61〉	〈28〉	22
土坑117	第7面	89	74	13
ピット291	第7面	25	〈23〉	17
ピット292	第7面	30	28	20
ピット293	第7面	26	〈20〉	－
ピット294	第7面	27	23	18

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット295	第７面	欠番		
ピット296	第７面	37	12	－
ピット297	第７面	15	30	16
ピット298	第７面	〈38〉	27	9
ピット299	第７面	27	〈29〉	13
ピット300	第７面	35	54	16
ピット301	第７面	〈47〉	32	19
ピット302	第７面	41	〈23〉	14
ピット303	第７面	45	21	16
ピット304	第７面	27	26	10
ピット305	第７面	29	35	14
ピット306	第７面	37	〈23〉	21
ピット307	第７面	29	〈34〉	20
ピット308	第７面	42	38	28
ピット309	第７面	49	〈18〉	30
ピット310	第７面	38	33	11
ピット311	第７面	〈40〉	19	21
ピット312	第７面	27	21	30
ピット313	第７面	25	39	32
ピット314	第７面	(41)	32	14
ピット315	第７面	42	17	18
ピット316	第７面	21	〈29〉	14
ピット317	第７面	35	38	16
ピット318	第７面	40	〈30〉	18
ピット319	第７面	36	〈29〉	19
ピット320	第７面	44	28	23
ピット321	第７面	37	32	25
ピット322	第７面	(44)	29	21
ピット323	第７面	37	35	34
ピット324	第７面	42	30	30
ピット325	第７面	36	21	14
ピット326	第７面	23	〈20〉	61
ピット327	第７面	25	27	27
ピット328	第７面	34	14	15
ピット329	第７面	14	45	23
ピット330	第７面	46	27	13
ピット331	第７面	35	〈18〉	29
ピット332	第７面	51	〈33〉	30
ピット333	第７面	41	34	19
ピット334	第７面	36	〈16〉	40
ピット335	第７面	23	〈25〉	18
ピット336	第７面	30	31	11
ピット337	第７面	(43)	〈28〉	31
ピット338	第７面	42	40	18
ピット339	第７面	42	44	23
ピット340	第７面	44	32	11
ピット341	第７面	39	24	17
ピット342	第７面	31	46	38
ピット343	第７面	51	23	23
ピット344	第７面	27	(31)	30
ピット345	第７面	38	26	24
ピット346	第７面	37	(47)	31
ピット347	第７面	58	42	16
ピット348	第７面	49	35	23
ピット349	第７面	38	22	13
ピット350	第７面	38	27	48
ピット351	第７面	33	35	10
ピット352	第７面	36	33	40
ピット353	第７面	37	25	42
ピット354	第７面	33	33	15
ピット355	第７面	43	39	30
ピット356	第７面	49	30	21
ピット357	第７面	31	31	17

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット358	第７面	32	〈13〉	27
ピット359	第７面	32	34	11
ピット360	第７面	40	21	27
ピット361	第７面	22	25	－
ピット362	第７面	34	27	12
ピット363	第７面	27	22	6
ピット364	第７面	26	32	24
ピット365	第７面	33	41	22
ピット366	第７面	46	23	31
ピット367	第７面	40	21	13
ピット368	第７面	33	〈30〉	14
ピット369	第７面	〈34〉	41	16
ピット370	第７面	50	31	25
ピット371	第７面	〈35〉	33	20
ピット372	第７面	34	46	8
ピット373	第７面	53	30	18
ピット374	第７面	32	31	21
ピット375	第７面	36	〈20〉	37
ピット376	第７面	29	〈19〉	8
ピット377	第７面	27	30	16
ピット378	第７面	33	〈23〉	29
ピット379	第７面	37	〈32〉	30
ピット380	第７面	38	22	29
ピット381	第７面	34	32	33
ピット382	第７面	(37)	27	14
ピット383	第７面	29	22	28
ピット384	第７面	39	〈24〉	29
ピット385	第７面	25	29	15
ピット386	第７面	41	41	17
ピット387	第７面	43	(31)	18
ピット388	第７面	47	36	14
ピット389	第７面	(58)	32	14
ピット390	第７面	37	〈６〉	－
ピット391	第７面	25	38	28
ピット392	第７面	38	20	26
ピット393	第７面	22	41	9
ピット394	第７面	50	36	48
ピット395	第７面	41	36	16
ピット396	第７面	45	〈12〉	23
ピット397	第７面	39	〈24〉	10
ピット398	第７面	37	〈20〉	24
ピット399	第７面	31	〈23〉	27
ピット400	第７面	41	〈15〉	19
ピット401	第７面	〈20〉	40	16
ピット402	第７面	47	28	30
ピット403	第７面	30	42	29
ピット404	第７面	(53)	29	13
ピット405	第７面	32	25	22
ピット406	第７面	25	〈32〉	8
ピット407	第７面	45	23	16
ピット408	第７面	27	17	22
ピット409	第７面	20	20	36
ピット410	第７面	21	20	24
土坑118	第８面	114	85	25
土坑119	第８面	〈144〉	〈45〉	14
土坑120	第８面	66	34	－
土坑121	第８面	111	38～42	40
土坑122	第８面	92	71	43
土坑123	第８面	97	90	20
土坑124	第８面	〈90〉	〈92〉	27
土坑125	第８面	〈120〉	〈132〉	13
土坑126	第８面	〈110〉	122	27
ピット411	第８面	〈49〉	〈38〉	32

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット412	第８面	39	30	24
ピット413	第８面	37	33	19
ピット414	第８面	49	48	17
ピット415	第８面	35	33	13
ピット416	第８面	20	18	23
ピット417	第８面	25	20	16
ピット418	第８面	32	21	13
ピット419	第８面	56	〈17〉	13
ピット420	第８面	25	14	28
ピット421	第８面	28	〈20〉	13
道路状遺構1	第９面	〈530〉	280～300	－
土坑127	第９面	155	99	10
土坑128	第９面	〈77〉	〈39〉	－
土坑129	第９面	〈148〉	〈41〉	19
土坑130	第９面	130	〈100〉	20
土坑131	第９面	〈64〉	〈40〉	26
土坑132	第９面	64	60	20
ピット422	第９面	27	〈18〉	5
ピット423	第９面	25	23	19
ピット424	第９面	〈34〉	〈23〉	9
ピット425	第９面	〈29〉	29	8
ピット426	第９面	〈56〉	〈29〉	30
ピット427	第９面	(37)	36	47
ピット428	第９面	41	31	18
道路状遺構2	第10面	〈530〉	250～340	－
道路状遺構２掘り方	第10面	〈480〉	290～380	60
溝状遺構８	第10面	〈260〉	30	15～28
常滑溜まり1	第10面	140	〈66〉	10～24
土坑133	第10面	〈91〉	〈44〉	16
土坑134	第10面	62	〈43〉	8
土坑135	第10面	63	53	13
土坑136	第10面	〈68〉	38～58	6
土坑137	第10面	〈66〉	〈39〉	27
土坑138	第10面	〈64〉	36	18
土坑139	第10面	66	〈47〉	12
土坑140	第10面	欠番		
ピット429	第10面	42	39	35
ピット430	第10面	16	9	18
ピット431	第10面	45	43	40
ピット432	第10面	28	23	25
ピット433	第10面	22	11	29
ピット434	第10面	欠番		
ピット435	第10面	36	30	17
ピット436	第10面	33	11～21	37
ピット437	第10面	(58)	34	20
ピット438	第10面	34	〈14〉	9
ピット439	第10面	36	31	8
ピット440	第10面	〈33〉	25	－
ピット441	第10面	〈44〉	34	25
ピット442	第10面	35	29	8
ピット443	第10面	52	〈41〉	8
ピット444	第10面	39	34	21
ピット445	第10面	34	33	8
ピット446	第10面	39	(38)	14
ピット447	第10面	50	39	15
ピット448	第10面	39	33	16
ピット449	第10面	29	28	30
ピット450	第10面	(27)	19	26
ピット451	第10面	39	〈18〉	27

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット452	第10面	33	30	5
ピット453	第10面	27	26	8
ピット454	第10面	38	30	10
ピット455	第10面	47	46	9
ピット456	第10面	37	25	16
ピット457	第10面	32	21	25
ピット458	第10面	(38)	36	12
ピット459	第10面	39	36	28
ピット460	第10面	46	42	5
ピット461	第10面	(56)	49	9
ピット462	第10面	52	〈21〉	8
ピット463	第10面	41	35	14
ピット464	第10面	54	49	11
溝状遺構９	第11面	〈230〉	12～20	10
土坑141	第11面	103	77	26
土坑142	第11面	〈73〉	〈50〉	14
土坑143	第11面	80	〈68〉	32
ピット465	第11面	36	〈20〉	10
ピット466	第11面	(36)	29	7
ピット467	第11面	29	〈24〉	4
ピット468	第11面	24	22	8
ピット469	第11面	欠番		
ピット470	第11面	47	45	21
ピット471	第11面	26	〈21〉	13
ピット472	第11面	40	36	23
ピット473	第11面	57	〈25〉	20
ピット474	第11面	43	31	19
ピット475	第11面	40	37	31
ピット476	第11面	21	〈13〉	12
ピット477	第11面	24	23	11
ピット478	第11面	40	36	15
ピット479	第11面	46	40	8
ピット480	第11面	38	33	10
ピット481	第11面	53	〈38〉	13
ピット482	第11面	〈26〉	25	14
ピット483	第11面	39	24	27
ピット484	第11面	40	〈14〉	7
ピット485	第11面	31	26	16
ピット486	第11面	〈50〉	〈21〉	18
ピット487	第11面	44	33	8
ピット488	第11面	46	38	10
ピット489	第11面	30	〈11〉	10
ピット490	第11面	22	22	26
ピット491	第11面	33	30	12
土坑144	第12面	〈76〉	〈42〉	7
土坑145	第12面	69	48	13
ピット492	第12面	〈35〉	34	11
ピット493	第12面	44	〈16〉	19
ピット494	第12面	7	7	－
ピット495	第12面	44	42	9
ピット496	第12面	9	7	15
ピット497	第12面	21	19	17
ピット498	第12面	19	19	30
ピット499	第12面	23	23	12
ピット500	第12面	34	32	18
ピット501	第12面	25	21	15
ピット502	第12面	22	21	19
ピット503	第12面	17	14	24
ピット504	第12面	15	15	21
ピット505	第12面	〈33〉	31	9
ピット506	第12面	41	40	20

表15　出土遺物一覧表

表土

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	350
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
瀬戸	平碗	2
常滑	甕	40
	片口鉢Ⅱ類	2
【土器】		
	土錘	1
【瓦】		
	丸瓦	3
	平瓦	2
【石製品】		
	石鉢	1
	砥石	3
	板碑	2
【金属製品】		
	釘	22
	器種不明	3
	合計	432

第１面

土坑２

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	4

土坑３

産地	器種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
	合計	1

土坑６

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	31
	合計	31

土坑８

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑９

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

土坑10		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	合計	9

土坑11		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

土坑12		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

土坑13		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	38
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	39

土坑15		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

土坑17		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	10

土坑20		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	15

土坑21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	10

土坑22		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

土坑23		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

土坑24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	25
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅳ類	1
【陶器】		
瀬戸	縁釉小皿	1
	合計	27

ピット1		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	2

ピット8		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【石製品】		
	砥石	1
	合計	2

ピット12		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット15		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット16		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット17		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

ピット18		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
	合計	8

ピット19		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	13

ピット20		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット26		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット29		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	12

ピット30		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット31		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
合計		2

ピット35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット36		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	12

ピット40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
	合計	16

ピット42		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット46		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	合計	9

第1面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	188
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
	碗小破片	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
	平碗	1
瀬戸	直縁大皿	10
	卸皿	1
常滑	甕	9
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
	火鉢小破片	2
【土製品】		
	土錘	1
【石製品】		
	砥石	1
	硯	1
	板碑	2
【金属製品】		
	銭貨	3
	合計	223

第1面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	28
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	29

第2面

溝状遺構1		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	7

溝状遺構2		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	23
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	24

土坑34		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

土坑35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

土坑39		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
	器種不明小破片	2
	合計	7

土坑40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	17
【土師質・瓦質土器】		
	燭台	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	19

土坑41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
【土師質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	18

土坑43		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

土坑47		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

土坑48		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

土坑49		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

土坑50		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	合計	10

ピット52		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット55		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	合計	9

ピット62		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット66		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット69		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット73		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	1

ピット75		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	1
	合計	10

ピット76		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
	合計	8

ピット77		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット79		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
	合計	2

ピット81		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット84		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【石製品】		
	燧石	1
	合計	2

ピット95		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット100		
産　地	器　種	破片数
【金属】		
	銭貨	1
	合計	1

第２面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	583
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ａ類	1
	碗Ⅳ類	5
	盤	1
	器種不明小破片	5
【青白磁】		
	梅瓶	3
【陶器】		
瀬戸	平碗	2
	天目茶碗	1
	縁釉小皿	1
	直縁大皿	6
	折縁深皿	7
	卸皿	2
	器種不明小破片	3
常滑	甕	27
	片口鉢Ⅱ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	4
	火鉢Ⅰ類	1
	燭台	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	硯	2
【金属製品】		
	銭貨	2
	釘	8
	器種不明	1
	合計	670

第２面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	72
【青磁】		
龍泉窯系	盤	1
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
	折縁深皿	21
	卸皿	2
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅱ類	9
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	1
	合計	112

第３面

溝状遺構3		
	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
常滑	甕	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	2
	合計	16

据鉢遺構１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	3

土坑52		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	9

土坑53		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	4
	合計	7

土坑55		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	11

土坑58		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	平碗	2
	直縁大皿	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	6

土坑59		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【金属製品】		
	釘	1
	合計	7

土坑60		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

土坑61		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	9

土坑64		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
	合計	14

土坑65		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅳ類	2
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	9

土坑66		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	7
	合計	7

ピット105		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット106		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

ピット107		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	2

ピット116		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット118		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット120		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
	合計	8

ピット123		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
	合計	12

ピット125		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【石製品】		
	砥石	1
	合計	9

ピット127		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
	合計	15

ピット128		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	21
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	23

ピット134		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

ピット135		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
合計		3

ピット136		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット143		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		2

ピット147		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
合計		8

ピット150		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		2

第３面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	348
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅳ類	2
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
	天目茶碗	2
	小杯	2
	直縁大皿	4
	縁釉小皿	3
常滑	甕	17
	片口鉢Ⅱ類	4
【土師質・瓦質土器】		
	風炉	1
	火鉢小破片	5
	碗	1
	燭台	1
【瓦】		
	平瓦	2
【石製品】		
	石鉢	1
	砥石	2
【金属製品】		
	釘	3
合計		399

第３面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
	器種不明小破片	7
常滑	甕	10
	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		30

第４面

溝状遺構４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	136
【陶器】		
瀬戸	平碗	2
	直縁大皿	1
	香炉	1
	器種不明小破片	4
常滑	片口鉢Ⅱ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	燭台	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		149

土坑67		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
合計		18

土坑68		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
合計		10

土坑69		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

土坑71		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	縁釉小皿	1
合計		1

土坑75		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	17
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	燭台	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		23

ピット157		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット167		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット175		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
合計		7

ピット178		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【金属製品】		
	釘	1
合計		7

第４面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	582
【白磁】		
	壺	1
	皿Ⅸ類	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	2
	平碗	5
	天目茶碗	2
	直縁大皿	8
	折縁深皿	1
	卸皿	1
	縁釉小皿	4
	香炉	1
	器種不明小破片	4
常滑	甕	37
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	3
	火鉢ⅢＢ類	1
	火鉢ⅣＢ類	1
	方形火鉢	1
	燭台	2
	碗	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	釘	10
	器種不明	2
合計		673

第４面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	260
【白磁】		
	皿Ⅸ類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
【陶器】		
瀬戸	平碗	3
	天目茶碗	2
	直縁大皿	1
	縁釉小皿	1
	器種不明小破片	3
常滑	甕	33
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	17
	皿	1
	仏花瓶	1
	燭台	1
	香炉	2
【瓦】		
	平瓦	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	3
合計		332

第５面

土坑78		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

土坑81		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

土坑82		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	2
合計		11

土坑84		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【石製品】		
	砥石	1
合計		6

ピット174		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット177		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット181		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット186		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット187		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット189		
産　地	器　種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	仏花瓶	1
合計		1

ピット190		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット191		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット192		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
合計		8

ピット193		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット195		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
合計		8

ピット198		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13

	合計	13

ピット200		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット203		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
	合計	2

ピット204		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

ピット206		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

ピット208		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット211		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	19

ピット214		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット215		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【石製品】		
	燧石	1
	合計	2

ピット216		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
	合計	16

ピット217		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	10

ピット218		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	5
	合計	5

ピット220		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット221		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
	合計	14

ピット222		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	1

ピット224		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット227		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット229		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット230		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	17
	合計	17

ピット231		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	19
	合計	19

ピット232		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

ピット234		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	2

ピット235		
産　地	器　種	破片数
【青磁】		
龍泉窯系	盤	1
	合計	1

ピット240		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット242		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
	合計	8

第５面 遺構外		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ　ロクロ成形	239
	かわらけ転用品	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
	碗小破片	1
【陶器】		
瀬戸	四耳壺	2
	碗形鉢	1
	平碗	9
	天目茶碗	2
	直縁大皿	3
	折縁深皿	2
	卸皿	6
	縁釉小皿	4
	器種不明小破片	19
常滑	甕	54
	片口鉢Ⅰ類	1
備前	擂鉢	1
【土器】		
	燭台	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	5
【金属製品】		
	銭貨	8
	釘	2
	合計	367

第６面

土坑85		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	5

土坑86		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

土坑87		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
	合計	5

土坑88		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	2
	合計	4

土坑89		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

土坑93		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

土坑94		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	22
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1

	合計	23

土坑96		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

土坑97		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	22
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
	合計	23

土坑98		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	9

ピット245		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット248		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
	合計	1

ピット250		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	7

ピット253		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	器種不明	3
	合計	3

ピット255		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【青磁】		
龍泉窯系	盤	1
	合計	2

ピット259		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット260		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	5

ピット261		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット263		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

ピット264		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット268		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
合計		1

ピット270		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

ピット275		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		11

ピット276		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット285		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット287		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

第６面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	147
【白磁】		
	皿	1
	合子身	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
	香炉	1
【陶器】		
	瓶子	1
	柄付片口	1
	平碗	1
瀬戸	平底末広碗	1
	天目茶碗	3
	直縁大皿	2
	卸皿	4
常滑	甕	36
	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系鍋	1
	火鉢小破片	9
	碗	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	3
	器種不明	3
合計		219

第７面

溝状遺構７		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	21
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	2
【瓦】		
	平瓦	1
合計		24

土坑99		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑100		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【土師質・瓦質土器】		
	燭台	1
合計		5

土坑101		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

土坑102		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

土坑104		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑105		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

土坑107		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

土坑108		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
合計		14

土坑109		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
合計		3

土坑114		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット291		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1

合計		1

ピット292		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット294		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット299		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	壺	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		4

ピット300		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット301		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット304		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット306		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット307		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【金属製品】		
	釘	1
合計		8

ピット308		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	2
合計		10

ピット311		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット312		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット317		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット318		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット320		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ類	1
合計		7

ピット325		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット332		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		6

ピット333		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
瀬戸	直縁大皿	1
常滑	甕	1
合計		5

ピット337		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	6
【金属製品】		
	釘	1
合計		11

ピット338		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット341		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット351		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
合計		1

ピット355		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【金属製品】		
	銭貨	1
合計		3

ピット356

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	【陶器】	
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	2

ピット357

産地	器種	破片数
	【陶器】	
常滑	甕	1
	合計	1

ピット358

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	3
	【陶器】	
常滑	甕	1
	合計	4

ピット360

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット361

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	6
	【陶器】	
常滑	甕	7
	合計	13

ピット362

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	【陶器】	
常滑	甕	1
	合計	2

ピット363

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット366

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット372

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	5
	【陶器】	
瀬戸	瓶子	1
	合計	6

ピット379

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット380

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

ピット381

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	12
	【陶器】	
常滑	甕	1
	【土師質・瓦質土器】	
	火鉢小破片	1
	【金属製品】	
	釘	1
	合計	15

ピット384

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	2
	【陶器】	
常滑	甕	1
	合計	3

ピット386

産地	器種	破片数
	【陶器】	
常滑	甕	1
	合計	1

ピット387

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	4
	【陶器】	
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	4
	合計	9

ピット390

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	2
	【陶器】	
常滑	甕	1
	【金属製品】	
	釘	2
	合計	5

ピット395

産地	器種	破片数
	【陶器】	
常滑	甕	2
	合計	2

ピット400

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット401

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	【金属製品】	
	釘	1
	合計	2

ピット402

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	【金属製品】	
	釘	1
	合計	2

第７面 遺構外

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	379
	【白磁】	
	皿	1
	【青磁】	
龍泉窯系	碗小破片	1
	【青白磁】	
	合子身	1
	香炉	1
中国	【陶器】 褐釉陶器	1
瀬戸	瓶子	3
	入子	1
	柄付片口	4
	平碗	3
	天目茶碗	4
	直縁大皿	3
	折縁深皿	4
	卸皿	1
	縁釉小皿	1
	器種不明小破片	11
常滑	甕	9
	片口鉢Ⅰ類	2
	片口鉢Ⅱ類	4
東播	鉢	1
	【土師質・瓦質土器】	
	南伊勢系鍋	1
	羽口	1
	香炉	1
	火鉢Ⅳ類	2
	火鉢小破片	13
	【瓦】	
	平瓦	1
	【石製品】	
	滑石製石鍋	1
	砥石	5
	硯	2
	燧石	1
	【金属製品】	
	銭貨	3
	釘	9
	合計	475

第７面 構成土

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	62
	【陶器】	
瀬戸	縁釉小皿	2
常滑	甕	10
	【石製品】	
	滑石製石鍋	1
	合計	75

第８面

土坑118

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	12
	合計	12

土坑119

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑120

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	【陶器】	
常滑	甕	3
	合計	4

土坑121

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	4
	【金属製品】	
	釘	1
	合計	5

土坑122

産地	器種	破片数
	【陶器】	
常滑	甕	21
	合計	21

土坑123

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット411

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

ピット413

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	【陶器】	
常滑	甕	1
	【金属製品】	
	釘	1
	合計	3

第８面 遺構外

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	33
	【陶器】	
瀬戸	壺	2
常滑	甕	42
	【土師質・瓦質土器】	
	火鉢Ⅱ類	1
	【石製品】	
	滑石製石鍋	2
	砥石	1
	【金属製品】	
	銭貨	2
	合計	83

第９面

土坑128

産地	器種	破片数
	【石製品】	
	砥石	1
	合計	1

ピット426

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

第９面 遺構外

産地	器種	破片数
	【かわらけ】	
	白かわらけ	3
	かわらけ　ロクロ成形	430
	【白磁】	
	Ⅲ区類	1
	【青磁】	
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	4
	碗小破片	1
	坏Ⅲ－３ｂ類	1
	【青白磁】	
	梅瓶	3
	壺	1
	【陶器】	
瀬戸	瓶子	4
	入子	4
	卸皿	1
常滑	甕	94
	片口鉢Ⅰ類	7
	【土師質・瓦質土器】	
	南伊勢系鍋	3
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢小破片	1
	碗	2
	【瓦】	
	軒丸瓦	2
	軒平瓦	1
	丸瓦	2
	平瓦	4
	【石製品】	

	石鍋転用硯	1
	温石	3
	砥石	4
【金属製品】		
	銭貨	13
	釘	7
	合計	598

第10面

常滑溜まり1		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	3

土坑133		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット431		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	9

ピット439		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット457		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	入子	1
	合計	1

ピット486		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1

	合計	1

第10面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	225
【白磁】		
	壺	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	4
	碗小破片	1
【青白磁】		
	梅瓶	2
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	入子	1
常滑	甕	48
	片口鉢Ⅰ類	13
北部系	山茶碗	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＡ類	3
	火鉢ＩＤ類	3
	火鉢小破片	4
【瓦】		
	丸瓦	2
	平瓦	6
【石製品】		
	滑石製石鍋	11
	温石	1
	砥石	3
	硯	1
	燧石	1
【金属製品】		
	銭貨	3
	釘	2
	器種不明	2
	合計	340

第11面

土坑141		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	13

土坑142		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

土坑143		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット472		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット478		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット486		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

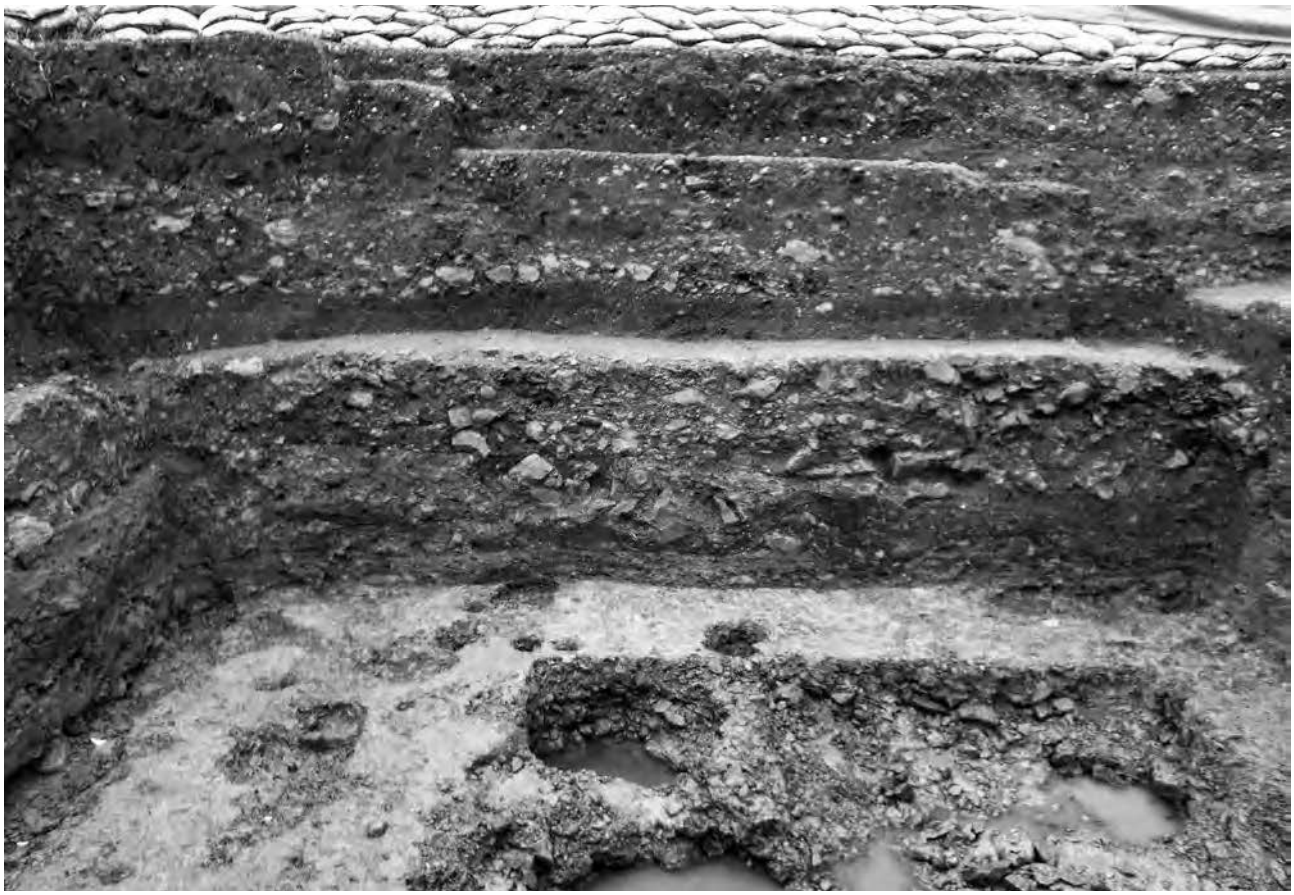
ピット490		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

第11面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	120
【白磁】		
	ⅢⅨ類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	3
	坏Ⅲ類	1
	器種不明小破片	6
【青白磁】		
	梅瓶	2
	梅瓶蓋	1
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	56
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	2
【瓦】		
	丸瓦	7
	平瓦	19
【石製品】		
	砥石	1
	合計	220

第12面

第12面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	箸状	8
	棒状	1
	串状	2
	用途不明	2
	建築部材	1
	合計	14

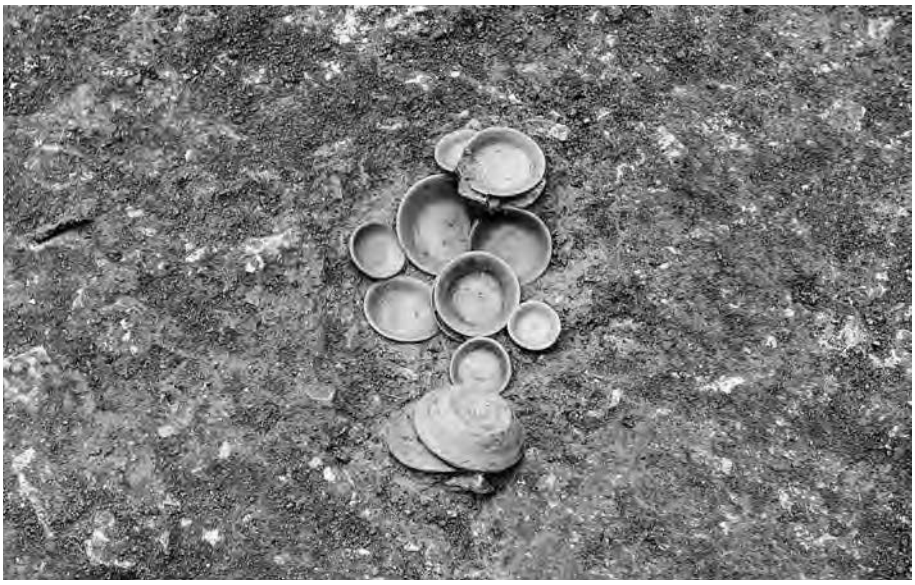
1．調査区近景（東から）



2．調査区東側南壁土層断面（北から）

図版２

１．調査区西側第１面全景（北から）



２．第１面 土坑６かわらけ出土状態（北から）

３．発掘調査風景

1．調査区西側第２面全景（北から）

2．調査区東側第２面全景（北から）

図版 4

1．調査区西側第３面全景（北から）

2．第３面 据鉢遺構１（東から）

3．調査区東側第４面全景（東から）

1．調査区東側第５面全景（北から）

2．第５面 ピット189仏花瓶出土状態（南西から）

3．調査区西側第６面全景（北から）

図版 6

1．調査区東側第９面全景（北から）

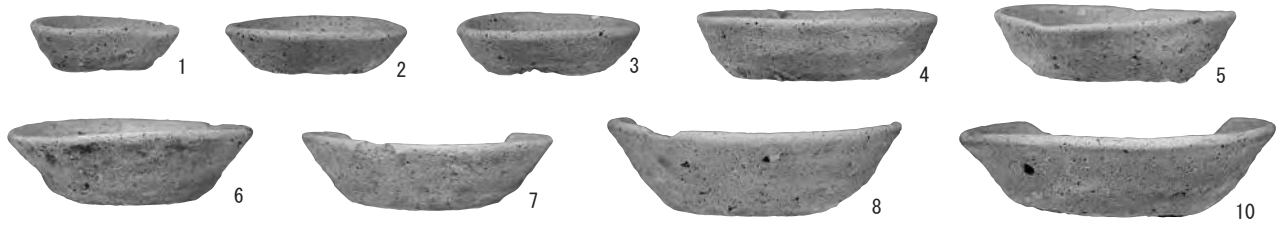
2．調査区東側第10面全景（北から）

１．第10面 常滑溜まり１（北西から）

２．調査区東側第11面全景（西から）

３．調査区東側第12面全景（西から）

図版８



１．第１面 土坑６出土遺物

２．第１面 土坑８出土遺物

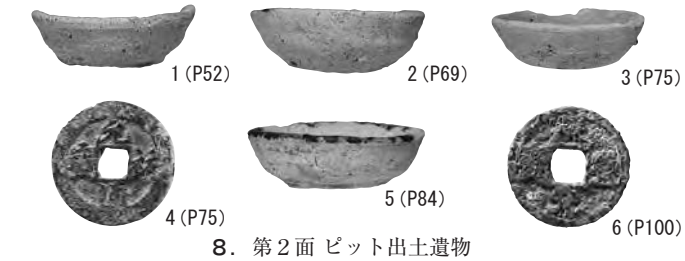
３．第１面 土坑24出土遺物

４．第１面 遺構外出土遺物

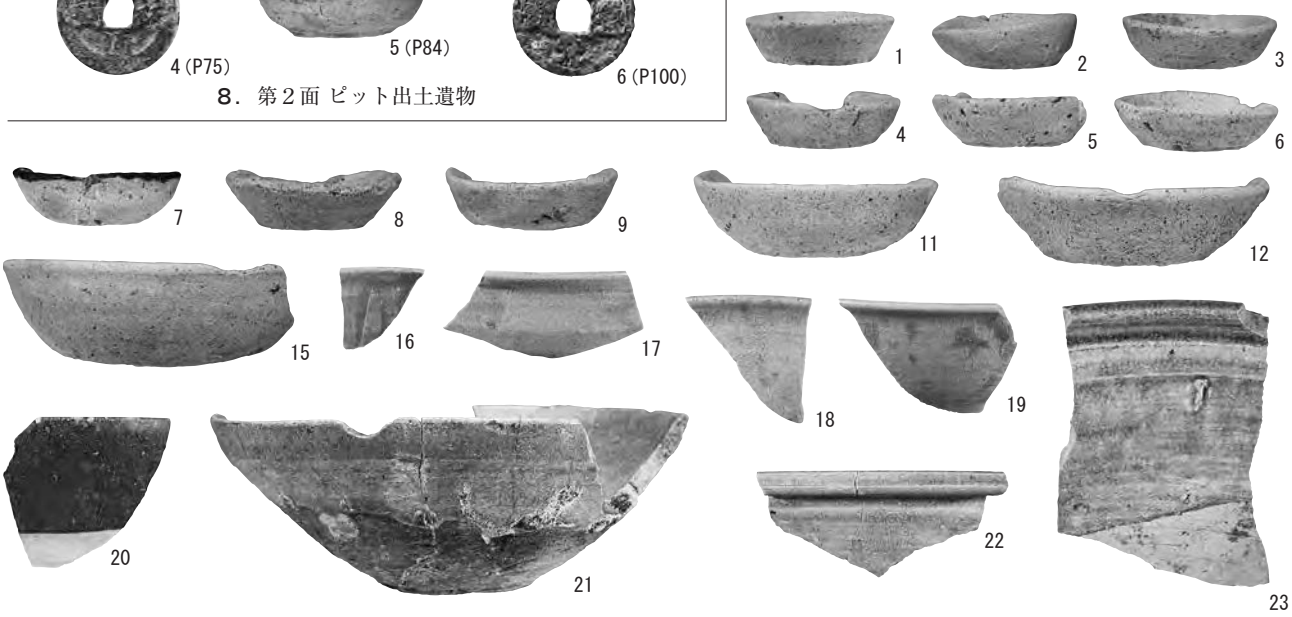
５．第２面 溝状遺構１出土遺物

６．第２面 土坑40出土遺物

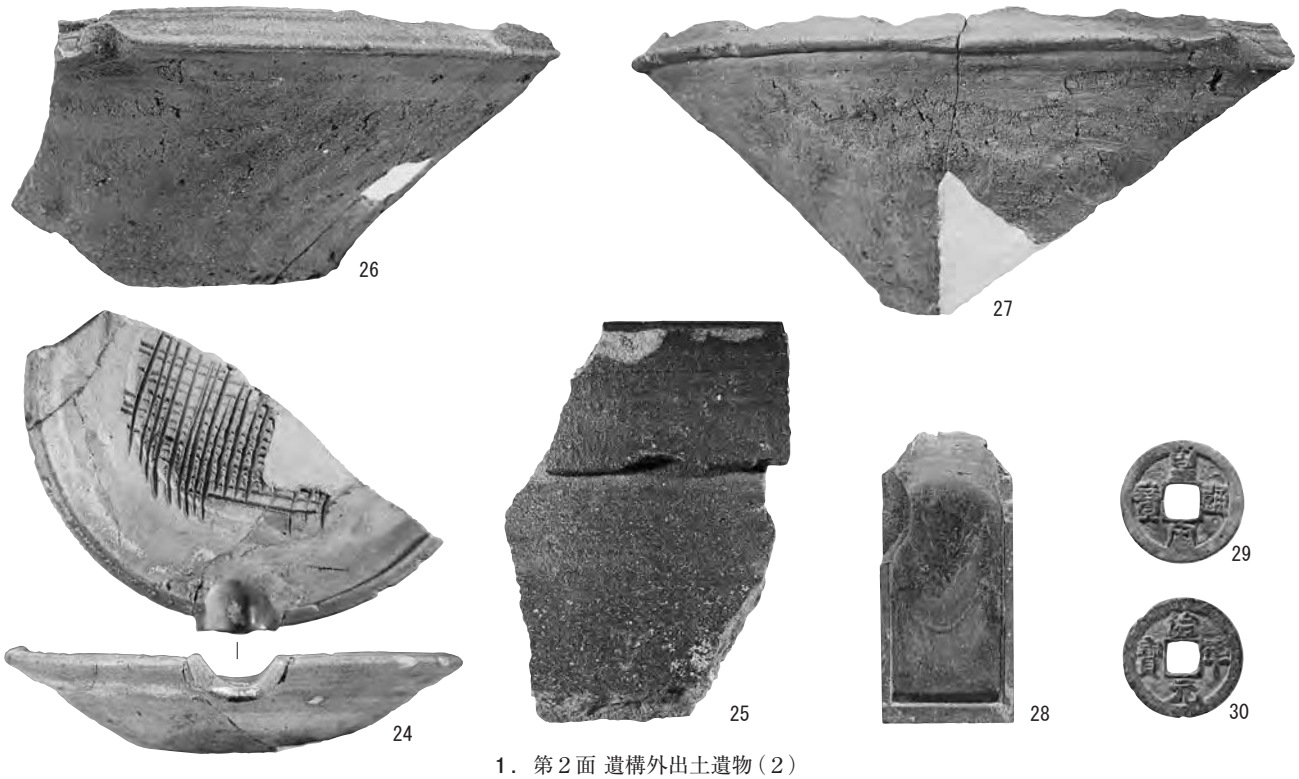
７．第２面 土坑41出土遺物



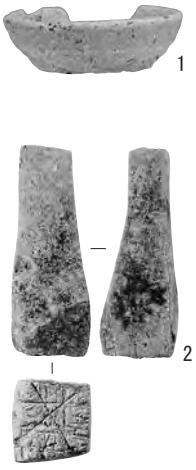
８．第２面 ピット出土遺物



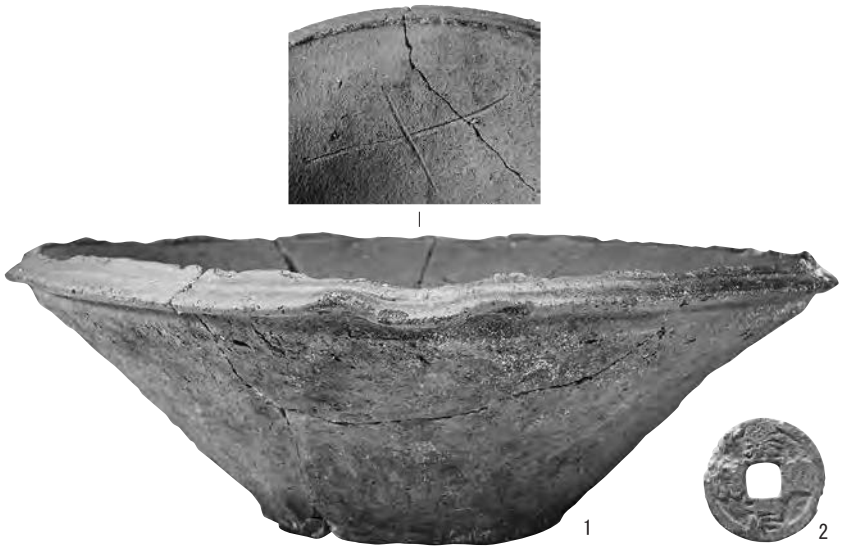
９．第２面 遺構外出土遺物（１）



1．第２面 遺構外出土遺物（２）

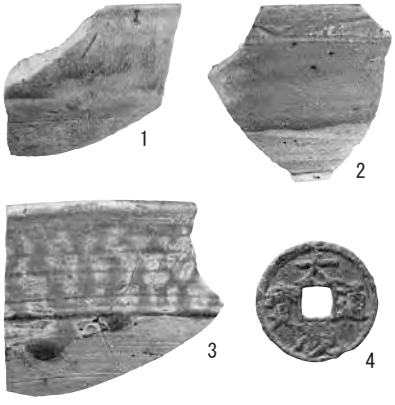


2．第３面 溝状遺構３出土遺物



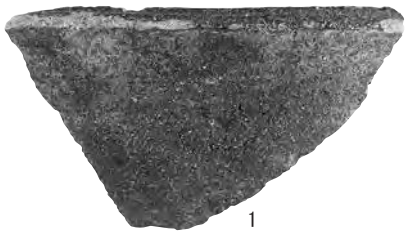
3．第３面 据鉢遺構１出土遺物

4．第３面 土坑52出土遺物



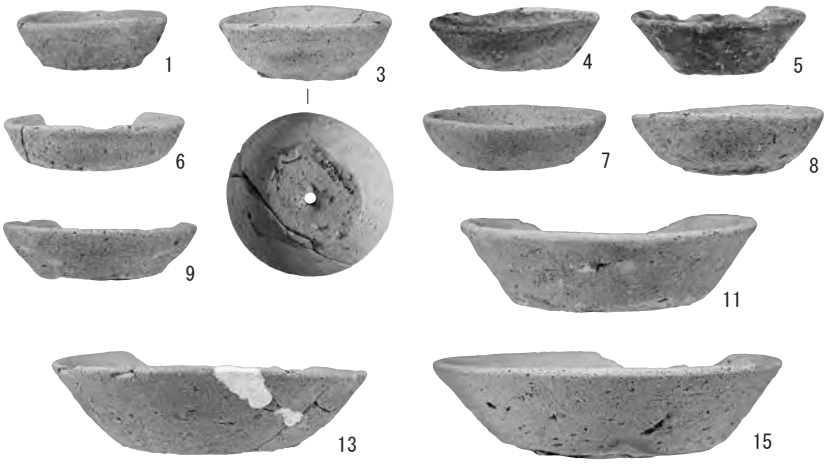
5．第３面 土坑58出土遺物

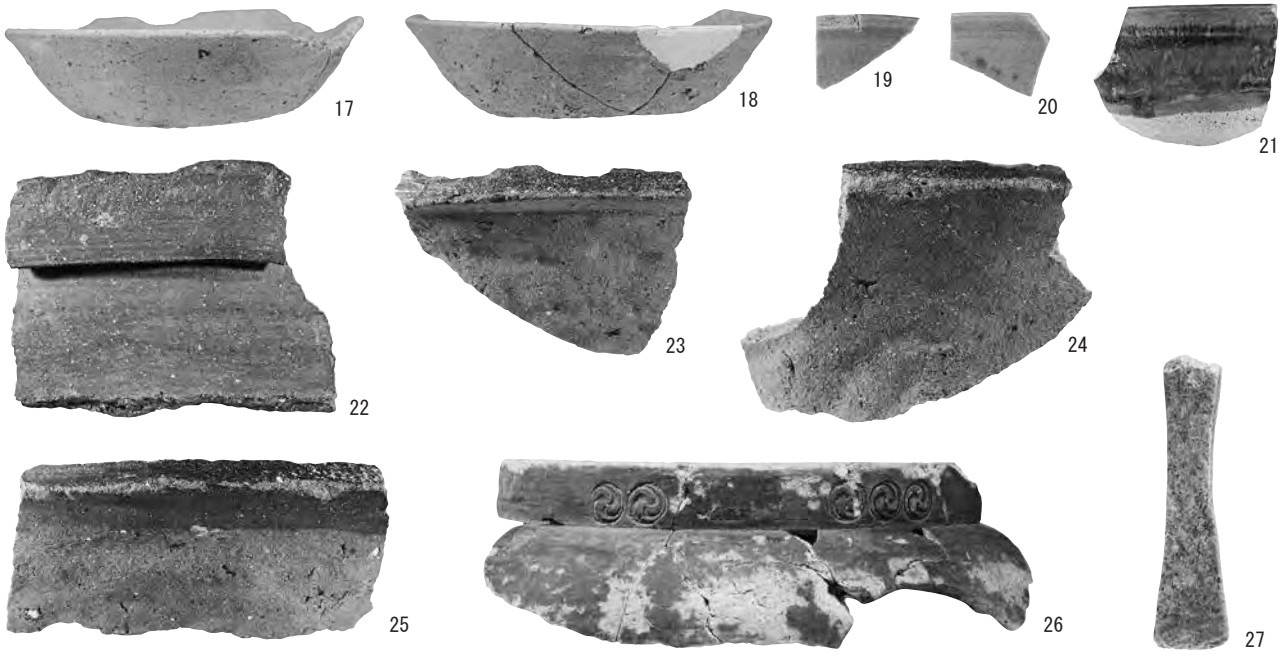
図版 10



1．第３面 土坑61出土遺物

2．第３面 土坑65出土遺物

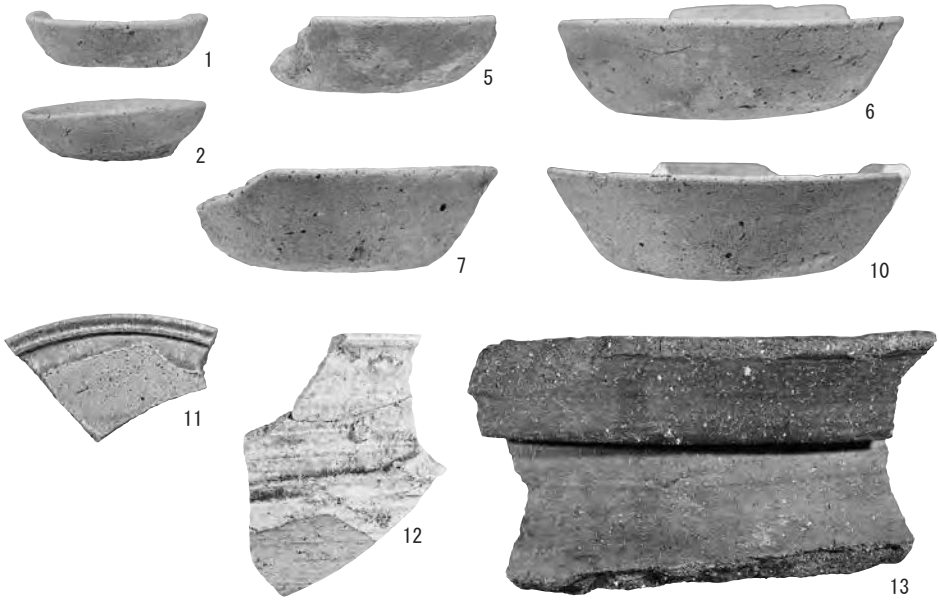




3．第３面 遺構外出土遺物

4．第４面 土坑71出土遺物

5．第４面 ピット出土遺物



6．第４面 遺構外出土遺物（１）

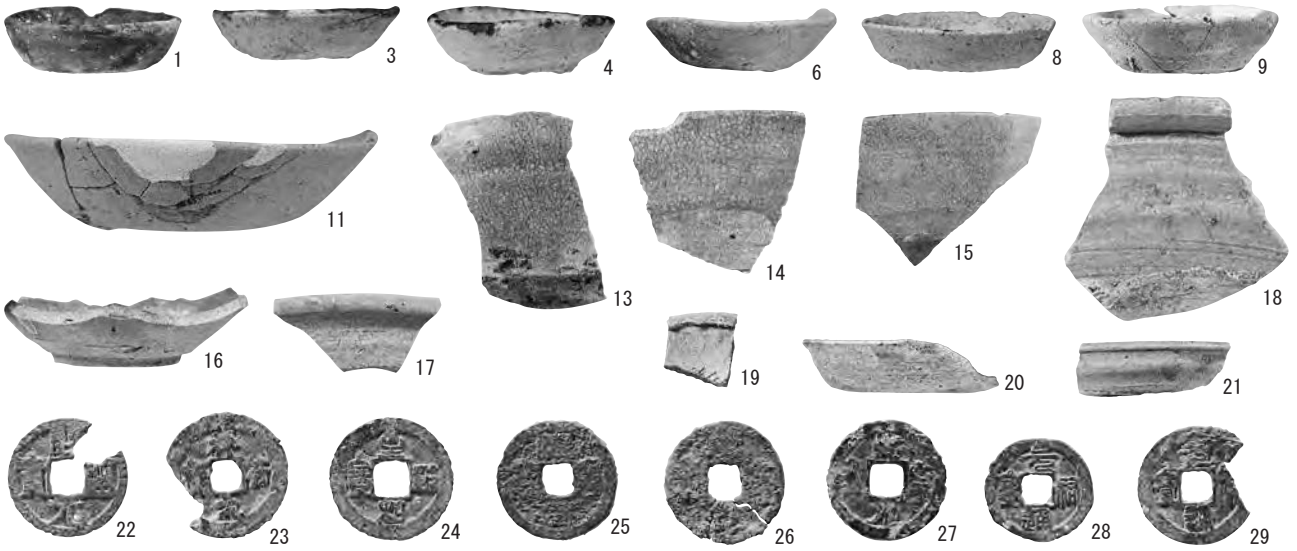
1．第４面 遺構外出土遺物（２）

2．第４面 構成土出土遺物

3．第５面 土坑84出土遺物

4．第５面 ピット出土遺物

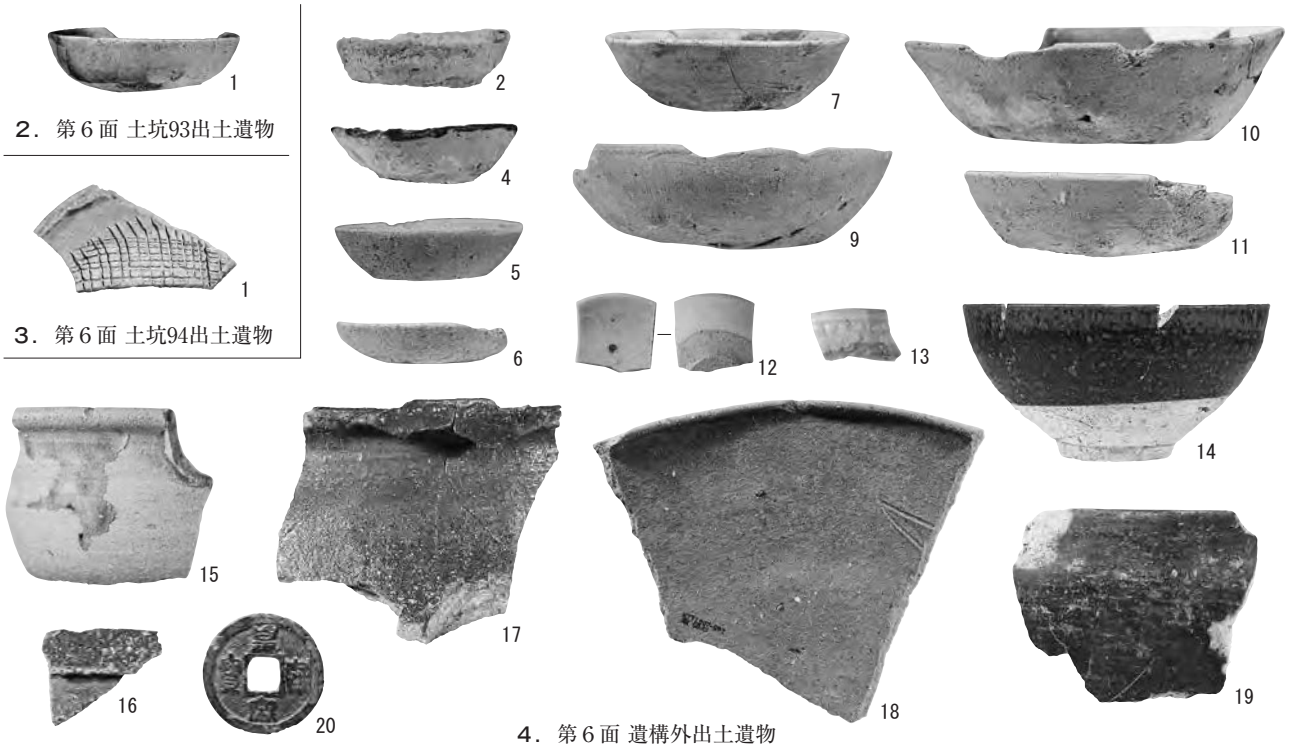
図版 12



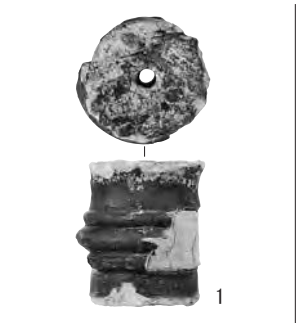
1．第５面 遺構外出土遺物

2．第６面 土坑93出土遺物

3．第６面 土坑94出土遺物

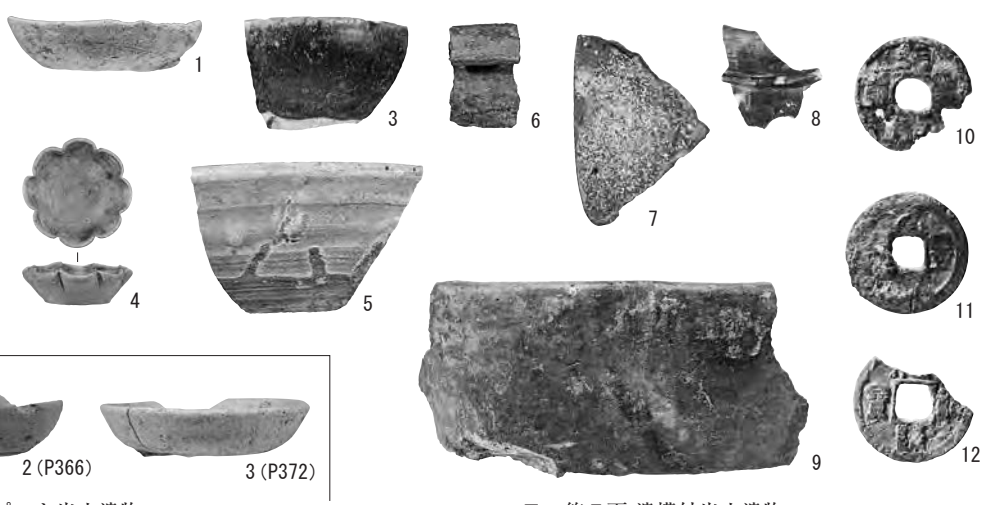


4．第６面 遺構外出土遺物

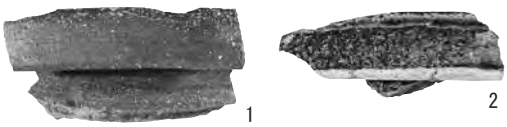


5．第７面 土坑100出土遺物

6．第７面 ピット出土遺物

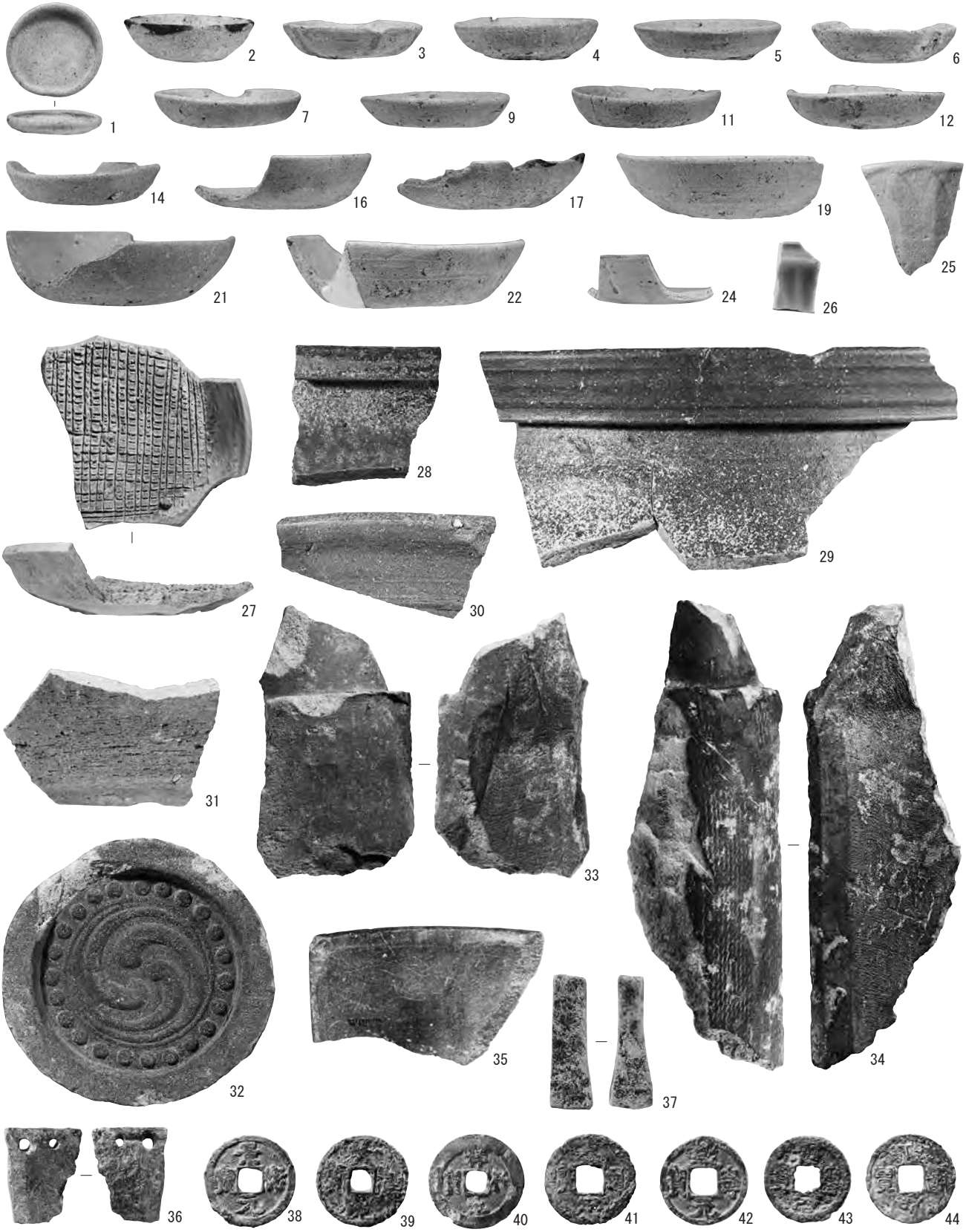


7．第７面 遺構外出土遺物



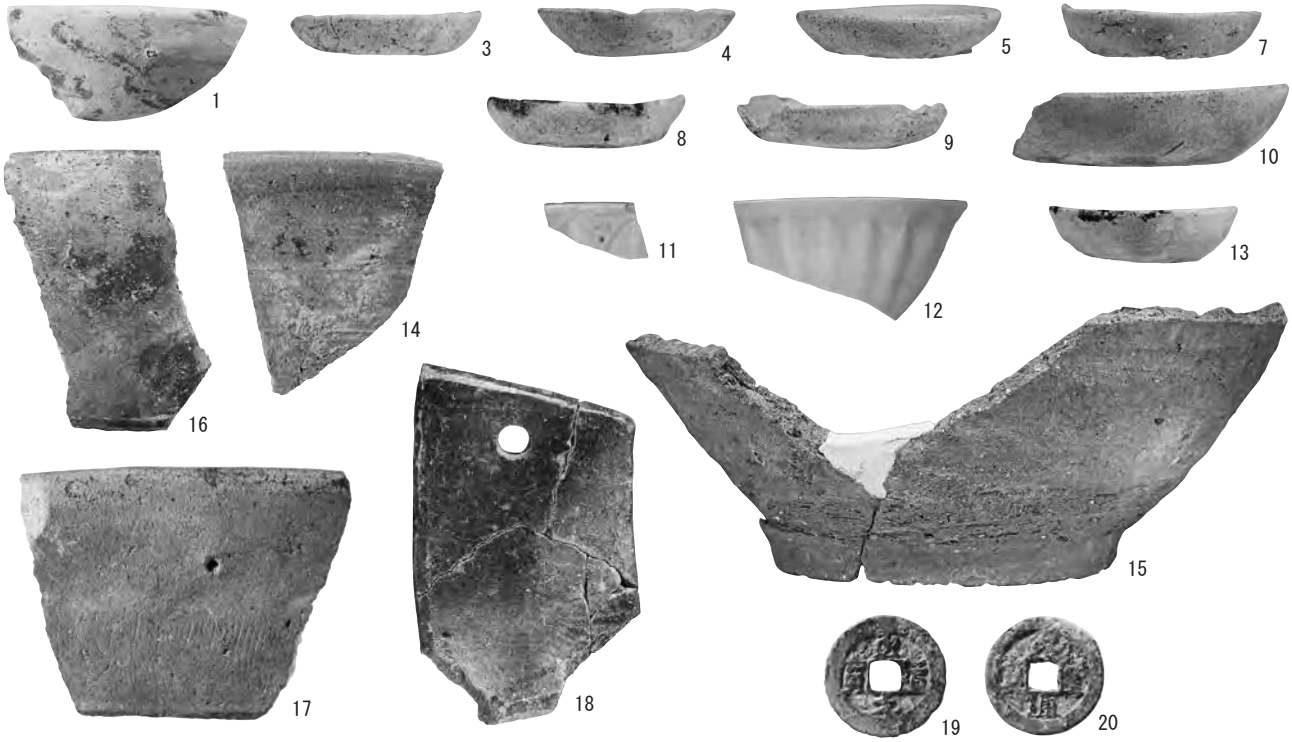
1．第８面 遺構外出土遺物

2．第９面 ピット出土遺物



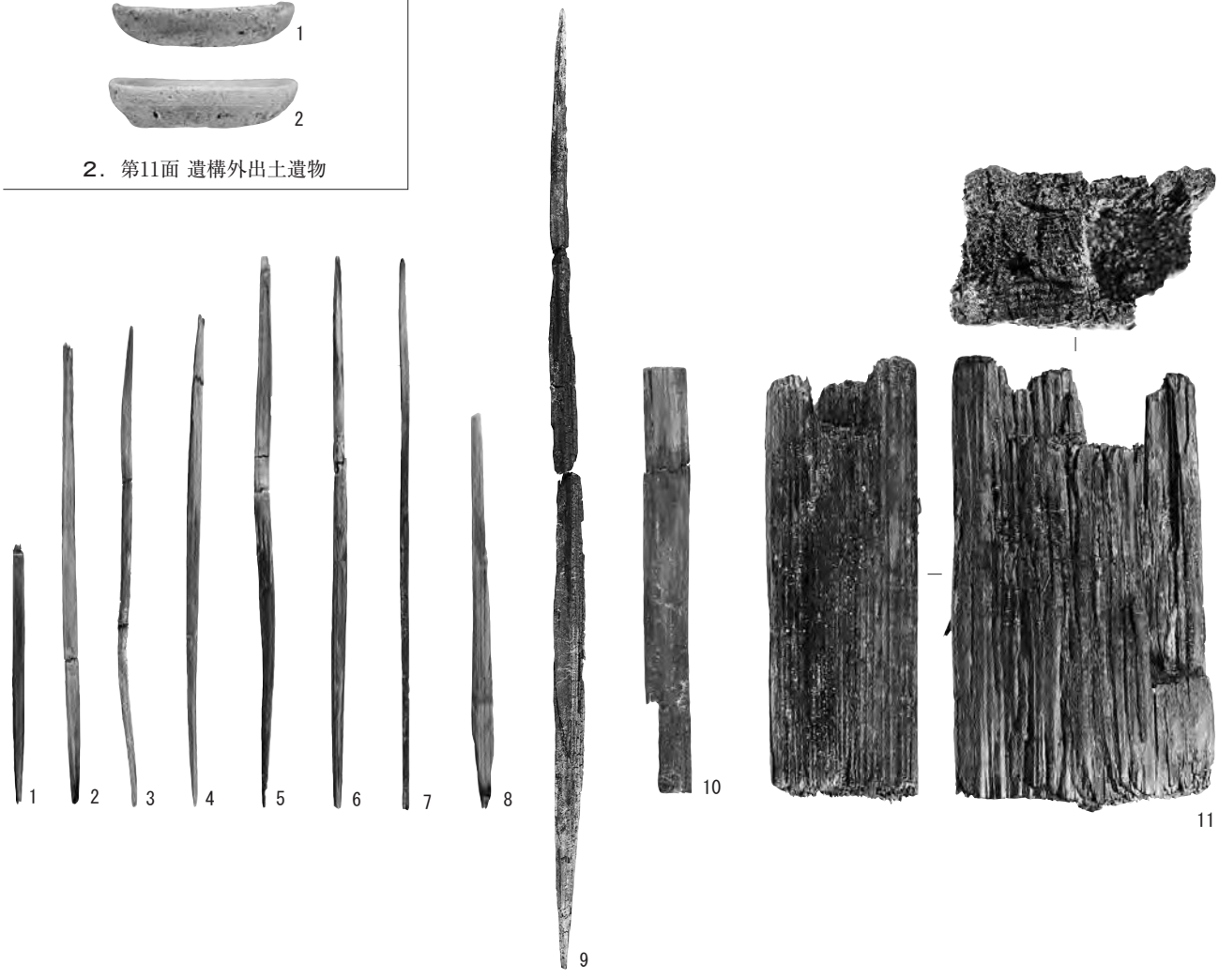
3．第９面 遺構外出土遺物

図版 14



1．第10面 遺構外出土遺物

2．第11面 遺構外出土遺物



3．第12面 遺構外出土遺物

公方屋敷跡（№268）

浄明寺四丁目297番12、13地点

例　言

1．本報は「公方屋敷跡」（神奈川県遺跡台帳№268）内、鎌倉市浄明寺四丁目297番12、13地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成22年６月８日～平成22年８月20日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は48㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　山口正紀
調　査　員　　本城　裕・小野夏菜
作　業　員　　佐藤美隆・鯉沼　稔・小口照男・伴　一明・秋田公佑
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．本報に掲載した写真は、遺構を山口正紀、遺物を赤間和重が撮影した。

6．測量基準杭の設置にあたっては、世界測地系（座標系ＡＲＥＡ９）を用い、図４に座標値を示した。

7．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

8．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ＫＢ1004」とした。

9．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

10．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：□ 整地・地業範囲
■ 炭化物分布範囲
遺物：■ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分

11．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』

12．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 315
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 315
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 315
第３節　周辺の考古学的調査 …… 316

第二章　堆積土層 …… 320

第三章　発見された遺構と遺物 …… 321
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 321
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 327
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 329
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 334
第５節　第５面の遺構と遺物 …… 336
第６節　第６面の遺構と遺物 …… 339
第７節　第７面の遺構と遺物 …… 342
第８節　第８面の遺構と遺物 …… 344
第９節　第９面の遺構と遺物 …… 345

第四章　まとめ …… 348

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 317
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 318
図３　調査区位置図 …… 319
図４　調査区配置図 …… 319
図５　調査区西壁 土層断面図 …… 320
図６　第１面 遺構分布図 …… 322
図７　第１面 方形竪穴状遺構１ …… 322
図８　第１面 方形竪穴状遺構１出土遺物 …… 322
図９　第１面 塀状遺構１ …… 323
図10　第１面 塀状遺構１出土遺物 …… 323
図11　第１面 土坑６出土遺物 …… 324
図12　第１面 土坑１～13 …… 325
図13　第１面 土坑12出土遺物 …… 326
図14　第１面 土坑13出土遺物 …… 327
図15　第１面 ピット34 …… 327
図16　第１面 遺構外出土遺物 …… 327
図17　第２面 遺構分布図 …… 328
図18　第２面 土坑14・15 …… 328
図19　第２面 遺構外出土遺物 …… 329
図20　第３面 遺構分布図 …… 329
図21　第３面 基壇状遺構１ …… 330
図22　第３面 土坑16出土遺物 …… 330
図23　第３面 土坑16～25 …… 331
図24　第３面 ピット出土遺物 …… 333
図25　第３面 遺構外出土遺物 …… 333
図26　第４面 遺構分布図 …… 334
図27　第４面 土坑26～30 …… 335
図28　第４面 ピット出土遺物 …… 336
図29　第４面 遺構外出土遺物 …… 336
図30　第５面 遺構分布図 …… 337
図31　第５面 土坑32出土遺物 …… 337
図32　第５面 土坑31～37 …… 338

図33　第５面 ピット出土遺物 …… 339
図34　第５面 遺構外出土遺物 …… 339
図35　第６面 遺構分布図 …… 340
図36　第６面 塀状遺構２ …… 340
図37　第６面 土坑38・39 …… 341
図38　第６面 ピット279・284 …… 341
図39　第６面 ピット出土遺物 …… 341
図40　第６面 遺構外出土遺物 …… 342
図41　第７面 遺構分布図 …… 342
図42　第７面 土坑40～43 …… 343
図43　第７面 ピット352 …… 344
図44　第７面 遺構外出土遺物 …… 344
図45　第８面 遺構分布図 …… 344
図46　第８面 柵列１ …… 345
図47　第８面 ピット出土遺物 …… 345
図48　第８面 遺構外出土遺物 …… 345
図49　第９面 遺構分布図 …… 346
図50　第９面 塀状遺構３ …… 346
図51　第９面 土坑45・46 …… 347

表　目　次

表１　公方屋敷跡および周辺遺跡 調査地点一覧
…… 316
表２　第１面 出土遺物観察表 …… 350
表３　第２面 出土遺物観察表 …… 350
表４　第３面 出土遺物観察表 …… 351
表５　第４面 出土遺物観察表 …… 351
表６　第５面 出土遺物観察表 …… 352
表７　第６面 出土遺物観察表 …… 352
表８　第７面 出土遺物観察表 …… 352
表９　第８面 出土遺物観察表 …… 352
表10　遺構計測表 …… 352
表11　出土遺物一覧表 …… 354

図　版　目　次

図版１　１．調査区遠景（南西から） …… 359
２．調査区近景（北東から） …… 359
図版２　１．調査区北側西壁土層断面（東から） 360
２．調査区南側西壁土層断面（東から） 360
図版３　１．調査区北側第１面全景（西から） 361
２．調査区南側第１面全景（西から） 361
３．調査区北側第２面全景（東から） 361
４．調査区南側第２面全景（東から） 361
５．調査区北側第３面全景（東から） 361
６．調査区南側第３面全景（東から） 361
７．調査区北側第４面全景（東から） 361
８．調査区南側第４面全景（西から） 361
図版４　１．調査区北側第５面全景（東から） 362
２．調査区南側第５面全景（西から） 362
３．調査区北側第６面全景（西から） 362
４．調査区南側第６面全景（東から） 362
５．調査区北側第７面全景（西から） 362
６．調査区南側第７面全景（西から） 362
７．調査区北側第８面全景（西から） 362
８．調査区南側第８面全景（東から） 362
図版５　１．調査区北側第９面全景（西から） 363
２．調査区南側第９面全景（西から） 363
図版６　１．第１面 方形竪穴状遺構１出土遺物 364
２．第１面 塀状遺構１出土遺物 …… 364
３．第１面 土坑６出土遺物 …… 364
４．第１面 土坑12出土遺物 …… 364
５．第１面 土坑13出土遺物 …… 364
６．第１面 遺構外出土遺物 …… 364
７．第２面 遺構外出土遺物 …… 364
８．第３面 土坑16出土遺物 …… 364
９．第３面 ピット出土遺物 …… 364
10．第３面 遺構外出土遺物 …… 364
図版７　１．第４面 ピット出土遺物 …… 365
２．第４面 遺構外出土遺物 …… 365
３．第５面 土坑32出土遺物 …… 365
４．第５面 ピット出土遺物 …… 365
５．第５面 遺構外出土遺物 …… 365
６．第６面 ピット出土遺物 …… 365
７．第６面 遺構外出土遺物 …… 365
８．第７面 遺構外出土遺物 …… 365
９．第８面 ピット出土遺物 …… 365
10．第８面 遺構外出土遺物 …… 365

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市浄明寺四丁目297番12、13で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である公方屋敷跡（神奈川県遺跡台帳№268）の範囲内にあたる。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成22年１月13日～平成22年１月14日に６㎡の調査区を設定して調査を実施した。その結果、中世の遺構が建築予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される48㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、山口正紀が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成22年６月８日～平成22年８月20日までの２ヵ月半ほどである。現地表の標高は約21ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、北側をⅠ区として平成22年６月８日～平成22年７月14日、南側をⅡ区として平成22年７月15日～平成22年８月20日まで調査を実施した。調査はまず重機により約30㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、Ⅰ・Ⅱ区とも第１～９面の合計９面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして８月20日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては世界測地系（座標系ＡＲＥＡ９）に準じた、鎌倉市四級基準点（Ｘ＝－75447.2497、Ｙ＝－23565.6000）、（Ｘ＝－75473.3873、Ｙ＝－23539.1714）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市浄明寺四丁目297番12、13に位置し、「公方屋敷跡（№268）」の範囲内に所在する。公方屋敷跡は鎌倉市の東部域に位置し、調査地点はＪＲ鎌倉駅の東側約2.2㎞のところにある。地形的には滑川によって開析された沖積微高地に立地し、滑川からの距離は40ｍほどの至近に所在する。調査地点の東側には細長い丘陵が北から延び、その先端部が西流する滑川と最も近接した場所に本地点がある。北西－南東方向に長い公方屋敷跡の包蔵地範囲には、胡桃ヶ谷の谷戸奥に水源をもつ小河川の胡桃川が北から流れ、包蔵地範囲を東西に二分する。胡桃ヶ谷は鎌倉五山の浄妙寺の東側にある谷戸で、東側の山裾には多くのやぐらが造営されている。

隣接する包蔵地としては、滑川の下流側の右岸に浄妙寺旧境内遺跡（№408）、左岸には田楽辻子周辺遺跡（№33）、さらに下流の滑川両岸に杉本寺周辺遺跡（№158）が広がる。また、上流側の右岸には大慈寺跡五大堂明王院旧境内遺跡（№271）、滑川を挟んだ対岸には川越重頼邸跡（№270）が南北方向に長く展開し、その東側には積善遺跡（№440）がある。

本調査地点周辺では滑川に沿って県道金沢鎌倉線が東西に走っており、鎌倉時代にはこの道筋の近くに六浦路があったとされる。六浦路は鶴岡八幡宮の東側にある鎌倉十橋の一つの筋替橋付近から、朝比

奈切通しを経て六浦に至る道路で、後世においては金沢街道とも呼ばれた。本地点はこの六浦路から20ｍほど北側の場所にあり、背後には丘陵が迫るという立地である。

遺跡名称となっている公方屋敷跡は、浄妙寺と明王院との間の小字芝野の辺りを指し、『鎌倉志』や『相模風土記』によると足利氏邸跡・御所ノ内とも呼ばれていたという。鎌倉幕府滅亡の時に、足利義詮は新田義貞とともに鎌倉に入り、二階堂御所に居住した。京都にいる足利尊氏は1349年（正平四年）に、義詮に代えて弟の基氏を鎌倉に送り、鎌倉御所を置いて東国の十ヵ国を統治させ、この時に基氏が居住したのが公方屋敷と考えられている。

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい。

本地点は公方屋敷跡の包蔵地範囲の東端部に位置する。図２に周辺の主な調査地点を図示したが、調査例は決して多くない。公方屋敷跡を東西に二分する胡桃川の西側には、①浄明寺三丁目143番地２地点（原・橋場 1994）と②浄明寺三丁目151番１外地点（宮田 1996）がある。①地点の調査では３面にわたる中世の遺構群が検出され、いずれの面も調査区北側に南東－北西方向の道路と側溝が延びており、これによって形成された区画内に生活面が広がる様相が捉えられた。道路と側溝は改修が繰り返し行われ、２面で確認された側溝は若宮大路の側溝に似た構造の木組を伴うものであった。検出した遺構や出土遺物は各面とも豊富であるが、特に13世紀後葉～14世紀前葉頃に比定される２面においては大規模な地業が行われ、道路と側溝に軸を合わせた建物群と通路が整然と配され当地が最も栄えた時期とされている。②地点では13世紀中葉から15世紀前半までの３面にわたる遺構群が検出され、最下面にあたる３面では六浦路とほぼ平行する軸をもつ建物が確認されている。

本調査地点と同じく胡桃川の東側に位置する③浄明寺四丁目273番地点では、１～８面に及ぶ中世の遺構確認面が捉えられ、礎石・礎板建物や溝、道路などがほぼ同一の軸方向に直交ないし平行する形で検出された（熊谷・齋木 2006）。この他にも５面から玉石敷き、６面からは通路とそれに伴う門や築地塀跡、７面で屈曲する溝と水溜状土壙など特徴的な遺構群が発見されている。年代的には出土遺物から推定すると13世紀前葉～14世紀代と考えられ、出土遺物全体の約99.5％がかわらけであった。

県道金沢鎌倉線と西流する滑川を挟んだ南側には、川越重頼邸跡の包蔵地範囲が南北に延びる谷戸内に展開する。調査事例は少なく、滑川から50ｍほど南側に位置する④浄明寺五丁目423番１外地点の調査では、３面にわたって土坑やピットが検出され、13世紀代～15世紀前半にかけての生活痕跡が確認された（伊丹・渡邊 2019）。④地点から谷奥へ60ｍほどの場所にある⑤浄明寺五丁目318番１の一部地点では、７面を数える遺構確認面が検出され、第３面と第６面から石組みによる護岸を伴う溝が発見された（永田・米澤 2019）。年代は第３面が15世紀前葉頃、第６面が13世紀後葉～14世紀初頭頃と推定されている。

表１　公方屋敷跡および周辺遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	公方屋敷跡（№268）	浄明寺四丁目297番12、13地点	
①	公方屋敷跡（№268）	浄明寺三丁目143番地２地点	原・橋場 1994
②	公方屋敷跡（№268）	浄明寺三丁目151番１外地点	宮田 1996
③	公方屋敷跡（№268）	浄明寺四丁目273番地点	熊谷・齋木 2006
④	川越重頼邸跡（№270）	浄明寺五丁目423番１外地点	伊丹・渡邊 2019
⑤	川越重頼邸跡（№270）	浄明寺五丁目318番１の一部地点	永田・米澤 2019

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

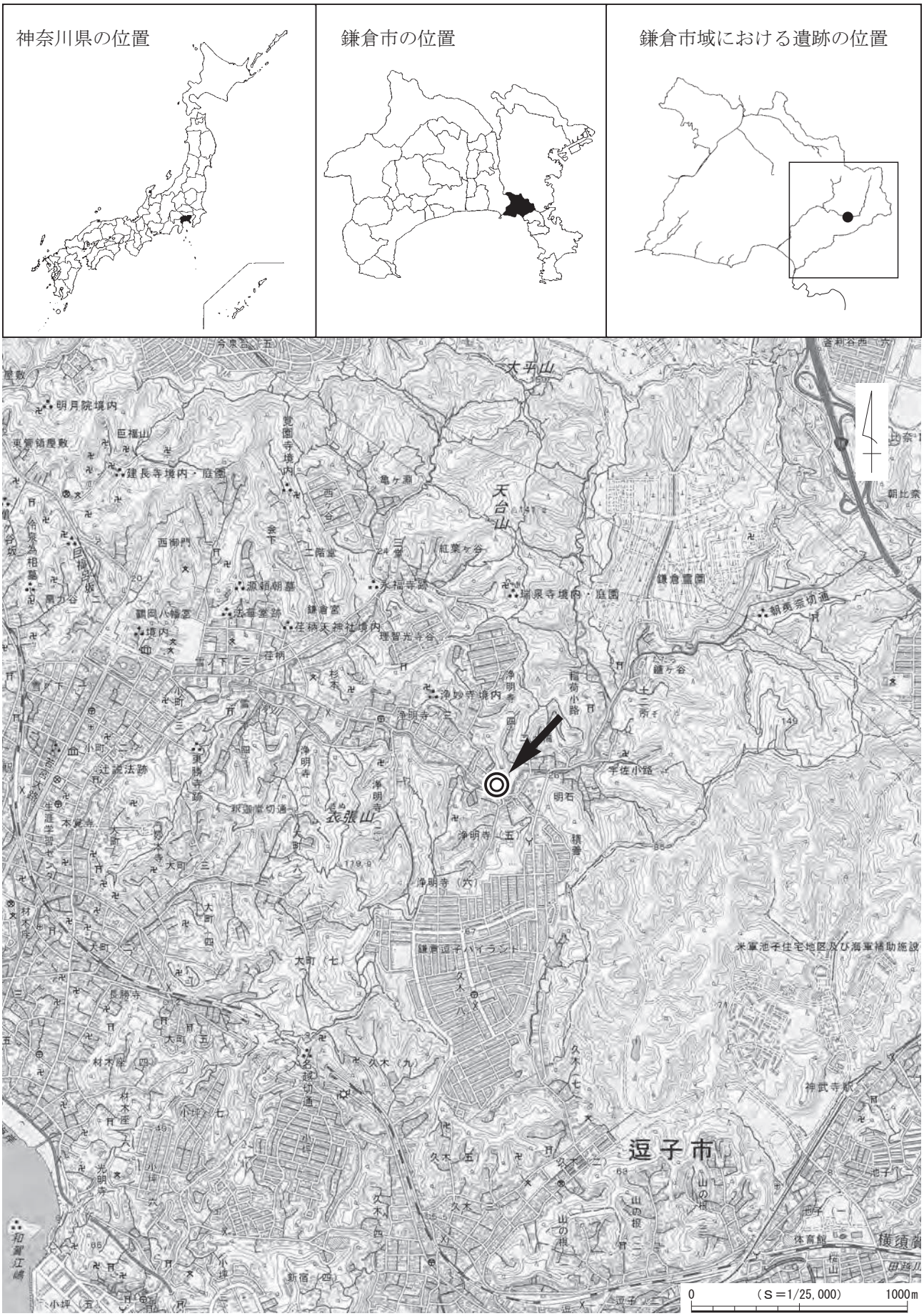


図１　遺跡位置図

※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

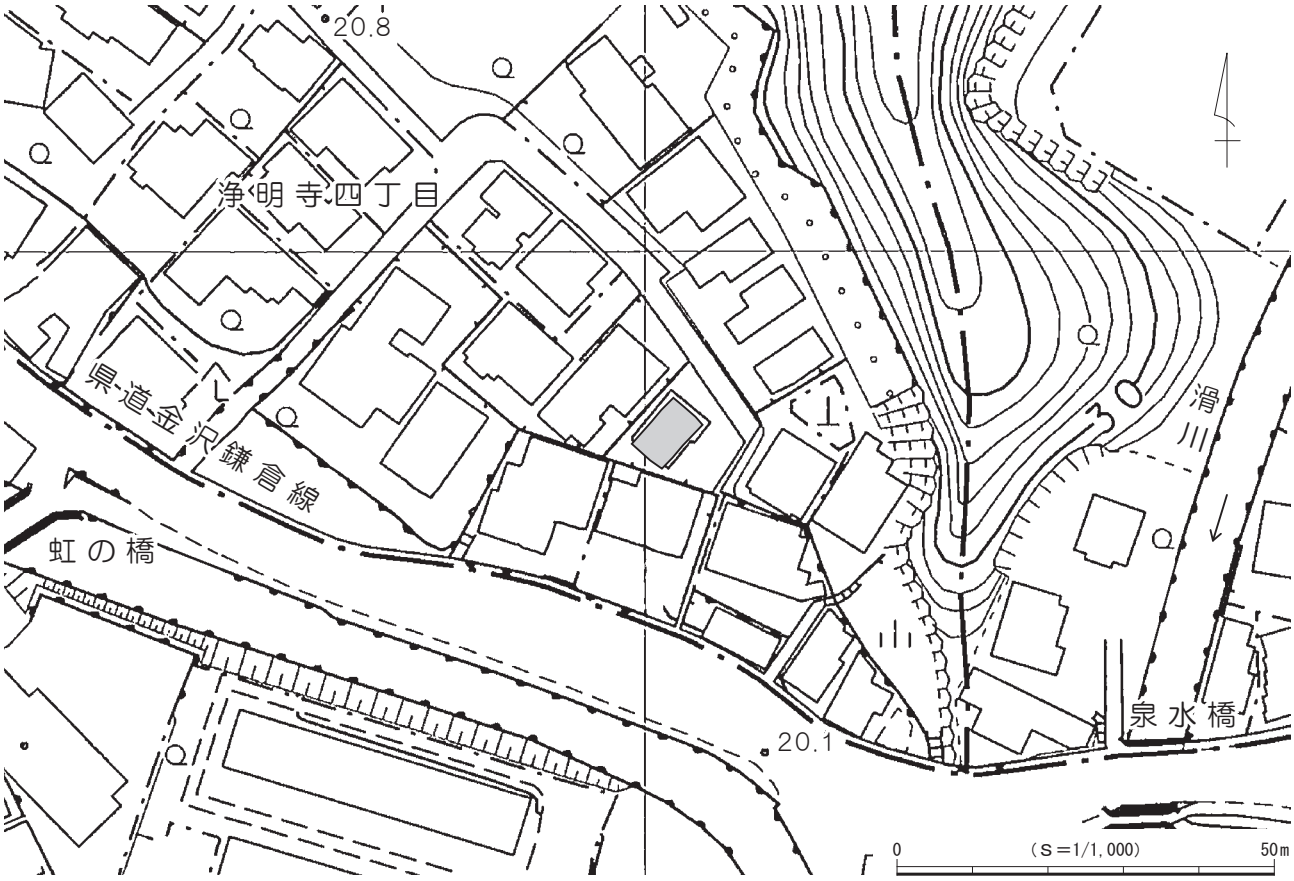


図３　調査区位置図

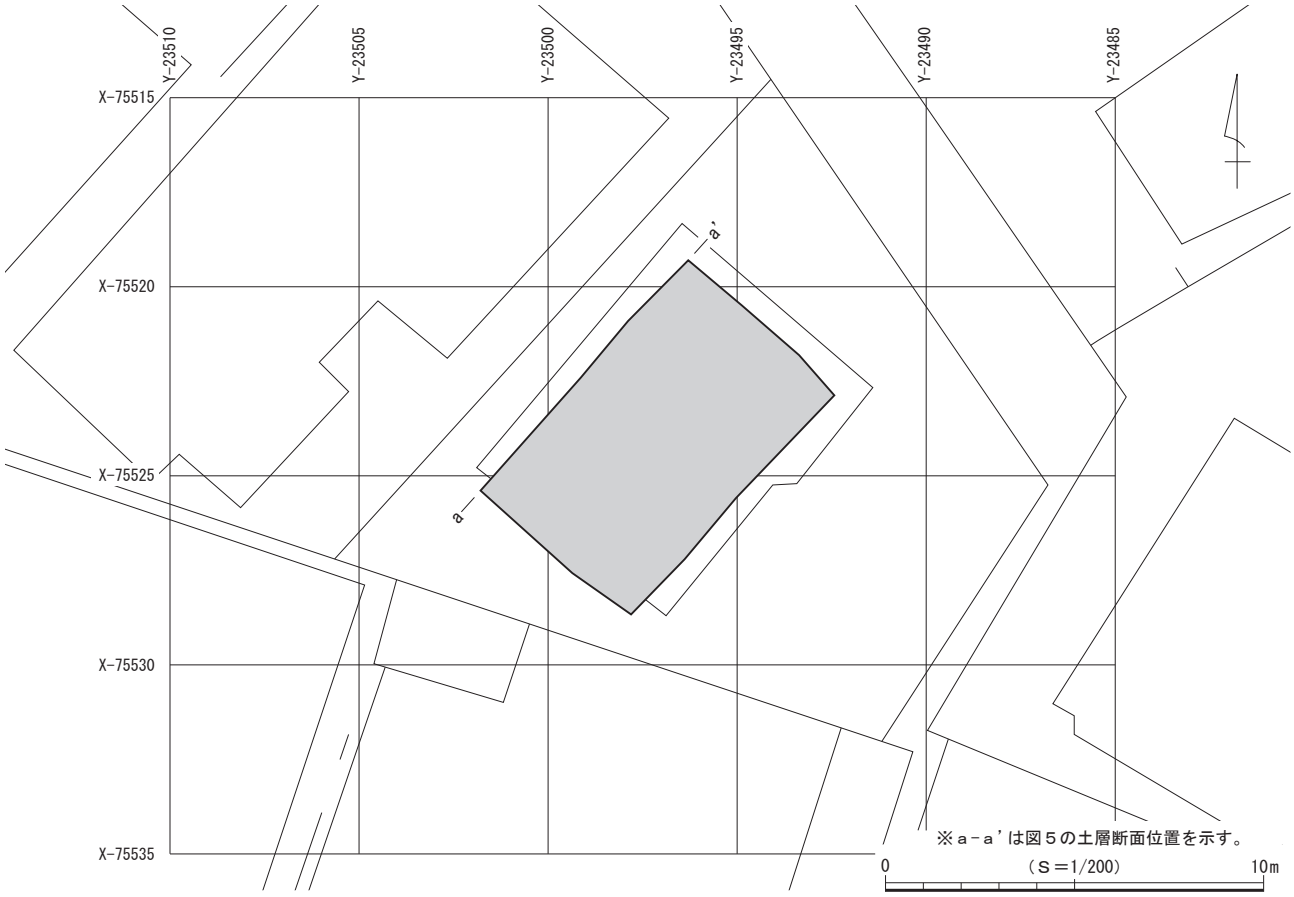
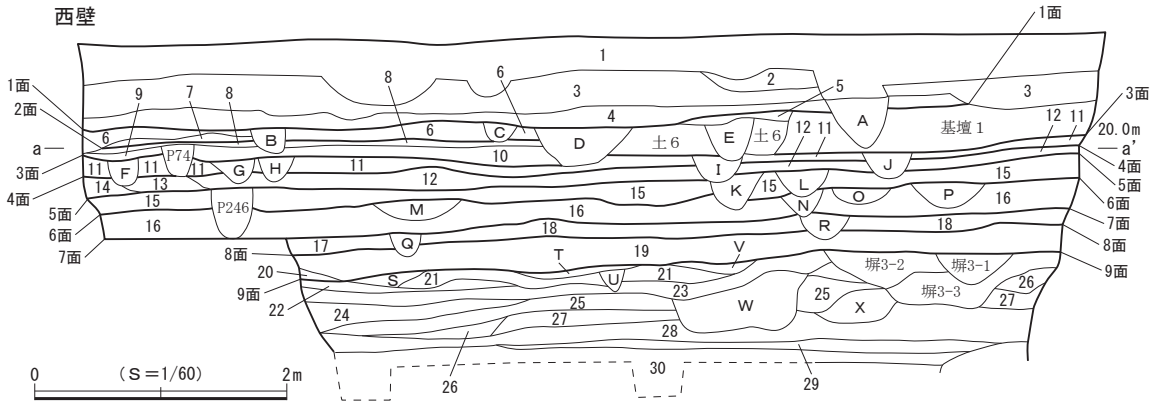


図４　調査区配置図

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、第１～９面までの合計９面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区西壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高20.8～20.9ｍを測り、最上部には表土（１層）、茶褐色土層（２・３層）、黄褐色砂質土層（４層）が層厚合計60～70㎝堆積している。遺構確認面の第１面は５・６層上面で検出した。確認面の標高は20.2～20.4ｍを測る。５層は微量の炭化物、少量の褐鉄と多量の細砂を含む暗灰褐色粘質土層で、層厚６㎝前後である。６層は少量の泥岩粒・炭化物・粗砂、微量の泥岩ブロックおよびかわらけ片を含む茶灰色土層で、層厚約15㎝である。第２面は８層上面で確認し、確認面の標高は20.0～20.1ｍを測る。８層は泥岩粒と微量の炭化物・かわらけ片のほか、少量の褐鉄を含み締まりのない茶灰色土層で、



１層　表土
２層　茶褐色土　泥岩粒中量、炭化物少量、かわらけ片多量に含む。締まりあり。
３層　茶褐色土　泥岩ブロック中量、泥岩粒多量、炭化物少量、かわらけ粒微量に含む。締まりあり。
４層　黄褐色砂質土　青灰色粘土ブロック多量、炭化物微量に含む。締まりあり。
５層　暗灰褐色粘質土　炭化物微量、褐鉄少量、細砂多量に含む。締まりややあり。（第１面）
６層　茶灰色土　泥岩粒少量、泥岩ブロック微量、炭化物・粗砂少量、かわらけ片微量に含む。締まりややあり。（第１面）
７層　茶灰色土　泥岩粒少量、泥岩ブロック中量、粗砂少量、かわらけ粒微量に含む。締まりややあり。
８層　茶灰色土　泥岩粒中量、炭化物微量、褐鉄少量、かわらけ片微量に含む。締まりなし。（第２面）
９層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック・炭化物少量、細砂・かわらけ片微量に含む。締まりややあり。
10層　暗灰褐色粘質土　黄白色粘土ブロック・褐鉄少量含む。締まりあり。
11層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物・粗砂少量、褐鉄微量に含む。締まりあり。（第３面）
12層　暗褐色粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物少量、褐鉄多量に含む。締まりあり。（第４面）
13層　暗茶色粘質土　泥岩粒・炭化物少量、かわらけ片微量に含む。締まりあり。
14層　暗茶色粘質土　泥岩粒中量・炭化物少量、褐鉄中量含む。締まりあり。
15層　暗灰色粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック微量、炭化物微量、褐鉄多量、かわらけ粒微量に含む。締まりややあり。（第５面）
16層　黄褐色粘質土　泥岩粒・粗砂少量、炭化物微量、褐鉄多量に含む。締まりややあり。（第６面）
17層　灰褐色粘質土　泥岩粒微量、褐鉄多量、粗砂中量含む。締まりややあり。（第７面）
18層　暗灰色粘質土　泥岩粒中量、炭化物少量、褐鉄多量に含む。締まりあり。（第７面）
19層　暗灰色粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック少量、炭化物微量、褐鉄少量含む。締まりややあり。（第８面）
20層　黄灰色砂質土　炭化物・褐鉄微量に含む。締まりややあり。
21層　黄褐色砂質土　褐鉄少量、粗い山砂を含む。締まりあり。（第９面）
22層　黄灰色砂質土　青灰色砂・黄灰色粘土ブロック中量、炭化物微量、褐鉄少量含む。締まりあり。（第９面）
23層　灰褐色粘質土　泥岩粒・炭化物微量、褐鉄中量含む。締まり強い。
24層　暗青灰色粘質土　泥岩粒・暗灰色粘土ブロック少量、炭化物微量に含む。締まりあり。
25層　暗青灰色粘質土　泥岩粒・炭化物微量に含む。締まりあり。
26層　暗青灰色粘質土　白色粘土ブロック中量、炭化物・細砂少量含む。締まりややあり。
27層　暗青灰色粘質土　泥岩粒微量に含む。締まりあり。
28層　青灰色粘質土　炭化物微量、褐鉄少量含む。締まりあり。
29層　灰黒色粘質土　泥岩ブロック・粗砂少量含む。締まりあり。
30層　黒褐色粘質土　泥岩粒少量、粗砂微量に含む。締まりあり。

〔遺構〕
土坑６　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物中量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
塀3-1　灰黒色粘質土　泥岩粒微量、炭化物・細砂　少量、褐鉄中量含む。締まりなし。
塀3-2　暗灰褐色粘質土　泥岩粒・褐鉄微量、細砂少量含む。締まりややあり。
塀3-3　黄灰色粘質土　泥岩粒・炭化物微量、褐鉄中量、細砂多量に含む。締まりややあり。
P74　暗茶色弱粘質土　泥岩粒中量、炭化物少量、褐鉄微量に含む。
P245　暗茶灰色粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物少量、褐鉄微量含む。締まりややあり。
Ａ層　暗茶色土　泥岩粒少量、炭化物中量、かわらけ粒微量に含む。締まりなし。
Ｂ層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒中量、炭化物少量、褐鉄微量に含む。締まりなし。
Ｃ層　茶灰色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック少量、炭化物微量、褐鉄少量含む。締まりややあり。
Ｄ層　茶褐色土　泥岩粒中量、泥岩ブロック・炭化物・細砂少量、かわらけ片微量に含む。締まりややあり。
Ｅ層　暗茶色土　泥岩粒少量、泥岩ブロック・微量、炭化物・粗砂少量、かわらけ片微量に含む。締まりなし。
Ｆ層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒・炭化物少量、褐鉄微量に含む。締まりなし。
Ｇ層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒・炭化物少量含む。締まりなし。
Ｈ層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒・炭化物少量含む。締まりなし。
Ｉ層　暗灰色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物少量、褐鉄微量、かわらけ片少量含む。締まりなし。
Ｊ層　暗灰色弱粘質土　泥岩粒・炭化物少量、褐鉄中量含む。締まりややあり。
Ｋ層　暗灰色粘質土　泥岩粒少量、暗灰色粘土ブロック多量、炭化物・褐鉄少量、かわらけ片微量に含む。締まりややあり。
Ｌ層　暗灰色粘質土　泥岩粒・炭化物・褐鉄少量含む。締まりややあり。
Ｍ層　暗茶灰色粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック・炭化物微量、褐鉄中量含む。締まりややあり。
Ｎ層　黄灰色粘質土　泥岩粒・炭化物微量、褐鉄少量含む。締まりなし。
Ｏ層　黄灰色粘質土　泥岩粒・炭化物微量、褐鉄少量含む。締まりなし。
Ｐ層　黄灰色粘質土　泥岩粒・炭化物微量、褐鉄中量含む。締まり若干あり。
Ｒ層　黄灰色粘質土　泥岩粒微量、暗灰色粘土ブロック多量、炭化物少量、褐鉄・粗砂中量含む。締まりなし。
Ｓ層　青灰色砂質土　褐鉄少量含む。締まりなし。
Ｔ層　明灰色粘質土　泥岩粒微量、褐鉄・細砂少量含む。締まりややあり。
Ｕ層　黄褐色砂質土　青灰色ブロック・褐鉄少量含む。締まりややあり。
Ｖ層　暗灰褐色粘質土　炭化物微量、褐鉄少量、細砂多量に含む。締まりややあり。
Ｗ層　黄灰色粘質土　泥岩粒少量、褐鉄中量含む。締まりあり。
Ｘ層　暗青灰色粘質土　泥岩粒少量含む。締まりあり。

図５　調査区西壁 土層断面図

層厚２～５㎝である。８層の下位には、泥岩粒と少量の泥岩ブロック・炭化物および微量の細砂・かわらけ片を含む暗茶色弱粘質土層（９層）と少量の黄白色粘土ブロック・褐鉄を含む暗灰褐色粘質土層（10層）が層厚５～15㎝で堆積している。第３面は11層上面で確認し、確認面の標高は19.9～20.1ｍを測る。11層は少量の泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物・粗砂と微量の褐鉄を含み締まりのある暗茶色弱粘質土層で、層厚６～15㎝である。第４面は12層上面で確認し、確認面の標高は19.8～20.0ｍを測る。12層は泥岩粒・泥岩ブロック、少量の炭化物、多量の褐鉄を含み締まりのある暗褐色粘質土層で、層厚５～17㎝である。第５面は15層上面で確認し、確認面の標高は19.6～19.9ｍを測る。15層は少量の泥岩粒、微量の泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片および多量の褐鉄を含みやや締まりのある暗灰色粘質土層で、層厚８～20㎝である。第６面は16層上面で確認し、確認面の標高は19.5～19.7ｍを測る。16層は少量の泥岩粒・粗砂、微量の炭化物と多量の褐鉄を含みやや締まりのある黄褐色粘質土層で、層厚15～25㎝である。第７面は17・18層上面で確認し、確認面の標高は19.3～19.5ｍを測る。17層は微量の泥岩粒、粗砂、多量の褐鉄を含みやや締まりのある灰褐色粘質土層で、層厚約13㎝である。18層は泥岩粒と少量の炭化物および多量の褐鉄を含み締まりのある暗灰色粘質土層で、層厚約10㎝である。第８面は19層上面で確認し、確認面の標高は19.2～19.4ｍを測る。19層は泥岩粒と少量の泥岩ブロック・褐鉄、微量の炭化物を含みやや締まりのある暗灰色粘質土層で、層厚20～28㎝である。遺構確認面の最下位にあたる第９面は、21・22層上面で確認した。確認面の標高は19.0～19.2ｍを測る。21層は少量の褐鉄および粗い山砂を含み締まりのある黄褐色砂質土層で、層厚10㎝前後である。22層は青灰色砂・黄灰色粘土ブロック、微量の炭化物および少量の褐鉄を含み締まりのある黄灰色砂質土層で、層厚２～10㎝である。22層より下位は標高18.3ｍまで掘削し、自然流路が検出されたが、遺構や遺物は発見されなかった。

第三章　発見された遺構と遺物

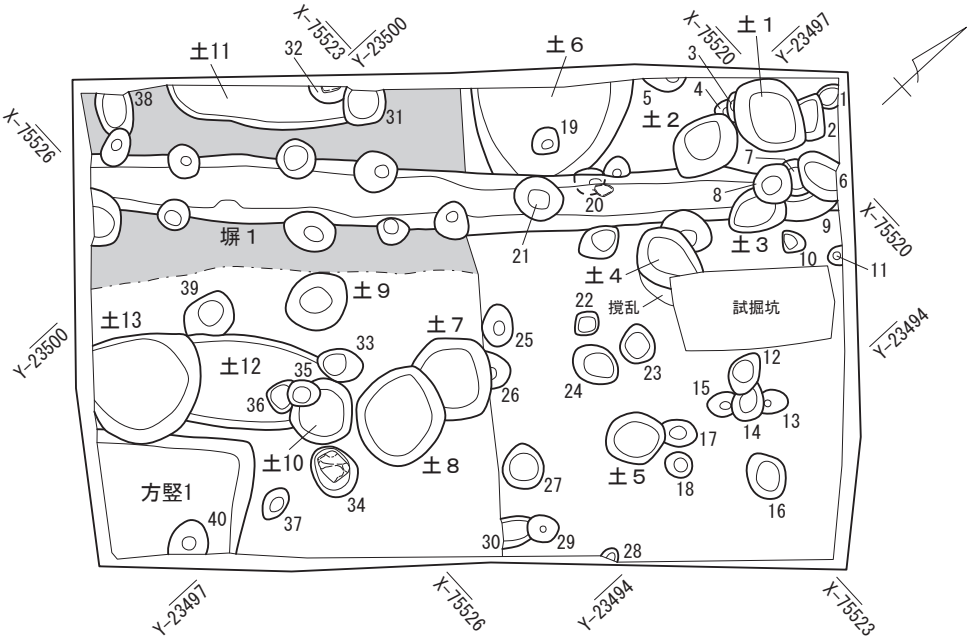
今回の調査では、遺構確認面は第１～９面までの合計９面である。遺構確認面はいずれも中世に属し、検出した遺構は方形竪穴状遺構１基、基壇状遺構１基、塀状遺構３条、柵列１条、土坑46基、ピット401基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して８箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表（表11）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～９面）に説明する。

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の５・６層上面で検出され、確認面の標高は20.2～20.4ｍを測る。５層は微量の炭化物、少量の褐鉄と多量の細砂を含む暗灰褐色粘質土層、６層は少量の泥岩粒・炭化物・粗砂、微量の泥岩ブロックおよびかわらけ片を含む茶灰色土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は方形竪穴状遺構１基、塀状遺構１条、土坑13基、ピット40基である（図６）。遺構は調査区全域に満遍なく分布し、中には重複するものも認められた。調査区西側に北東－南西方向の塀状遺構が延びて調査区外へと続いており、屋敷地の内外を区画する施設と推定される。なお、調査区西側には明瞭な整地面の広がりが認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。



方竪：方形竪穴状遺構　　塀：塀状遺構
土：土坑　　番号のみ：ピット

図６　第１面 遺構分布図

（１）方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構１（図７）

調査区の南隅に位置する。北西側で土坑13、東側でピット40と重複して壁と底面の一部が壊され、南側が調査区外へと続いているため全容を把握できなかった。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形と推定される。規模は北東－南西方向の現存長1.60m、北西－南東方向の現存長1.40m、深さ２～９㎝で、底面の標高は20.12mを測る。主軸方位はＮ－47°－Ｅを指す。

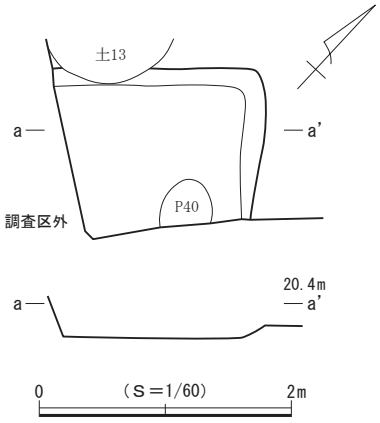


図７　第１面 方形竪穴状遺構１

出土遺物（図８）

遺物はかわらけ62点、陶器７点、土師質･瓦質土器１点が出土し、このうち９点を図示した。

１～９はロクロ成形によるかわらけである。８の口縁部から外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

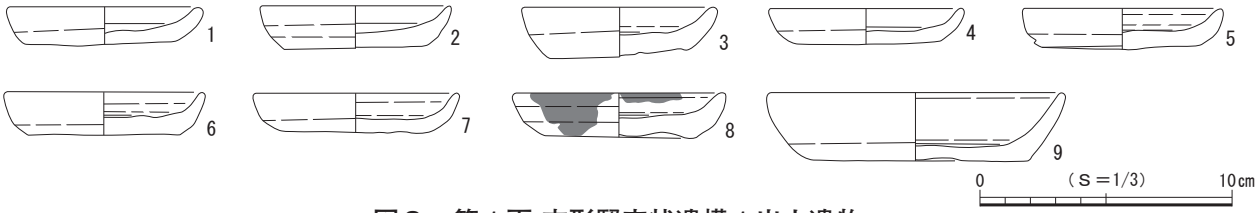


図８　第１面 方形竪穴状遺構１出土遺物

（２）塀状遺構

塀状遺構１（図９）

調査区の西側から北側にかけて位置する。おおむね直線的に延びて北東および南西側の調査区外へと

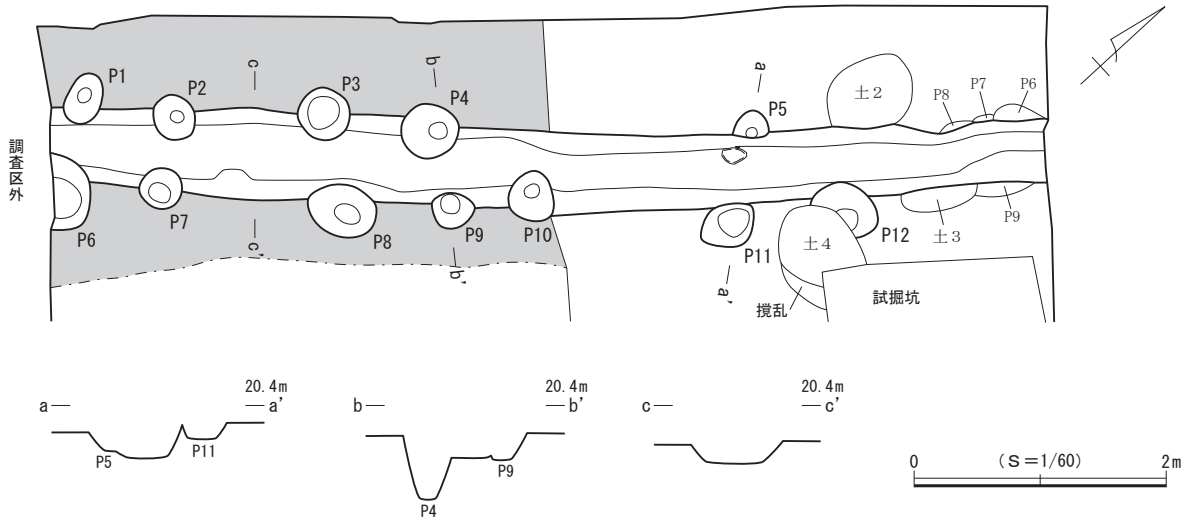


図９　第１面 塀状遺構１

続いている。重複する遺構は、北東側からピット６～９、土坑２・３、ピット21で、壁や底面の一部が壊されている。また、ピット20と重複して上面を壊している。溝状の掘り込みと壁面に沿って穿たれたピットで構成されており、ピットは対をなしている。溝状の掘り込み規模は現存長約7.9m、幅50～70cm、深さ６～23cmを測る。主軸方位はＮ－42°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は19.95～20.00mを測る。付随するピットは平面形が円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸27～60cm、深さ15～53cmを測る。ピット間の距離は心々で北西壁側が0.7m、1.2m、0.9m、2.5m、南東壁側が0.8m、1.5m、0.8m、0.7m、1.6m、0.9mとばらつきがある。

出土遺物（図10）

遺物は塀状遺構の掘り込みとそれに付属するピットから、かわらけ51点、磁器１点、陶器２点、金属製品２点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

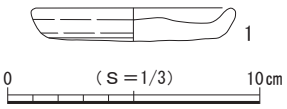


図10　第１面 塀状遺構１出土遺物

（３）土　坑

土坑１（図12）

調査区の北隅に位置する。北側でピット２、南側でピット３・４と重複して壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸90cm、短軸70cm、深さ10cmで、坑底面の標高は20.23mを測る。主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ25点、磁器１点、陶器４点が出土した。

土坑２（図12）

調査区の北隅に位置する。北側でピット４、南側で塀状遺構１と重複して壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸79cm、短軸60cm、深さ４cmで、坑底面の標高は20.22mを測る。主軸方位はＮ－20°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑３（図12）

調査区の北隅に位置する。北側でピット９、塀状遺構１と重複して壊し、同じく北側でピット８と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸46㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は20.18ｍを測る。主軸方位はＮ－17°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ13点が出土した。

土坑４（図12）

調査区の北側に位置する。北側で塀状遺構１に付随するピットと重複して壊し、東側の壁が試掘坑によって失われ全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長74㎝、短軸58㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は20.07ｍを測る。主軸方位はＮ－85°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑５（図12）

調査区の東側に位置する。北側でピット17と重複して壁の一部を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸54㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は20.14ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑６（図12）

調査区北西壁際の中央付近に位置する。南側で塀状遺構１、ピット19・20と重複して壁と底面の一部が壊され、北西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北東－南西方向の現存長1.72ｍ、北西－南東方向の現存長93㎝、深さ26㎝で、坑底面の標高は19.91ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｗを指すと推定される。

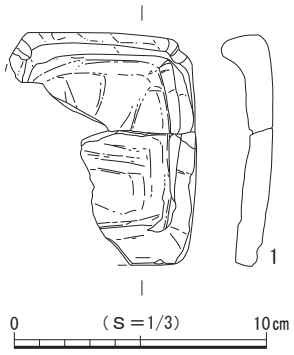


図11　第１面 土坑６出土遺物

出土遺物（図11）

遺物は石製品１点が出土し、それを図示した。

１は滑石製石鍋を転用した硯である。

土坑７（図12）

調査区の中央付近に位置する。北側でピット26と重複して壊し、南側で土坑８と重複して壁と底面の一部を壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸92㎝、短軸現存長80㎝、深さ５㎝で、坑底面の標高は20.19ｍを測る。

遺物はかわらけ18点、陶器２点が出土した。

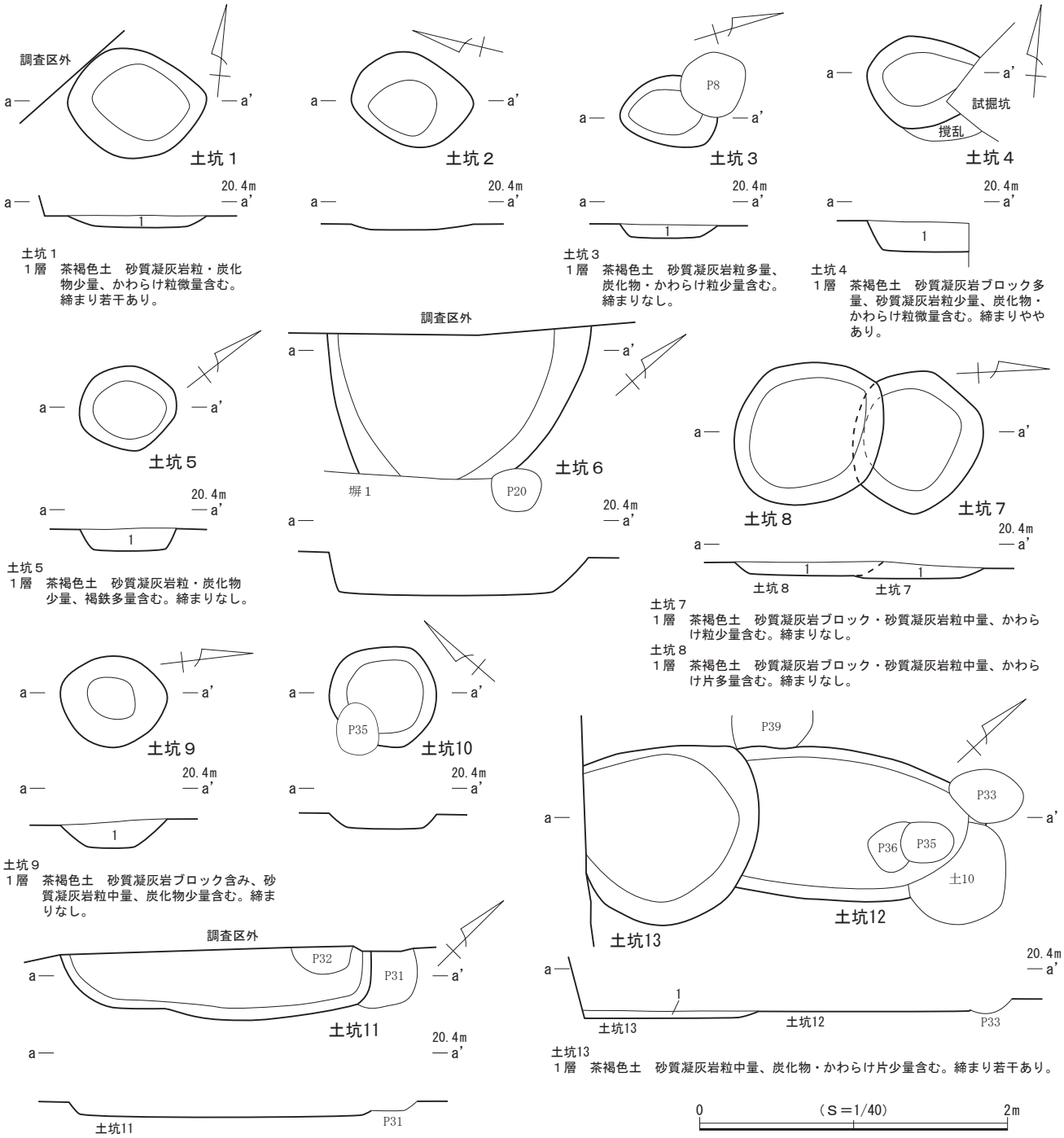
土坑８（図12）

調査区中央の南寄りに位置する。北側で土坑７と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸1.08m、短軸94cm、深さ８cmで、底面の標高は20.20mを測る。

遺物はかわらけ８点、金属製品１点が出土した。

土坑９（図12）

調査区中央の南西寄りに位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69cm、短軸59cm、



土坑１
１層　茶褐色土　砂質凝灰岩粒・炭化物少量、かわらけ粒微量含む。締まり若干あり。

土坑３
１層　茶褐色土　砂質凝灰岩粒多量、炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりなし。

土坑４
１層　茶褐色土　砂質凝灰岩ブロック多量、砂質凝灰岩粒少量、炭化物・かわらけ粒微量含む。締まりややあり。

土坑５
１層　茶褐色土　砂質凝灰岩粒・炭化物少量、褐鉄多量含む。締まりなし。

土坑７
１層　茶褐色土　砂質凝灰岩ブロック・砂質凝灰岩粒中量、かわらけ粒少量含む。締まりなし。

土坑８
１層　茶褐色土　砂質凝灰岩ブロック・砂質凝灰岩粒中量、かわらけ片多量含む。締まりなし。

土坑９
１層　茶褐色土　砂質凝灰岩ブロック含み、砂質凝灰岩粒中量、炭化物少量含む。締まりなし。

土坑13
１層　茶褐色土　砂質凝灰岩粒中量、炭化物・かわらけ片少量含む。締まり若干あり。

図12　第１面 土坑１～13

深さ19㎝で、坑底面の標高は20.02ｍを測る。

遺物はかわらけ23点が出土した。

土坑10（図12）

調査区の南側に位置する。西側で土坑12と重複して壁の一部を壊し、ピット35と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69㎝、短軸64㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は20.14ｍを測る。

遺物はかわらけ13点、磁器１点が出土した。

土坑11（図12）

調査区北西壁際の南側に位置する。北側でピット31と重複して壊し、ピット32と重複して底面の一部が壊され、北西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈する。規模は長軸2.02ｍ、短軸現存長46㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は19.99ｍを測る。主軸方位はＮ－43°－Ｅを指すと推定される。

遺物はかわらけ４点が出土した。

土坑12（図12）

調査区の南側に位置する。北東側で土坑10、ピット33・35・36、南西側で土坑13と重複して壁や底面が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると長楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長1.36ｍ、短軸99㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は20.12ｍを測る。主軸方位はＮ－47°－Ｅを指す。

出土遺物（図13）

遺物はかわらけ126点、陶器２点、土師質・瓦質土器２点、瓦１点が出土し、このうち９点を図示した。

１～７はロクロ成形によるかわらけで、７の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。８は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。９は土師質・瓦質土器の火鉢でⅡＤ類に比定される。

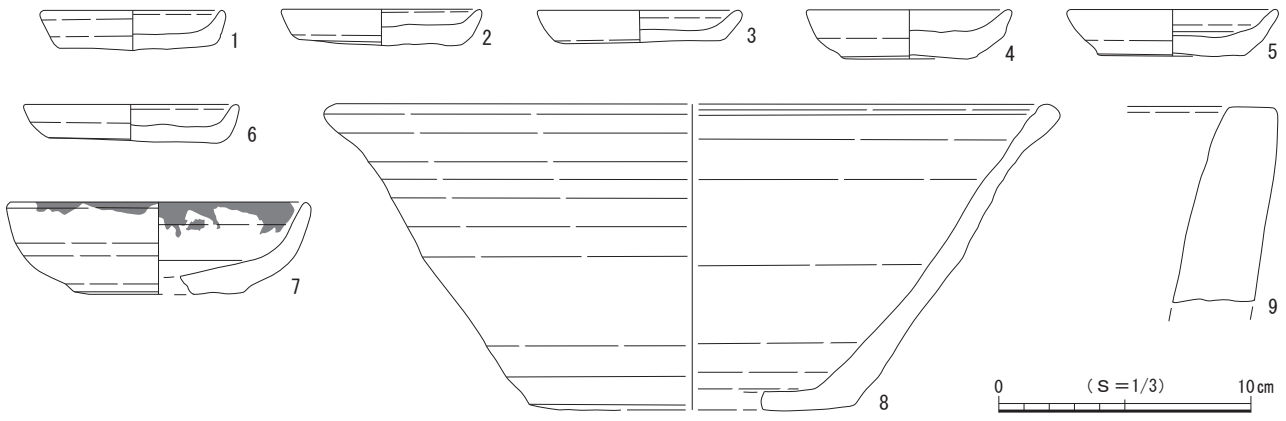


図13　第１面 土坑12出土遺物

土坑13（図12）

調査区の南側に位置する。北東側で土坑12と重複して壁と底面を壊し、南西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸1.30m、短軸現存長1.24m、深さ７㎝で、坑底面の標高は20.08ｍを測る。

出土遺物（図14）

遺物はかわらけ７点、陶器４点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけで、２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

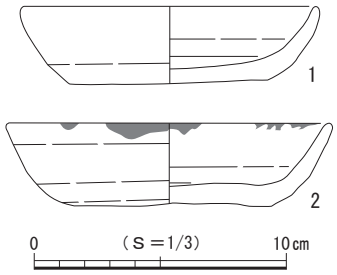


図14　第１面 土坑13出土遺物

（４）ピット

第１面では、40基を検出した。調査区西側に北東－南西方向に延びる塀状遺構１があり、その南東側にピットが多く認められたが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸18～56㎝、深さ５～31㎝を測る。40基のうち１基のピット（ピット34）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ32㎝で、上面の標高は20.34ｍを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図15に図示した。

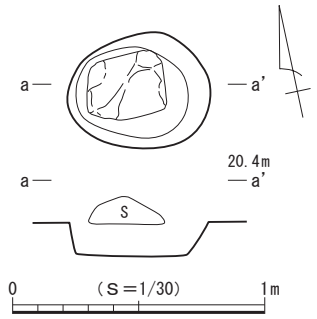


図15　第１面 ピット34

遺物は40基中、20基（ピット２・５・６・８・10・16・18・23・25～28・30・31・33・34・37～40）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）を参照されたい。

（５）第１面 遺構外出土遺物（図16）

第１面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち９点を図示した。

１～６はロクロ成形によるかわらけである。７は龍泉窯系青磁坏で坏Ⅲ－１類に比定される。８・９は常滑産の陶器類である。８は甕で６ａ～６ｂ型式、９は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。

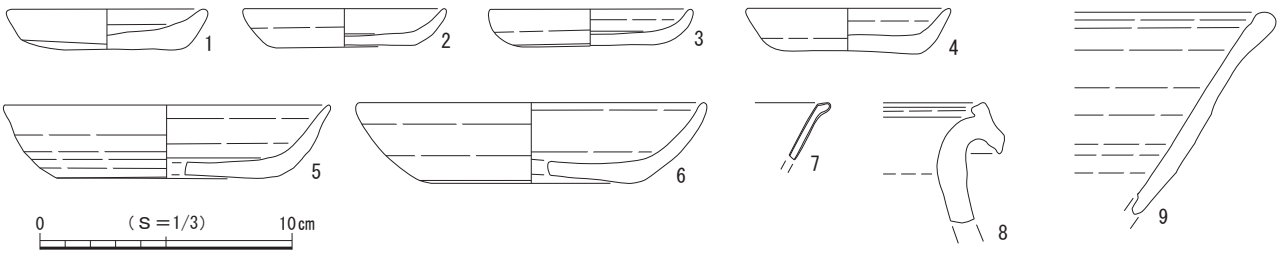


図16　第１面 遺構外出土遺物

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の８層上面で検出され、確認面の標高は20.0～20.1ｍを測る。８層は泥岩粒と微量の炭化物・かわらけ片のほか、少量の褐鉄を含み締まりのない茶灰色土層で、この層を掘り込ん

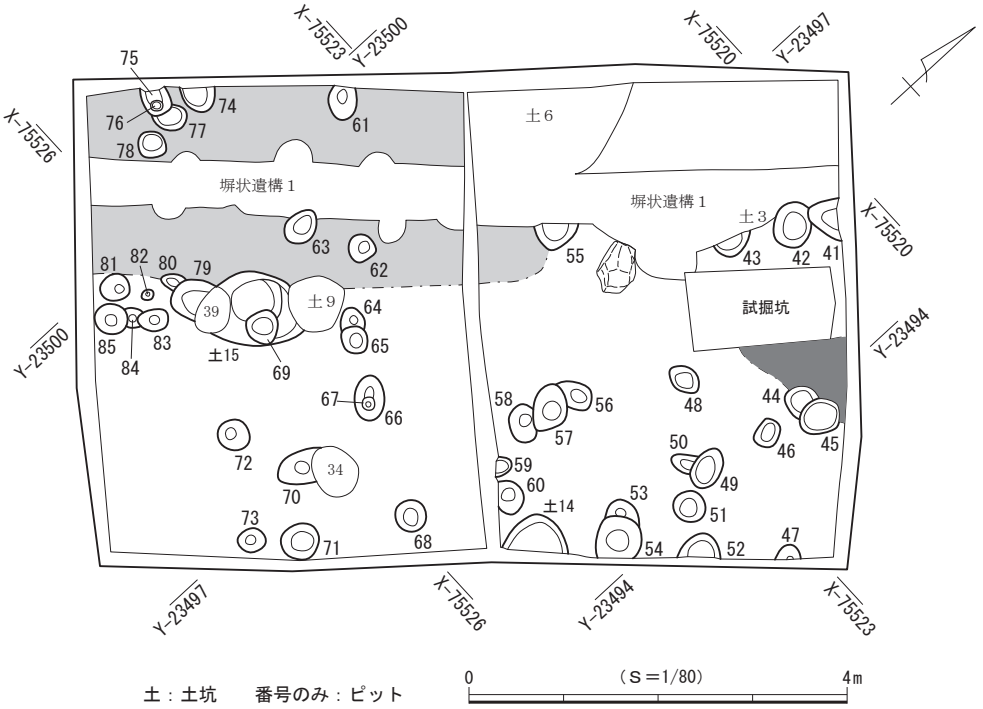


図17　第２面 遺構分布図

で遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑２基、ピット45基である（図17）。遺構は調査区の北隅を除いたほぼ全域に分布するが、遺構密度は低く遺構の種類も限定的である。調査区西側には泥岩ブロックを用いた明瞭な整地面の広がりが認められ、北東壁際の中央付近に炭化物の集中分布が認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

（１）土　坑

土坑14（図18）

調査区南東壁際の中央に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形ないし略円形と考えられ、底面はわずかに湾曲する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長39㎝、東西現存長70㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は20.12ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑15（図18）

調査区の南西側に位置する。北側が第１面の土坑９、南側が第１面のピット39によって壊され、東側でピット69と重複して壁と底面の一部が壊されている。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、東側に段を有して断面形は逆台

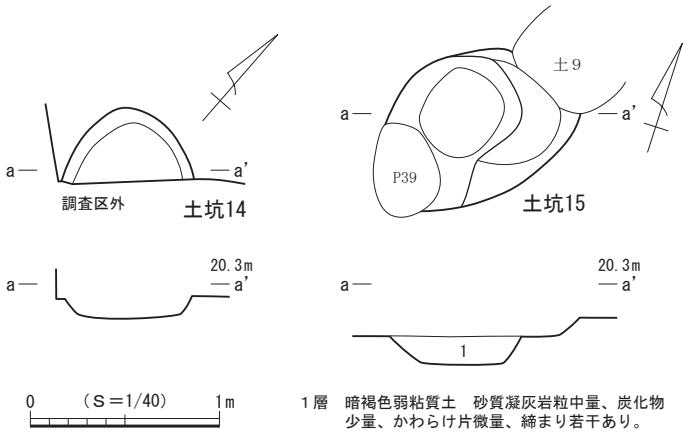


図18　第２面 土坑14・15

形を呈する。規模は長軸現存長1.02m、短軸82㎝、深さ20㎝で、標高は段の部分で20.02m、坑底面で19.88mを測る。主軸方位はＮ－45°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ25点が出土した。

（２）ピット

第２面では、45基を検出した。調査区の北隅と南隅に分布の空白域が認められるが、密度はさほど高くはないもののほぼ全域に満遍なく分布する。調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸13～48㎝、深さ３～61㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は45基中、17基（ピット42・46・54～58・61・63・68・71・73～75・80・83・85）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）を参照されたい。

（３）第２面 遺構外出土遺物（図19）

第２面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち４点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。４は銭貨で嘉祐通寶（1056年初鋳）である。

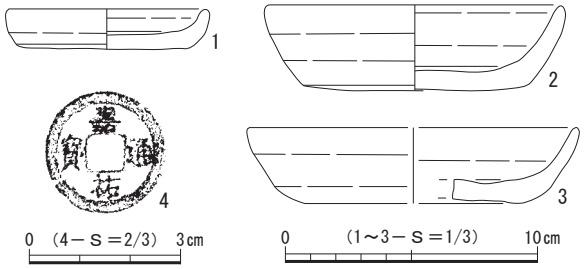


図19　第２面 遺構外出土遺物

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の11層上面で検出され、確認面の標高は19.9～20.1mを測る。11層は少量の泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物・粗砂と微量の褐鉄を含み締まりのある暗茶色弱粘質土層で、この層を掘り込

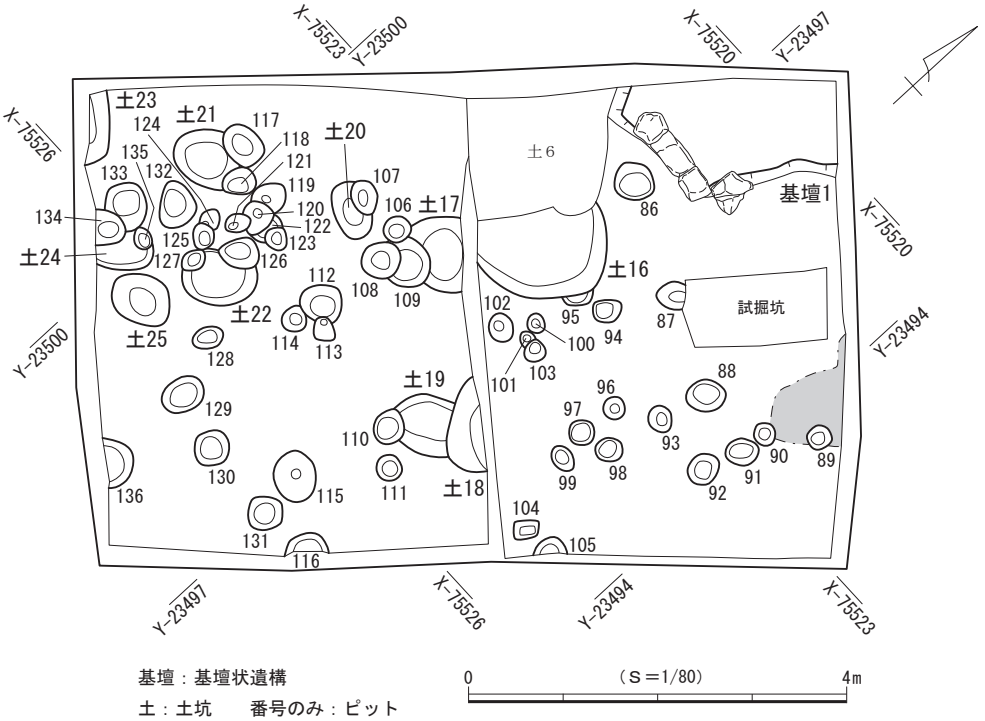


図20　第３面 遺構分布図

んで遺構が構築されていた。検出した遺構は基壇状遺構１基、土坑10基、ピット51基である（図20）。遺構は調査区のほぼ全域に分布するが、遺構密度はさほど高くはなく重複するものも少ない。調査区北東側のごく狭い範囲に明瞭な整地面の広がりが認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉頃に属すると考えられる。

（１）基壇状遺構

基壇状遺構１（図21）

調査区の北隅に位置する。南側で土坑６と重複して盛土の一部が壊され、北側が調査区外へと続いているため全容を把握できなかった。調査区内では南北約2.0m、東西約1.5mの範囲に砂質凝灰岩ブロックを含んだ締まりのある暗茶色弱粘質土が積み上げられているのが確認され、盛土の高さは最大で36cmを測る。盛土の南縁には砂質凝灰岩の切石を南面をそろえて配置し、東側で直角に折れる方向に切石１点が置かれている。この切石列の現存長は1.07mで、切石の大きさは長さ30～46cm、幅25～35cm、高さ10cm前後を測る。切石の配列方位はＮ－85°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

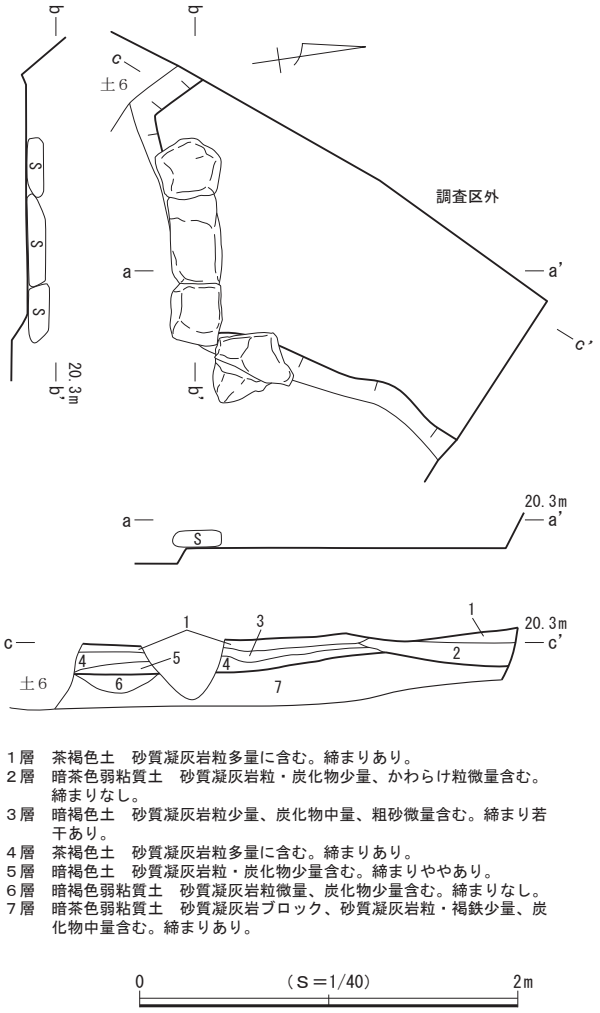


図21　第３面 基壇状遺構１

（２）土　坑

土坑16（図23）

調査区中央の北側に位置する。東側でピット95と重複して壊し、西側が第１面の土坑６によって壊されており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形ないし略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長1.29m、東西現存長1.08m、深さ11cmで、坑底面の標高は19.94mを測る。

出土遺物（図22）

遺物はかわらけ43点、瓦１点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

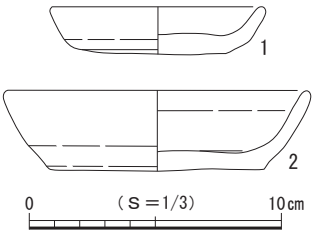


図22　第３面 土坑16出土遺物

土坑17（図23）

調査区中央の西側に位置する。南側でピット106・109と重複して壁の一部が壊され、北側は調査区の境にあたり全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形ないし不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北西

－南東80㎝、北東－南西方向の現存長57㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は19.91ｍを測る。

遺物はかわらけ５点、瓦１点が出土した。

土坑18（図23）

調査区の南西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、東壁はごくわずかに開き、西壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は北西－南東方向の現存長1.00ｍ、北東－南西方向の現存長38㎝、深さ26㎝で、坑底面の標高は19.86ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑19（図23）

調査区中央の南東側に位置する。南側でピット110、北側で土坑18と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長62㎝、短軸63㎝、深さ

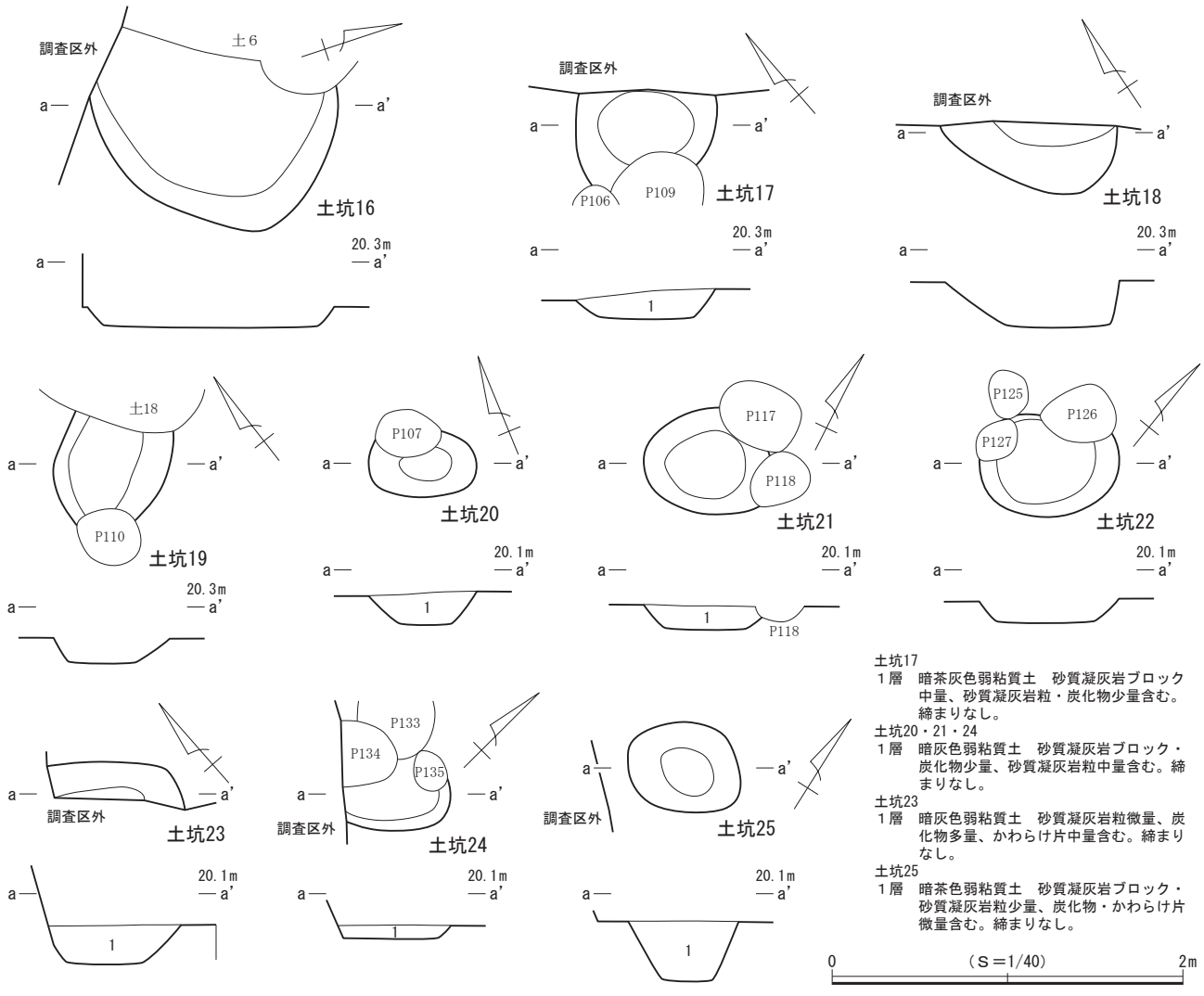


図23　第３面 土坑16～25

15㎝で、坑底面の標高は19.99ｍを測る。主軸方位はＮ－61°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ７点、陶器１点が出土した。

土坑20（図23）

調査区の南西側に位置する。北側でピット107と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61㎝、短軸36㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は19.79ｍを測る。主軸方位はＮ－67°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑21（図23）

調査区の南西隅付近に位置する。北側でピット117、東側でピット118と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸72㎝、短軸60㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は19.76ｍを測る。主軸方位はＮ－63°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ７点が出土した。

土坑22（図23）

調査区の南西隅付近に位置する。北側でピット126、西側でピット127と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸79㎝、短軸57㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は19.80ｍを測る。主軸方位はＮ－51°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑23（図23）

調査区の南西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は北西－南東方向の現存長74㎝、北東－南西方向の現存長21㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は19.71ｍを測る。

遺物はかわらけ12点、磁器１点が出土した。

土坑24（図23）

調査区南西壁際の中央西側に位置する。北側から西側にかけてピット133～135と重複して壁と底面が壊され、南西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は長軸現存長60㎝、短軸現存長40㎝、深さ７㎝で、坑底面の標高は19.85ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑25（図23）

調査区の南西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸68㎝、短軸50㎝、深さ32㎝で、坑底面の標高は19.60ｍを測る。主軸方位はＮ－57°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ23点が出土した。

（３）ピット

第３面では、51基を検出した。調査区の全域に散漫に分布し、重複するものは少ない。調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸20～54㎝、深さ３～33㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図24）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）に掲げたが、このうち３点を図示した。

１は平瓦、２・３はロクロ成形によるかわらけである。

１はピット86、２・３はピット112からそれぞれ出土した。

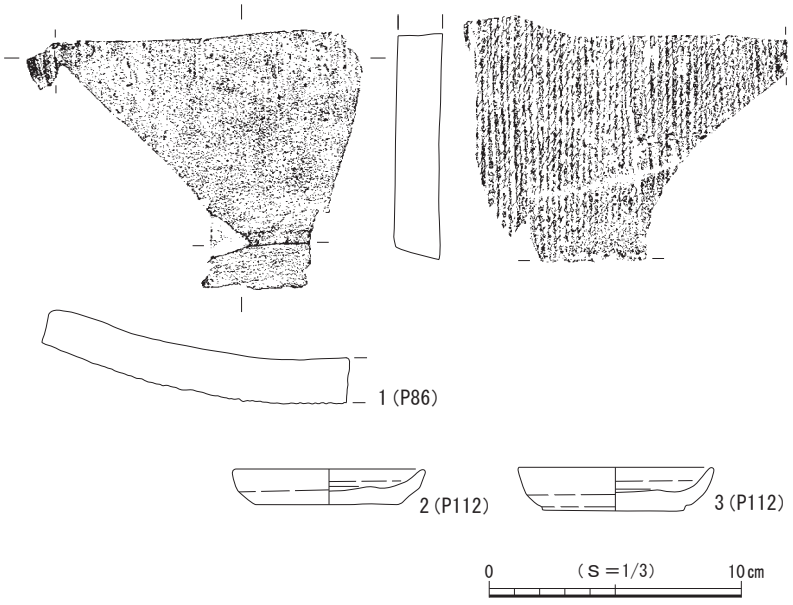


図24　第３面 ピット出土遺物

（４）第３面 遺構外出土遺物（図25）

第３面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち９点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけで、２・３の口縁部から内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。４は中国産の耳壺である。５～７は常滑産の甕で５型式に比定される。８・９は銭貨で、８は咸平元寶（998年初鋳）、９は元豊通寶（1078年初鋳）である。

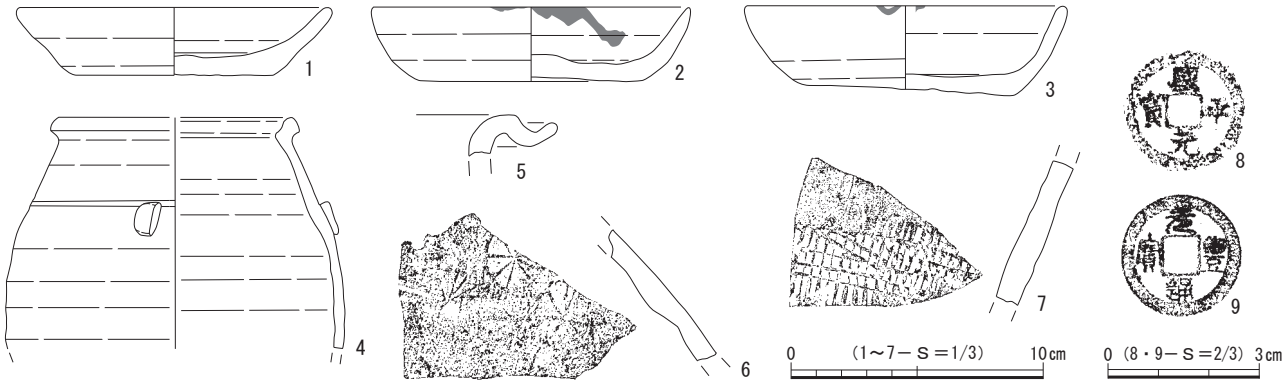


図25　第３面 遺構外出土遺物

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の12層上面で検出され、確認面の標高は19.8～20.0ｍを測る。12層は泥岩粒・泥岩ブロック、少量の炭化物、多量の褐鉄を含み締まりのある暗褐色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑５基、ピット71基である（図26）。調査区中央西側と調査区南西側に遺構の空白部分が認められたが、ほぼ全域にわたって分布する。遺構密度は高くはなく、遺構の種類も限定的である。なお、調査区北東隅に南北約1.5ｍ、東西約80㎝を測る砂質凝灰岩の頂部が確認された。この砂質凝灰岩は本面以下最終面の第９面に至るまで同一の場所から検出されており、落石の残存と判断される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、瓦、石製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

（１）土　坑

土坑26（図27）

調査区の北隅付近に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸67㎝、短軸48㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は19.93ｍを測る。主軸方位はＮ－12°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑27（図27）

調査区の北東側に位置する。西側でピット156・157と重複して壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65㎝、短軸47㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は19.87ｍを測る。主軸方位はＮ－５°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

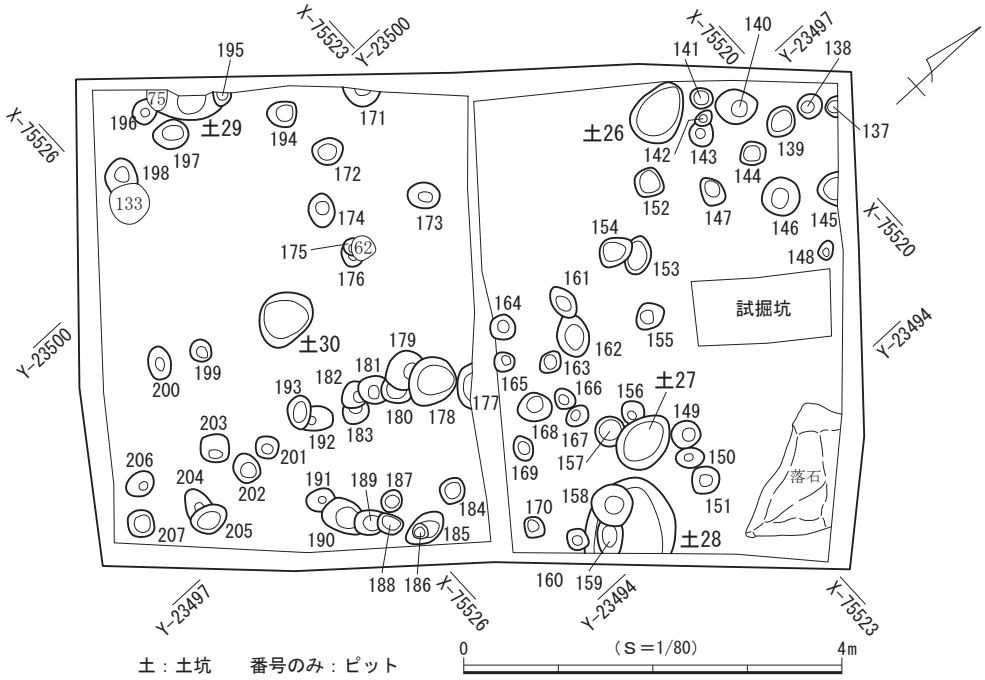


図26　第４面 遺構分布図

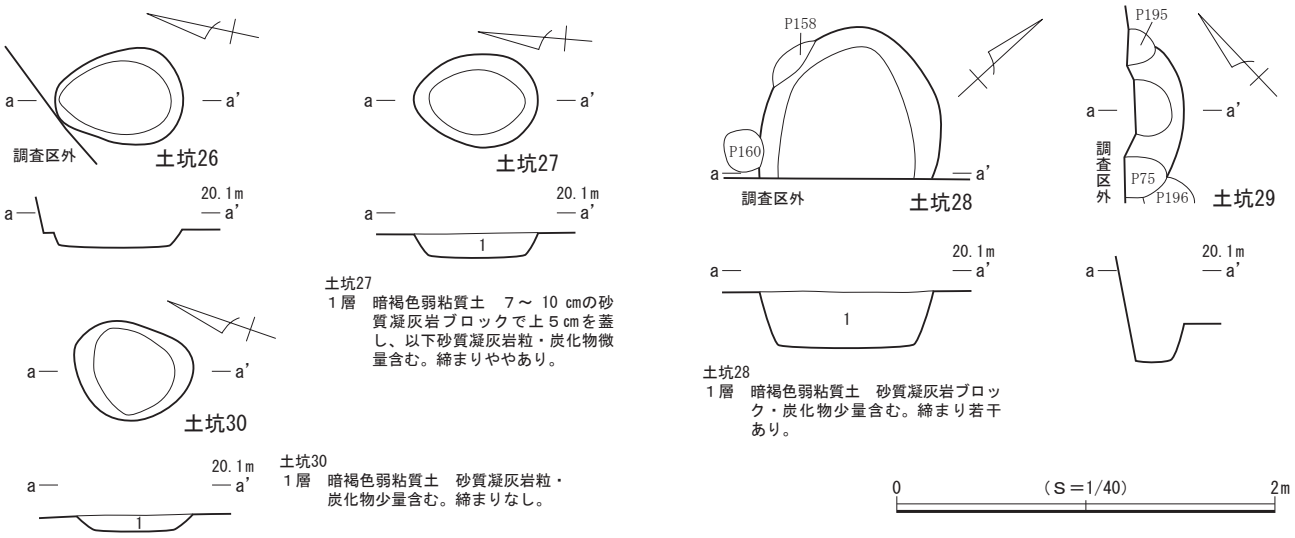


図27　第４面 土坑26～30

土坑28（図27）

調査区南東壁際の中央北東寄りに位置する。南側でピット158～160と重複して壁と底面の一部が壊され、南東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長80cm、短軸92cm、深さ28cmで、坑底面の標高は19.70ｍを測る。主軸方位はＮ－47°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑29（図27）

調査区の南西隅に位置する。南壁を第２面のピット75によって失われ、北側でピット195と重複して壁の一部が壊され、加えて西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁はやや開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は北東－南西方向の現存長67cm、北西－南東方向の現存長26cm、深さ29cmで、坑底面の標高は19.62ｍを測る。

遺物はかわらけ３点、磁器１点、陶器１点が出土した。

土坑30（図27）

調査区の南側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61cm、短軸52cm、深さ９cmで、坑底面の標高は19.86ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（２）ピット

第４面では、71基を検出した。調査区中央西側と調査区南西側に遺構の空白部分が認められたが、ほぼ全域にわたって分布する。重複するものは少なく、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸16～50cm、深さ３～51cmを測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図28）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）に掲げたが、このうち３点を図示した。

１は渥美産の蓮弁文壺、２は平瓦、３は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。

１はピット149、２はピット152、３はピット158からそれぞれ出土した。

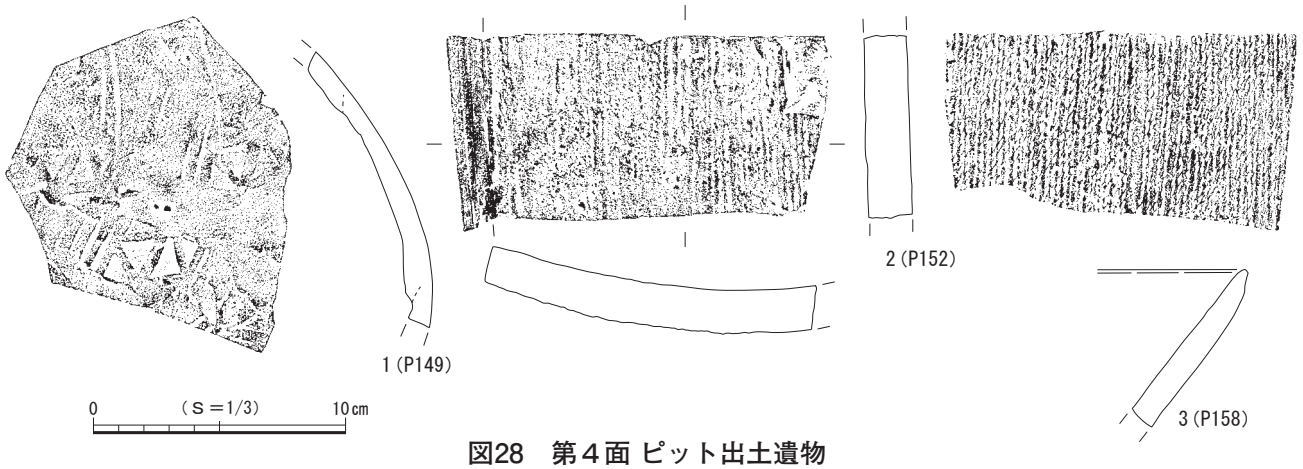


図28　第４面 ピット出土遺物

（３）第４面 遺構外出土遺物（図29）

第４面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち10点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。３は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。４～10は銭貨で、４は開元通寶（960年初鋳）、５・６は皇宋通寶（1038年初鋳）、７は嘉祐通寶（1056年初鋳）、８は熙寧元寶（1068年初鋳）、９は元豊通寶（1078年初鋳）、10は元祐通寶（1086年初鋳）である。

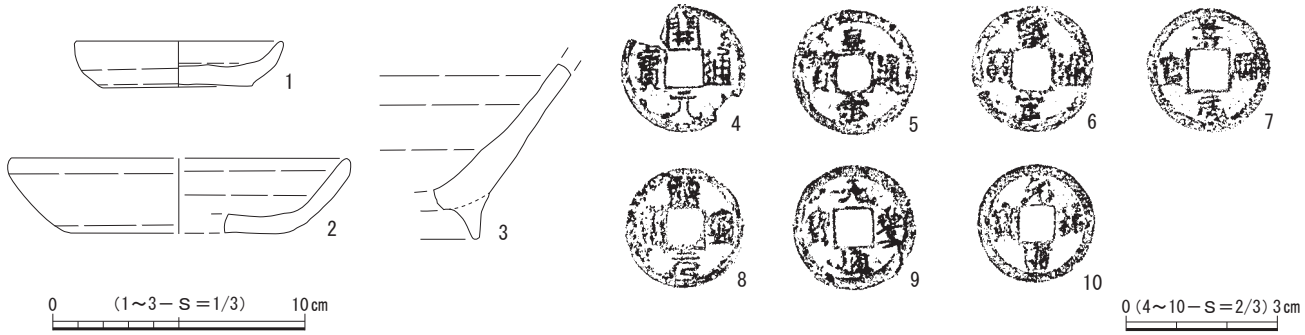


図29　第４面 遺構外出土遺物

第５節　第５面の遺構と遺物

第５面の遺構は堆積土層の15層上面で検出され、確認面の標高は19.6～19.9ｍを測る。15層は少量の泥岩粒、微量の泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片および多量の褐鉄を含み、やや締まりのある暗灰色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑７基、ピット53基である（図30）。調査区北東側に遺構の空白部分が認められたが、ほぼ全域にわたって遺構が分布する。遺構密度は高くはなく、遺構の種類も限定的である。なお、調査区北東隅に第４面で確認された落石が検出され、その範囲は南北約1.8ｍ、東西約1.0ｍを測る。

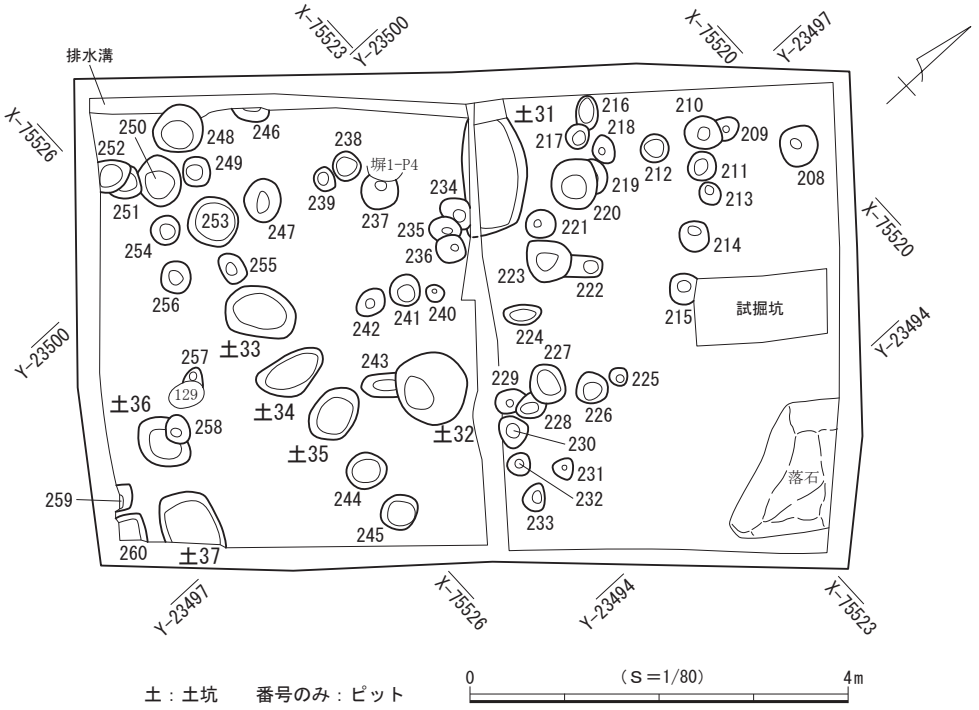


図30　第５面 遺構分布図

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉頃に属すると考えられる。

（1）土　坑

土坑31（図32）

調査区北西壁際の中央に位置する。調査区の境で検出され、南側でピット234と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整長楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.20m、短軸68cm、深さ８cmで、坑底面の標高は19.78mを測る。主軸方位はＮ－53°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ７点、陶器１点が出土した。

土坑32（図32）

調査区の中央南東側に位置する。南側でピット243と重複して壊している。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。南壁は開き、北壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸76cm、短軸72cm、深さ14cmで、坑底面の標高は19.75mを測る。

出土遺物（図31）

遺物は陶器１点が出土し、それを図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。

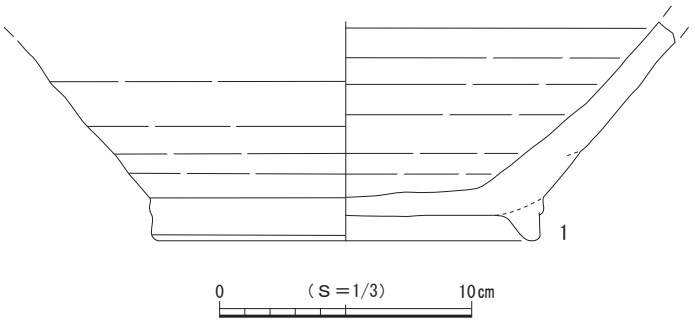


図31　第５面 土坑32出土遺物

土坑33（図32）

調査区の南側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸75㎝、短軸53㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.69ｍを測る。主軸方位はＮ－60°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑34（図32）

調査区の南側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸74㎝、短軸41㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は19.75ｍを測る。主軸方位はＮ－５°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑35（図32）

調査区の南側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸45㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.76ｍを測る。主軸方位はＮ－16°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器２点が出土した。

土坑36（図32）

調査区の南隅付近に位置する。北側でピット258と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸63㎝、短軸現存長49㎝、深さ９㎝で、

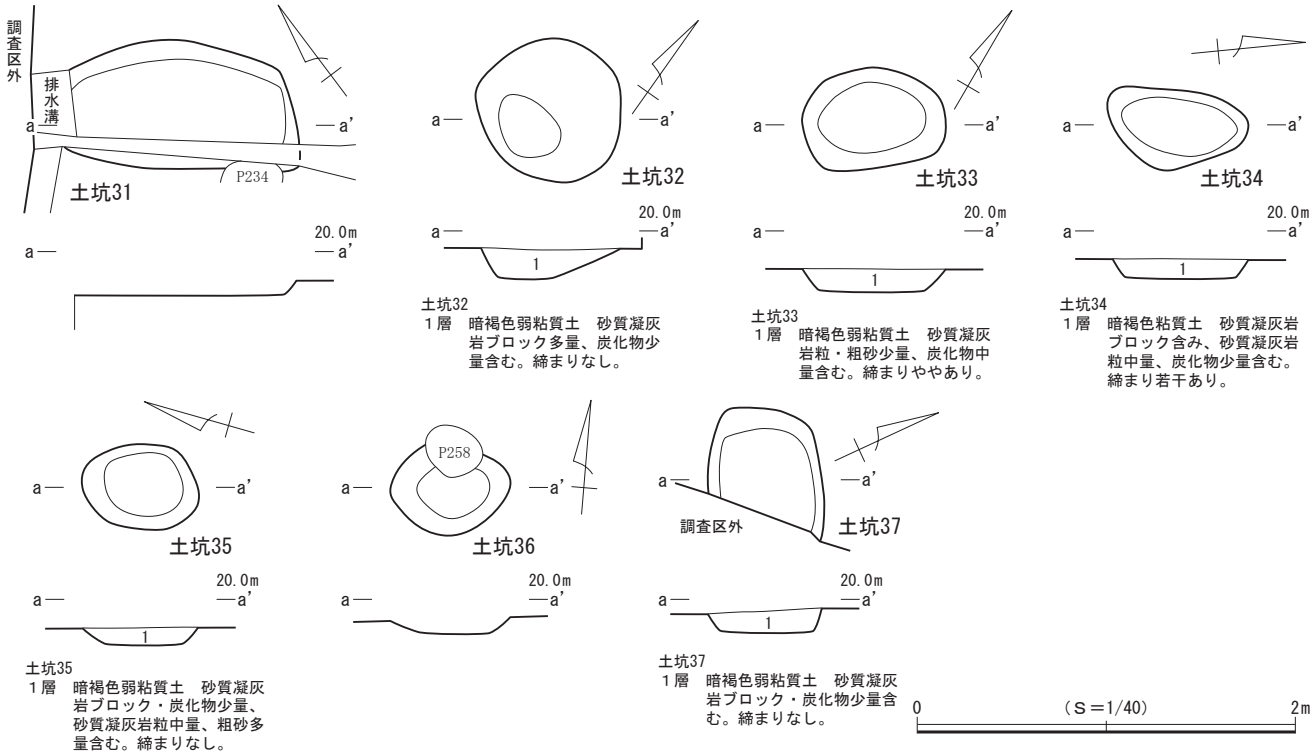


図32　第５面 土坑31～37

坑底面の標高は19.82ｍを測る。主軸方位はＮ－85°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑37（図32）

調査区の南隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長70㎝、短軸60㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は19.82ｍを測る。主軸方位はＮ－67°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点、瓦１点が出土した。

（２）ピット

第５面では、53基を検出した。調査区北東側に遺構の空白部分が認められたが、ほぼ全域にわたって分布する。重複するものは少なく、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸18～55㎝、深さ４～35㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図33）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）に掲げたが、このうち２点を図示した。

１は龍泉窯系の青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類、２は渥美産の甕でⅡｂ型式に比定される。１はピット210、２はピット255からそれぞれ出土した。

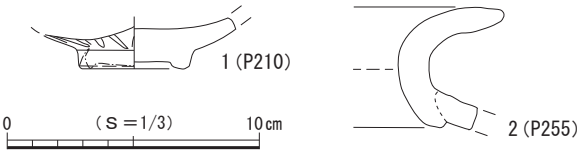


図33　第５面 ピット出土遺物

（３）第５面 遺構外出土遺物（図34）

第５面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち２点を図示した。

１は龍泉窯系青磁皿で皿Ⅰ類に比定される。２は常滑産の片口鉢Ⅱ類である。

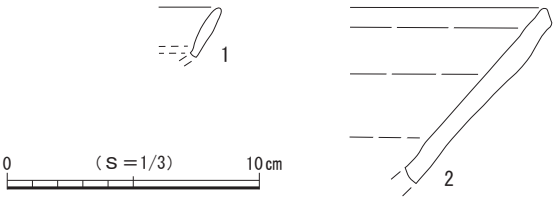


図34　第５面 遺構外出土遺物

第６節　第６面の遺構と遺物

第６面の遺構は堆積土層の16層上面で検出され、確認面の標高は19.5～19.7ｍを測る。16層は少量の泥岩粒・粗砂、微量の炭化物と多量の褐鉄を含みやや締まりのある黄褐色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は塀状遺構１条、土坑２基、ピット54基である（図35）。遺構の分布は、塀状遺構が調査区を南北方向に斜めに横切り、その両側にピットが広がる。遺構間の重複は少なく、遺構密度も高くない。なお、調査区北東隅に第４・５面で確認された落石が検出され、その範囲は南北約1.8ｍ、東西約1.0ｍを測る。

遺物は主にかわらけ、陶器、瓦、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

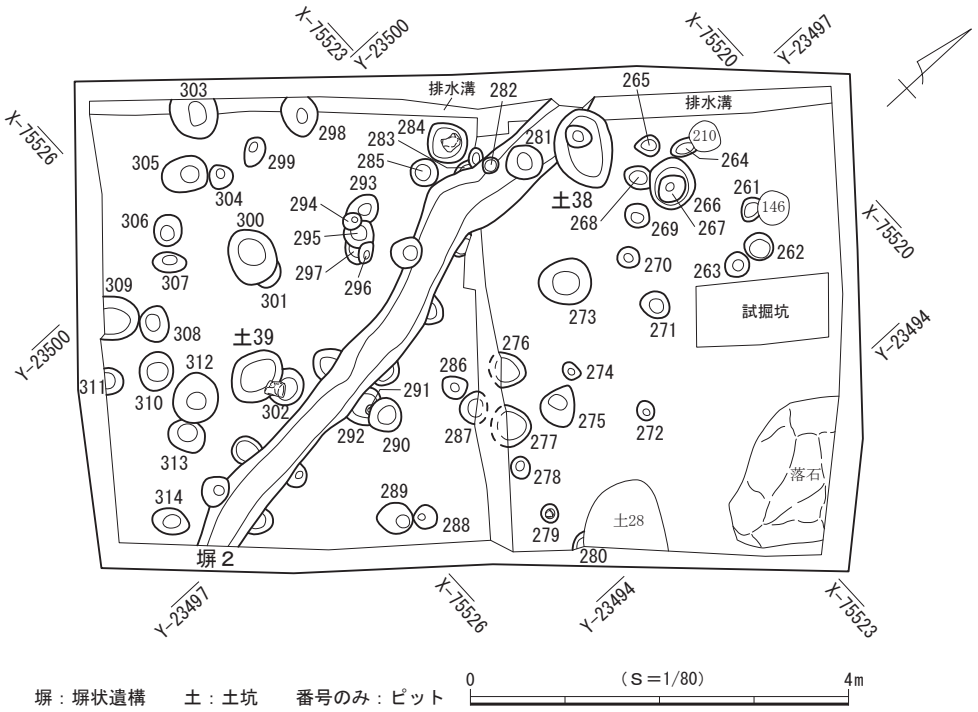


図35　第６面 遺構分布図

（１）塀状遺構

塀状遺構２（図36）

調査区の北側から南側にかけて位置する。わずかに湾曲する部分もみられるが、おおむね直線的に延びて南北側の調査区外へと続いている。重複する遺構は、北側から土坑38、ピット281・282で、壁や底面の一部を壊されている。また、ピット292と重複して壊している。溝状の掘り込みと壁面に沿って穿たれたピットで構成されており、ピットは東西で対をなすものが多い。溝状の掘り込み規模は現存長約6.0m、幅40～70㎝、深さ11～23㎝を測る。主軸方位はＮ－８°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は19.59mを測る。付随するピットは平面形が円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸25～35㎝、深さ５～16㎝を測る。ピット間の距離は心々で西壁側が北から順に1.2m、1.5m、1.2m、0.5m、東壁側が北から順に1.7m、0.7m、0.8m、1.5m、0.6mとばらつきがある。

遺物は塀状遺構の掘り込みとそれに付属するピットから、かわらけ５点、陶器３点が出土した。

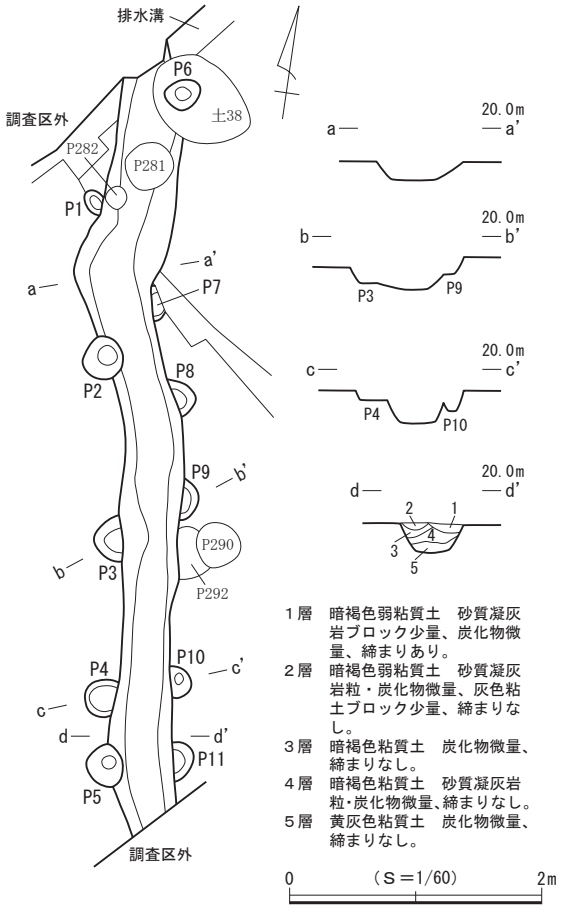


図36　第６面 塀状遺構２

（2）土　坑

土坑38（図37）

調査区の北側に位置する。西側で塀状遺構２と重複して壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸86cm、短軸61cm、深さ14cmで、坑底面の標高は19.66mを測る。主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

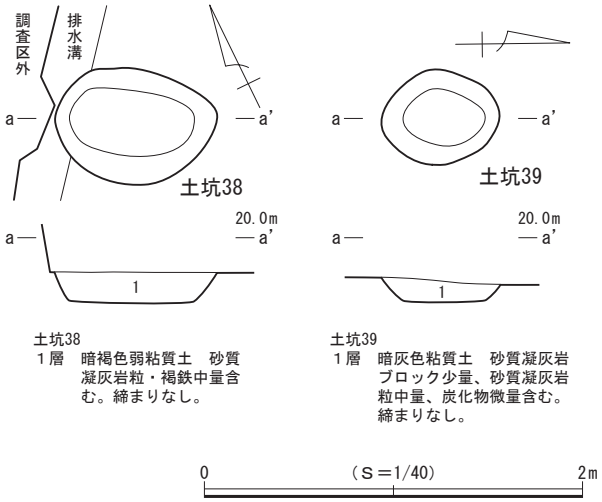


図37　第６面 土坑38・39

土坑39（図37）

調査区の南側に位置する。東側でピット302と重複して壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62cm、短軸49cm、深さ10cmで、坑底面の標高は19.66mを測る。主軸方位は真北を指す。

遺物は出土しなかった。

（3）ピット

第６面では、54基を検出した。調査区北西側を除く調査区のほぼ全域に分布するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸11～59cm、深さ５～44cmを測る。54基のうち２基のピット（ピット279・284）に礎石と推定される礫が据えられており、大きさは長さ８cmと19cmで、上面の標高は19.64mと19.79mを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図38に図示した。

出土遺物（図39）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）に掲げたが、このうち５点を図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。２～５はロクロ成形によるかわらけで、３の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

１はピット302、２はピット303、３はピット314、４・５はピット325からそれぞれ出土した。

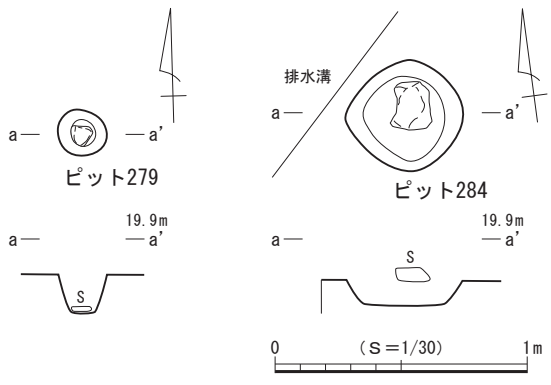


図38　第６面 ピット279・284

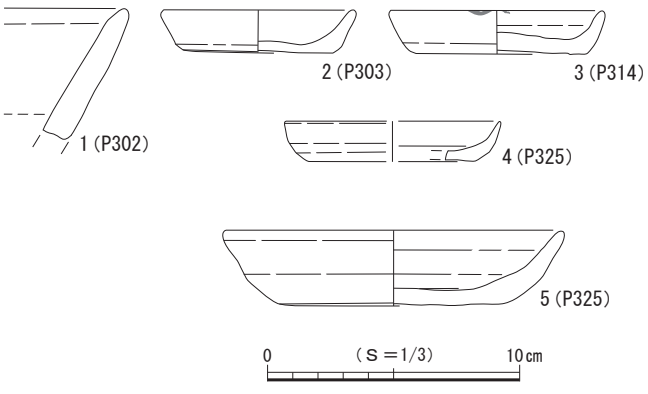


図39　第６面 ピット出土遺物

（４）第６面 遺構外出土遺物（図40）

第６面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち２点を図示した。

１は青白磁の合子蓋である。２は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。

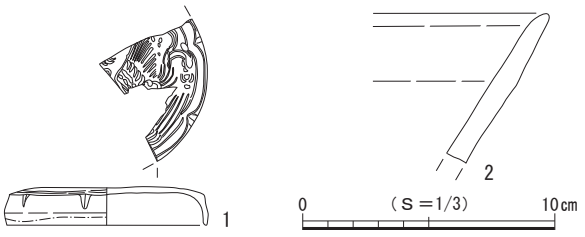


図40　第６面 遺構外出土遺物

第７節　第７面の遺構と遺物

第７面の遺構は堆積土層の17・18層上面で検出され、確認面の標高は19.3～19.5ｍを測る。17層は微量の泥岩粒、粗砂、多量の褐鉄を含みやや締まりのある灰褐色粘質土層、18層は泥岩粒と少量の炭化物および多量の褐鉄を含み締まりのある暗灰色粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑４基、ピット42基である（図41）。遺構の分布は調査区全域に認められるが、北半は非常に疎らで、加えて遺構間の重複は少なく遺構の種類は限定的である。なお、調査区北東隅に第４～６面で確認された落石が検出され、その範囲は南北約1.8ｍ、東西約1.1ｍを測る。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、瓦などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

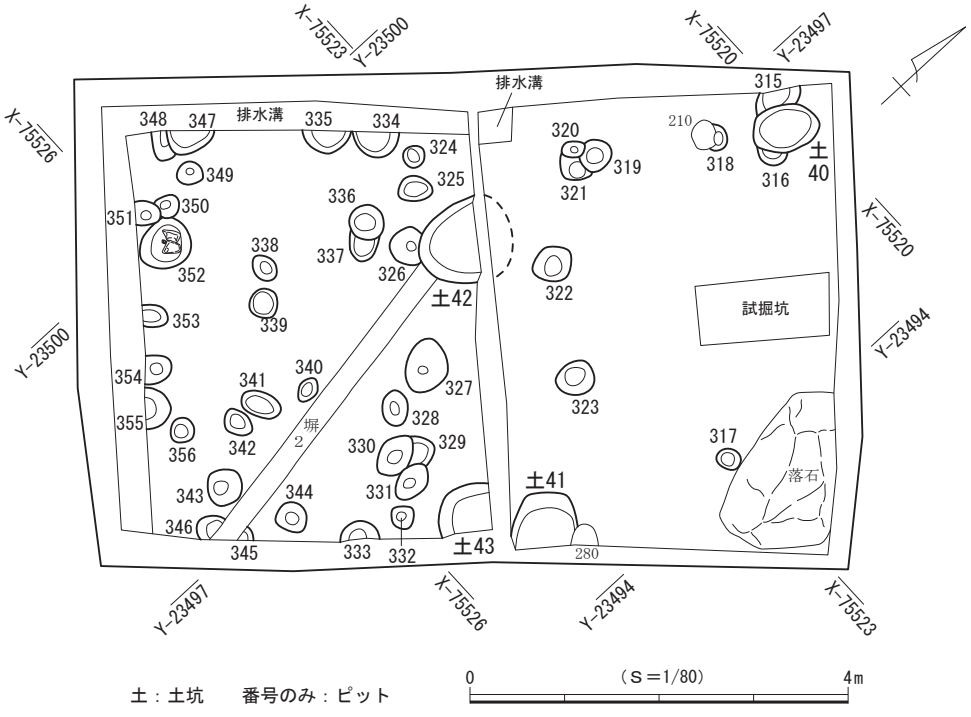


図41　第７面 遺構分布図

（１）土　坑

土坑40（図42）

調査区の北隅に位置する。西側でピット315、南側でピット316と重複して壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸70㎝、短軸50㎝、深さ７㎝で、坑底面の標高は19.70ｍを測る。主軸方位はＮ－36°－Ｅを指す。

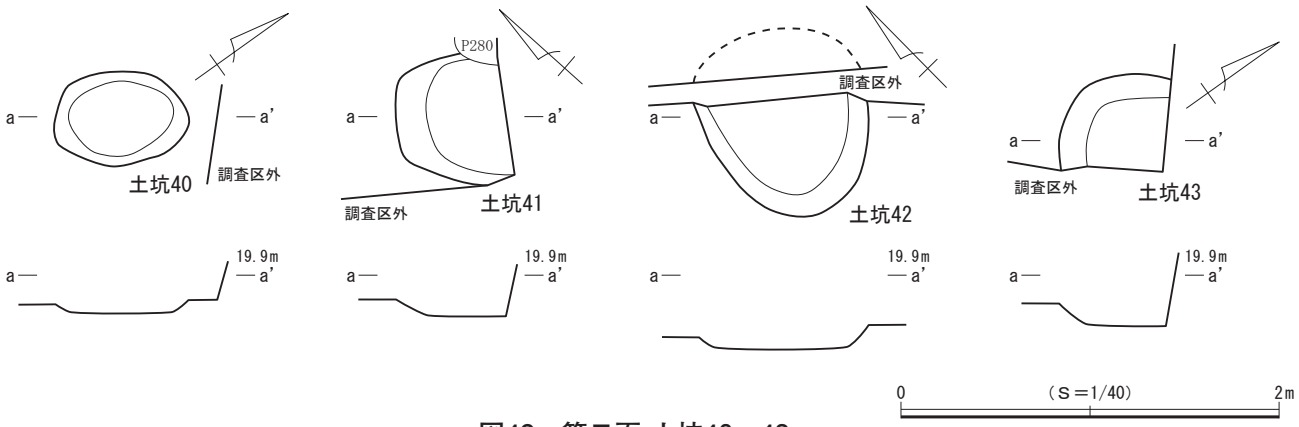


図42　第７面 土坑40～43

遺物はかわらけ２点、陶器１点が出土した。

土坑41（図42）

調査区南東壁際の中央に位置する。東壁の一部が第６面のピット280によって失われ、南東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北西－南東方向の現存長59㎝、北東－南西方向の現存長66㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は19.69ｍを測る。主軸方位はＮ－41°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑42（図42）

調査区中央の北東側に位置する。南側でピット326と重複して壁の一部を壊している。調査区の境で検出されたため、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北西－南東方向92㎝、北東－南西方向の現存長61㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.50ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑43（図42）

調査区南東壁際の中央に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長76㎝、東西現存長59㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.63ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（２）ピット

第７面では、42基を検出した。分布は調査区の北東側に疎らで、南西側にやや密に認められるが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸23～58㎝、深さ４～38㎝を測る。42基のうち１基のピット（ピット352）に礎石と推定される礫２点が据えられており、大きさは長さ約20㎝で、上面の標高は19.38ｍと19.40ｍを測

る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図43に図示した。

遺物は42基中、２基（ピット335・352）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）を参照されたい。

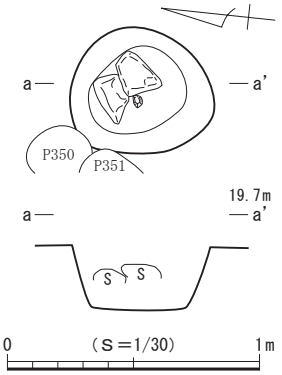


図43　第７面 ピット352

（３）第７面 遺構外出土遺物（図44）

第７面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち１点を図示した。

１は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。

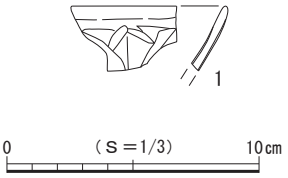
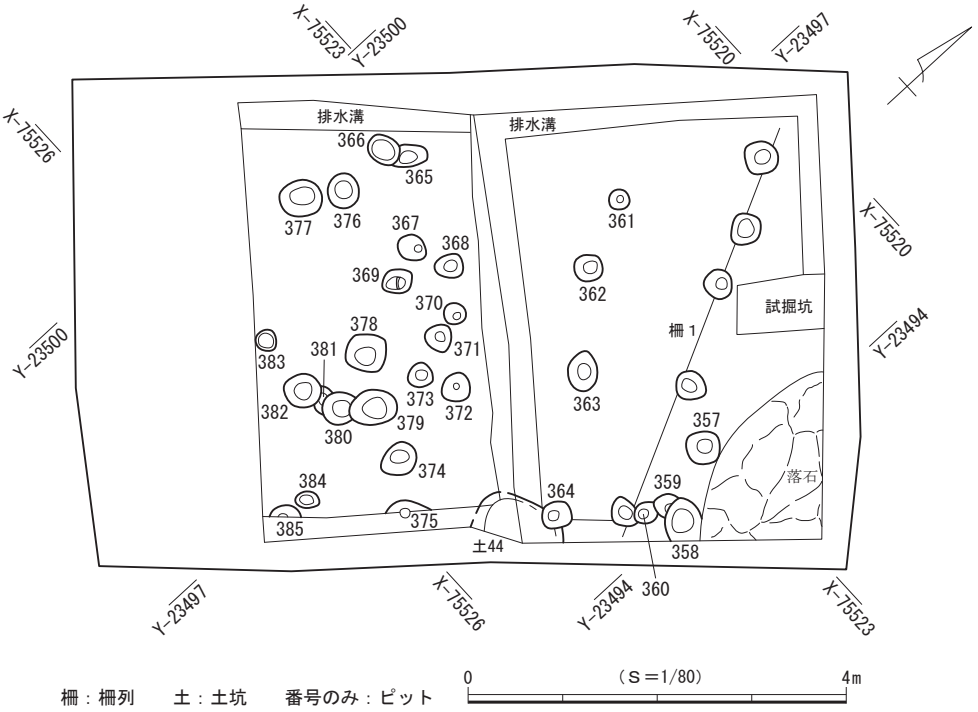


図44　第７面 遺構外出土遺物

第８節　第８面の遺構と遺物

第８面の遺構は堆積土層の19層上面で検出され、確認面の標高は19.2～19.4mを測る。19層は泥岩粒と少量の泥岩ブロック・褐鉄、微量の炭化物を含みやや締まりのある暗灰色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は柵列１条、土坑１基、ピット29基である（図45）。遺構の分布は調査区全域に散漫に認められるが、特に北側は非常に疎らで、加えて遺構間の重複は少なく遺構の種類は限定的である。なお、調査区北東隅に第４～７面で確認された落石が検出され、その範囲は南北約2.2m、東西約1.4mを測る。

遺物は主にかわらけ、陶器、須恵器などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉頃に属すると考えられる。



柵：柵列　　土：土坑　　番号のみ：ピット

図45　第８面 遺構分布図

（1）柵　列

柵列1（図46）

調査区北東側に位置する。最も南側にあるＰ５は北側でピット360と重複して壁の一部が壊されている。調査区内では５基のピットが北西－南東方向にほぼ直線的に並んでおり、柱間は心々で北から順に0.8m、0.7m、1.0m、1.5mを測り、現存長約4.0mである。ピットの平面形は略円形で、規模は長軸31～35㎝、深さ８～29㎝を測る。底面の標高は19.20～19.35mで、主軸方位はＮ－26°－Ｗを指す。

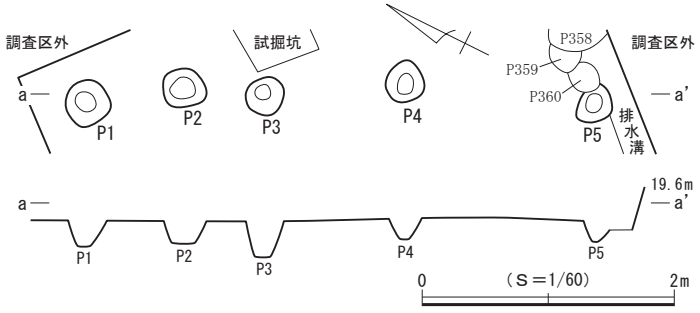


図46　第８面 柵列１

遺物は出土しなかった。

（2）土　坑

土坑44（図45）

調査区南東壁際の中央付近に位置する。調査区の境で検出され、北側でピット364と重複して壁の一部が壊され、南東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形・深さとも判然としない。調査の過程における排水溝掘削のためここでは平面規模の記載のみとなるが、東西現存長97㎝、南北現存長45㎝を測る。

遺物は出土しなかった。

（3）ピット

第８面では、29基を検出した。調査区北東側に遺構の空白部分が認められたが、ほぼ全域にわたって分布する。重複するものは少なく、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸18～55㎝、深さ４～35㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図47）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）に掲げたが、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、ピット376から出土した。

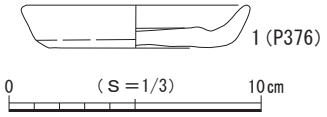


図47　第８面 ピット出土遺物

（4）第８面 遺構外出土遺物（図48）

第８面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち１点を図示した。

１は手づくね成形によるかわらけである。

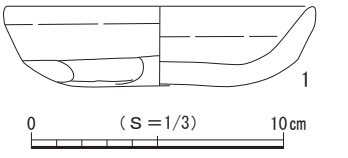
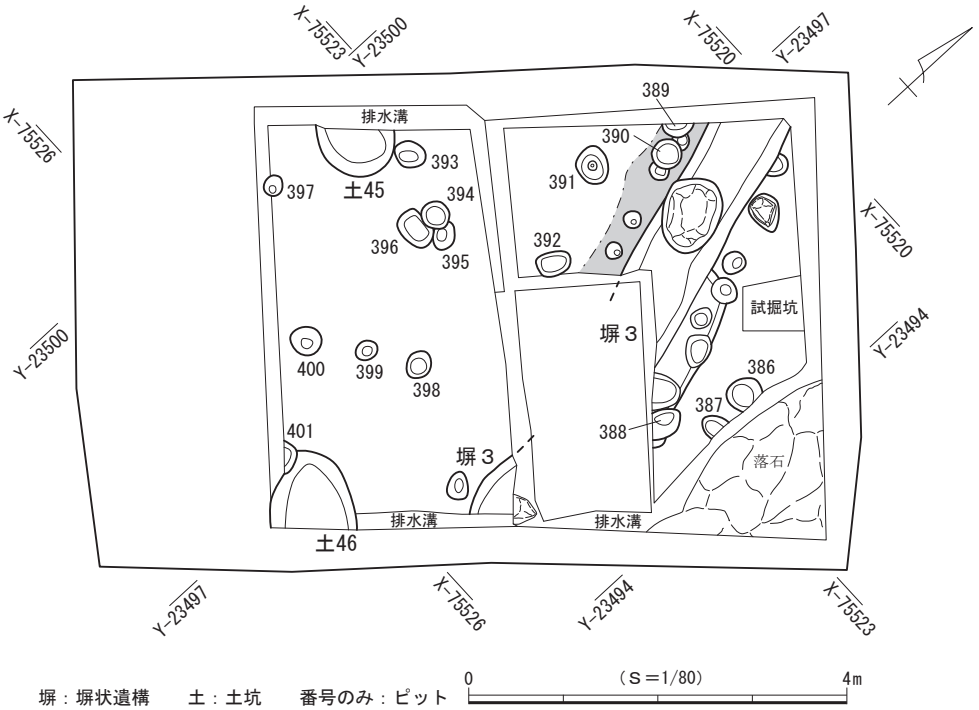


図48　第８面 遺構外出土遺物

第９節　第９面の遺構と遺物

第９面の遺構は堆積土層の21・22層上面で検出され、確認面の標高は19.0～19.2mを測る。21層は少量の褐鉄および粗い山砂を含み締まりのある黄褐色砂質土層、22層は青灰色砂・黄灰色粘土ブロック、



塀：塀状遺構　　土：土坑　　番号のみ：ピット

図49　第９面 遺構分布図

微量の炭化物および少量の褐鉄を含み締まりのある黄灰色砂質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は塀状遺構１条、土坑２基、ピット16基である（図49）。遺構の分布は調査区全域に散漫に認められ、遺構間の重複は少ない。なお、調査区北東隅に第４～８面で確認された落石が検出され、その範囲は南北約2.5m、東西約1.5mを測る。

遺物はかわらけ、陶器が少量出土しているにすぎない。少ない資料からではあるが、これらの年代観から本面は13世紀前葉頃に属すると考えられる。

（１）塀状遺構

塀状遺構３（図50）

調査区の北側から南側にかけて位置する。本址の中央から南側にかけての範囲が未調査区となっており判然としないが、おおむね直線的に延びて南北側の調査区外へと続いている。重複する遺構は、北側からピット389・390・388で、壁や底面の一部が壊されている。本址は溝状の掘り込みと壁面に沿って穿たれたピットで構成されており、ピットは溝を挟んだ東西で対をなすものが多い。西側のピット列の周囲には整地面が帯状に広がっていた。溝状部分の検出規模は現存長約4.8m、幅80㎝、

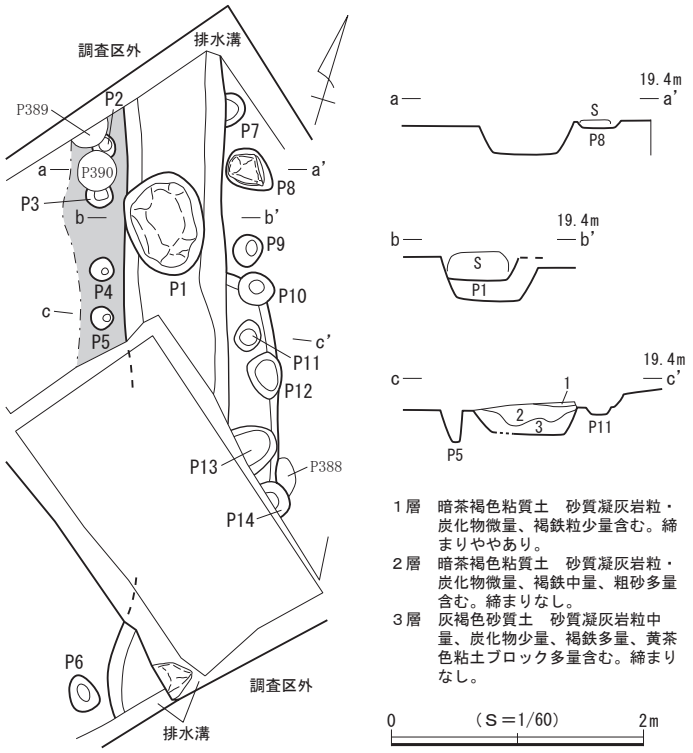


図50　第９面 塀状遺構３

深さ13～40㎝を測る。主軸方位はＮ－18°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は18.90～18.96ｍを測る。付随するピットは平面形が円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸18～41㎝、深さ４～26㎝を測る。ピット間の距離は心々で西壁側が北から順に40㎝、60㎝、40㎝、東壁側が北から順に50㎝、60㎝、40㎝、70㎝、50㎝、40㎝とややばらつきがある。なお、Ｐ８には長さ約30㎝の礎石が据えられていた。

溝の東壁中央付近に幅の狭い張り出し部が認められ、その規模は現存長約1.5ｍ、幅40㎝、深さ12㎝を測る。また、張り出し部が途切れた北側の溝中に、長さ68㎝の大型の礎石をもつピットが掘り込まれていた。ピットの規模は長軸82㎝、短軸60㎝、深さ18㎝を測り、これに収まる形状の礎石が据えられている。張り出し部の存在と合わせて考えるならば、塀に接続して設けられた棟門の可能性が推定される。

遺物は出土しなかった。

（２）土　坑

土坑45（図51）

調査区北西壁際の南側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は北東－南西方向の現存長83㎝、北西－南東方向の現存長50㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は19.05ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑46（図51）

調査区の南隅に位置する。北側でピット401と重複して壁の一部が壊され、南東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長81㎝、短軸91㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は19.10ｍを測る。主軸方位はＮ－49°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

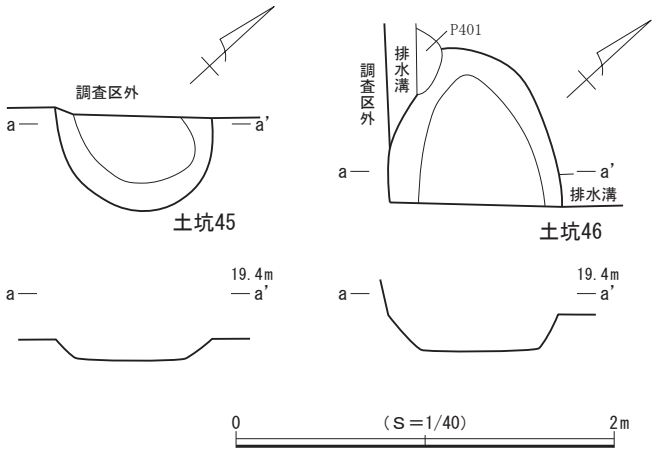


図51　第９面 土坑45・46

（３）ピット

第９面では、16基を検出した。調査区全域に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸22～41㎝、深さ６～30㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は16基中、１基（ピット394）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表11）を参照されたい。

第四章　まとめ

今回報告する浄妙寺四丁目297番12、13地点は、「公方屋敷跡（№268）」の範囲内に所在する。本遺跡の包蔵地範囲は鎌倉市の東部域に位置し、調査地点はＪＲ鎌倉駅の東方約2.2㎞のところにある。地形的には滑川右岸の沖積微高地上に立地し、川からの距離は40ｍほどの至近に位置する。調査地点の東側には細長い丘陵が北から延び、その先端が西流する滑川と最も近い場所に本地点がある。公方屋敷跡の包蔵地範囲は東西方向に長く、今回報告の地点はその東端に位置する。

本調査で検出した遺構確認面は第１～９面までの合計９面で、いずれも中世に属する。検出した遺構は、方形竪穴状遺構１基、基壇状遺構１基、塀状遺構３条、柵列１条、土坑46基、ピット401基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して８箱を数える。

出土遺物から想定される本地点の年代幅は、13世紀前葉から13世紀後葉までと考えられる。また、主要な遺構としては塀状遺構とした区画施設の存在があげられ、帰属面は第１・６・９面の合計３面である。

各面の区画施設の構造について述べると、第１面の塀状遺構１、第６面の塀状遺構２は、溝とその壁に沿って連続して穿たれたピットによって構成されていた。また、第９面の塀状遺構３は、第１・６面と同様の構造をもつが、加えて東側に張り出し部が付帯し、溝中には長さが70㎝近い大形の礎石が据えられたピットが認められる。こうした付属施設のあり方から、塀とそれに接続して設けられた棟門の可能性を想定することもできる。次に主軸方位をみていくと、第１面に属する塀状遺構１は北東－南東方向を指し、現在の地割の方向と合致する。一方、第６・９面の塀状遺構２・３は、主軸方位がわずかに西に振れる南北方向を指し、この向きは滑川に沿って延びる六浦路に直行することが注意される。第２～５面で検出した遺構は土坑とピットを主体とするため13世紀中葉頃の地割の様相は判然としないが、第１面の遺構群が構築された13世紀後葉頃には、第６面形成時期以前の13世紀前葉～中葉頃とは地割が異なっていたことがうかがわれる。

検出された塀状遺構の性格としては、東側に丘陵が迫るという立地を考慮すると、屋敷地の東側を区画する施設と考えることができよう。

その他の遺構としては、第３面から検出された切石列を伴う基壇状遺構があり、出土遺物から想定される時期は13世紀前葉頃と考えられる。本址は調査区の北端で検出されたため、大半が調査区の北側へ続いており、詳細は判然としないが調査区北側に基壇を有する建物が展開していることが推定されよう。

なお、人為的な構造物ではないが、第４面では落石と考えられる巨石が検出されている。最終面の第９面まで同一地点に存在していることから、本地点の開発当初から落石がこの場所にあり、それを除去することなく土地利用が繰り返されたことが分かる。本地点の背後には丘陵から延びる痩せ尾根が間近に迫っており、そこからの落石である可能性が高い。

公方屋敷跡の過去の調査事例は少なく、包蔵地範囲を東西に分断する胡桃川の西側で２地点、東側では本地点を含めて２地点の合計４地点があげられる（図２）。第一章第３節で触れたように、①浄明寺三丁目143番地２地点や③浄明寺四丁目273番地点の調査では、木組構造をもつ側溝を伴う道路や礎石・礎板建物、通路、築地塀跡などといった多種多様な遺構群が検出され、遺物の出土量も非常に多い。これらの地点と比較して、本地点は遺構の種類や数、遺物量もきわめて少なく、出土遺物から推定される遺跡の存続時間幅も短いことから、屋敷地の中心部から外れた裏手にあたる場所と考えるのが妥当であろう。

引用・参考文献（著者五十音順）

伊丹まどか・渡邊美佐子　2019「川越重頼邸（№270）浄明寺五丁目423番１外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』平成30年度発掘調査報告（第１分冊）

熊谷　満・齋木秀雄　2006「公方屋敷跡（№268）浄明寺四丁目273番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22』平成17年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

永田史子・米澤雅美　2019「川越重頼邸跡（№270）浄明寺五丁目318番１の一部地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』平成30年度発掘調査報告（第３分冊）鎌倉市教育委員会

原　廣志・橋場君男　1994「１．公方屋敷跡（№268）浄明寺三丁目143番地２地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10』平成５年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

宮田　眞　1996『公方屋敷跡発掘調査報告書　鎌倉市浄明寺三丁目151番１外』公方屋敷跡発掘調査団

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
方形竪穴状遺構１出土遺物（図８）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	6.0	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.6	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.4	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.7	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(6.0)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	6.3	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.9	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
8	土器	ロクロかわらけ・小	8.2	6.0	1.8	口縁部～外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロかわらけ・中	11.5	8.5	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
塀状遺構１出土遺物（図10）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(6.8)	1.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好　出土遺構：塀状遺構１－Ｐ６	1/3
土坑６出土遺物（図11）							
1	石製品	硯	長 9.26	現幅 7.3	厚 1.9	滑石製石鍋を再加工して硯に転用　石材－滑石	2/3
土坑12出土遺物（図13）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	6.2	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	6.4	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.9	6.2	1.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロかわらけ・小	(7.9)	(5.4)	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/2
5	土器	ロクロかわらけ・小	8.1	5.9	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロかわらけ・小	(8.4)	6.6	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
7	土器	ロクロかわらけ・中	(11.7)	(6.8)	3.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/4
8	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(28.2)	(12.8)	12.1	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰白色　備考：５～６ａ型式	1/4
9	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現 6.8	口唇部－煤付着　内外面－磨き　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰白色、内外面－黒灰色　備考：ⅡＤ類	口縁部小破片
土坑13出土遺物（図14）							
1	土器	ロクロかわらけ・中	11.5	7.9	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・中	12.7	7.8	3.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	略完形
第１面 遺構外出土遺物（図16）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	6.5	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.4	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.6	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.3	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
5	土器	ロクロかわらけ・中	(12.8)	(8.8)	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
6	土器	ロクロかわらけ・大	(13.6)	(8.0)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
7	磁器	青磁坏	－	－	現 2.3	内外面－無文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ－１類	口縁部小破片
8	陶器	常滑甕	－	－	現 4.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部小破片
9	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	－	－	現 4.7	胎土：微砂、白色粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部～体部小破片

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第２面 遺構外出土遺物（図19）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	1/2

2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(9.0)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.6)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	1/4
4	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－嘉祐通寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑16出土遺物（図22）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	5.7	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(8.5)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	2/3
ピット出土遺物（図24）							
1	瓦	平瓦	現長 15.0	現幅 12.9	厚 2.3	凸・凹面－側縁方向に縄目叩き　胎土：砂粒、白色粒　色調：灰色　出土遺構：ピット86	1/8
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.7	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット112	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.6	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット112	完形
第３面 遺構外出土遺物（図25）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.8)	2.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(8.8)	3.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.2	4.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/3
4	陶器	中国 耳壺	(9.2)	－	現 9.2	外面－褐釉、耳１ヵ所残存　胎土：緻密　色調：胎土－にぶい褐色、褐釉－暗褐色	1/8
5	陶器	常滑 甕	－	－	現 1.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・灰褐色　備考：５型式	口縁部 小破片
6	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.2	外面－車輪状叩き目　胎土：白色粒、小石粒、黒色粒　色調：にぶい赤褐色・灰褐色	胴部 小破片
7	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.7	外面－格子状叩き目　胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色	胴部 小破片
8	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－咸平元寶（北宋・998）　書体－楷書	完形
9	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－楷書	完形

表５　第４面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
ピット出土遺物（図28）							
1	陶器	渥美 蓮弁文壺	－	－	現 11.0	外面－蓮弁文　胎土：白色粒　色調：灰色　備考：１ｂ～２ｂ型式　出土遺構：ピット149	胴部 小破片
2	瓦	平瓦	現長 8.0	現幅 14.2	厚 1.4	凸・凹面－側縁方向の縄目叩き　胎土：砂粒、白色粒　色調：灰色　出土遺構：ピット152	1/8
3	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 6.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　出土遺構：ピット158	口縁部 小破片
第４面 遺構外出土遺物（図29）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.9	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.3)	(8.6)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/4
3	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 6.9	輪積成形　高台貼り付け　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：灰色	底部 小破片
4	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.2	銭名－開元通寶（南唐・960）　書体－楷書	7/8
5	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.2	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
6	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.2	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
7	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－嘉祐通寶（北宋・1056）　書体－楷書	完形
8	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－篆書	完形
9	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	完形
10	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－行書	完形

表６　第５面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	特徴	残存率
土坑32出土遺物（図31）							
1	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	（15.4）	現 8.7	胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：灰色	1/3
ピット出土遺物（図33）							
1	磁器	青磁 碗	－	4.4	現 2.0	外面－蓮弁文　畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類　出土遺構：ピット210	底部小破片
2	陶器	渥美 甕	－	－	現 4.9	胎土：白色粒　色調：灰色　備考：Ⅱｂ型式　出土遺構：ピット255	口縁部小破片
第５面 遺構外出土遺物（図34）							
1	磁器	青磁 皿	－	－	現 2.0	内外面－無文　底面－釉掻き取り　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁皿Ⅰ類	口縁部～体部小破片
2	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 7.0	胎土：小石粒　色調：灰色	口縁部～体部小破片

表７　第６面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	特徴	残存率
ピット出土遺物（図39）							
1	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 5.2	胎土：白色粒、黒色粒　色調：灰色　出土遺構：ピット302	口縁部小破片
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.0	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット303	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.8	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：淡黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット314	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	（8.5）	（6.6）	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット325	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・大	（13.3）	（9.1）	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット325	1/3
第６面 遺構外出土遺物（図40）							
1	磁器	青白磁 合子蓋	（8.0）	－	1.5	上面－型押しによる鳳凰文　口唇部－釉掻き取り　色調：胎土－灰白色、青白磁釉－緑白色	1/4
2	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 5.9	胎土：白色粒　色調：灰色	口縁部小破片

表８　第７面 出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	特徴	残存率
第７面 遺構外出土遺物（図44）							
1	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.6	外面－蓮弁文　畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片

表９　第８面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	特徴	残存率
ピット出土遺物（図47）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.9	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット376	完形
第８面 遺構外出土遺物（図48）							
1	土器	手づくね かわらけ・中	（12.2）	6.3	3.2	底面－指頭ナデ消し　内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土　色調：橙色　焼成：良好	完形

表10　遺構計測表

（ ）＝推定値、〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模（cm） 長軸	短軸	深さ
方形竪穴状遺構１	第１面	〈160〉	〈140〉	2～9
塀状遺構１	第１面	〈790〉	50～70	6～23
土坑１	第１面	90	70	10
土坑２	第１面	79	60	4
土坑３	第１面	62	46	8
土坑４	第１面	〈74〉	58	19
土坑５	第１面	62	54	14
土坑６	第１面	〈172〉	〈93〉	26
土坑７	第１面	92	〈80〉	5
土坑８	第１面	108	94	8
土坑９	第１面	69	59	19
土坑10	第１面	69	64	8
土坑11	第１面	202	〈46〉	13
土坑12	第１面	〈136〉	99	13
土坑13	第１面	130	〈124〉	7
ピット１	第１面	〈30〉	25	12
ピット２	第１面	46	〈22〉	10
ピット３	第１面	32	〈7〉	23
ピット４	第１面	〈16〉	〈13〉	12
ピット５	第１面	45	〈14〉	－
ピット６	第１面	〈46〉	41	12
ピット７	第１面	39	〈10〉	10
ピット８	第１面	41	40	15
ピット９	第１面	〈27〉	〈24〉	12
ピット10	第１面	26	23	10
ピット11	第１面	20	〈15〉	12
ピット12	第１面	47	32	22
ピット13	第１面	（31）	25	16
ピット14	第１面	（43）	32	15
ピット15	第１面	（32）	26	16
ピット16	第１面	51	40	15
ピット17	第１面	（40）	28	17
ピット18	第１面	29	26	9
ピット19	第１面	28	27	10
ピット20	第１面	32	27	28
ピット21	第１面	50	44	24
ピット22	第１面	25	24	10
ピット23	第１面	41	36	6
ピット24	第１面	52	39	10
ピット25	第１面	44	32	18
ピット26	第１面	37	〈21〉	21
ピット27	第１面	47	44	7
ピット28	第１面	18	〈12〉	9
ピット29	第１面	33	28	9
ピット30	第１面	32	〈26〉	5
ピット31	第１面	〈36〉	〈30〉	9
ピット32	第１面	〈38〉	〈17〉	－
ピット33	第１面	48	34	5
ピット34	第１面	56	45	14
ピット35	第１面	35	27	12
ピット36	第１面	35	30	8
ピット37	第１面	37	24	7
ピット38	第１面	〈37〉	38	16
ピット39	第１面	〈49〉	48	16
ピット40	第１面	40	〈36〉	31
土坑14	第２面	〈70〉	〈39〉	11
土坑15	第２面	〈102〉	82	20
ピット41	第２面	43	〈21〉	10
ピット42	第２面	48	39	7
ピット43	第２面	40	〈19〉	5
ピット44	第２面	34	〈23〉	5
ピット45	第２面	45	36	6
ピット46	第２面	30	24	15
ピット47	第２面	26	〈15〉	11
ピット48	第２面	36	26	13
ピット49	第２面	45	29	7
ピット50	第２面	〈24〉	20	22
ピット51	第２面	35	32	12
ピット52	第２面	45	〈25〉	10
ピット53	第２面	33	〈17〉	12
ピット54	第２面	47	（50）	14

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット55	第２面	46	〈28〉	9
ピット56	第２面	(42)	27	12
ピット57	第２面	46	35	12
ピット58	第２面	40	(28)	10
ピット59	第２面	20	〈17〉	29
ピット60	第２面	(36)	30	18
ピット61	第２面	(40)	29	12
ピット62	第２面	29	28	34
ピット63	第２面	40	30	20
ピット64	第２面	(30)	25	20
ピット65	第２面	28	27	20
ピット66	第２面	47	30	42
ピット67	第２面	13	13	61
ピット68	第２面	33	32	13
ピット69	第２面	35	33	3
ピット70	第２面	(57)	34	14
ピット71	第２面	41	37	11
ピット72	第２面	35	32	15
ピット73	第２面	30	25	6
ピット74	第２面	36	〈25〉	6
ピット75	第２面	〈36〉	27	46
ピット76	第２面	13	11	35
ピット77	第２面	37	27	3
ピット78	第２面	29	27	8
ピット79	第２面	43	〈31〉	5
ピット80	第２面	(27)	17	7
ピット81	第２面	30	29	13
ピット82	第２面	13	11	11
ピット83	第２面	32	23	15
ピット84	第２面	(23)	21	5
ピット85	第２面	35	32	15
基壇状遺構1	第３面	〈200〉	〈90～150〉	36
土坑16	第３面	〈108〉	〈129〉	11
土坑17	第３面	80	〈57〉	15
土坑18	第３面	〈100〉	〈38〉	26
土坑19	第３面	〈62〉	63	15
土坑20	第３面	61	36	20
土坑21	第３面	72	60	14
土坑22	第３面	79	57	11
土坑23	第３面	〈74〉	〈21〉	20
土坑24	第３面	〈60〉	〈40〉	7
土坑25	第３面	68	50	32
ピット86	第３面	42	39	6
ピット87	第３面	〈30〉	29	13
ピット88	第３面	42	34	7
ピット89	第３面	27	25	5
ピット90	第３面	25	22	13
ピット91	第３面	35	29	10
ピット92	第３面	35	29	7
ピット93	第３面	29	25	10
ピット94	第３面	30	23	7
ピット95	第３面	32	〈11〉	5
ピット96	第３面	23	23	7
ピット97	第３面	26	26	8
ピット98	第３面	29	24	5
ピット99	第３面	29	21	4
ピット100	第３面	20	18	3
ピット101	第３面	20	〈13〉	4
ピット102	第３面	30	25	13
ピット103	第３面	23	22	4
ピット104	第３面	26	20	12
ピット105	第３面	35	〈17〉	7
ピット106	第３面	29	27	7
ピット107	第３面	37	27	15
ピット108	第３面	43	39	14
ピット109	第３面	(57)	49	15
ピット110	第３面	38	33	15
ピット111	第３面	27	27	15
ピット112	第３面	45	39	25
ピット113	第３面	25	21	26
ピット114	第３面	28	26	14
ピット115	第３面	54	44	33
ピット116	第３面	44	〈20〉	9
ピット117	第３面	47	36	16
ピット118	第３面	35	28	10
ピット119	第３面	32	〈27〉	17
ピット120	第３面	35	31	25

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット121	第３面	28	19	20
ピット122	第３面	34	〈８〉	9
ピット123	第３面	25	23	6
ピット124	第３面	(24)	21	14
ピット125	第３面	26	23	2
ピット126	第３面	42	31	13
ピット127	第３面	29	21	10
ピット128	第３面	33	23	7
ピット129	第３面	46	35	11
ピット130	第３面	36	36	10
ピット131	第３面	36	35	10
ピット132	第３面	48	35	18
ピット133	第３面	51	44	15
ピット134	第３面	36	〈31〉	31
ピット135	第３面	24	19	8
ピット136	第３面	51	〈28〉	11
土坑26	第４面	67	48	8
土坑27	第４面	65	47	11
土坑28	第４面	〈80〉	92	28
土坑29	第４面	〈67〉	〈26〉	29
土坑30	第４面	61	52	9
ピット137	第４面	22	〈13〉	7
ピット138	第４面	26	26	8
ピット139	第４面	34	29	7
ピット140	第４面	44	36	24
ピット141	第４面	24	21	6
ピット142	第４面	20	14	3
ピット143	第４面	(27)	25	30
ピット144	第４面	26	24	12
ピット145	第４面	35	〈21〉	13
ピット146	第４面	40	39	51
ピット147	第４面	32	23	17
ピット148	第４面	19	14	7
ピット149	第４面	31	28	15
ピット150	第４面	30	21	18
ピット151	第４面	29	28	12
ピット152	第４面	29	29	6
ピット153	第４面	40	28	6
ピット154	第４面	35	29	6
ピット155	第４面	30	26	8
ピット156	第４面	(25)	24	11
ピット157	第４面	32	(31)	10
ピット158	第４面	44	42	15
ピット159	第４面	〈29〉	27	10
ピット160	第４面	22	21	18
ピット161	第４面	37	24	10
ピット162	第４面	(46)	34	10
ピット163	第４面	22	21	7
ピット164	第４面	26	26	8
ピット165	第４面	21	20	5
ピット166	第４面	24	21	8
ピット167	第４面	26	20	11
ピット168	第４面	33	30	14
ピット169	第４面	27	20	10
ピット170	第４面	22	20	4
ピット171	第４面	40	〈18〉	7
ピット172	第４面	33	28	8
ピット173	第４面	34	27	7
ピット174	第４面	36	27	10
ピット175	第４面	18	〈９〉	10
ピット176	第４面	24	11	10
ピット177	第４面	47	〈15〉	9
ピット178	第４面	50	49	13
ピット179	第４面	40	〈30〉	23
ピット180	第４面	30	〈25〉	7
ピット181	第４面	29	〈24〉	22
ピット182	第４面	(30)	27	17
ピット183	第４面	27	〈17〉	20
ピット184	第４面	26	26	7
ピット185	第４面	47	28	11
ピット186	第４面	16	16	12
ピット187	第４面	24	21	10
ピット188	第４面	27	20	15
ピット189	第４面	(32)	26	9
ピット190	第４面	(46)	33	9
ピット191	第４面	30	(24)	10
ピット192	第４面	〈25〉	25	30
ピット193	第４面	35	24	10

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット194	第４面	31	27	9
ピット195	第４面	19	〈14〉	6
ピット196	第４面	(28)	24	16
ピット197	第４面	37	30	10
ピット198	第４面	34	〈29〉	14
ピット199	第４面	24	22	9
ピット200	第４面	34	24	31
ピット201	第４面	24	23	11
ピット202	第４面	31	27	12
ピット203	第４面	30	29	7
ピット204	第４面	27	〈22〉	12
ピット205	第４面	37	28	18
ピット206	第４面	31	25	7
ピット207	第４面	28	27	6
土坑31	第５面	〈120〉	68	8
土坑32	第５面	76	72	14
土坑33	第５面	75	53	10
土坑34	第５面	74	41	9
土坑35	第５面	62	45	10
土坑36	第５面	63	〈49〉	9
土坑37	第５面	〈70〉	60	13
ピット208	第５面	42	40	21
ピット209	第５面	24	〈20〉	17
ピット210	第５面	41	34	35
ピット211	第５面	31	29	19
ピット212	第５面	29	29	4
ピット213	第５面	25	22	14
ピット214	第５面	32	30	34
ピット215	第５面	32	〈27〉	20
ピット216	第５面	(35)	23	9
ピット217	第５面	26	24	9
ピット218	第５面	30	23	15
ピット219	第５面	36	〈12〉	20
ピット220	第５面	52	48	26
ピット221	第５面	31	29	14
ピット222	第５面	〈33〉	22	26
ピット223	第５面	46	44	27
ピット224	第５面	40	21	11
ピット225	第５面	19	19	9
ピット226	第５面	32	32	8
ピット227	第５面	41	36	25
ピット228	第５面	〈25〉	24	9
ピット229	第５面	33	24	18
ピット230	第５面	33	30	20
ピット231	第５面	22	20	14
ピット232	第５面	24	23	14
ピット233	第５面	29	20	9
ピット234	第５面	36	(28)	14
ピット235	第５面	34	(26)	18
ピット236	第５面	30	28	10
ピット237	第５面	39	(37)	32
ピット238	第５面	30	28	8
ピット239	第５面	25	21	15
ピット240	第５面	20	17	9
ピット241	第５面	33	32	10
ピット242	第５面	34	26	10
ピット243	第５面	〈36〉	25	12
ピット244	第５面	43	38	12
ピット245	第５面	41	35	11
ピット246	第５面	39	〈15〉	8
ピット247	第５面	46	34	12
ピット248	第５面	52	50	13
ピット249	第５面	31	28	16
ピット250	第５面	54	(45)	12
ピット251	第５面	34	〈19〉	9
ピット252	第５面	〈35〉	33	11
ピット253	第５面	55	54	9
ピット254	第５面	31	30	22
ピット255	第５面	34	24	15
ピット256	第５面	33	31	7
ピット257	第５面	18	〈14〉	14
ピット258	第５面	29	25	8
ピット259	第５面	27	〈13〉	11
ピット260	第５面	〈27〉	〈27〉	8
塀状遺構２	第６面	〈600〉	40～70	11～23
土坑38	第６面	86	61	14
土坑39	第６面	62	49	10
ピット261	第６面	27	21	10

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット262	第６面	30	29	9
ピット263	第６面	26	25	9
ピット264	第６面	〈25〉	18	20
ピット265	第６面	26	22	13
ピット266	第６面	54	47	14
ピット267	第６面	32	27	20
ピット268	第６面	28	24	6
ピット269	第６面	25	25	7
ピット270	第６面	23	22	10
ピット271	第６面	30	28	10
ピット272	第６面	21	18	13
ピット273	第６面	55	48	15
ピット274	第６面	19	15	27
ピット275	第６面	43	32	13
ピット276	第６面	(39)	36	11
ピット277	第６面	44	(42)	12
ピット278	第６面	23	20	16
ピット279	第６面	19	18	15
ピット280	第６面	〈16〉	〈11〉	10
ピット281	第６面	38	35	18
ピット282	第６面	17	17	44
ピット283	第６面	〈15〉	〈８〉	7
ピット284	第６面	46	44	7
ピット285	第６面	30	29	6
ピット286	第６面	26	23	9
ピット287	第６面	34	(29)	9
ピット288	第６面	25	25	16
ピット289	第６面	38	33	26
ピット290	第６面	35	35	13
ピット291	第６面	11	(９)	20
ピット292	第６面	41	〈18〉	10
ピット293	第６面	29	〈25〉	11
ピット294	第６面	20	17	18
ピット295	第６面	31	〈22〉	5
ピット296	第６面	21	14	11
ピット297	第６面	〈17〉	〈14〉	6
ピット298	第６面	〈42〉	38	17
ピット299	第６面	31	21	13
ピット300	第６面	59	48	13
ピット301	第６面	(32)	(32)	20
ピット302	第６面	40	〈27〉	16
ピット303	第６面	49	〈43〉	35
ピット304	第６面	25	25	17
ピット305	第６面	48	37	20
ピット306	第６面	33	29	21
ピット307	第６面	36	21	32
ピット308	第６面	36	31	10
ピット309	第６面	46	〈37〉	12
ピット310	第６面	41	35	24
ピット311	第６面	28	〈19〉	20
ピット312	第６面	53	47	16
ピット313	第６面	40	32	15
ピット314	第６面	40	28	10
土坑40	第７面	70	50	7
土坑41	第７面	〈59〉	〈66〉	11
土坑42	第７面	92	〈61〉	10
土坑43	第７面	〈76〉	〈59〉	10
ピット315	第７面	40	〈26〉	12
ピット316	第７面	31	〈14〉	6
ピット317	第７面	26	21	5
ピット318	第７面	27	〈19〉	15
ピット319	第７面	34	33	36
ピット320	第７面	23	17	10
ピット321	第７面	〈24〉	〈23〉	38
ピット322	第７面	37	37	21
ピット323	第７面	40	35	21
ピット324	第７面	23	22	6
ピット325	第７面	36	27	6
ピット326	第７面	40	〈31〉	15
ピット327	第７面	58	45	22
ピット328	第７面	37	27	16
ピット329	第７面	〈36〉	34	12
ピット330	第７面	50	39	20
ピット331	第７面	44	29	18
ピット332	第７面	23	24	16
ピット333	第７面	41	〈19〉	12
ピット334	第７面	49	〈27〉	7
ピット335	第７面	51	24	8

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット336	第７面	37	36	4
ピット337	第７面	30	〈23〉	10
ピット338	第７面	30	23	8
ピット339	第７面	31	31	7
ピット340	第７面	28	19	5
ピット341	第７面	43	26	7
ピット342	第７面	33	25	7
ピット343	第７面	37	36	15
ピット344	第７面	32	30	13
ピット345	第７面	〈17〉	〈９〉	7
ピット346	第７面	〈27〉	〈21〉	5
ピット347	第７面	50	〈25〉	13
ピット348	第７面	〈31〉	〈17〉	11
ピット349	第７面	27	24	11
ピット350	第７面	〈26〉	23	11
ピット351	第７面	〈26〉	26	10
ピット352	第７面	〈54〉	54	25
ピット353	第７面	〈26〉	22	6

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット354	第７面	〈27〉	29	12
ピット355	第７面	44	〈27〉	10
ピット356	第７面	26	24	8
柵列１	第８面	〈400〉	－	８～29
土坑44	第８面	〈97〉	〈45〉	－
ピット357	第８面	35	34	26
ピット358	第８面	〈47〉	38	17
ピット359	第８面	26	〈17〉	12
ピット360	第８面	〈27〉	22	16
ピット361	第８面	21	21	22
ピット362	第８面	30	28	28
ピット363	第８面	42	31	23
ピット364	第８面	31	27	30
ピット365	第８面	〈32〉	23	11
ピット366	第８面	36	28	12
ピット367	第８面	32	26	11
ピット368	第８面	30	24	10
ピット369	第８面	30	25	７～13

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット370	第８面	23	22	7
ピット371	第８面	29	28	9
ピット372	第８面	30	29	12
ピット373	第８面	25	25	10
ピット374	第８面	35	34	15
ピット375	第８面	47	〈18〉	22
ピット376	第８面	36	32	26
ピット377	第８面	45	38	26
ピット378	第８面	42	39	16
ピット379	第８面	51	36	13
ピット380	第８面	〈38〉	34	10
ピット381	第８面	29	〈７〉	12
ピット382	第８面	39	35	10
ピット383	第８面	23	22	7
ピット384	第８面	25	18	8
ピット385	第８面	33	〈12〉	10
堀状遺構３	第９面	〈480〉	80	13～40
土坑45	第９面	〈83〉	〈50〉	11

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
土坑46	第９面	〈81〉	91	19
ピット386	第９面	37	〈30〉	7
ピット387	第９面	24	〈21〉	6
ピット388	第９面	〈38〉	29	9
ピット389	第９面	33	〈14〉	8
ピット390	第９面	31	31	6
ピット391	第９面	39	34	26
ピット392	第９面	36	25	7
ピット393	第９面	32	28	7
ピット394	第９面	30	28	6
ピット395	第９面	31	23	7
ピット396	第９面	41	29	10
ピット397	第９面	22	20	8
ピット398	第９面	30	25	7
ピット399	第９面	29	20	10
ピット400	第９面	33	30	30
ピット401	第９面	35	〈13〉	8

※柵列の長軸は心々間の計測値である。

表11　出土遺物一覧表

表土

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	17
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	19

第１面

方形竪穴状遺構１

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	62
【陶器】		
常滑	甕	7
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	70

堀状遺構１

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

堀状遺構１－Ｐ３

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

堀状遺構１－Ｐ４

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【白磁】		
	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	7

堀状遺構１－Ｐ６

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	6

堀状遺構１－Ｐ８

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

堀状遺構１－Ｐ９

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

堀状遺構１－Ｐ10

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

堀状遺構１－Ｐ11

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【金属製品】		
	釘	1
	合計	8

堀状遺構１－Ｐ12

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
	合計	13

土坑１

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	25
【磁器】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
常滑	甕	3
	合計	30

土坑３

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
	合計	13

土坑６

産地	器種	破片数
【石製品】		
	硯	1
	合計	1

土坑７

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	20

土坑８

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【金属製品】		
	釘	1
	合計	9

土坑９

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	23
	合計	23

土坑10

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	合計	14

土坑11

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

土坑12

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	126
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ⅡＤ類	1
	火鉢小破片	1
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	131

土坑13

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	3
	合計	11

ピット２

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	21
	合計	21

ピット５

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット６

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット８

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット10

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	22
	合計	22

ピット16

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット18

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

ピット23

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

ピット25

産地	器種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	碗	1
	合計	1

ピット26

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【金属製品】		
	釘	1
	合計	7

ピット28		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット30		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	13

ピット31		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	23
	合計	23

ピット33		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット34		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	7

ピット37		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット38		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	8

ピット39		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

第１面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	210
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	碗Ⅲ類	1
	碗小破片	3
	坏Ⅲ－１類	1

【陶器】		
常滑	甕	32
	片口鉢Ⅰ類	4
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅰ類	1
【瓦】		
	丸瓦	2
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	5
	器種不明	1
	合計	264

第２面

土坑15		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	25
	合計	25

ピット42		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット46		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット54		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット55		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット56		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット57		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット58		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット61		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット63		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット68		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット71		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット73		
産　地	器　種	破片数
【瓦】		
	丸瓦	1
	合計	1

ピット74		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット75		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット80		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット83		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット85		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

第２面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ　ロクロ成形	138
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
【瓦】		
	丸瓦	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	3
	合計	147

第３面

土坑16		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	43
【瓦】		
	丸瓦	1
	合計	44

土坑17		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【瓦】		
	丸瓦	1
	合計	6

土坑19		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
	渥美	1
	合計	8

土坑20		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

土坑23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
	合計	13

土坑24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

土坑25		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	23
	合計	23

ピット86		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	5

ピット91		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット94		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット95		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

ピット102		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット104		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット106		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット108		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		9

ピット109		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
渥美	甕	1
合計		6

ピット110		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		2

ピット111		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット112		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	28
合計		28

ピット113		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット114		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
合計		8

ピット115（ピット36）		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
合計		3

ピット116		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット117		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット120		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット121		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット123		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット126		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		5

ピット127		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット129		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
渥美	甕	1
合計		8

ピット133		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
合計		3

ピット134		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット135		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット136		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
渥美	甕	1
合計		9

第３面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	90
【陶器】		
中国	耳壺	1
渥美	甕	3
常滑	甕	20
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	6
	釘	4
合計		129

第４面

土坑29		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		5

ピット116		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット118		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
渥美	甕	1
合計		1

ピット135		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
渥美	甕	1
合計		2

ピット137		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット146		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット149		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
渥美	蓮弁文壺	1
合計		1

ピット150		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット152		
産　地	器　種	破片数
【瓦】		
	平瓦	1
合計		1

ピット155		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット158		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		4

ピット159		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット160		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット162		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
合計		1

ピット166		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット167		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		2

ピット168		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
渥美	甕	3
合計		4

ピット174		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット185		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

ピット195		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット197		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット201		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
渥美	甕	1
合計		1

ピット205		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット206		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

第４面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	95
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
【陶器】		
渥美	甕	2
常滑	甕	6
	片口鉢Ⅰ類	4
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	7
	合計	117

第５面

土坑31

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	8

土坑32

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	1

土坑33

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑34

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑35

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	3

土坑37

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	2

ピット210

産　地	器　種	破片数
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	合計	1

ピット216

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット217

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット223

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット225

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット227

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	3

ピット229

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
渥美	甕	1
	合計	1

ピット230

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
渥美	甕	5
	合計	6

ピット235

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット236

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	2

ピット237

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット241

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット243

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
渥美	甕	3
	合計	4

ピット251

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット250

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット252

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット253

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【須恵器】		
	甕	1
	合計	2

ピット254

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット255

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
渥美	甕	1
	合計	1

第５面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	59
【青磁】		
同安窯系	皿	1
龍泉窯系	皿Ⅰ類	2
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	69

第６面

塀状遺構２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	1
	合計	5

塀状遺構２－Ｐ２

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
渥美	甕	1
	合計	1

塀状遺構２－Ｐ５

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

塀状遺構２－Ｐ８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット266

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット277

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
渥美	甕	2
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	4

ピット289

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット293

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット297

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	8

ピット299

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	合計	1

ピット302

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	1

ピット303

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット306

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット308

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	2

ピット312

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット314

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット325

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

第６面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
渥美	甕	2
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	4

	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	37
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1
	碗小破片	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
	合子蓋	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	2
渥美	甕	4
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【須恵器】		
	甕	1
	合計	53

第７面

土坑40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	3

ピット335		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
渥美	甕	1
	合計	1

ピット352		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

第７面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	3
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	15

第８面

ピット366		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット376		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

第８面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　手づくね成形	1
【陶器】		
渥美	甕	3
【須恵器】		
	甕	1
	合計	5

第９面

ピット394		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

第９面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
渥美	甕	1
【須恵器】		
	甕	3
	合計	8

1．調査区遠景（南西から）

2．調査区近景（北東から）

図版 2

1．調査区北側西壁土層断面（東から）

2．調査区南側西壁土層断面（東から）

1．調査区北側第１面全景（西から）

2．調査区南側第１面全景（西から）

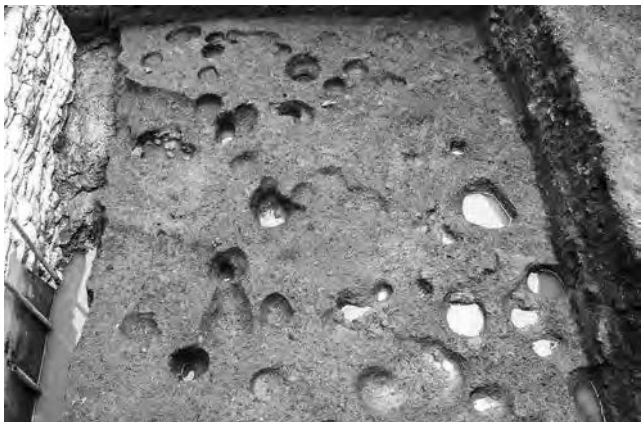
3．調査区北側第２面全景（東から）

4．調査区南側第２面全景（東から）

5．調査区北側第３面全景（東から）

6．調査区南側第３面全景（東から）

7．調査区北側第４面全景（東から）



8．調査区南側第４面全景（西から）

図版４

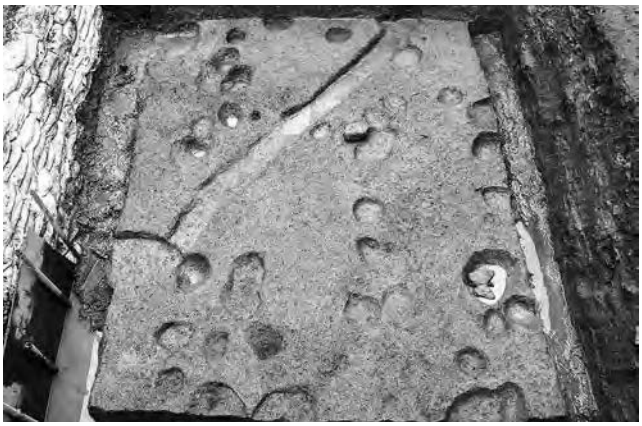
１．調査区北側第５面全景（東から）

２．調査区南側第５面全景（西から）

３．調査区北側第６面全景（西から）

４．調査区南側第６面全景（東から）

５．調査区北側第７面全景（西から）



６．調査区南側第７面全景（西から）

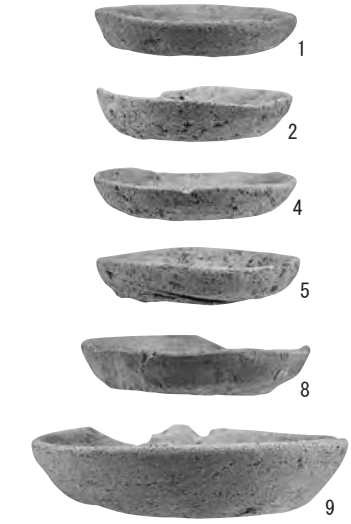
７．調査区北側第８面全景（西から）

８．調査区南側第８面全景（東から）

1．調査区北側第 9 面全景（西から）

2．調査区南側第 9 面全景（西から）

図版 6



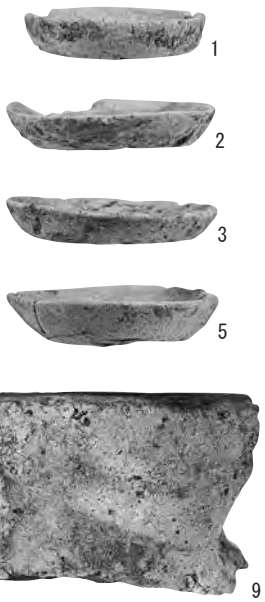
1．第 1 面 方形竪穴状遺構 1 出土遺物

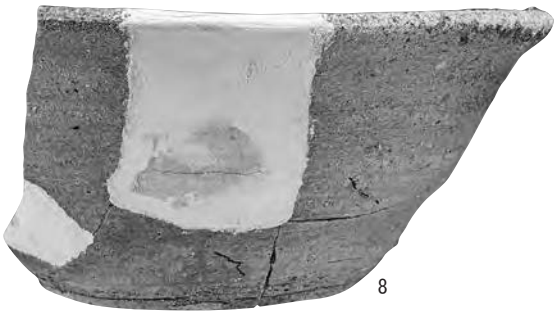
5．第 1 面 土坑13出土遺物

7．第 2 面 遺構外出土遺物

8．第 3 面 土坑16出土遺物

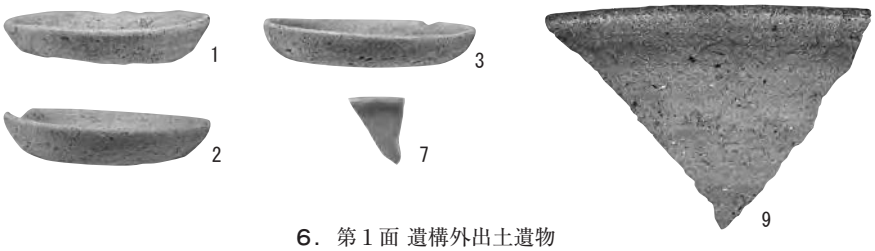
2．第 1 面 塀状遺構 1 出土遺物



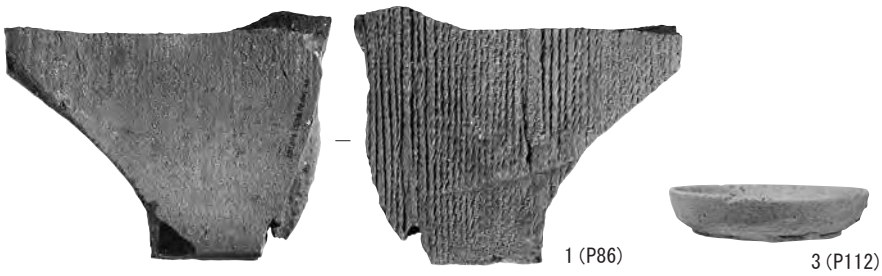


4．第 1 面 土坑12出土遺物

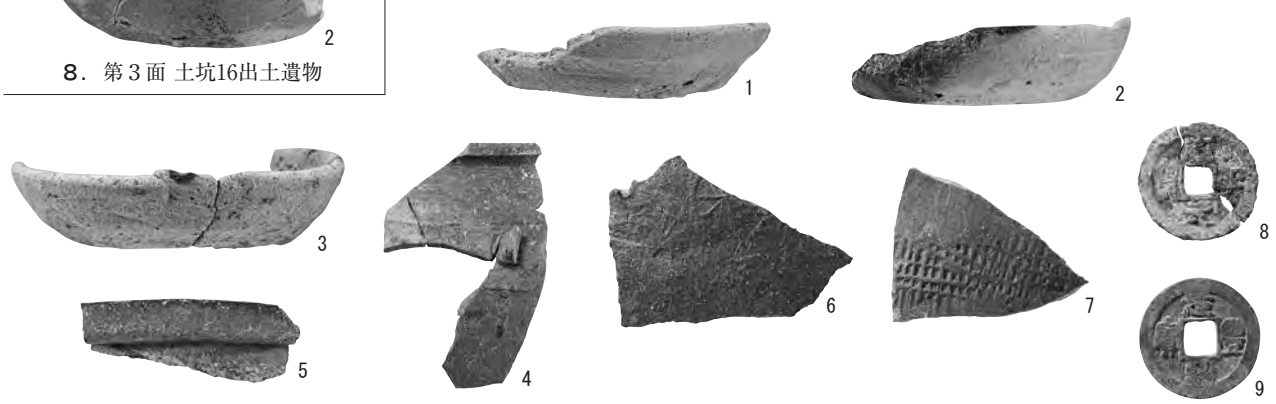
3．第 1 面 土坑 6 出土遺物



6．第 1 面 遺構外出土遺物



9．第 3 面 ピット出土遺物



10．第 3 面 遺構外出土遺物

1 (P149)

2 (P152)

１．第４面 ピット出土遺物

1

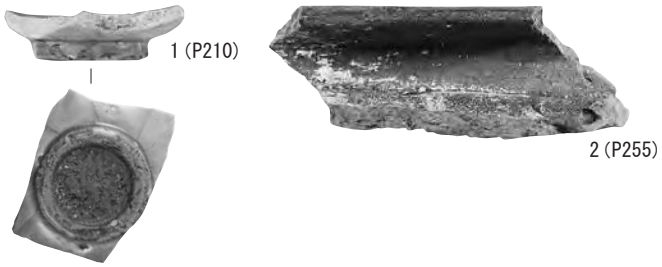
3

4 5 6 7 8 9 10

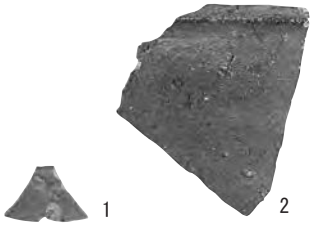
２．第４面 遺構外出土遺物

1

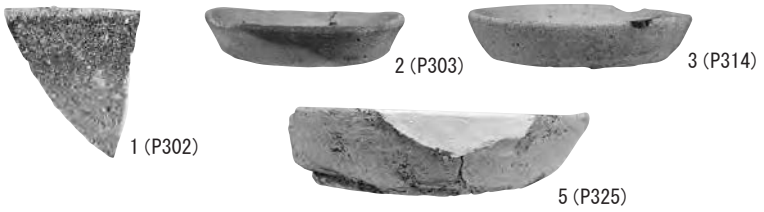
３．第５面 土坑32出土遺物


1 (P210) 2 (P255)

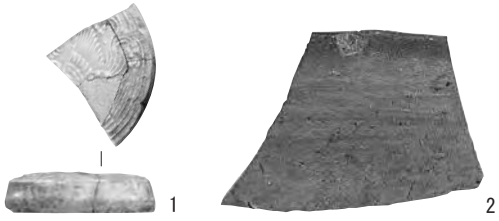
４．第５面 ピット出土遺物


1 2

５．第５面 遺構外出土遺物


1 (P302) 2 (P303) 3 (P314) 5 (P325)

６．第６面 ピット出土遺物


1 2

７．第６面 遺構外出土遺物

1

８．第７面 遺構外出土遺物

1 (P376)

９．第８面 ピット出土遺物

1

10．第８面 遺構外出土遺物

報国寺遺跡（№306）

浄明寺二丁目474番８、９地点

例　言

1．本報は「報国寺遺跡」（神奈川県遺跡台帳№306）内、鎌倉市浄明寺二丁目474番8、9地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成23年６月６日～平成23年８月26日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は72㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　山口正紀
調　査　員　　栂岡ケイト・岡田慶子
作　業　員　　鈴木啓之・安藤宗幸・鯉沼　稔・小口照男・宝珠山秀雄・中須洋二・田口康雄
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．第四章の花粉分析および寄生虫卵分析は、パレオ・ラボに委託した。

6．本報に掲載した写真は、遺構を山口正紀、遺物を赤間和重が撮影した。

7．測量基準杭の設置にあたっては、世界測地系（座標系ＡＲＥＡ９）を用い、図４に座標値を示した。

8．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

9．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ＨＫＴ1102」とした。

10．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

11．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：□ 整地・地業範囲
■ 炭化物分布範囲
遺物：■ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分

12．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』

13．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 372
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 372
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 372
第３節　周辺の考古学的調査 …… 373

第二章　堆積土層 …… 377

第三章　発見された遺構と遺物 …… 378
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 378
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 384
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 389
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 393
第５節　第５面の遺構と遺物 …… 397
第６節　第６面の遺構と遺物 …… 400
第７節　第７面の遺構と遺物 …… 408
第８節　第８面の遺構と遺物 …… 414
第９節　第９面の遺構と遺物 …… 418

第四章　自然科学分析 …… 421
報国寺遺跡の花粉分析、寄生虫卵分析 …… 421

第五章　まとめ …… 426

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 374
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 375
図３　調査区位置図 …… 376
図４　調査区配置図 …… 376
図５　調査区西壁 土層断面図 …… 377
図６　第１面 遺構分布図 …… 379
図７　第１面 溝状遺構１～３ …… 380
図８　第１面 溝状遺構３出土遺物 …… 380
図９　第１面 土坑４出土遺物 …… 381
図10　第１面 土坑５出土遺物 …… 381
図11　第１面 土坑１～11 …… 382
図12　第１面 ピット出土遺物 …… 383
図13　第１面 遺構外出土遺物 …… 384
図14　第２面 遺構分布図 …… 384
図15　第２面 土坑13出土遺物 …… 385
図16　第２面 土坑14出土遺物 …… 385
図17　第２面 土坑12～21 …… 386
図18　第２面 土坑19出土遺物 …… 387
図19　第２面 ピット75・82 …… 387
図20　第２面 ピット出土遺物 …… 388
図21　第２面 遺構外出土遺物 …… 388
図22　第３面 遺構分布図 …… 389

図23　第３面 溝状遺構４出土遺物 …… 390
図24　第３面 溝状遺構４・５ …… 390
図25　第３面 土坑22～24・26～28 …… 391
図26　第３面 ピット130・136 …… 392
図27　第３面 ピット出土遺物 …… 392
図28　第３面 遺構外出土遺物（１）…… 392
図29　第３面 遺構外出土遺物（２）…… 393
図30　第４面 遺構分布図 …… 394
図31　第４面 土坑33出土遺物 …… 395
図32　第４面 土坑29～36 …… 396
図33　第４面 ピット177・179・182 …… 396
図34　第４面 ピット出土遺物 …… 397
図35　第４面 遺構外出土遺物 …… 397
図36　第５面 遺構分布図 …… 398
図37　第５面 土坑37～39 …… 399
図38　第５面 土坑39出土遺物 …… 399
図39　第５面 ピット212・213 …… 399
図40　第５面 ピット出土遺物 …… 399
図41　第５面 遺構外出土遺物 …… 400
図42　第６面 遺構分布図 …… 401
図43　第６面 礎板建物１ …… 402
図44　第６面 礎板建物１出土遺物 …… 402
図45　第６面 礎板建物２ …… 403
図46　第６面 礎板建物２出土遺物 …… 404
図47　第６面 石列１ …… 404
図48　第６面 枡状遺構１ …… 404
図49　第６面 枡状遺構１出土遺物 …… 404
図50　第６面 木組遺構１ …… 405
図51　第６面 木組遺構１出土遺物 …… 405
図52　第６面 土坑40～44 …… 406
図53　第６面 ピット215・244・249・250 … 407
図54　第６面 ピット出土遺物 …… 407
図55　第６面 遺構外出土遺物 …… 407
図56　第７面 遺構分布図 …… 408
図57　第７面 礎板建物３ …… 409
図58　第７面 礎板建物４ …… 410
図59　第７面 掘立柱建物１ …… 411
図60　第７面 溝状遺構７ …… 411
図61　第７面 溝状遺構７出土遺物 …… 411
図62　第７面 土坑45～47 …… 412
図63　第７面 土坑46出土遺物 …… 412
図64　第７面 土坑47出土遺物 …… 412
図65　第７面 ピット272・276・282・286・289 …… 413
図66　第７面 ピット出土遺物 …… 413
図67　第７面 構成土出土遺物 …… 414
図68　第８面 遺構分布図 …… 414
図69　第８面 溝状遺構９出土遺物 …… 415
図70　第８面 溝状遺構８・９ …… 415
図71　第８面 土坑48出土遺物 …… 416
図72　第８面 土坑48～52 …… 416
図73　第８面 土坑51出土遺物 …… 417
図74　第８面 遺構外出土遺物 …… 417
図75　第９面 遺構分布図 …… 418
図76　第９面 礎板建物５ …… 419
図77　第９面 礎板建物５出土遺物 …… 419
図78　第９面 土坑53・54 …… 420
図79　第９面 ピット337 …… 420
図80　第９面 遺構外出土遺物 …… 420

表　目　次

表１　報国寺遺跡 調査地点一覧 …… 373
表２　第１面 出土遺物観察表 …… 428
表３　第２面 出土遺物観察表 …… 429
表４　第３面 出土遺物観察表 …… 430
表５　第４面 出土遺物観察表 …… 430
表６　第５面 出土遺物観察表 …… 431
表７　第６面 出土遺物観察表 …… 432
表８　第７面 出土遺物観察表 …… 433
表９　第８面 出土遺物観察表 …… 433
表10　第９面 出土遺物観察表 …… 434
表11　遺構計測表 …… 434
表12　出土遺物一覧表 …… 435

図　版　目　次

図版１　１．調査区近景（南から）…… 443
　　２．調査区西壁土層断面（東から）… 443
図版２　１．調査区東側第１面全景（西から）・444
　　２．調査区西側第１面全景（東から）・444
　　３．調査区東側第２面全景（西から）・444
　　４．調査区西側第２面全景（東から）・444
　　５．調査区東側第３面全景（西から）・444
　　６．調査区西側第３面全景（東から）・444
　　７．調査区東側第４面全景（東から）・444
　　８．調査区西側第４面全景（東から）・444
図版３　１．調査区東側第５面全景（西から）・445
　　２．調査区西側第５面全景（東から）・445
　　３．調査区東側第７面全景（西から）・445
　　４．調査区西側第７面全景（東から）・445
　　５．調査区東側第８面全景（西から）・445
　　６．調査区西側第８面全景（東から）・445
　　７．調査区東側第９面全景（西から）・445
　　８．調査区西側第９面全景（東から）・445
図版４　１．調査区東側第６面全景（西から）・446
　　２．調査区西側第６面全景（東から）・446
図版５　１．第６面 枡状遺構１（西から）…… 447
　　２．第６面 木組遺構１（北から）…… 447
　　３．第７面 礎板建物３－Ｐ２礎板
　　および柱出土状態（南から）…… 447
　　４．第７面 ピット272面取り柱転用礎板
　　出土状態（南西から）…… 447
図版６　１．第１面 溝状遺構３出土遺物 …… 448
　　２．第１面 土坑４出土遺物 …… 448
　　３．第１面 土坑５出土遺物 …… 448
　　４．第１面 ピット出土遺物 …… 448
　　５．第１面 遺構外出土遺物 …… 448
　　６．第２面 土坑13出土遺物 …… 448
　　７．第２面 土坑14出土遺物 …… 448
　　８．第２面 土坑19出土遺物 …… 448
　　９．第２面 ピット出土遺物 …… 448
図版７　１．第２面 遺構外出土遺物 …… 449
　　２．第３面 溝状遺構４出土遺物 …… 449
　　３．第３面 ピット出土遺物 …… 449
　　４．第３面 遺構外出土遺物（１）…… 449
図版８　１．第３面 遺構外出土遺物（２）…… 450
　　２．第４面 土坑33出土遺物 …… 450
　　３．第４面 ピット出土遺物 …… 450
　　４．第４面 遺構外出土遺物 …… 450
図版９　１．第５面 土坑39出土遺物 …… 451
　　２．第５面 ピット出土遺物 …… 451
　　３．第５面 遺構外出土遺物 …… 451
　　４．第６面 礎板建物１出土遺物 …… 451
　　５．第６面 礎板建物２出土遺物 …… 451
　　６．第６面 枡状遺構１出土遺物 …… 451
　　７．第６面 木組遺構１出土遺物 …… 451
図版10　１．第６面 ピット出土遺物 …… 452
　　２．第６面 遺構外出土遺物 …… 452
　　３．第７面 溝状遺構７出土遺物 …… 452
　　４．第７面 土坑46出土遺物 …… 452
　　５．第７面 土坑47出土遺物 …… 452
　　６．第７面ピット出土遺物…… 452
　　７．第７面 構成土出土遺物 …… 452
図版11　１．第８面 溝状遺構９出土遺物 …… 453
　　２．第８面 土坑48出土遺物 …… 453
　　３．第８面 土坑51出土遺物 …… 453
　　４．第８面 遺構外出土遺物 …… 453
　　５．第９面 礎板建物５出土遺物 …… 453
　　６．第９面 遺構外出土遺物 …… 453

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市浄明寺二丁目474番８、９で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である報国寺遺跡（神奈川県遺跡台帳№306）の範囲内にあたり、当該地周辺の調査状況から、地下に中世の遺構が存在することは確実であった。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査などの措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される範囲の72㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、山口正紀が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成23年６月６日～平成23年８月26日までの３ヵ月ほどである。現地表の標高は約21.3ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、東側をⅠ区として平成23年６月６日～平成23年７月14日、西側をⅡ区として平成23年７月15日～平成23年８月26日まで調査を実施した。調査はまず重機により約40㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、Ⅰ・Ⅱ区とも中世に属する第１～９面の合計９面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして８月26日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては世界測地系（座標系ＡＲＥＡ９）に準じた、鎌倉市四級基準点（Ｘ＝－75509.584、Ｙ＝－23971.848）、（Ｘ＝－75535.996、Ｙ＝－23971.561）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市浄明寺二丁目474番８、９に所在し、「報国寺遺跡（№306）」の範囲内に所在する。報国寺遺跡は鎌倉市の東部域に位置し、南北に延びる宅間ヶ谷の谷部と谷を囲む丘陵斜面部が包蔵地範囲とされる。調査地点はＪＲ鎌倉駅から東方に約1.8㎞のところにあり、竹林の庭園で有名な報国寺の東側に近接する。地形的には、滑川に架かる華の橋付近から南側に入り込む宅間ヶ谷の開口部より130ｍ程奥に立地する。この谷戸の中央には小河川である宅間川が北流し、谷の開口部の先で西に向かって流れる滑川と合流する。谷戸の東側には広い支谷はないが、西側には深い小支谷が連なっており、両側の急傾斜地の崖には多くのやぐらが点在している。

隣接する包蔵地としては、宅間ヶ谷の西側傾斜地に宅間谷西やぐら群（№91）と宅間谷西第２やぐら群（№450）、東側斜面地には宅間谷東やぐら群（№159）があり、宅間ヶ谷の開口部から西側には田楽辻子周辺遺跡（№33）、西流する滑川を挟んだ北側には浄明寺旧境内遺跡（№408）、その下流側には杉本寺周辺遺跡（№158）の包蔵地範囲が広がっている。

遺跡名ともなっている報国寺は宅間ヶ谷に入ってすぐ右手に位置し、正式には巧臣山報国建忠禅寺と号し臨済宗建長寺派に属する。寺伝によると開基は建武元年（1334年）に足利家時によるとされるが、家時は文保元年（1317年）に没したという記録があり、さらに『報国寺記』には上杉重兼が開創したと記されていることから、『鎌倉市史』では開基は重兼であると推定している。報国寺は14世紀代には五

山に次ぐ諸山に列せられる寺勢を誇り、寺域は現在よりも遙かに広く宅間ヶ谷全体に及んでいた。寛政三年（1791年）に作成された絵図は、当時の寺容を知る上で貴重な史料である（三浦編 1968）。

滑川を渡った北側には鎌倉五山の五位に列せられる浄明寺があり、その西側には鎌倉最古の霊場と言われる天台宗大蔵山観音院杉本寺も存在しており、格式のある寺院が多く存在する地域といえる。

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図２）。

本地点は包蔵地範囲の北東部にあたり、宅間川の右岸に位置している。宅間谷全域に広がる報国寺遺跡の調査例は少ないが、斜面部の崖では宅間谷東やぐら群（鈴木・西谷 2007）、宅間谷西やぐら群（継 1991、田代・武 1994）、宅間谷西第２やぐら群（宍戸・池田 2001、鈴木・宮坂 2002、小山・石川・冨永 2012）の調査が行われている。このうち、谷の開口部付近の東側斜面部の崖に約150ｍの範囲にわたって広がる宅間谷東やぐら群の調査では、合計11基のやぐらが調査された。また、崖裾部でも掘立柱建物や溝、井戸、かわらけ溜り、ピットなどの遺構群が検出され、屋敷もしくは寺の一部を構成する遺構群と捉えられている。遺構群の年代は建物や溝、井戸が13世紀末葉～14世紀後半代、土坑などは14世紀後葉～15世紀代と推定され、屋敷もしくは寺院の一部から寺地の縁辺部へという土地利用の変化が想定されている。

今回報告地点の南側には、①浄明寺二丁目474番12地点（小野・原 2007）と②浄明寺二丁目474番11外地点（山口・原 2007）とが隣接しており、両地点からは５時期にわたる中世の生活面と遺構群が検出されている。出土遺物の年代観からは、第３面以下が報国寺開創以前の宅間氏の屋敷との関連が想定され、第１面と第２面が報国寺と関連する時期の遺構群と推定されている。①地点の調査では、第４面において版築と砂質凝灰岩を用いた石列による通路状の造成と建物が検出され、第３面から第１面では溝が確認されている。②地点の調査では、第５面から13世紀中葉と推定される板壁を伴う掘立柱建物の一部が確認され、第４面からは13世紀後半と考えられる杭で補強した石積みを伴う掘立柱建物が検出された。また、第３面から第１面にかけて主な遺構はいずれも東西方向に延びる溝であり、土地利用のあり方が踏襲されていた様相をうかがうことができる。なお、第３面で確認された溝は、①地点における第３面の溝と同一遺構である可能性が指摘されている。

報国寺境内では報国寺坐禅堂の建設に伴う事前調査が③浄明寺字宅間533番地点で行われ、鎌倉末から昭和初期にわたる石垣遺構が５条確認された（原・福田 1985）。

表１　報国寺遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	報国寺遺跡（№306）	浄明寺二丁目474－８、９地点	
①	報国寺遺跡（№306）	浄明寺二丁目474番12地点	小野・原 2007
②	報国寺遺跡（№306）	浄明寺二丁目474番11外地点	山口・原 2007
③	報国寺境内	浄明寺字宅間533番地点	原・福田 1985

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

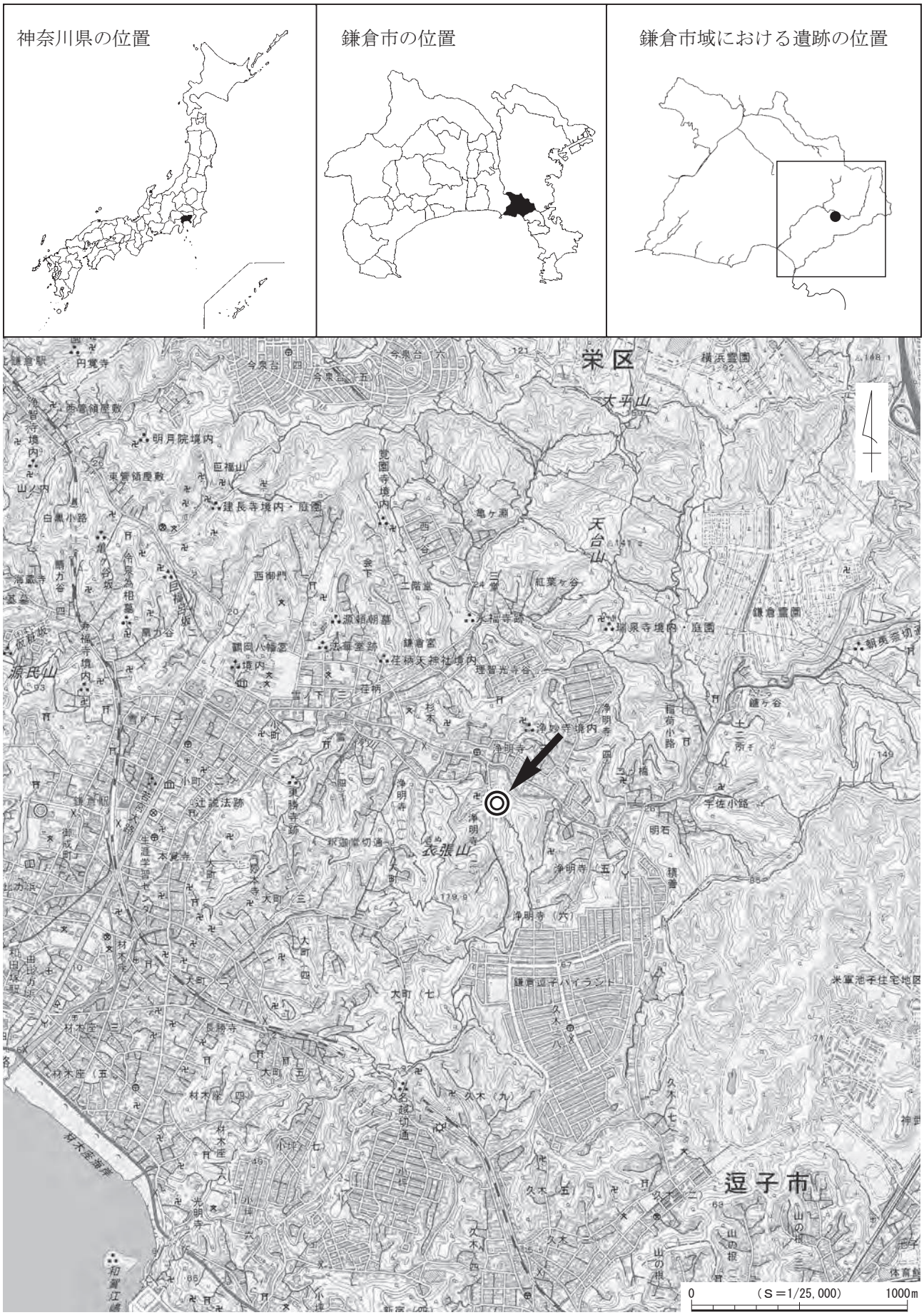

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
栄区
大平山
天台山
源氏山
衣張山
逗子市
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図

※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

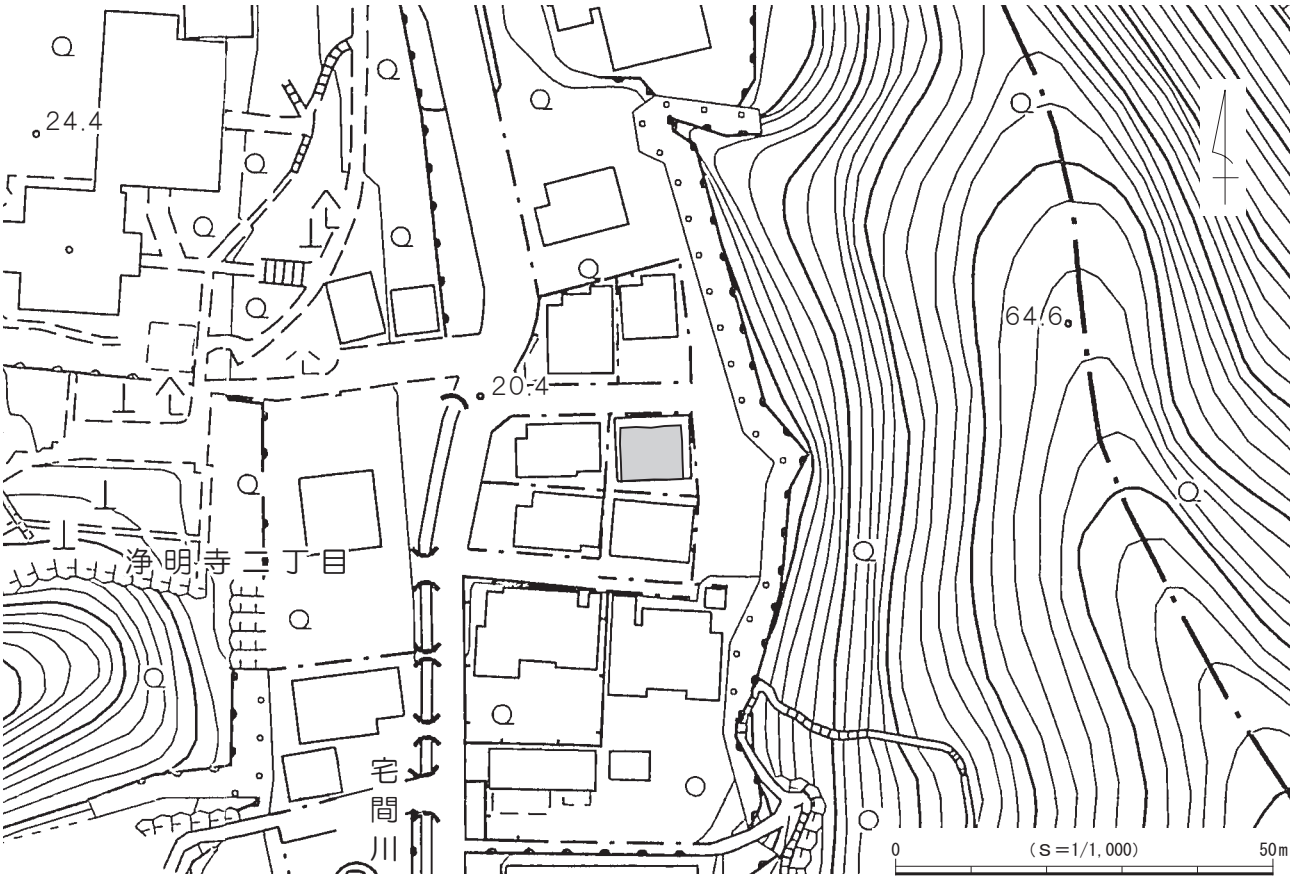


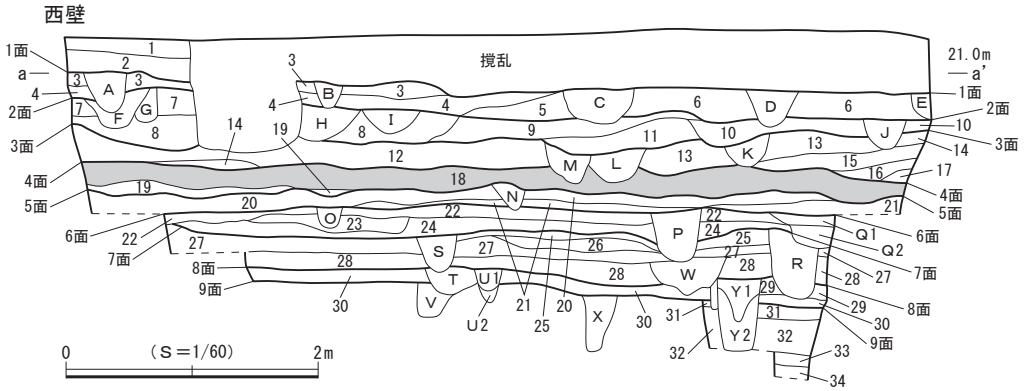
図３　調査区位置図

図４　調査区配置図

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、第１～９面までの合計９面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区西壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高約21.3ｍを測り、最上部には表土（１層）、茶褐色土（２層）が層厚合計30～45㎝堆積している。遺構確認面の第１面は３層上面で検出した。確認面の標高は20.8～21.0ｍを測る。３層は少量の砂質凝灰岩ブロックと微量の炭化物を含みやや締まりのある茶褐色土層で、層厚５～10㎝である。第２面は７～10層上面で確認し、確認面の標高は20.6～20.8ｍを測る。７層は多量の砂質凝灰岩粒と微量の炭化物を含みやや締まりのある暗茶色弱粘質土層で、層厚13～24㎝である。８層は中量の砂質凝灰岩ブロックと少量の炭化物、微量のかわらけ片を含みやや締まりのある暗茶色弱粘質土層で、層厚約27㎝である。９層は中量の砂質凝灰岩ブロック・粗砂、微量の炭化物・かわらけ片を含み締まりのある茶褐



１層　表土
２層　茶褐色土　砂質凝灰岩ブロック中量、炭化物少量、かわらけ片中量含む。締まりあり。
３層　茶褐色土　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物微量含む。締まりややあり。（第１面）
４層　暗茶色土　砂質凝灰岩ブロック多量、炭化物少量、粗砂中量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
５層　茶褐色弱粘質土　砂質凝灰岩粒中量、炭化物微量、粗砂中量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
６層　茶色土　砂質凝灰岩粒微量、炭化物・粗砂・かわらけ片少量含む。締まりややあり。
７層　暗茶色弱粘質土　砂質凝灰岩粒多量、炭化物微量、締まりややあり。（第２面）
８層　暗茶色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック中量、炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。（第２面）
９層　茶褐色砂質土　砂質凝灰岩ブロック中量、炭化物微量、粗砂中量、かわらけ片微量含む。締まりあり。（第２面）
10層　暗茶色土　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。（第２面）
11層　暗褐色砂質土　砂質凝灰岩ブロック中量、炭化物微量、粗砂多量、かわらけ片微量含む。締まり・粘性ややあり。
12層　茶灰色粘質土　砂質凝灰岩ブロック中量、炭化物少量、粗砂多量、かわらけ片微量含む。締まり・粘性ややあり。（第３面）
13層　明茶褐色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物微量含む。締まりあり。（第３面）
14層　茶褐色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック・炭化物中量、粗砂多量に含む。締まりあり。
15層　茶褐色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック・炭化物中量、粗砂多量に含む。締まりあり。
16層　淡茶色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック中量、炭化物極微量、粗砂中量、かわらけ片極微量含む。
17層　淡茶色粘質土　砂質凝灰岩ブロック多量、炭化物微量、粗砂多量に含む。締まりなし。
18層　青灰色砂質土　砂質凝灰岩ブロック多量に含む。締まりあり。（第４面）
19層　暗茶褐色粘質土　木片少量含む。締まりなし。
20層　暗褐色弱粘質土　砂質凝灰岩粒・粗砂少量含む。締まりややあり。（第５面）
21層　暗茶褐色粘質土　木片少量含む。締まりなし。
22層　茶褐色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック少量、青灰色粘土ブロック中量含む。締まりあり。（第６面）
23層　暗灰黒色砂質土　砂質凝灰岩ブロック少量、粗砂多量に含む。締まりなし、粘性あり。
24層　暗灰色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック・粗砂中量、木片少量含む。締まりややあり。
25層　暗灰色粘質土　砂質凝灰岩ブロック・粗砂多量、木片微量含む。（第７面）
26層　暗褐色弱粘質土　砂質凝灰岩粒・粗砂少量含む。締まりややあり。
27層　暗茶色弱粘質土　砂質凝灰岩粒少量含む。締まりあり。（第７面）
28層　灰色粘質土　砂質凝灰岩粒・木片少量含む。締まり非常に強い。
29層　暗茶褐色粘質土　砂質凝灰岩ブロック多量に含む。締まりややあり。（第８面）
30層　暗褐色弱粘質土　砂質凝灰岩粒少量含む。締まりあり。（第８面）
31層　灰褐色粘質土　砂質凝灰岩粒微量含む。締まりあり。（第９面）
32層　暗茶褐色粘質土　砂質凝灰岩粒・木片少量含む。締まりあり。
33層　暗茶褐色粘質土　砂質凝灰岩粒微量含む。締まり強い。
34層　青灰色弱粘質土　砂質凝灰岩粒微量含む。締まり非常に強い。

〔遺構〕
Ａ層　暗褐色土　砂質凝灰岩粒微量、炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｂ層　暗褐色土　砂質凝灰岩粒微量含む。締まりなし。
Ｃ層　茶褐色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物微量、粗砂少量、かわらけ片微量含む。
Ｄ層　暗褐色土　砂質凝灰岩粒微量、炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｅ層　暗褐色土　砂質凝灰岩粒微量含む。締まりなし。
Ｆ層　暗茶色弱粘質土　締まりなし。
Ｇ層　暗茶色弱粘質土　締まりややあり。
Ｈ層　暗茶色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物微量、木片少量含む。締まりややあり。
Ｉ層　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｊ層　暗褐色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｋ層　淡茶色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック・炭化物少量、粗砂多量に含む。
Ｌ層　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ粒極微量含む。締まり・粘性ややあり。
Ｍ層　黄灰色砂質土　砂質凝灰岩ブロック・茶褐色粘土ブロック中量含む。締まりややあり。
Ｎ層　暗灰色粘質土　炭化物微量、粗砂少量含む。締まりなし。
Ｏ層　遺構覆土
Ｐ層　暗褐色弱粘質土　砂質凝灰岩ブロック・木片少量含む。締まりややあり。
Ｑ１層　暗茶色砂質土　砂質凝灰岩粒中量、炭化物少量、粗砂多量、かわらけ片極微量含む。締まりあり、粘性ややあり。
Ｑ２層　暗灰色粘質土　砂質凝灰岩ブロック中量、炭化物微量、かわらけ片極微量含む。締まりなし。
Ｒ層　砂質凝灰岩ブロック少量、炭化物中量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｓ層　暗灰色粘質土　砂質凝灰岩粒・木片少量、貝粒微量含む。締まりややあり。
Ｔ層　暗灰色粘質土　砂質凝灰岩粒少量、炭化物微量、木片少量含む。締まりややあり。
Ｕ１層　砂質凝灰岩粒。炭化物・木片少量、かわらけ片極微量含む。締まりなし。
Ｕ２層　灰黒色粘質土　砂質凝灰岩粒少量含む。締まりややあり。
Ｖ層　灰黒色粘質土　砂質凝灰岩粒少量含む。締まりなし。
Ｗ層　暗褐色粘質土　砂質凝灰岩ブロック・木片・貝粒微量含む。締まりなし。
Ｘ層　遺構覆土
Ｙ１層　暗灰色粘質土　砂質凝灰岩粒。木片少量含む。締まりなし。
Ｙ２層　灰褐色粘質土　砂質凝灰岩粒・木片少量、貝粒微量含む。締まりやや弱い。

図５　調査区西壁 土層断面図

色砂質土層で、層厚５～20㎝である。10層は少量の砂質凝灰岩ブロックとかわらけ片、微量の炭化物を含みやや締まりのある暗茶色土層で、層厚10～20㎝である。第３面は12・13層上面で確認し、確認面の標高は20.4～20.6ｍを測る。12層は中量の砂質凝灰岩ブロック、少量の炭化物、多量の粗砂、微量のかわらけ片を含み締まり・粘性のある茶灰色粘質土層で、層厚８～25㎝である。13層は少量の砂質凝灰岩ブロックと微量の炭化物を含み締まりのある明茶褐色弱粘質土層で、層厚10～25㎝である。第４面は18層上面で確認し、確認面の標高は20.1～20.3ｍを測る。18層は多量の砂質凝灰岩ブロックを含み締まりのある青灰色砂質土を主体とした整地層で、層厚15～24㎝である。第５面は20層上面で確認し確認面の標高は20.0～20.1ｍを測る。20層は少量の砂質凝灰岩粒と粗砂を含みやや締まりのある暗褐色弱粘質土層で、層厚５～15㎝である。第６面は22層上面で確認し、確認面の標高は約19.9ｍを測る。22層は少量の砂質凝灰岩ブロックと中量の青灰色粘土ブロックを含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、層厚３～12㎝である。第７面は25・27層上面で確認し、確認面の標高は19.7～19.8ｍを測る。25層は多量の砂質凝灰岩ブロック・粗砂、微量の木片を含む暗灰色粘質土層で、層厚３～14㎝である。27層は少量の砂質凝灰岩粒を含み締まりのある暗茶色弱粘質土層で、層厚６～23㎝である。27層の下位には少量の砂質凝灰岩粒と木片を含み非常に締まりの強い灰色粘質土層（28層）が、層厚15㎝前後堆積している。第８面は29・30層上面で確認し、確認面の標高は19.3～19.4ｍを測る。29層は多量の砂質凝灰岩ブロックを含みやや締まりのある暗茶色粘質土層で、層厚13㎝前後である。30層は少量の砂質凝灰岩粒を含み締まりのある暗褐色弱粘質土層で、層厚10㎝前後である。遺構確認面の最下位にあたる第９面は、31層上面で確認した。確認面の標高は19.1～19.4ｍを測る。31層は微量の砂質凝灰岩粒を含み締まりのある灰褐色粘質土層で、層厚５～10㎝である。22層より下位は一部を標高18.6ｍまで掘削したが、遺構は発見されなかった。

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～９面までの合計９面である。遺構確認面はいずれも中世に属し、検出した遺構は礎板建物５棟、掘立柱建物１棟、溝状遺構９条、石列１条、桝状遺構１基、木組遺構１基、土坑54基、ピット341基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して20箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表（表12）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～９面）に説明する。

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の３層上面で検出され、確認面の標高は20.8～21.0ｍを測る。３層は少量の砂質凝灰岩ブロックと微量の炭化物を含みやや締まりのある茶褐色土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構３条、土坑11基、ピット70基である（図６）。調査区の全域にほぼ満遍なく遺構が分布し、遺構密度は比較的高く重複するものもみられる。また、調査区外に続く遺構も認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀代に属すると考えられる。

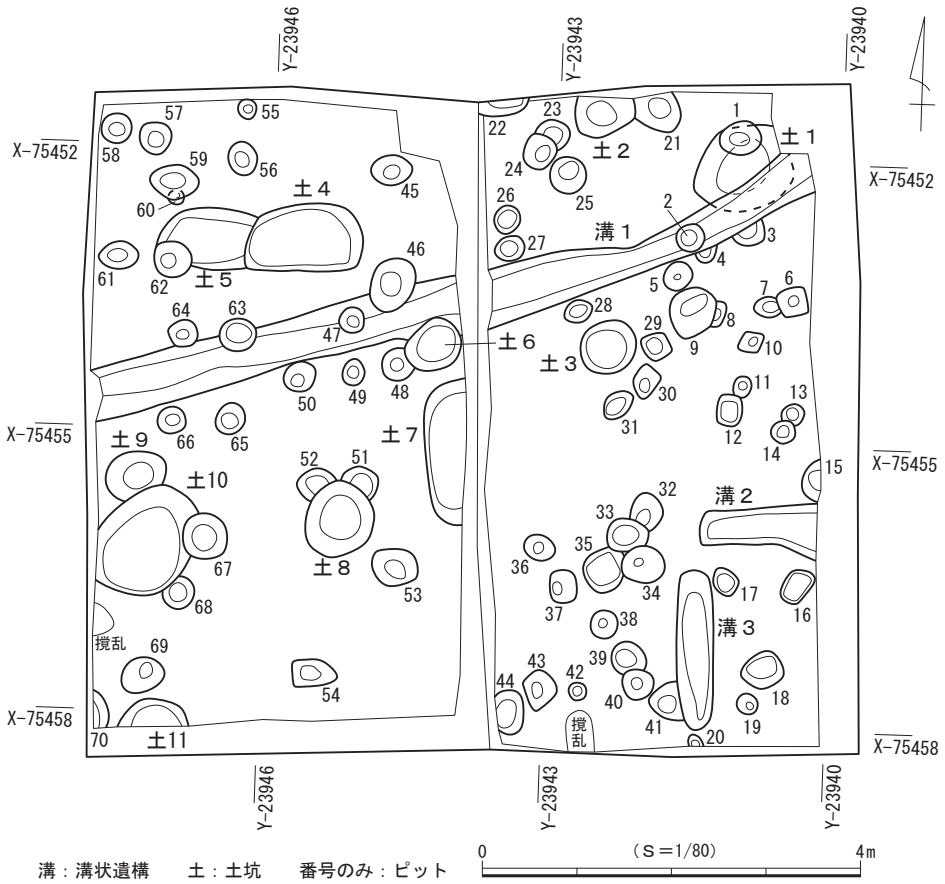


図６　第１面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構１（図７）

調査区の北側に位置し、北東－南東方向におおむね直線的に横断して調査区外の東西側に続いている。調査区内では土坑６、ピット２・46・47・63・64と重複して壁や底面の一部が壊されており、北東側で土坑１、ピット３・４と重複して壊している。検出した規模は現存長約7.9m、幅30～60㎝、深さ５～20㎝で、主軸方位はＮ－74°－Ｅを指し、北東側でわずかに北側に屈曲してＮ－56°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は東側で20.71m、西側で20.68mを測る。

遺物はかわらけ30点、陶器７点が出土した。

溝状遺構２（図７）

調査区の南東隅に位置する。ほぼ直線的に東側の調査区外へと延びるが、西側の端部は調査区内に収まる。調査区内では他の遺構との重複は認められない。検出した規模は現存長約1.2m、幅40～60㎝、深さ９㎝を測り、主軸方位は真東を指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は20.75mを測る。本址の南側にほぼ直交する向きで溝状遺構３が検出されており、両者はＬ字状に配置されているようにもみえる。また、溝幅や深さも近似していることから、関連をもつ遺構であった可能性も考えられる。

遺物はかわらけ２点、磁器１点が出土した。

溝状遺構３（図７）

調査区の南東隅に位置する。直線的に南北方向に延び、両端とも調査区内に収まる。南側でピット41と重複して壁の一部を壊している。検出した規模は長さ約1.7m、幅40㎝、深さ９㎝を測り、主軸方位はほぼ真北を指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は20.76mを測る。本址の北側にほぼ直交する向きで溝状遺構２が検出されていることから、関連をもつ遺構であった可能性も考えられる。

出土遺物（図８）

遺物はかわらけ15点、陶器６点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

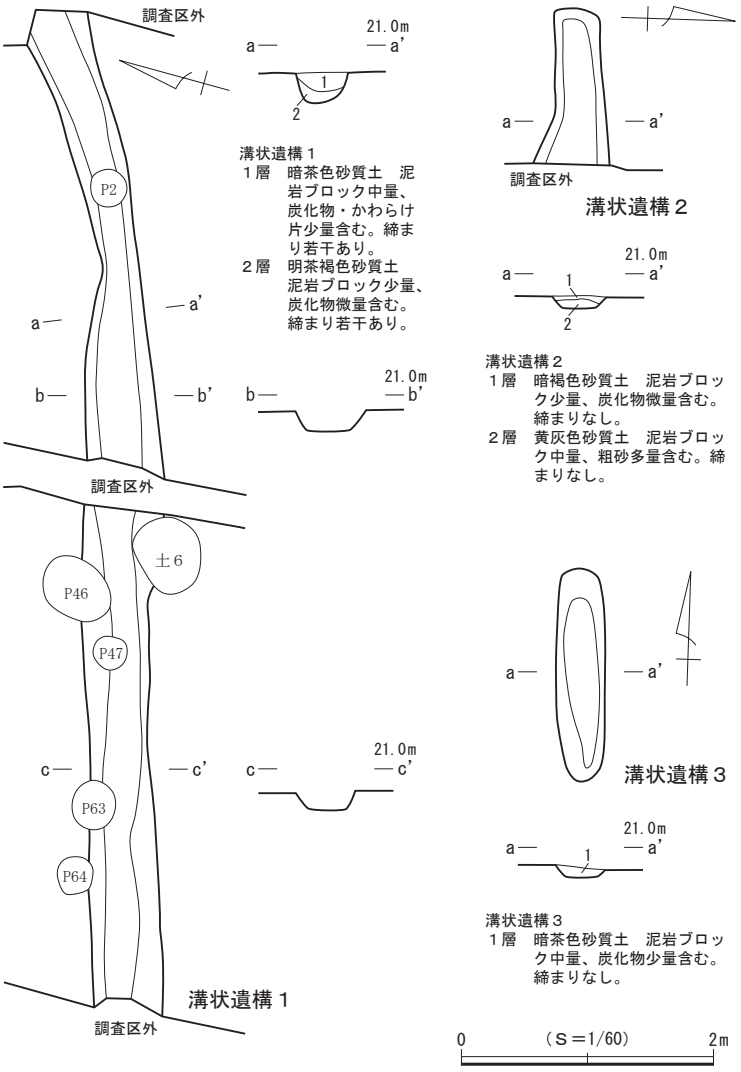


図７　第１面 溝状遺構１～３

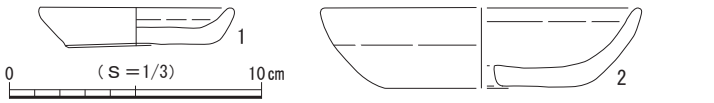


図８　第１面 溝状遺構３出土遺物

（２）土　坑

土坑１（図11）

調査区の北東隅に位置する。南側で溝状遺構１、北側でピット１と重複して上面が削平され、東側は調査区外へと続いているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.06m、短軸91㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は20.57mを測る。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑２（図11）

調査区北壁際の中央東側に位置する。東側でピット21と重複して壁の一部を壊し、北側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸67㎝、短軸現存長50㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は20.68mを測る。主軸方位はＮ－56°－Ｅを指すと推定される。

遺物はかわらけ５点が出土した。

土坑３（図11）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸55㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は20.69ｍを測る。

遺物はかわらけ３点、陶器２点が出土した。

土坑４（図11）

調査区の北西側に位置する。西側で土坑５と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.21ｍ、短軸71㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は20.66ｍを測る。主軸方位はＮ－87°－Ｅでほぼ真東を指す。

出土遺物（図９）

遺物はかわらけ23点、磁器１点、陶器２点が出土し、このうち５点を図示した。

１～５はロクロ成形によるかわらけである。

土坑５（図11）

調査区の北西側に位置する。東側で土坑４、南西側でピット62と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長95㎝、短軸66㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は20.68ｍを測る。主軸方位はほぼ真東を指す。

出土遺物（図10）

遺物はかわらけ27点、土師質・瓦質土器１点が出土し、このうち９点を図示した。

１～９はロクロ成形によるかわらけである。

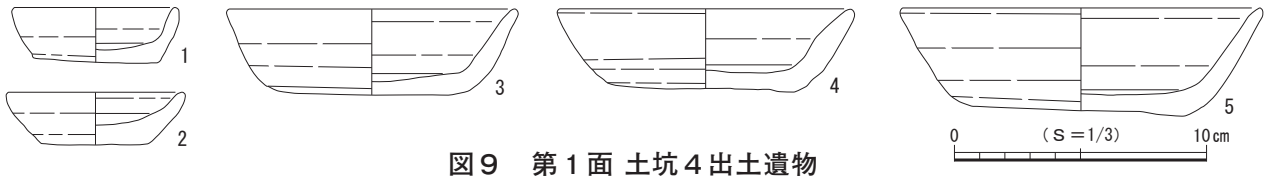


図９　第１面 土坑４出土遺物

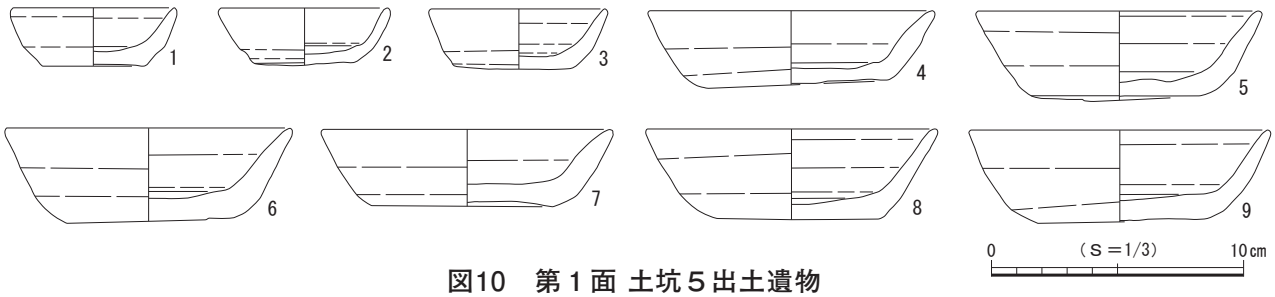


図10　第１面 土坑５出土遺物

土坑６（図11）

調査区中央の北側に位置する。北側で溝状遺構１、南西側でピット48と重複して壁の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、南西壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61㎝、短軸50㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は20.70ｍを測る。主軸方位はＮ－51°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ28点、陶器１点が出土した。

土坑７（図11）

調査区の中央に位置する。調査区の境で検出されたため、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.53m、短軸現存長44㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は20.63mを測る。主軸方位はＮ－８°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ13点、磁器２点が出土した。

土坑８（図11）

調査区の南西側に位置する。北側でピット51・52と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸81㎝、短軸71㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は20.65mを測る。

遺物はかわらけ６点、陶器１点が出土した。

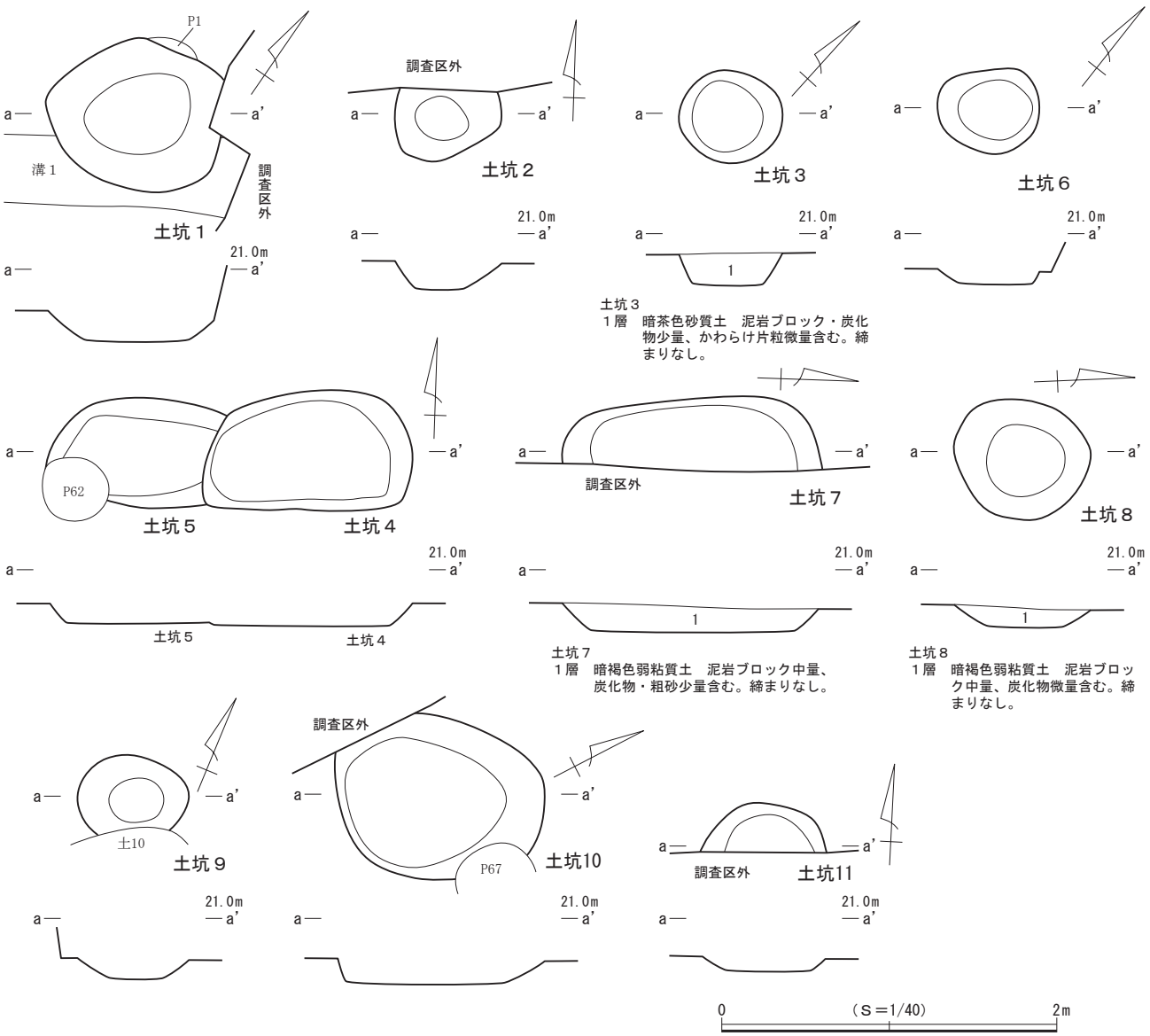


図11　第１面 土坑１～11

土坑９（図11）

調査区西壁際の中央に位置する。南側で土坑10と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸66㎝、短軸現存長43㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は20.64ｍを測る。主軸方位はＮ－67°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑10（図11）

調査区西壁際の中央南側に位置する。北側で土坑９、南側でピット68と重複して壊し、東側でピット67と重複して壁の一部が壊されている。西側が調査区外へと続いているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、北壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.23ｍ、短軸97㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は20.61ｍを測る。主軸方位はＮ－22°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ５点、陶器２点が出土した。

土坑11（図11）

調査区の南西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められないが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長29㎝、東西現存長75㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は20.69ｍを測る。

遺物はかわらけ３点が出土した。

（３）ピット

第１面では、70基を検出した。調査区南西側と中央付近の狭い範囲に分布の空白域がみられるが、ほぼ全域にわたって検出された。ピット間の重複は少なく、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸17～58㎝、深さ３～34㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図12）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）に掲げたが、このうち10点を図示した。

１・３～10はロクロ成形によるかわらけである。２は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。

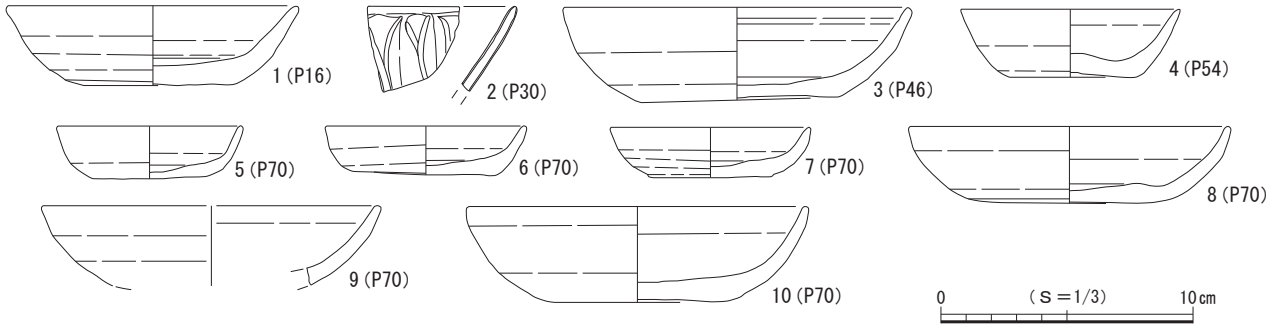


図12　第１面 ピット出土遺物

１はピット16、２はピット30、３はピット46、４はピット54、５～10はピット70からそれぞれ出土した。

（４）第１面 遺構外出土遺物（図13）

第１面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち６点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけで、２の口縁部には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。４・５は龍泉窯系青磁である。４は碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。５は双魚文盤である。６は中国吉州窯産の天目茶碗である。

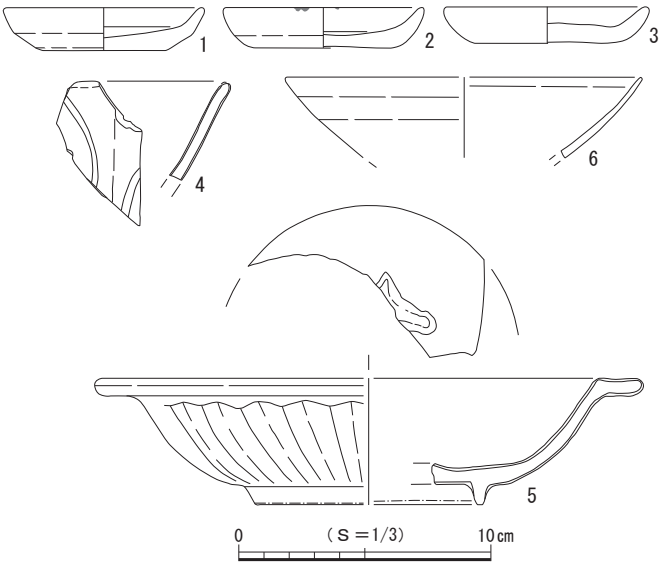


図13　第１面 遺構外出土遺物

第２節　第２面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の７～10層上面で検出され、確認面の標高は20.6～20.8mを測る。７層は多量の砂質凝灰岩粒と微量の炭化物を含みやや締まりのある暗茶色弱粘質土層、８層は中量の砂質凝灰岩ブロックと少量の炭化物、微量のかわらけ片を含みやや締まりのある暗茶色弱粘質土層、９層は中量の砂質凝灰岩ブロック・粗砂、微量の炭化物・かわらけ片を含み締まりのある茶褐色砂質土層、10層は少

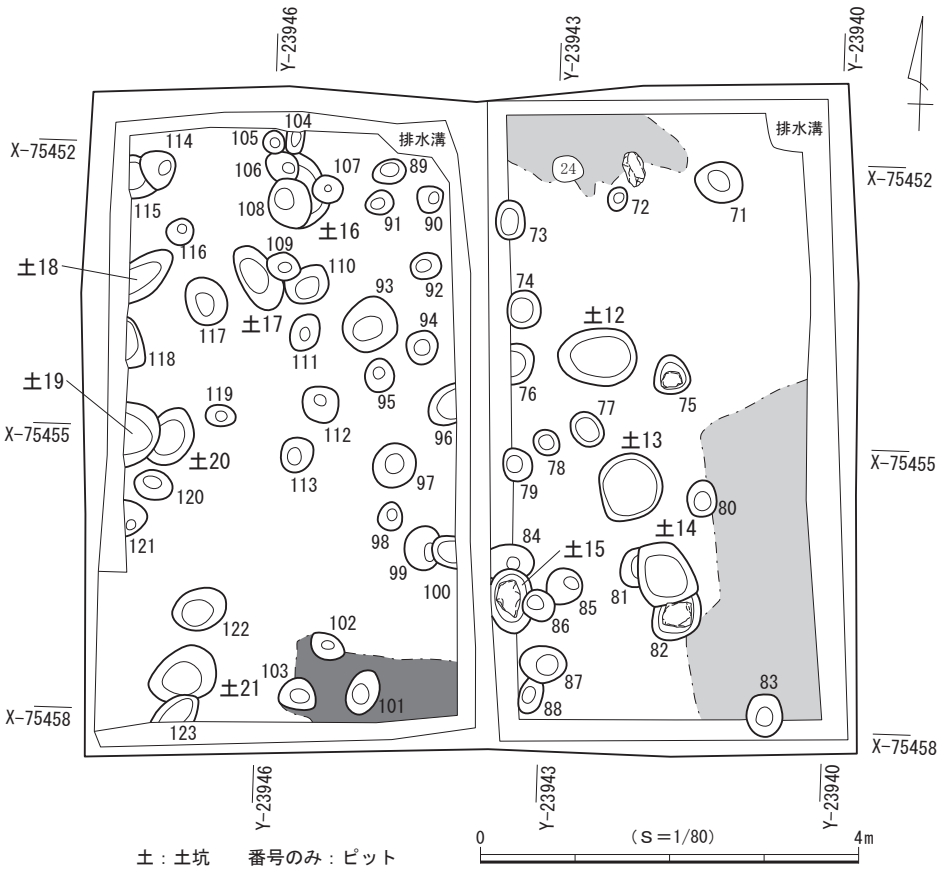


図14　第２面 遺構分布図

量の砂質凝灰岩ブロックとかわらけ片、微量の炭化物を含みやや締まりのある暗茶色土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑10基、ピット53基である（図14）。調査区の全域にほぼ満遍なく遺構が分布するが、東側で希薄になる。遺構密度は高くはなく、遺構の種類も少ない。なお、調査区の北壁際中央の約2.0×0.8m、南東側の約3.6×1.7mの範囲に明瞭な整地面の広がりが認められたほか、調査区南壁際の中央付近に約1.8×0.4mの炭層の分布が確認された。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉～14世紀前葉頃に属すると考えられる。

（1）土　坑

土坑12（図17）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、西壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸83cm、短軸60cm、深さ19cmで、坑底面の標高は20.54mを測る。主軸方位はN－85°－Eを指す。

遺物はかわらけ11点、磁器１点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

土坑13（図17）

調査区の南東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸75cm、短軸69cm、深さ８cmで、坑底面の標高は20.65mを測る。

出土遺物（図15）

遺物はかわらけ54点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

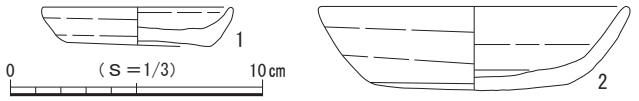


図15　第２面 土坑13出土遺物

土坑14（図17）

調査区の南東側に位置する。西側でピット81、南側でピット82と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸65cm、短軸57cm、深さ15cmで、坑底面の標高は20.58mを測る。

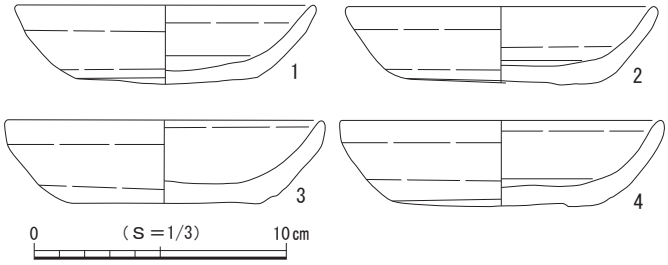


図16　第２面 土坑14出土遺物

出土遺物（図16）

遺物はかわらけ56点、陶器１点、石製品１点が出土し、このうち４点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけである。

土坑15（図17）

調査区中央の南側に位置する。北側でピット84と重複して壊し、東側でピット86と重複して壁と底面の一部が壊されている。調査区の境で検出されており、全容を把握できなかった。調査の過程における排水溝掘削のためここでは平面形と規模の記載のみとなるが、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸68

cm、短軸現存長44cmを測る。主軸方位はほぼ真北を指す。ほぼ中央から長さ40cm、幅25cmの礎石と推定される礫が出土しており、上面の標高は20.78mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑16（図17）

調査区の北西側に位置する。ピット106～108と重複して壁と底面が壊されており、全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としないがおそらくは楕円形を呈するものと推定される。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長76cm、短軸現存長27cm、深さ16cmで、坑底面の標高は20.69mを測る。

遺物はかわらけ４点が出土した。

土坑17（図17）

調査区の北西側に位置する。東側でピット109と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸74cm、短軸36cm、深さ15cmで、坑底面の標高は20.49mを測る。主軸方位はＮ－33°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

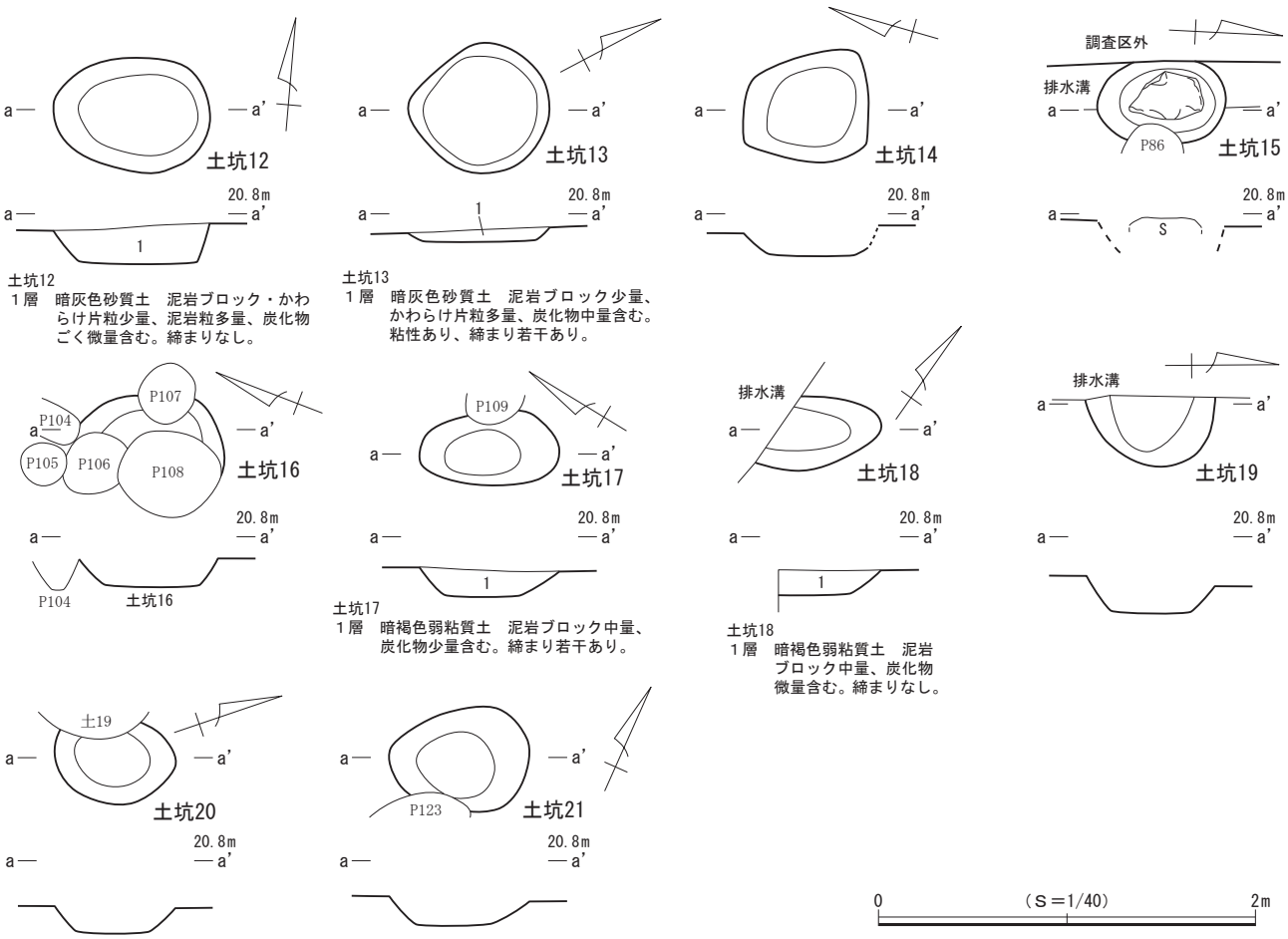


図17　第２面 土坑12～21

土坑18（図17）

調査区西壁際の中央北側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長70cm、短軸39cm、深さ12cmで、坑底面の標高は20.49mを測る。主軸方位はN－55°－Eを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑19（図17）

調査区西壁際の中央に位置する。東側で土坑20と重複して壁と底面の一部を壊している。西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長69cm、東西現存長37cm、深さ19cmで、坑底面の標高は20.40mを測る。

出土遺物（図18）

遺物はかわらけ２点、金属製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は銭貨で紹定通寶（1228年初鋳）である。

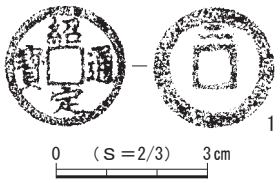


図18　第２面 土坑19出土遺物

土坑20（図17）

調査区西壁際の中央に位置する。西側で土坑19と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65cm、短軸現存長42cm、深さ14cmで、坑底面の標高は20.43mを測る。主軸方位はN－22°－Eを指す。

遺物はかわらけ２点、磁器１点が出土した。

土坑21（図17）

調査区の南西隅に位置する。南側でピット123と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸73cm、短軸55cm、深さ15cmで、坑底面の標高は20.46mを測る。主軸方位はN－63°－Eを指す。

遺物はかわらけ３点が出土した。

（２）ピット

第２面では、53基を検出した。調査区の中央から北西側にかけての範囲に多く分布するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸24～58cm、深さ４～26cmを測る。53基のうち２基のピット（ピット75・82）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ22cm、幅16cm

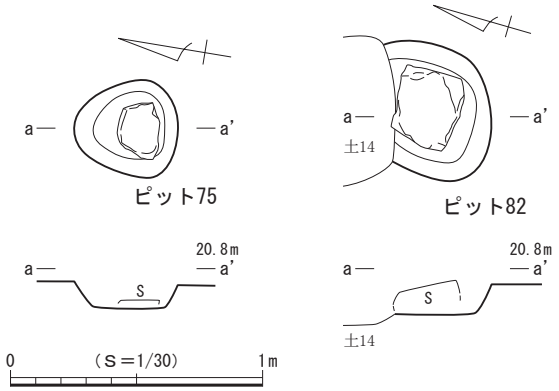


図19　第２面 ピット75・82

と長さ30㎝、幅26㎝で、上面の標高は20.68ｍと20.72ｍである。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図19に図示した。

出土遺物（図20）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）に掲げたが、このうち５点を図示した。

１・２・４・５はロクロ成形によるかわらけで、５の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。３は龍泉窯系青磁の盤である。

１はピット84、２はピット93、３はピット99、４はピット103、５はピット106からそれぞれ出土した。

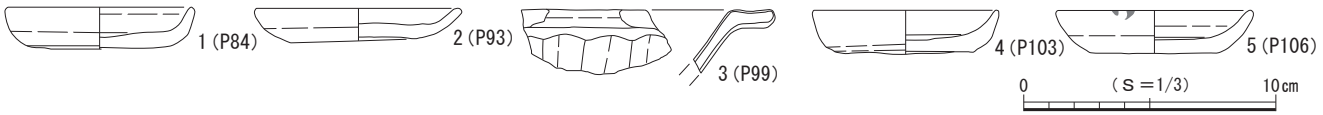


図20　第２面 ピット出土遺物

（３）第２面 遺構外出土遺物（図21）

第２面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち24点を図示した。

１～11はロクロ成形によるかわらけで、２・６の口縁部には油煤・煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。12は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。13～17は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。18・19は青白磁の水滴で同一個体と思われる。20～22は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。23・24は銭貨で、23は太平通寶（976年初鋳）、24は熙寧元寶（1068年初鋳）である。

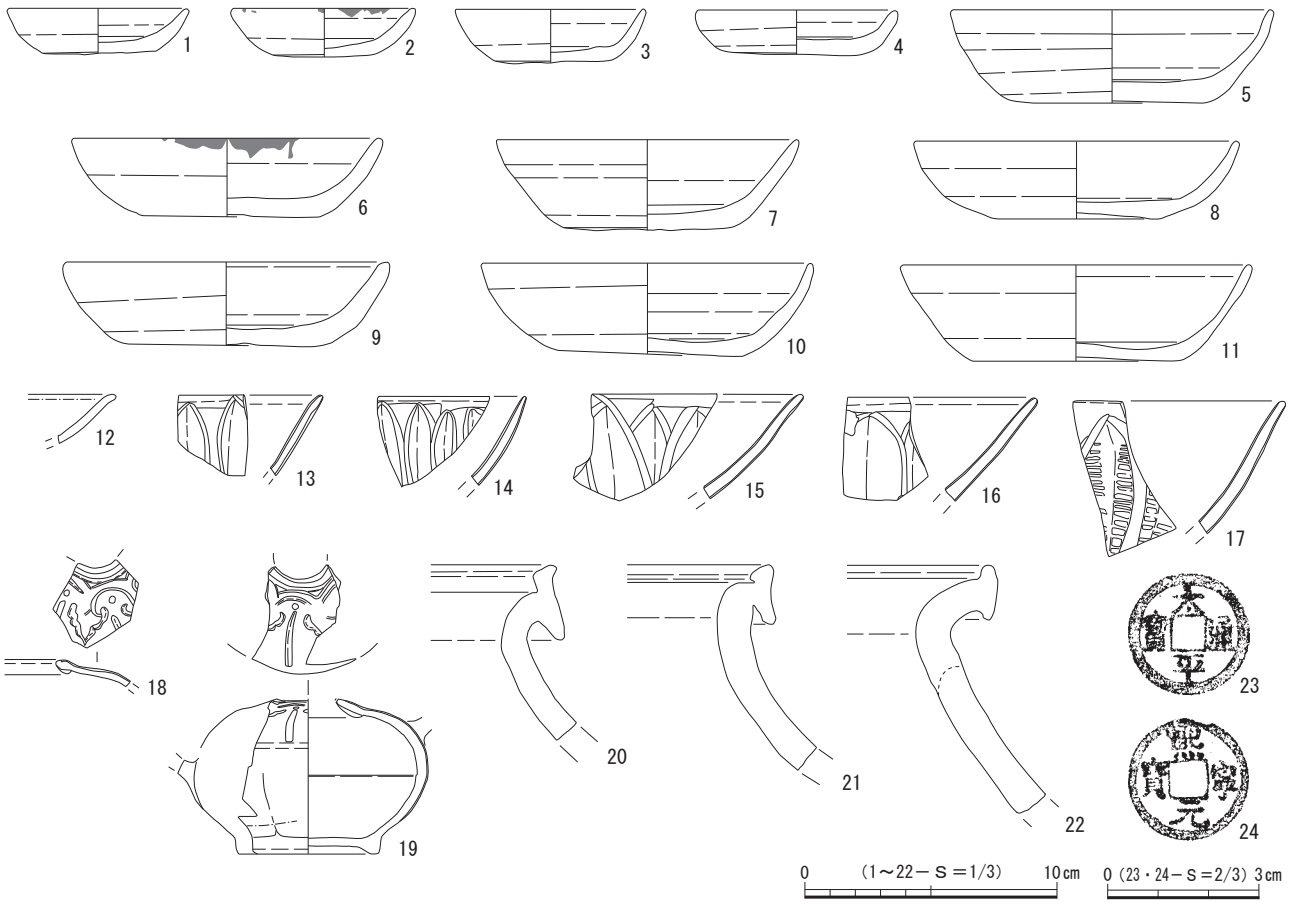


図21　第２面 遺構外出土遺物

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の12・13層上面で検出され、確認面の標高は20.4～20.6ｍを測る。12層は中量の砂質凝灰岩ブロック、少量の炭化物、多量の粗砂、微量のかわらけ片を含み締まり・粘性のある茶灰色粘質土層、13層は少量の砂質凝灰岩ブロックと微量の炭化物を含み締まりのある明茶褐色弱粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構２条、土坑７基、ピット31基である（図22）。調査区のほぼ全域に散漫な遺構分布が認められ、調査区西壁中央付近と調査区南東側に遺構の空白域がみられる。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構４（図24）

調査区の東端に位置する。調査区を南北方向に縦断して調査区外の南北側に続いており、北側がクランク状に曲がり、南側は南西側に屈曲する。調査区内ではピット125・129と重複して壁や底面の一部が壊されており、北側でピット126、中央でピット130、南側でピット135と重複して壊している。検出した規模は現存長約6.0ｍ、幅20～37㎝、深さ５㎝前後で、主軸方位は直線部分はＮ－11°－Ｗを指し、北側のクランク部はＮ－62°－Ｅを指した後に15度ほど西側に振れて調査区外へ延びる。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は20.41ｍを測る。

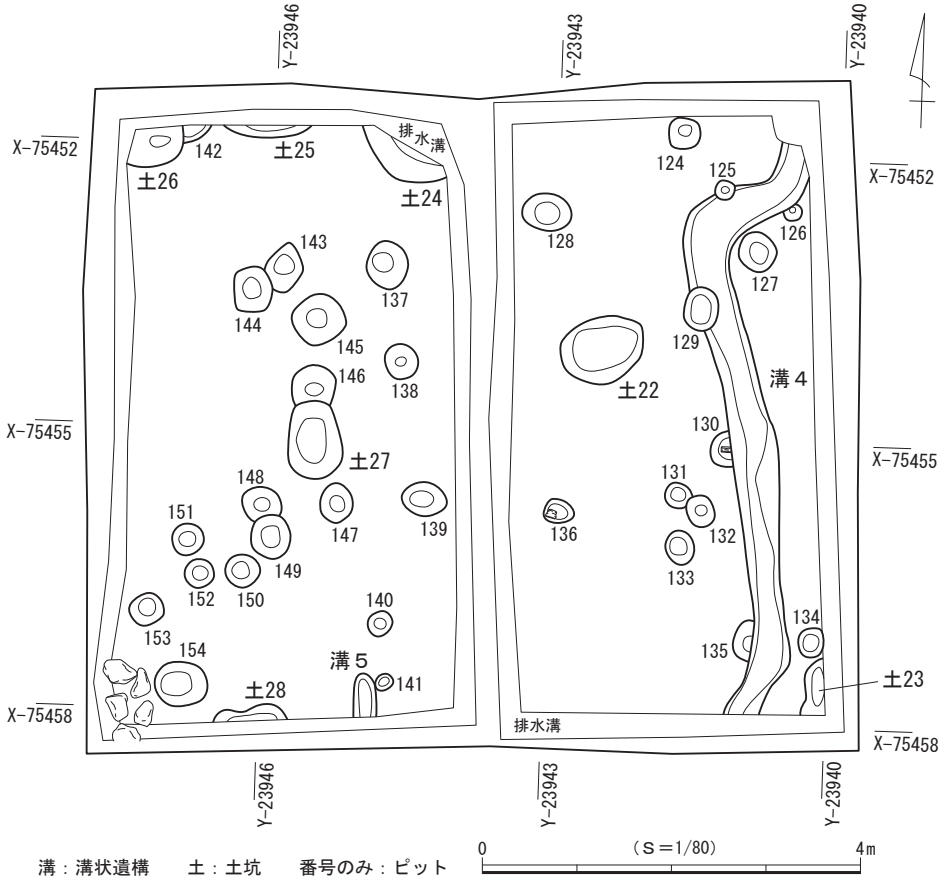


図22　第３面 遺構分布図

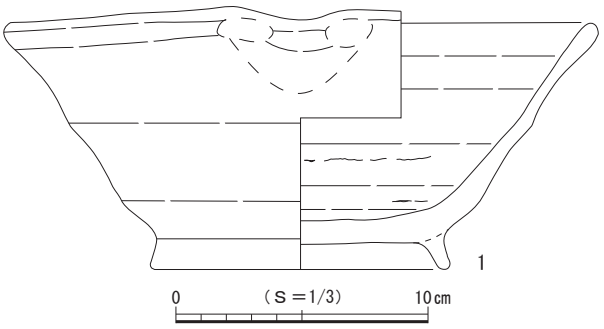


図23　第３面 溝状遺構４出土遺物

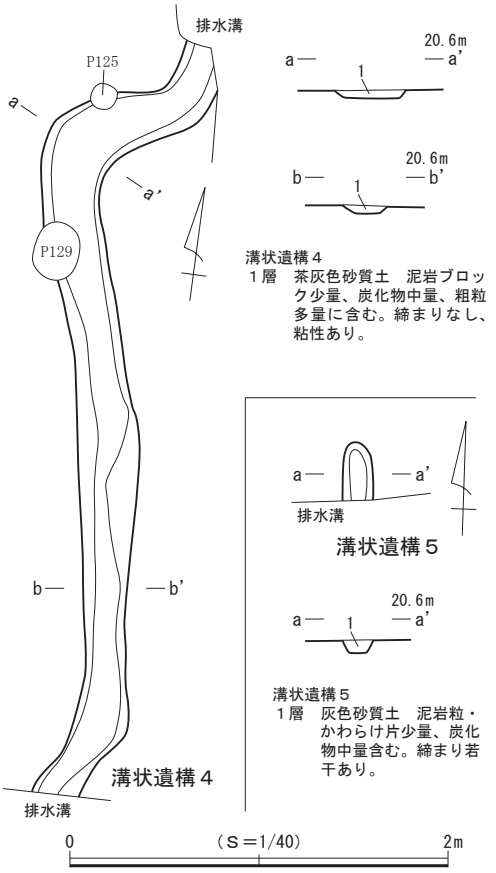


図24　第３面 溝状遺構４・５

出土遺物（図23）

遺物はかわらけ21点、陶器２点が出土し、このうち１点を図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。

溝状遺構５（図24）

調査区南壁際の中央西側に位置する。真っすぐに南側の調査区外へと延びるが、北側の端部は調査区内に収まる。調査区内では他の遺構との重複は認められない。検出した規模は現存長約50㎝、幅20㎝、深さ８㎝を測る。主軸方位は真北を指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は平らで、標高は20.44ｍを測る。

遺物はかわらけ４点が出土した。

（２）土　坑

土坑22（図25）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸92㎝、短軸69㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は20.39ｍを測る。主軸方位はＮ－73°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑23（図25）

調査区の南東隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南東側は調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長60㎝、東西現存長25㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は20.29ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑24（図25）

調査区北壁際の中央付近に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、北側が

調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形や底面の状態は判然としない。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長36㎝、東西現存長1.03ｍ、深さ20㎝で、坑底面の標高は20.36ｍを測る。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑25（図22）

調査区北壁際の西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形・深さとも判然としない。調査の過程における排水溝掘削のためここでは平面規模の記載のみとなるが、規模は南北現存長13㎝、東西現存長93㎝を測る。

遺物は出土しなかった。

土坑26（図25）

調査区の北西隅に位置する。東側でピット142と重複して壁と底面を壊している。北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面は小さくほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長40㎝、東西現存長60㎝、深さ36㎝で、坑底面の標高は20.09ｍを測る。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑27（図25）

調査区の中央西側に位置する。北側でピット146と重複して壁の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸83㎝、短軸56㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は20.26ｍを測る。主軸方位はほぼ真北を指す。

遺物はかわらけ５点、磁器１点が出土した。

土坑28（図25）

調査区南壁際の西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査

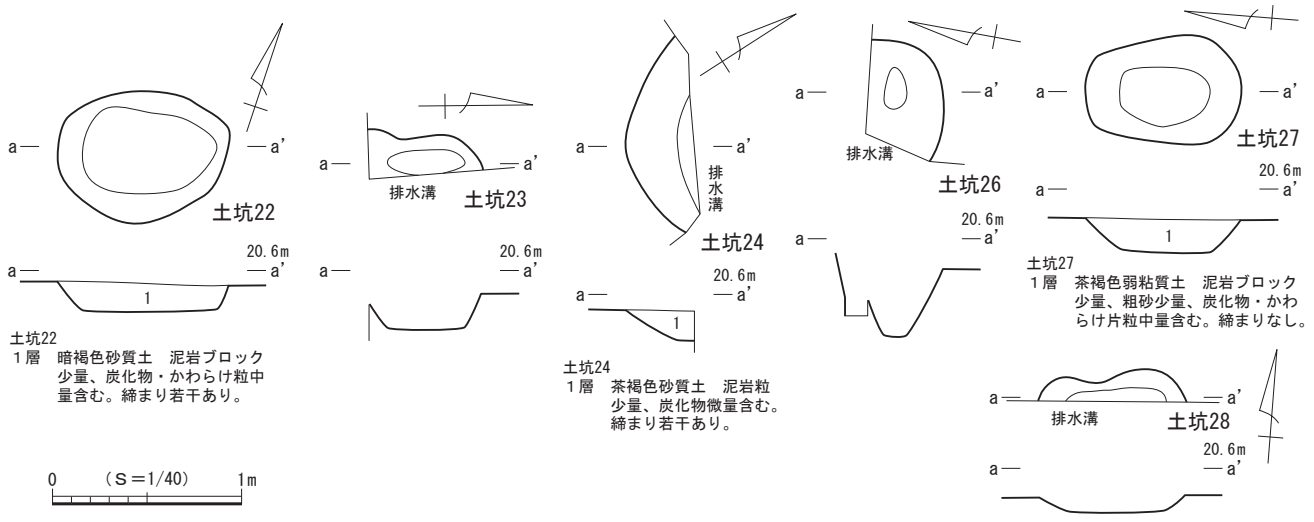


図25　第３面 土坑22～24・26～28

区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長17㎝、東西現存長77㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は20.37ｍを測る。

遺物はかわらけ15点、陶器１点が出土した。

（３）ピット

第３面では、31基を検出した。調査区の西半に多く分布する傾向が認められるが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸19～55㎝、深さ４～20㎝を測る。31基のうち２基のピット（ピット130・136）に礎板が据えられており、礎板の大きさは全容が把握できたピット136のもので長さ11㎝、幅８㎝、厚さ２㎝で、上面の標高はともに20.26ｍを測る。なお、礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図26に図示した。

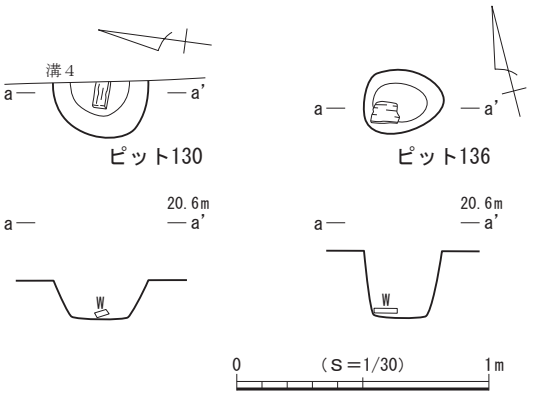


図26　第３面 ピット130・136

出土遺物（図27）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）に掲げたが、このうち６点を図示した。

１～６はロクロ成形によるかわらけで、２・４の口縁部から内外面には煤・油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。１・２はピット129、３～６はピット147からそれぞれ出土した。

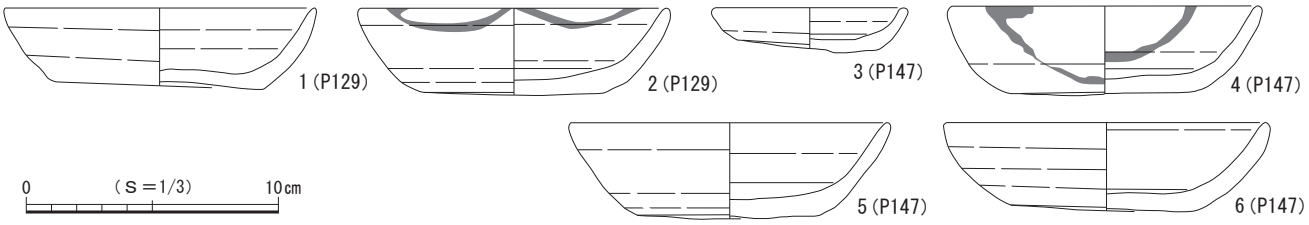


図27　第３面 ピット出土遺物

（４）第３面 遺構外出土遺物（図28・29）

第３面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち22点を図示した。

１～15はロクロ成形によるかわらけで、７の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。16は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。17は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。18～20は常滑産の陶器類である。18・19は甕で６ａ型式、20は片口鉢Ⅱ類で６ａ～７型式に比定される。21・22は銭貨で、21は皇宋通寶（1038年初鋳）、22は元豊通寶（1078年初鋳）である。

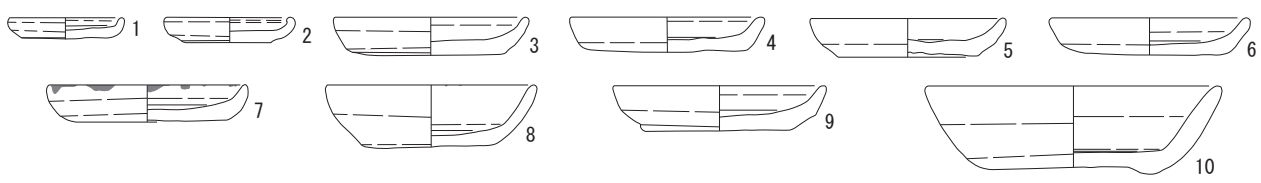


図28　第３面 遺構外出土遺物（１）

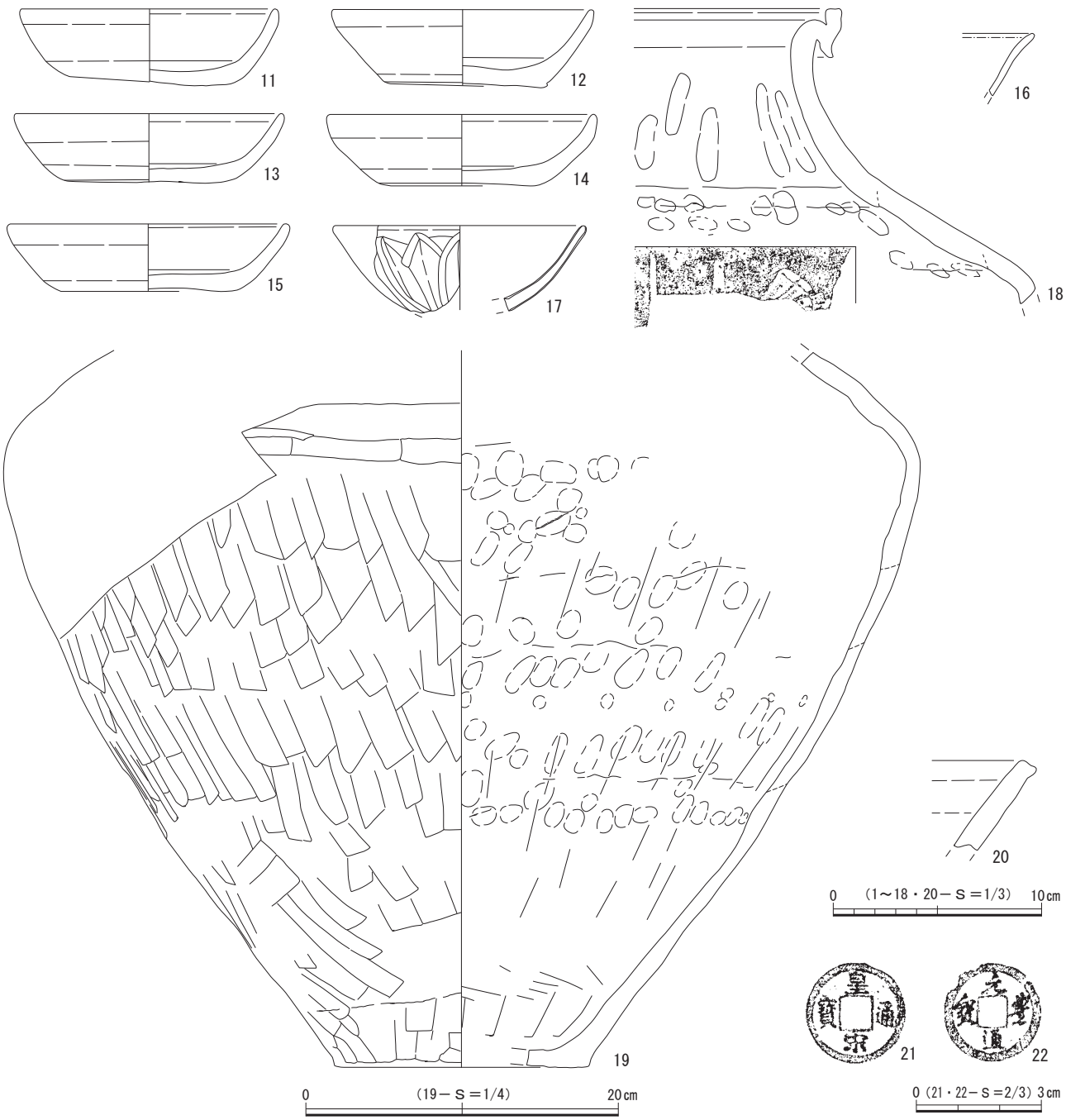


図29　第３面 遺構外出土遺物（２）

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の18層上面で検出され、確認面の標高は20.1～20.3mを測る。18層は多量の砂質凝灰岩ブロックを含み、締まりのある青灰色砂質土を主体とした整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、土坑８基、ピット34基である（図30）。調査区の東側から北西側にかけて遺構が集中する様相が捉えられ、東壁際の南北約3.6m、東西約1.8mの範囲に炭層の広がりが認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、石製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

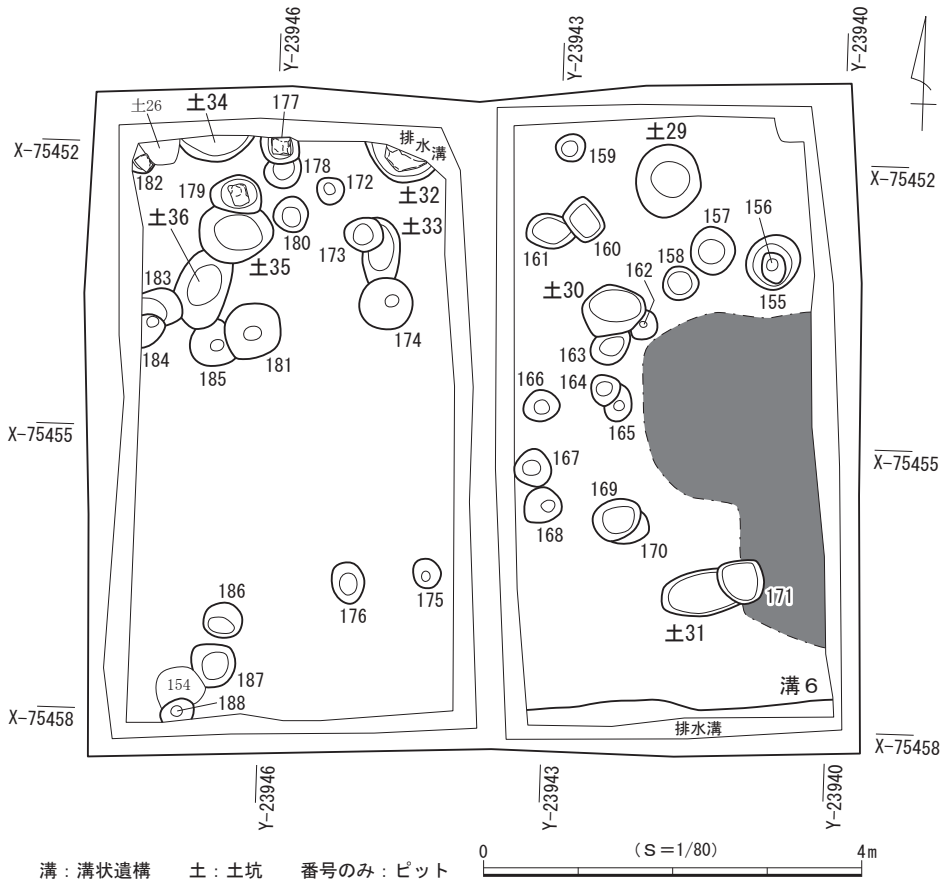


図30　第４面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構６（図30）

調査区南壁際の東側に位置する。上端を確認し得たのみであり、個別図は掲載しなかった。調査区内では他の遺構との重複は認められず、調査区外の東西側へと続いている。検出した規模は長さ約3.2ｍを測り、主軸方位はＮ－86°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ５点、磁器７点、瓦１点が出土した。

（２）土　坑

土坑29（図32）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77㎝、短軸69㎝、深さ30㎝で、坑底面の標高は20.00ｍを測る。

遺物はかわらけ２点、陶器１点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

土坑30（図32）

調査区の北東側に位置する。南側でピット162・163と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸66㎝、短軸52㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は20.21ｍを測る。主軸方位はほぼ真東を指す。

遺物はかわらけ１点、金属製品１点が出土した。

土坑31（図32）

調査区の南東側に位置する。東側でピット171と重複して上面が壊されているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長88㎝、短軸48㎝、深さ７㎝で、坑底面の標高は20.35ｍを測る。主軸方位はＮ－80°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ９点が出土した。

土坑32（図32）

調査区北壁際の中央付近に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形ないし略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長32㎝、東西現存長76㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は20.28ｍを測る。現存長46㎝、現存幅20㎝の礎石と推定される礫が出土しており、上面の標高は20.40ｍを測る。

遺物はかわらけ３点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

土坑33（図32）

調査区の北西側に位置する。北側でピット173、南側でピット174と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長62㎝、短軸39㎝、深さ７㎝で、坑底面の標高は20.36ｍを測る。主軸方位はほぼ真北
を指す。

出土遺物（図31）

遺物はかわらけ４点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

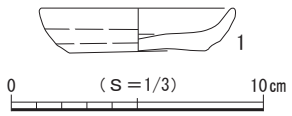


図31　第４面 土坑33出土遺物

土坑34（図32）

調査区の北西隅に位置する。西壁を第３面で検出された土坑26によって壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長80㎝、東西現存長28㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は20.20ｍを測る。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑35（図32）

調査区の北西側に位置する。南側で土坑36と重複して壊し、北側でピット179と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、南壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸76㎝、短軸現存長58㎝、深さ11㎝で、坑底面の標高は20.21ｍを測る。主軸方位はほぼ真東を指す。

遺物はかわらけ18点、金属製品１点が出土した。

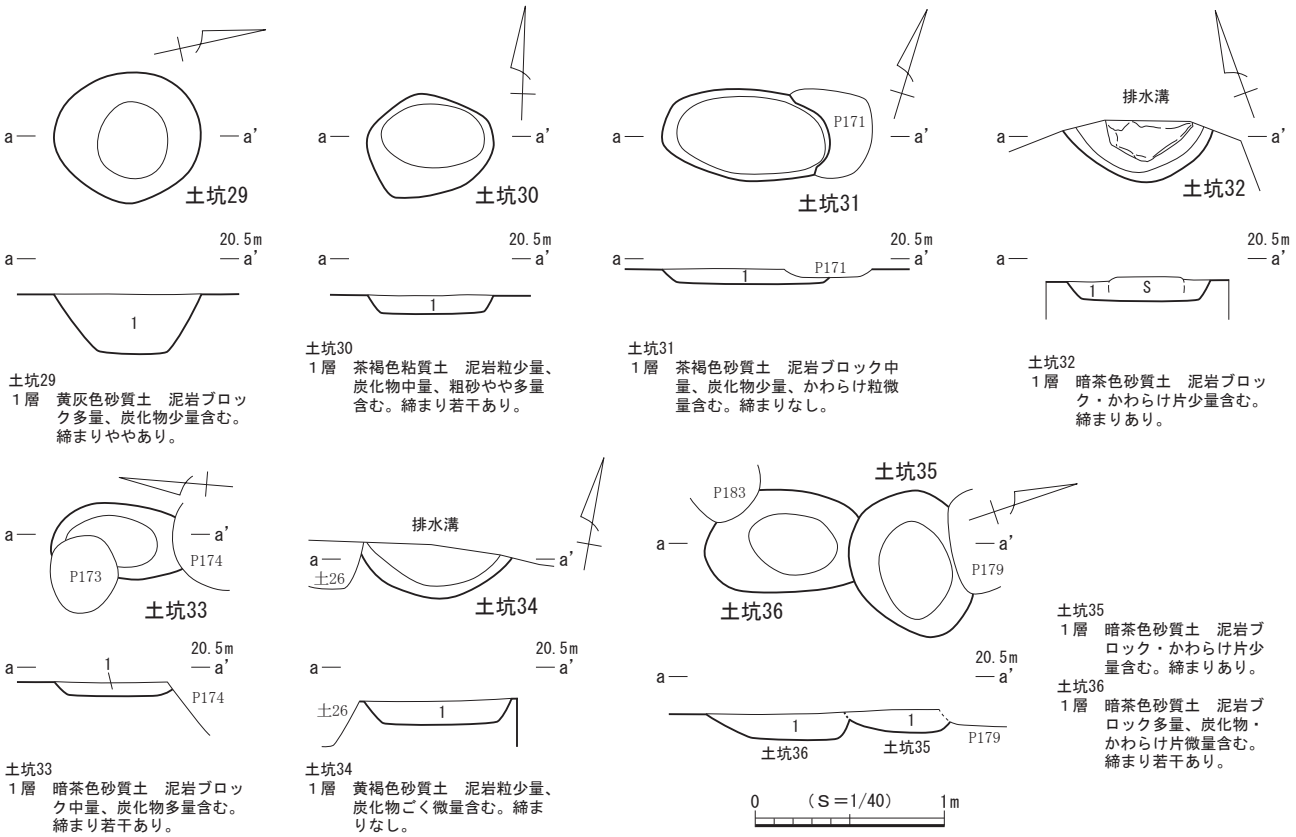


図32　第４面 土坑29～36

土坑36（図32）

調査区の北西側に位置する。南側でピット185と重複して壊し、北側で土坑35、西側でピット183と重複して壁の一部が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、南壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長78㎝、短軸53㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は20.17ｍを測る。主軸方位はＮ－19°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

（３）ピット

第４面では、34基を検出した。調査区の東側から北西側にかけての範囲と南西隅に分布が認められるが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸29～59㎝、深さ４～61㎝を測る。34基のうち３基のピット（ピット177・179・182）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ18～22㎝、幅14～18㎝、厚さ10㎝で、上面の標高は20.35～20.42ｍを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図33に図示した。

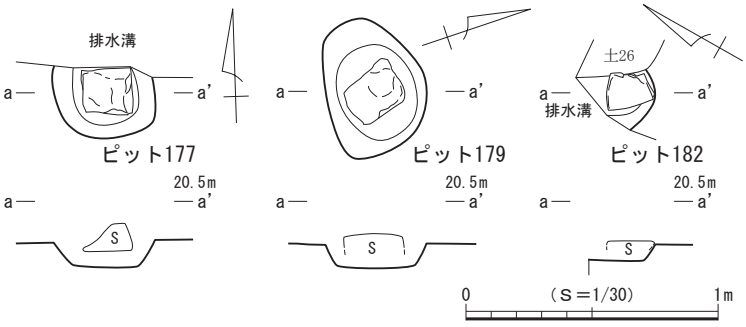


図33　第４面 ピット177・179・182

出土遺物（図34）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）に掲げたが、このうち８点を図示した。

１～４・７はロクロ成形によるかわらけである。５・８は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。６は銭貨で皇宋通寶（1038年初鋳）である。

１～４はピット155、５はピット159、６はピット161、７はピット169、８はピット175からそれぞれ出土した。

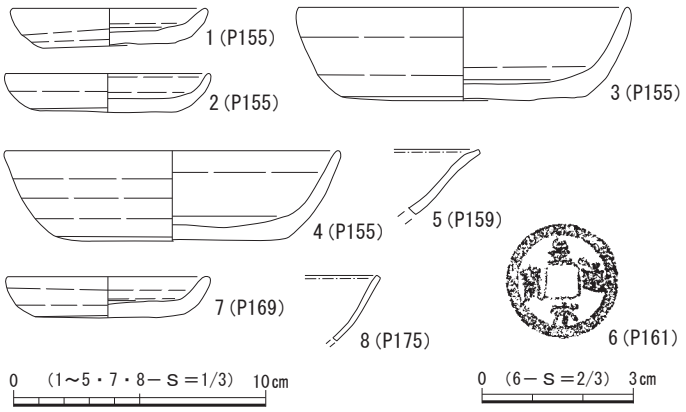


図34　第４面 ピット出土遺物

（４）第４面 遺構外出土遺物（図35）

第４面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち21点を図示した。

１～８はロクロ成形によるかわらけである。９～12は龍泉窯系青磁である。９～11は碗で碗Ⅱ－ｂ類、12は坏で坏Ⅲ－３ｂ類に比定される。13・14は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。15～21は銭貨で、15・16は開元通寶（621年初鋳）、17は景徳元寶（1004年初鋳）、18は皇宋通寶（1038年初鋳）、19・20は元豊通寶（1078年初鋳）、21は元祐通寶（1086年初鋳）である。

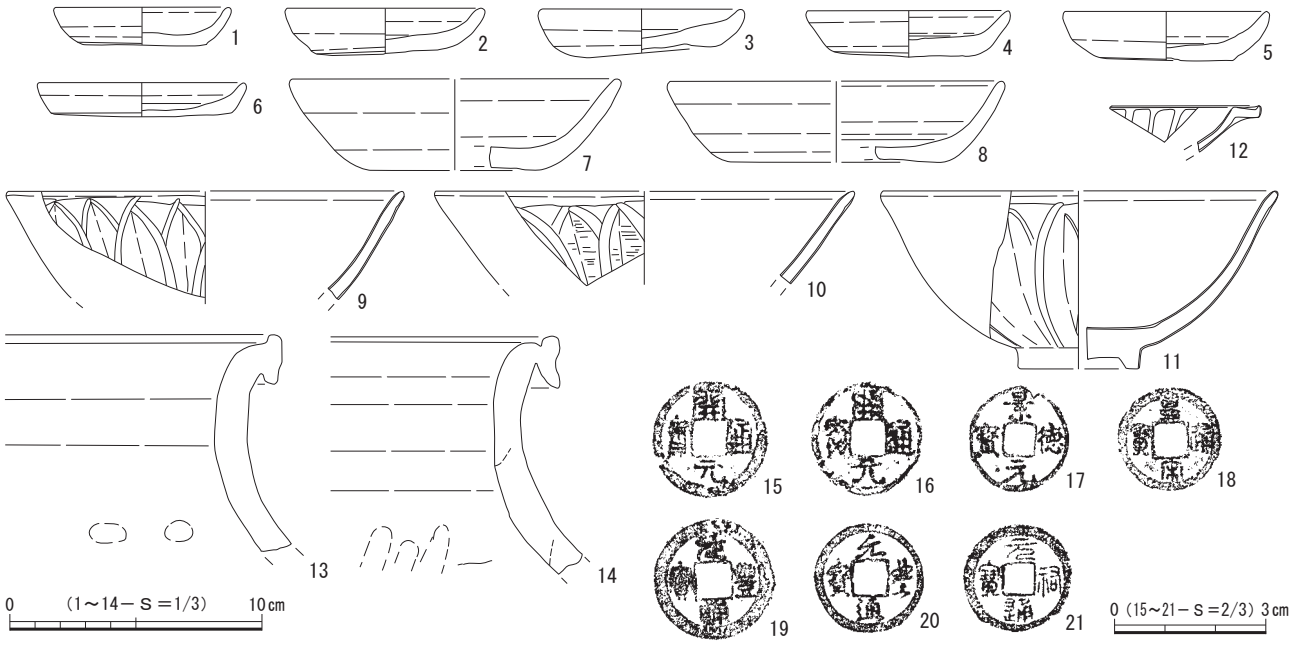


図35　第４面 遺構外出土遺物

第５節　第５面の遺構と遺物

第５面の遺構は堆積土層の20層上面で検出され、確認面の標高は20.0～20.1ｍを測る。20層は少量の砂質凝灰岩粒と粗砂を含みやや締まりのある暗褐色弱粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑３基、ピット26基である（図36）。調査区東側に遺構分布の中心があるが、

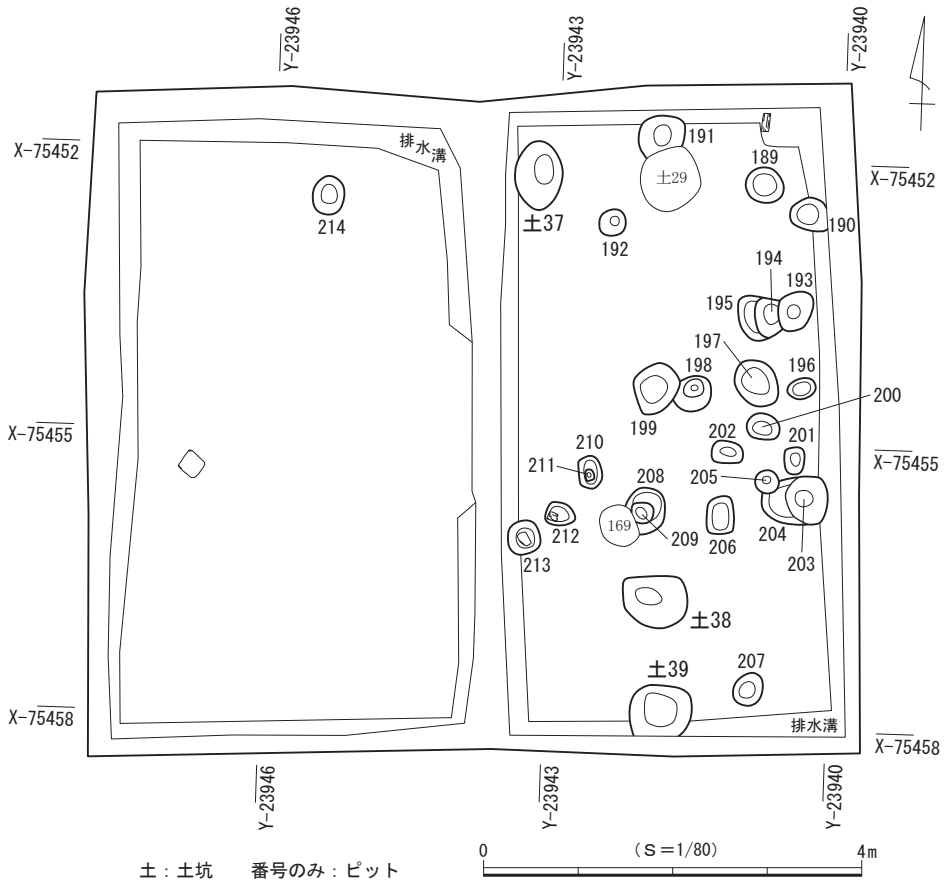


図36　第５面 遺構分布図

分布密度は低く、遺構の種類も少ない。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、石製品、金属製品、木製品、骨角製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

（１）土　坑

土坑37（図37）

調査区北壁際の中央に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、南壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸73㎝、短軸50㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は20.09ｍを測る。主軸方位はほぼ真北を指す。

遺物はかわらけ８点、陶器９点、土師質・瓦質土器２点が出土した。

土坑38（図37）

調査区の南東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸68㎝、短軸54㎝、深さ22㎝で、坑底面の標高は20.11ｍを測る。主軸方位はほぼ真東を指す。

遺物はかわらけ５点が出土した。

土坑39（図37）

調査区南壁際の東側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査

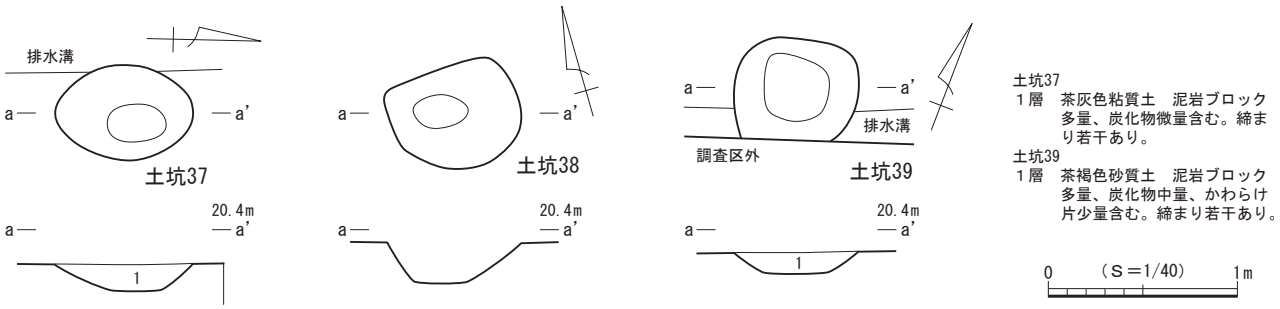


図37　第５面 土坑37～39

区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸66cm、短軸現存長54cm、深さ12cmで、坑底面の標高は20.17ｍを測る。

出土遺物（図38）

遺物はかわらけ２点、陶器２点、土師質・瓦質土器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

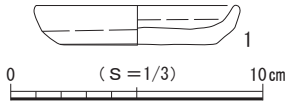


図38　第５面 土坑39出土遺物

（２）ピット

第５面では、26基を検出した。ピット214を除いた25基が調査区の東半に分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸12～50cm、深さ４～41cmを測る。26基のうち１基のピット（ピット212）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ10cm、幅８cmで、上面の標高は20.26mを測る。また、ピット213には礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ16cm、幅10cmで、上面の標高は20.24mを測る。なお、礎石・礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図39に図示した。

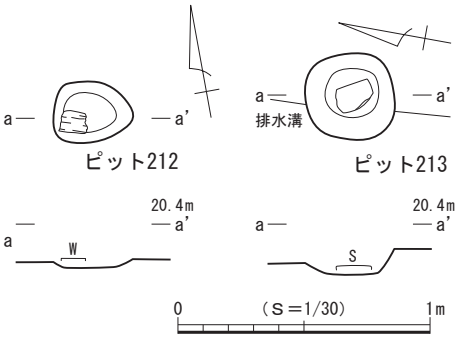


図39　第５面 ピット212・213

出土遺物（図40）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）に掲げたが、このうち４点を図示した。

１・３・４はロクロ成形によるかわらけである。２は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。

１・２はピット193、３・４はピット194からそれぞれ出土した。

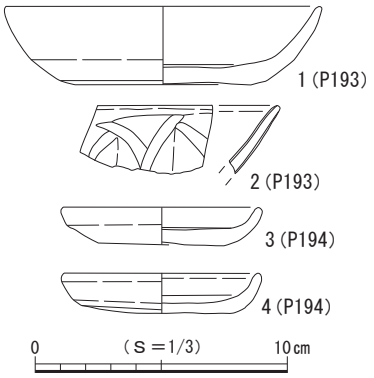


図40　第５面 ピット出土遺物

（３）第５面 遺構外出土遺物（図41）

第５面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち16点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけである。５・６は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。７・８は龍泉窯系青磁碗で、７は碗Ⅱ－ｂ類、８は碗Ⅲ－１ｂ類に比定される。９は北部系山茶碗である。10は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。11は土師質土器で南伊勢系土鍋である。12は平瓦である。13は硯である。14は骨角製品の矢筈である。15・16（ａ～ｃ）は漆製品の椀である。

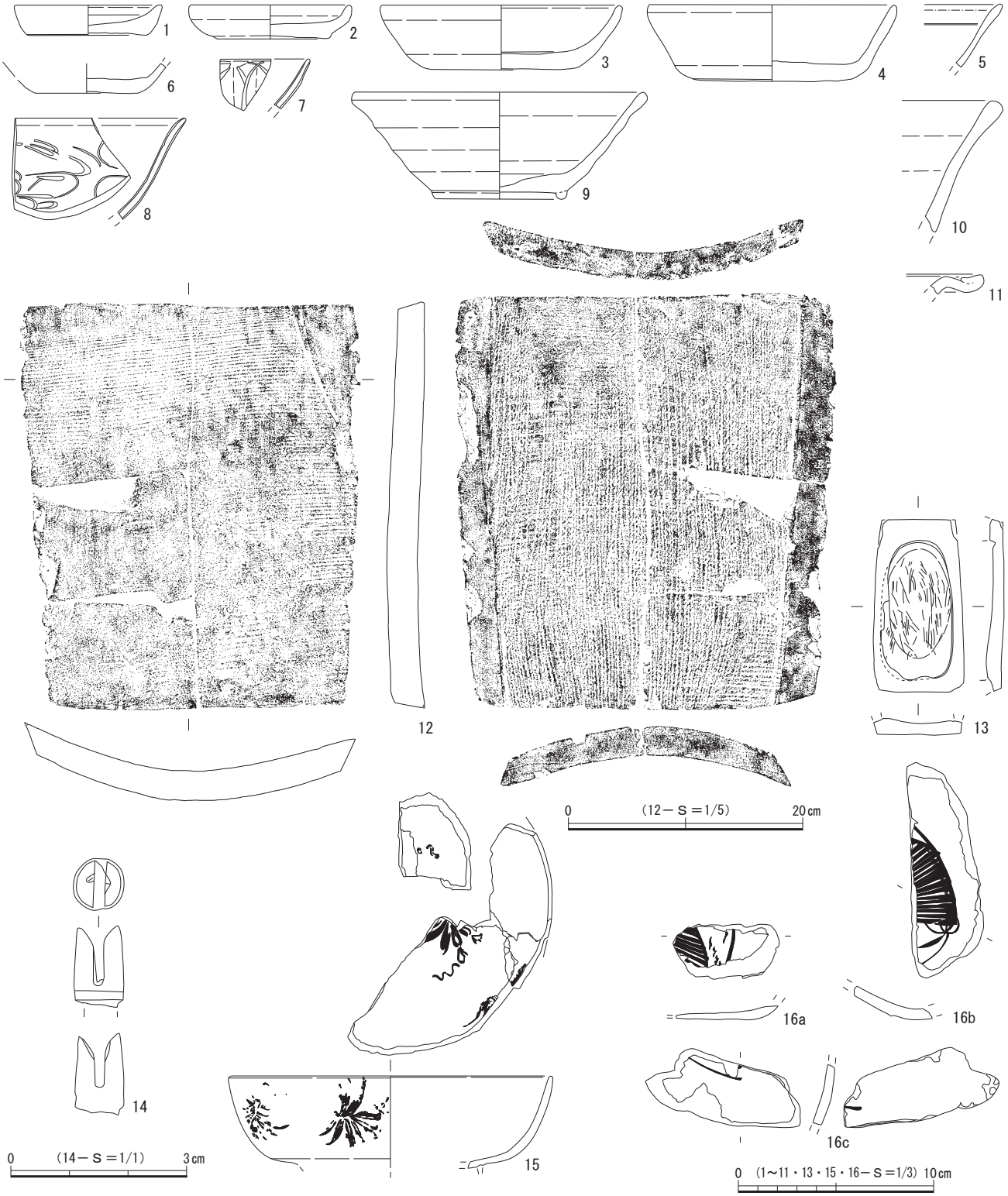


図41　第５面 遺構外出土遺物

第６節　第６面の遺構と遺物

第６面の遺構は堆積土層の22層上面で検出され、確認面の標高は約19.9ｍを測る。22層は少量の砂質凝灰岩ブロックと中量の青灰色粘土ブロックを含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎板建物２棟、石列１条、桝状遺構１基、木組遺構１基、

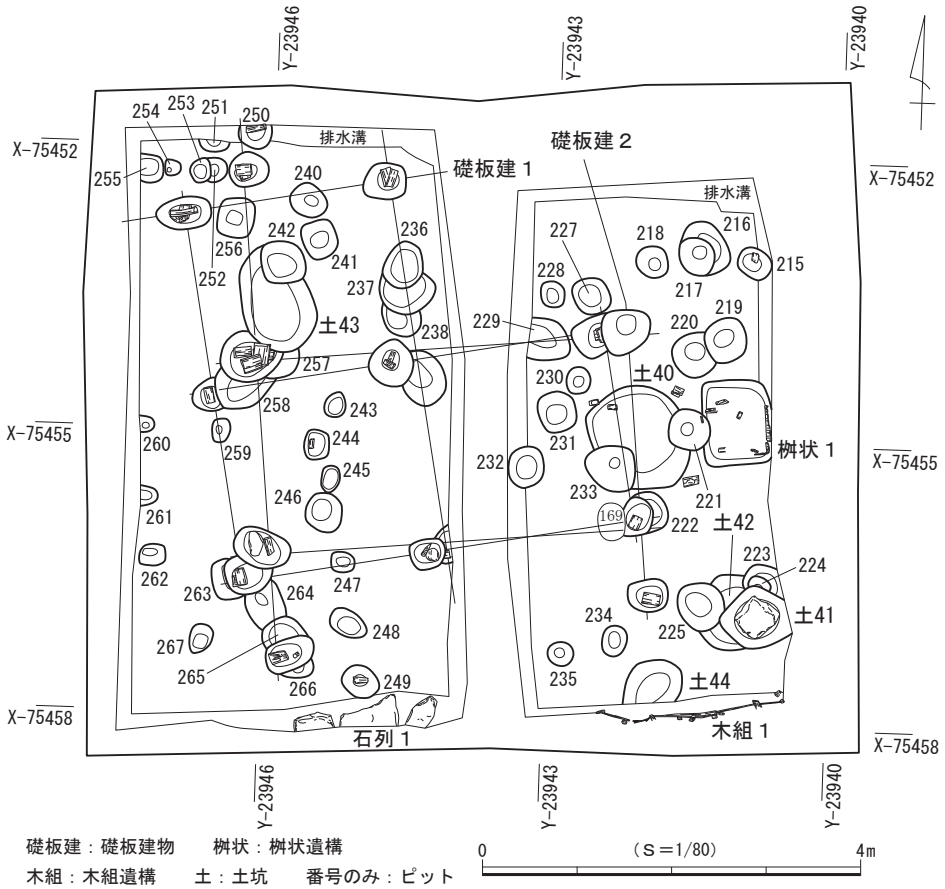


図42　第６面 遺構分布図

土坑５基、ピット51基である（図42）。調査区全域にわたって遺構が密に分布し、中央には礎板建物２棟が重複して位置する。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

（１）礎板建物

礎板建物１（図43）

調査区の中央に位置する。おそらく調査区外に展開していると推定されるが、調査区が狭小であるため全容を把握することはできなかった。調査区内では８本のピットを検出し、Ｐ４以外の７本のピットに礎板が据えられていた。礎板建物２は主軸方位が本址よりもわずかに北側に振れるが、ほぼ同じ位置で検出されており、建て替えの可能性が考えられる。Ｐ４～Ｐ７は礎石建物２のピットと重複しており、本址の方が古い。

本址は東西、南北方向がともに２間以上の規模をもつ建物と推定され、柱間寸法は心々間で南北列がすべて2.0m等間で、南面と中央の東西列が西側から2.2m、2.0m、北面の東西列が2.2mを測り、高い規格性がうかがわれる。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－７°－Ｗを指す。

ピットの平面形は円形と楕円形、隅丸方形がみられ、規模は長軸35～58㎝、深さ８～45㎝を測る。礎板の大きさは長さ12～30㎝、幅５～12㎝、厚さ２～３㎝であり、標高は礎板上面で19.69～20.03m、ピット底面で19.65～19.96mを測る。

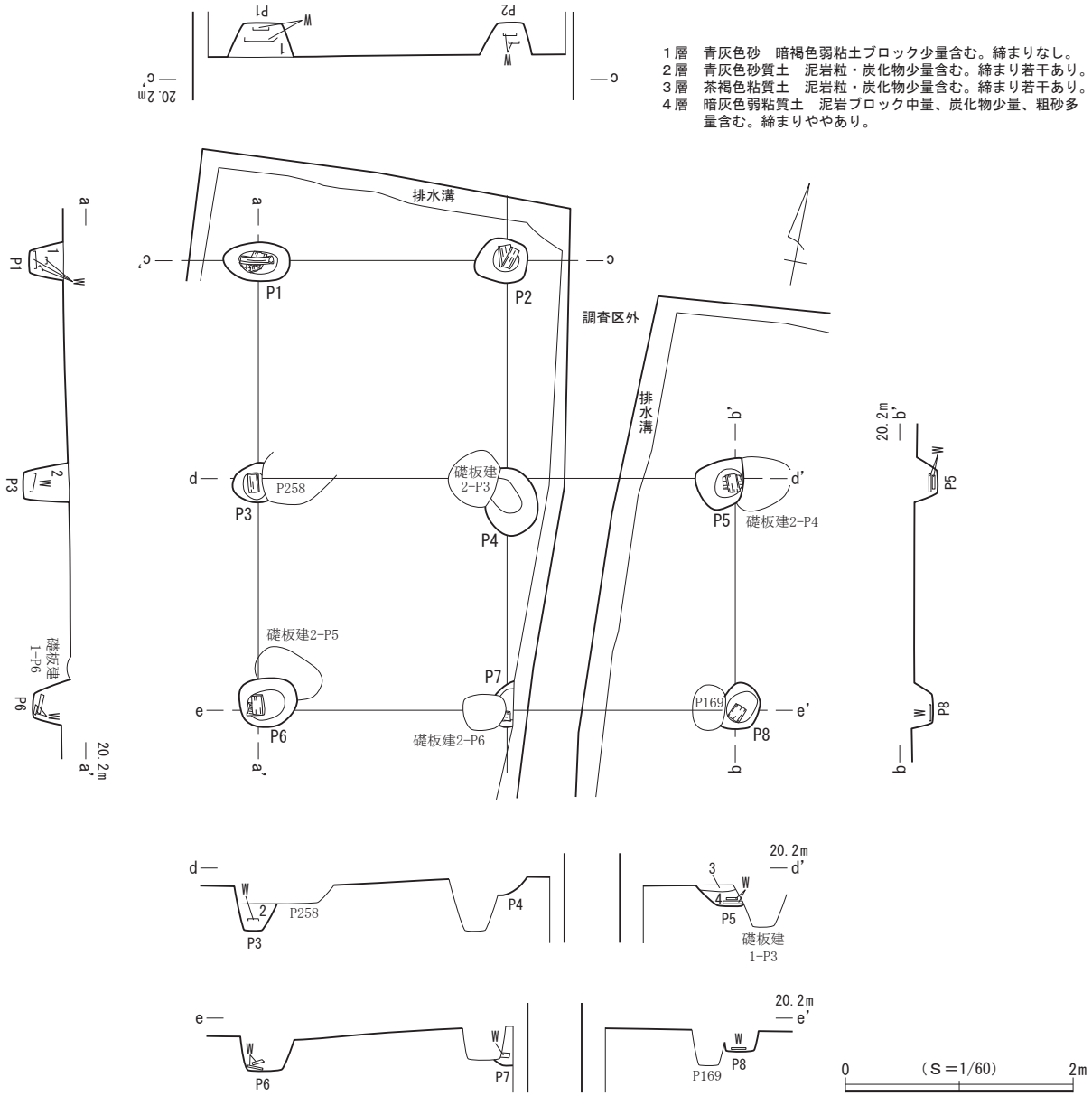


図43　第６面 礎板建物１

出土遺物（図44）

遺物はかわらけ６点、陶器３点、木製品４点が出土し、このうち１点を図示した。

１は常滑産の甕で５型式に比定される。

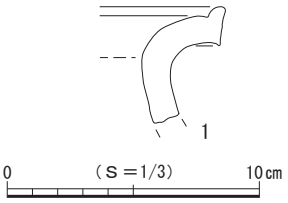


図44　第６面 礎板建物１出土遺物

礎板建物２（図45）

調査区の中央に位置する。おそらく調査区外に展開していると推定されるが、調査区が狭小であるため全容を把握することはできなかった。調査区内では９本のピットを検出し、いずれも礎板が据えられていた。礎板建物１は主軸方位が本址よりもわずかに西側に振れるが、ほぼ同じ位置で検出されており、建て替えの可能性が考えられる。Ｐ３～Ｐ６は礎石建物１のピットと重複しており、本址の方が新しい。

本址は南北方向が３間以上で、東西方向が２間以上の規模をもつ建物と推定される。柱間寸法は心々間で西面の南北列が北から2.0m、2.0m、1.2m、東面が2.0m、0.9mで、南側のＰ５とＰ８、Ｐ７とＰ９

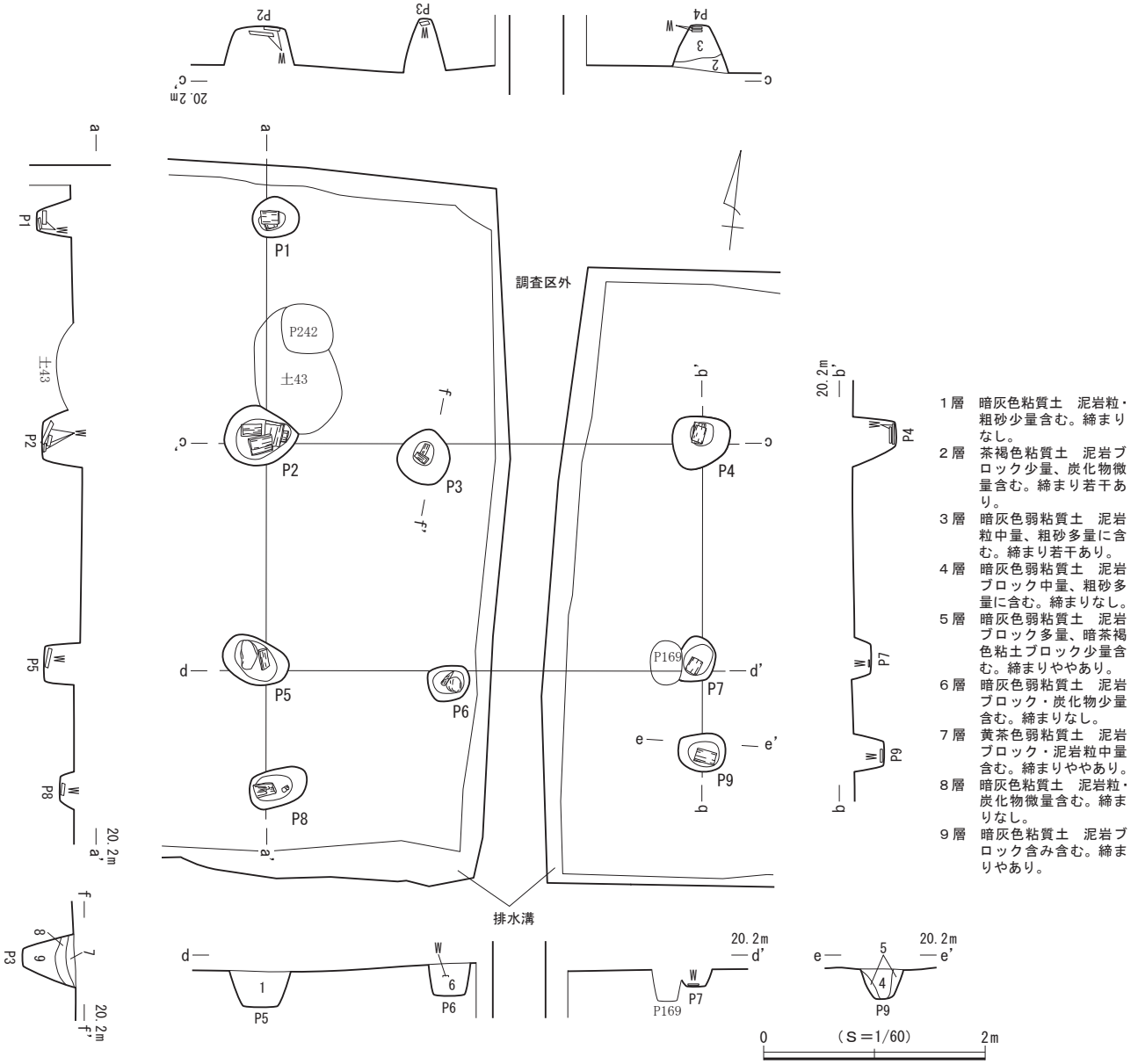


図45　第６面 礎板建物２

の柱間は狭い。また、東西列の柱間は、北面が西から1.5m、2.5m、南面が1.7m、2.2mである。検出範囲から推定される主軸方位はN－11°－Wを指す。

ピットの平面形は円形と楕円形、隅丸方形がみられ、規模は長軸37～66㎝、深さ14～49㎝を測る。礎板の大きさは長さ13～20㎝、幅５～16㎝、厚さ２～３㎝であり、標高は礎板上面で19.70～19.95m、ピット底面で19.65～19.92mを測る。

出土遺物（図46）

遺物はかわらけ６点、瓦１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は丸瓦である。

（２）石　列

石列１（図47）

調査区南壁際の中央西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。砂質凝灰

図46　第６面 礎板建物２出土遺物

岩の切石を上面の高さをそろえて列状に配置し、調査区内での規模は、現存長約1.5mを測る。切石は調査区外の南側へと続いているため大きさは明らかでないが、中央の切石は長さ63cmと大型である。切石上面の標高は20.17～20.19mを測る。主軸方位はＮ－84°－Ｅを指し、本址は礎板建物２の主軸方位に直行する向きで延びていることから、関連をもつ可能性が推定される。

遺物は出土しなかった。

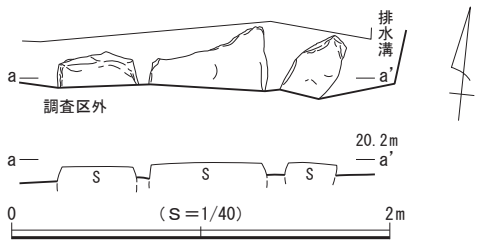


図47　第６面 石列１

（３）枡状遺構

枡状遺構１（図48）

調査区東壁際の中央に位置する。西側でピット221と重複して壁と底面の一部が壊され、東側の壁が調査区外にあるが、全容をほぼ把握することができた。平面形が隅丸方形を呈する掘り方をもち、東壁から南東隅にかけて板材を縦方向に打ち込んだ遺構で、掘り方の規模は長軸90cm、短軸71cm、深さ13cmを測る。板材の大きさは幅約10～15cm、厚さ１～２cmで、６枚が遺存していた。主軸方位はＮ－５°－Ｗを指し、本址の西側に位置する礎板建物２とほぼ同一方位であることから、同遺構に伴う床下土坑などの施設であった可能性が推定される。

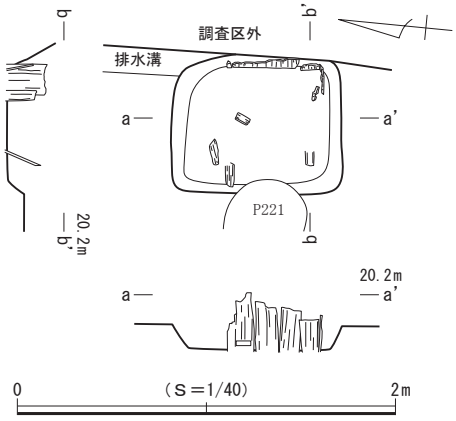


図48　第６面 枡状遺構１

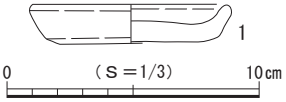


図49　第６面 枡状遺構１出土遺物

出土遺物（図49）

遺物はかわらけ22点、磁器１点、陶器５点、瓦１点、木製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

（４）木組遺構

木組遺構１（図50）

調査区南壁際の東側に位置する。東西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。横木を渡して杭をその南側に打ち込んで固定した作りで、検出範囲での現存長約2.0ｍを測る。横木は３枚検出され、大きさは東側から長さ68㎝、90㎝、30㎝、幅は８～９㎝、厚さは２㎝ほどである。杭は10本で、長さ約30～60㎝、幅５㎝前後、厚さ３～４㎝の角材を用いる。主軸方位はＮ－81°－Ｅを指し、礎板建物２の主軸方位に直行する向きで延びていることから、関連をもつ施設であった可能性が推定される。

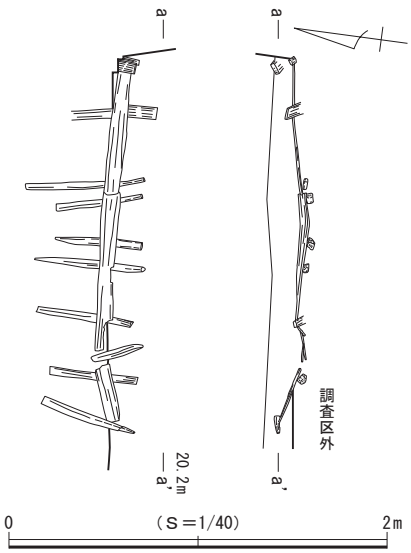


図50　第６面 木組遺構１

出土遺物（図51）

遺物はかわらけ３点、磁器１点、陶器４点、瓦１点、木製品４点が出土し、このうち１点を図示した。

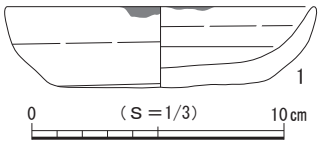


図51　第６面 木組遺構１出土遺物

１はロクロ成形によるかわらけで、口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

（５）土　坑

土坑40（図52）

調査区中央の東側に位置する。東側でピット221、南西側でピット233と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、南壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.17ｍ、短軸99㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は19.89ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

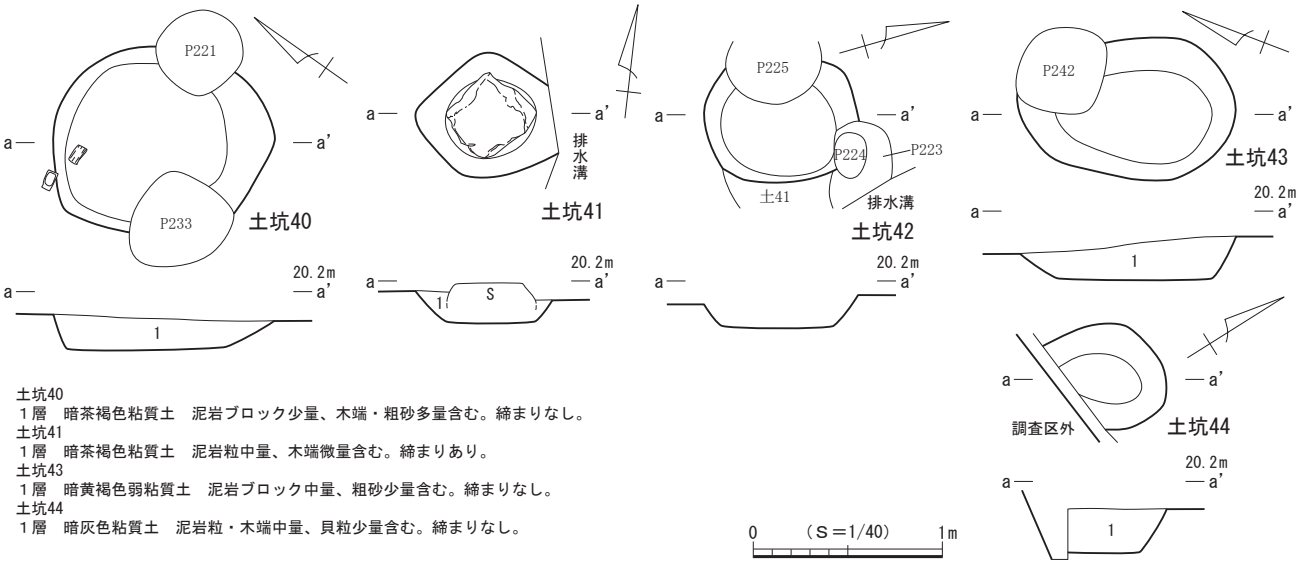
土坑41（図52）

調査区の南東隅に位置する。西側で土坑42、北側でピット223・224と重複して壊し、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長73㎝、短軸66㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は19.99ｍを測る。主軸方位はＮ－86°－Ｅを指す。ほぼ中央に長さ48㎝、幅44㎝を測る大形の礫が据えられており、礎石をもつピットの可能性が考えられる。

遺物はかわらけ２点、陶器１点が出土した。

土坑42（図52）

調査区の南東隅に位置する。北側でピット223・224、西側でピット225と重複して壁と底面の一部が壊され、土坑41に上面を削平されているため全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定する



土坑40
１層　暗茶褐色粘質土　泥岩ブロック少量、木端・粗砂多量含む。締まりなし。
土坑41
１層　暗茶褐色粘質土　泥岩粒中量、木端微量含む。締まりあり。
土坑43
１層　暗黄褐色弱粘質土　泥岩ブロック中量、粗砂少量含む。締まりなし。
土坑44
１層　暗灰色粘質土　泥岩粒・木端中量、貝粒少量含む。締まりなし。

図52　第６面 土坑40～44

と略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸80㎝、短軸59㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は19.99ｍを測る。主軸方位はＮ－17°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ５点、木製品１点が出土した。

土坑43（図52）

調査区の北西側に位置する。南側で礎板建物２のＰ２の上面を壊し、北側でピット242と重複して壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.15ｍ、短軸74㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は19.85ｍを測る。主軸方位はＮ－19°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑44（図52）

調査区南壁際の東側に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長66㎝、短軸54㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は19.82ｍを測る。主軸方位はＮ－34°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

（６）ピット

第６面では、51基を検出した。調査区の全域に満遍なく分布し、２棟の礎板建物を抽出することができたが、調査範囲内においてはその他に施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸16～59㎝、深さ３～52㎝を測る。51基のうち４基のピット（ピット215・244・249・250）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ９～20㎝、幅４～８㎝で、上面の標高は19.86～20.08ｍを測る。なお、礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図53に図示した。

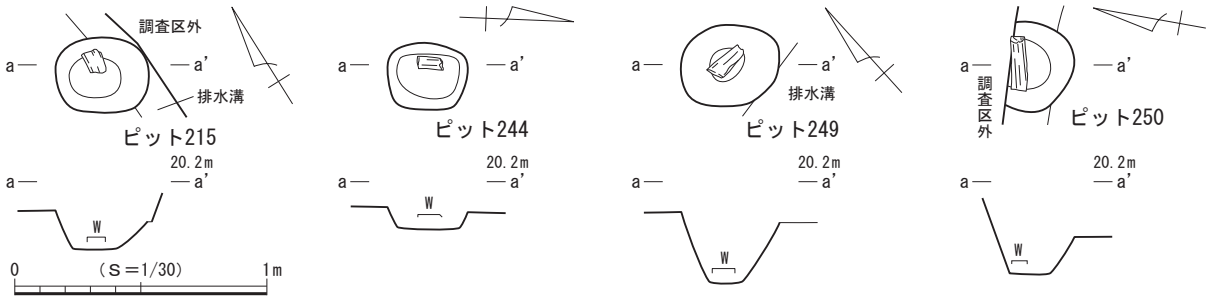


図53　第６面 ピット215・244・249・250

出土遺物（図54）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）に掲げたが、このうち３点を図示した。

１は北部系山茶碗である。２はロクロ成形によるかわらけである。３は火鉢でＩＣ類に比定される。

１はピット221、２はピット236、３はピット241からそれぞれ出土した。

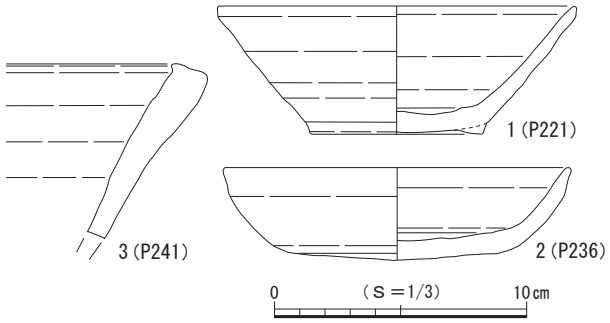


図54　第６面 ピット出土遺物

（７）第６面 遺構外出土遺物（図55）

第６面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち21点を図示した。

１～７はロクロ成形によるかわらけで、２・５の口縁部から内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。８は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。９・10は龍泉窯系青磁碗で、９は碗Ⅱ－ｂ類、10は碗Ⅲ類に比定される。11・12は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。13は火鉢でＩＣ類に比定される。14は銭貨で天聖元寶（1023年初鋳）である。15～21は木製品で、その中で15～17は漆製品となる。15・16は皿、17は器種不明である。18は栓、19・20は用途不明、21は球である。

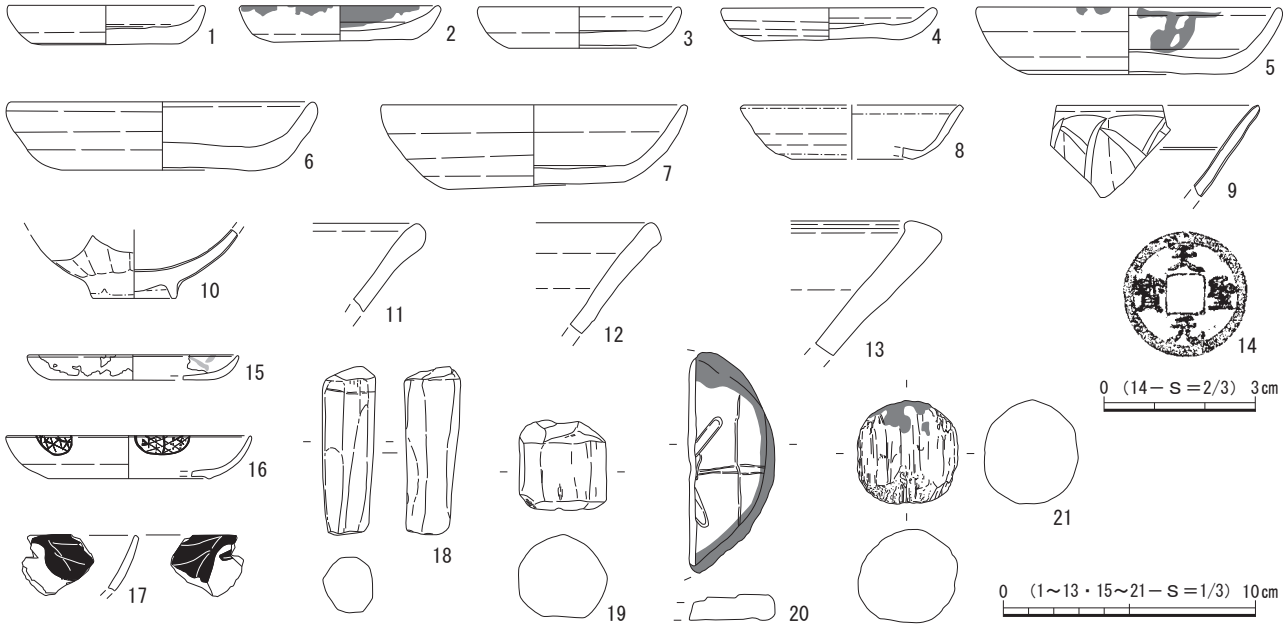


図55　第６面 遺構外出土遺物

第７節　第７面の遺構と遺物

第７面の遺構は堆積土層の25・27層上面で検出され、確認面の標高は19.7～19.8ｍを測る。25層は多量の砂質凝灰岩ブロック・粗砂、微量の木片を含む暗灰色粘質土層、27層は少量の砂質凝灰岩粒を含み締まりのある暗茶色弱粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎板建物２棟、掘立柱建物１棟、溝状遺構１条、土坑３基、ピット23基である（図56）。調査区全域にわたって遺構が密に分布し、中央から北側にかけて礎板建物２棟と掘立柱建物１棟が重複して検出されている。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉頃に属すると考えられる。

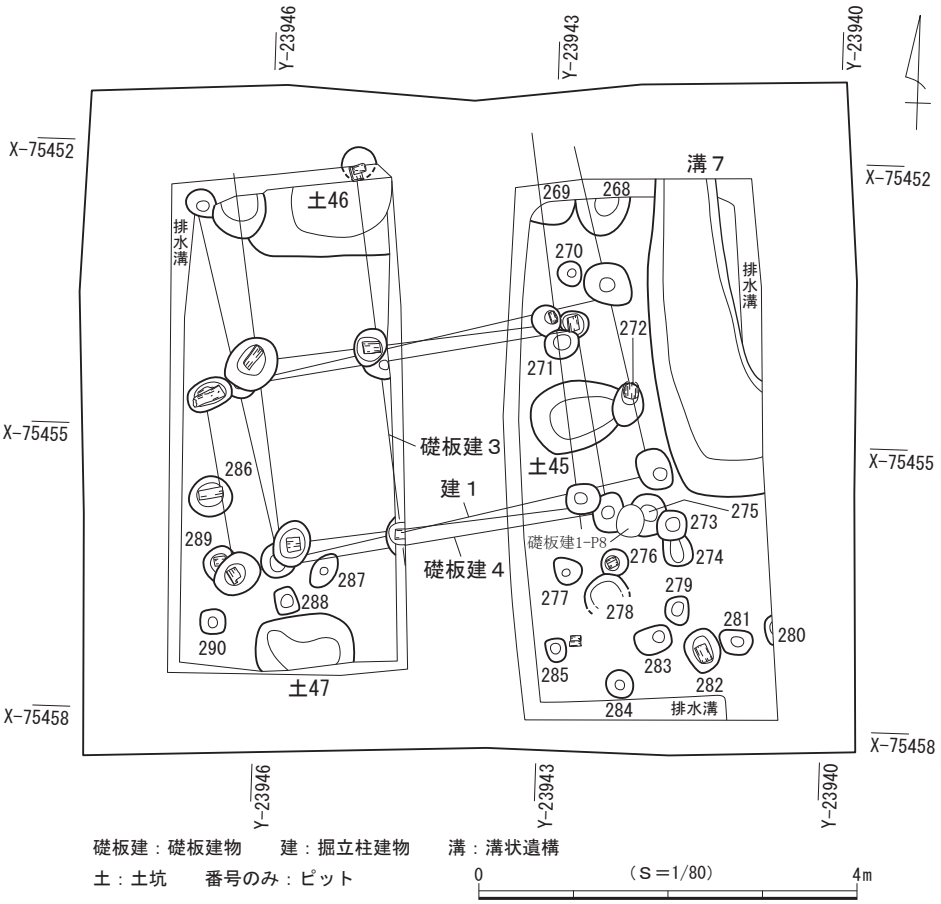


図56　第７面 遺構分布図

（１）礎板建物

礎板建物３（図57）

調査区の中央から北側にかけて位置する。ピットの配置から遺構の広がりを推定すると、少なくとも北側の調査区外に展開していると考えられ、全容を把握することができなかった。調査区内では８本のピットを検出し、礎板をもつピットは６本（Ｐ２～Ｐ７）である。本址とほぼ同じ場所に掘立柱建物１、礎板建物４とした２棟の建物が重複しており、立て替えが行われた可能性も推定される。新旧関係については、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ６が掘立柱建物１のピット、Ｐ４・Ｐ５・Ｐ８が礎板建物４のピットと重複して壊していることから、本址が最も新しい時期に位置づけられる。

本址は東西、南北方向がともに２間以上の規模をもつ建物と推定され、柱間寸法は心々間で西面の南

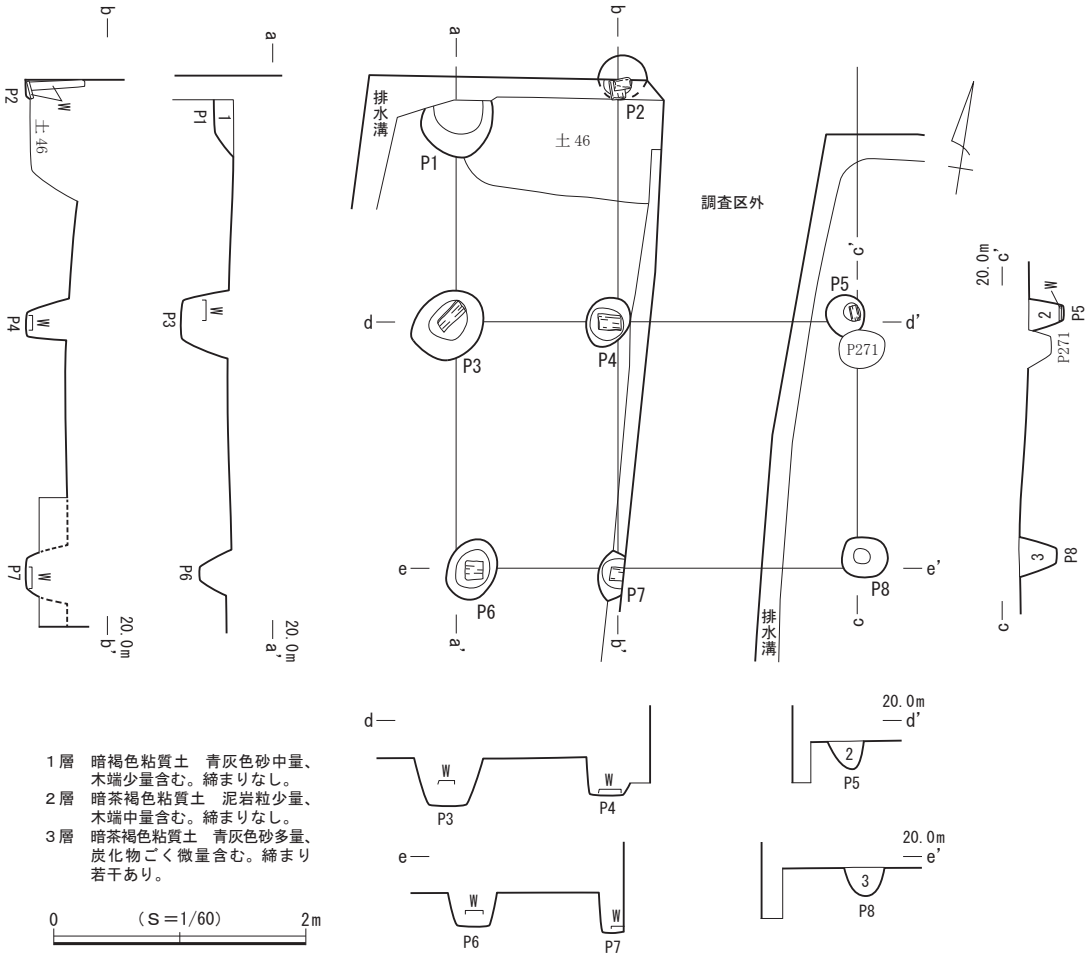


図57　第７面 礎板建物３

北列が北から1.6m、2.1m、中央が1.9m、2.0m、東面が2.0mで、南面の東西列が西側から1.2m、1.9m、中央が1.2m、2.0m、北面が1.3mを測る。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－９°－Ｗを指す。

ピットの平面形は円形と楕円形がみられ、規模は長軸36～57㎝、深さ22～37㎝を測る。礎板の大きさは長さ12～25㎝、幅６～15㎝、厚さ２～３㎝であり、標高は礎板上面で19.40～19.58m、ピット底面で19.28～19.57mを測る。

遺物はかわらけ４点、陶器１点が出土した。

礎板建物４（図58）

調査区の中央から北側にかけて位置する。ピットの配置から遺構の広がりを推定すると、少なくとも北側の調査区外に展開していると考えられ、全容を把握することができなかった。調査区内では５本のピットを検出し、礎板をもつピットは３本（Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４）である。本址とほぼ同じ場所に掘立柱建物１、礎板建物３とした２棟の建物が重複しており、立て替えが行われた可能性も推定される。新旧関係については、Ｐ１が掘立柱建物１のピットと重複して壊し、Ｐ２・Ｐ３・Ｐ５が礎板建物３のピットと重複して壊されていることから、本址は礎板建物３よりも古く、掘立柱建物１よりも新しい時期に位置づけられる。

本址は南北方向が１間以上、東西方向が２間以上の規模をもつ建物と推定され、柱間寸法は心々間で南北列は東面、西面とも2.0m、東西列は北面が2.0m等間、南面が4.0mを測る。南面の柱間が他と比べ

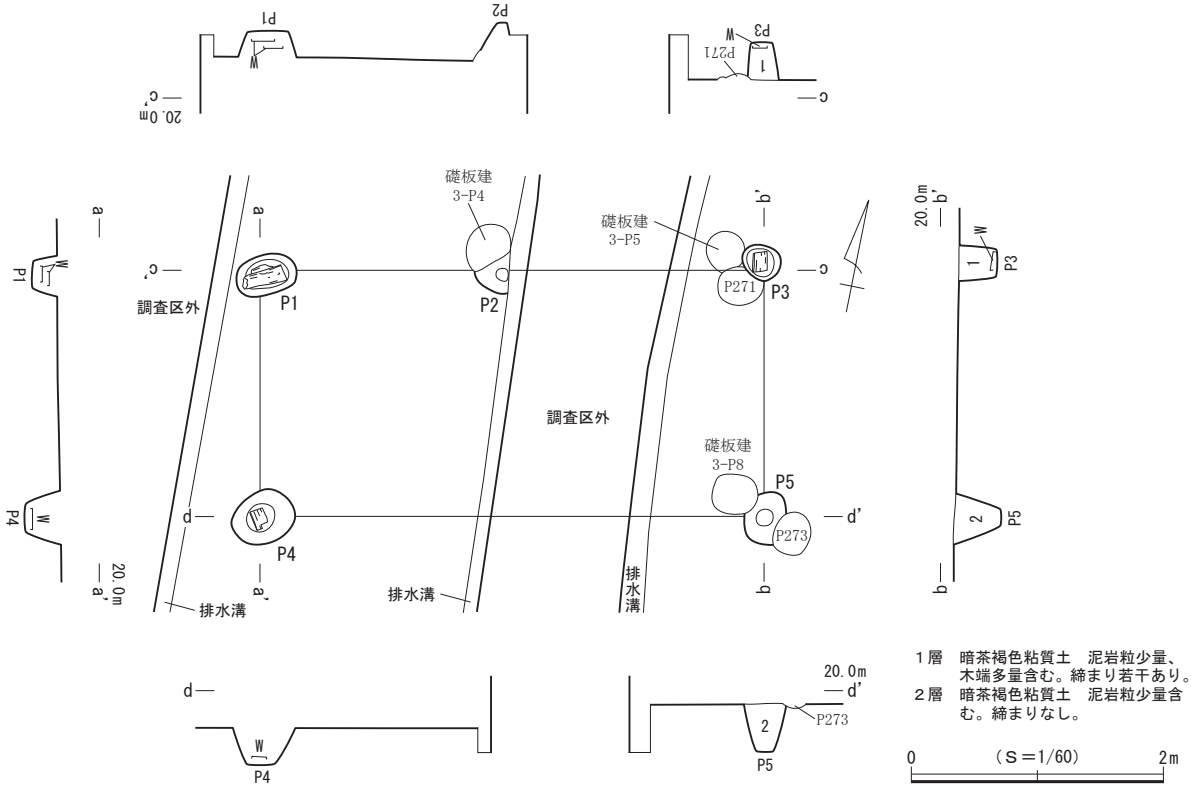


図58　第７面 礎板建物４

て広く、本址の中央を南北に縦断する調査区外に未確認の柱が存在する可能性が高い。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－11°－Ｗを指す。

ピットの平面形は円形と楕円形、隅丸方形がみられ、規模は長軸31～50㎝、深さ20～38㎝を測る。礎板の大きさは長さ15～34㎝、幅10㎝であり、標高は礎板上面で19.50～19.62ｍ、ピット底面で19.40～19.57ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（２）掘立柱建物

掘立柱建物１（図59）

調査区の中央から北側にかけて位置する。ピットの配置から遺構の広がりを推定すると、少なくとも北側の調査区外に展開していると考えられ、全容を把握することができなかった。調査区内では５本のピットを検出した。本址とほぼ同じ場所に礎板建物３・４とした２棟の建物が重複しており、立て替えが行われた可能性も推定される。新旧関係については、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４が礎板建物３・４のピットと重複して壊されていることから、本址が最も古い時期に位置づけられる。

本址は南北方向が２間以上、東西方向が１間以上の規模をもつ建物と推定され、柱間寸法は心々間で南北列がすべて1.9ｍ等間、東西列は4.0ｍ等間であるが、柱間寸法が長いため、本址の中央を南北に縦継する調査区外に未確認の柱が存在する可能性が高い。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－15°－Ｗを指す。

ピットの平面形は円形と楕円形、隅丸方形がみられ、規模は長軸31～55㎝、深さ27～50㎝を測る。ピット底面の標高は19.29～19.46ｍを測る。

遺物はかわらけ１点、陶器２点が出土した。

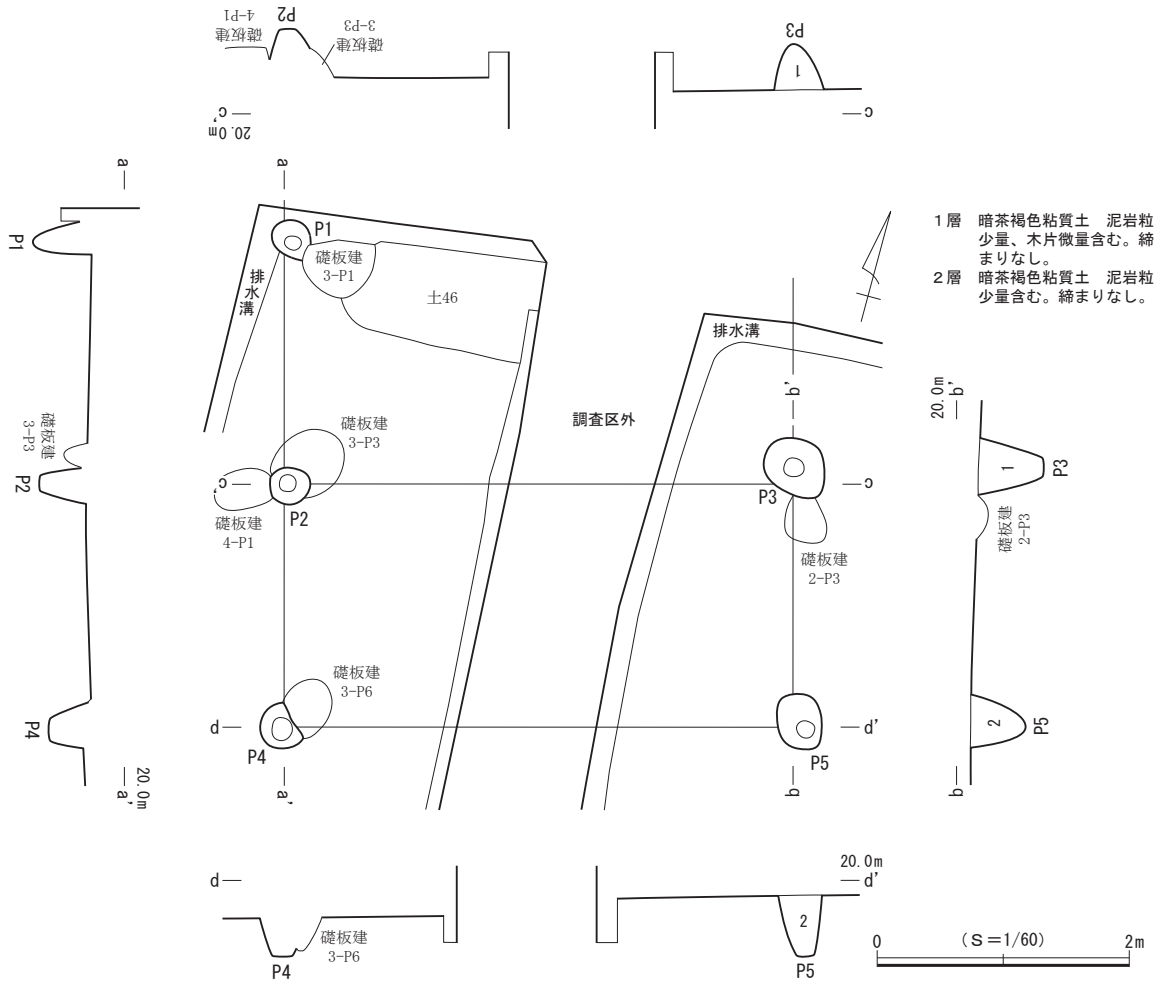


図59　第７面 掘立柱建物１

（３）溝状遺構

溝状遺構７（図60）

調査区の北東側に位置する。コーナー部分を検出し、Ｌ字状に延びて北側と東側が調査区外へと続いている。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。検出した規模は現存長約3.4m、幅約0.6～1.2m、深さ17～26㎝で、主軸方位はＮ－９°－Ｗを指し、ほぼ直角に屈曲して東側の調査区外へ延びる。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で19.66m、南側で19.59mを測る。

出土遺物（図61）

遺物はかわらけ26点、磁器１点、陶器17点、木製品７点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

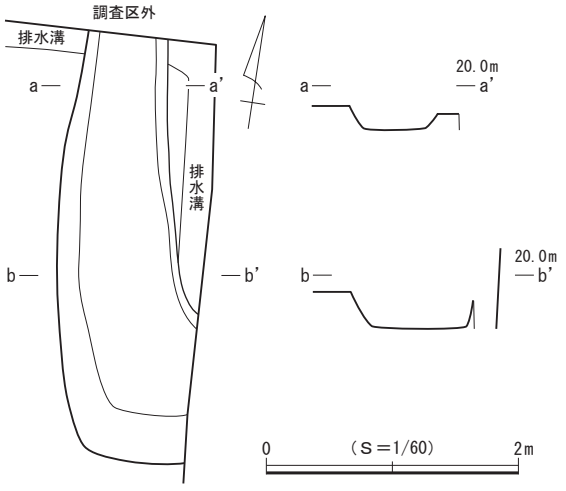


図60　第７面 溝状遺構７

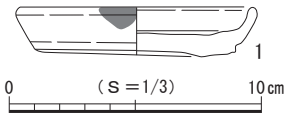


図61　第７面 溝状遺構７出土遺物

（４）土　坑

土坑45（図62）

調査区中央の東側に位置する。東側でピット272と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.00ｍ、短軸73㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は19.70ｍを測る。主軸方位はＮ－68°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑46（図62）

調査区の北西側に位置する。西側で礎板建物３のＰ１と重複して上面が削平され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長80㎝、東西現存長1.62ｍ、深さ39㎝で、坑底面の標高は19.42ｍを測る。主軸方位はＮ－87°－Ｅを指すと考えられる。

出土遺物（図63）

遺物はかわらけ27点、磁器１点、陶器３点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

土坑47（図62）

調査区南西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められず、南側が調査外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らだが不整形である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.04ｍ、短軸現存長56㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は19.55ｍを測る。主軸方位はＮ－80°－Ｅを指す。

出土遺物（図64）

遺物はかわらけ11点、陶器２点、木製品14点が出土し、このうち４点を図示した。

１は白かわらけである。２～４はロクロ成形によるかわらけで、１～３の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

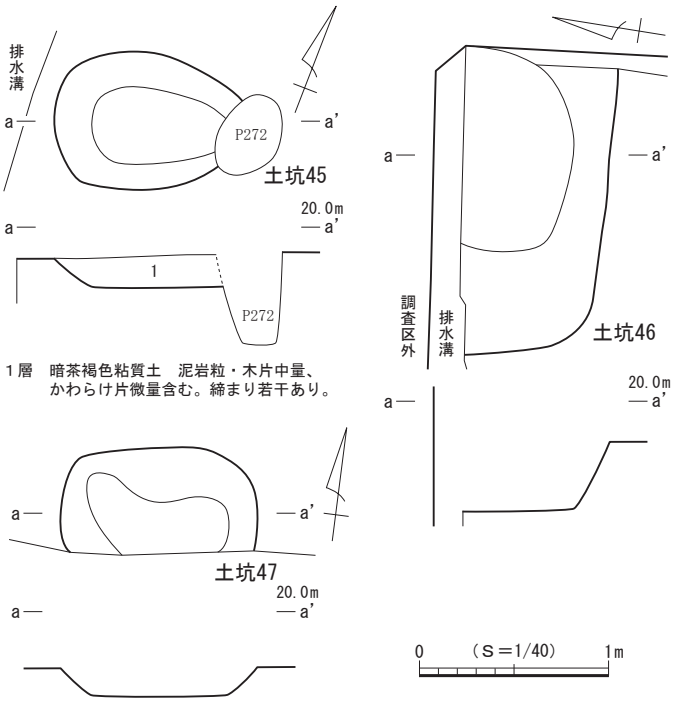


図62　第７面 土坑45～47

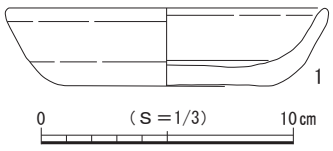


図63　第７面 土坑46出土遺物

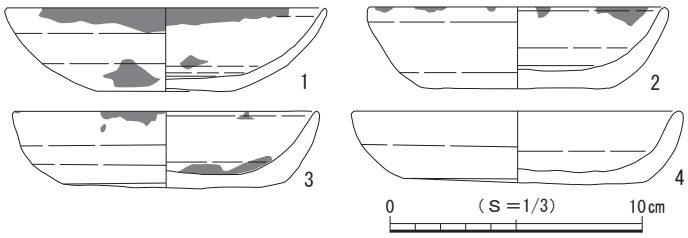


図64　第７面 土坑47出土遺物

（5）ピット

第７面では、23基を検出した。調査区の中央から北側にかけて礎板建物２棟と掘立柱建物１棟が重複して検出され、これらに属するピットを除くと主に調査区の南側を中心に分布するが、施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸25～57㎝、深さ10～49㎝を測る。23基のうち５基のピット（ピット272・276・282・286・289）に礎板が据えられており、このうちピット272の礎板は、径19㎝の面取りした柱に再加工を施して転用したものであった。礎板の大きさは長さ10～25㎝、幅４～８㎝で、上面の標高は19.86～20.08ｍを測る。なお、礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図65に図示した。

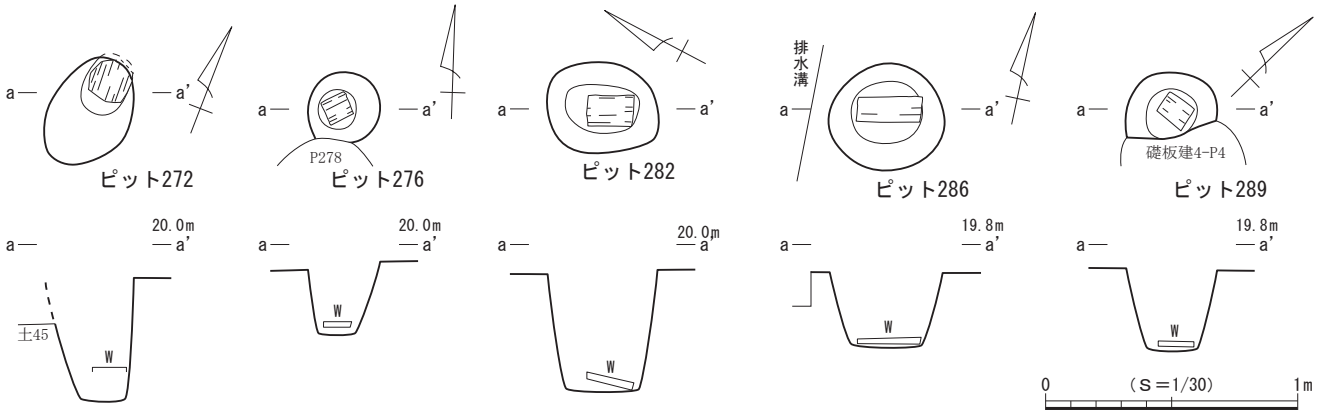


図65　第７面 ピット272・276・282・286・289

出土遺物（図66）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）に掲げたが、このうち２点を図示した。

１・２は木製品で、１は用途不明、２は柱材（八角柱）を転用した礎板である。１・２ともピット272から出土した。

（6）第７面 構成土出土遺物（図67）

第７面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち10点を図示した。

１は白かわらけで、口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。２はロクロ成形によるかわらけ、３・４は手づくね成形によるかわらけである。５は中国産陶器の黄釉盤である。６～８は常滑産の陶器類である。６は甕で５型式に比定される。７は片口鉢Ⅰ類、８は片口鉢Ⅱ類で５型式に比定される。９・10は漆製品で、９は皿、10は椀である。

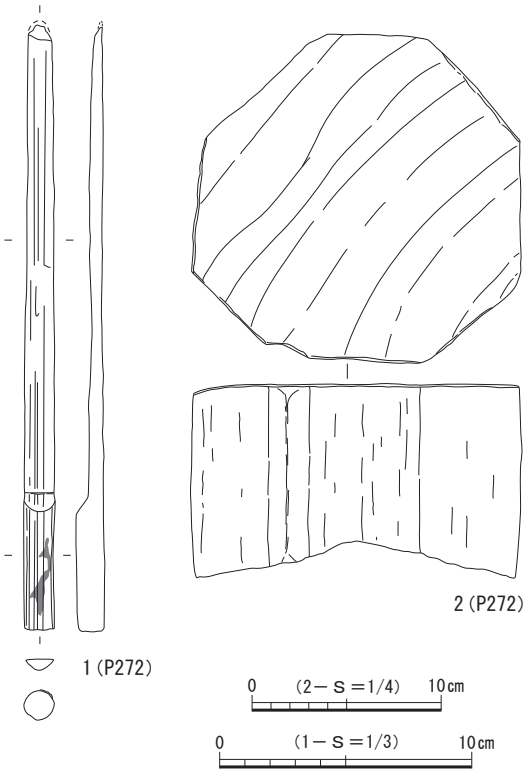


図66　第７面 ピット出土遺物

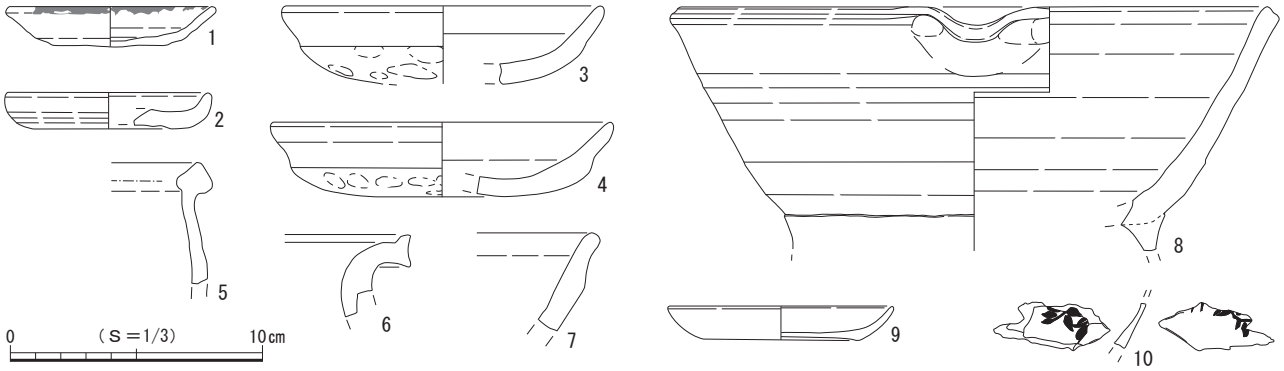


図67　第７面 構成土出土遺物

第８節　第８面の遺構と遺物

第８面の遺構は堆積土層の29・30層上面で検出され、確認面の標高は19.3～19.4mを測る。29層は多量の砂質凝灰岩ブロックを含みやや締まりのある暗茶色粘質土層、30層は少量の砂質凝灰岩粒を含み締まりのある暗褐色弱粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構２条、土坑５基、ピット17基である（図68）。主体となる遺構は平行する２条の溝状遺構で、北西－南東方向に調査区を斜めに横切る。遺構は調査区全域にわたって分布し、重複するものも認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

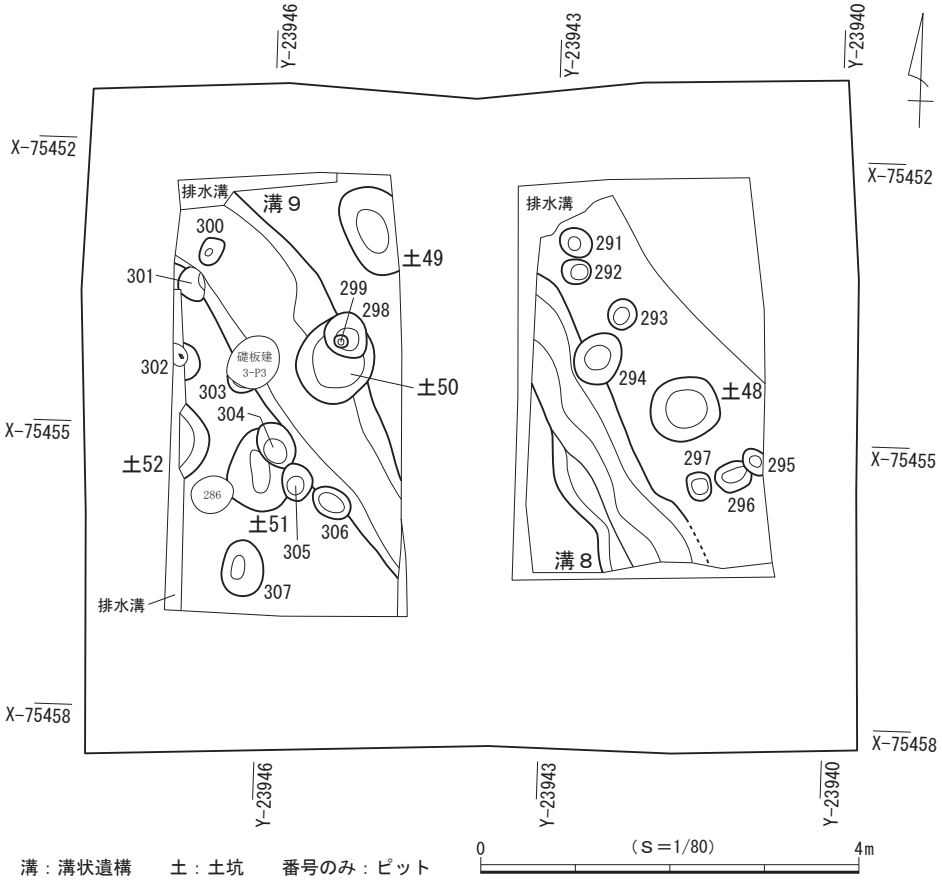


図68　第８面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構８（図70）

調査区の東側に位置する。北西－南東方向に調査区をおおむね直線的に斜めに横切り、両端は調査区外の南北側に続く。調査区内ではピット294と重複して壁の一部が壊されている。検出した規模は現存長約3.5m、幅0.7～1.0m、深さ17㎝で、主軸方位はＮ－27°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。南半の西壁には深さ15㎝を測るテラス状の段が認められることから、作り替えが行われた可能性が考えられる。底面はほぼ平らで、標高は北側で19.39m、南側で19.45mを測り、北側に向かって傾斜している。西側に80㎝ほど離れた場所に溝状遺構９が平行して走っており、関連をもつ遺構であった可能性も考えられる。

遺物はかわらけ64点、陶器５点、木製品25点が出土した。

溝状遺構９（図70）

調査区の西側に位置する。北西－南東方向に調査区をおおむね直線的に斜めに横切り、両端は調査区外の南北側に続く。調査区内では第７面で検出された礎板建物３のＰ３によって壊され、土坑50、ピット300・301・304～306と重複して壁と底面の一部が壊されている。検出した規模は現存長約4.5m、幅0.7～1.2m、深さ12～17㎝で、主軸方位はＮ－32°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で19.43m、南側で19.45mを測る。東側に80㎝ほど離れた場所に溝状遺構８が平行して走っており、関連をもつ遺構であった可能性も考えられる。

出土遺物（図69）

遺物はかわらけ64点、陶器５点、金属製品１点が出土し、このうち２点を図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。２は金属製品で用途不明である。

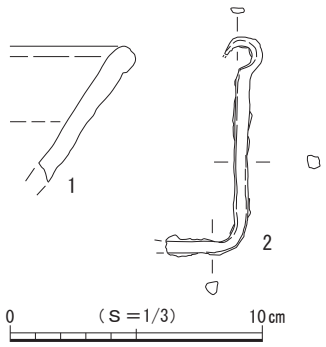


図69　第８面 溝状遺構９出土遺物

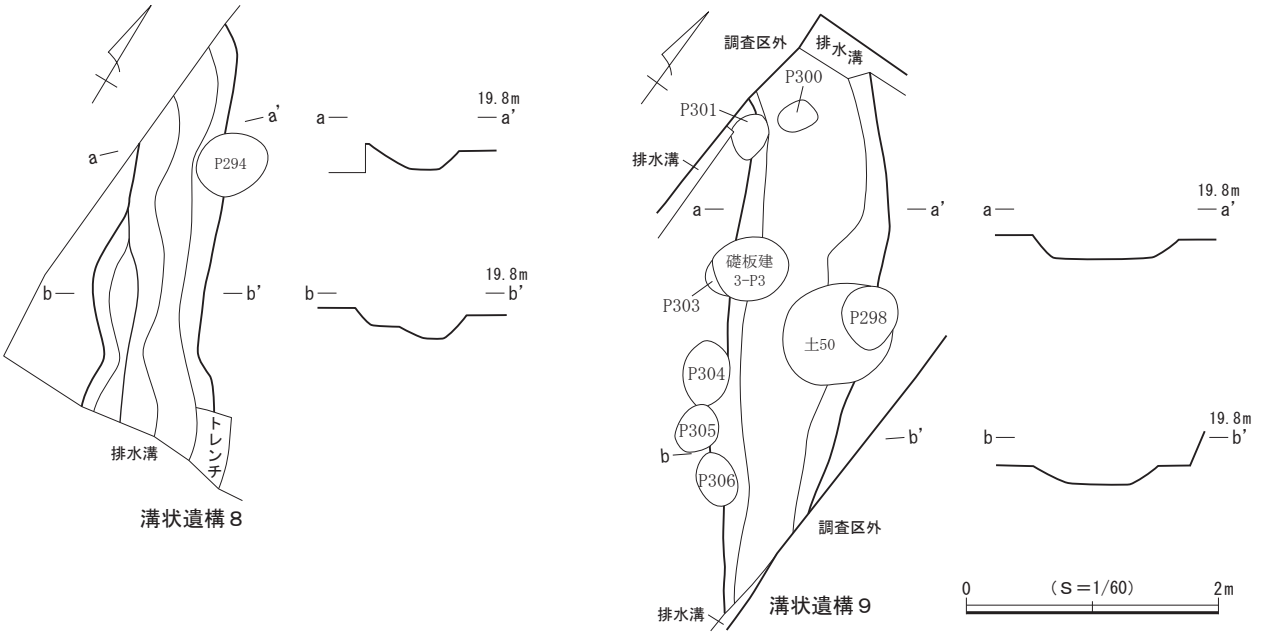


図70　第８面 溝状遺構８・９

（2）土　坑

土坑48（図72）

調査区東側の中央に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸73㎝、短軸66㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は19.48ｍを測る。

出土遺物（図71）

遺物はかわらけ23点、陶器１点が出土し、このうち３点を図示した。１・２は白かわらけである。３は手づくね成形によるかわらけである。

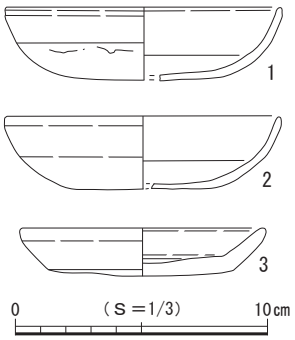


図71　第８面 土坑48出土遺物

土坑49（図72）

調査区の北西側に位置する。調査区の境で検出されたため、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸97㎝、短軸現存長60㎝、深さ23㎝で、坑底面の標高は19.28ｍを測る。主軸方位はＮ－30°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ６点が出土した。

土坑50（図72）

調査区西側の中央付近に位置する。溝状遺構９と重複して壊し、北側でピット298・299と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長90㎝、短軸79㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は19.43ｍを測る。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑51（図72）

調査区南西側に位置する。西側で第７面のピット286、東側でピット304・305と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸87㎝、短軸現存長60㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は19.41ｍを測る。主軸方位はＮ－８°－Ｗを指す。

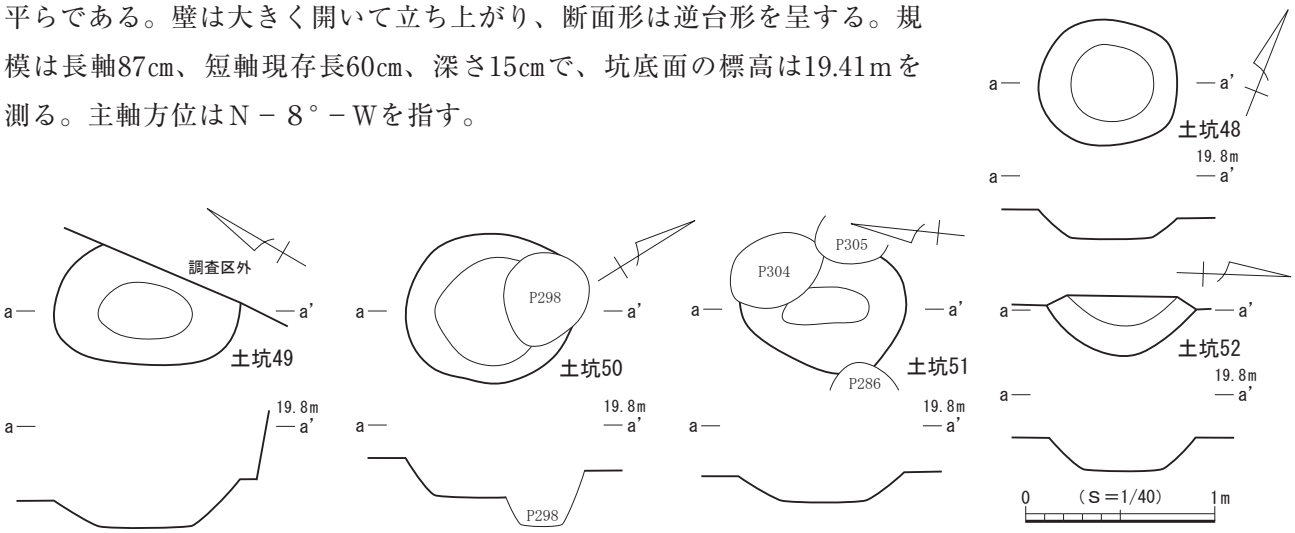


図72　第８面 土坑48～52

出土遺物（図73）

遺物はかわらけ３点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。

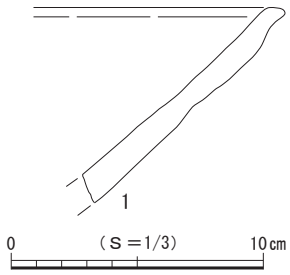


図73　第８面 土坑51出土遺物

土坑52（図72）

調査区西壁際の中央に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形や主軸方位は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長78㎝、東西現存長32㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は19.41ｍを測る。

遺物はかわらけ３点が出土した。

（３）ピット

第８面では、17基を検出した。調査区を北西－南東方向に平行して走る２条の溝状遺構の東西側に散漫に分布し、重複するものは少ない。調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸14～59㎝、深さ８～79㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は17基中、６基（ピット291・294・298・300・301・307）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）を参照されたい。

（４）第８面 遺構外出土遺物（図74）

第８面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち６点を図示した。

１～６は木製品で、その中で１～３は漆製品となる。１～３は皿、４は椀、５・６は連歯下駄である。

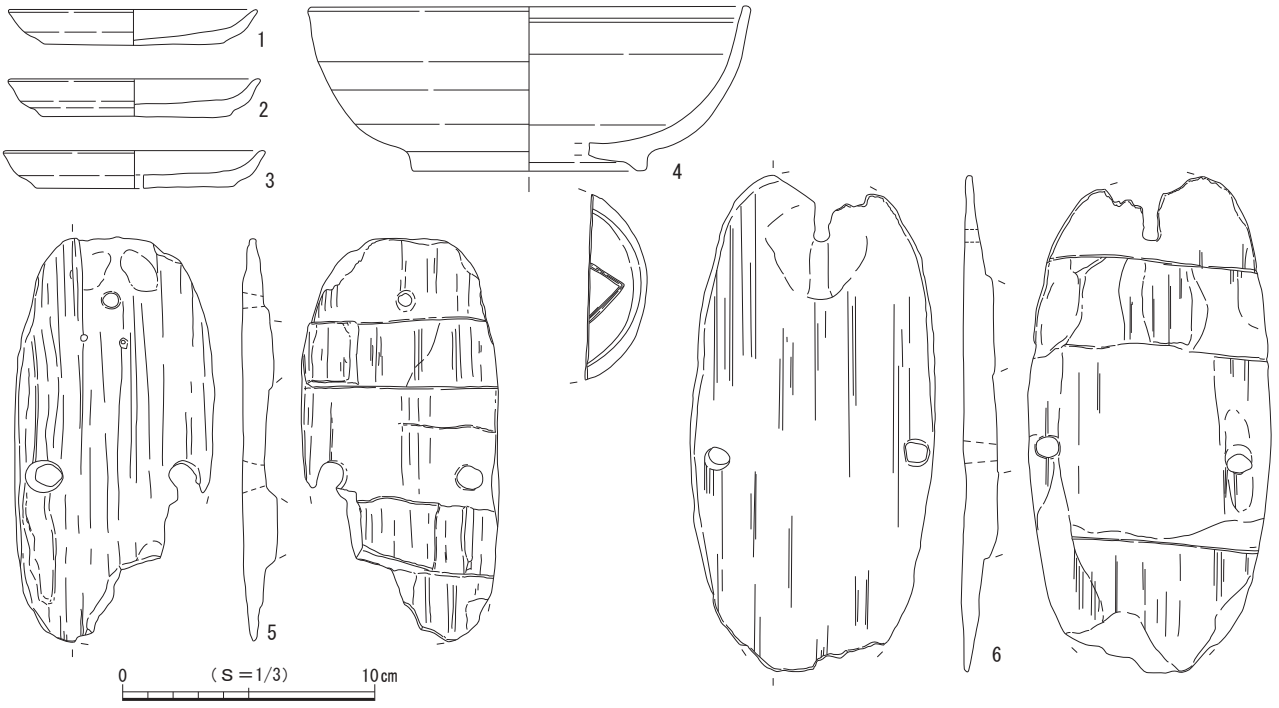


図74　第８面 遺構外出土遺物

第９節　第９面の遺構と遺物

第９面の遺構は堆積土層の31層上面で検出され、確認面の標高は19.1～19.4ｍを測る。31層は微量の砂質凝灰岩粒を含み締まりのある灰褐色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎板建物１棟、土坑２基、ピット36基である（図75）。調査区北東側は岩盤が露出し、土坑１基と礎板建物のピットが２基検出されたのみであり、遺構は主に調査区西側に集中して分布し遺構密度も高い。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、石製品、骨角製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉頃に属すると考えられる。

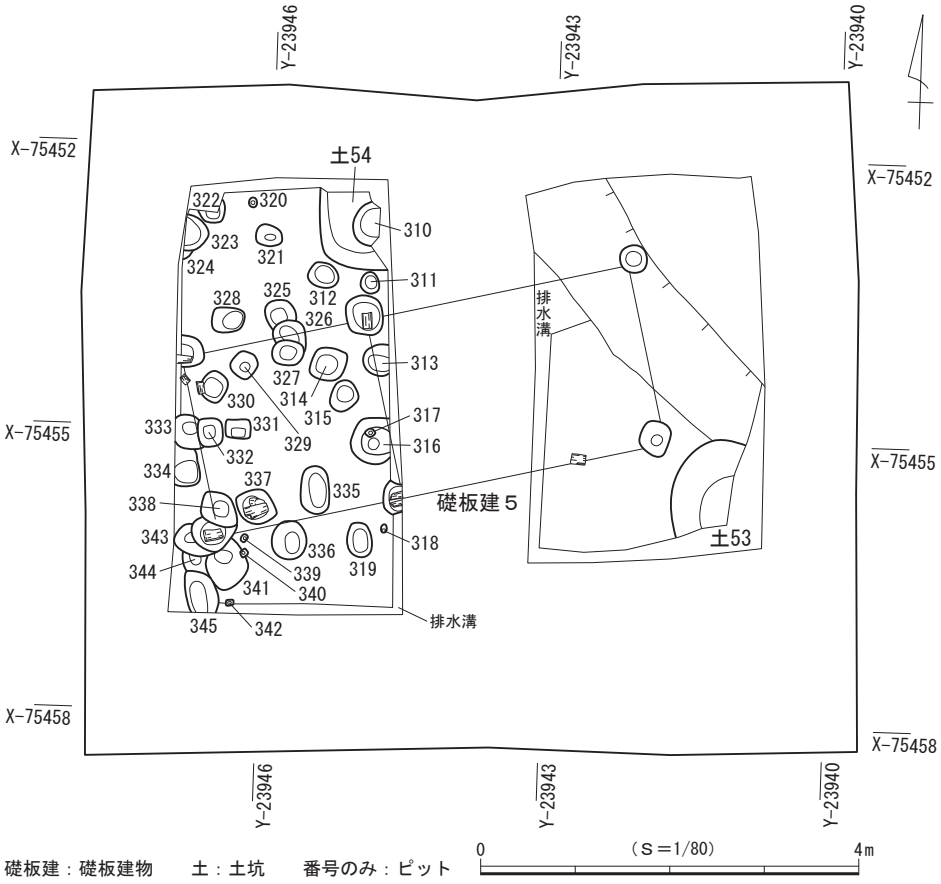


図75　第９面 遺構分布図

（１）礎板建物

礎板建物５（図76）

調査区の中央に位置する。調査区が狭小なため遺構の広がりは明らかでないが、ピットの配置から推定すると調査区外へと展開する可能性が高い。調査区内では６本のピットと礎板１基を検出し、礎板をもつピットは４本（Ｐ１・Ｐ２・Ｐ６・Ｐ７）である。Ｐ７が北側でピット338と重複して壁の一部が壊され、南側でピット341、西側でピット343と重複して壊している。

本址は南北方向が１間以上、東西方向が２間以上の規模をもつ建物と推定され、柱間寸法は心々間で南北列は2.0ｍ等間で、東西列は北面が2.0ｍ、2.9ｍ、南面が2.0ｍ、2.0ｍ、80㎝を測る。北面のＰ２とＰ３の柱間が他と比べて広く、本址の中央を南北に縦断する調査区外に柱がある可能性が高い。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－11°－Ｗを指す。

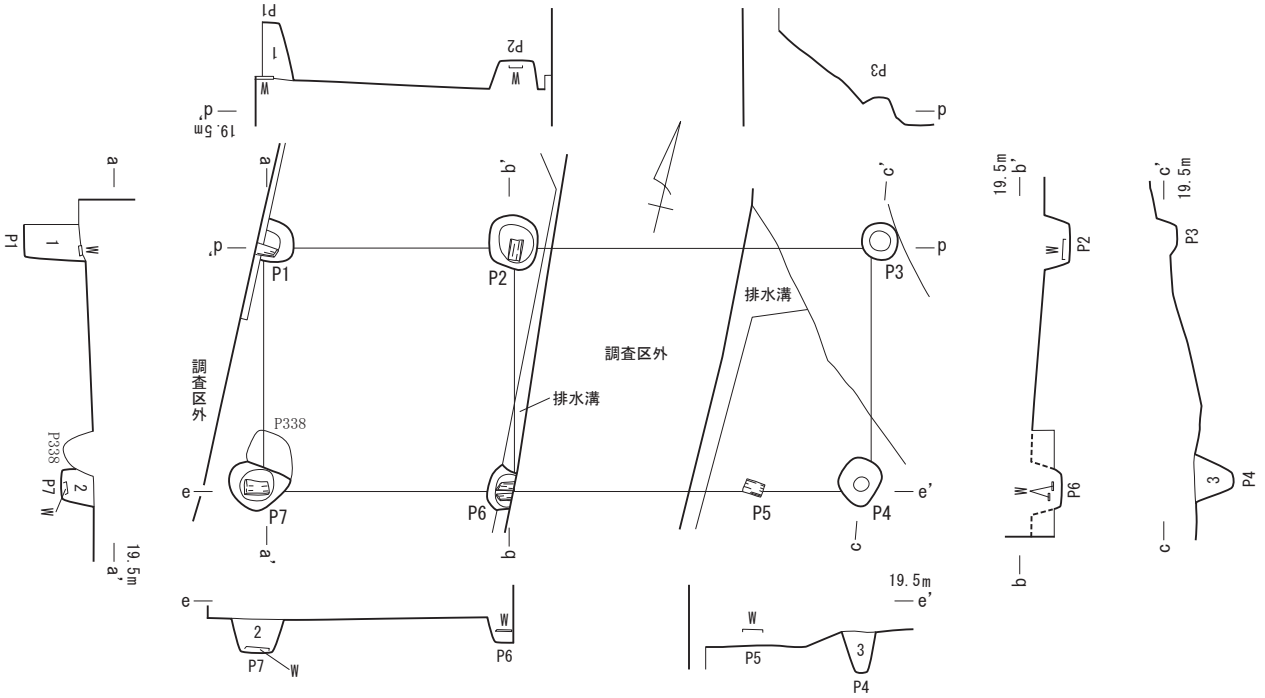


図76　第９面 礎板建物５

ピットの平面形は円形と楕円形、隅丸方形がみられ、規模は長軸29～41㎝、深さ18～46㎝を測る。礎板の大きさは長さ16～20㎝、幅10㎝前後であり、標高は礎板上面で19.14～19.26m、ピット底面で18.80～19.40mを測る。

出土遺物（図77）

遺物はかわらけ４点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけで、２には判読不明の墨書が内外面に書かれている。

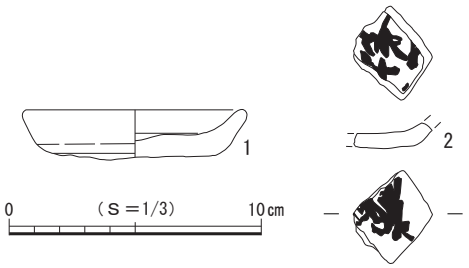


図77　第９面 礎板建物５出土遺物

（２）土　坑

土坑53（図78）

調査区の南東側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は確認されなかったが、南東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は長軸現存長89㎝、短軸現存長67㎝、深さ53㎝で、坑底面の標高は18.71mを測る。主軸方位はＮ－10°－Ｗを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑54（図78）

調査区の北西側に位置する。東側でピット310と重複して底面の一部が壊され、北東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長80㎝、東

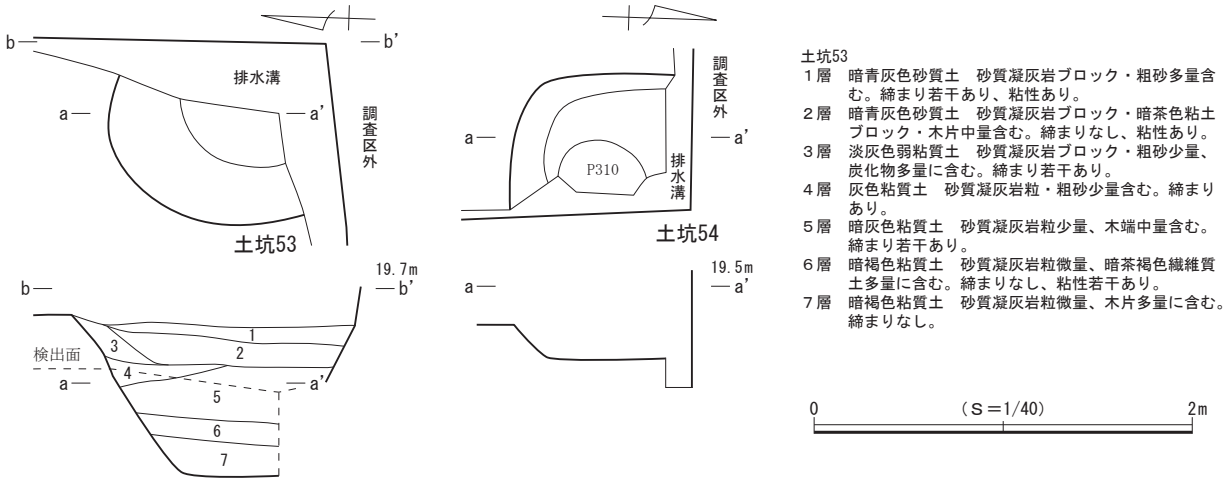


図78　第９面 土坑53・54

西現存長63㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は19.11ｍを測る。

遺物は木製品１点が出土した。

（３）ピット

第９面では、36基を検出した。調査区西側に多く分布し、１棟の礎板建物を抽出できた他は、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸８～50㎝、深さ４～70㎝を測る。このうち径が８～９㎝のピット317・318・320・339・340・342は、杭の痕跡と考えられる。38基のうち１基のピット（ピット337）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ26㎝、幅12㎝で、上面の標高は19.30ｍを測る。なお、礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図79に図示した。

遺物は36基中、11基（ピット309・316・325・326・328・333・335・337・338・343・345）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表12）を参照されたい。

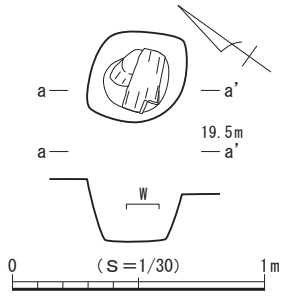


図79　第９面 ピット337

（４）第９面 遺構外出土遺物（図80）

第９面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち４点を図示した。

１は手づくね成形によるかわらけ、２・３はロクロ成形によるかわらけである。４は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。

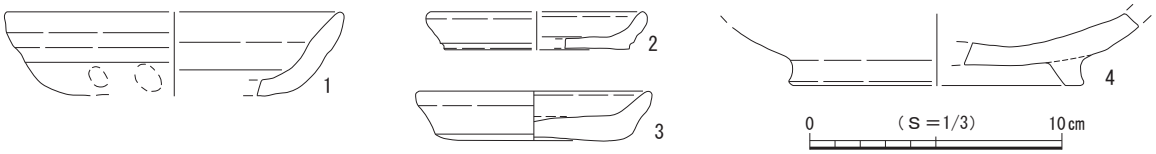


図80　第９面 遺構外出土遺物

第四章　自然科学分析

報国寺遺跡の花粉分析、寄生虫卵分析

森　将志（パレオ・ラボ）

１．はじめに

神奈川県鎌倉市浄明寺二丁目に所在する報国寺遺跡において、当時の古植生および遺構の性格を検討するために土坑内堆積物が採取された。以下では、試料について行った花粉分析および寄生虫卵分析の結果と考察を示す。

２．試料と分析方法

分析試料は、第９面土坑53（図78）の２層、４層、５層、６層、７層の各層から採取された５試料（土坑53－２、土坑53－４、土坑53－５、土坑53－６、土坑53－７）である。土坑53－２は暗青灰色砂質土、土坑53－４は灰色粘質土、土坑53－５は暗灰色粘質土、土坑53－６と土坑53－７は暗褐色粘質土である。なお、７層は土坑の最下層に相当する。これらの試料について、以下の手順にしたがって花粉分析および寄生虫卵分析を試みた。

２－１．花粉分析

試料（湿重約３～４g）を遠沈管にとり、10％の水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46％のフッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。この残渣より適宜プレパラートを作製した。土坑53－４と土坑53－６、土坑53－７の試料についてはプレパラート全面を検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。土坑53－２と土坑53－５の試料については樹木花粉が200個を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。

２－２．寄生虫卵分析

一定量の体積（２ml）の試料を採取し、水を加えて撹拌した後、椀かけ処理を施す。次に10％の水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46％のフッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸の割合の混酸を加え10分間湯煎）を行う。水洗後、この残渣に適容量のグリセリンを加えて体積を測定し、保存用とした。この残渣からマイクロピペットを用いてプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。試料１ml中の寄生虫卵含有数は、次式による方法で求めた。

$X = BD/AC$

X：試料１ml中の寄生虫卵含有数、A：分析に用いた試料の体積、B：濃縮試料＋グリセリンの体積、C：濃縮試料＋グリセリンのうち、封入に用いた体積、D：プレパラート中の寄生虫卵数

なお、図版に示した分類群ごとの単体標本（PLC.578～585）は、パレオ・ラボに保管されている。

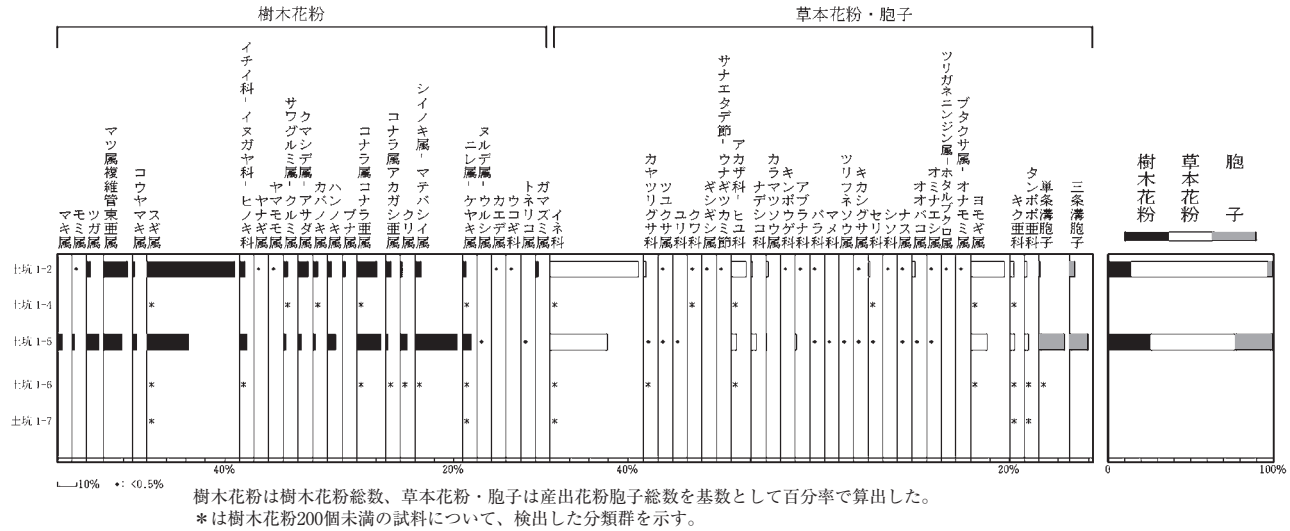
３．分析結果

３－１．花粉分析

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉24、草本花粉26、形態分類を含むシダ植物胞子２の総計52である。これらの花粉・胞子の一覧表を付表１に、分布図を付図１に示した。分布図において、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉および胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。図および表においてハイフン（－）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、クワ科とバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがある

付表１　産出花粉化石一覧

学名	和名	土坑53－2	土坑53－4	土坑53－5	土坑53－6	土坑53－7
樹木						
Podocarpus	マキ属	－	－	5	－	－
Abies	モミ属	1	－	3	－	－
Tsuga	ツガ属	4	－	13	－	－
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	25	－	19	－	－
Sciadopitys	コウヤマキ属	2	－	4	－	－
Cryptomeria	スギ属	92	3	43	7	2
Taxaceae－Cephalotaxaceae－Cupressaceae	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	6	－	8	1	－
Salix	ヤナギ属	1	－	－	－	－
Myrica	ヤマモモ属	1	－	－	－	－
Pterocarya－Juglans	サワグルミ属－クルミ属	5	1	3	－	－
Carpinus－Ostrya	クマシデ属－アサダ属	11	－	4	－	－
Betula	カバノキ属	5	1	3	－	－
Alnus	ハンノキ属	4	－	8	－	－
Fagus	ブナ属	3	－	－	－	－
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	21	1	25	2	－
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	6	－	2	1	－
Castanea	クリ属	2	－	7	1	－
Castanopsis－Pasania	シイノキ属－マテバシイ属	7	－	44	19	－
Ulmus－Zelkova	ニレ属－ケヤキ属	4	2	9	1	1
Rhus－Toxicodendron	ヌルデ属－ウルシ属	－	－	1	－	－
Acer	カエデ属	1	－	－	－	－
Araliaceae	ウコギ科	1	－	－	－	－
Fraxinus	トネリコ属	－	－	1	－	－
Viburnum	ガマズミ属	3	－	－	－	－
草本						
Gramineae	イネ科	678	28	236	2	7
Cyperaceae	カヤツリグサ科	18	－	3	1	－
Commelina	ツユクサ属	1	－	1	－	－
Liliaceae	ユリ科	－	－	2	－	－
Moraceae	クワ科	4	1	－	－	－
Rumex	ギシギシ属	7	－	－	－	－
Polygonum sect. Persicaria－Echinocaulon	サナエタデ節－ウナギツカミ節	4	－	－	－	－
Chenopodiaceae－Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	118	4	23	1	－
Caryophyllaceae	ナデシコ科	8	－	20	－	－
Thalictrum	カラマツソウ属	16	－	4	－	－
Ranunculaceae	キンポウゲ科	3	－	－	－	－
Brassicaceae	アブラナ科	4	－	6	－	－
Rosaceae	バラ科	6	－	3	－	－
Leguminosae	マメ科	－	－	1	－	－
Impatiens	ツリフネソウ属	－	－	1	－	－
Rotala	キカシグサ属	1	－	1	－	－
Apiaceae	セリ科	10	4	2	－	－
Labiatae	シソ科	5	－	－	－	－
Solanum	ナス属	4	－	1	－	－
Plantago	オオバコ属	26	－	1	－	－
Patrinia	オミナエシ属	1	－	2	－	－
Adenophora－Campanula	ツリガネニンジン属－ホタルブクロ属	3	－	－	－	－
Ambrosia－Xanthium	ブタクサ属－オナモミ属	4	－	－	－	－
Artemisia	ヨモギ属	262	6	69	7	－
Tubuliflorae	キク亜科	32	1	20	2	2
Liguliflorae	タンポポ亜科	20	－	17	6	1
シダ植物						
Monolete type spore	単条溝胞子	8	－	106	10	－
Trilete type spore	三条溝胞子	42	－	77	－	－
Arboreal pollen	樹木花粉	205	8	202	32	3
Nonarboreal pollen	草本花粉	1235	44	413	19	10
Spores	シダ植物胞子	50	－	183	10	－
Total Pollen＆Spores	花粉・胞子総数	1490	52	798	61	13
Unknown pollen	不明花粉	7	－	12	－	－



樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。
＊は樹木花粉200個未満の試料について、検出した分類群を示す。

付図１　第９面 土坑53における花粉分布図

が、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。さらに、樹木花粉200個未満の試料については、検出した分類群を＊で示す。

今回は５試料の分析を行ったが、十分な量の花粉化石を含んでいた試料は土坑53－２と土坑53－５の２試料のみであった。土坑53－５の樹木花粉では、マツ属複維管束亜属やスギ属、コナラ属コナラ亜属、シイノキ属－マテバシイ属などの産出が目立ち、それぞれ９％と21%、12%、22%の産出率を示す。草本花粉ではイネ科の産出率が最も高く、30%である。その他ではヨモギ属が９％、アカザ科－ヒユ科とナデシコ科、キク科がそれぞれ３％の産出率を示す。また、水田雑草を含む分類群であるキカシグサ属の産出がわずかに見られる。さらに、シダ植物胞子がある程度産出しており、単条溝と三条溝を合わせて23%の産出率を示している。

土坑53－２の樹木花粉では、スギ属が最も多く産出しており、45%の産出率である。次いでマツ属複維管束亜属とコナラ属コナラ亜属が多く、それぞれ12%と10%の産出率である。シイノキ属－マテバシイ属は少なく、３％の産出率である。草本花粉ではイネ科の産出率が最も高く、46%である。その他ではヨモギ属が18%、アカザ科－ヒユ科が８％である。また、土坑53－２でも水田雑草を含む分類群であるキカシグサ属の産出がわずかに見られる。

３－２．寄生虫卵分析

検鏡の結果、土坑53－６以外の層準で寄生虫卵の産出が確認できた。検出された寄生虫卵は、回虫卵と鞭虫卵、横川吸虫卵、肝吸虫卵の４種類である。計量した結果と寄生虫卵数を付表２に示す。

土坑53－２と土坑53－４では回虫卵が試料１ml当たり７個、鞭虫卵が試料１ml当たり14個である。土坑53－５では回虫卵が試料１ml当たり14個、肝吸虫卵が試料１ml当たり７個である。土坑53－７では回虫卵が試料１ml当たり144個、鞭虫卵が試料１ml当たり192個、横川吸虫卵が試料１ml当たり８個である。

付表２　寄生虫卵分析に用いた試料の計量値と寄生虫卵数

	土坑53－2	土坑53－4	土坑53－5	土坑53－6	土坑53－7
分析に用いた試料(ml)	2	2	2	2	2
残渣＋グリセリン(ml)	0.7	0.7	0.7	0.6	0.8
封入に用いた量(ml)	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
回虫卵 (試料１ml当たりの個数)	1 (7)	1 (7)	2 (14)	－	18 (144)
鞭虫卵 (試料１ml当たりの個数)	2 (14)	2 (14)	－	－	24 (192)
横川吸虫卵 (試料１ml当たりの個数)	－	－	－	－	1 (8)
肝吸虫卵 (試料１ml当たりの個数)	－	－	1 (7)	－	－
合計 (試料１ml当たりの個数)	3 (21)	3 (21)	3 (21)	－	43 (344)

４．遺跡周辺の古植生について

土坑53－５の樹木花粉では、シイノキ属－マテバシイ属が最も多く産出しており、報国寺遺跡周辺の低地や丘陵地にはシイノキ属－マテバシイ属を主体とした照葉樹林が分布を広げていたと思われる。次いでスギ属の産出が多く、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科を伴っているため、照葉樹林とともにスギやイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科などの温帯性針葉樹林も分布していたと思われる。また、二次林要素のマツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属の産出が見られるため、遺跡周辺には明るい開けた場所があり、ニヨウマツ類やコナラなどからなる二次林が広がっていたであろう。草本花粉ではイネ科が最も多く産出しており、次いでヨモギ属とアカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キク亜科などの産出が見られるため、遺構周辺にはこれらの分類群からなる草地が存在していたと思われる。また、イネ科のある程度の産出とともに水田雑草を含む分類群であるキカシグサ属が産出しているため、遺構周辺において水田稲作が行われていた可能性が考えられる。さらに、土坑53－５では土坑53－２に比べると、シダ植物胞子の産出が多い。シダ植物は様々な場所に生育するため、今回の分析結果で環境を推定するのは難しいが、一般的にシダ植物の生息地は土地状態の不安定な場所とされる。鎌倉では、街路の整備と軍事都市の防御機能を兼ねて、人工的に山肌に切り立った崖を造成している（馬淵 1989）。おそらく、そうした場所にシダ植物が繁茂していたと思われる。

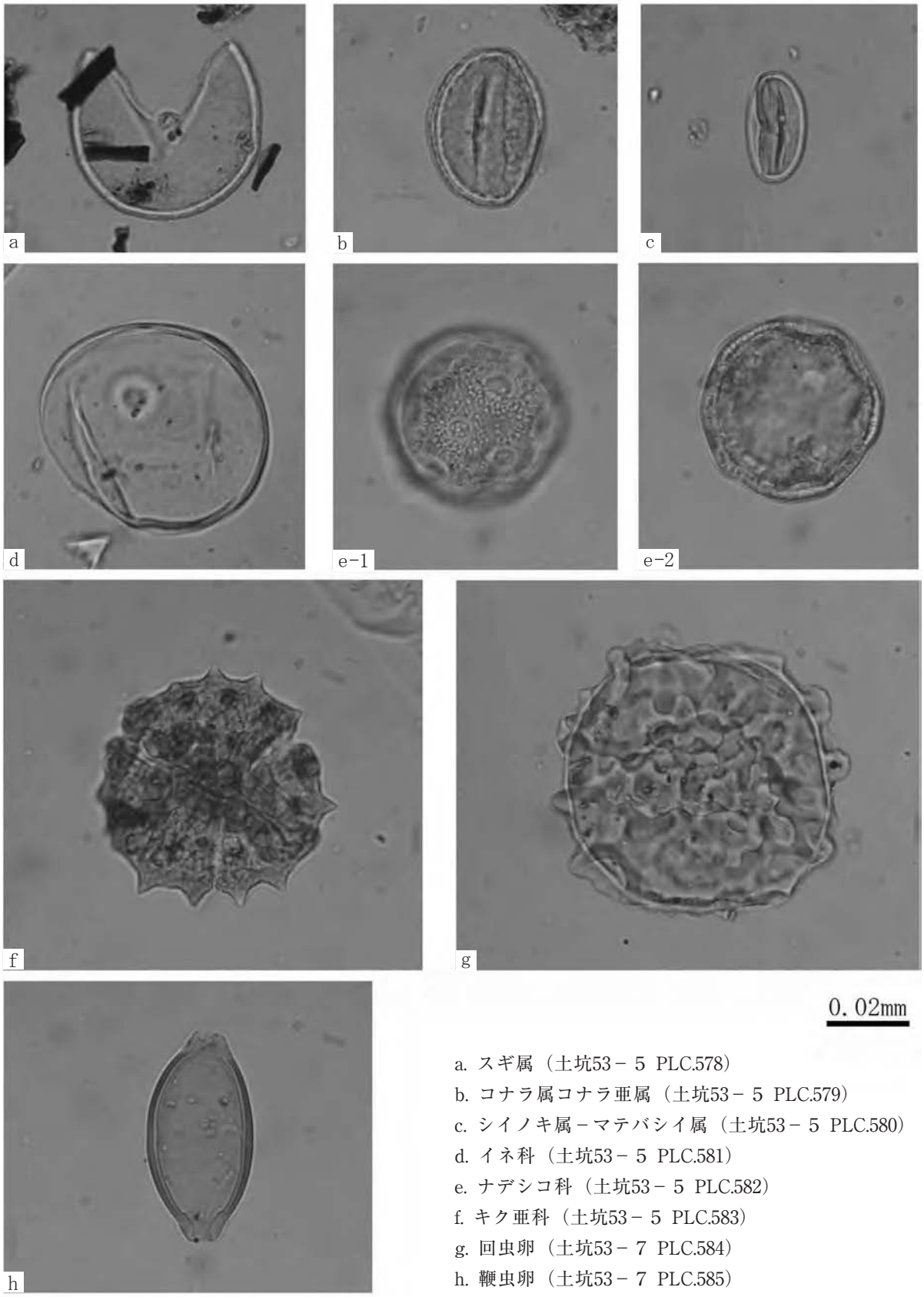
土坑53－２では、土坑53－５に比べるとスギ属の産出が多く、シイノキ属－マテバシイ属の産出が少ない。よって、土坑53－２の堆積時期には遺跡周辺は照葉樹林が少なく、スギを主体とした森林植生が広がっていたと思われる。また、二次林要素のマツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属は土坑53－５と同程度の産出を示すため、土坑53－２の堆積時期にも遺跡周辺には明るい開けた場所があり、ニヨウマツ類やコナラなどからなる二次林が広がっていたと思われる。草本花粉については、土坑53－５の花粉組成と大差はない。すなわち、イネ科が最も多く産出しており、次いでヨモギ属とアカザ科－ヒユ科、ナデシコ科などの産出が見られるため、土坑53－２の時期においても遺構周辺には土坑53－５と同じような草本植生が広がっていたと思われる。さらに、イネ科の産出とともに水田雑草を含む分類群であるキカシグサ属を伴うため、土坑53－２の堆積時期においても周辺における水田稲作の存在が窺える。

ところで、鎌倉では13世紀中頃においてスギ林・照葉樹林からニヨウマツ林へと森林植生が交代したことが明らかにされている（鈴木 1999）。今回は、土坑53－２ではスギ属が優占し、土坑53－５ではスギ属とシイノキ属－マテバシイ属が優占しており、ニヨウマツ類が優占したり、顕著な増加を示したりする結果は得られていない。よって、今回の分析結果はいずれも13世紀中頃以前の植生を反映していると思われる。

５．土坑53の性格について

土坑内堆積物の寄生虫卵分析を行った結果、最も多くの寄生虫卵が産出した層準は土坑53－７で、試料１ml中に344個である。金原（1997）によると、寄生虫卵が試料１㎝２中に1,000個以上あればその堆積物は糞便の可能性があると考えられている。よって、寄生虫卵数から考えると、土坑53に糞便が混じりこんでいる可能性は低いと思われる。また、花粉分析の結果を見ても、食用や薬用に用いられる植物を含む分類群が特異的に産出するような層準はなく、従来知られているトイレ遺構の花粉組成との類似性も見られない。よって、今回の寄生虫卵分析や花粉分析からは、土坑53が厠跡や肥溜である可能性は低いと判断される。

引用文献
金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化．大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」：197－216，東京美術．
馬淵和雄（1989）切岸と地業－中世の土木工事－．石井　進・大三輪龍彦編「よみがえる中世３　武士の都鎌倉」：55－58，平凡社．
鈴木　茂（1999）神奈川県鎌倉市における鎌倉時代の森林破壊．国立歴史民俗博物館研究報告第81集，131－139．



a. スギ属（土坑53－５ PLC.578）
b. コナラ属コナラ亜属（土坑53－５ PLC.579）
c. シイノキ属－マテバシイ属（土坑53－５ PLC.580）
d. イネ科（土坑53－５ PLC.581）
e. ナデシコ科（土坑53－５ PLC.582）
f. キク亜科（土坑53－５ PLC.583）
g. 回虫卵（土坑53－７ PLC.584）
h. 鞭虫卵（土坑53－７ PLC.585）

写真１　産出花粉化石および寄生虫卵

第五章　まとめ

今回報告する浄明寺二丁目474番８、９地点は、「報国寺遺跡（№306）」の範囲内に所在する。本遺跡は鎌倉市の東部域に位置し、調査地点はＪＲ鎌倉駅から東方に約1.8㎞のところにある。地形的には、滑川に架かる華の橋付近から南側に入り込む宅間ヶ谷の開口部より130ｍほど奥側に立地し、この谷戸の中央には小河川である宅間川が北流して、谷の開口部の先で西に向かって流れる滑川と合流する。本遺跡の名称となっている竹林の庭園で有名な報国寺は、宅間川を挟んだ西側に近接している。

今回の調査で検出した遺構確認面は第１～９面までの合計９面で、いずれも中世に属する。検出した遺構は礎板建物５棟、掘立柱建物１棟、溝状遺構９条、石列１列、桝状遺構１基、木組遺構１基、土坑54基、ピット341基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して20箱を数える。

各面における主な遺構をみていくと、第１～５・８面は各面とも溝状遺構と土坑・ピット、あるいは土坑・ピットとで構成される。ピットのなかには礎石や礎板が据えられたものも少数ではあるが認められるため、おそらくは建物の一部を構成するものであったと考えられるが、調査区内では規則的な配置は抽出できず具体的な生活痕跡はやや希薄な状況であった。

一方で、第６・７・９面ではピットの配置から礎板建物５棟と掘立柱建物１棟を抽出することができた。柱の配置や柱間から推定するといずれの建物も調査区外に展開する可能性が高く、全体的な規模は判然としないが柱の配置からは床束建物と推定される。13世紀中葉～後葉に属する第６面では、礎板建物２棟のほかに、桝状遺構と木組遺構がそれぞれ１基ずつ、石列１条が検出された。これらの遺構は、両者間の配置関係や主軸方位を考慮すると、礎板建物２に伴う床下土坑や間仕切り施設などと捉えることも可能である。また、第７面（13世紀中葉頃）で検出した礎板建物２棟と掘立柱建物１棟、そして第９面（13世紀前葉）の礎板建物１棟がおおよそ同じ場所に建てられており、建物の主軸方位もほぼそろっていることは、同じ地割のなかで建て替えが行なわれていたことを示すと考えられる。加えて、第７面では礎板建物の東側に隣接して溝状遺構７が検出されている。この溝は調査区内でＬ字状に屈曲しており、調査地点の東側には丘陵の裾部が迫るという地形的な様相から考えると、屋敷地の東側を区画する溝の可能性がある。

周辺における調査成果としては、本調査区の南側に隣接する図２の①②に示した調査地点について詳細を知ることができる。①②両地点の第３面において、13世紀後半の石組の護岸を伴う東西溝が検出され、さらに①地点ではその南側に隣接した礎板建物が確認された。この東西溝は検出規模が長さ19ｍを超え、①地点の調査区西側を北流する宅間川方向へと延びている。これらの遺構の年代的な位置づけは、報国寺開創以前と考えられることから、②地点の報告者は宅間氏の屋敷と関連をもつ可能性を示唆している（小野・原 2007）。ここで本地点の様相をみてみると、第６面の遺構群がほぼ同時期に対比され、繰り返し建て替えが行われた建物が構築されている。狭小な調査区であるため推定の域を出ないが、この建物も①地点と同じ居館に連なる施設と想定することができよう。

なお、第９面で検出された土坑53の土壌サンプリングを行い、花粉分析および寄生虫卵分析を試みその結果を第四章に掲載した。土坑53は調査区の隅に位置しており、全体の半分以上が調査区外に続いているが、整った形状を呈し掘り込みが深いという特徴をもつ（図75・78）。当初はトイレに関わる遺構の可能性が想定されたが、分析の結果では寄生虫卵の数は少なく、従来知られているトイレ遺構の花粉組成との共通性は認められず、同遺構と認定するには至らなかった。

引用・参考文献（著者五十音順）

小野夏菜・原　廣志　2007「報国寺遺跡（№306）浄明寺二丁目474番12地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23』平成18年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

小山裕之・石川真紀・冨永樹之　2012「宅間谷西やぐら群」『神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書』１　株式会社玉川文化財研究所

宍戸信悟・池田　治　2001「宅間谷西第２やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』114　かながわ考古学財団

鈴木庸一郎・宮坂淳一　2002「宅間谷西第２やぐら群 Ⅱ」『かながわ考古学財団調査報告』137　かながわ考古学財団

鈴木庸一郎・西谷俊廣　2007「宅間谷東やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』207　かながわ考古学財団

田代郁夫・武　淳一　1994『報国寺遺跡内やぐら発掘調査報告書』報国寺遺跡内やぐら発掘調査団・東国歴史考古学研究所

継　実　1991「宅間ヶ谷やぐら群」『平成元年鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』宅間ヶ谷やぐら発掘調査団

松尾宣方　1983「26 報国寺境内」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』Ⅰ　鎌倉市教育委員会

三浦勝男編　1968『鎌倉の古絵図』Ⅰ　鎌倉国宝館図録第17集

山口正紀・原　廣志　2007「報国寺遺跡（№306）浄明寺二丁目474番11外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23』平成18年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構３出土遺物（図８）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.7	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・中	(12.4)	(7.6)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
土坑４出土遺物（図９）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	6.3	4.9	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	6.9	4.4	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
3	土器	ロクロかわらけ・中	11.3	6.4	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/8
4	土器	ロクロかわらけ・中	11.6	7.1	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロかわらけ・大	14.2	8.3	4.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	7/8
土坑５出土遺物（図10）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(6.4)	(4.2)	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	2/5
2	土器	ロクロかわらけ・小	6.6	4.0	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	6.8	4.6	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロかわらけ・中	11.2	7.1	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロかわらけ・中	11.2	6.1	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	7/8
6	土器	ロクロかわらけ・中	11.2	6.6	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロかわらけ・中	11.4	7.2	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロかわらけ・中	11.4	6.4	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロかわらけ・中	11.8	6.8	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
ピット出土遺物（図12）							
1	土器	ロクロかわらけ・中	11.4	6.0	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット16	7/8
2	磁器	青磁碗	－	－	現3.3	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類　出土遺構：ピット30	口縁部小破片
3	土器	ロクロかわらけ・大	13.6	7.8	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット46	7/8
4	土器	ロクロかわらけ・小	8.6	5.0	2.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット54	3/4
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	4.5	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット70	3/4
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	5.7	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット70	略完形
7	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	4.8	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット70	略完形
8	土器	ロクロかわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット70	2/5
9	土器	ロクロかわらけ・大	(13.2)	－	現3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット70	1/6
10	土器	ロクロかわらけ・大	(13.3)	7.0	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット70	3/4
第１面 遺構外出土遺物（図13）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	4.9	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	5.4	1.6	口縁部－煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(5.8)	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明赤褐色　焼成：良好	2/3
4	磁器	青磁碗	－	－	現3.9	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
5	磁器	青磁双魚文盤	(21.4)	(9.0)	5.0	外面－蓮弁文　見込み－双魚文の一部　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：龍泉窯系	1/4
6	陶器	中国天目茶碗	(14.1)	(3.1)	現14.0	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、鉄釉－黒色　備考：吉州窯	口縁部～体部小破片

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑13出土遺物（図15）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.6	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・中	12.1	7.9	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
土坑14出土遺物（図16）							
1	土器	ロクロかわらけ・中	11.8	7.2	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
2	土器	ロクロかわらけ・中	12.2	7.7	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	7/8
3	土器	ロクロかわらけ・中	12.4	7.5	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロかわらけ・中	12.6	8.7	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	3/4
土坑19出土遺物（図18）							
1	金属製品	銭貨	直径2.4	孔径0.6	厚0.1	銭名－紹定通寶（南宋・1228）　背文－二　書体－楷書	完形
ピット出土遺物（図20）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.5	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット84	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.0	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット93	7/8
3	磁器	青磁盤	－	－	現2.5	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：龍泉窯系　出土遺構：ピット99	口縁部小破片
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	5.1	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット103	略完形
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.2	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット106	完形
第２面 遺構外出土遺物（図21）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	4.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.1	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	4.5	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	5.1	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
5	土器	ロクロかわらけ・中	11.8	6.6	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロかわらけ・中	12.0	7.0	3.1	口縁部－煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
7	土器	ロクロかわらけ・中	12.6	7.4	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
8	土器	ロクロかわらけ・中	（12.7）	（6.7）	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
9	土器	ロクロかわらけ・中	12.7	8.2	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
10	土器	ロクロかわらけ・大	13.0	7.3	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
11	土器	ロクロかわらけ・大	（13.7）	（8.4）	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
12	磁器	白磁皿	－	－	現2.0	口唇部－口兀　色調：胎土－灰白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	口縁部小破片
13	磁器	青磁碗	－	－	現3.2	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－青緑色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
14	磁器	青磁碗	－	－	現3.5	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－青緑色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
15	磁器	青磁碗	－	－	現4.2	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－青緑色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
16	磁器	青磁碗	－	－	現5.1	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
17	磁器	青磁碗	－	－	現5.3	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
18	磁器	青白磁水滴	－	－	現1.1	外面－型押しによる意匠不明文　色調：胎土－灰白色、青白磁釉－薄青色　備考：19と同一個体	口縁部小破片
19	磁器	青白磁水滴	－	（5.6）	6.2	瓜割形　外面－型押しによる意匠不明文　高台－無釉　色調：胎土－灰白色、青白磁釉－薄青色　備考：18と同一個体	1/4
20	陶器	常滑甕	－	－	現6.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：褐色・灰黄色　備考：６ｂ型式	口縁部小破片
21	陶器	常滑甕	－	－	現8.2	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色・黄灰色　備考：６ｂ型式	口縁部小破片
22	陶器	常滑甕	－	－	現9.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部小破片
23	金属製品	銭貨	直径2.4	孔径0.6	厚0.1	銭名－太平通寶（北宋・976）　書体－楷書	完形
24	金属製品	銭貨	直径2.5	孔径0.7	厚0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068）　書体－楷書	完形

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構４出土遺物（図23）							
1	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	23.0	11.6	10.3	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	7/8
ピット出土遺物（図27）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.4	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット129	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.1)	3.5	口縁部～内外面－煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット129	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.6	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット147	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.4	3.5	口縁部～内外面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット147	1/2
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	7.4	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット147	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.3	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット147	完形
第３面 遺構外出土遺物（図28・29）							
1	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.4	3.4	0.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.9	3.1	1.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.4	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.2	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.5)	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.4	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.1	1.5	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.0	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	5.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
10	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	6.6	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	7/8
11	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.0	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
12	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.8	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
13	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	7.8	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
14	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(6.4)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
15	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.4)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
16	磁器	白磁 皿	－	－	現 3.0	口唇部－口兀　色調：胎土－白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ Ⅸ類	口縁部 小破片
17	磁器	青磁 碗	(11.9)	－	現 4.1	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	1/8
18	陶器	常滑 甕	－	－	現 13.7	外面－格子状の刻印　胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ型式	口縁部～ 肩部小破片
19	陶器	常滑 甕	最大径 58.8	16.2	現 45.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・暗赤褐色　備考：６ａ型式	1/3
20	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～７型式	口縁部 小破片
21	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書	完形
22	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	略完形

表５　第４面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑33出土遺物（図31）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.3	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	略完形
ピット出土遺物（図34）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.7	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット155	7/8
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.4	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット155	7/8
3	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(9.6)	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット155	2/3

4	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(9.2)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット155	1/3
5	磁器	白磁 皿	－	－	現 2.2	口唇部－口冗　色調：胎土－灰白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ区類　出土遺構：ピット159	口縁部 小破片
6	金属 製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－楷書　出土遺構：ピット161	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット169	3/4
8	磁器	白磁 皿	－	－	現 2.6	口唇部－口冗　色調：胎土－灰白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ区類　出土遺構：ピット175	口縁部 小破片

第４面 遺構外出土遺物（図35）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.6	1.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.3	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.3	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.8	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.2	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(7.2)	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.9)	(6.8)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/6
8	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.4)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
9	磁器	青磁 碗	(15.6)	－	現 4.3	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
10	磁器	青磁 碗	(16.6)	－	現 3.7	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
11	磁器	青磁 碗	(15.6)	(4.6)	7.1	外面－蓮弁文　畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	1/8
12	磁器	青磁 坏	－	－	現 1.8	内面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ－３ｂ類	口縁部 小破片
13	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：にぶい赤褐色・黄橙色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
14	陶器	常滑 甕	－	－	現 9.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰黄褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
15	金属 製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
16	金属 製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
17	金属 製品	銭貨	直径 2.1	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－景徳元寶（北宋・1004）　書体－楷書	略完形
18	金属 製品	銭貨	2.1	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形
19	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－篆書	完形
20	金属 製品	銭貨	直径 2.2	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書	完形
21	金属 製品	銭貨	直径 2.2	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－篆書	完形

表６　第５面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

土坑39出土遺物（図38）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	9.9	6.2	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形

ピット出土遺物（図40）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(7.0)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好　出土遺構：ピット193	2/5
2	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.7	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類　出土遺構：ピット193	口縁部 小破片
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好　出土遺構：ピット194	7/8
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.7)	5.0	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット194	3/4

第５面 遺構外出土遺物（図41）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.9)	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	5.7	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	3/4
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	(7.8)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(8.2)	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
5	磁器	白磁 皿	－	－	現 3.2	口唇部－口冗　色調：胎土－白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ区類	口縁部 小破片

6	磁器	白磁 Ⅲ	－	5.3	現 1.5	底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－灰白色、白磁釉－乳白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ区類	底部 小破片
7	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.6	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
8	磁器	青磁 碗	－	－	現 5.2	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅲ－１ｂ類	口縁部 小破片
9	陶器	北部系 山茶碗	(14.6)	(6.4)	5.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色	1/4
10	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 6.7	胎土：微砂、小石粒　色調：褐色・にぶい橙色	口縁部 小破片
11	土師質 土器	南伊勢系土鍋	－	－	現1.0	羽釜形　外面－煤付着　内外面－ナデ・ハケメ　胎土：砂粒、雲母、粗土　色調：灰白色・暗白色	口縁部 小破片
12	瓦	平瓦	長 34.6	現幅 25.1～28.2	厚 2.2～2.7	凸面－縄目叩き　凹面－糸切痕　胎土：粗　色調：灰色	完形
13	石製品	硯	長 8.9	短 4.7	厚 0.8	上面－海部摩耗　石材－凝灰岩	略完形
14	骨角 製品	矢筈	現長 1.4	直径 0.8	－	柱状に加工し、中央にスリットを入れる	
15	漆製品	椀	(16.6)	－	現高 4.7	内外面－黒色漆黎漆・漆絵（手描き）・竜胆文　遺存状態悪く漆剝離	1/4
16 a～c	漆製品	椀	－	(8.4)	－	内外面－黒色漆黎漆・漆絵（手描き）　内面－鶴文	

表７　第６面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
礎板建物１出土遺物（図44）							
1	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色・灰色　備考：５型式　出土遺構：礎板建物１－Ｐ５	口縁部 小破片
礎板建物２出土遺物（図46）							
1	瓦	丸瓦	現長 30.6	現幅 16.5～17.5	厚 1.2～2.6	凸面－縄目叩き後にヘラナデ＋型枠痕　凹面－布目＋ヘラナデ　胎土：粗　色調：灰色　出土遺構：礎板建物２－Ｐ５	7/8
桝状遺構１出土遺物（図49）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.1	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
木組遺構１出土遺物（図51）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.3	3.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	7/8
ピット出土遺物（図54）							
1	陶器	北部系 山茶碗	(14.1)	(6.7)	5.1	胎土：白色粒、黒色粒　色調：灰色　出土遺構：ピット221	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	(7.8)	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット236	1/3
3	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.9	内外面－ハケメ　胎土：砂粒、白色粒　色調：胎土－暗灰色、内外面－暗灰色　備考：ＩＣ類　出土遺構：ピット241	口縁部 小破片
第６面 遺構外出土遺物（図55）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.9	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.5	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	5.8	1.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/5
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	(8.4)	2.7	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.0)	2.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
7	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
8	磁器	白磁 Ⅲ	(8.6)	(4.8)	2.1	口唇部－口兀　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－灰白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ区類	1/4
9	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.6	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
10	磁器	青磁 碗	－	(3.2)	現 2.7	外面－蓮弁文　畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅲ類	1/4
11	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 3.5	胎土：微砂、白色粒　色調：にぶい赤褐色・にぶい黄橙色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
12	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 4.4	胎土：微砂、白色粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
13	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 5.3	内外面－ハケメ　胎土：砂粒、白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色　備考：ＩＣ類	口縁部 小破片
14	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.8	厚 0.1	銭名－天聖元寶（北宋・1023）　書体－楷書	完形
15	漆製品	Ⅲ	(8.4)	(6.5)	1.0	内外面－黒色漆黎漆　内面－無文　外面－漆絵（手描き）・草文　遺存状態悪く漆剝離	1/4
16	漆製品	Ⅲ	(9.8)	(6.4)	1.7	内外面－黒色漆黎漆・漆絵（手描き）・側縁部に円文　輪高台	1/4

17	漆製品	器種不明	現長 2.4	現幅 2.8	現厚 0.2～0.3	内外面－黒色漆鞣漆・漆絵（手描き）・文様不明	破片
18	木製品	栓	長 6.7	幅 1.7～2.1	厚 2.2	断面楕円形　遺存状態悪い	略完形
19	木製品	用途不明	長 3.5	幅 3.5	厚 3.5	球状製品加工途中か	略完形
20	木製品	用途不明	現長 8.6	現幅 2.9	現厚 0.7～1.0	円盤状製品　側縁部焼痕　表面線刻あり	1/2
21	木製品	球	径 4.0	－	－	毬杖の玉か　丁寧な整形	完形

表８　第７面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構７出土遺物（図61）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	（9.2）	7.6	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	3/4
土坑46出土遺物（図63）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	（12.8）	（8.4）	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
土坑47出土遺物（図64）							
1	土器	白かわらけ	（12.6）	（5.6）	3.3	口縁部～体部・内面－油煤付着　底面－回転糸切＋ナデ　胎土：微砂、白色粒、黒色粒、粗土　色調：灰白色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	（11.7）	（7.2）	3.2	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄灰色・にぶい橙色　焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	7.8	3.1	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄灰色・にぶい黄橙色・灰黄褐色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	9.6	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄灰色・にぶい橙色　焼成：良好	1/2
ピット出土遺物（図66）							
1	木製品	用途不明	現長 24.0	幅 1.2	暑 0.4～1.2	串状製品か　端部焼痕　出土遺構：ピット272	
2	木製品	礎板	長 17.2～17.4	幅 16.7～17.4	現厚 8.～10.2	柱材（八角柱）を礎板に転用か　出土遺構：ピット272	
第７面 構成土出土遺物（図67）							
1	土器	白かわらけ	（8.0）	（4.6）	1.6	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋ナデ　胎土：微砂、黒色粒、粗土　色調：灰白色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	（8.0）	－	1.5	底面－指頭押さえ　内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
3	土器	手づくね かわらけ・中	（12.4）	－	3.1	底面－指頭押さえ　内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
4	土器	手づくね かわらけ・大	（13.4）	－	3.0	底面－指頭押さえ　内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/3
5	陶器	中国 黄釉盤	－	－	－	口縁部－無釉　内外面－黄釉　胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、黄釉－灰黄色	口縁部 小破片
6	陶器	常滑 甕	－	－	現 3.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：褐色・暗褐色　備考：５型式	口縁部 小破片
7	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 3.9	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：褐色	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	（23.2）	－	現 9.8	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５型式	口縁部 小破片
9	漆製品	皿	8.6	6.1	1.3	内外面－黒色漆鞣漆・無文・無高台	完形
10	漆製品	椀	現長 1.9	現幅 4.6	現厚 0.2～0.4	内外面－黒色漆鞣漆・漆絵（手描き）・草文	破片

表９　第８面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構９出土遺物（図69）							
1	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 5.4	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：黒褐色・褐灰色・灰色	口縁部 小破片
2	金属製品	用途不明	現長 8.8	幅 3.4	厚 0.6	Ｌ字形で先端はフック状	
土坑48出土遺物（図71）							
1	土器	白かわらけ	（10.8）	－	2.9	底面－指頭ナデ、内底－ナデ　胎土：微砂、良土　色調：灰白色　焼成：良好	2/5
2	土器	白かわらけ	（10.8）	－	2.9	底面－指頭ナデ、内底－ナデ　胎土：微砂、良土　色調：灰白色　焼成：良好	1/4
3	土器	手づくね かわらけ・中	（10.8）	－	1.9	底面－ナデ、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	略完形
土坑51出土遺物（図73）							
1	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 7.8	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：明赤褐色・にぶい橙色・褐色	口縁部～ 体部小破片
第８面 遺構外出土遺物（図74）							
1	漆製品	皿	（9.9）	（7.1）	1.4	内外面－黒色漆鞣漆・無文　内底部－焼痕・漆剝離　無高台	4/5

2	漆製品	皿	(10.0)	(7.5)	1.5	内外面－黒色漆糅漆・無文・漆剝離　無高台	4/5
3	漆製品	皿	(10.4)	(7.8)	1.5	内外面－黒色漆糅漆・無文・剝離　無高台	3/4
4	木製品	椀	(17.4)	(9.2)	0.5	外底部に線刻あり　輪高台	2/3
5	木製品	連歯下駄	現長 11.0	現幅 7.9	現厚 0.9～1.2	台部－中央がやや張り出し小判型を呈する　歯部－遺存状態悪く不明　前坪横に指圧痕	2/3
6	木製品	連歯下駄	現長 19.7	幅 9.7	現厚 0.4～1.2	台部－中央がやや張り出し小判型を呈する　歯部－遺存状態悪く不明　前坪横に指圧痕	略完形

表10　第９面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	特徴	残存率
礎板建物５出土遺物（図77）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	8.5	6.6	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	－	－	現 1.0	内外面－判読不明の墨書　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	底部小破片
第９面 遺構外出土遺物（図80）							
1	土器	手づくねかわらけ・大	(13.2)	－	現 3.3	底面－ナデ、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロかわらけ・小	(8.4)	(7.3)	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	1/4
3	土器	ロクロかわらけ・小	(9.1)	(6.0)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
4	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	－	(11.4)	現 2.8	胎土：白色粒　色調：灰色	底部小破片

表11　遺構計測表

（ ）＝推定値、〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模(cm) 長軸	短軸	深さ
溝状遺構１	第１面	〈790〉	30～60	5～20
溝状遺構２	第１面	〈120〉	40～60	9
溝状遺構３	第１面	170	40	9
土坑１	第１面	106	91	17
土坑２	第１面	67	〈50〉	18
土坑３	第１面	62	55	19
土坑４	第１面	121	71	12
土坑５	第１面	〈95〉	66	11
土坑６	第１面	61	50	9
土坑７	第１面	153	〈44〉	16
土坑８	第１面	81	71	13
土坑９	第１面	66	〈43〉	13
土坑10	第１面	123	97	15
土坑11	第１面	〈75〉	〈29〉	11
ピット１	第１面	42	36	20
ピット２	第１面	30	29	20
ピット３	第１面	35	〈20〉	11
ピット４	第１面	23	〈13〉	9
ピット５	第１面	32	27	20
ピット６	第１面	31	30	21
ピット７	第１面	(30)	22	9
ピット８	第１面	27	〈11〉	13
ピット９	第１面	56	48	20
ピット10	第１面	22	21	17
ピット11	第１面	22	19	11
ピット12	第１面	33	26	10
ピット13	第１面	25	22	12
ピット14	第１面	26	24	7
ピット15	第１面	44	〈19〉	23
ピット16	第１面	38	26	6
ピット17	第１面	31	24	11
ピット18	第１面	41	36	19
ピット19	第１面	22	21	23
ピット20	第１面	〈13〉	14	3
ピット21	第１面	〈44〉	〈43〉	14
ピット22	第１面	〈53〉	〈16〉	25
ピット23	第１面	33	〈20〉	10
ピット24	第１面	38	35	34
ピット25	第１面	39	38	26
ピット26	第１面	30	28	13
ピット27	第１面	32	25	16
ピット28	第１面	31	23	14
ピット29	第１面	28	28	15
ピット30	第１面	30	25	20
ピット31	第１面	36	25	10
ピット32	第１面	〈32〉	33	16
ピット33	第１面	44	35	14
ピット34	第１面	45	39	25
ピット35	第１面	48	43	15
ピット36	第１面	33	26	9
ピット37	第１面	34	29	13
ピット38	第１面	30	28	10
ピット39	第１面	39	39	10
ピット40	第１面	33	33	7
ピット41	第１面	38	〈33〉	10
ピット42	第１面	19	18	9
ピット43	第１面	44	34	12
ピット44	第１面	47	(34)	10
ピット45	第１面	43	31	19
ピット46	第１面	58	44	14
ピット47	第１面	27	26	7
ピット48	第１面	(35)	33	12
ピット49	第１面	28	23	16
ピット50	第１面	36	31	15
ピット51	第１面	39	〈22〉	10
ピット52	第１面	37	〈24〉	8
ピット53	第１面	45	40	16
ピット54	第１面	47	28	12
ピット55	第１面	21	20	9
ピット56	第１面	36	30	5
ピット57	第１面	34	32	12
ピット58	第１面	32	31	15
ピット59	第１面	52	37	10
ピット60	第１面	17	15	20
ピット61	第１面	42	29	11
ピット62	第１面	39	38	9
ピット63	第１面	39	39	20
ピット64	第１面	29	28	8
ピット65	第１面	34	29	15
ピット66	第１面	29	28	10
ピット67	第１面	46	48	21
ピット68	第１面	35	34	6
ピット69	第１面	44	36	12
ピット70	第１面	〈41〉	〈16〉	－
土坑12	第２面	83	60	19
土坑13	第２面	75	69	8
土坑14	第２面	65	57	15
土坑15	第２面	68	〈44〉	－
土坑16	第２面	〈76〉	〈27〉	16
土坑17	第２面	74	36	15
土坑18	第２面	〈70〉	39	12
土坑19	第２面	〈69〉	〈37〉	19
土坑20	第２面	65	〈42〉	14
土坑21	第２面	73	55	15
ピット71	第２面	48	45	16
ピット72	第２面	25	20	13
ピット73	第２面	41	30	15
ピット74	第２面	39	35	13
ピット75	第２面	41	36	11
ピット76	第２面	42	〈24〉	5
ピット77	第２面	39	31	11
ピット78	第２面	27	26	8
ピット79	第２面	34	30	16
ピット80	第２面	38	31	8
ピット81	第２面	41	〈18〉	11
ピット82	第２面	51	〈37〉	4
ピット83	第２面	45	38	9
ピット84	第２面	〈46〉	37	26
ピット85	第２面	(40)	36	16
ピット86	第２面	34	31	12
ピット87	第２面	49	39	19
ピット88	第２面	(40)	24	11
ピット89	第２面	36	25	8
ピット90	第２面	28	27	13
ピット91	第２面	30	25	16
ピット92	第２面	32	27	10
ピット93	第２面	58	52	15
ピット94	第２面	35	33	10
ピット95	第２面	35	31	11
ピット96	第２面	39	〈33〉	8
ピット97	第２面	48	44	10
ピット98	第２面	30	29	9
ピット99	第２面	46	(38)	14
ピット100	第２面	33	〈26〉	13
ピット101	第２面	48	32	10
ピット102	第２面	39	27	6
ピット103	第２面	38	33	9
ピット104	第２面	〈23〉	19	23
ピット105	第２面	24	23	6
ピット106	第２面	36	32	18
ピット107	第２面	32	29	24
ピット108	第２面	55	45	12
ピット109	第２面	37	29	18
ピット110	第２面	48	37	14
ピット111	第２面	37	31	17
ピット112	第２面	37	37	18
ピット113	第２面	37	33	8
ピット114	第２面	37	36	23
ピット115	第２面	46	〈15〉	14
ピット116	第２面	29	28	15
ピット117	第２面	51	42	15
ピット118	第２面	54	〈16〉	6
ピット119	第２面	32	22	11
ピット120	第２面	41	31	11
ピット121	第２面	38	〈24〉	11
ピット122	第２面	58	44	9
ピット123	第２面	〈34〉	37	9
溝状遺構４	第３面	〈600〉	20～37	5
溝状遺構５	第３面	〈50〉	20	8
土坑22	第３面	92	69	15
土坑23	第３面	〈60〉	〈25〉	17
土坑24	第３面	〈103〉	〈36〉	20
土坑25	第３面	〈93〉	〈13〉	19
土坑26	第３面	〈60〉	〈40〉	36
土坑27	第３面	83	56	18
土坑28	第３面	〈77〉	〈17〉	10
ピット124	第３面	33	32	16
ピット125	第３面	20	20	12
ピット126	第３面	20	(17)	13
ピット127	第３面	40	38	14
ピット128	第３面	52	39	18
ピット129	第３面	46	36	6
ピット130	第３面	37	〈22〉	19
ピット131	第３面	(29)	26	6
ピット132	第３面	33	28	11
ピット133	第３面	36	30	15
ピット134	第３面	31	26	9
ピット135	第３面	43	〈19〉	15
ピット136	第３面	31	25	20
ピット137	第３面	51	44	18
ピット138	第３面	37	35	11
ピット139	第３面	48	36	14
ピット140	第３面	26	26	10
ピット141	第３面	19	16	7
ピット142	第３面	〈31〉	〈18〉	6
ピット143	第３面	(46)	37	10
ピット144	第３面	48	40	10
ピット145	第３面	52	50	11
ピット146	第３面	45	〈38〉	20
ピット147	第３面	42	34	15
ピット148	第３面	41	37	10
ピット149	第３面	47	42	4
ピット150	第３面	37	35	6
ピット151	第３面	33	33	11
ピット152	第３面	31	30	11
ピット153	第３面	35	32	19
ピット154	第３面	55	48	16
溝状遺構６	第４面	〈320〉	－	－

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
土坑29	第４面	77	69	30
土坑30	第４面	66	52	12
土坑31	第４面	〈88〉	48	7
土坑32	第４面	〈76〉	〈32〉	11
土坑33	第４面	〈62〉	39	7
土坑34	第４面	〈80〉	〈28〉	14
土坑35	第４面	76	〈58〉	11
土坑36	第４面	〈78〉	53	13
ピット155	第４面	59	54	14
ピット156	第４面	33	24	27
ピット157	第４面	50	46	15
ピット158	第４面	36	35	15
ピット159	第４面	31	28	27
ピット160	第４面	44	35	20
ピット161	第４面	(51)	36	14
ピット162	第４面	31	(27)	17
ピット163	第４面	46	34	21
ピット164	第４面	33	31	6
ピット165	第４面	39	28	10
ピット166	第４面	39	33	12
ピット167	第４面	39	37	16
ピット168	第４面	41	36	16
ピット169	第４面	52	41	61
ピット170	第４面	40	〈19〉	－
ピット171	第４面	48	46	4
ピット172	第４面	29	28	12
ピット173	第４面	41	36	10
ピット174	第４面	56	54	18
ピット175	第４面	31	30	9
ピット176	第４面	43	35	17
ピット177	第４面	40	28	13
ピット178	第４面	(40)	(36)	18
ピット179	第４面	53	40	9
ピット180	第４面	38	36	14
ピット181	第４面	59	56	19
ピット182	第４面	〈24〉	〈23〉	5
ピット183	第４面	〈42〉	(40)	10
ピット184	第４面	〈25〉	29	21
ピット185	第４面	〈42〉	〈40〉	4
ピット186	第４面	40	38	8
ピット187	第４面	46	45	10
ピット188	第４面	37	〈23〉	17
土坑37	第５面	73	50	14
土坑38	第５面	68	54	22
土坑39	第５面	66	〈54〉	12
ピット189	第５面	41	38	10
ピット190	第５面	〈40〉	35	8
ピット191	第５面	48	〈37〉	13
ピット192	第５面	28	28	10
ピット193	第５面	40	36	23
ピット194	第５面	40	〈25〉	19
ピット195	第５面	46	〈17〉	10
ピット196	第５面	30	21	6
ピット197	第５面	54	42	14
ピット198	第５面	41	36	20
ピット199	第５面	50	45	12
ピット200	第５面	35	27	9
ピット201	第５面	28	21	11

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット202	第５面	33	23	10
ピット203	第５面	50	45	32
ピット204	第５面	47	〈26〉	14
ピット205	第５面	25	24	11
ピット206	第５面	39	28	18
ピット207	第５面	36	30	14
ピット208	第５面	50	40	31
ピット209	第５面	25	〈22〉	41
ピット210	第５面	35	24	5
ピット211	第５面	12	9	21
ピット212	第５面	31	24	3
ピット213	第５面	35	34	10
ピット214	第５面	41	33	4
礎板建物１	第６面	〈420〉	〈400〉	８～45
礎板建物２	第６面	〈520〉	〈400〉	８～32
石列１	第６面	〈150〉	－	－
桝状遺構１	第６面	90	71	13
木組遺構１	第６面	〈200〉	－	－
土坑40	第６面	117	99	18
土坑41	第６面	〈73〉	66	14
土坑42	第６面	80	59	17
土坑43	第６面	115	74	18
土坑44	第６面	〈66〉	54	20
ピット215	第６面	37	29	23
ピット216	第６面	57	(44)	10
ピット217	第６面	43	36	32
ピット218	第６面	34	32	20
ピット219	第６面	45	44	31
ピット220	第６面	48	(47)	19
ピット221	第６面	44	43	23
ピット222	第６面	42	〈15〉	16
ピット223	第６面	〈42〉	〈24〉	19
ピット224	第６面	24	〈10〉	39
ピット225	第６面	53	47	29
ピット226	欠番			
ピット227	第６面	43	37	26
ピット228	第６面	29	25	20
ピット229	第６面	〈47〉	43	19
ピット230	第６面	28	25	22
ピット231	第６面	42	39	35
ピット232	第６面	43	37	19
ピット233	第６面	57	50	52
ピット234	第６面	32	26	30
ピット235	第６面	27	25	36
ピット236	第６面	50	40	18
ピット237	第６面	59	〈28〉	26
ピット238	第６面	46	〈22〉	29
ピット239	欠番			
ピット240	第６面	39	33	12
ピット241	第６面	40	36	23
ピット242	第６面	47	44	16
ピット243	第６面	27	22	10
ピット244	第６面	32	27	9
ピット245	第６面	28	19	6
ピット246	第６面	43	40	10
ピット247	第６面	25	21	6
ピット248	第６面	42	22	15
ピット249	第６面	38	32	24

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット250	第６面	35	〈24〉	15
ピット251	第６面	33	〈12〉	7
ピット252	第６面	25	〈18〉	11
ピット253	第６面	24	21	6
ピット254	第６面	16	16	10
ピット255	第６面	30	〈24〉	14
ピット256	第６面	42	39	24
ピット257	第６面	〈26〉	〈20〉	－
ピット258	第６面	53	〈34〉	18
ピット259	第６面	25	19	7
ピット260	第６面	〈15〉	17	7
ピット261	第６面	〈18〉	20	3
ピット262	第６面	27	23	31
ピット263	第６面	43	〈15〉	52
ピット264	第６面	〈35〉	39	25
ピット265	第６面	43	〈23〉	7
ピット266	第６面	〈24〉	〈14〉	11
ピット267	第６面	33	23	22
礎板建物３	第７面	〈390〉	〈320〉	22～37
礎板建物４	第７面	〈400〉	〈200〉	20～38
掘立柱建物１	第７面	〈400〉	〈380〉	27～50
溝状遺構７	第７面	〈340〉	60～120	17～26
土坑45	第７面	〈100〉	73	15
土坑46	第７面	〈162〉	〈80〉	39
土坑47	第７面	104	〈56〉	14
ピット268	第７面	57	〈39〉	26
ピット269	第７面	〈52〉	〈27〉	－
ピット270	第７面	26	25	34
ピット271	第７面	38	31	16
ピット272	第７面	46	32	49
ピット273	第７面	31	31	41
ピット274	第７面	30	〈28〉	11
ピット275	第７面	44	〈19〉	16
ピット276	第７面	28	28	28
ピット277	第７面	32	26	13
ピット278	第７面	47	(45)	10
ピット279	第７面	28	25	40
ピット280	第７面	31	〈８〉	14
ピット281	第７面	35	26	21
ピット282	第７面	44	36	48
ピット283	第７面	39	28	30
ピット284	第７面	31	28	19
ピット285	第７面	25	21	15
ピット286	第７面	45	42	35
ピット287	第７面	40	25	13
ピット288	第７面	28	23	44
ピット289	第７面	36	〈18〉	35
ピット290	第７面	27	26	23
溝状遺構８	第８面	〈350〉	70～100	17
溝状遺構９	第８面	〈450〉	70～120	12～17
土坑48	第８面	73	66	15
土坑49	第８面	97	〈60〉	23
土坑50	第８面	〈90〉	79	20
土坑51	第８面	87	〈60〉	15
土坑52	第８面	〈78〉	〈32〉	16
ピット291	第８面	35	29	22
ピット292	第８面	31	26	22

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット293	第８面	32	30	22
ピット294	第８面	58	47	－
ピット295	第８面	(31)	23	8
ピット296	第８面	(37)	31	9
ピット297	第８面	30	25	10
ピット298	第８面	50	44	29
ピット299	第８面	14	13	79
ピット300	第８面	30	22	29
ピット301	第８面	〈37〉	〈28〉	17
ピット302	第８面	〈39〉	〈27〉	22
ピット303	第８面	〈32〉	〈９〉	29
ピット304	第８面	(52)	37	13
ピット305	第８面	38	31	16
ピット306	第８面	43	30	10
ピット307	第８面	59	43	18
礎板建物５	第９面	〈200〉	〈190〉	
土坑53	第９面	〈89〉	〈67〉	53
土坑54	第９面	〈80〉	〈63〉	17
ピット308	欠番			
ピット309	欠番			
ピット310	第９面	47	〈23〉	32
ピット311	第９面	23	19	23
ピット312	第９面	32	26	20
ピット313	第９面	34	〈28〉	15
ピット314	第９面	36	35	19
ピット315	第９面	34	28	21
ピット316	第９面	49	〈42〉	20
ピット317	第９面	9	8	27
ピット318	第９面	8	6	12
ピット319	第９面	37	26	24
ピット320	第９面	10	9	－
ピット321	第９面	27	22	20
ピット322	第９面	28	〈12〉	14
ピット323	第９面	28	〈25〉	12
ピット324	第９面	8	7	－
ピット325	第９面	31	〈24〉	34
ピット326	第９面	39	33	14
ピット327	第９面	33	26	17
ピット328	第９面	34	26	38
ピット329	第９面	28	26	5
ピット330	第９面	31	27	22
ピット331	第９面	27	20	24
ピット332	第９面	30	26	10
ピット333	第９面	42	35	12
ピット334	第９面	〈40〉	〈26〉	31
ピット335	第９面	50	30	35
ピット336	第９面	40	37	21
ピット337	第９面	46	36	18
ピット338	第９面	46	33	31
ピット339	第９面	8	6	18
ピット340	第９面	8	7	19
ピット341	第９面	〈45〉	44	26
ピット342	第９面	8	6	4
ピット343	第９面	32	〈21〉	31
ピット344	第９面	〈25〉	〈17〉	70
ピット345	第９面	〈43〉	34	16

※掘立柱建物、礎板建物の長軸・短軸は心々間の計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表12　出土遺物一覧表

第１面

溝状遺構１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	30
【陶器】		
常滑	甕	7
	合計	37

溝状遺構２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青白磁】		
	壺	1
	合計	3

溝状遺構３		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
【陶器】		
常滑	甕	6
	合計	21

土坑１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

土坑３		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	5

土坑４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	23

【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	26

土坑５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	27
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ類	1
	合計	28

土坑６		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	28
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	29

土坑７		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【青白磁】		
	小壺	1
	合計	15

土坑８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	7

土坑９		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

土坑10		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	甕	1
	合計	7

土坑11		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	5

ピット４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	合計	10

ピット６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	合計	2

ピット８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット９		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット12		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット13		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
	合計	1

ピット16		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット14		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット22		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	32
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	34

ピット25		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット26		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	5

ピット29		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット30		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	4

ピット32		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット33		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	8

ピット35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	7

ピット39		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット45		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	5
	合計	6

ピット46		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	9

ピット48		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
	合計	1

ピット49		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット50		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1

	合計	1

ピット52		
産　地	器　種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	1
	合計	1

ピット54		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット57		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	合計	9

ピット58		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット59		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット61		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	3

ピット62		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
	合計	8

ピット65		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット67		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット68		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット69		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット70		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
	合計	15

第１面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	140
【青磁】		

龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
	双魚文盤	1
【陶器】		
中国	天目茶碗（吉州窯）	1
瀬戸	瓶子	1
常滑	甕	33
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅱ類	1
	火鉢小破片	1
【金属製品】		
	釘	1
	鉄滓	1
	合計	182

第２面

土坑12

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	13

土坑13

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	54
	合計	54

土坑14

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	55
【陶器】		
常滑	甕	1
【石製品】		
	砥石	1
	合計	58

土坑16

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

土坑18

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑19

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	3

土坑20

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青白磁】		
	器種不明小破片	1
	合計	3

土坑21

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット71

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット72

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット73

産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット74

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット76

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【金属製品】		
	釘	1
	合計	3

ピット77

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット79

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット82

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット84

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット85

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット88

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット89

産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット91

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット92

産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	2

ピット93

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	10

ピット94

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット97

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	青磁碗Ⅰ類	1
	合計	3

ピット98

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット99

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【青磁】		
龍泉窯系	盤	1
【青白磁】		
	水注	1
【陶器】		
渥美	甕	1
	合計	10

ピット103

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット106

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット107

産地	器種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
	合計	1

ピット108

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット109

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット111

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット113

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	合計	10

ピット114

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	合計	9

ピット117

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット118

産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット119

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット120

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット122

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

第２面 遺構外

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	367
【白磁】		
	皿Ⅸ類	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	8
	盤	1
	器種不明小破片	7
【青白磁】		
	梅瓶	3
	水滴	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	6
瀬戸	瓶子	1
	器種不明小破片	1
常滑	甕	47
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	2
北部系	山茶碗	1
亀山	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	3
	火鉢Ⅳ類	1
	火鉢小破片	4
【石製品】		
	砥石	2
【金属製品】		
	銭貨	2
	釘	3
	合計	466

第３面

溝状遺構４

産地	器種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	21
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
合計		23

溝状遺構５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

土坑24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑26		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【青白磁】		
	小壺	1
合計		6

土坑28		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
合計		16

ピット127		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
合計		8

ピット128		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット129		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	31
【陶器】		
常滑	甕	5
合計		36

ピット139		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
合計		1

ピット145		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット146		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット147		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	23
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		26

ピット148		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット153		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット154		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	壺	1
合計		11

第３面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	374
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	9
【青白磁】		
	壺	3
	合子	4
	器種不明小破片	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	瓶子	3
	器種不明小破片	3
常滑	甕	162
	片口鉢Ⅰ類	4
	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	3
【金属製品】		
	銭貨	2
	釘	7
合計		580

第４面

溝状遺構６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【青磁】		
	坏	1
龍泉窯系	碗小破片	5
	坏Ⅲ－３ｂ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
合計		13

土坑29		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	器種不明小破片	1
合計		4

土坑30		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1

【金属製品】		
	釘	1
合計		2

土坑31		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
合計		9

土坑32		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【土師質・瓦質土器】		
	器種不明小破片	1
合計		4

土坑33		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

土坑34		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

土坑35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
【金属製品】		
	釘	1
合計		19

ピット155		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
合計		18

ピット157		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット158		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット159		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【白磁】		
	白磁Ⅲ Ⅸ類	1
合計		6

ピット161		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	銭貨	1
合計		7

ピット162		
産　地	器　種	破片数
【白磁】		
	器種不明小破片	1
【金属製品】		
	釘	1

合計		2

ピット163		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット164		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット166		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット167		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

ピット168		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
合計		2

ピット169		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
合計		13

ピット170		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		10

ピット172		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【青白磁】		
	壺	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット174		
産　地	器　種	破片数
【青磁】		
	器種不明小破片	1
【青白磁】		
	壺	1
合計		2

ピット175		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【白磁】		
	白磁Ⅲ Ⅸ類	1
【青磁】		
	水注	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢	1
合計		6

ピット178		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット179		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

第４面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	314
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	10
	碗小破片	5
	坏Ⅲ－３ｂ類	1
【青白磁】		
	壺	8
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
渥美	甕	1
常滑	甕	31
	片口鉢Ⅰ類	2
亀山	甕	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	7
	釘	14
	合計	401

第５面

土坑37		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	器種不明小破片	7
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ⅡＣ類	2
	合計	19

土坑38		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

土坑39		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	5

ピット191		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	4

ピット192		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

ピット193		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	17
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	19

ピット194		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット196		
産　地	器　種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	1

ピット197		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット198		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット199		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

ピット200		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット201		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	合計	9

ピット203		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット207		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット208		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット210		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

ピット213		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	かわらけ　手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	5

第５面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	207
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	4
	碗Ⅲ－１ｂ類	1
	碗小破片	1
	器種不明小破片	2
【青白磁】		
	壺	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	小壺	1
常滑	甕	12
	片口鉢Ⅰ類	3
北部系	山茶碗	1
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	3
	火鉢ⅡＣ類	1
	火鉢小破片	3
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	硯	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	2
	箸状	7
	草履芯	1
	建具	2
【骨角製品】		
	用途不明	1
	合計	263

第６面

礎板建物１－Ｐ２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

礎板建物１－Ｐ３		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	1

礎板建物１－Ｐ５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

礎板建物１－Ｐ６		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	建築部材	1
	合計	1

礎板建物１－Ｐ８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【木製品】		

	箸状	1
	草履芯	1
	串状	1
	合計	6

礎板建物２－Ｐ２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

礎板建物２－Ｐ３		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

礎板建物２－Ｐ５		
産　地	器　種	破片数
【瓦】		
	丸瓦	1
	合計	1

礎板建物２－Ｐ６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

枡状遺構１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	22
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	1
【陶器】		
瀬戸	碗形鉢？	1
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅰ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【木製品】		
	箸状	1
	合計	30

木組遺構１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【木製品】		
	箸状	4
	合計	13

土坑41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

土坑42		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【木製品】		
	串状	1
	合計	6

ピット216		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		6

ピット221

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
北部系	山茶碗	1
合計		4

ピット225

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット231

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット234

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット236

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット237

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット238

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット240

産　地	器　種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
合計		1

ピット241

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		5

ピット242

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット244

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット246

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット247

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット256

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

ピット266

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

第６面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	315
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ｉ類	1
	碗Ⅱ－ｂ類	11
	碗Ⅲ類	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	器種不明小破片	5
渥美	甕	1
常滑	甕	52
	片口鉢Ｉ類	2
	片口鉢Ⅱ類	4
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
	火鉢ＩＣ類	2
	器種不明小破片	5
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	軽石	1
【木製品】		
	漆製品（皿）	2
	漆製品（器種不明）	1
	栓	1
	箸状	7
	串状	5
	用途不明	2
	球	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	1
合計		427

第７面

礎板建物３－Ｐ１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

礎板建物３－Ｐ４

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

礎板建物３－Ｐ６

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

掘立柱建物１－Ｐ４

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

掘立柱建物１－Ｐ５

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

溝状遺構７

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	26
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ｉ類	1
【陶器】		
常滑	甕	17
【木製品】		
	箸状	7
合計		51

土坑45

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

土坑46

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	25
【白磁】		
	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		31

土坑47

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
常滑	甕	2
【木製品】		
	箸状	12
	曲物	2
合計		27

ピット270

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット272

産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	用途不明	1
	礎板	1
合計		2

ピット273

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット274

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット275

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	4
合計		5

ピット286

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

第７面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	113
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ｉ類	1
【陶器】		
中国	黄釉盤	6
常滑	甕	29
	壺	1
	片口鉢Ｉ類	1
北部系	山茶碗	4
【木製品】		
	箸状	27
	建具	1
	串状	4
合計		187

第７面 構成土

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	25
	かわらけ　手づくね成形	43
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	1
【陶器】		
中国	黄釉盤	1
常滑	甕	12
	片口鉢Ｉ類	1
	片口鉢Ⅱ類	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	漆製品（皿）	1
合計		87

第８面

溝状遺構８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	64
【陶器】		
常滑	甕	4
	片口鉢Ｉ類	1
【木製品】		
	箸状	24
	草履芯	1
合計		94

溝状遺構９

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	64
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ｉ類	3
【金属製品】		
	器種不明	1
合計		70

土坑48

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ　手づくね成形	20

【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	24

土坑49		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

土坑50		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑51		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	4

土坑52		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット291		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　手づくね成形	5
	合計	5

ピット294		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	曲物	1
	串状	1
	合計	2

ピット298		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット300		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット301		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	4

ピット307		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

第８面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	28
	かわらけ　手づくね成形	17
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	22
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	碗	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	漆製品（皿）	3
	箸状	15
	曲物	1
	連歯下駄	3
	草履芯	2
	建具	2
	合計	98

第９面

礎板建物５－Ｐ２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	かわらけ　手づくね成形	1
	合計	4

土坑54		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	箸状	1
	合計	1

ピット309		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	草履芯	1
	合計	1

ピット316		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット325		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	漆器（椀）	5
	合計	5

ピット326		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット328		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット333		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット335		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット337		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット338		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット343		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット345		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

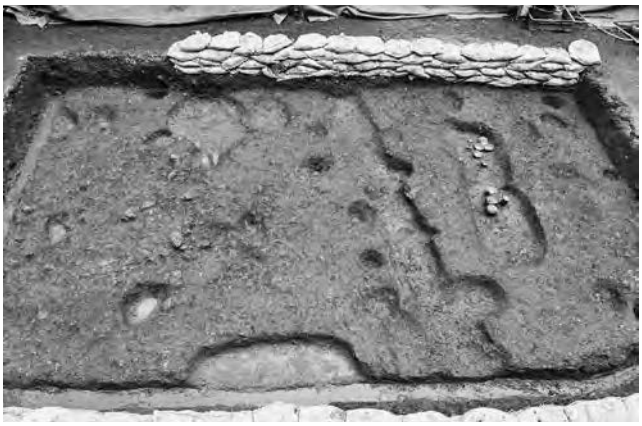
第９面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	11
	かわらけ　手づくね成形	45
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	12
	片口鉢Ⅰ類	2
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
【木製品】		
	箸状	10
	形代（刀）	1
	串状	1
【金属製品】		
	釘	2
【木製品】		
	連歯下駄	2
	合計	89

1．調査区近景（南から）

2．調査区西壁土層断面（東から）

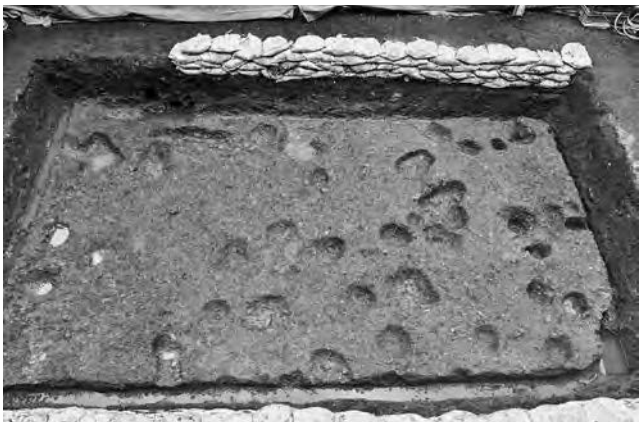
図版２

１．調査区東側第１面全景（西から）



２．調査区西側第１面全景（東から）

３．調査区東側第２面全景（西から）

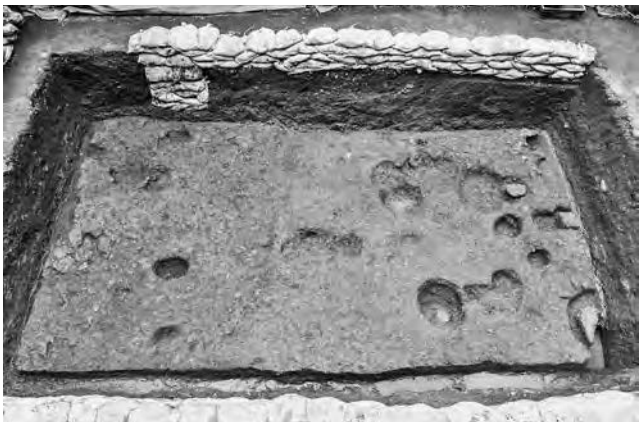


４．調査区西側第２面全景（東から）

５．調査区東側第３面全景（西から）

６．調査区西側第３面全景（東から）

７．調査区東側第４面全景（東から）



８．調査区西側第４面全景（東から）

1．調査区東側第５面全景（西から）

2．調査区西側第５面全景（東から）

3．調査区東側第７面全景（西から）

4．調査区西側第７面全景（東から）

5．調査区東側第８面全景（西から）

6．調査区西側第８面全景（東から）

7．調査区東側第９面全景（西から）

8．調査区西側第９面全景（東から）

図版 4

1．調査区東側第 6 面全景（西から）

2．調査区西側第 6 面全景（東から）

1．第６面 枡状遺構１（西から）

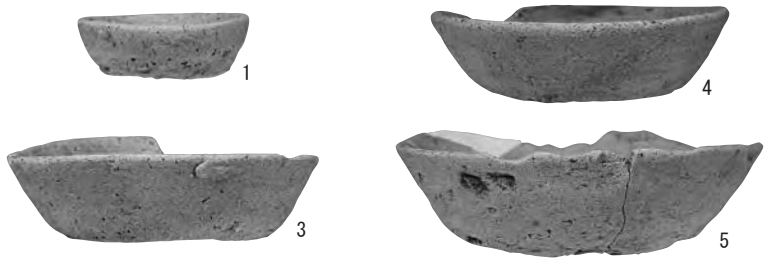
2．第６面 木組遺構１（北から）

3．第７面 礎板建物３－Ｐ２礎板および柱出土状態（南から）

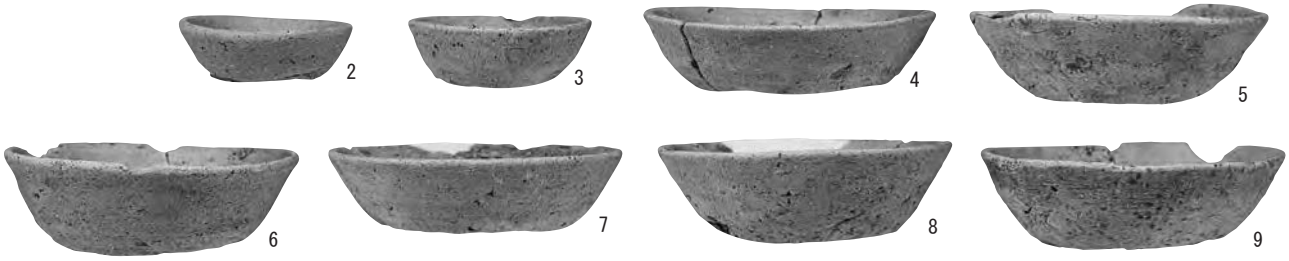
4．第７面 ピット272面取り柱転用礎板出土状態（南西から）

図版６

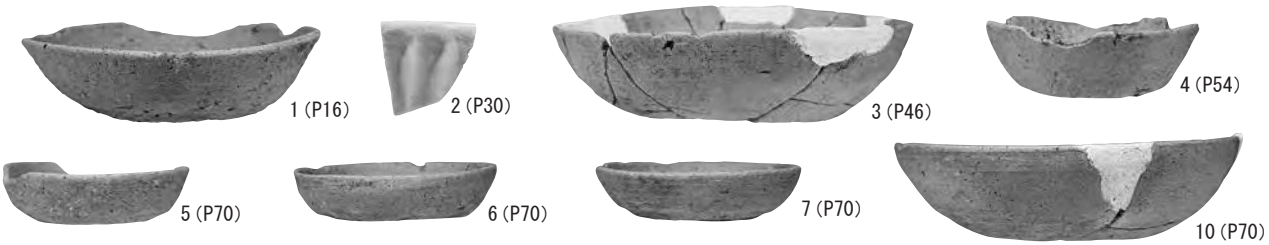
１．第１面 溝状遺構３出土遺物



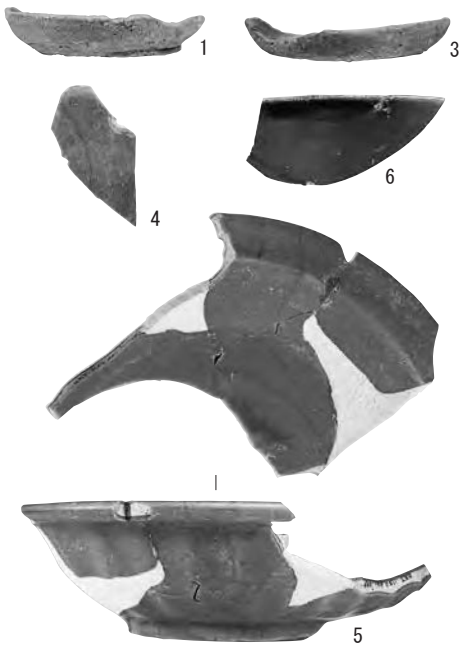
２．第１面 土坑４出土遺物



３．第１面 土坑５出土遺物

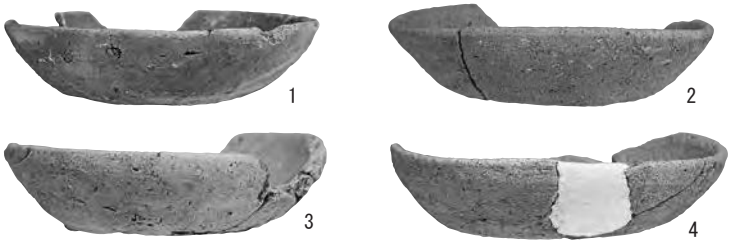


４．第１面 ピット出土遺物



５．第１面 遺構外出土遺物

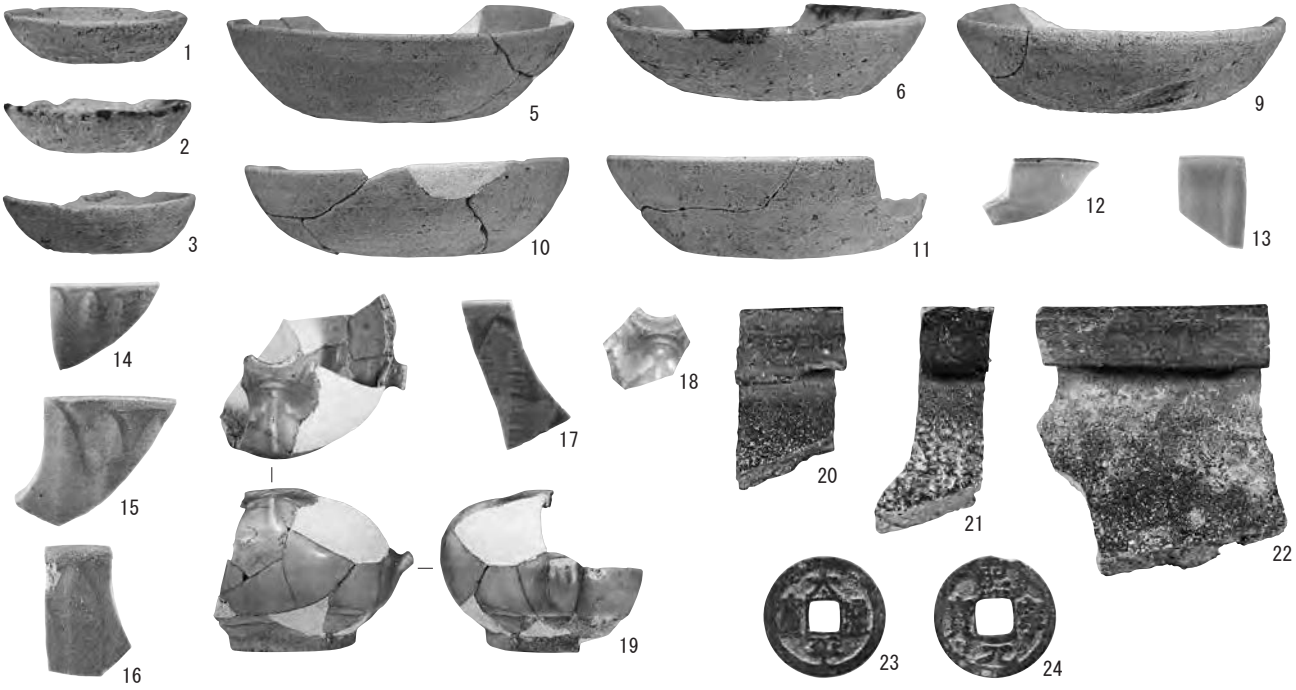
６．第２面 土坑13出土遺物



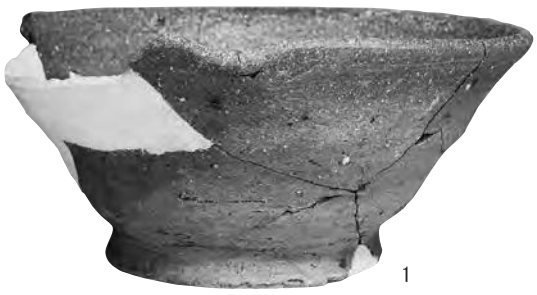
７．第２面 土坑14出土遺物

８．第２面 土坑19出土遺物

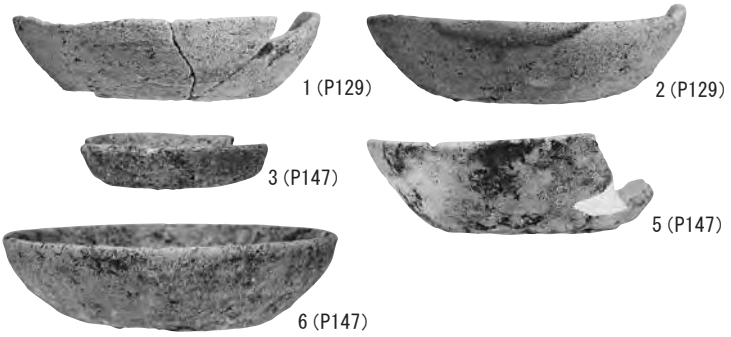
９．第２面 ピット出土遺物



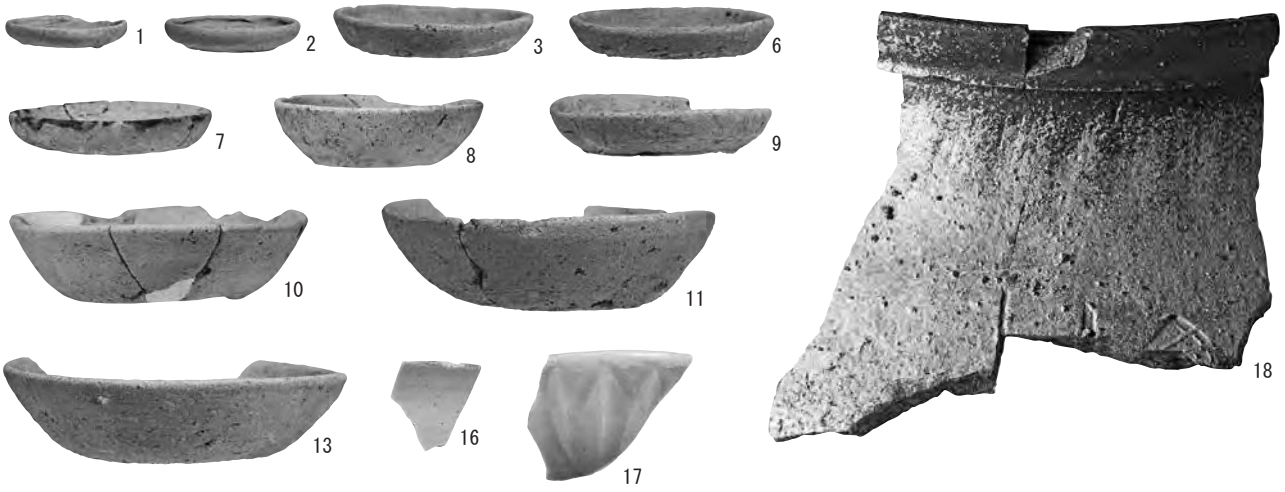
１．第２面 遺構外出土遺物



２．第３面 溝状遺構４出土遺物

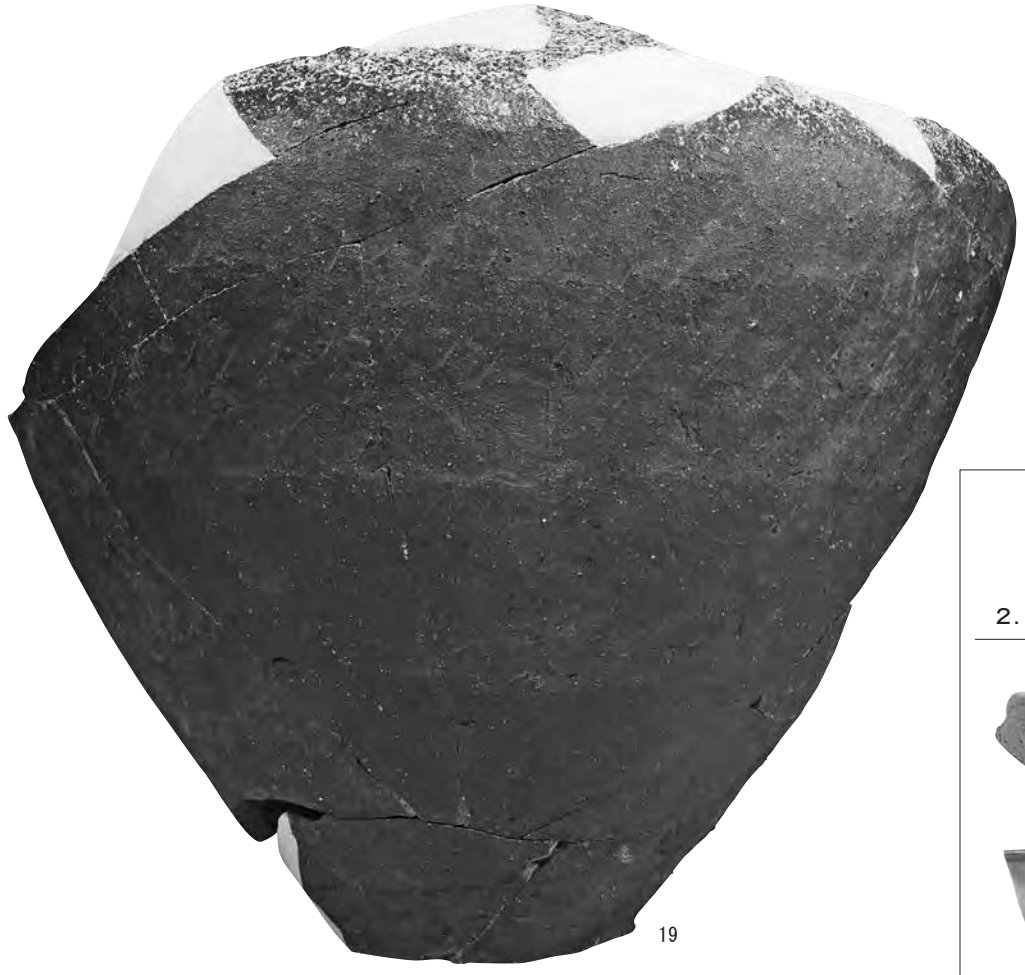


３．第３面 ピット出土遺物



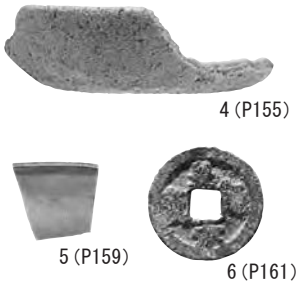
４．第３面 遺構外出土遺物（１）

図版 8

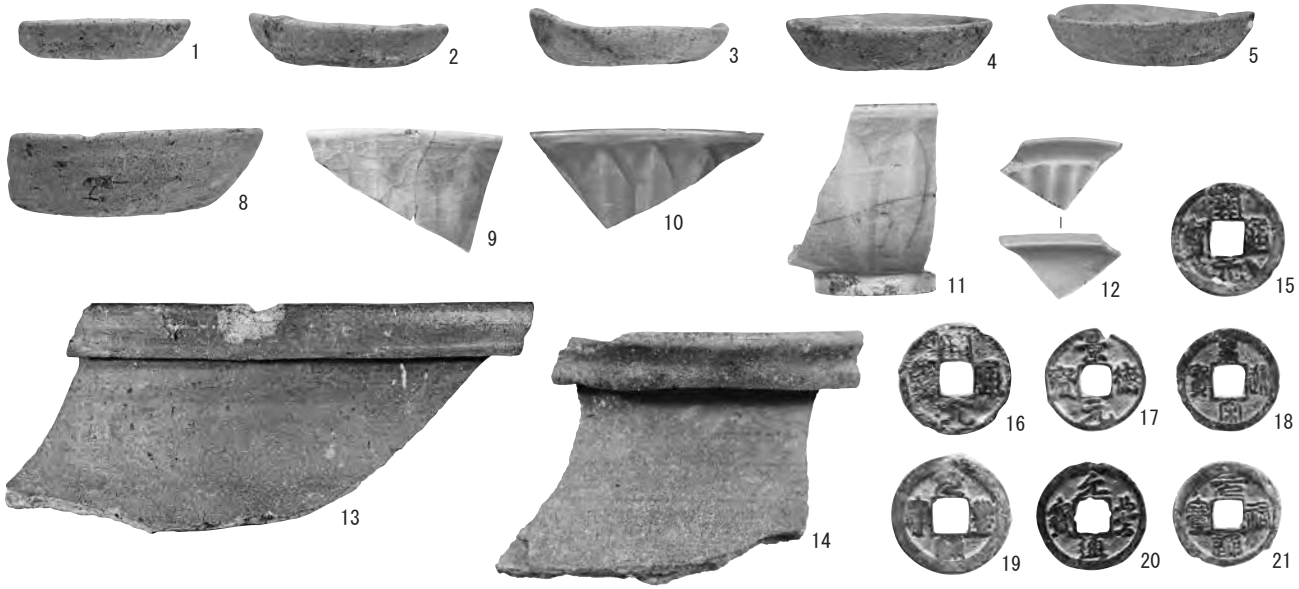


1．第３面 遺構外出土遺物（２）

２．第４面 土坑33出土遺物

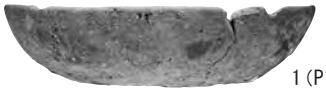


３．第４面 ピット出土遺物

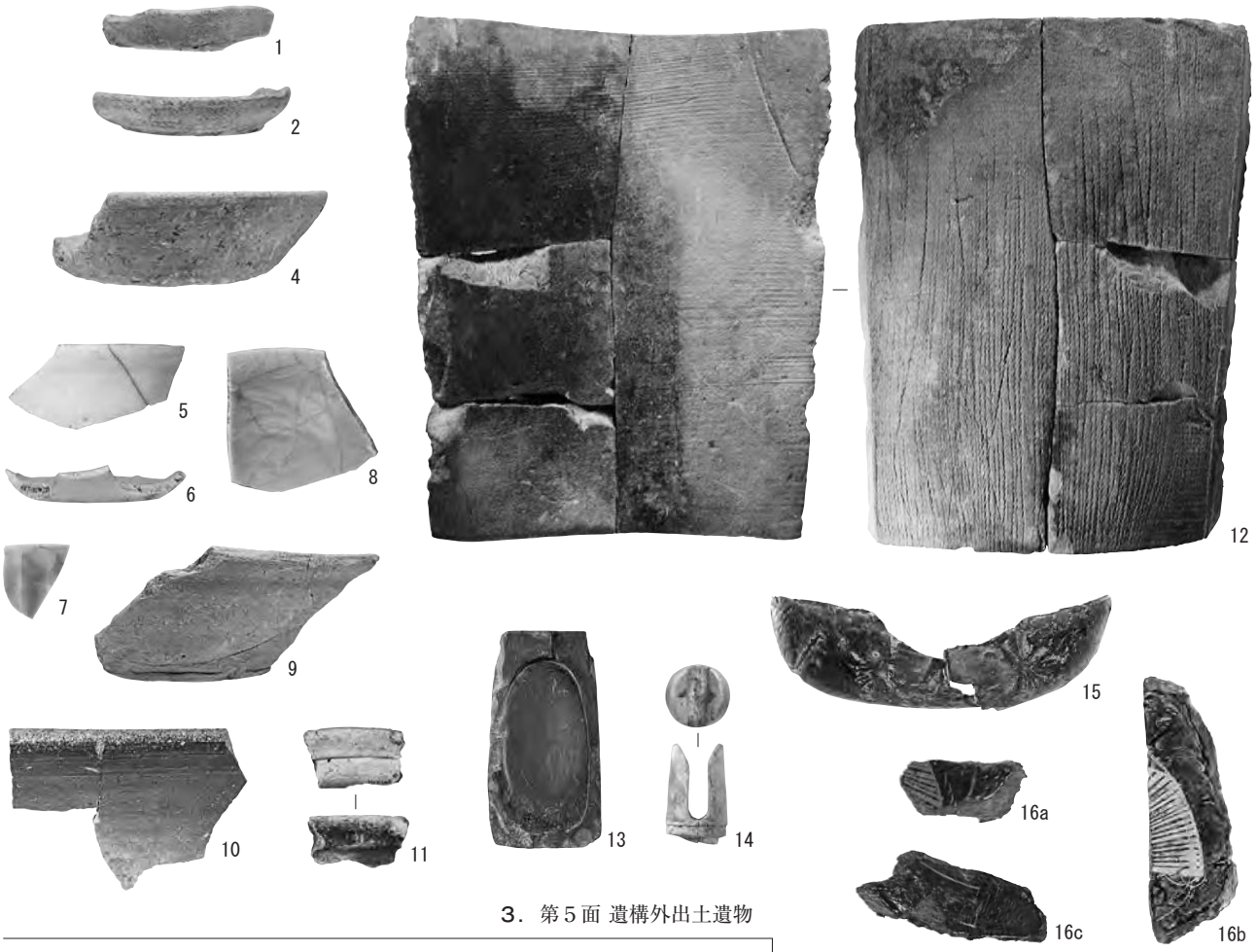


４．第４面 遺構外出土遺物

1．第５面 土坑39出土遺物



2．第５面 ピット出土遺物



3．第５面 遺構外出土遺物

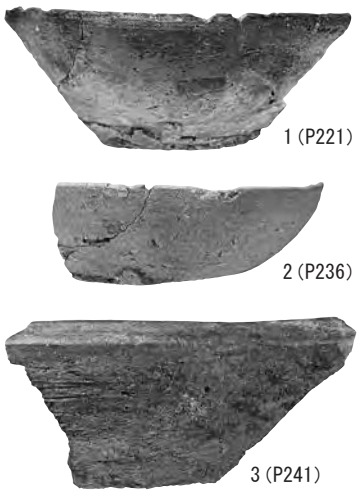
5．第６面 礎板建物２出土遺物

4．第６面 礎板建物１出土遺物

6．第６面 枡状遺構１出土遺物

7．第６面 木組遺構１出土遺物

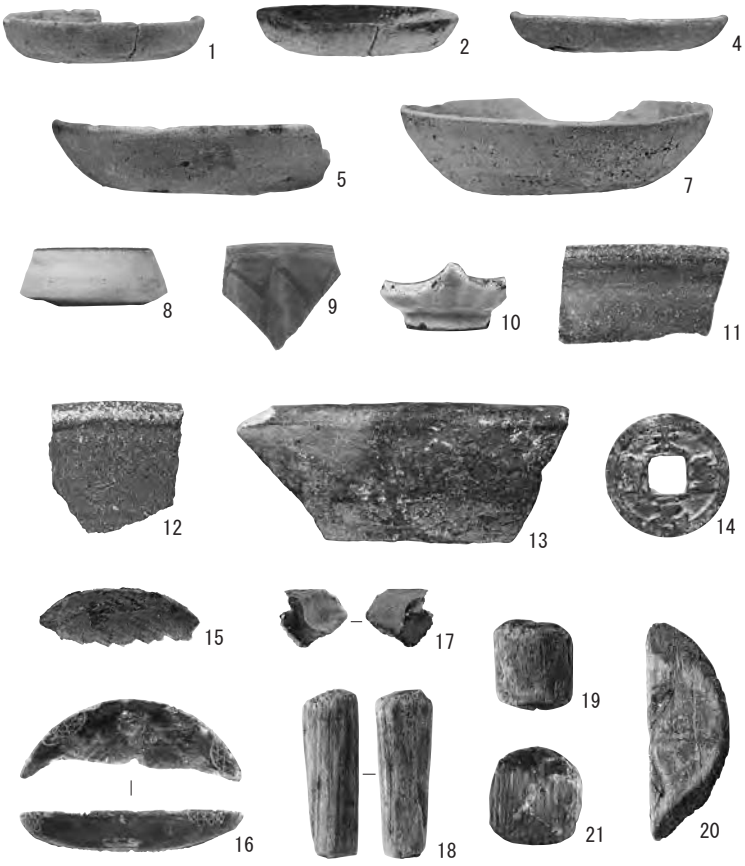
図版 10



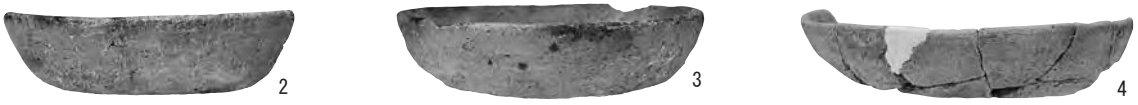
1．第６面 ピット出土遺物

3．第７面 溝状遺構７出土遺物

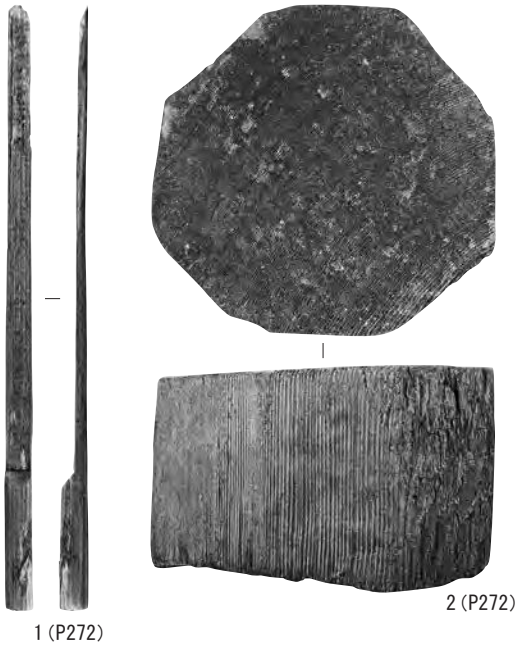
4．第７面 土坑46出土遺物



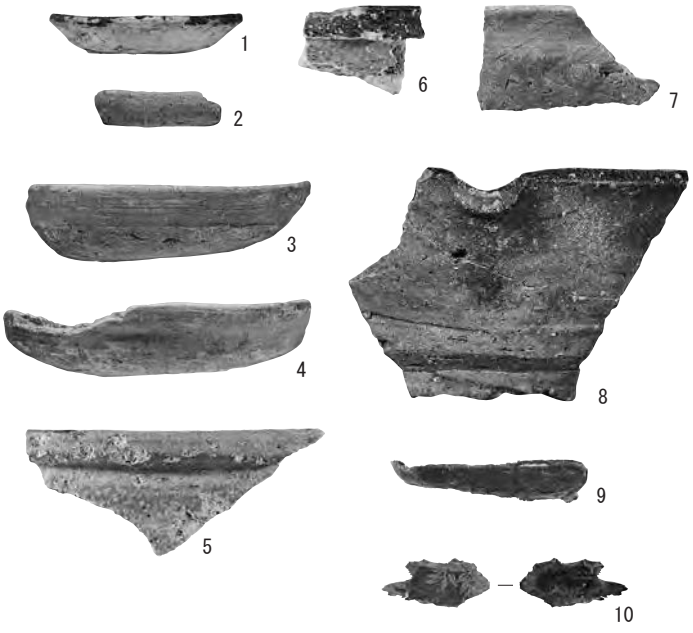
2．第６面 遺構外出土遺物



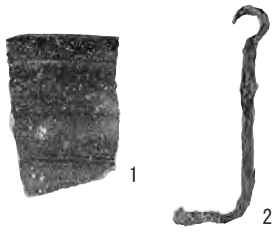
5．第７面 土坑47出土遺物



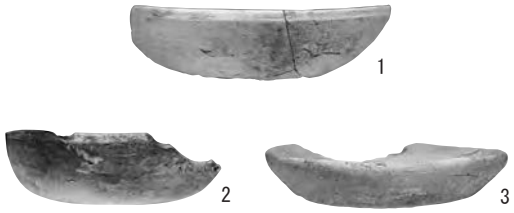
6．第７面ピット出土遺物



7．第７面 構成土出土遺物

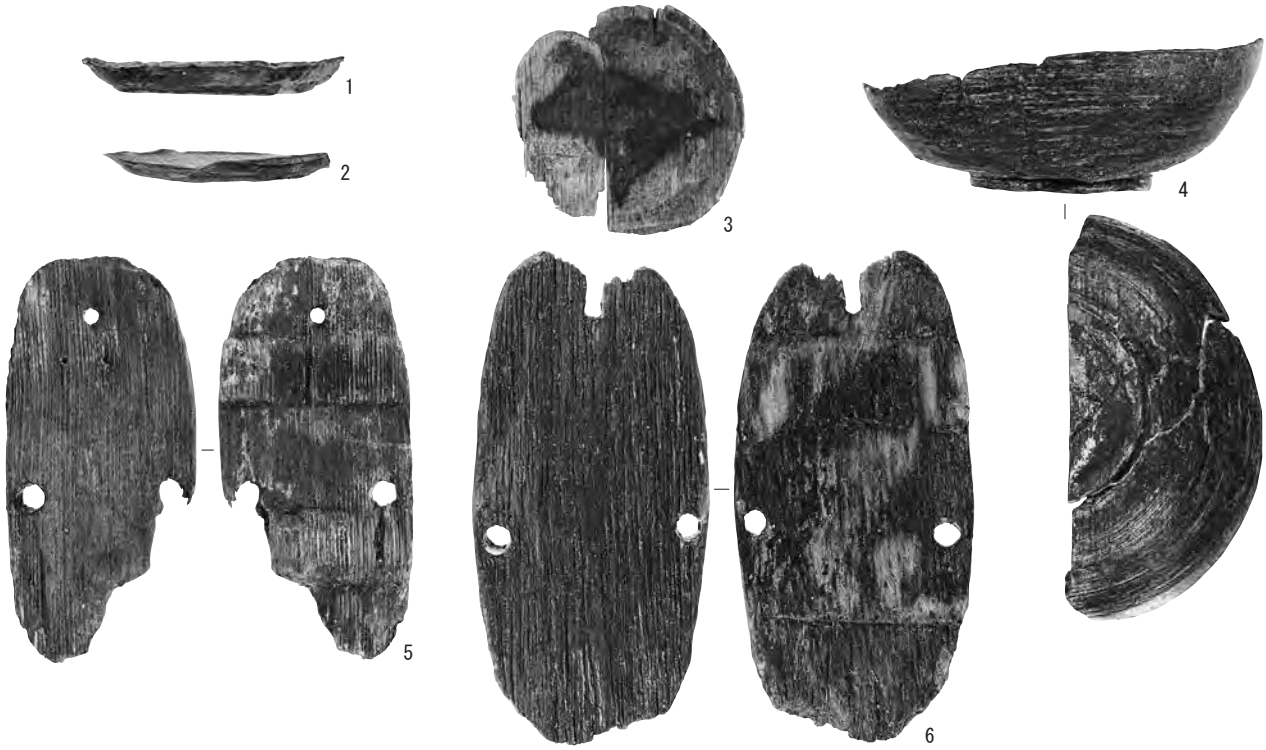


1．第８面 溝状遺構９出土遺物

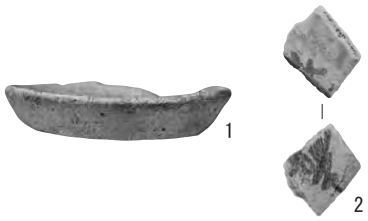


2．第８面 土坑48出土遺物

3．第８面 土坑51出土遺物



4．第８面 遺構外出土遺物



5．第９面 礎板建物５出土遺物

6．第９面 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
副書名	令和元年度発掘調査報告
巻次	３６（第３分冊）
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	永田史子・米澤雅美
編集機関	鎌倉市教育委員会
所在地	〒２４８－８６８６　鎌倉市御成町１８番１０号
発行年月日	西暦　２０２０年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
えんがくじもんぜんいせき 円覚寺門前遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 やまのうちあざまつおか 山ノ内字松岡 1323番１、 1338番２	14204	287	３５° ２０′ １４″	１３９° ３２′ ３８″	20120112 ～ 20120518	120	賃貸併用住宅 （柱状改良工事）
けんちょうじきゅうけいだいいせき 建長寺旧境内遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 やまのうちあざしろくろこうじ 山ノ内字白黒小路 1479番６	14204	397	３５° ２０′ １″	１３９° ３２′ ５６″	20100915 ～ 20110107	96	個人専用住宅 （鋼管杭工事）
くぼうやしきあと 公方屋敷跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 じょうみょうじ4ちょうめ 浄明寺四丁目 297番12、13	14204	268	３５° １９′ ８″	１３９° ３４′ ２９″	20100608 ～ 20100820	48	個人専用住宅 （柱状改良工事）
ほうこくじいせき 報国寺遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 じょうみょうじ2ちょうめ 浄明寺二丁目 474番８、９	14204	306	３５° １９′ １０″	１３９° ３４′ １２″	20110606 ～ 20110826	72	個人専用住宅 （柱状改良工事）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
えんがくじもんぜんいせき 円覚寺門前遺跡	遺物散布地	中世	礎石・礎板建物、板壁建物、方形竪穴状遺構、水路、溝状遺構、井戸、据甕遺構、方形土坑、土坑、ピット	かわらけ、舶載磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、土製品、石製品、金属製品、骨角製品、木製品、漆器	13世紀中葉～15世紀前葉の遺構群を検出。板壁の一部と考えられる木組を伴う大形の礎石･礎板建物を確認。豊富な木製品と呪符木簡が出土。
けんちょうじきゅうけいだいいせき 建長寺旧境内遺跡	社寺跡 城館跡	中世	道路状遺構、溝状遺構、常滑溜まり、据鉢遺構、落ち込み、土坑、ピット	かわらけ、舶載磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、土製品、石製品、金属製品、木製品	13世紀代～15世紀後葉の遺構群を検出。路面に泥岩を敷設した道路状遺構を確認。土師質・瓦質土器の仏花瓶や燭台、大形火鉢などの宗教関連遺物が複数出土。
くぼうやしきあと 公方屋敷跡	城館跡	中世	方形竪穴状遺構、基壇状遺構、塀状遺構、柵列、土坑、ピット	かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品	13世紀前葉～13世紀後葉の遺構群を検出。屋敷地を区画する塀状遺構を確認。
ほうこくじいせき 報国寺遺跡	社寺跡 都市遺跡	中世	礎板建物、掘立柱建物、溝状遺構、石列、柵状遺構、木組遺構、土坑、ピット	かわらけ、舶載磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品、骨角製品、木製品、漆器	13世紀前葉～14世紀代にかけての遺構群を検出。柵状遺構や木組遺構を伴う可能性のある礎板建物を確認。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　36
令和元年度発掘調査報告
（第 3 分 冊）

発 行 日　令和２年（2020年）３月 31 日

編集・発行　　鎌 倉 市 教 育 委 員 会
印　　刷　　光写真印刷株式会社